

## 国文学演習 I (古代) a・b

久保朝孝

## 【授業の概要】

平安時代の日記文学作品「かげろふ日記」を輪読する。

## 【授業の目標】

古代文学研究の基本的姿勢・方法を実践的に理解・体得することを目的とする。作品の「読み」の方法を確立し、問題発見・調査・整理・批判・考察の過程を経て、自らの見解をまとめあげる力を養成する。

## 【授業計画】

毎回、以下の手順に従って『かげろふ日記』を精読する。

第一回	テキスト41頁
第二回	テキスト42頁
第三回	テキスト43頁
第四回	テキスト44頁
第五回	テキスト45頁
第六回	テキスト46頁
第七回	テキスト47頁
第八回	テキスト48頁
第九回	テキスト49頁
第十回	テキスト50頁
第十一回	テキスト51頁
第十二回	テキスト52頁

毎回、以下の手順に従って『かげろふ日記』を精読する。

第一回	テキスト53頁
第二回	テキスト54頁
第三回	テキスト55頁
第四回	テキスト56頁
第五回	テキスト57頁
第六回	テキスト58頁
第七回	テキスト59頁
第八回	テキスト60頁
第九回	テキスト61頁
第十回	テキスト62頁
第十一回	テキスト63頁
第十二回	テキスト64頁

## 【評価方法】

出席状況、担当範囲についての研究発表（半期に三回程度）、授業中の発言（質問・批判等）、そして課題レポート等を総合して評価する。

## 【テキスト】

笠間影印叢刊「桂宮本蜻蛉日記く>（宮内庁書陵部蔵）（笠間書院）

## 【参考文献・資料】

適宜、授業中に指示する。

080760001\_0030 掲載順:0030

MASTER ★

## 国文学演習 III (近世) a・b

阿部一彦

## 【授業の概要】

『世間胸算用』を影印本で解説し、鑑賞して行く。

## 【授業の目標】

近世文学の研究能力を養成するとともに、教員としての調査・研究・発表能力を高める。

## 【授業計画】

第一回	西鶴の文学的生涯について（俳諧師時代概説）
第二回	巻一の「問屋の寛活女」(1)
第三回	巻一の「問屋の寛活女」(2)
第四回	巻一の二「長刀は昔の鞘」(1)
第五回	巻一の二「長刀は昔の鞘」(2)
第六回	巻一の三「伊勢海老は春紅葉」(1)
第七回	巻一の四「芸鼠の文づかい」(1)
第八回	巻一の四「芸鼠の文づかい」(2)
第九回	巻二の一「銀窓夕の講中」
第十回	巻二の二「うそも只はきかぬ宿」(1)
第十一回	巻二の二「うそも只はきかぬ宿」(2)
第十二回	各自の研究テーマについての発表 (1)
第十三回	各自の研究テーマについての発表 (2)
第十四回	各自の研究テーマについての発表 (3)

第一回	西鶴の文学的生涯について（浮世草子時代）概説
第二回	巻二の三「もつとも始末の意見」(1)
第三回	巻二の三「もつとも始末の意見」(2)
第四回	巻二の四「門松も昔かりの世」(1)
第五回	巻二の四「門松も昔かりの世」(2)
第六回	巻三の一「都の顔見世芝居」(1)
第七回	巻三の一「都の顔見世芝居」(2)
第八回	巻三の二「餅ばなは年の内の詠め」(1)
第九回	巻三の二「餅ばなは年の内の詠め」(2)
第十回	巻三の三「小判は寝姿の夢」(1)
第十一回	巻三の三「小判は寝姿の夢」(2)
第十二回	『世間胸算用』の研究史と論点（報告と討論）(1)
第十三回	『世間胸算用』の研究史と論点（報告と討論）(2)
第十四回	『世間胸算用』の研究史と論点（報告と討論）(3)

## 【評価方法】

出席・発表とレポートによる。

## 【テキスト】

影印本 『世間胸算用』（興津要編著・おうふう）

## 【参考文献・資料】

適宜、授業中に指示する。

## 国文学演習 II (中世) a・b

岩下紀之

## 【授業の概要】

中世文学研究に必要な大学院レベルでの写本解読能力を育成する。

## 【授業の目標】

『賦物連歌』を講読する。

## 【授業計画】

出席者に調査発表を課する（前期範囲）。	
第一回	第一句から第七句
第二回	第八句から第十四句
第三回	第十五句から第二十一句
第四回	第二十二句から第二十八句
第五回	第二十九句から第三十五句
第六回	第三十六句から第四十二句
第七回	第四十三句から第四十九句
第八回	第五十句から第五十六句
第九回	第五十七句から第六十三句
第十回	第六十四句から第七十句
第十一回	第七十一句から第七十七句
第十二回	第七十八句から第八十四句
第十三回	第八十五句から第九十一句
第十四回	第九十二句から第九十八句
第十五回	第九十九句から第百五句

出席者に調査発表を課する（後期範囲）。	
第一回	第一句から第七句
第二回	第八句から第十四句
第三回	第十五句から第二十一句
第四回	第二十二句から第二十八句
第五回	第二十九句から第三十五句
第六回	第三十六句から第四十二句
第七回	第四十三句から第四十九句
第八回	第五十句から第五十六句
第九回	第五十七句から第六十三句
第十回	第六十四句から第七十句
第十一回	第七十一句から第七十七句
第十二回	第七十八句から第八十四句
第十三回	第八十五句から第九十一句
第十四回	第九十二句から第九十八句
第十五回	第九十九句から第百五句

## 【評価方法】

宮内庁書陵部蔵本を用いる

## 【テキスト】

適宜、授業中に指示する。

## 【参考文献・資料】

発表の成果による。

080760001\_0040 掲載順:0040

MASTER ★

## 国文学演習 IV (近代) a・b

小倉 斉

## 【授業の概要】

（物語の変容と行方）  
近代日本の怪談・奇談の系譜をたどることを通して、近代における「物語」の変容を考察する。基本的な観点は、「近代（モダン）」を「アレ・モダ」の頃から眺めることにあり、眺めるわれわれは「ポスト・モダン」の立場に立っているということにも意識的・自覚的でありたい。そのために、テキストとして『怪談牡丹燈籠』『夜窓鬼談』『ねむり姫』『倫敦塔』『高野聖』『夜啼きの森』などを取り上げて輪読する。

## 【授業の目標】

近代日本における「物語」の変容の行方について考察するとともに、物語分析の方法を実践的に身につける。

## 【授業計画】

（前期）	
第1回	序章
第2回	<牡丹燈籠>物語の系譜と三遊亭圓朝の「近代」(1)
第3回	<牡丹燈籠>物語の系譜と三遊亭圓朝の「近代」(2)
第4回	<牡丹燈籠>物語の系譜と三遊亭圓朝の「近代」(3)
第5回	「神怪」の成立(1)
第6回	「神怪」の成立(2)
第7回	「神怪」の成立(3)
第8回	ラフカディオ・ハーンの「物語」(1)
第9回	ラフカディオ・ハーンの「物語」(2)
第10回	ラフカディオ・ハーンの「物語」(3)
第11回	『夜窓鬼談』の世界(1)
第12回	『夜窓鬼談』の世界(2)
第13回	『夜窓鬼談』の世界(3)
第14回	『夜窓鬼談』の継承者たち—田中賢太郎・森澤龍彦—(1)
第15回	『夜窓鬼談』の継承者たち—田中賢太郎・森澤龍彦—(2)
（後期）	
第1回	怪異譚の時空間—漱石・科学・時間—(1)
第2回	怪異譚の時空間—漱石・科学・時間—(2)
第3回	怪異譚の時空間—漱石・科学・時間—(3)
第4回	妖異の総論—泉鏡花の物語世界—(1)
第5回	妖異の総論—泉鏡花の物語世界—(2)
第6回	妖異の総論—泉鏡花の物語世界—(3)
第7回	幸田露伴と怪談(1)
第8回	幸田露伴と怪談(2)
第9回	幸田露伴と怪談(3)
第10回	芥川龍之介と怪談(1)
第11回	芥川龍之介と怪談(2)
第12回	現代のホラー—小説アームの意味(1)
第13回	現代のホラー—小説アームの意味(2)
第14回	日本の近代と「物語」(1)
第15回	日本の近代と「物語」(2)

## 【評価方法】

レポート、授業への参加状況、レジュメの内容、発表の様子などを総合して評価する。

## 【テキスト】

（前期）：怪談牡丹燈籠（三遊亭圓朝 岩波文庫）、怪談：奇談（小泉八雲 講談社学術文庫）、夜窓鬼談（石川瀧斎著 小倉 斉・高峯徳治郎註 春風社）、田中賢太郎 日本怪談事典（東雅夫編 学研M文庫）、日本怪談大全 II・幽霊の館（田中賢太郎 国書刊行会）、ねむり姫（森澤龍彦 福武文庫）

（後期）：倫敦塔・幻影の窟（夏目漱石 岩波文庫）、高野聖・岩かくしの窟（泉鏡花 集英社文庫）、鏡花短編集（泉鏡花 岩波文庫）、観曲談・怪談・土偶木偶（幸田露伴 プリント）、妖嬈アグニの神（芥川龍之介 プリント）、夜啼きの森（岩井志麻子 角川ホラー文庫）

## 【参考文献・資料】

適宜、授業中に指示する。

## 国文学演習 V (現代) a・b

都築久義

## 【授業の概要】

現代作家の著名な作品を毎回取りあげて輪読する。現代文学史的に重要な作品や履修者の研究テーマの周辺の作家を取りあげて。

## 【授業の目標】

現代文学の研究能力を実践的に身につける。特に資料調査能力や作家・作品に対する自己の見解が持てる能力を修得する。

## 【授業計画】

履修者の発表、出席者の質疑、討議を中心に授業を展開する。毎時間ごとに発表者を予め決め、発表要旨、関連資料などを用意させる。取りあがる作品は年度によって異なるが、次の作家を一人につき、二～三回授業をする。

- 第一回 夏目漱石 (1)
- 第二回 夏目漱石 (2)
- 第三回 夏目漱石 (3)
- 第四回 島崎藤村 (1)
- 第五回 島崎藤村 (2)
- 第六回 島崎藤村 (3)
- 第七回 志賀直哉 (1)
- 第八回 志賀直哉 (2)
- 第九回 志賀直哉 (3)
- 第十回 谷崎潤一郎 (1)
- 第十一回 谷崎潤一郎 (2)
- 第十二回 谷崎潤一郎 (3)
- 第十三回 芥川龍之介 (1)
- 第十四回 芥川龍之介 (2)
- 第十五回 芥川龍之介 (3)

履修者の発表、出席者の質疑、討議を中心に授業を展開する。毎時間ごとに発表者を予め決め、発表要旨、関連資料などを用意させる。取りあがる作品は年度によって異なるが、次の作家を一人につき、二～三回授業をする。

- 第一回 川端康成 (1)
- 第二回 川端康成 (2)
- 第三回 川端康成 (3)
- 第四回 横光利一 (1)
- 第五回 横光利一 (2)
- 第六回 横光利一 (3)
- 第七回 太宰治 (1)
- 第八回 太宰治 (2)
- 第九回 太宰治 (3)
- 第十回 三島由紀夫 (1)
- 第十一回 三島由紀夫 (2)
- 第十二回 三島由紀夫 (3)
- 第十三回 女性作家 (1)
- 第十四回 女性作家 (2)
- 第十五回 女性作家 (3)

## 【評価方法】

授業への出席状況、研究発表の内容、質疑応答における発言状況などを総合的に評価する。

## 【テキスト】

年度初めに、取りあがる作品を決めてテキストとする。

## 【参考文献・資料】

適宜、授業中に指示する。

## 国文学演習 VI (日中比較) a・b

寺尾 剛

## 【授業の概要】

日本文学が中国文学をどのように消化・摂取しつつ新たな文学を作り上げていったのか、その具体的様相について、古典文学を中心に中国文学の側から考察する。

## 【授業の目標】

漢文読解能力、資料調査能力の向上。和漢比較の視点に立った研究法の育成。

## 【授業計画】

【史記】『漢書』『白氏文集』『蒙求』『貞観政要』などの中国漢文、『菅家文草』『本朝文粹』『和漢朗詠集』などによる。

- 第一回 日本における漢籍受容史 (1)
- 第二回 日本における漢籍受容史 (2)
- 第三回 日本における漢籍受容史 (3)
- 第四回 【史記】とその受容 (1)
- 第五回 【史記】とその受容 (2)
- 第六回 【史記】とその受容 (3)
- 第七回 【漢書】『三國志』とその受容 (1)
- 第八回 【漢書】『三國志』とその受容 (2)
- 第九回 【漢書】『三國志』とその受容 (3)
- 第十回 【蒙求】『千字文』とその受容 (1)
- 第十一回 【蒙求】『千字文』とその受容 (2)
- 第十二回 【蒙求】『千字文』とその受容 (3)
- 第十三回 【白氏文集】とその受容 (1)
- 第十四回 【白氏文集】とその受容 (2)
- 第十五回 【白氏文集】とその受容 (3)

【史記】『漢書』『白氏文集』『蒙求』『貞観政要』などの中国漢文、『菅家文草』『本朝文粹』『和漢朗詠集』などによる。

- 第一回 日本漢文史の流れ (1)
- 第二回 日本漢文史の流れ (2)
- 第三回 日本漢文史の流れ (3)
- 第四回 上古から平安時代の漢文・漢詩 (1)
- 第五回 上古から平安時代の漢文・漢詩 (2)
- 第六回 上古から平安時代の漢文・漢詩 (3)
- 第七回 中世における漢文・漢詩 (1)
- 第八回 中世における漢文・漢詩 (2)
- 第九回 中世における漢文・漢詩 (3)
- 第十回 江戸時代の漢文・漢詩 (1)
- 第十一回 江戸時代の漢文・漢詩 (2)
- 第十二回 江戸時代の漢文・漢詩 (3)
- 第十三回 明治時代の漢文・漢詩 (1)
- 第十四回 明治時代の漢文・漢詩 (2)
- 第十五回 明治時代の漢文・漢詩 (3)

## 【評価方法】

出席状況、発表内容及びレポートによって総合的に判断、評価する。

## 【テキスト】

プリント

## 【参考文献・資料】

適宜、授業中に指示する。

## 国語学演習 a・b

増井典夫

## 【授業の概要】

近代日本語研究のありかたを考える。まずは「国語」と「日本語」の問題を考える所から始めていく。

## 【授業の目標】

日本語研究の水準をよく理解する。

## 【授業計画】

第一回～第十五回 講義及び出席者の調査発表で進める。

- 第一回 ガイダンス
- 第二回 <「国語」を話すということ> 1
- 第三回 <「国語」を話すということ> 2
- 第四回 <「国語」のつくり方> 1
- 第五回 <「国語」のつくり方> 2
- 第六回 <「国語国字問題」とナショナルリズム> 1
- 第七回 <「国語国字問題」とナショナルリズム> 2
- 第八回 <「国語」と国語学> 1
- 第九回 <「国語」と国語学> 2
- 第十回 <植民地地としての「国語」> 1
- 第十一回 <植民地地としての「国語」> 2
- 第十二回 <「国語」と「日本語」のあいだ> 1
- 第十三回 <「国語」と「日本語」のあいだ> 2
- 第十四回 <「日本語」の誕生> 1
- 第十五回 <「日本語」の誕生> 2

第一回～第十五回 講義及び出席者の調査発表で進める。

- 第一回 <国語学についての概説>
- 第二回 <「日本語」の普及> 1
- 第三回 <「日本語」の普及> 2
- 第四回 <「国語」と「日本語」の衝突> 1
- 第五回 <「国語」と「日本語」の衝突> 2
- 第六回 <日本語学の登場> 1
- 第七回 <日本語学の登場> 2
- 第八回 <国語学の退場> 1
- 第九回 <国語学の退場> 2
- 第十回 <日本語学の隆盛> 1
- 第十一回 <日本語学の隆盛> 2
- 第十二回 <新たな「国語」の構築> 1
- 第十三回 <新たな「国語」の構築> 2
- 第十四回 <回帰する「国語」> 1
- 第十五回 <回帰する「国語」> 2

## 【評価方法】

授業への参加態度、提出物の内容等によって総合的に評価。

## 【テキスト】

「国語」の近代史 (安田敏朗・中公新書)

## 【参考文献・資料】

適宜、授業中に指示する。

## 国文学特講 I (古代) a・b

久保朝孝

## 【授業の概要】

平安時代の物語文学作品「大和物語」を輪読する。

## 【授業の目標】

古代文学研究の基本的姿勢・方法を実践的に理解・体得することを目的とする。作品の「読み」の方法を確立し、問題発見・調査・整理・批判・考察の過程を経て、自らの見解をまとめあげる力を養成する。

## 【授業計画】

毎回、以下の手順に従って「大和物語」を精読する。

- 第一回 第一段～第二段
- 第二回 第三段
- 第三回 第四段～第六段
- 第四回 第七段～第九段
- 第五回 第十段～第十二段
- 第六回 第十三段～第十五段
- 第七回 第十六段～第十八段
- 第八回 第十九段～第二十一段
- 第九回 第二十二段～第二十四段
- 第十回 第二十五段～第二十七段
- 第十一回 第二十八段～第三十段
- 第十二回 第三十一段～第三十四段

毎回、以下の手順に従って「大和物語」を精読する。

- 第一回 第三十五段～第三十八段
- 第二回 第三十九段～第四十一段
- 第三回 第四十二段～第四十三段
- 第四回 第四十四段～第四十七段
- 第五回 第四十八段～第五十一段
- 第六回 第五十二段～第五十四段
- 第七回 第五十五段～第五十七段
- 第八回 第五十八段
- 第九回 第五十九段～第六十一段
- 第十回 第六十二段～第六十四段
- 第十一回 第六十五段～第六十六段
- 第十二回 第六十七段～第六十九段

## 【評価方法】

出席状況、担当範囲についての研究発表 (半期に三回程度)、授業中の発言 (質問・批判等)、そして課題レポート等を総合して評価する。

## 【テキスト】

新編日本古典文学全集 大和物語・平中物語・竹取物語・伊勢物語 (小学館)

## 【参考文献・資料】

適宜、授業中に指示する。

## 国文学特講 II (中世) a・b

岩下紀之

## 【授業の概要】

中世文学の研究能力を養成する。

## 【授業の目標】

『雨夜の記』を講読する。

## 【授業計画】

出席者に調査発表を課する。

- 第一回 第一丁表裏
- 第二回 第二丁表裏
- 第三回 第三丁表裏
- 第四回 第四丁表裏
- 第五回 第五丁表裏
- 第六回 第六丁表裏
- 第七回 第七丁表裏
- 第八回 第八丁表裏
- 第九回 第九丁表裏
- 第十回 第十丁表裏
- 第十一回 第十一丁表裏
- 第十二回 第十二丁表裏
- 第十三回 第十三丁表裏
- 第十四回 第十四丁表裏
- 第十五回 第十五丁表裏

## 【評価方法】

版本を用いる

## 【テキスト】

適宜、授業中に指示する。

## 【参考文献・資料】

発表の成果による。

## 国文学特講 IV (近代) a・b

小倉 斉

## 【授業の概要】

『小説の方法—文学テキストをどう読み、どう論ずるか—』日本の近・現代を代表する短編小説の精読を通して、「小説を読む」という行為を意識化し、多様な読みを生み出す分析方法や文学研究の方法を実践的に身につける。

## 【授業の目標】

テキストの精読と丹念な調査、演習における討論を通して、多様な読みを生み出す分析方法や文学研究の方法を実践的に身につける。

## 【授業計画】

- 〈前期〉
- 第1回 『にこりえ』 精読(1)
- 第2回 『にこりえ』 精読(2)
- 第3回 『少女病』 精読(1)
- 第4回 『少女病』 精読(2)
- 第5回 『半日』 精読(1)
- 第6回 『半日』 精読(2)
- 第7回 『サラサーテの壺』 精読(1)
- 第8回 『サラサーテの壺』 精読(2)
- 第9回 『百萬圓煎餅』 精読(1)
- 第10回 『百萬圓煎餅』 精読(2)
- 第11回 『馬』 精読(1)
- 第12回 『馬』 精読(2)
- 第13回 『風流夢譚』 精読(1)
- 第14回 『風流夢譚』 精読(2)
- 〈後期〉
- 第1回 『だらだら坂』 精読(1)
- 第2回 『だらだら坂』 精読(2)
- 第3回 『阿久正の話』 精読(1)
- 第4回 『阿久正の話』 精読(2)
- 第5回 『陽気な夜回り』 精読(1)
- 第6回 『陽気な夜回り』 精読(2)
- 第7回 『幼児狩り』 精読(1)
- 第8回 『幼児狩り』 精読(2)
- 第9回 『木の箱』 精読(1)
- 第10回 『木の箱』 精読(2)
- 第11回 『樹影譚』 精読(1)
- 第12回 『樹影譚』 精読(2)
- 第13回 『レキシントンの幽霊』 精読(1)
- 第14回 『レキシントンの幽霊』 精読(2)

## 【評価方法】

レポート、授業への参加状況、レジュメの内容、発表の様子などを総合して評価する。

## 【テキスト】

〈前期〉：『にこりえ』(樋口一葉 プリント)、少女病(田山花袋 プリント)、半日(森鷗外 プリント)、サラサーテの壺(内田百閒 プリント)、百萬圓煎餅(三島由紀夫 プリント)、馬(小島信夫 プリント)、風流夢譚(深沢七郎 プリント)

〈後期〉：だらだら坂(丸谷オ一 プリント)、阿久正の話(長谷川四郎 プリント)、陽気な夜回り(古井由吉 プリント)、幼児狩り(河野多恵子 プリント)、木の箱(金井美恵子 プリント)、樹影譚(丸谷オ一 プリント)、レキシントンの幽霊(村上春樹 プリント)

## 【参考文献・資料】

適宜、授業中に指示する。

## 国文学特講 III (近世) a・b

阿部一彦

## 【授業の概要】

『連句文芸の流れ』を使用し、以下の授業計画に従って、「連句文芸」の変遷と本質について学んで行く。

## 【授業の目標】

近世文学の研究能力を養成するとともに、教員としての調査・研究・発表能力を高める。

## 【授業計画】

- 第一回 連歌の発生(1)
- 第二回 連歌の発生(2)
- 第三回 短連歌から長連歌へ(1)
- 第四回 短連歌から長連歌へ(2)
- 第五回 初期の長連歌(1)
- 第六回 初期の長連歌(2)
- 第七回 地下の連歌(1)
- 第八回 地下の連歌(2)
- 第九回 つくば集から新撰つくば集へ(1)
- 第十回 つくば集から新撰つくば集へ(2)
- 第十一回 室町俳諧(1)
- 第十二回 室町俳諧(2)
- 第十三回 芭蕉七部集『猿蓑』の解釈と鑑賞(1)
- 第十四回 芭蕉七部集『猿蓑』の解釈と鑑賞(2)

- 第一回 連歌の固定(1)
- 第二回 連歌の固定(2)
- 第三回 貞門俳諧(1)
- 第四回 貞門俳諧(2)
- 第五回 守武流の流行(1)
- 第六回 守武流の流行(2)
- 第七回 漢詩文調の流行と芭蕉(1)
- 第八回 漢詩文調の流行と芭蕉(2)
- 第九回 蕉風俳諧と元禄俳壇(1)
- 第十回 蕉風俳諧と元禄俳壇(2)
- 第十一回 雑俳の成立と展開(1)
- 第十二回 雑俳の成立と展開(2)
- 第十三回 芭蕉七部集『猿蓑』の解釈と鑑賞(3)
- 第十四回 芭蕉七部集『猿蓑』の解釈と鑑賞(4)

## 【評価方法】

出席・発表とレポートによる。

## 【テキスト】

『連句文芸の流れ』(櫻井武次郎著・和泉書院)

## 【参考文献・資料】

適宜、授業中に指示する。

## 国文学特講 V (現代) a・b

都築久義

## 【授業の概要】

現代作家の著名な作品を毎回取りあげて輪読する。現代文学史的に重要な作品や履修者の研究テーマの周辺の作家を取りあげる。

## 【授業の目標】

現代文学の研究能力を実践的に身につける。近代文学史、現代文学史の通史を学び、研究テーマと関連づけた作品評価のできる能力をつける。

## 【授業計画】

近代文学・現代文学の通史について数回に分けて発表者を決めて、研究発表を行い、後半は重要作品数点を取りあげて、担当者が発表し、全員で質疑応答をする。

- 文学通史は五回程度、個別の重要作品や時代の流れについては二〜三回の授業をあてる。
- 第一回 現代日本文学史(明治・大正・昭和・戦前) 1
- 第二回 現代日本文学史(明治・大正・昭和・戦前) 2
- 第三回 現代日本文学史(明治・大正・昭和・戦前) 3
- 第四回 現代日本文学史(明治・大正・昭和・戦前) 4
- 第五回 現代日本文学史(明治・大正・昭和・戦前) 5
- 第六回 プロレタリア作家について(1)
- 第七回 プロレタリア作家について(2)
- 第八回 新興文学派作家について(1)
- 第九回 新興文学派作家について(2)
- 第十回 新興文学派作家について(3)
- 第十一回 戦争文学について(1)
- 第十二回 戦争文学について(2)
- 第十三回 戦時下の作家について(1)
- 第十四回 戦時下の作家について(2)
- 第十五回 戦時下の作家について(3)

近代文学・現代文学の通史について数回に分けて発表者を決めて、研究発表を行い、後半は重要作品数点を取りあげて、担当者が発表し、全員で質疑応答をする。

- 文学通史は五回程度、個別の重要作品や時代の流れについては二〜三回の授業をあてる。
- 第一回 現代文学史(戦後を中心) 1
- 第二回 現代文学史(戦後を中心) 2
- 第三回 現代文学史(戦後を中心) 3
- 第四回 現代文学史(戦後を中心) 4
- 第五回 現代文学史(戦後を中心) 5
- 第六回 第一次戦後派について(1)
- 第七回 第一次戦後派について(2)
- 第八回 第三の新人について(1)
- 第九回 第三の新人について(2)
- 第十回 第三の新人について(3)
- 第十一回 学生運動と文学について(1)
- 第十二回 学生運動と文学について(2)
- 第十三回 戦後文学の統括(1)
- 第十四回 戦後文学の統括(2)
- 第十五回 戦後文学の統括(3)

## 【評価方法】

授業への出席状況、研究発表の内容、質疑応答における発言状況などを総合的に評価する。

## 【テキスト】

現代日本文学史(笠間書院)、作品は文庫本を使用

## 【参考文献・資料】

適宜、授業中に指示する。

## 国文学特講 VI (日中比較) a・b

寺尾 剛

## 【授業の概要】

日本文学が中国文学をどのように消化・摂取しつつ新たな文学を作り上げていったのか、その具体的な様相について、古典文学を中心に日本文学の側から考察する。

## 【授業の目標】

国文学研究に必要な漢文知識を養う。日中比較の視点を養う。中国文献の取り扱い方を養う。

## 【授業計画】

受講者の関心の高い文献を取り上げる。

- 第一回 日本文と中国文学の関係について (1)
- 第二回 日本文と中国文学の関係について (2)
- 第三回 日本文と中国文学の関係について (3)
- 第四回 担当者の発表 (例:『文選』について) 1
- 第五回 担当者の発表 (例:『文選』について) 2
- 第六回 担当者の発表 (例:『文選』について) 3
- 第七回 質疑応答
- 第八回 担当者の発表 (例:『蒙求』について) 1
- 第九回 担当者の発表 (例:『蒙求』について) 2
- 第十回 担当者の発表 (例:『蒙求』について) 3
- 第十一回 質疑応答
- 第十二回 担当者の発表 (例:『晋家文草』について) 1
- 第十三回 担当者の発表 (例:『晋家文草』について) 2
- 第十四回 担当者の発表 (例:『晋家文草』について) 3
- 第十五回 質疑応答

受講者の関心の高い文献を取り上げる。

- 第一回 日本文と中国文学の関係について (1)
- 第二回 日本文と中国文学の関係について (2)
- 第三回 日本文と中国文学の関係について (3)
- 第四回 担当者の発表 (例:『新撰万葉集』について) 1
- 第五回 担当者の発表 (例:『新撰万葉集』について) 2
- 第六回 担当者の発表 (例:『新撰万葉集』について) 3
- 第七回 質疑応答
- 第八回 担当者の発表 (例:『十八史略』について) 1
- 第九回 担当者の発表 (例:『十八史略』について) 2
- 第十回 担当者の発表 (例:『十八史略』について) 3
- 第十一回 質疑応答
- 第十二回 担当者の発表 (例:『貞観政要』について) 1
- 第十三回 担当者の発表 (例:『貞観政要』について) 2
- 第十四回 担当者の発表 (例:『貞観政要』について) 3
- 第十五回 質疑応答

## 【評価方法】

出席状況、発表内容及びレポートによって総合的に判断、評価する。

## 【テキスト】

プリント

## 【参考文献・資料】

適宜、授業中に指示する。

080760001\_0150 掲載順 : 0150

MASTER ★

## 特殊研究 I (国文学特論) a・b

永井聖剛

## 【授業の概要】

文学におけるもっとも現代的な課題について、具体的な作家及び作品に即して考察する。この科目は、学生の関心及び専攻時代・領域等に応じて学内外から適任の講師を招き、原則として二年ごとに担当者を交代するものとする。

## 【授業の目標】

〈前期〉『当世書生気質』と『浮雲』の精読。出発期の日本近代文学が抱えていた文学的課題について再検討する。  
 〈後期〉『田舎教師』の精読。二十世紀初頭の典型的な一青年の精神史を辿ることで、日本近代文学の制度的確立期における諸問題を俯瞰する。

## 【授業計画】

〈前期〉

- 1) ガイダンス・『小説神髓』の登場まで
- 2) 『当世書生気質』講読 (受講者の報告・発表をもとに進めてゆく。以下同じ)
- 3) 『浮雲』講読

〈後期〉

- 1) ガイダンス
- 2) 『田舎教師』講読
- 3) 反自然主義的思潮とその作品について

## 【評価方法】

授業への参加 (出席・発表・質疑) および期末レポートによって判断する。

## 【テキスト】

当世書生気質 (坪内逍遙 岩波文庫)  
 浮雲 (二葉亭四迷 岩波文庫)  
 田舎教師 (田山花袋 新潮文庫)  
 日本近代文学評論選 明治・大正篇 (千葉俊二・坪内祐三編 岩波文庫)

## 【参考文献・資料】

授業中、適宜指示する。

## 国語学特講 a・b

増井典夫

## 【授業の概要】

近代日本語研究のありかたを考える。まずは、安田敏朗の著作を読みながら、「国語」と「日本語」の問題を考える所からはじめる。

## 【授業の目標】

日本語研究の水準をよく理解する。

## 【授業計画】

第一回～第十五回 講義及び出席者の調査発表で進める。

- 第一回 ガイダンス
- 第二回 <統合原理としての「国語」への回帰>について (1)
- 第三回 <統合原理としての「国語」への回帰>について (2)
- 第四回 <近代化・帝国化する言語>について (1)
- 第五回 <近代化・帝国化する言語>について (2)
- 第六回 <国語・日本語の機能>について (1)
- 第七回 <国語・日本語の機能>について (2)
- 第八回 <近代国民国家と国語>について (1)
- 第九回 <近代国民国家と国語>について (2)
- 第十回 <多言語社会日本と日本語>について (1)
- 第十一回 <多言語社会日本と日本語>について (2)
- 第十二回 <言語の近代化>について (1)
- 第十三回 <言語の近代化>について (2)
- 第十四回 <言語の帝国化>について (1)
- 第十五回 <言語の帝国化>について (2)

第一回～第十五回 講義及び出席者の調査発表で進める。

- 第一回 近代日本語概説
- 第二回 <国語教育と近代> 1
- 第三回 <国語教育と近代> 2
- 第四回 <植民地における国語教育と文化> 1
- 第五回 <植民地における国語教育と文化> 2
- 第六回 <近代における国語国字問題> 1
- 第七回 <近代における国語国字問題> 2
- 第八回 <「日本語」という「配電システム」> 1
- 第九回 <「日本語」という「配電システム」> 2
- 第十回 <「沖縄方言」か「琉球語」か> 1
- 第十一回 <「沖縄方言」か「琉球語」か> 2
- 第十二回 <「姉妹語」と「方言」> 1
- 第十三回 <「姉妹語」と「方言」> 2
- 第十四回 <沖縄と「共通語」> 1
- 第十五回 <沖縄と「共通語」> 2

## 【評価方法】

授業への参加態度、提出物の内容等によって総合的に評価。

## 【テキスト】

統合原理としての国語 (安田敏朗 三元社)

## 【参考文献・資料】

適宜、授業中に指示する。

080760001\_0160 掲載順 : 0160

MASTER ★

## 特殊研究 II (文芸論) a・b

西田谷洋

## 【授業の概要】

一般に学問研究を支える能力として、事実を明らかにする考証力及び主張を普遍化する論理力があげられるが、さらに欧米における先端的な様々の批評理論を実践的に学ぶことによって、自らの作品解析の方法意識を涵養する。

## 【授業の目標】

文学研究の方法論の基礎や考え方を学びながら、新たな批評理論の可能性を模索し、また実際のテキストを方法論に基づいて読むことで、知識の定着を図りたい。

## 【授業計画】

- 1 ガイダンス 2 理論とは何か? 3 文学とは何か? 文学は重要か?
- 4 文学とカルチュラル・スタディーズ 5 言語、意味、解釈
- 6 レトリック、詩学、詩 7 物語(ナラティブ)
- 8 行為遂行的な(パフォーマンス的な)言語
- 9 アイデンティティ、同一化、主体(サブジェクト)
- 10 補遺 諸理論の流派と運動 11 まとめ1 12 まとめ2 13 応用1
- 14 応用2 15 現代思想の変遷 16 フランクフルト学派1
- 17 フランクフルト学派2 18 応用3 19 ポスト構造主義1
- 20 ポスト構造主義2 21 ポスト構造主義3 22 応用4
- 23 リベラリズム1 24 リベラリズム2 25 応用5
- 26 カルチュラル・スタディーズ1 27 カルチュラル・スタディーズ2
- 28 応用6 29 応用7 30 まとめ3

## 【評価方法】

出席・討議等授業態度 (合わせて60%)、報告(40%)

## 【テキスト】

ジョナサン・カラー 『文学理論』(岩波書店)  
 仲正・清家・藤本・北田・毛利 『現代思想入門』(PHP研究所)

## 【参考文献・資料】

『読むための理論』(世織書房)・アントワヌ・コンパニョン 『文学をめぐる理論と常識』(岩波書店)・大橋洋一 『現代批評理論のすべて』(新書館)



## 特殊研究 III (国語教育) a・b

豊永利英

## 【授業の概要】

大学院で学修した国文学に関する専門知識並びに研究の成果を、中等教育の現場に生かすための実践的学力及び指導力を身につける。

## 【授業の目標】

- 次の三つの実力を養成する。
1. 教員採用試験(筆記試験・論文・面接等)に対応できる学力。
  2. 教育現場から要請される実質的教科指導力。
  3. 優れた教育実践を実現する教師の資質と姿勢。

## 【授業計画】

主として高等学校の教材を活用しながら、発見的、創造的な深い読解力と、それを授業に生かす方法が身につくような指導をしたい。さらに、指導力とはどのようなものかについて考察する中で、望ましい教師像のあり方についても触れてみたい。

授業は講義と演習とによるので、学生の積極的な参加が不可欠である。

## 【評価方法】

授業への積極的な参加状況、課題の提出状況及び期末のレポートの内容等により、総合的に評価する。

## 【テキスト】

プリントを用意する。

## 【参考文献・資料】

授業内で紹介する。

## 比較文学 a・b

工藤貴正

## 【授業の概要】

日本文学と海彼の文学との影響関係について、特に中国近代に範囲を絞り込み具体的な作家・作品に即して考察する。一方通時的な影響・摂取に留まらない、双方向性を有しつつ時代を越える情報互恵的なありようを学ぶ。

## 【授業の目標】

日本近代文学が描く中国像について、同時期の中国知識人の作品を視野に入れることにより、比較文学の視点からの分析手法を身につける。今年度は、国際都市・上海について書いた或は描いた作品を中心に採り挙げ、伝統と「近代」というキーワードを軸に、中国の「近代」と日本の近代の共通性と相違性を考察する。そのことにより、日本知識人が描く中国像を客観的に分析する。

## 【授業計画】

授業では、3回に1回を中国近代文学の概説と中国映画の鑑賞にあて、中国の近代に対する理解を知識と感覚の両面で深め、考察する力を養成していく。

日本近代文学の作家としては、芥川龍之介、村松梢風、井東憲、横光利一の作品を中心に採り挙げる。また、井上紅梅、金子光晴、吉行エイスケ、榊山潤、草野心平、阿部知二、武田泰淳、堀田善衛などの上海観、中国観と、厨川白村、本間久雄の文学理論も参考にして考察を行う。

中国近代文学の作家としては、魯迅、周作人、郁達夫、施蛰存、穆時英、劉呐鷗、張愛玲、徐訏などの作品を比較研究の対象として採り挙げる。

## 【評価方法】

授業への参加状況、担当レジュメの内容、レポートにより総合的に評価する。

## 【テキスト】

プリントを使用するが、必要な場合は授業で指示する。

## 【参考文献・資料】

松村定孝・紅野敏郎・吉田照生編『近代日本文学における中国像』有斐閣選書、1975.10

和田博文他著『言語都市・上海——1840-1945』藤原書店、1999.9

丸山昇著『上海物語——国際都市上海と日中文化人』講談社学術文庫、2004.7

## 言語学 a・b

山本雅子

## 【授業の概要】

文学研究の基礎として、言語の発生から展開・変容に至る機構について学ぶとともに、言語の構造及び機能についての理解を深め、さらに言語研究の意義とその可能性について考察する。

## 【授業の目標】

従来の言語研究では、言葉は、人間がものごとを理解する力から独立して自律的に存在するものであるとして捉えられている。しかし、こういった古びた鑄型に嵌った考えから抜け出し、われわれの日常の言語生活を少し注意深く観察してみれば、言葉が、人間の理解する能力、人間の想像をめぐらす働き、機能する生体としての人間の本性を反映し、実に生き活きとはたらいしていることに気づかされるだろう。本講義では、まず、日本語のさまざまな文法形式と意味との相関関係を、事態を意味あるものとして理解する人間の事態把握の観点からダイナミックに捉え直す。次いで、物語文の中で、それらの形式が言語装置としていかに効果的にはたらいしているかを考察する。

## 【授業計画】

- 第1回 言葉と言語主体
- 第2回 心的領域
- 第3回 心的操作
- 第4回 メタファー①
- 第5回 メタファー②
- 第6回 メトニミー
- 第7回 主観性①
- 第8回 主観性②
- 第9回 パースペクティヴ
- 第10回 他動性①
- 第11回 他動性②
- 第12回 物語フレーム
- 第13回 パースペクティヴ操作①
- 第14回 パースペクティヴ操作②
- 第15回 まとめ

## 【評価方法】

レポート(2回)

## 【テキスト】

山梨正明『認知文法論』ひつじ書房

## 【参考文献・資料】

適宜授業の中で提示。

## 書誌学 a・b

藤井奈都子

## 【授業の概要】

「物」としての本(図書)について、その生成発展の経緯、名義、体裁、分類、製本技術、材料、伝来、流通など様々な性格・要素について広範な知識を得るとともに、主に日本文学の写本・版本を中心に、それを鑑定する基本的な力を実践的に身につける。

## 【授業の目標】

書籍に関しての基本的な知識、特に日本古典の古写本・版本については、その取り扱い、初歩的な鑑定に関しての実践的な力を身に付ける。

## 【授業計画】

第1回「書籍の範囲」から始め、テキストに添って、以下のように進めていく。

「日本における書誌学的作業と研究の歴史」

「書籍の起源と材料の変遷」

「紙の種類—原料別、加工法別」

「種々の装訂」

「書籍の大きさとその呼称」

「書籍の部分名称」

「書籍の内容に関する種類と用語」

「写本の内容に関する種類と用語」

「刊本の種類と名称—印刷方法別、版刻の前後、印刷の前後、版の異同、色刷と筆彩、再製本、出版社出版地別」

「刊本の歴史」

## 【評価方法】

期末テストの評点に平常点を加味する。

## 【テキスト】

日本古典書誌学総説(藤井隆著 和泉書院)

## 【参考文献・資料】

必要に応じて提示する。

## 文献学 a・b

日比野浩信

### 【授業の概要】

作品の成立事情、伝来の過程における事故、そして誤写・改変等により、様々な異文を抱えて流布・伝播する各種写本・版本をもとに、古典文学の原作復元作業はいかにして可能となるのか。その具体的な方法と、限界及び可能性について学ぶ。

### 【授業の目標】

国文学作品について、資料の収集、校合、校本作成、校訂を主として、文献学的研究の一端を実践的に体験し、自らの選択した作品研究への応用を目的とする。

### 【授業計画】

文献学と文芸学（文献学とは）  
書誌学（補助学として）  
伝本と本文（伝本の収集と整理）  
写本の読解  
書写の実態  
本文の異同（異文発生メカニズム）  
校本の作成  
諸本分類と伝本系統  
古筆断簡（価値と位置付け）  
文献学的解釈（用例から）  
文献学的解釈（古注釈から）  
典拠と引用（他文献に引用される本文）  
共時的本文と通時的本文（享受本文と原形）  
本文校訂（テキスト・クリティーク）  
校訂本文と翻刻  
解釈本文  
諸本論・伝本論・本文論  
解釈から校訂へ  
校訂本文から本文解釈へ

### 【評価方法】

レポートによって評価する予定。

### 【テキスト】

受講員数などによって決定し、追って指示する。

### 【参考文献・資料】

必要に応じて指示する。

## 翻訳論（英語論文作法） a・b

EASLEY, Keith

### 【Course description】

The course should further develop the ability to write academic papers through critical engagement with individually chosen materials.

Work includes note-taking, the use of sources, understanding and use of academic conventions and language, and the development and presentation of argument. Along with individual tuition there will be class and pair discussion of work in progress and the elements of academic writing.

### 【Course objectives】

To improve the students' writing of academic papers.

### 【Course schedule】

The Schedule will be decided according to students' needs.

### 【Assessment】

A written paper of an agreed length is to be submitted. Evaluation will be based on this.

### 【Textbooks】

None

## 出版文化史 a・b

塩村 耕

### 【授業の概要】

図書出版の歴史と文化的意義について一般的な知識を得る。その上で、特に日本の近世以降における大量印刷・大量販売・大量消費を支えた本屋の推移と文学創作との関わり、さらに政治体制との軌轢の問題等について学ぶ。

### 【授業の目標】

江戸時代の出版文化は、それ自体多彩で面白いが、日本の近代化の基礎を成したという意味で、文化史的に見て重要である。ところが、その実態についてはよくわかっていない。それは、さしも隆盛を誇った江戸時代以来の本屋が、明治の中ごろにほとんど閉店してしまい、店に伝わる帳面や文書など、直接的な資料の多くが湮滅してしまったからだ。そのような困難な状況の中で、どのようにして研究を進めることが可能なのか、実際の古典籍や古文書など、モノに即して考えたい。

具体的には、①書物の見方や取り扱い方など版本書誌学の基礎、②出版史に関連する古文書の講読、③読書史に関連する古文書の講読、④古典籍書誌記述の方法論。

※基本的には原本資料に基づいて講義を行うので、くずし字読解に対する意欲を要する。

### 【授業計画】

第1～4回：版本書誌学の基礎  
第5～8回：京都書林仲間関係古文書の講読  
第9～12回：読書史関係古文書（高遠藩士および秩父の医者による書物購入資料）の講読  
第13～15回：古典籍書誌記述の講義と実践

### 【評価方法】

・出席率と講義時の熱意：5割  
・レポート：5割

### 【テキスト】

プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

・塩村耕著『こんな本があった！江戸珍奇本の世界』（家の光協会）  
・遠藤諦之輔著『古文書修補六十年一和装本の修補と造本』（汲古書院）

## 英語学演習 III a・b

大室剛志

## 【授業の概要】

Noam Chomskyが1987年に来日し、一般知識人向けに3つの講演を行った。その3つの講演、Lecture 1 Mentalism and Behavior, Lecture 2 Conceptual Foundations of the Study of Language, Lecture 3 On the Nature, Use and Acquisition of Languageを収めたLanguage in a Psychological Settingという本をテキストとし、それを精読することにより、Chomskyの言語観、Chomskyの言語学の目標などについて学ぶ。Chomsky言語学のテクニカルな面ではなく、そもそもなんのために言語研究を行うのかという根本的な面について考えていきたい。

## 【授業の目標】

理論言語学の文献を精読し、言語研究の意義について考える。

## 【授業計画】

毎時間、上記テキストを数ページずつ精読することで英語学的乱取り稽古を行う。

## 【評価方法】

毎回の授業時での読みの正確さで判断する。

## 【テキスト】

*Language in a Psychological Setting*, *Sophia Linguistica XXII*(Noam Chomsky, Sophia University (1987))

## 【参考文献・資料】

授業中に随時紹介する。

## 英語学特講 (3) a・b

中野弘三

## 【授業の概要】

英語の文の意味分析をテーマとして、発話の場における文の意味分析を行うとともに、文の意味と文脈(場面)の関係を語用論的に考察する。

## 【授業の目標】

1. 発話(コミュニケーション)の場の構成を理解する。
2. 文の意味の語用論的分析方法を理解する。
3. 発話された文の意味構造を理解する。

## 【授業計画】

前期は文の発話の意味分析に関する最近の研究を紹介し、(文の)発話の意味構造を考察する。それと同時に文の意味と統語構造の関係を検討する。

後期は文の意味の語用論的分析を試みる。発話の場で発話された文の意味、特に、発話行為、文脈(場面)との関連から生じる含意など、文の意味解釈に関わる語用論上の問題を検討する。

## 【評価方法】

学年末にレポートを提出してもらい、それを基本としながら、平常点を加味して評価する。

## 【テキスト】

英語の文の意味的、語用論的分析に関する論文のコピーを使用する。

## 【参考文献・資料】

- Semantics* (2000 Kate Kearns Macmillan Press)  
*Semantics* (2nd Edition 2003 John I. Saeed Blackwell)  
*Doing Pragmatics* (2nd Edition 2000 Peter Grundy Arnold)  
*Pragmatics* (1996 George Yule Oxford University Press)

## 英文学研究 a・b

大野光子

## 【授業の概要】

修士論文作成の指導

## 【授業の目標】

アイルランド文学研究の基礎となる、綿密かつ批評性・独創性のある論文の完成を目指す。

## 【授業計画】

前期には、先行する研究の分析をベースに、受講者独自のテーマの設定と検討、資料の収集、論文の構成等、全般について指導し、後期には実際の論文執筆作業の指導を行う。

## 【評価方法】

論文の内容を総合的に評価する。

## 【テキスト】

未定

## 【参考文献・資料】

授業中に指示

## 英語学研究 a・b

樗木勇作

## 【授業の概要】

修士論文作成の指導

## 【授業の目標】

修士論文の作成に向けて、客観的データ・学問的裏打ちのある理論に基づく論理的展開と明確かつ的確な主旨の表現技法の修得を目標とする。

## 【授業計画】

先行研究の分析・批判、研究テーマの設定、データ収集、考察の展開法などについて指導する。

## 【評価方法】

論文の内容その他、英語での議論展開・表現技法を総合的に評価する

## 【テキスト】

未定

## 【参考文献・資料】

適宜指示する。

**翻訳論 (英語論文作法) a・b**

EASLEY, Keith

**【Course description】**

The course should further develop the ability to write academic papers through critical engagement with individually chosen materials.

Work includes note-taking, the use of sources, understanding and use of academic conventions and language, and the development and presentation of argument. Along with individual tuition there will be class and pair discussion of work in progress and the elements of academic writing.

**【Course objectives】**

To improve the students' writing of academic papers.

**【Course schedule】**

The Schedule will be decided according to students' needs.

**【Assessment】**

A written paper of an agreed length is to be submitted. Evaluation will be based on this.

**【Textbooks】**

None



## 情報学特講 (1) a

山崎茂明 岡澤和世 菅野育子 西荒井学 林 博司 三和義秀  
村主朋英 太田 裕

### 【授業の概要】

院生各自の研究計画・内容の発表、研究の進捗状況の報告と討議、および修士論文の中間発表会の開催、さらには関連学会・討論会等の発表内容の検討など、院生の研究活動を複数の教員が集団指導し、修士論文の完成を支援する。

### 【授業の目標】

研究内容を、その計画・調査・分析・執筆の各段階での発表と討論を通して、研究調査と論文作成能力の発展をはかる。

### 【授業計画】

発表者がレジュメを作成配布。

### 【評価方法】

研究発表と討論への参加度

## 情報学特講 (1) b

山崎茂明 岡澤和世 菅野育子 西荒井学 林 博司 三和義秀  
村主朋英 太田 裕

### 【授業の概要】

院生各自の研究計画・内容の発表、研究の進捗状況の報告と討議、および修士論文の中間発表会の開催、さらには関連学会・討論会等の発表内容の検討など、院生の研究活動を複数の教員が集団指導し、修士論文の完成を支援する。

### 【授業の目標】

研究内容を、その計画・調査・分析・執筆の各段階での発表と討論を通して、研究調査と論文作成能力の発展をはかる。

### 【授業計画】

発表者がレジュメを作成配布。

### 【評価方法】

研究発表と討論への参加度

## 情報学演習 (1) a

山崎茂明 岡澤和世 菅野育子 西荒井学 林 博司 三和義秀  
村主朋英 太田 裕

### 【授業の概要】

図書館情報学の基礎に関する講義や基礎文献の講読の他に、複数の教員による集団指導により、学術雑誌掲載論文の抄読会およびミニレビューなどを、全院生出席の下に行う。質疑応答や討論を通じて、当該分野の論文・総説等を評価し、研究の進め方および論理的な思考方法や表現方法を学び、修士論文の作成に反映させる。

### 【授業の目標】

最新の海外原著論文を対象に、テーマ、調査方法、分析手法などから、各自の論文作成に引きつけて、研究論文を読みぬく能力を育成する。

### 【授業計画】

発表者がレジュメを作成、配布、発表し、それにもとづいて参加者全員で討論する。

### 【評価方法】

レジュメの発表と討論への参加度

## 情報学演習 (1) b

山崎茂明 岡澤和世 菅野育子 西荒井学 林 博司 三和義秀  
村主朋英 太田 裕

### 【授業の概要】

図書館情報学の基礎に関する講義や基礎文献の講読の他に、複数の教員による集団指導により、学術雑誌掲載論文の抄読会およびミニレビューなどを、全院生出席の下に行う。質疑応答や討論を通じて、当該分野の論文・総説等を評価し、研究の進め方および論理的な思考方法や表現方法を学び、修士論文の作成に反映させる。

### 【授業の目標】

最新の海外原著論文を対象に、テーマ、調査方法、分析手法などから、各自の論文作成に引きつけて、研究論文を読みぬく能力を育成する。

### 【授業計画】

発表者がレジュメを作成、配布、発表し、それにもとづいて参加者全員で討論する。

### 【評価方法】

レジュメの発表と討論への参加度

## 情報学特講 (2) a・b

林 博司

## 【授業の概要】

生物の情報処理機構に関する基礎的知識の講義、及び関連分野の進歩などをまとめた比較的新しい総説(英文を含む)の輪読を行う。一連の学習により、遺伝情報の複製、暗号化、復元などの過程を理解する。さらに感覚情報の伝達過程、情報変換過程等遺伝情報以外の情報が、生物の体中でどのように扱われているかを理解することにより、情報に関する理解を深める一助としたい。

## 【授業の目標】

生命情報に関わる最新の研究について理解すること。

## 【授業計画】

セミナー形式で行うため、構成メンバーに最適な計画を弾力的に立案する。

## 【評価方法】

慣例に従う

## 【テキスト】

特になし

## 【参考文献・資料】

その都度配布

## 情報学特講 (4) a・b

山崎茂明

## 【授業の概要】

科学コミュニケーションの世界を対象に、研究情報とメディアに着目して考察していく。特に、研究活動、論文作成、口頭発表、投稿、編集、論文審査、出版倫理、科学研究の不正行為といった側面から検討する。

## 【授業の目標】

研究倫理、発表倫理、公正な科学研究といった側面から、科学情報メディアと科学コミュニケーションを深く検討する。

## 【授業計画】

科学研究をとりまく環境の変化、研究公正局の活動、海外の不正行為事例、国内の不正行為事例、各国の対応、研究機関における倫理ポリシーと対処手順、レフェリーシステム、オーサーシップ、データベース側の対処などをとりあげる。

## 【評価方法】

発表レポート

## 【テキスト】

科学者の不正行為(山崎茂明 丸善)

## 【参考文献・資料】

生命科学論文投稿ガイド(山崎茂明 中外医学社)  
論文投稿のインフォマティクス(山崎茂明 中外医学社)  
ORI研究倫理入門(Steneck, N. 丸善)

## 情報学特講 (5) a・b

西荒井学

## 【授業の概要】

情報資源の管理・運営システムを構築するのに必要なシステム分析からシステム設計に至る範囲内の問題を追究する。特に、コンピュータ処理を実現するのに最も重要であると思われるプログラム設計部分、言い換えればアルゴリズムの問題を中心に考えていく。

## 【授業の目標】

情報システムの設計・開発に関わる諸問題を受講者相互の報告、議論を通じて、探求していく。

## 【授業計画】

- 1) 要求定義(機能設計、情報設計)の問題
- 2) システム設計技法の問題
- 3) プログラム設計技法の問題
- 4) プログラミング技法の問題

各種システムの構築に関わる問題を探究していくための題材として、『システム設計に関する学習プログラム』の作成を課題として与えることとする。受講者は、担当部分のモジュールの特性を考慮した上で、適切なアルゴリズムの展開を図り、最終的にコンピュータ処理段階まで移行させていくことによって、種々の問題点を互いに検討していく。

なお受講者は、ある程度のコンピュータ利用経験、特にプログラミング経験を持つことを希望する。

## 【評価方法】

課題の進捗状況、報告内容、ならびに最終レポートによって評価する。

## 【テキスト】

使用せず。

## 情報学特講 (6) a・b

菅野育子

## 【授業の概要】

図書館と博物館における「情報源(所蔵資料)に関する情報」について、その識別機能及び記述方法の観点から講義する。特に、両者の資料識別情報(メタ・データ)を相互に運用する可能性(インターオペラビリティ)について論ずる。

## 【授業の目標】

図書館、博物館、文書館が情報提供機関として連携するために、どのような相違点があるかについて理解すること。

## 【授業計画】

授業は次の2点を中心に行なう。

- (1) 概念モデル間の比較と検討

以下の、図書館と博物館の情報源を対象としたデータベース構築のための概念モデルが提案された。以下の2つの概念モデルを比較・検討することから、両者の資料識別に対する立場の違いについて議論する。

IFLA/FRBR (International Federation of Library Associations. Functional Requirements for Bibliographic Records)

ICOM/CIDOC CRM (The International Committee for Documentation of the International Council of Museums. Conceptual Reference Model)

- (2) 記述データ項目間のマッピング

Getty Research Instituteが作成したCrosswalk of Metadata Element Sets for Art, Architecture, and Cultural Heritage Information and Online Resourcesを対象に、マッピングされた記述データ項目間の関連性について、実際に図書館資料及び博物館資料の記述データを用いて、以下の記述データ群を中心にマッピングとその評価を行なう。

・米国議会図書館のMARC21

・Getty財団のCDWA (Categories for the Description of Works of Art)

## 【評価方法】

最終レポートで評価する

## 【参考文献・資料】

IFLA Study Group on the Functional Requirements for Bibliographic Records. Functional Requirements for Bibliographic Records: final report. Munchen, K.G.Saur, 1998,136p

## 情報学特講 (7) a・b

三和義秀

## 【授業の概要】

前期 (a) では、Webを中心とするコンピュータネットワークに関する技術を習得した上で、人間の感性に関わる実験調査用のデータ収集を行うためのWebアンケート・システムをサーバサイド・プログラミング (ASP: Active Server PagesまたはJSP:Java Server Pages)によって構築し、そのシステムをインターネット上に公開しながらデータ収集を実施する。

後期 (b) では、Webアンケート・システムによって収集したデータを対象にした統計解析 (因子分析、多次元尺度構成法、クラスタ分析等)の方法について解説する。なお、受講者はC言語、またはJavaプログラミングの基礎知識を修得していることが望ましい。

## 【授業の目標】

研究の方法と意義について研究事例を参考にしながら理解する。また修士論文のために必要となる統計処理の選択、及びそれらのExcelまたはSPSSによる操作方法を学ぶ。

## 【授業計画】

- (1回) オリエンテーション  
 (2回から3回) Webアンケート・システムの構築に必要なネットワークリテラシ  
 (4回から5回) ASP/JSPによるサーバサイド・プログラミングの方法  
 (6回から7回) Webアンケート収集システムの事例 (感情状態の測定)  
 (8回) 統計処理の基本 (相関分析、正規分布、二項分布、カイ2乗)  
 (9回から10回) 仮説検定の仕組みと方法  
 (11回) Excel/SPSSによる統計解析 (相関分析)  
 (12回) excel/SPSSによる統計解析 (仮説の検定)  
 (13回から14回) 因子分析、多次元尺度構成法、クラスタ分析の仕組み  
 (15回) まとめ

## 【評価方法】

各自が調査テーマを決め、Webアンケート収集システムを構築し、その収集データの分析結果を報告するレポートによって評価する。

## 【テキスト】

1 回目の授業にて指示する。

## 【参考文献・資料】

- 1) 三和義秀. Excelで学ぶやさしい統計処理のテクニック (第2版). 共立出版  
 2) 室淳子他. SPSSでやさしく学ぶ統計解析. 東京図書

## 情報学特講 (8) a・b

村主朋英

## 【授業の概要】

情報史に関する講義および文献講読を行なう。とくに、<情報学基礎論と情報史の歴史像との交差>という問題を強く意識して進める。

## 【授業の目標】

なお、情報史は幅広い領域であるため、ディシプリンとしての情報学/図書館情報学の歴史、情報・図書館サービスの歴史、情報技術の歴史、コミュニケーション史/メディア史、科学史など、関連歴史概念の中から、動静や受講者の意向を見ながら内容を絞り込む。

また、受講者による発表・報告の回を適宜含める。

## 【授業計画】

情報学や情報史に関する知識を増進する。また、情報について、幅広く、かつ精緻な理解ができるような枠組みを考究する。

## 【授業計画】(Schedule)

a (前期) : 講義を中心に進める。

- (1) 情報史研究の現状と情報学の境位
- (2) 情報学における「情報」に関する観点  
図書館情報学、情報科学、メディア論  
社会情報学、吉田民人、北川敏男

b (後期) : 以下の内容を予定している。詳細は受講者と相談して決定する。

- (1) 情報史のトピック群
- (2) その他、受講者の関心事項

## 【評価方法】

平常点とレポートに基づいて行う。

## 【テキスト】

使用せず。

## 情報学特講 (9) a・b

野添篤哉

## 【授業の概要】

自然科学分野、とくに生物医学分野での研究過程における情報、知識、メディアなどの諸問題について多面的に考察する。

## 【授業の目標】

既存の学術論文から、自己の研究への適用を考えていく。

## 【授業計画】

関連分野の最新の学術論文を読み、討論を行なう。

## 【評価方法】

レジュメによる発表と討論への参加度

## 【テキスト】

その都度、指示する。

## 情報学演習 (3) a・b

岡澤和世

## 【授業の概要】

この4分の一世紀の間に情報社会が到来し、世界の経済、文化が大きく変化し始めた。情報テクノロジーの発達は我々の生活、仕事、教育に大きな影響を及ぼしている。中でもこの電子環境社会でどうやって情報を見つけたらよいのかとまどっている。本講義の目的は大きく変化している情報環境にどう対応していくのかを考える。

## 【授業の目標】

情報社会における社会の要求に応えるための教育と実践

## 【授業計画】

1. 情報と情報行動
2. 情報行動と情報環境
3. 情報行動研究とその枠組み
4. 情報行動のインフラストラクチャー
5. 情報行動モデル
6. 情報行動研究の例
7. 人中心の情報システム設計
8. 情報行動の発展 - 電子環境への対応
9. 将来の方向と展望

## 【評価方法】

レポート

## 【テキスト】

*New Review of Information Behaviour Research, Volum4.* (Wilson, T. D & D. K. A ed. Taylor Graham, 2003.)

## 【参考文献・資料】

*From Print to Electronic*(Susan Crawford,Julie M. Hurd and Ann C. Weller ASIS, 1996)

情報学講義ノート〈3〉(岡澤和世著 敬文堂 1989.)

インフォ・リッチ:インフォ・ブア (Trevor Heywood,岡澤和世訳 敬文堂 1997.)

*Social Demensions of Information Technology.*(Garson, G. David Idea Group Pub. 2000.)

## 情報学演習 (10) a・b

太田 裕

## 【授業の概要】

数値あるいは非数値からなる資料・データがもつ潜在構造を探究し、所与の情報から抽出するための資料・データ処理技法について、実践力の涵養を目標に学習を進める。

したがって、授業形態は関連知見の理解(講義)と資料・データ処理の体得(実習)とを交互的に行うこととする。サンプリングの計画数理・1変量～2変量解析、多変量解析、数値～非数値処理・解析等々が主要学習項目である。

## 【授業の目標】

1. 資料処理基礎力の体得
2. 資料処理技法活用による課題解決力の涵養

## 【授業計画】

前期

1. 基礎事項の習得
2. データ処理シミュレーション
3. 演習題の自力解決

後期

1. 小課題の提示と課題解決法の探索
2. 実(資料・データ)の構造解析
3. 数値～非数値データの統合処理

## 【評価方法】

レポートにより評価する

## 【テキスト】

随時、必要な文献・専門書を指示する

## 【参考文献・資料】

同上

## 情報学特講 (11) a・b

緑川信之

## 【授業の概要】

図書館情報学の英文テキストを精読し、議論を行う。

## 【授業の目標】

図書館情報学の基本的なテーマについて理解を深めるとともに、テキストの読解力を高める。

## 【授業計画】

テキストを読み、内容を理解しつつ、内容の妥当性等について議論をする。

## 【評価方法】

授業中の発表およびレポートで評価を行う。

## 【テキスト】

必要に応じて資料を配付する。

## 【参考文献・資料】

谷口祥一、緑川信之、知識資源のメタデータ、勁草書房、2007、248p.

## 言語学 a・b

山本雅子

## 【授業の概要】

文学研究の基礎として、言語の発生から展開・変容に至る機構について学ぶとともに、言語の構造及び機能についての理解を深め、さらに言語研究の意義とその可能性について考察する。

## 【授業の目標】

従来の言語研究では、言葉は、人間がものごとを理解する力から独立して自律的に存在するものであるとして捉えられている。しかし、こういった古びた鑄型に嵌った考えから抜け出し、われわれの日常の言語生活を少し注意深く観察してみれば、言葉が、人間の理解する能力、人間の想像をめぐらす働き、機能する生体としての人間の本性を反映し、実に活き活きとはたらいっていることに気づかされるだろう。本講義では、まず、日本語のさまざまな文法形式と意味との相関関係を、事態を意味あるものとして理解する人間の事態把握の観点からダイナミックに捉え直す。次いで、物語文の中で、それらの形式が言語装置としていかに効果的にはたらいっているかを考察する。

## 【授業計画】

- 第1回 言葉と言語主体
- 第2回 心的領域
- 第3回 心的操作
- 第4回 メタファー①
- 第5回 メタファー②
- 第6回 メトニミー
- 第7回 主観性①
- 第8回 主観性②
- 第9回 パースペクティヴ
- 第10回 他動性①
- 第11回 他動性②
- 第12回 物語フレーム
- 第13回 パースペクティヴ操作①
- 第14回 パースペクティヴ操作②
- 第15回 まとめ

## 【評価方法】

レポート(2回)

## 【テキスト】

山梨正明『認知文法論』ひつじ書房

## 【参考文献・資料】

適宜授業の中で提示。

## 比較文学 a・b

工藤貴正

## 【授業の概要】

日本文学と海彼の文学との影響関係について、特に中国近代に範囲を絞り込み具体的な作家・作品に即して考察する。一方通行的な影響・摂取に留まらない、双方向性を有しつつ時代を越える情報互恵的なありようを学ぶ。

## 【授業の目標】

日本近代文学が描く中国像について、同時期の中国知識人の作品を視野に入れることにより、比較文学の視点からの分析手法を身につける。今年度は、国際都市・上海について書いた或は描いた作品を中心に採り挙げ、伝統と「近代」というキーワードを軸に、中国の「近代」と日本の近代の共通性と相違性を考察する。そのことにより、日本知識人が描く中国像を客観的に分析する。

## 【授業計画】

授業では、3回に1回を中国近代文学の概説と中国映画の鑑賞にあて、中国の近代に対する理解を知識と感覚の両面で深め、考察する力を養成していく。

日本近代文学の作家としては、芥川龍之介、村松梢風、井東憲、横光利一の作品を中心に採り挙げる。また、井上紅梅、金子光晴、吉行エイスケ、榊山潤、草野心平、阿部知二、武田泰淳、堀田善衛などの上海観、中国観と、厨川白村、本間久雄の文学理論も参考にして考察を行う。

中国近代文学の作家としては、魯迅、周作人、郁達夫、施蛰存、穆時英、劉呐鷗、張愛玲、徐訏などの作品を比較研究の対象として採り挙げる。

## 【評価方法】

授業への参加状況、担当レジュメの内容、レポートにより総合的に評価する。

## 【テキスト】

プリントを使用するが、必要場合は授業で指示する。

## 【参考文献・資料】

松村定孝・紅野敏郎・吉田熙生編『近代日本文学における中国像』有斐閣選書、1975.10

和田博文他著『言語都市・上海——1840-1945』藤原書店、1999.9

丸山昇著『上海物語——国際都市上海と日中文化人』講談社学術文庫、2004.7



## 書誌学 a・b

藤井奈都子

## 【授業の概要】

「物」としての本（図書）について、その生成発展の経緯、名義、体裁、分類、製本技術、材料、伝来、流通など様々な性格・要素について広範な知識を得るとともに、主に日本文学の写本・版本を中心に、それを鑑定する基本的な力を実践的に身につける。

## 【授業の目標】

書籍についての基本的な知識、特に日本古典の古写本・版本については、その取り扱い、初歩的な鑑定に関しての実践的な力を身に付ける。

## 【授業計画】

第1回「書籍の範囲」から始め、テキストに添って、以下のように進めていく。

- 「日本における書誌学的作業と研究の歴史」
- 「書籍の起源と材料の変遷」
- 「紙の種類－原料別、加工法別」
- 「種々の装訂」
- 「書籍の大きさとその呼称」
- 「書籍の部分名称」
- 「書籍の内容に関する種類と用語」
- 「写本の内容に関する種類と用語」
- 「刊本の種類と名称－印刷方法別、版刻の前後、印刷の前後、版の異同、色刷と筆彩、再製本、出版社出版別」
- 「刊本の歴史」

## 【評価方法】

期末テストの評点に平常点を加味する。

## 【テキスト】

日本古典書誌学総説（藤井隆著 和泉書院）

## 【参考文献・資料】

必要に応じて提示する。

## 出版文化史 a・b

塩村 耕

## 【授業の概要】

図書出版の歴史と文化的意義について一般的な知識を得る。その上で、特に日本の近世以降における大量印刷・大量販売・大量消費を支えた本屋の推移と文学創作との関わり、さらに政治体制との軋轢の問題等について学ぶ。

## 【授業の目標】

江戸時代の出版文化は、それ自体多彩で面白いが、日本の近代化の基礎を成したという意味で、文化史的に見て重要である。ところが、その実態についてはよくわかっていない。それは、さしも隆盛を誇った江戸時代以来の本屋が、明治の中ごろにほとんど閉店してしまい、店に伝わる帳面や文書など、直接的な資料の多くが運滅してしまったからだ。そのような困難な状況の中で、どのようにして研究を進めることが可能なのか、実際の古典籍や古文書など、モノに即して考えたい。

具体的には、①書物の見方や取り扱い方など版本書誌学の基礎、②出版史に関連する古文書の講読、③読書史に関連する古文書の講読、④古典籍書誌記述の方法論。

※基本的に原本資料に基づいて講義を行うので、くずし字読解に対する意欲を要する。

## 【授業計画】

- 第1～4回：版本書誌学の基礎
- 第5～8回：京都書林仲間関係古文書の講読
- 第9～12回：読書史関係古文書（高遠藩士および秩父の医者による書物購入資料）の講読
- 第13～15回：古典籍書誌記述の講義と実践

## 【評価方法】

- ・出席率と講義時の熱意：5割
- ・レポート：5割

## 【テキスト】

プリントを配布する。

## 【参考文献・資料】

- ・塩村耕著『こんな本があった！江戸珍奇本の世界』（家の光協会）
- ・遠藤謙之輔著『古文書修補六十年一和装本の修補と造本』（汲古書院）

## 文献学 a・b

日比野浩信

## 【授業の概要】

作品の成立事情、伝来の過程における事故、そして誤写・改変等により、様々な異文を抱えて流布・伝播する各種写本・版本をもとに、古典文学の原作復元作業はいかにして可能となるのか。その具体的な方法と、限界及び可能性について学ぶ。

## 【授業の目標】

国文学作品について、資料の収集、校合、校本作成、校訂を主として、文献学的研究の一端を実践的に体験し、自らの選択した作品研究への応用を目的とする。

## 【授業計画】

- 文献学と文芸学（文献学とは）
- 書誌学（補助学として）
- 伝本と本文（伝本の収集と整理）
- 写本の読解
- 書写の実態
- 本文の異同（異文発生メカニズム）
- 校本の作成
- 諸本分類と伝本系統
- 古筆断簡（価値と位置付け）
- 文献学的解釈（用例から）
- 文献学的解釈（古注釈から）
- 典拠と引用（他文献に引用される本文）
- 共時的本文と通時的本文（享受本文と原形）
- 本文校訂（テキスト・クリティーク）
- 校訂本文と翻刻
- 解釈本文
- 諸本論・伝本論・本文論
- 解釈から校訂へ
- 校訂本文から本文解釈へ

## 【評価方法】

レポートによって評価する予定。

## 【テキスト】

受講員数などによって決定し、追って指示する。

## 【参考文献・資料】

必要に応じて指示する。

## 翻訳論（英語論文作法） a・b

EASLEY, Keith

## 【Course description】

The course should further develop the ability to write academic papers through critical engagement with individually chosen materials.

Work includes note-taking, the use of sources, understanding and use of academic conventions and language, and the development and presentation of argument. Along with individual tuition there will be class and pair discussion of work in progress and the elements of academic writing.

## 【Course objectives】

To improve the students' writing of academic papers.

## 【Course schedule】

The Schedule will be decided according to students' needs.

## 【Assessment】

A written paper of an agreed length is to be submitted. Evaluation will be based on this.

## 【Textbooks】

None



## 国文学特殊研究 I (古代)

久保朝孝

## 【授業の概要】

研究発表とその批判を中心にしつつ、博士論文の作成を指導する。

## 【授業の目標】

博士の学位取得を可能にする独創的研究能力を養成する。

## 【授業計画】

各自の専攻テーマに関する研究発表とその相互批判及び助言を毎回行う。

## 【評価方法】

論文の活字化もしくは学会等における口頭発表の有無とその内容。

## 【テキスト】

なし。

## 国文学特殊研究 II (中世)

岩下紀之

## 【授業の概要】

受講者の希望する作品を題材とする。

## 【授業の目標】

研究者としての研究を補助すること。

## 【授業計画】

上記による。

## 【評価方法】

レポートによる。

## 国文学特殊研究 III (近世)

阿部一彦

## 【授業の概要】

近世文学全般にわたり、受講者の専攻との関連で内容を決める。

## 【授業の目標】

近世文学の研究能力を高める。

## 【授業計画】

上記による。

## 【評価方法】

レポートによる。

## 【テキスト】

未定。

## 国文学特殊研究 IV (近代)

小倉 音

## 【授業の概要】

<文学研究と批評の方法をめぐって>

戦後の近代文学研究・文学批評の流れを視野に入れつつ、現代における文学研究の方法と課題について考える。雑誌『近代文学』に集まった人々によって本格化し、中村光夫『風俗小説論』平野謙『芸術と実生活』伊藤整『小説の方法』『小説の認識』などをベースに展開された戦後の批評家たちの成果は吉本隆明『言語にとって美とはなにか』や江藤淳『作家は行動する』によって相対化される。研究者の側からは長谷川泉『近代名作鑑賞』や三好行雄『作品論の試み』によって作品論の時代の幕が開かれるが、やがて『思想としての東京』の磯田光一や『日本近代文学の起源』の柄谷行人等の批評家と『都市空間のなかの文学』の前田愛や『構造としての語り』の小森陽一等の研究者とがクロスする形で新しい研究の時代が訪れる。こうした成果の積み重ねに目配りしつつ、各自の研究テーマ・課題に相応しい方法の確立を目指したい。

## 【授業の目標】

受講生個々の課題に即しつつ、レポート・質疑応答を重ね、各自のテーマに相応しい方法の確立と実践を目標とする。

## 【授業計画】

- (前期) : 各自の修士論文、最近の発表論文の概要について報告させ、自分が研究対象とした作家・作品の研究状況と研究史における修士論文等の位置・意味について解説させる。次いで、戦後から現代に至る研究成果の中から取り上げたい文献を選択し、輪読しつつ、その方法への理解を深める。
- (後期) : 各自参考にするべき論文を複数選択し、輪読しつつ、批評を重ねる。時に、平行して具体的に作品を取り上げ、その分析・解説をおこなう。

## 【評価方法】

授業への参加状況、発表・レポートの内容によって総合的に評価する。

## 【テキスト】

文学とは何か (T・イーグルトン 岩波書店) 小説の技法 (レオン・サーメリオン 旺史社) 新文学入門 (大橋洋一 岩波書店) 文学テキスト入門 (前田愛 筑摩書房) 思想としての東京 (磯田光一 講談社文芸文庫) 日本近代文学の起源 (柄谷行人 講談社文芸文庫) 構造としての語り (小森陽一 新曜社) 物語のナラトロジー (前田彰一 彩流社)

## 【参考文献・資料】

物語のディスコース (G・ジュネット 水声社)  
物語の構造 (F・シュタンツェル 岩波書店)  
小説の方法 (大江健三郎 岩波書店)

## 国文学特殊研究 V (現代)

都築久義

## 【授業の概要】

学生の論文テーマに応じて指導する。

## 【授業の目標】

博士論文が執筆できるように指導する。

## 【授業計画】

随時、必要に応じて指導する。

## 【評価方法】

平素の学習態度および出席状況。

## 【テキスト】

なし。

## 国文学特殊研究 VI (日中比較)

寺尾剛

## 【授業の概要】

後期の院生の高度な漢文読解力の向上を目指す。

## 【授業の目標】

論文作成に直結する実践的な研究法や資料調査能力の育成。

## 【授業計画】

受講生の需要に合わせて決定する。

## 【評価方法】

平常点 (60%) 及びレポート (40%)

## 【テキスト】

未定。

## 【参考文献・資料】

授業中に指示する。

## 国語学特殊研究

増井典夫

## 【授業の概要】

受講者の論文テーマ、あるいは希望する作品に応じて、国語学・日本語学の観点から指導する。

## 【授業の目標】

国語学・日本語学の学会の水準を知り、それに耐えうる研究を目指す。

## 【授業計画】

随時、必要に応じて指導する。

## 【評価方法】

平素の学習態度。

## 【テキスト】

授業時に指示する。

## 【参考文献・資料】

授業時に指示。

## 英文学特殊研究 I

山田幹郎

## 【授業の概要】

英国ルネサンス演劇研究（シェイクスピア）。  
受講者の博士論文作成を指導する。

## 【授業の目標】

受講者が年度ごとに研究成果の一部を公表し、博士論文作成に結実させること。

## 【授業計画】

各自の専攻テーマについて研究発表とその批評を旨として進める。

## 【評価方法】

研究発表と論文による。

## 【テキスト】

未定。

## 【参考文献・資料】

随時指示する。

## 英文学特殊研究 IV

平林美都子

## 【授業の概要】

文学や映画作品からジェンダー批評とセクシュアリティを学ぶ。

## 【授業の目標】

ジェンダー、クィア理論を理解する。

## 【授業計画】

前期はジェンダー批評理論を精読する。  
後期はクィア理論を学び、具体的な作品を分析する。

## 【評価方法】

授業の参加態度（発表やディスカッション）および、レポートで総合的に評価する。

## 【テキスト】

（前期）：*Genders* (David Glover and Cora Kaplan, Routledge,2000)

（後期）：*Queer Theories* (Donald E.Hall, Palgrave,2003)

## 【参考文献・資料】

授業内に随時指示する。

## 米文学特殊研究 II

横田和憲

## 【授業の概要】

旅—なぜか心をわくわくさせる言葉だ。それは、旅が私たちの日常生活、つまり束縛された現実からの脱出の夢をかなえてくれるからなのかもしれない。旅にも色々あるが、詰まるどころ、その本質的な意義は「自己に内在する価値を引き出すための探求」ということになる。文明は定住を要求する。限られた空間の中に定住し、規格化された生活を余儀なくする。社会が組織を強め、個人の自由と権利が圧迫され、人は日常を越えて旅への夢を育むことになる。

## 【授業の目標】

＜アメリカ文学における旅の系譜＞について考察する。

## 【授業計画】

＜William Austin＞を＜Nathaniel Hawthorne＞と比較しつつ、文学作品を通して、＜Peter Rugg tales＞を分析する。

1. William Austin, "Peter Rugg tale (s)" (1824～)

2. Nathaniel Hawthorne, "A Virtuoso's Collection" (1842)

通年の授業なので、さらに Nathaniel Hawthorne, "Earth's Holocaust" (1846)を加えて、各学期を15回に分けてしながら、授業を進める。なを詳細は授業の最初にて配布する。

## 【評価方法】

各学期の授業参加度30%ずつ、各学期末のレポート70%ずつ。

## 【テキスト】

適宜プリントを配付する。

## 【参考文献・資料】

授業の最初に詳述する。

## 英米文学特殊研究 I

COLEBORNE, Bryan E.

## 【授業の概要】

This course will introduce students to graduate study at the level of a doctoral degree. It will concentrate on the meaning and techniques of research, guiding students in their choice of research topic, primary and secondary reading, research tools and methods, and procedures for the presentation of scholarly work.

## 【授業の目標】

To assist students to consolidate their research in the humanities and to bring it to a significant conclusion.

## 【授業計画】

To be developed in the sequence of choice of research topic, primary and secondary reading, research tools and methods, and procedures for the presentation of scholarly work.

## 【評価方法】

Assessment will be continuous, with participation in class, minor research exercises, oral reports, presentations and the submission of completed work used to evaluate students' progress.

## 【テキスト】

To be decided.

## 【参考文献・資料】

To be decided.

## 英語学特殊研究V (統語論)

若山真幸

### 【授業の概要】

理論言語学の文献を取り上げ、人間の言語能力、普遍言語と言語の多様性に関する知識や分析方法を習得する。

### 【授業の目標】

研究分野の新しい研究成果に触れ、考察を深める。

### 【授業計画】

主に統語論や意味論の文献を使って講読・議論をする。

### 【評価方法】

研究レポート

### 【テキスト】

未定

### 【参考文献・資料】

未定

## 情報学特殊研究 I

林 博司

### 【授業の概要】

学位論文の作成  
 生命情報・遺伝情報の現状分析と可能性  
 組織器官の分化研究の現状と21世紀に於ける発展（国際的観点より）  
 生殖生物学の発展とそれが及ぼす社会的影響（国際的観点より）  
 遺伝情報の破壊と修復と変化の予測  
 文献検索、調査  
 統計処理  
 予測の設定と確実性  
 論文の形式  
 文章の設定  
 図書館情報学に於いて占める位置

### 【授業の目標】

学位論文を完成させるために有効な方法論の獲得。

### 【授業計画】

多くの関係教官と連絡を保ちながら、自分のペースで進める。必要な場合には他大学で研究する。常時、論文の内容、進行状況について発表を行う。

### 【評価方法】

論文評価と学術論文出版による。

### 【テキスト】

特に定めない。

### 【参考文献・資料】

学術雑誌を常に参考とする

## 情報学特殊研究 II

岡澤和世

### 【授業の概要】

情報システムは人の役に立つためにある。設計されたシステムは人が組み立てたものであり、人が利用するためにある。人々の現実の情報要求をうまく満たすことができればできるほどそのシステムは成功したといえる。その意味で、人間の要求を満たすことができないシステム設計はナンセンスである。本講義ではこのような人間の情報行動と情報システムの関係に注目する。人はなぜ情報を必要とするのか？人は情報システムから何を得られると期待しているのか？情報システム設計者はこれらの情報行動にどうやって対処するのか？

### 【授業の目標】

情報社会における社会の要求に応えるための教育と実践

### 【授業計画】

1. ヒューマン・オーガニゼーション (Human organization)
2. 人間中心の情報システム
3. システムの評価：単純さ/感性/キャシュ・フロー分析/利用度/評価法
4. 管理とコントロール
5. 人的要因 (Human factors)
6. 人間・機械の相互作用 (HCI) の問題：概説/HCIの特性/HCIとシステム設計の関係/要約
7. 利用者の参画：利用者とは何か/従来の情報システム/なぜ利用者を中心に据えるべきか/コミュニケーションの難しさ/利用者参画型アプローチ
8. 実行：プランニング/利用者参画と訓練/マニュアル作成/システム・テスト手順の変更/実行後評価/メンテナンス

### 【評価方法】

レポート

### 【テキスト】

*Theories of Information Behavior* (Fisher, K. E et al. (ed) ASIST. 2005.)

## 情報学特殊研究 III

山崎茂明

### 【授業の概要】

科学コミュニケーションの世界を対象に、研究情報とメディアに着目して考察する。海外の研究論文や文献レビューなどから、近年の研究動向や課題を整理していく。特に、科学政策、研究動向、業績評価などのための分析能力の開発を目標に、調査データの収集と考察を試みる。また、AuthorshipやResearch Integrityをめぐる研究倫理について展開をはかる。

アメリカ、イギリス、ヨーロッパ、日本における主要な科学研究・政策についての主要な調査を分析し、日本の科学研究や科学コミュニケーションの課題や問題を検討する。発表をめぐる出版倫理については、デジタル情報資源も活用し、最近の動向を整理していく。参加者の興味ある視点から発展させてもらいたい。

### 【授業の目標】

科学研究活動を示す主要な統計資料をもとに、現状を分析し、問題の所在を明らかにできる能力を育成する。

### 【授業計画】

最初の1-2回は概要を説明した後、参加者による発表形式で行う。発表者はA4版レポート用紙で4枚程度のレジュメを提出すること。また、文献レビュー紹介や調査発表を行う上でどのように関連文献を検索したかについても述べる。講義に関係する資料は随時配付する。

### 【評価方法】

発表レポート

### 【テキスト】

Science and Engineering Indicators (NSF)、他

## 情報学特殊研究 IV

西荒井学

### 【授業の概要】

情報技術の発展と共に、数多くのソフトウェアが開発され、社会において流通している。特に、システム開発ツールに焦点を絞り、これらの技術的基盤ならびに応用技術について考察していく。

### 【授業の目標】

既存のソフトウェアが持つ特徴や課題を明らかにしていくことにより、ソフトウェア開発の評価基準を探る。

### 【授業計画】

受講者各自が特定のシステム開発ツールを選択し、その技術的基盤ならびに応用技術についての報告と討論を行なう。なお受講者は、ある程度のコンピュータ利用経験、特にプログラミング経験を持つことを希望する。

### 【評価方法】

報告内容、討論への参加度、ならびに最終レポートによって評価する。

### 【テキスト】

特になし

### 【参考文献・資料】

必要に応じて、指示する。



## 情報学特殊研究 V

野添篤毅

### 【授業の概要】

自然科学分野における研究・開発過程での種々の知的情報処理について考察する。

### 【授業の目標】

既存の学術研究から、自己の研究への適用を考えていく。

### 【授業計画】

知的情報処理分野の最新の学術文献（雑誌論文、モノグラフ）を受講者が選択し、それについて発表と討論を行う。

### 【評価方法】

研究発表と討論への参加度

### 【テキスト】

その都度、指示する。

## 情報学特殊研究 VI

太田 裕

### 【授業の概要】

受講予定者は既に修士論文を終え、博士論文作成に挑戦中の諸君であることに鑑み、情報処理工学の観点から多様かつ異質な資料から所与の情報を抽出する（＝研究支援技法）の習得と実際活用能力の涵養に努めることとする。

したがって、授業形態は必然セミナー形式となるが、博士論文の枠組み・内容に関わって受講者毎に個別のカリキュラムを組むこととなる。

### 【授業の目標】

1. 資料処理基礎力の補強
2. 資料処理技法活用による課題解決・実践力の向上

### 【授業計画】

前期

1. 基礎知見学習
2. 受講者別カリキュラムの組立
3. 関連演習課題の実施

後期

1. 課題解決のための個別プログラムの作成
2. 関連実資料の解析支援
3. 課題適合高度解析法の探索

### 【評価方法】

レポートにより評価する。

### 【テキスト】

特になし。随時、読解すべき論文・専門書を指示する。

### 【参考文献・資料】

同上。

## 言語文化基礎

中野弘三 松本青也 山田幹郎 平林美都子

### 【授業の概要】

言語をさまざまな角度から概観することによって、言語そのものについての基礎的事項を学ぶ。また、人や組織、文化間のコミュニケーションの仕組みについての基礎的知識を身に付ける。

(中野弘三) コミュニケーションの手段としての言語の仕組みや働きを考察すると共に、言語とその背景をなす社会や文化との関わりを探る。(松本青也) 言語学とその関連領域の研究成果を具体的な問題解決に応用する応用言語学の視点から、様々な課題を概観する。(山田幹郎) 言語文化コミュニケーションの技術としてのレトリックに関する基礎的な知識を習得し、その知識を文学(特に英文学)の解釈に応用する力を身に付ける。(平林美都子) 表象としての言語の役割を探り、人間の思考や感情を支配する言語がいかに政治的なものなのかを学ぶ。

### 【授業の目標】

グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科での学習に必要な基本的な言語文化に関する素養や姿勢を修得すること。特に英語学・英語教育・英文学の面から英語をとらえ、言語としての英語の仕組みやコミュニケーションの手段としての英語や英語の表現技法について修得することを目標とする。

### 【授業計画】

- |              |                       |
|--------------|-----------------------|
| 第1講 (中野弘三)   | 言語の仕組み—言語の構造          |
| 第2講 (中野弘三)   | 言語の働き—言語の伝達機能         |
| 第3講 (中野弘三)   | 言語の背景—社会や文化との関わり      |
| 第4講 (松本青也)   | 多言語・多文化共生社会と外国語教育政策   |
| 第5講 (松本青也)   | 日英対照言語学と英語教育          |
| 第6講 (松本青也)   | ICTを活用する英語教育の可能性      |
| 第7講 (山田幹郎)   | レトリックの基礎 (1)          |
| 第8講 (山田幹郎)   | レトリックの基礎 (2)          |
| 第9講 (山田幹郎)   | レトリックの応用: 文学解釈法としての実践 |
| 第10講 (平林美都子) | 表象文化—文化の政治性           |
| 第11講 (平林美都子) | 移民文化における言語の問題         |
| 第12講 (平林美都子) | 翻訳に潜む政治性              |

### 【評価方法】

出席点および各教員の講義ごとにレポートを課し、総合的に評価する。

### 【テキスト】

授業中に適宜、プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

081269001\_0030 掲載順 : 0030

MASTER ★

## コミュニケーション特講 1

MOLDEN, Danny T.

### 【Course description】

スピーチ、新聞、雑誌、書籍、音楽、テレビ番組、映画などを題材に、コミュニケーションの手段としてのレトリックとディベートについて基礎的な知識を身に付ける。

### 【Course objectives】

1. To introduce students to the ideas of rhetoric in communication.
2. To improve the students' use of English.
3. To help the students understand the variety of ways people can communicate.

### 【Course schedule】

Class meetings will consist of lecturers and discussion about rhetoric and communication studies.

Topics covered will include:

1. Classical rhetoric (1)
2. Classical rhetoric (2)
3. Classical rhetoric (3)
4. Contemporary rhetoric (1)
5. Contemporary rhetoric (2)
6. Contemporary rhetoric (3)
7. Studies of persuasion (1)
8. Studies of persuasion (2)
9. Studies of persuasion (3)
10. Contemporary communication studies (1)
11. Contemporary communication studies (2)
12. Contemporary communication studies (3)

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance, quizzes, written papers, and oral presentations.

### 【Textbooks】

There is no assigned textbook for this course although readings may be provided

### 【Reference】

授業時に指示する。

## 国際交流基礎

皆川修吾 榎田勝利 ブイチトルン 若松孝司

### 【授業の概要】

国際交流や異文化理解に関する基礎的な知識を身に付け、国と国の文化交流がもたらしてきた地域的秩序と市民社会の変容プロセスを学ぶ。

(皆川修吾) 地球存続に必要なグローバル共生文化の涵養プロセスと共生文化の理念を軸とした異文化理解や現状認識の術を学ぶ。(榎田勝利) 現代社会が直面しているグローバル市民社会の現状を検証し、将来にわたる国際交流のグランドデザインを探る。(ブイチトルン) 国際交流・協力活動に必要な知見と行動力を醸成するためグローバル化時代における多元的日本人社会の変容と創造について学ぶ。(若松孝司) 国際交流はトランスナショナルな活動であるが、国際社会の主たるアクターは依然として主権国家である。そこで、活動の前提としての主権国家間の関係を確認する。

### 【授業の目標】

グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科での学習に必要な基本的な国際交流に関する素養や姿勢を修得すること。さらには、国際交流や異文化理解においてグローバルな視点で英語を使う基本的姿勢を学ぶこと。

### 【授業計画】

- |              |                               |
|--------------|-------------------------------|
| 第1回 (皆川修吾)   | 文化の必要性和文化変容条件                 |
| 第2回 (皆川修吾)   | 文化相対主義の有効性と限界                 |
| 第3回 (皆川修吾)   | グローバル・ガヴァナンス—相互依存の管理体制—       |
| 第4回 (榎田勝利)   | 国際関係を動かす民間国際交流                |
| 第5回 (榎田勝利)   | 国際交流のグランドデザイン (1)             |
| 第6回 (榎田勝利)   | 国際交流のグランドデザイン (2)             |
| 第7回 (ブイチトルン) | 世界の多元文化主義の変容と異文化交流の必要性        |
| 第8回 (ブイチトルン) | トランスナショナル時代における国内の外国人住民の現状と課題 |
| 第9回 (ブイチトルン) | 国際交流・協力活動組織の成立と役割             |
| 第10回 (若松孝司)  | 国際関係を見る視点—パワーと構造—             |
| 第11回 (若松孝司)  | 連帯としての国家関係—地域統合の動き—           |
| 第12回 (若松孝司)  | 地球的課題と国際関係—地球環境問題への対応         |

### 【評価方法】

出席点および各教員の講義ごとにレポートを課し、総合的に評価する。

### 【テキスト】

授業中に適宜、プリントを配布する

### 【参考文献・資料】

講義ごとに授業中に指示する。

081269001\_0040 掲載順 : 0040

MASTER ★

## コミュニケーション特講 2

McDANIEL, Edwin R.

### 【Course description】

文化、民族、国の間に観察される価値観、考え方やコミュニケーションの相違について考察する。

### 【Course objectives】

- ・ Developing and improving academic writing skills in English
- ・ Developing and improving academic research skills in English
- ・ Developing and improving critical thinking skills in English

### 【Course schedule】

Topics examined may include, but are not limited to, the following:

1. Determining an essay topic of interest. (1)
2. Determining an essay topic of interest. (2)
3. Determining an essay topic of interest. (3)
4. Identifying and using research source material. (1)
5. Identifying and using research source material. (2)
6. Identifying and using research source material. (3)
7. Reviewing the literature (1)
8. Reviewing the literature (2)
9. Reviewing the literature (3)
10. Preparing an outline (1)
11. Preparing an outline (2)
12. Preparing an outline (3)
13. Constructing and writing the report.
14. Source citation requirements.
15. Proper source citation format.

### 【Assessment】

Course assessment will be through a series of writing exercises culminating in an academic research paper.

### 【Textbooks】

Course material will be drawn from academic journals and books.

### 【Reference】

授業時に指示する。

## コミュニケーション特講 3

McGEE, Jennifer J.

## 【Course description】

日常生活に対するメディアの効果、および、世界観に対するメディアの効果を検討する。

## 【Course objectives】

To learn specific theories of media and apply them to English and Japanese media in our daily lives.

## 【Course schedule】

We will look closely at various theories in turn, then analyze specific examples of how those theories explain life and the media. Exact theories and practices will vary depending on student interest and the world situation, but a typical class might include:

- Week 1 Wikipedia and consensus knowledge(1)
- Week 2 Wikipedia and consensus knowledge(2)
- Week 3 Wikipedia and consensus knowledge(3)
- Week 4 MySpace and community-building
- Week 5 Mixi and community-building
- Week 6 LiveJournal and community-building
- Week 7 Community-building(1)
- Week 8 Community-building(2)
- Week 9 Research and validity of sources online(1)
- Week 10 Research and validity of sources online(2)
- Week 11 Research and validity of sources online(3)
- Week 12 Conclusion

## 【Assessment】

Grades will be assigned based on attendance, participation, and reports.

## 【Textbooks】

There will be no set textbook, but there will be various readings in both Japanese and English.

## 【Reference】

授業時に指示する。

081269001\_0070 掲載順 : 0070

MASTER ★

## ランゲージスタディーズ特講 1

樗木勇作

## 【授業の概要】

英語統語論を中心とする基本文献を講読し、自然言語がいかに体系的で合理的かを考察する。

## 【授業の目標】

英語の言語現象に対して多角的な分析や考察ができるようになることを目標とする。

## 【授業計画】

- 第1講 英語統語論の基本事項 (1)
- 第2講 英語統語論の基本事項 (2)
- 第3講 英語統語論の基本事項 (3)
- 第4講 ミニマリストプログラムなど最近の枠組みについての紹介 (1)
- 第5講 ミニマリストプログラムなど最近の枠組みについての紹介 (2)
- 第6講 ミニマリストプログラムなど最近の枠組みについての紹介 (3)
- 第7講 コーパスを使用した言語研究の入門 (1)
- 第8講 コーパスを使用した言語研究の入門 (2)
- 第9講 コーパスを使用した言語研究の入門 (3)
- 第10講 CHILDESを使用した言語獲得研究の入門 (1)
- 第11講 CHILDESを使用した言語獲得研究の入門 (2)
- 第12講 映画やインターネットの英語の分析

## 【評価方法】

レポート+平均点 (出席・授業態度)

## 【テキスト】

未定

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

081269001\_0070 掲載順 : 0070

MASTER ★

## コミュニケーション特講 4

EASLEY, Keith

## 【Course description】

イギリス文化と日本文化の比較研究を行うことによって、異文化コミュニケーションに対する理解を深める。

This course is designed to deepen students' understanding of intercultural communication through comparative studies of British Culture and Japanese Culture.

## 【Course objectives】

The course objectives are to help students see language and culture through a comparative perspective, and thus to communicate more effectively in English.

## 【Course schedule】

- Week 1 : Introduction
- Week 2 : Regional Differences
- Week 3 : Similarities
- Week 4 : Japanese Culture (1)
- Week 5 : Japanese Culture (2)
- Week 6 : Japanese Culture (3)
- Week 7 : British Culture (1)
- Week 8 : British Culture (2)
- Week 9 : British Culture (3)
- Week 10 : Discussions and new developments (1)
- Week 11 : Discussions and new developments (2)
- Week 12 : Discussions and new developments (3)

## 【Assessment】

Evaluation will be made through oral presentations and written papers. Students will be given the opportunity to explore their own areas of interest.

## 【Textbooks】

No set textbook will be used in this course. Handouts and recorded material will be provided in each class.

## 【Reference】

In order to improve their English comprehension, students should try to read English material regularly. Daily listening to news or current affairs is also highly recommended.

081269001\_0080 掲載順 : 0080

MASTER ★

## ランゲージスタディーズ特講 2

若山真幸

## 【授業の概要】

英語意味論の基本文献を講読し、言語の意味構造の仕組みを考察する。

## 【授業の目標】

理論言語学の基本や言葉の意味や情報構造の概略を学び、英語及び言語コミュニケーションの一層の理解を深める。さらに、日常的な英語学習・英語教育にどう活かせるかを身に付ける。

## 【授業計画】

- 第1講 言語の句構造 (1)
- 第2講 言語の句構造 (2)
- 第3講 言語の句構造 (3)
- 第4講 英語の項構造 (1)
- 第5講 英語の項構造 (2)
- 第6講 英語の項構造 (3)
- 第7講 主題役割 (1)
- 第8講 主題役割 (2)
- 第9講 主題役割 (3)
- 第10講 Linkingとは? (1)
- 第11講 Linkingとは? (2)
- 第12講 Linkingとは? (3)

## 【評価方法】

出席状況、課題レポート、学期末試験

## 【テキスト】

未定

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## ランゲージスタディーズ特講3

中郷 慶

## 【授業の概要】

英語音声学の基本文献を講読し、英語音声の特徴を考察する。

## 【授業の目標】

英語の音声・音韻体系を理解するとともに、英語の音声・強勢・イントネーションなどを音声記号で正しく書き表せるようになることを目標とする。

## 【授業計画】

- Week1 母音と子音 (1)
- Week2 母音と子音 (2)
- Week3 音素 (1)
- Week4 音素 (2)
- Week5 語強勢 (1)
- Week6 語強勢 (2)
- Week7 弱形 (1)
- Week8 弱形 (2)
- Week9 リズム (1)
- Week10 リズム (2)
- Week11 ストレスシフト (1)
- Week12 ストレスシフト (2)
- Week13 同化・脱落・連結 (1)
- Week14 同化・脱落・連結 (2)
- Week15 イントネーションと音調群

## 【評価方法】

出席と課題レポートによる。

## 【テキスト】

English Phonetics and Phonology: a practical course (3rd edition 2000  
Roach, Peter / Cambridge University Press)

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 英語教育特講2

大野清幸

## 【授業の概要】

語法研究、言語獲得研究、学校英文法などに応用可能な言語理論の知見を学ぶ。

## 【授業の目標】

英語学研究者は、「動的文法理論」などの枠組みを利用して、言語の本質的な部分について考察する。第一言語獲得研究者は、「動的文法理論」などの生成文法理論および発達心理学関連分野を視野に入れつつ、第一言語獲得に関する、狭く限定した研究主題のいくつかを考察する。

## 【授業計画】

- 第1講 授業計画指示など。
- 第2講 PC実践教室などにおいて、関連情報を検索・探索する。
- 第3講 学術論文などを利用して、演習を行う。(1)
- 第4講 学術論文などを利用して、演習を行う。(2)
- 第5講 学術論文などを利用して、演習を行う。(3)
- 第6講 学術論文などを利用して、演習を行う。(4)
- 第7講 学術論文などを利用して、演習を行う。(5)
- 第8講 学術論文などを利用して、演習を行う。(6)
- 第9講 学術論文などを利用して、演習を行う。(7)
- 第10講 学術論文などを利用して、演習を行う。(8)
- 第11講 学術論文などを利用して、演習を行う。(9)
- 第12講 学術論文などを利用して、演習を行う。(10)

## 【評価方法】

出席状況、平常点、課題などによる。

基本的には、学術論文を精読し、議論する。

学期末レポート：現代英語に関する研究題材を選び、

- (1) 先行研究を調査し、(2) 仮説をたて、(3) データを採集・整理し、
- (4) 理論の枠組みで分析し、(5) 論文としてまとめ、提出する。

## 【テキスト】

学術論文

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 英語教育特講1

松本青也

## 【授業の概要】

言語教育の一環としての外国語教育という視点から、日本における英語教育を経済的、文化的、政治的な状況の中で捉え、そのさまざまな課題を検討するとともに、外国語運用の技能を検証することで、コミュニケーション能力養成に向けての英語教育をどのように位置づけるべきかを考察する。

## 【授業の目標】

日本の英語教育を中心に、外国語教育の諸問題について、主に理論的な側面から考察する。

## 【授業計画】

以下の点について考察する。

- 第1講 外国語教育の歴史 (1)
- 第2講 外国語教育の歴史 (2)
- 第3講 諸外国の外国語教育政策 (1)
- 第4講 諸外国の外国語教育政策 (2)
- 第5講 日本における外国語教育政策の変遷 (1)
- 第6講 日本における外国語教育政策の変遷 (2)
- 第7講 言語教育の一環としての外国語教育 (1)
- 第8講 言語教育の一環としての外国語教育 (2)
- 第9講 外国語運用の技能 (1)
  - ・ Listening ・ Speaking ・ Reading ・ Writing
- 第10講 外国語運用の技能 (2)
  - ・ Listening ・ Speaking ・ Reading ・ Writing
- 第11講 異文化コミュニケーション能力 (1)
- 第12講 異文化コミュニケーション能力 (2)

## 【評価方法】

研究発表及び論文。

## 【テキスト】

Brown, D.(2000). Principles of Language Learning and Teaching. Prentice Hall Regents.

Brown, D.(2001). Teaching by Principles. Prentice Hall Regents.

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 中国語・中国語教育特講1

馮 富榮

## 【授業の概要】

日本における中国語教育の現状や課題を、教材やカリキュラムの点から考察する。

## 【授業の目標】

この講義を受講することによって、学生の問題意識を養成し、問題解決へと導くアプローチの仕方を身に付けてもらうことが目標である。

## 【授業計画】

本講義は、主として以下のステップを踏んで展開していく予定である。

1. 日・中両言語に関する比較研究を幅広く読んで、ディスカッションを行う。
2. 日・中両言語の共通点と相違点を検討する。文法などという言語学的な側面だけでなく、文化や思考様式などという語用論的な側面からも捉える。
3. 上記した日・中両言語の相違点は、中国人の日本語学習の問題点となるか否か、または日本人の中国語学習の問題点となるか否かを検討する。
4. 中国語を学習する際、日本人の抱えている問題点(母語による影響)を解決するための工夫(教材と教授法の両側面から)をディスカッションしながら検討する。

講義は、輪読という形で展開される予定である。もちろん、講読の材料となる研究論文についても議論をする。よって、論文によって解明された問題を確認すると共に、まだ残っている研究課題を絞りだす。

## 【評価方法】

受講態度やレポートなどで、総合的に評価する。

## 【テキスト】

論文のコピーや新聞などを使う。

## 【参考文献・資料】

中国語学 日本中国語学会

## 中国語・中国語教育特講 2

杜 英起

## 【授業の概要】

日本語と中国語の間の翻訳を通して、日本語と中国語の発想方法の違いについて学ぶ。

## 【授業の目標】

日本語から中国語へ、また中国語から日本語への翻訳練習を通じて、翻訳の技能を磨き、日中翻訳の専門知識を身につけることができる。

## 【授業計画】

日中翻訳基礎  
日中文法翻訳（初等）  
ビジネス関係文章の翻訳（一）  
即席通訳基礎

## 【評価方法】

平常点及び及びレポートにて評価する。

## 【テキスト】

プリント配布

## 【参考文献・資料】

日中翻訳教程－基礎編（北京語言文化大学）  
即席通訳（大連理工大学）

## 日本語・日本語教育特講 1

山内啓介

## 【授業の概要】

日本語教育の現状や課題、今後の展望を考察する。

## 【授業の目標】

日本語教育の実際を知る。

## 【授業計画】

次についてテーマを定めて講義をおこなう。  
日本語と文化の問題  
日本語教育文法理論  
日本語とコミュニケーション  
日本語と地域  
コンピュータ利用の日本語教育

## 【評価方法】

出席、レポートによる。

## 【テキスト】

特に定めない。  
プリント資料を用いる。

## 【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

## 日本語・日本語教育特講 2

窪田守弘

## 【授業の概要】

特徴的な日本語表現の歴史的背景を考察する。

## 【授業の目標】

日本語学を応用言語学の分析を通して理解する。

## 【授業計画】

本年度は、日本語教育の文法論を概観し、日本文法の統語論へ進める。  
受講生との議論を通して日本語共時論の記述分析、日本語教育用文法を考える。

## 【評価方法】

出席、レポートによる。

## 【テキスト】

特に定めない。  
プリント配布。

## 【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

## 文化探求特講 1

久野幸子

## 【授業の概要】

イギリス16世紀以降のユートピア文学の歴史を理論的に考察する。

## 【授業の目標】

英語圏文化を探究するために、理想郷あるいどこにもないところを表す造語「ユートピア」をキーワードに、社会計画案、未来学、空想旅行、幻想、現実風刺などに変容しつつ存続する英語で書かれたユートピア文学の16世紀から20世紀までの歴史を展望し、それらへのさまざまな批評についての理論的考察を行なう。

## 【授業計画】

第1講：イントロダクション  
第2講：古代・中世のユートピア思想、ユートピア文学  
第3講：トマス・モアの『ユートピア』（1）  
第4講：トマス・モアの『ユートピア』（2）  
第5講：フランシス・ベーコンの『ニュー・アトランティス』  
第6講：ダニエル・デフォーの『ロビンソン・クルーソー』  
第7講：ジョナサン・スウィフトの『ガリヴァー旅行記』  
第8講：サミュエル・バトラーの『エレホン』  
第9講：ウイリアム・モリスの『ユートピアだより』  
第10講：オールダス・ハックスレーの『すばらしき新世界』  
第11講：G. H. ウェルズの『モダン・ユートピア』  
第12講：ジョージ・オーウェルの『1984年』  
第13講：まとめ

## 【評価方法】

平常点（出席、受講態度など）とレポートで総合的に評価する。

## 【テキスト】

John Carey, Faber Book of Utopias

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。



## 文化探求特講 2

大野光子

## 【授業の概要】

アイルランド文学の伝統に重点を置き、その独自性と普遍的魅力について考察する。

## 【授業の目標】

英語圏諸国の中でもアイルランドの文化・文学を、英国およびアメリカ合衆国との関連において考察する知識と批評的視点の獲得を目標とする。さらには、英語文献読解力、研究資料収集法、学問的基礎を習得する。

## 【授業計画】

- 第1講：イントロダクション
- 第2講：アイルランド史および近代史におけるカトリック
- 第3講：アングロ・アイリッシュ
- 第4講：アイルランド独立運動史(1)
- 第5講：アイルランド独立運動史(2)
- 第6講：イエイツ(1)
- 第7講：イエイツ(2)
- 第8講：グレゴリー夫人(1)
- 第9講：グレゴリー夫人(2)
- 第10講：シング(1)
- 第11講：シング(2)
- 第12講：当時の英国およびアメリカ社会との関係
- 第13講：まとめ

## 【評価方法】

出席と平常点およびレポートによる。

## 【テキスト】

教室にて指示する他、プリント使用。

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 文化探求特講 4

山田幹郎

## 【授業の概要】

イギリスルネッサンス期の文学作品の読解と分析批判を通して、その時代の文学と文化について考察する。

## 【授業の目標】

イギリスルネッサンス文芸批評のレトリカルな面が当時の言語文化の重要な特徴であることを認識し、それがどのように現代批評の底流になっているかを概観すること。  
19、20世紀作品の批評解釈に興味を持つ受講者とのディスカッションも行いたい。

## 【授業計画】

- 1 序：授業計画、受講者の成績評価及び書誌説明
- 2 ヨーロッパにおける文芸批評とレトリック (1)
- 3 ヨーロッパにおける文芸批評とレトリック (2)
- 4 イギリスにおける文芸批評とレトリック
- 5 シドニーの詩論 (1)
- 6 シドニーの詩論 (2)
- 7 シドニーの詩論 (3)
- 8 シドニーの詩論 (4)
- 9 シドニーの詩論 (5)
- 10 シドニーの後継者たち
- 11 シドニーと現代批評
- 12 結び

## 【評価方法】

平常点とレポートにより総合評価する。

## 【テキスト】

プリントによる。

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 文化探求特講 3

太田直子

## 【授業の概要】

アメリカの文学作品の読解と分析批判を通して、アメリカの文学と文化について考察する。

## 【授業の目標】

小説の分析、批評について学びながら、作品のより深い理解を目指す。作品からみる、アメリカ文学の全体像、または、アメリカという国についての考察を行う。20世紀アメリカ文学の深い理解を目標とする。

## 【授業計画】

- 第1講：Introduction
- 第2講：19世紀のアメリカ文学 H. Melville
- 第3講：19世紀のアメリカ文学 N. Hawthorne
- 第4講：20世紀アメリカ文学 Naturalism・Modernism(1)
- 第5講：20世紀アメリカ文学 Naturalism・Modernism(2)
- 第6講：20世紀アメリカ文学 Naturalism・Modernism(3)
- 第7講：1920年代；T. Dreiser ,An American Tragedy(1925)
- 第8講：1920年代；F. S. Fitzgerald, The Great Gatsby(1925)
- 第9講：1930年代；E. HemingwayとW. Faulkner(1)
- 第10講：1930年代；E. HemingwayとW. Faulkner(2)
- 第11講：1930年代；E. HemingwayとW. Faulkner(3)
- 第12講：まとめ

## 【評価方法】

学期末にレポートにより評価する。

## 【テキスト】

プリント

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 文化探求特講 5

COLEBORNE, Bryan E.

## 【Course description】

アイルランドの文学作品の読解と分析批判を通して、アイルランドの文学と文化について考察する。

## 【Course objectives】

This course will aim at increasing students' sensitivity to and knowledge of the literature and culture of Ireland, with special reference to its influence beyond its own geographical boundaries.

## 【Course schedule】

- 1 introduction, with special reference to topography
- 2 introduction, with special reference to landscape and identity
- 3 introduction to themes in Irish history, as elements of every meeting
- 4 the theme of landscape and literature; themes in Irish history(1)
- 5 the theme of landscape and literature; themes in Irish history(2)
- 6 the theme of landscape and literature; themes in Irish history(3)
- 7 the theme of music, with reference to place; themes in Irish history(1)
- 8 the theme of music, with reference to place; themes in Irish history(2)
- 9 the theme of music, with reference to place; themes in Irish history(3)
- 10 the theme of festivals and local culture; themes in Irish history(1)
- 11 the theme of festivals and local culture; themes in Irish history(2)
- 12 the theme of festivals and local culture; themes in Irish history(3)
- 13 conclusion, with review analysis of the themes in Irish history(1)
- 14 conclusion, with review analysis of the themes in Irish history(2)
- 15 conclusion, with review analysis of the themes in Irish history(3)

## 【Assessment】

Evaluation will be based on participation, presentations, class exercises and papers.

## 【Textbooks】

To be decided.

## 【Reference】

授業時に指示する。

## 文化探求特講 6

平林美都子

## 【授業の概要】

英語圏文学・映像表象を理解するために必要なジェンダー／セクシュアリティ理論、ポスト・コロニアリズム理論などの文化批評理論を学ぶ。

## 【授業の目標】

英語圏の短編小説の文学表現方法と、文学批評、文化理論を合わせて理解する。

## 【授業計画】

- Katharine Mansfield の短編小説と文学理論
- 1 イントロダクション
  - 2 "Bliss"(1)
  - 3 "Bliss"(2)
  - 4 "Miss Brill"(1)
  - 5 "Miss Brill"(2)
  - 6 "Her First Ball"(1)
  - 7 "Her First Ball"(2)
  - 8 "An Ideal Family"(1)
  - 9 "An Ideal Family"(2)
  - 10 "The Lady's Maid"(1)
  - 11 "The Lady's Maid"(2)
  - 12 まとめ

## 【評価方法】

出席とレポートによる。

## 【テキスト】

The Garden Party and Other Stories (Katharine Mansfield, Penguin Books)

批評関連のテキストは最初の授業で指示する。

## 【参考文献・資料】

適宜、授業中に指示する。

## 国際社会貢献特講 1

榎田勝利

## 【授業の概要】

グローバル化、地方分権化の進展が、政府、地方自治体の国際化施策にも多大な影響を与えていることを念頭に置き、政府、地方自治体の国際化政策に焦点を当て、戦後の国際化施策の変遷、現状および課題を検証する。

## 【授業の目標】

地方自治体の国際交流政策の現状と課題を明確に理解し、望ましい国際交流の在り方を理解できる。

## 【授業計画】

1. 戦後の地方自治体の国際交流活動の変遷
2. 地方自治体はなぜ国際交流を行うのか
3. 地方自治体の国際交流政策の現状
  - (1) 姉妹都市提携の推移と現状
  - (2) 地方自治体の国際交流政策の現状  
都道府県・政令指定都市・地方中核都市・市町村レベル
4. 自治体国際化協会
5. 自治体の国際貢献・国際協力
6. 多文化共生社会の形成
7. 国際交流事業の評価

## 【評価方法】

課題レポート、授業への貢献度、出席状況等で総合的に評価する。

## 文化探求特講 7

杉本一直

## 【授業の概要】

現代文化におけるポスト・モダニズム的傾向を理解するため、諸事象の理論的考察を行う。

## 【授業の目標】

今年度は亡命文学の作品研究を通してポストモダニズムの理解をめざす。

## 【授業計画】

原典講読を中心とし、あわせて文学研究の方法論を学ぶ。原典講読のテキストとして、Vladimir Nabokov の代表作『ロリータ』を使用する。また、サブテキストとして、Nabokovを含めた亡命作家たちの文学について論じた研究書などを使用する。

## 【評価方法】

出席およびレポートによる。

## 【テキスト】

*The Annotated Lolita* (Vladimir Nabokov Random House Inc)

## 【参考文献・資料】

徹夜の魂／亡命文学論（沼野充義著 作品社）ほか

## 国際社会貢献特講 2

パイ トルン

## 【授業の概要】

国際協力の新しいアプローチの理念、政策、実施体制を学ぶとともに、グローバル・イシューへの新しいアクターとして、非政府組織（NGO）や地方自治体の動きを発展的に検証する。

## 【授業の目標】

- \* 国際協力に関する日欧米の相違を理解すること
- \* 各セクターによる国際協力活動の現状と課題を理解すること
- \* 国際協力機関の組織運営を理解すること

## 【授業計画】

- A. 総論：
  1. 国際協力の潮流：欧米・日本
  2. New Approach：人間の安全保障と世界平和の構築
- B. 各論：
  1. 国際協力活動の現状：
    - \* 政府・中央省庁・外務省・JICA（ODA関係）
    - \* 地方自治体の国際協力、CLAIRとモデル事業
    - \* NGO：創設期＞成熟期＞発展期
  2. 組織運営論：
    - \* 個別活動：組織運営・会員獲得
    - ・ 活動基礎構築のために：内部要因としての理念・目標・運営形態
    - ・ 活動展開のために：環境整備
    - ・ 協力者・協力体制の構築
  - \* 協働活動：
    - ・ 地方自治体とNGO
    - ・ ジャパン・プラットフォーム等の事例検討
    - ・ 協働の可能性・現状と今後の課題

## 【評価方法】

授業への参加状況と期末レポート提出による。

## 【テキスト】

プリント配布及び授業時に指示する。

## 【参考文献・資料】

開講時に指示する。

## 地域文化交流特講 1

皆川修吾

## 【授業の概要】

「国際秩序の統治」とされているグローバル・ガバナンスの概念の国際関係における有効性と限界性について研究し、さらに地域文化交流がもたらしてきた地域的秩序について学ぶ。

## 【授業の目標】

国内・国際・グローバルな政治過程を歴史的に、そして体系的に理解し、複雑化する国際社会の諸情勢を的確に分析する術を学ぶ。

## 【授業計画】

1. 秩序と無秩序
2. 第1次世界大戦
3. 第2次世界大戦
4. 軍縮と安全保障
5. 国連の存在意義
6. 国際法
7. グローバリゼーションの光と陰
8. 相互依存の理論と現実
9. 経済のグローバル化
10. 国際協力
11. 人間の安全保障
12. 環境汚染
13. テロリズム
14. 情報革命と国際市民社会

## 【評価方法】

出席、分担部分の発表内容・討議内容 30%  
期末レポート70%

## 【テキスト】

国際紛争（ジョセフ・ナイ著 有斐閣）

## 【参考文献・資料】

国際政治とは何か（中西寛著 中公新書）  
グローバル・ガバナンス：政府無き秩序の模索（渡辺昭夫編著 東大出版）  
グローバル化とは何か（デヴィット・ヘルド編著 法律文化社）  
国際社会論（ヘドリー・ブル著 岩波書店）  
現代国際関係学（新藤栄一著 有斐閣）  
比較政治学（ジョヴァンニ・サルトーリ著 早稲田大学出版部）

## 地域文化交流特講 2

若松孝司

## 【授業の概要】

地域文化交流を意義あるものとするため、その対象の一つである発展途上国の実態を検証する。とくに、途上国の経済開発と政治的不安定要因について考察する。

## 【授業の目標】

世界システム論や従属論といった途上国の低開発状況を解明するさまざまな学説を理解し、それらをもとにして、低開発状況からの脱却という目標に対する受講生自身の見解を涵養することを目標とする。

## 【授業計画】

受講生との協議によって決定したテキストをもとに、ゼミ形式で報告と討論を行なう。

## 【評価方法】

授業に対する取り組みと、提出された課題によって決定する。

## 【テキスト】

別途指示する。

## 【参考文献・資料】

別途指示する。

## 文化翻訳特講 1

チョ スルソップ

## 【授業の概要】

異文化間の相互理解のため、言語・文化翻訳研究を行い、東アジア文化圏の言語・文化の共通性と異質性を理解し、言語・社会的役割・機能を体系的に学ぶ。

## 【授業の目標】

東アジア諸社会における文化諸相の理解を深め、東アジア諸国の相互理解および共生を可能にする翻訳法を模索していく。

## 【授業計画】

- 第1講 前言
- 第2講 「春香伝」の世界1
- 第3講 「春香伝」の世界2
- 第4講 「春香伝」の世界3
- 第5講 「春香伝」の世界4
- 第6講 「春香伝」映像化とその流布1
- 第7講 「春香伝」映像化とその流布2
- 第8講 「春香伝」の文化翻訳1
- 第9講 「春香伝」の文化翻訳2
- 第10講 「春香伝」の出版翻訳各種
- 第11講 「春香伝」の映像翻訳各種
- 第12講 「春香伝」日本語訳書籍とその世界1
- 第13講 「春香伝」日本語訳書籍とその世界2
- 第14講 「春香伝」日本語訳書籍とその世界3
- 第15講 総合

## 【評価方法】

出席、授業のための準備、翻訳の実践、レポートを総合して評価する。

## 【テキスト】

プリントなどを用いる。

## 【参考文献・資料】

校注春香伝（趙潤済 乙酉文化社）  
春香伝（張徳順 明文堂）  
春香伝（洪相圭訳 高麗書林）

## 文化翻訳特講 2

CURRAN, Beverley

## 【授業の概要】

異文化間の相互理解のため、言語・文化翻訳研究を行い、英米文化圏の言語・文化の共通性と異質性を理解し、言語・社会的役割・機能を体系的に学ぶ。

## 【授業の目標】

このコースの目標は、学生に色々な日英翻訳の例文を紹介する。実践的な学習を通して言語能力、また翻訳者の意識を高めることである。

## 【授業計画】

- 第1回 Introduction
- 第2回 マンガ（1）
- 第3回 マンガ（2）
- 第4回 児童文学（1）
- 第5回 児童文学（2）
- 第6回 文学（1）
- 第7回 文学（2）
- 第8回 映画（1）
- 第9回 映画（2）
- 第10回 歌
- 第11回 情報パンフレット
- 第12回 翻訳プロジェクト（1）
- 第13回 翻訳プロジェクト（2）
- 第14回 翻訳プロジェクト（3）
- 第15回 オーラル・プレゼンテーション

## 【評価方法】

参加における努力、プレゼンテーションのように評価することである。

## 【テキスト】

なし

## 【参考文献・資料】

受講生の興味関心によって決定する。

## コミュニケーション演習 1

MOLDEN, Danny T.

### [Course description]

レトリックとディベートについて、発展的な知識を身に付けるとともに、英語運用能力の向上を目指す。

### [Course objectives]

- ・ Developing and improving academic writing skills in English
- ・ Developing and improving academic research skills in English
- ・ Developing and improving critical thinking skills in English

### [Course schedule]

Topics examined may include the following:

1. Determining an essay/research topic of interest. (1)
2. Determining an essay/research topic of interest. (2)
3. Identifying and using research source material. (1)
4. Identifying and using research source material. (2)
5. Reviewing the literature (1)
6. Reviewing the literature (2)
7. Preparing an outline (1)
8. Preparing an outline (2)
9. Constructing and writing the report. (1)
10. Constructing and writing the report. (2)
11. Source citation requirements. (1)
12. Source citation requirements. (2)
13. Proper source citation format. (1)
14. Proper source citation format. (2)

### [Assessment]

Course assessment will be through a series of writing exercises culminating in an academic research paper.

### [Textbooks]

Course material will be drawn from academic journals and books.

### [Reference]

授業時に指示する。

## コミュニケーション演習 2

McDANIEL, Edwin R.

### [Course description]

コミュニケーションの行動様式と異文化理解を多角的に考察する。

### [Course objectives]

- ・ Developing and improving academic writing skills in English
- ・ Developing and improving academic research skills in English
- ・ Developing and improving critical thinking skills in English

### [Course schedule]

Topics examined may include the following:

1. Determining an essay/research topic of interest. (1)
2. Determining an essay/research topic of interest. (2)
3. Identifying and using research source material. (1)
4. Identifying and using research source material. (2)
5. Reviewing the literature (1)
6. Reviewing the literature (2)
7. Preparing an outline (1)
8. Preparing an outline (2)
9. Constructing and writing the report. (1)
10. Constructing and writing the report. (2)
11. Source citation requirements. (1)
12. Source citation requirements. (2)
13. Proper source citation format. (1)
14. Proper source citation format. (2)

### [Assessment]

Course assessment will be through a series of writing exercises culminating in an academic research paper.

### [Textbooks]

Course material will be drawn from academic journals and books.

### [Reference]

授業時に指示する。

## コミュニケーション演習 3

McGEE, Jennifer J.

### [Course description]

メディアを通して、変容する言語表現を考察する。

### [Course objectives]

To learn specific theories of media and apply them to English and Japanese media in our daily lives.

### [Course schedule]

We will look closely at various theories in turn, then analyze specific examples of how those theories explain life and the media. Exact theories and practices will vary depending on student interest and the world situation, but a typical class might include:

- Week 1: Youtube, Flickr, and shared media: effects and repercussions (1)
- Week 2: Youtube, Flickr, and shared media: effects and repercussions (2)
- Week 3: Youtube, Flickr, and shared media: effects and repercussions (3)
- Week 4: Youtube, Flickr, and shared media: effects and repercussions (4)
- Week 5: Genre in television programming: Japanese and American comparison (1)
- Week 6: Genre in television programming: Japanese and American comparison (2)
- Week 7: Genre in television programming: Japanese and American comparison (3)
- Week 8: Genre in television programming: Japanese and American comparison (4)
- Week 9: Semantics and comic books/manga: symbolism and communication. (1)
- Week 10: Semantics and comic books/manga: symbolism and communication. (2)
- Week 11: Semantics and comic books/manga: symbolism and communication. (3)
- Week 12: Semantics and comic books/manga: symbolism and communication. (4)

### [Assessment]

Grades will be assigned based on attendance, participation, and reports.

### [Textbooks]

There will be no set textbook, but there will be various readings in both Japanese and English.

### [Reference]

授業時に指示する。

## コミュニケーション演習 4

EASLEY, Keith

### [Course description]

イギリスの文化・文学の諸相を理論的に考察する。

This course explores aspects of British Culture and British Literature.

### [Course objectives]

The course objectives are to deepen students' understanding of the culture of the United Kingdom, and through this to help them communicate more effectively in English.

### [Course schedule]

- Week 1: Introduction
- Week 2: Survey of British Culture (1)
- Week 3: Survey of British Culture (2)
- Week 4: Survey of British Literature (1)
- Week 5: Survey of British Literature (2)
- Week 6: Current cultural developments (1)
- Week 7: Current cultural developments (2)
- Week 8: Current cultural developments in relation to literature (1)
- Week 9: Current cultural developments in relation to literature (2)
- Week 10: Future possibilities in culture and literature (1)
- Week 11: Future possibilities in culture and literature (2)
- Week 12: Review

### [Assessment]

Evaluation will be made through oral presentations and written papers. Students will be given the opportunity to explore their own areas of interest.

### [Textbooks]

Not yet decided.

### [Reference]

授業時に指示する。



## ランゲージスタディーズ演習 1

榎木勇作

## 【授業の概要】

統語論を主な研究テーマとし、文献検索・資料収集の方法やその分析方法を身に付け、研究テーマに関する問題意識を高める。

## 【授業の目標】

英語の言語現象に対して多角的な分析や独自性のある考察ができるようになることを目標とする。

## 【授業計画】

- Week 1 英語統語論の基本事項 (1)
- Week 2 英語統語論の基本事項 (2)
- Week 3 英語統語論の基本事項 (3)
- Week 4 ミニマリストプログラムなど最近の枠組みについての紹介 (1)
- Week 5 ミニマリストプログラムなど最近の枠組みについての紹介 (2)
- Week 6 ミニマリストプログラムなど最近の枠組みについての紹介 (3)
- Week 7 コーパスを使用した言語研究の入門 (1)
- Week 8 コーパスを使用した言語研究の入門 (2)
- Week 9 コーパスを使用した言語研究の入門 (3)
- Week 10 CHILDESを使用した言語獲得研究の入門 (1)
- Week 11 CHILDESを使用した言語獲得研究の入門 (2)
- Week 12 CHILDESを使用した言語獲得研究の入門 (3)
- Week 13 映画やインターネットの英語の分析 (1)
- Week 14 映画やインターネットの英語の分析 (2)
- Week 15 映画やインターネットの英語の分析 (3)

## 【評価方法】

レポート+平均点 (出席・授業態度)

## 【テキスト】

未定

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## ランゲージスタディーズ演習 2

若山真幸

## 【授業の概要】

意味論を主な研究テーマとし、文献検索・資料収集の方法やその分析方法を身に付け、研究テーマに関する問題意識を高める。

## 【授業の目標】

理論言語学の基本や言葉の意味や情報構造の概略を学び、英語及び言語コミュニケーションの一層の理解を深める。さらに、日常的な英語学習・英語教育にどう活かせるかを身に付ける。

## 【授業計画】

- 第1講 他動詞と自動詞、二つの自動詞 (1)
- 第2講 他動詞と自動詞、二つの自動詞 (2)
- 第3講 他動詞と自動詞、二つの自動詞 (3)
- 第4講 他動詞と自動詞、二つの自動詞 (4)
- 第5講 他動詞と自動詞、二つの自動詞 (5)
- 第6講 心理動詞の項構造 (1)
- 第7講 心理動詞の項構造 (2)
- 第8講 心理動詞の項構造 (3)
- 第9講 心理動詞の項構造 (4)
- 第10講 コーパスを使ったコロケーション (1)
- 第11講 コーパスを使ったコロケーション (2)
- 第12講 コーパスを使ったコロケーション (3)

## 【評価方法】

出席状況、課題レポート、学期末試験

## 【テキスト】

未定

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## ランゲージスタディーズ演習 3

中郷 慶

## 【授業の概要】

英語の発音の特徴を、日本語との比較も交え、単音レベルから文・談話レベルまで学ぶ。また、日本人英語学習者が抱えている発音上の問題も考察する。

## 【授業の目標】

英語と日本語を比較研究することによって、英語らしさとは何か、日本語らしさとは何かを明らかにすること。

## 【授業計画】

- 関係論文や専門書の講読演習を行う。
- 第1講：関係論文や専門書の講読 (1)
- 第2講：関係論文や専門書の講読 (2)
- 第3講：関係論文や専門書の講読 (3)
- 第4講：演習 (1)
- 第5講：演習 (2)
- 第6講：演習 (3)
- 第7講：実践 (1)
- 第8講：実践 (2)
- 第9講：実践 (3)
- 第10講：実践 (4)
- 第11講：実践 (5)
- 第12講：レポートについて

## 【評価方法】

出席と課題レポートによる。

## 【テキスト】

関係論文のコピーを使用する。

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 英語教育演習 1

松本青也

## 【授業の概要】

世界における外国語教授法の歴史と多様性を概観し、主要な教授法について詳しく検証しながら、日本固有の言語状況に適合した理想的な英語教授法と、日本の学習者の立場から考えた理想的な英語学習法とは何かを考察する。

## 【授業の目標】

日本の英語教育を中心に、外国語教育の多様な教授法について考察する。

## 【授業計画】

- 以下の点について考察する。
- 第1講 ESLとEFL (1)
- 第2講 ESLとEFL (2)
- 第3講 外国語教授法の変遷 (1)
- 第4講 外国語教授法の変遷 (2)
- 第5講 日本の外国語教授法 (1)
- 第6講 日本の外国語教授法 (2)
- 第7講 外国語教授法の理論的背景 (1)
- 第8講 外国語教授法の理論的背景 (2)
- 第9講 動機付けと学習法 (1)
- 第10講 動機付けと学習法 (2)
- 第11講 教授法の原則 (1)
- 第12講 教授法の原則 (2)
- 第13講 マルチメディアの活用 (1)
- 第14講 マルチメディアの活用 (2)
- 第15講 教師の役割と評価

## 【評価方法】

研究発表及び論文。

## 【テキスト】

Brown, D.(2000). Principles of Language Learning and Teaching. Prentice Hall Regents.  
Brown, D.(2001). Teaching by Principles. Prentice Hall Regents.

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。



## 英語教育演習 2

大野清幸

## 【授業の概要】

高い評価を得ている日本各地での英語教育の実践例を対象にケーススタディを行い、英語教育に対する理解を深める。

## 【授業の目標】

英語学研究者は、「動的文法理論」などの枠組みを利用して、言語の本質的な部分について考察する。第一言語獲得研究者は、「動的文法理論」などの生成文法理論および発達心理学関連分野を視野に入れつつ、第一言語獲得に関する、狭く限定した研究主題のいくつかを考察する。

## 【授業計画】

基本的には、学術論文を精読し、議論する。

- 第1講 授業計画指示など
- 第2講 PC実践教室において、関連情報を検索・探索する
- 第3講 学術論文などによる演習(1)
- 第4講 学術論文などによる演習(2)
- 第5講 学術論文などによる演習(3)
- 第6講 ケーススタディ(1)
- 第7講 ケーススタディ(2)
- 第8講 ケーススタディ(3)
- 第9講 ケーススタディ(4)
- 第10講 まとめ(1)
- 第11講 まとめ(2)
- 第12講 まとめ(3)

## 【評価方法】

出席状況、平常点、課題などによる。

## 【テキスト】

学術論文。

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 中国語・中国語教育演習 1

馮 富榮

## 【授業の概要】

日本における中国語教育の現状をふまえ、今後の新しい中国語教育のあり方について考察する。

## 【授業の目標】

本講義の受講によって、日本の大学における中国語の現状や日本の大学における中国語教育の問題点を知ることができるだけでなく、その問題点を解決するために、どんな改善策をすればいいかを考える姿勢が身に付くことが期待できる。

## 【授業計画】

この授業は、下記のステップを踏んで展開していく。

1. 日本における中国語教育の現状を調べる。主として日本の大学における中国語教育に焦点を当てる。
2. 日本の大学の中国語教育における問題点についてディスカッションを行う。具体的には、
  - 1) 教材に関する問題；
  - 2) カリキュラムに関する問題；
  - 3) 中国語教育者間の連携に関する問題；
  - 4) 教授法に関する問題。
 という4つのカテゴリーに分けて、それぞれ具体的に議論し、改善案を検討する。
3. 日本の大学における今後の中国語教育への提案にまとめる。

## 【評価方法】

受講態度やレポートなどで、総合的に評価する。

## 【テキスト】

論文のコピーや新聞などを使う。

## 【参考文献・資料】

「中国語学」 日本中国語学会

## 中国語・中国語教育演習 2

杜 英起

## 【授業の概要】

日本語と中国語の発想方法や表現様式の違いをふまえ、翻訳の演習を行う。

## 【授業の目標】

日本語から中国語へ、また中国語から日本語への翻訳練習を通じて、翻訳の技能を磨き、日中翻訳の専門知識を身につけることができる。

## 【授業計画】

- 日中翻訳実践
- 日中文法翻訳 (中等)
- ビジネス関係文章の翻訳 (二)
- 即席通訳応用

## 【評価方法】

平常点及びレポートにて評価する。

## 【テキスト】

プリント配布

## 【参考文献・資料】

- 日中翻訳教程—実践編 (北京語言文化大学)
- 即席通訳 (大連理工大学)
- 中国経済新論 (日本新報社)

## 日本語・日本語教育演習 1

山内啓介

## 【授業の概要】

音韻論、文法論、意味論の観点から日本語の構造を考察する。

## 【授業の目標】

日本語音声、日本語文法理論、日本語意味論と日本語教育の教授方法を理解する。

## 【授業計画】

次についてテーマを定めて講義および演習をおこなう。

- 日本語概説と日本語教育の歴史
- 日本語文法と日本語教育の方法
- 日本語教育の実態、日本語ボランティアと地域の日本語
- 日本語学と日本語教育
- 日本語と文化

## 【評価方法】

出席、レポートによる。

## 【テキスト】

特に定めない。  
プリント資料を用いる。

## 【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

## 日本語・日本語教育演習 2

窪田守弘

## 【授業の概要】

談話分析の立場から、日本語の文構造の特徴を考察する。

## 【授業の目標】

日本語の研究で先駆的な理論を展開し、現代日本語の発展に貢献した三上章の文法論の概略を学ぶ。

## 【授業計画】

本講では、まず動詞や形容詞が示す活用という現象がどのような意味をもっているかを考える。そして、それぞれの活用形はどのようにして成立したのかについて概観する。特に、三上章の文法論を中心にして、現代の日本語の構造がどのような輪郭になっているのかについて考察する。

## 【評価方法】

講義の出席状況、レポート等の内容で評価する。

## 【テキスト】

日本語基礎講座三上文法入門（山崎紀美子著 ちくま新書）

## 【参考文献・資料】

講義時に紹介する。

## 文化探求演習 2

大野光子

## 【授業の概要】

20世紀のアイルランド文学や映画等を通して、アイルランドの伝統や文化現象について考察する。

## 【授業の目標】

英語圏諸国の中でもアイルランドの文化・文学を、特に独立運動以後の英国およびアメリカ合衆国との関連において考察する。20世紀の後半からは文学に加えて映画や音楽がアイルランド人のアイデンティティ表現として重要な位置を占めるので、英語による多様なメディア表現を資料として読解し視聴する。これにより、英語資料の読解視聴能力を育て、批評・研究するための基礎能力を習得するとともに、ポストコロニアル批評やジェンダー批評についても学ぶ。

## 【授業計画】

- 1 イン트로ダクション
- 2 アイルランド独立運動史
- 3 アイルランド文学史
- 4 南北分断後の南と北のアイルランドを代表する劇作家(1)
- 5 南北分断後の南と北のアイルランドを代表する劇作家(2)
- 6 南北分断後の南と北のアイルランドを代表する劇作家(3)
- 7 南北分断後の南と北のアイルランドを代表する詩人(1)
- 8 南北分断後の南と北のアイルランドを代表する詩人(2)
- 9 アイルランドと英国およびアメリカとの関係 音楽
- 10 アイルランドと英国およびアメリカとの関係 映画
- 11 アイルランドと英国およびアメリカとの関係 批評的検討
- 12 まとめ

## 【評価方法】

出席と平常点およびレポートによる。

## 【テキスト】

プリント使用。

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 文化探求演習 1

久野幸子

## 【授業の概要】

英国文化の特徴を、英国ユートピア文学を通して多角的な視点から考察する。

## 【授業の目標】

前期の特講で学んだ批評理論のなかで、とくにマルクス主義批評、フェミニズム批評、ポスト・コロニアル批評、カルチャースタディーズに注目し、ユートピア文学作品の中から数篇を選び、それらが書かれた時代の社会情勢や政治、経済、文化事象などとの因果関係をグローバルな視点で比較検討し、英語圏文化の把握につとめる。

## 【授業計画】

- 第1講：イントロダクション
- 第2講：ユートピア思想と諸批評
- 第3講：ユートピア思想とマルクス主義批評（1）
- 第4講：ユートピア文学とマルクス主義批評（2）
- 第5講：ユートピア思想とフェミニズム批評（1）
- 第6講：ユートピア文学とフェミニズム批評（2）
- 第7講：ユートピア思想とポスト・コロニアル批評（1）
- 第8講：ユートピア文学とポスト・コロニアル批評（2）
- 第9講：ユートピア文学とポスト・コロニアル批評（3）
- 第10講：ユートピア思想とカルチャースタディーズ（1）
- 第11講：ユートピア文学とカルチャースタディーズ（2）
- 第12講：まとめ

## 【評価方法】

平常点（出席、受講態度など）とレポートで総合的に評価する。

## 【テキスト】

Gary Saul Morson, The Boundaries of Genre.

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 文化探求演習 3

太田直子

## 【授業の概要】

20世紀のアメリカ文学の分析を通して、アメリカ社会を多角的に考察する。

## 【授業の目標】

小説の分析、批評について学びながら、作品のより深い理解を目指す。作品からみる、アメリカ文学の全体像、または、アメリカという国についての考察を行う。20世紀アメリカ文学の深い理解を目標とする。

## 【授業計画】

- 第1講：Introduction
- 第2講：E. Hemingway Nick Adams Stories 精読
- 第3講：E. Hemingway Nick Adams Stories 作品分析
- 第4講：E. Hemingway Nick Adams Stories 批評
- 第5講：William Faulkner Absalom, Absalom! 精読(1)
- 第6講：William Faulkner Absalom, Absalom! 精読(2)
- 第7講：William Faulkner Absalom, Absalom! 作品分析(1)
- 第8講：William Faulkner Absalom, Absalom! 作品分析(2)
- 第9講：William Faulkner Absalom, Absalom! 作品分析(3)
- 第10講：Absalom, Absalom! の批評(1)
- 第11講：Absalom, Absalom! の批評(2)
- 第12講：1920・30年代アメリカ文学の変貌について

## 【評価方法】

授業内での発表、学期末のレポートで評価する。

## 【テキスト】

プリント  
William Faulkner, Absalom, Absalom! (Vintage International)

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 文化探求演習 4

山田幹郎

## 【授業の概要】

ルネッサンス期のイギリス文学のレトリックを通して、イギリス文化の諸相を考察する。

## 【授業の目標】

イギリスルネッサンス演劇作品を当時の具体的な文化探求テキストとして精読することによりその諸解釈の元にあるレトリカルな面についての知見を涵養すること。

## 【授業計画】

- 1 序：授業計画、受講者の成績評価及び書誌説明
- 2 Othello読解 (1)
- 3 Othello読解 (2)
- 4 Othello読解 (3)
- 5 Othello読解 (4)
- 6 Othello読解 (5)
- 7 作品解釈 (1)
- 8 作品解釈 (2)
- 9 作品解釈 (3)
- 10 受講者による批評解釈発表とグループ討論 (1)
- 11 受講者による批評解釈発表とグループ討論 (2)
- 12 演習総括

## 【評価方法】

平常点とレポートにより総合評価する。

## 【テキスト】

プリントによる。

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 文化探求演習 5

COLEBORNE, Bryan E.

## 【Course description】

アイルランド文学の分析を通して、アイルランド社会を多角的に考察する。

## 【Course objectives】

This course will aim at increasing students' understanding of the different perspectives of Ireland that arise essentially from historical, religious and political divisions as they are revealed in works of literature.

## 【Course schedule】

- 1 introduction, with special reference to myths of origin
- 2 introduction, with special reference to patterns of settlement
- 3 introduction, with special reference to the emergence of division
- 4 the theme of historical difference; Irish literary themes(1)
- 5 the theme of historical difference; Irish literary themes(2)
- 6 the theme of historical difference; Irish literary themes(3)
- 7 the theme of religious difference; Irish literary themes(1)
- 8 the theme of religious difference; Irish literary themes(2)
- 9 the theme of religious difference; Irish literary themes(3)
- 10 the theme of political difference; Irish literary themes(1)
- 11 the theme of political difference; Irish literary themes(2)
- 12 the theme of political difference; Irish literary themes(3)
- 13 conclusion, with review analysis of Irish literary themes(1)
- 14 conclusion, with review analysis of Irish literary themes(2)
- 15 conclusion, with review analysis of Irish literary themes(3)

## 【Assessment】

Evaluation will be based on participation, presentations, class exercises and papers.

## 【Textbooks】

To be decided.

## 【Reference】

授業時に指示する。

## 文化探求演習 6

平林美都子

## 【授業の概要】

フェミニズム文学批評やジェンダー理論の観点から、英語圏の文学作品や映像表象を考察する。

## 【授業の目標】

英語圏の短編小説の文学表現方法と、文学批評、文化理論を合わせて理解する。

## 【授業計画】

- 第1講：イントロダクション
- 第2講：Margaret Atwood の短編Wilderness Tipsの講読 (1)
- 第3講：Margaret Atwood の短編Wilderness Tipsの講読 (2)
- 第4講：Margaret Atwood の短編Wilderness Tipsの講読 (3)
- 第5講：Margaret Atwood の短編Wilderness Tipsの講読 (4)
- 第6講：Margaret Atwood の短編Wilderness Tipsの講読 (5)
- 第7講：フェミニズム文学批評テキストの講読 (1)
- 第8講：フェミニズム文学批評テキストの講読 (2)
- 第9講：フェミニズム文学批評テキストの講読 (3)
- 第10講：まとめ (1)
- 第11講：まとめ (2)
- 第12講：まとめ (3)

## 【評価方法】

出席とレポートによる。

## 【テキスト】

Wilderness Tips (Margaret Atwood, Seal Books)  
批評関連のテキストは最初の授業で指示する。

## 【参考文献・資料】

適宜、授業中に指示する。

## 文化探求演習 7

杉本一直

## 【授業の概要】

亡命ロシア人の文学作品や芸術作品を講読・鑑賞し、その創作意識を考察する。

## 【授業の目標】

亡命者文化の本質を理解する

## 【授業計画】

原典講読を中心とし、あわせて文学研究の方法論を学ぶ。原典講読のテキストとして、Vladimir Nabokov の代表作『ロリータ』を使用する。また、サブテキストとして、Nabokovを含めた亡命作家たちの文学について論じた研究書などを使用する。

## 【評価方法】

出席およびレポートによる。

## 【テキスト】

*The Annotated Lolita* (Vladimir Nabokov Random House Inc)

## 【参考文献・資料】

言語の都市 (トニー・タナー著 白水社)  
脱領域の知性 (ジョージ・スタイナー著 河出書房新社)

## 国際社会貢献演習 1

榎田勝利

## 【授業の概要】

政府開発援助（ODA）の基本理念、国際協力スキームの検証と現状、および非政府組織（NGO）の基本理念と特長、実態を学び、ODAとNGOとの連携を検討する。

## 【授業の目標】

国際協力の理念、活動主体の役割と活動方法、多分野にわたる開発課題の現状を理解し、その課題解決法を提言できる。

## 【授業計画】

1. 講義のねらいと評価の方法
2. 国際協力の概念
3. 国際協力のアクター（国連、国際機関）
4. 国際協力のアクター（政府開発援助機関）
5. 国際協力のアクター（NGO、欧米のNGOと日本のNGO）
6. 国際協力の方法（政府開発援助—ODA）
7. 国際協力の方法（地方自治体）
8. 国際協力の方法（NGO、ボランティア）
9. 開発課題と国際協力（ミレニアム開発目標）
10. 国際協力事業の評価
11. 日本の国際協力の課題と展望

## 【評価方法】

試験は行わない。出席状況、毎回の演習での貢献度、発表・討議の内容を、総合的に評価する。

## 【テキスト】

毎回プリントを配布する。

## 【参考文献・資料】

国際協力（下村・辻・稲田・深川著 有斐閣選書）  
 国際協力（功刀達郎編著 サイマル出版会）  
 国際協力論を学ぶ人のために（内海成治編 世界思想社）  
 国際連合の基礎知識（国際連合広報局 世界の動き社）  
 政府開発援助（ODA）白書（外務省・経済協力局）  
 UNDP・人間開発報告書（国連開発計画編 国際協力出版会）  
 国際協力用語集第2版（国際開発ジャーナル社）

081269001\_0510 掲載順 :0510

MASTER ★

## 国際社会貢献演習 2

ブイ チ トルン

## 【授業の概要】

非営利組織(NPO)の台頭の背景、定義、役割等の基本的概念を検証し、非営利組織のマネジメントの実態と問題点を考察する。

## 【授業の目標】

NPO/NGOの発展や組織運営に関する諸要因を分析・検討することによってNPO/NGOにより社会貢献活動および社会的役割を理解すること。特に海外NPO/NGOの活動・組織運営の手法を理解すること。

## 【授業計画】

基本的には国際社会貢献特講2と同様な授業計画を行う。内容は国際社会貢献特講2が国内NGOを取り上げるのに対して、この演習は海外の主なNGOを対象とするものである。英文資料等を基に演習を行う。国際比較により広範的な組織マネジメントを学習できる。  
 院生には修論課題に関連させ議論等を進める。

## 【評価方法】

演習における参加姿勢、発表等により総合的に評価する。

## 【テキスト】

開講時に参加者全員で協議して決める。

## 【参考文献・資料】

随時参考資料、文献やプリントを配布する。

081269001\_0520 掲載順 :0520

MASTER ★

## 地域文化交流演習 1

皆川修吾

## 【授業の概要】

冷戦崩壊後の分権化・民営化・民主化のグローバルな動きに対し、ローカライゼーションの実態と意義を検討する。

## 【授業の目標】

国内・国際・グローバルな政治過程、とくに日本の政治過程に焦点を当て、体系的に理解すること。

## 【授業計画】

下記のテキストの章ごとに課題を設定し、ディスカッション形式で理解を深める。

## 【評価方法】

分担部分の発表内容・討議内容、および課題に対するレポート 30%  
 期末レポート 70%

## 【テキスト】

政治学（久米郁男他共著、有斐閣）

## 【参考文献・資料】

[著書]  
 戦後政治の崩壊（山口二郎著 岩波書店）  
 内閣制度（山口二郎著 東京大学出版）  
 [専門誌]  
 国際政治（国際政治学会編 有斐閣）  
 政治学（日本政治学会編 岩波書店）

081269001\_0510 掲載順 :0510

MASTER ★

## 地域文化交流演習 2

若松孝司

## 【授業の概要】

経済社会開発や貧困問題など、途上国が抱える具体的事例を検討し、問題解決の方策を探る。

## 【授業の目標】

途上国・地域の抱える諸問題について、各自の研究対象に即して現状を把握し、自分自身の見解を深める。

## 【授業計画】

受講生との協議によって事例を決定し、ゼミ形式で報告と討論を行なう。

## 【評価方法】

授業に対する取り組みと、提出された課題によって決定する。

## 【テキスト】

別途指示する。

## 【参考文献・資料】

別途指示する。

## 文化翻訳演習 1

チョ スルソップ

## 【授業の概要】

韓国、中国、日本の文学作品を通文化的な観点から講読・鑑賞する。

## 【授業の目標】

東アジア諸社会における文化諸相の理解を深め、東アジア諸国の相互理解および共生を可能にする翻訳法を模索していく。

## 【授業計画】

- 第1講 前言
- 第2講 「紅樓夢」の世界1
- 第3講 「紅樓夢」の世界2
- 第4講 「紅樓夢」の世界3
- 第5講 「紅樓夢」の世界4
- 第6講 「紅樓夢」映像化とその流布1
- 第7講 「紅樓夢」映像化とその流布2
- 第8講 「紅樓夢」の文化翻訳1
- 第9講 「紅樓夢」の文化翻訳2
- 第10講 「紅樓夢」の出版翻訳各種
- 第11講 「紅樓夢」の映像翻訳各種
- 第12講 「紅樓夢」日本語訳書籍とその世界1
- 第13講 「紅樓夢」日本語訳書籍とその世界2
- 第14講 「紅樓夢」日本語訳書籍とその世界3
- 第15講 総合

## 【評価方法】

出席、授業のための準備、翻訳の実践、レポートを総合して評価する。

## 【テキスト】

プリント中心

## 【参考文献・資料】

- 紅樓夢 (高翊 上海古籍出版社)
- 紅樓夢 (松枝茂夫訳 岩波文庫)

## 課題実践 (コミュニケーション) Ia

MOLDEN, Danny T.

## 【Course description】

さまざまなスピーチの分析を通して、効果的な説得のあり方を検証しながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

## 【Course objectives】

- ・ Instill students' with an in-depth understanding of the concepts, principles, and skills regarding communication between people from different cultures.
- ・ Provide opportunities for students to apply those precepts to contemporary, practical situations in English.
- ・ Create a greater awareness of cultural diversity.

## 【Course schedule】

Topics examined may include, but are not limited to, the following general areas:

1. Globalization(1)
2. Globalization(2)
3. Culture and Communication(1)
4. Culture and Communication(2)
5. Cultural Perception and Values(1)
6. Cultural Perception and Values(2)
7. Language and Culture(1)
8. Language and Culture(2)
9. Culture and Nonverbal Communication(1)
10. Culture and Nonverbal Communication(2)
11. Intercultural Cultural Context(1)
12. Intercultural Cultural Context(2)
13. Intercultural Adaptation and Assimilation(1)
14. Intercultural Adaptation and Assimilation(2)
15. Intercultural Competence

## 【Assessment】

Attendance, class participation, short written or oral reports, and one short research paper on an intercultural topic of individual interest will be used to evaluate student progress.

## 【Textbooks】

All class readings will be provided.

## 【Reference】

授業時に指示する。

## 文化翻訳演習 2

CURRAN, Beverley

## 【授業の概要】

文芸翻訳の実践を通して、異文化への理解を深め、文化翻訳能力を高める。

## 【授業の目標】

このコースの目標は、学生に色々な異文化的な日英翻訳の例文を紹介する。実践的な学習を通して言語能力、また翻訳者の意識を高めることである。

## 【授業計画】

- 第1回 Introduction : descriptive studies
- 第2回 マンガー-ONE PIECE (日本語・英語) (1)
- 第3回 マンガー-ONE PIECE (日本語・英語) (2)
- 第4回 児童文学: Alice in Wonderland・不思議な国のアリス (1)
- 第5回 児童文学: Alice in Wonderland・不思議な国のアリス (2)
- 第6回 文学における翻訳者 (1)
- 第7回 文学における翻訳者 (2)
- 第8回 映画: Shall We ダンス?・Shall We Dance? (1)
- 第9回 映画: Shall We ダンス?・Shall We Dance? (2)
- 第10回 映画: Shall We ダンス?・Shall We Dance? (3)
- 第11回 英語のセリフ・日本語の字幕/吹き替え (Love Actually)
- 第12回 情報パンフレット(インターネット)
- 第13回 新聞の記
- 第14回 オーラル・プレゼンテーション

## 【評価方法】

参加における努力、プレゼンテーションのように評価することである。

## 【テキスト】

なし

## 【参考文献・資料】

受講生の興味関心によって決定する。

## 課題実践 (コミュニケーション) Ib

MOLDEN, Danny T.

## 【Course description】

「課題実践 (コミュニケーション) Ia」に継続する課題研究授業。効果的で説得力のあるコミュニケーションのあり方を考察しながら、課題実践の指導を行う。

## 【Course objectives】

- ・ Instill students' with an in-depth understanding of concepts, principles, and skills relating to communication between persons from different cultures.
- ・ Provide opportunities for students to apply those precepts to contemporary, practical situations in English.
- ・ Create a greater awareness of cultural diversity.

## 【Course schedule】

Topics examined may include, but are not limited to, the following general areas:

1. Globalization (1)
2. Globalization (2)
3. Culture and Communication (1)
4. Culture and Communication (2)
5. Cultural Perception and Values (1)
6. Cultural Perception and Values (2)
7. Language and Culture (1)
8. Language and Culture (2)
9. Culture and Nonverbal Communication (1)
10. Culture and Nonverbal Communication (2)
11. Intercultural Cultural Context (1)
12. Intercultural Cultural Context (2)
13. Intercultural Adaptation and Assimilation (1)
14. Intercultural Adaptation and Assimilation (2)
15. Intercultural Competence

## 【Assessment】

Attendance, class participation, short written or oral reports, and one short research paper on an intercultural topic of individual interest will be used to evaluate student progress.

## 【Textbooks】

All readings will be provided.

## 【Reference】

授業時に指示する。



## 課題実践 (コミュニケーション) II a

McDANIEL, Edwin R.

## 【Course description】

アメリカ文化と日本文化の比較検証を行いながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

## 【Course objectives】

- ・ Provide an in-depth understanding of culture.
- ・ Explore the English interaction between culture and communication.
- ・ Learn the skills needed to become a competent intercultural communicator

## 【Course schedule】

Topics examined may include, but are not limited to, the following general areas:

1. Globalization (1)
2. Globalization (2)
3. Culture and Communication (1)
4. Culture and Communication (2)
5. Cultural Perception and Values (1)
6. Cultural Perception and Values (2)
7. Language and Culture (1)
8. Language and Culture (2)
9. Culture and Nonverbal Communication (1)
10. Culture and Nonverbal Communication (2)
11. Intercultural Cultural Context (1)
12. Intercultural Cultural Context (2)
13. Intercultural Adaptation and Assimilation (1)
14. Intercultural Adaptation and Assimilation (2)
15. Intercultural Competence

## 【Assessment】

Attendance, class participation, short written or oral reports, and one short research paper on an intercultural topic of individual interest will be used to evaluate student progress.

## 【Textbooks】

Short reading assignments will be provided in class.

## 【Reference】

授業時に指示する。

## 課題実践 (コミュニケーション) II b

McDANIEL, Edwin R.

## 【Course description】

「課題実践 (コミュニケーション) II a」に継続する課題研究授業。日米文化の特質を考察しながら、課題実践の指導を行う。

## 【Course objectives】

- ・ Provide an in-depth understanding of culture.
- ・ Explore the English interaction between culture and communication.
- ・ Learn the skills needed to become a competent intercultural communicator

## 【Course schedule】

Topics examined may include, but are not limited to, the following general areas:

1. Globalization (1)
2. Globalization (2)
3. Culture and Communication (1)
4. Culture and Communication (2)
5. Cultural Perception and Values (1)
6. Cultural Perception and Values (2)
7. Language and Culture (1)
8. Language and Culture (2)
9. Culture and Nonverbal Communication (1)
10. Culture and Nonverbal Communication (2)
11. Intercultural Cultural Context (1)
12. Intercultural Cultural Context (2)
13. Intercultural Adaptation and Assimilation (1)
14. Intercultural Adaptation and Assimilation (2)
15. Intercultural Competence

## 【Assessment】

Attendance, class participation, short written or oral reports, and one short research paper on an intercultural topic of individual interest are used to evaluate student progress.

## 【Textbooks】

Short reading assignments will be provided in class.

## 【Reference】

授業時に指示する。

## 課題実践 (コミュニケーション) III a

McGEE, Jennifer J.

## 【Course description】

メディアに現れる言語表現について考察しながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

## 【Course objectives】

The goal of this seminar is for the student to produce a work of original scholarship that displays his or her ability to perform independent research in English.

## 【Course schedule】

The seminar will cover the basics and more advanced topics in scholarly writing, such as

1. Source quotation and citation (1)
2. Source quotation and citation (2)
3. Source quotation and citation (3)
4. Tracking down information (1)
5. Tracking down information (2)
6. Tracking down information (3)
7. Organization of original thought (1)
8. Organization of original thought (2)
9. Organization of original thought (3)
10. Developing theory (1)
11. Developing theory (2)
12. Developing theory (3)
13. How to present one's findings in a speech or presentation (1)
14. How to present one's findings in a speech or presentation (2)
15. How to present one's findings in a speech or presentation (3)

## 【Assessment】

Students will be judged on their ability to produce a plagiarism-free work of original scholarship.

## 【Textbooks】

Texts will depend on the individual student's needs.

## 【Reference】

授業時に指示する。

## 課題実践 (コミュニケーション) III b

McGEE, Jennifer J.

## 【Course description】

「課題実践 (コミュニケーション) III a」に継続する課題研究授業。さまざまな言語表現の差異を考察しながら、課題実践の指導を行う。

## 【Course objectives】

The goal of this seminar is for the student to produce a work of original scholarship that displays his or her ability to perform independent research in English.

## 【Course schedule】

The seminar will continue to cover the basics, but will focus on more advanced topics in scholarly writing, such as

1. Source quotation and citation (1)
2. Source quotation and citation (2)
3. Tracking down information (1)
4. Tracking down information (2)
5. Organization of original thought (1)
6. Organization of original thought (2)
7. Developing theory (1)
8. Developing theory (2)
9. How to present one's findings in a speech or presentation (1)
10. How to present one's findings in a speech or presentation (2)
11. Revising and editing (1)
12. Revising and editing (2)

## 【Assessment】

Students will be judged on their ability to produce a plagiarism-free work of original scholarship.

## 【Textbooks】

Texts will depend on the individual student's needs.

## 【Reference】

授業時に指示する。

## 課題実践 (ランゲージスタディーズ) Ia

樗木勇作

## 【授業の概要】

統語論・言語獲得を中心とした英語学のトピックを取り上げ、英語の特徴について言語学的側面から分析しながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

## 【授業の目標】

英語の言語現象に対して主に統語構造や言語獲得の面から多角的でかつ独創性のある分析や考察ができるようになることを目標とする。

## 【授業計画】

- 第1講：関係論文や専門書の講読（1）
- 第2講：関係論文や専門書の講読（2）
- 第3講：関係論文や専門書の講読（3）
- 第4講：演習（1）
- 第5講：演習（2）
- 第6講：演習（3）
- 第7講：実践（1）
- 第8講：実践（2）
- 第9講：実践（3）
- 第10講：実践（4）
- 第11講：実践（5）
- 第12講：レポートについて

## 【評価方法】

レポート＋平均点（出席・授業態度）

## 【テキスト】

未定

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 課題実践 (ランゲージスタディーズ) Ib

樗木勇作

## 【授業の概要】

「課題実践 (ランゲージスタディーズ) Ia」に継続する課題研究授業。統語論・言語獲得を中心とした課題を、言語学的手法を用いて考察しながら、課題実践の指導を行う。

## 【授業の目標】

英語の言語現象に対して特に、統語構造や言語獲得の面から客観的データ・学問的裏打ちのある理論に基づく論理的展開と明確かつ確かな主旨の表現技法の修得を目標とする。

## 【授業計画】

- Week 1 先行研究の分析・批判（1）
- Week 2 先行研究の分析・批判（2）
- Week 3 先行研究の分析・批判（3）
- Week 4 研究テーマの設定（1）
- Week 5 研究テーマの設定（2）
- Week 6 研究テーマの設定（3）
- Week 7 データ収集（1）
- Week 8 データ収集（2）
- Week 9 データ収集（3）
- Week 10 考察の展開法（1）
- Week 11 考察の展開法（2）
- Week 12 考察の展開法（3）

## 【評価方法】

論文の内容その他着眼点・分析方法などを総合的に評価する。

## 【テキスト】

未定

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 課題実践 (ランゲージスタディーズ) II a

若山真幸

## 【授業の概要】

意味論・形態論を中心とした英語学のトピックを取り上げ、英語の特徴について言語学的側面から分析しながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

## 【授業の目標】

修士論文やレポートの作成に向けて、研究の対象とする英語やその他の言語現象並びにその理論的説明の代表的なものについての概要を把握すると共に、研究を進めるための基礎知識を身に付ける。

## 【授業計画】

- 1講 英語学の基本的文献を読み、研究分野の概略を知る。(1)
- 2講 英語学の基本的文献を読み、研究分野の概略を知る。(2)
- 3講 英語学の基本的文献を読み、研究分野の概略を知る。(3)
- 4講 諸分野の中から関心のあるものを選び、研究対象となる項目について知識を深める。(1)
- 5講 諸分野の中から関心のあるものを選び、研究対象となる項目について知識を深める。(2)
- 6講 諸分野の中から関心のあるものを選び、研究対象となる項目について知識を深める。(3)
- 7講 研究テーマに関する先行研究論文を読み、分析・批判する手法を学ぶ。(1)
- 8講 研究テーマに関する先行研究論文を読み、分析・批判する手法を学ぶ。(2)
- 9講 研究テーマに関する先行研究論文を読み、分析・批判する手法を学ぶ。(3)
- 10講 研究テーマに関する言語資料の収集方法について学ぶ。(1)
- 11講 研究テーマに関する言語資料の収集方法について学ぶ。(2)
- 12講 おおよその研究テーマを設定する。

## 【評価方法】

レポート等の提出により評価する。

## 【テキスト】

研究テーマ及び研究の進行状況に応じて指示する。

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 課題実践 (ランゲージスタディーズ) II b

若山真幸

## 【授業の概要】

「課題実践 (ランゲージスタディーズ) II a」に継続する課題研究授業。意味論・形態論を中心とした課題を、言語学的手法を用いて考察しながら、課題実践の指導を行う。

## 【授業の目標】

課題実践 (ランゲージスタディーズ) II aでの研究を英語学の個別のテーマに関してさらに文献を読んで研究を深め、その結果得られた英語学的知見をまとめて修士論文またはレポートを作成する。

## 【授業計画】

- 1講 設定した研究テーマに基づく予備発表を行い、今後の論文・レポート作成計画を立てる。
- 2講 研究テーマに関する論文を講読。各自で客観的な言語資料を収集。(1)
- 3講 研究テーマに関する論文を講読。各自で客観的な言語資料を収集。(2)
- 4講 研究テーマに関する論文を講読。各自で客観的な言語資料を収集。(3)
- 5講 研究テーマに関する論文を講読。各自で客観的な言語資料を収集。(4)
- 6講 研究テーマに関する論文を講読。各自で客観的な言語資料を収集。(5)
- 7講 研究テーマに関する論文を講読。各自で客観的な言語資料を収集。(6)
- 8講 これらを使って、どのように自説を展開していくか学ぶ。(1)
- 9講 これらを使って、どのように自説を展開していくか学ぶ。(2)
- 10講 これらを使って、どのように自説を展開していくか学ぶ。(3)
- 11講 論文またはレポートの完成を目指す。(1)
- 12講 論文またはレポートの完成を目指す。(2)

## 【評価方法】

レポート等の提出により評価する。

## 【テキスト】

研究テーマ及び研究の進行状況に応じて指示する。

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 課題実践 (ランゲージスタディーズ) III a

中郷 慶

## 【授業の概要】

音声学、日英対照言語学を中心に、言語学的側面から英語の特徴を分析しながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

## 【授業の目標】

修士論文やレポートの作成に向けて、研究の対象とする英語やその他の言語事象並びにその理論的説明の代表的なものについての概要を把握すると共に、研究を進めるための基礎知識を身に付ける。

## 【授業計画】

論文執筆の進行状況の報告と、それに対する指導を授業の中心とする。また、先行研究の論文講読も必要に応じて行う。

- 第1講：基本理念について (1)
- 第2講：基本理念について (2)
- 第3講：基本理念について (3)
- 第4講：応用 (1)
- 第5講：応用 (2)
- 第6講：応用 (3)
- 第7講：実践 (1)
- 第8講：実践 (2)
- 第9講：実践 (3)
- 第10講：実践 (4)
- 第11講：実践 (5)
- 第12講：レポートについて

## 【評価方法】

執筆論文への取り組み態度による。

## 【テキスト】

特になし。

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 課題実践 (ランゲージスタディーズ) III b

中郷 慶

## 【授業の概要】

「課題実践 (ランゲージスタディーズ) III a」に継続する課題研究授業。英語の発音の特徴についての考察をさらに進め、音声以外の側面についても日英語の比較研究を行いながら、課題実践の指導を行う。

## 【授業の目標】

課題実践 (ランゲージスタディーズ) III aでの研究を英語学の個別のテーマに関してさらに文献を読んで研究を深め、その結果得られた英語学的知見をまとめて修士論文またはレポートを作成する。

## 【授業計画】

論文執筆の進行状況の報告と、それに対する指導を授業の中心とする。また、先行研究の論文講読も必要に応じて行う。

- 第1講：前期レポートについて
- 第2講：周辺分野の探索 (1)
- 第3講：周辺分野の探索 (2)
- 第4講：周辺分野の探索 (3)
- 第5講：研究理念の確認 (1)
- 第6講：研究理念の確認 (2)
- 第7講：研究理念の確認 (3)
- 第8講：実践・応用 (1)
- 第9講：実践・応用 (2)
- 第10講：実践・応用 (3)
- 第11講：論文のまとめ (1)
- 第12講：論文のまとめ (2)

## 【評価方法】

修士論文の査読による。

## 【テキスト】

特になし。

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 課題実践 (英語教育) I a

松本青也

## 【授業の概要】

応用言語学の分野の中でも、特に、第二言語習得理論、日英対照言語学、および外国語教育政策に焦点を絞り、英語教育に関する最新の研究成果を検証しながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

## 【授業の目標】

理論的な側面を中心に各自の研究内容与方法について検討を加える。

## 【授業計画】

それぞれの研究題目に関連した内外の研究成果に批判的考察を加えながら、項目ごとに研究発表と議論を積み重ねる。

- 第1講 Introduction
- 第2講 研究成果の批判的考察(1)
- 第3講 研究成果の批判的考察(2)
- 第4講 研究成果の批判的考察(3)
- 第5講 研究発表と議論(1)
- 第6講 研究発表と議論(2)
- 第7講 研究発表と議論(3)
- 第8講 研究発表と議論(4)
- 第9講 研究発表と議論(5)
- 第10講 まとめ(1)
- 第11講 まとめ(2)
- 第12講 まとめ(3)

## 【評価方法】

研究発表、論文の総合評価。

## 【テキスト】

適宜資料配布。

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 課題実践 (英語教育) I b

松本青也

## 【授業の概要】

「課題実践 (英語教育) I a」に継続する課題研究授業。第二言語習得理論、日英対照言語学、および外国語教育政策について、英語教育に関する最新の研究成果を検証しながら、課題実践の指導を行う。

## 【授業の目標】

具体的な実践面への提言を含めて、各自の研究をまとめる。

## 【授業計画】

それぞれの研究内容に関連した内外の研究成果に批判的考察を加えながら、修士論文作成のための個別指導を行う。

- 第1講 Introduction
- 第2講 研究成果の批判的考察(1)
- 第3講 研究成果の批判的考察(2)
- 第4講 研究成果の批判的考察(3)
- 第5講 研究発表と議論(1)
- 第6講 研究発表と議論(2)
- 第7講 研究発表と議論(3)
- 第8講 研究発表と議論(4)
- 第9講 研究発表と議論(5)
- 第10講 まとめ(1)
- 第11講 まとめ(2)
- 第12講 まとめ(3)

## 【評価方法】

発表内容と論文の評価。

## 【テキスト】

適宜資料配布。

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 課題実践（英語教育）II a

大野清幸

## 【授業の概要】

応用言語学の分野の中でも、特に、語法研究、コーパス言語学、動的文法理論、言語獲得理論、学校英文法に焦点を絞り、英語教育に関する最新の研究成果を検証しながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

## 【授業の目標】

英語学研究者は、「動的文法理論」などの枠組みを利用して、英語学に関する、狭く限定した研究主題について研究する。第一言語獲得研究者は、「動的文法理論」などの生成文法理論および発達心理学関連分野を視野に入れつつ、第一言語獲得に関する、狭く限定した研究主題について研究する。

## 【授業計画】

基本的には、学術論文を精読し、議論する。

- 第1講 Introduction授業計画指示など
- 第2講 PC実践教室などにおいて、関連情報を検索・探索
- 第3講 先行研究を調査
- 第4講 仮説をたてる
- 第5講 データの採集・整理(1)
- 第6講 データの採集・整理(2)
- 第7講 データの採集・整理(3)
- 第8講 理論の枠組みで分析(1)
- 第9講 理論の枠組みで分析(2)
- 第10講 論文としてまとめる(1)
- 第11講 論文としてまとめる(2)
- 第12講 論文提出

## 【評価方法】

出席状況、平常点、課題などによる。

## 【テキスト】

学術論文。

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

081269001\_0710 掲載順 : 0710

MASTER ★

## 課題実践（中国語・中国語教育）I a

馮 富榮

## 【授業の概要】

高度な中国語コミュニケーション能力を身に付けるとともに、中国語教育に関する最新の研究成果を検証しながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

## 【授業の目標】

本講義の受講によって、自分の関心のある研究テーマを絞りだすことができるだけでなく、論文を書く際に必要とされている問題意識、研究方法及び考察の仕方などを学ぶこともできる。場合によっては、必要に応じて中国語教育の現場に行き、中国語の講義を見ながら現場の教員から直接指導を受けることも可能である。

## 【授業計画】

- 授業は、主として以下のステップを踏んで展開していく予定である。
- (1)中国語に関する研究や日本語と中国語に関する比較研究、そして対外中国語教育に関する論文を幅広く読んで、ディスカッションを行う。
  - (2)受講者の関心のある研究テーマを搾り出し、その研究テーマと関連のある研究論文を講読した上、ディスカッションを行う。そうすることによって、先行研究の問題点を整理する。
  - (3)受講者の研究目的をはっきりさせ、その研究目的に達することができるように、最適の研究方法を検討する。
  - (4)中間発表に向けて、具体的な研究作業に入る。そして、研究過程において、受講者の持っている問題点や疑問に対して、随時アドバイスをを行う。

## 【評価方法】

努力や研究成果などで、総合的に評価する。

## 【テキスト】

関連の論文のコピーを使用する。

## 【参考文献・資料】

「中国語学」 日本中国語学会

081269001\_0710 掲載順 : 0710

MASTER ★

## 課題実践（英語教育）II b

大野清幸

## 【授業の概要】

「課題実践（英語教育）II a」に継続する課題研究授業。語法研究、コーパス言語学、動的文法理論、言語獲得理論、学校英文法に関する最新の研究成果を検証しながら、課題実践の指導を行う。

## 【授業の目標】

英語学研究者は、「動的文法理論」などの枠組みを利用して、言語の本質的な部分について考察する。第一言語獲得研究者は、「動的文法理論」などの生成文法理論および発達心理学関連分野を視野に入れつつ、第一言語獲得に関する、狭く限定した研究主題のいくつかを考察する。

## 【授業計画】

基本的には、学術論文を精読し、議論する。

- 第1講 Introduction授業計画指示など
- 第2講 PC実践教室などにおいて、関連情報を検索・探索
- 第3講 先行研究を調査
- 第4講 仮説をたてる
- 第5講 データの採集・整理(1)
- 第6講 データの採集・整理(2)
- 第7講 データの採集・整理(3)
- 第8講 理論の枠組みで分析(1)
- 第9講 理論の枠組みで分析(2)
- 第10講 論文としてまとめる(1)
- 第11講 論文としてまとめる(2)
- 第12講 論文提出

## 【評価方法】

出席状況、平常点、課題などによる。

## 【テキスト】

学術論文。

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

081269001\_0720 掲載順 : 0720

MASTER ★

## 課題実践（中国語・中国語教育）I b

馮 富榮

## 【授業の概要】

「課題実践（中国語・中国語教育）I a」に継続する課題研究授業。さらに高度な中国語コミュニケーション能力を身に付けるとともに、中国語教育に関する最新の研究成果を検証しながら、課題実践の指導を行う。

## 【授業の目標】

本講義を受講することによって、自分の関心のある研究テーマを絞りだすことができるだけでなく、論文を書く際に必要とされている問題意識、研究方法及び考察の仕方などを学ぶことができる。また場合によっては、教育現場に行き、中国語の講義を見ながら、教育現場の教員より直接指導を受けることも可能である。

## 【授業計画】

- 授業は、主として以下のステップを踏んで展開していく予定である。
- (1)中国語に関する研究や、日本語と中国語に関する比較研究、そして対外中国語教育に関する論文を幅広く読んで、ディスカッションを行う。
  - (2)受講者の関心のある研究テーマを搾り出し、その研究テーマと関連のある研究論文を講読した上、ディスカッションを行う。そうすることによって先行研究の問題点を整理する。
  - (3)受講者の研究目的をはっきりさせ、その研究目的に達することができるように、最適の研究方法を検討する。
  - (4)中間発表に向けて、具体的な研究作業に入る。そして、研究過程において、受講者の持っている問題点や疑問に対して、随時アドバイスをを行う。

## 【評価方法】

努力や研究成果などで、総合的に評価する。

## 【テキスト】

関連の論文のコピーを使用する。

## 【参考文献・資料】

「中国語学」 日本中国語学会



## 課題実践（中国語・中国語教育）II a

杜 英起

## 【授業の概要】

中国文化と日本文化の比較検証を行いながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

## 【授業の目標】

日・中両国の漢字文化、国民の生活習慣、価値観などの違いを研究し、相手国を理解するのに必要な知識を把握し、両国の友好交流のために配慮すべき点を検討することによって、異文化コミュニケーション能力を高めることができる。

## 【授業計画】

日本における中国文化の伝来と現状  
（言語、医学、民俗、食、茶、酒など）  
日本人と中国人の思考様式の相違  
コミュニケーションの仕方における日本人と中国人の相違  
中国の地域性と中国人の気質  
必要に応じて、中国の大学に行つて、中国人の大学院生と同じ授業を受けながら、共通に関心を持っている研究課題と一緒に検討することや、中国の大学教員より論文の書き方などの指導を直接受ける可能性もある。

## 【評価方法】

平常点及び学期末レポートにて評価する。

## 【テキスト】

プリント配布

## 【参考文献・資料】

講義のとき、指示する。

## 課題実践（中国語・中国語教育）II b

杜 英起

## 【授業の概要】

「課題実践（コミュニケーション）II a」に継続する課題研究授業。日中文化の特質を考察しながら、課題実践の指導を行う。

## 【授業の目標】

日・中両国の漢字文化、国民の生活習慣、価値観などの違いを研究し、相手国を理解するのに必要な知識を把握し、両国の友好交流のための配慮すべき点を検討することによって、異文化コミュニケーション能力を高めることができる。

## 【授業計画】

日本における中国文化の伝来と現状  
“家庭”に対する日本人と中国人認識の相違  
“宗教”に対する日本人と中国人認識の相違  
中国の地域性と中国人の気質  
中国でのビジネスを成功させるためには  
必要に応じて、中国の大学に行つて、中国人の大学院生とともに講義を受け、共通に関心のある研究課題に取り組むことや、中国人の大学教員より論文の書き方などの指導を直接に受けるということも可能である。

## 【評価方法】

平常点及び及び期末レポートにて評価する。

## 【テキスト】

プリント配布

## 【参考文献・資料】

講義のとき、指示する。

## 課題実践（日本語・日本語教育）I a

山内啓介

## 【授業の概要】

応用言語学の観点から日本語教育に関する最新の研究成果を検証しながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

## 【授業の目標】

先行研究、資料調査および実験などを実施して論文を構成し、執筆作成を行う準備をする。

## 【授業計画】

受講生は各自の発表テーマについて資料を作成して、プレゼンテーションを行う。

## 【評価方法】

出席、プレゼンテーションを評価する。

## 【テキスト】

特に定めない。  
発表資料などハンドアウトを配布。

## 【参考文献・資料】

発表テーマに応じて紹介する。

## 課題実践（日本語・日本語教育）I b

山内啓介

## 【授業の概要】

「課題実践（日本語・日本語教育）I a」に継続する課題研究授業。応用言語学の観点から日本語教育に関する最新の研究成果を検証しながら、課題実践の指導を行う。

## 【授業の目標】

論文を構成し、執筆作成を行う。

## 【授業計画】

受講生は各自の発表テーマについて資料を作成して、プレゼンテーションを行う。

## 【評価方法】

出席、プレゼンテーションを評価する。

## 【テキスト】

特に定めない。  
発表資料などハンドアウトを配布。

## 【参考文献・資料】

発表テーマについて紹介する。



## 課題実践（日本語・日本語教育）II a

窪田守弘

## 【授業の概要】

映画やテレビなどのマスメディアを題材に、現代日本語をカルチュラル・スタディーズという視点から考察しながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

## 【授業の目標】

カルチュラル・スタディーズ分野での文節の解説という視点は、コミュニケーションは多様な面から研究にも十分適応できる。そこで、この視点をコミュニケーションの分析に活用して新しい方向を考えてみる。

## 【授業計画】

毎回テーマを提示し、学生はそれに従って発表を行なう。そこからコミュニケーションの場面分析を身につけていく。本講義では、日本と外国のコミュニケーションの在り方を、著名な映画やテレビのドラマを素材として学ぶ。そして、映像の中でコミュニケーションの内容と構成を分析し、理解を深めるようにする。言語と文化の実態は複雑であるが、映画やテレビというマス・メディアを通して比較し、その背後ではたらくメカニズムや日本語の変化を観察することになっている。そして、カルチュラル・スタディーズという立場から日常生活のコミュニケーションの在り方を検討する考えである。

## 【評価方法】

講義における授業態度、レポートの内容、出席状況によって評価する。

## 【テキスト】

実践カルチュラル・スタディーズ（上野俊哉著 ちくま新書）

## 【参考文献・資料】

講義時に紹介する。

## 課題実践（日本語・日本語教育）II b

窪田守弘

## 【授業の概要】

「課題実践（日本語・日本語教育）II a」に継続する課題研究授業。マンガや携帯電話のコトバに見られる新しい表現形式をはじめとする言語現象を考察しながら、課題実践の指導を行う。

## 【授業の目標】

カルチュラル・スタディーズ分野での文節の解説という視点は、コミュニケーションは多様な面から研究にも十分適応できる。そこで、この視点をコミュニケーションの分析に活用して新しい方向を考えてみる。

## 【授業計画】

毎回テーマを提示し、学生はそれに従って発表を行なう。本講義では、日本人と外国人のコミュニケーションの在り方を、アニメ・マンガ・携帯言語などを素材として学ぶ。さらにマスメディア中に見られる複雑なコミュニケーションの内容と構成を分析し、理解を深めるようにする。その一つの方法論として、カルチュラル・スタディーズという立場から日常生活のコミュニケーションの在り方を検討する考えである。

## 【評価方法】

講義における授業態度、レポートの内容、出席状況によって評価する。

## 【テキスト】

実践カルチュラル・スタディーズ（上野俊哉著 ちくま新書）

## 【参考文献・資料】

講義時に紹介する。

## 課題実践（文化探求）I a

久野幸子

## 【授業の概要】

英国ユートピア文学の先行研究を検証しながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

## 【授業の目標】

文化探求プログラムで学んだ自己学習を踏まえ、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導。英文学研究の方法論を学ぶと同時に、現代を生きる一人の人間として英文学研究を主体的に行なうための能力の育成を目指す。

## 【授業計画】

- 第1講：基本理念について（1）
- 第2講：基本理念について（2）
- 第3講：基本理念について（3）
- 第4講：応用（1）
- 第5講：応用（2）
- 第6講：応用（3）
- 第7講：実践（1）
- 第8講：実践（2）
- 第9講：実践（3）
- 第10講：実践（4）
- 第11講：実践（5）
- 第12講：レポートについて

## 【評価方法】

平常点（出席、受講態度など）とレポートで総合的に評価する。

## 【テキスト】

受講者の希望に応じて決定する。

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 課題実践（文化探求）I b

久野幸子

## 【授業の概要】

「課題実践（文化探求）I a」に継続する課題研究授業。英国ユートピア文学の本質をさらに深く考察しながら、課題実践の指導を行う。

## 【授業の目標】

課題実践（文化探求）I bで学んだ自己学習を踏まえ、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導。英文学研究の方法論を学ぶと同時に、現代を生きる一人の人間として英文学研究を主体的に行なうための能力の育成を目指す。

## 【授業計画】

- 第1講：前期レポートについて
- 第2講：周辺分野の探索（1）
- 第3講：周辺分野の探索（2）
- 第4講：周辺分野の探索（3）
- 第5講：研究理念の確認（1）
- 第6講：研究理念の確認（2）
- 第7講：研究理念の確認（3）
- 第8講：実践・応用（1）
- 第9講：実践・応用（2）
- 第10講：実践・応用（3）
- 第11講：論文のまとめ（1）
- 第12講：論文のまとめ（2）

## 【評価方法】

平常点（出席、受講態度など）とレポートで総合的に評価する。

## 【テキスト】

受講者の希望に応じて決定する。

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 課題実践（文化探求）II a

大野光子

## 【授業の概要】

アイルランド文化・文学の歴史的・社会的意義を考察しながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

## 【授業の目標】

継続的な英語文学研究の基礎として、英語文献読解力を高め、研究資料収集法、研究論文作成法を習得し、実践する。

## 【授業計画】

- 第1講：既存英語文献の探索・検討(1)
- 第2講：既存英語文献の探索・検討(2)
- 第3講：既存英語文献の探索・検討(3)
- 第4講：文献の読解と批評(1)
- 第5講：文献の読解と批評(2)
- 第6講：文献の読解と批評(3)
- 第7講：論文構成の検討(1)
- 第8講：論文構成の検討(2)
- 第9講：論文構成の検討(3)
- 第10講：執筆の指導(1)
- 第11講：執筆の指導(2)
- 第12講：執筆の指導(3)

## 【評価方法】

平常点とレポートおよび初稿によって総合評価する。

## 【テキスト】

授業内で指示する。

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 課題実践（文化探求）II b

大野光子

## 【授業の概要】

「課題実践（文化探求）II a」に継続する課題研究授業。アイルランド社会におけるポストコロニアルおよびジェンダー問題を視野に入れながら、課題実践の指導を行う。

## 【授業の目標】

これまで研究の基礎として習得した様々な知識・手法に基づいて、独自の英語論文作成を行い、これにより継続的・自立的な研究の出発点となる。

## 【授業計画】

- 第1講：論文全体の構想確認
- 第2講：序論(1)
- 第3講：本論(1)
- 第4講：内容指導(1)
- 第5講：序論(2)
- 第6講：本論(2)
- 第7講：内容指導(2)
- 第8講：序論(3)
- 第9講：本論(3)
- 第10講：内容指導(3)
- 第11講：改訂作業(1)
- 第12講：改訂作業(2)

## 【評価方法】

完成論文によって評価する。

## 【テキスト】

授業内で指示する。

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 課題実践（文化探求）III a

太田直子

## 【授業の概要】

アメリカ文化・文学の歴史的・社会的意義を考察しながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

## 【授業の目標】

アメリカの地方色に焦点をあて、経済・政治・歴史が文学に及ぼす影響についての理解を目指す。さらに、それが文学作品の中でどのような形で描かれているのかを考察する。文学作品（アメリカ小説）のより深い理解を目標とする。

## 【授業計画】

- 第1講：Introduction
- 第2講：南北戦争以前の西部（文学）の特徴について
- 第3講：第一次世界大戦までの中西部文学について
- 第4講：南北戦争～第二次世界大戦までの南部文学について(1)
- 第5講：南北戦争～第二次世界大戦までの南部文学について(2)
- 第6講：南北戦争～第二次世界大戦までの南部文学について(3)
- 第7講：アメリカ南部文学（small townを中心に）南部文学の作品分析方法と考察(1)
- 第8講：アメリカ南部文学（small townを中心に）南部文学の作品分析方法と考察(2)
- 第9講：アメリカ南部文学（small townを中心に）南部文学の作品分析方法と考察(3)
- 第10講：文化と文学 20世紀の文化と文学について(1)
- 第11講：文化と文学 20世紀の文化と文学について(2)
- 第12講：まとめ

## 【評価方法】

第9講の授業終了時にアメリカ南部文学についてのレポートを提出。  
また、授業終了後に、アメリカ20世紀の小説で、地方色がみられる作品を取り上げ、文化と文学というテーマでレポートを作成する。授業の評価は、これらの2講のレポートで行う。

## 【テキスト】

プリント

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 課題実践（文化探求）III b

太田直子

## 【授業の概要】

「課題実践（文化探求）III a」に継続する課題研究授業。アメリカ社会における多様性を視野に入れながら、課題実践の指導を行う。

## 【授業の目標】

20世紀のアメリカ経済の発展、さらに、世界対戦による社会状況の変化による文学作品の変化に注目し、1950年代までのアメリカ小説のより深い理解を目標とする。

## 【授業計画】

- 第1講：Introduction
- 第2講：1900～1919のアメリカ小説について
- 第3講：Sherwood Andersonの作品分析
- 第4講：Jack Londonの作品分析
- 第5講：1920年代のアメリカ小説について
- 第6講：Lost Generationの小説の分析(1)
- 第7講：Lost Generationの小説の分析(2)
- 第8講：1930年代のアメリカ小説について
- 第9講：Steinbeckの作品分析(1)
- 第10講：Steinbeckの作品分析(2)
- 第11講：1940年代・50年代のアメリカ小説について
- 第12講：Beat Generationの小説の分析

## 【評価方法】

発表、学期末のレポートによる評価する。

## 【テキスト】

プリント

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 課題実践（文化探求）IV a

山田幹郎

## 【授業の概要】

英国文学における修辞法の特徴を検証しながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

## 【授業の目標】

イギリスルネサンス時代のレトリカルな分析例等を参考にして利用しながら、各受講者が中間段階の修士論文を作成すること。

## 【授業計画】

- 1 序：授業計画、受講者の成績評価及び書誌説明 (a)
- 2 (卒業論文と) 修士論文：テーマの選択から論文執筆まで
- 3 イギリスルネサンス時代のレトリカルな分析例とその応用 (1)
- 4 イギリスルネサンス時代のレトリカルな分析例とその応用 (2)
- 5 イギリスルネサンス時代のレトリカルな分析例とその応用 (3)
- 6 受講者の対象テキストの吟味 (1)
- 7 受講者の対象テキストの吟味 (2)
- 8 受講者の対象テキストの吟味 (3)
- 9 受講者による修士論文第1章発表とグループ討論
- 10 受講者による修士論文第2章発表とグループ討論
- 11 受講者による修士論文第3章発表とグループ討論
- 12 課題研究総括 (a)

## 【評価方法】

平常点と中間段階の修士論文により総合評価する。

## 【テキスト】

プリントによる。

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 課題実践（文化探求）IV b

山田幹郎

## 【授業の概要】

「課題実践（文化探求）IVa」に継続する課題研究授業。イギリス文学におけるレトリックの多様性を視野に入れながら、課題実践の指導を行う。

## 【授業の目標】

伝統的なレトリックの基礎と応用を踏まえつつ、各受講者の研究テーマの一面の充実を徹底し、修士論文またはレポートを完成すること。

## 【授業計画】

- 1 序：授業計画、受講者の成績評価及び書誌説明 (b)
- 2 レトリカルなアプローチの再吟味
- 3 受講者の対象テキストの再吟味 (1)
- 4 受講者の対象テキストの再吟味 (2)
- 5 受講者の対象テキストの再吟味 (3)
- 6 受講者による修士論文第1章改訂版発表とグループ討論
- 7 受講者による修士論文第2章改訂版発表とグループ討論
- 8 受講者による修士論文第3章改訂版発表とグループ討論
- 9 各修士論文全体の総合的検討：レトリカルな面の更なるプラス化
- 10 修士論文発表とグループ討論 (1)
- 11 修士論文発表とグループ討論 (2)
- 12 課題研究総括(b)

## 【評価方法】

平常点と修士論文により総合評価する。

## 【テキスト】

プリントによる。

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 課題実践（文化探求）V a

COLEBORNE, Bryan E.

## 【Course description】

アイルランド文化とイギリス文化を比較検討しながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

## 【Course objectives】

This course will aim at supporting students to develop an understanding of the context of their research and the correct procedures for its professional presentation in English.

## 【Course schedule】

- 1 introduction, with special reference to the importance of research techniques
- 2 introduction, with special reference to understanding the forms of scholarly documentation(1)
- 3 introduction, with special reference to understanding the forms of scholarly documentation(2)
- 4 supervision of students' writing, with emphasis upon thesis design (1)
- 5 supervision of students' writing, with emphasis upon thesis design (2)
- 6 supervision of students' writing, with emphasis upon thesis design (3)
- 7 supervision of students' writing, with emphasis upon drafts and revision(1)
- 8 supervision of students' writing, with emphasis upon drafts and revision(2)
- 9 supervision of students' writing, with emphasis upon drafts and revision(3)
- 10 supervision of students' writing, with emphasis upon documentation and bibliography(1)
- 11 supervision of students' writing, with emphasis upon documentation and bibliography(2)
- 12 supervision of students' writing, with emphasis upon documentation and bibliography(3)
- 13 conclusion, with review analysis of format and presentation(1)
- 14 conclusion, with review analysis of format and presentation(2)
- 15 conclusion, with review analysis of format and presentation(3)

## 【Assessment】

Evaluation will be based on participation, presentations, class exercises and papers.

## 【Textbooks】

Not yet decided.

## 【Reference】

授業時に指示する。

## 課題実践（文化探求）V b

COLEBORNE, Bryan E.

## 【Course description】

「課題実践（文化探求）Va」に継続する課題研究授業。イギリス文化とアイルランド文化が日本文化に及ぼした影響を視野に入れながら、課題実践の指導を行う。

## 【Course objectives】

This course will aim at supporting students to develop an understanding of the context of their research and the correct procedures for its professional presentation in English.

## 【Course schedule】

- 1 introduction, with special reference to the importance of understanding the theme of influence in the study of different cultures
- 2 introduction, with special reference to the importance of identifying techniques to use in conducting research(1)
- 3 introduction, with special reference to the importance of identifying techniques to use in conducting research(2)
- 4 supervision of students' writing, with emphasis upon thesis design involving comparative studies(1)
- 5 supervision of students' writing, with emphasis upon thesis design involving comparative studies(2)
- 6 supervision of students' writing, with emphasis upon thesis design involving comparative studies(3)
- 7 supervision of students' writing, with emphasis upon drafts and revision(1)
- 8 supervision of students' writing, with emphasis upon drafts and revision(2)
- 9 supervision of students' writing, with emphasis upon drafts and revision(3)
- 10 supervision of students' writing, with emphasis upon documentation and bibliography, especially with reference to cultural differences in format(1)
- 11 supervision of students' writing, with emphasis upon documentation and bibliography, especially with reference to cultural differences in format(2)
- 12 supervision of students' writing, with emphasis upon documentation and bibliography, especially with reference to cultural differences in format(3)
- 13 conclusion, with review analysis of format and presentation(1)
- 14 conclusion, with review analysis of format and presentation(2)
- 15 conclusion, with review analysis of format and presentation(3)

## 【Assessment】

Evaluation will be based on participation, presentations, class exercises and papers.

## 【Textbooks】

Not yet decided.

## 【Reference】

授業時に指示する。

## 課題実践（文化探求）VI a

平林美都子

## 【授業の概要】

フェミニズム文学批評やジェンダー理論を検証しながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

## 【授業の目標】

継続的な英語文学研究の基礎として、英語文献読解力を高め、研究資料収集法、研究論文作成法を習得し、実践する。

## 【授業計画】

論文執筆の進行状況の報告と、それに対する指導を授業の中心とする。また、先行研究の論文講読も必要に応じておこなう。

- 第1講：introduction
- 第2講：先行研究の論文講読(1)
- 第3講：先行研究の論文講読(2)
- 第4講：先行研究の論文講読(3)
- 第5講：論文執筆の進行状況の報告(1)
- 第6講：論文執筆の進行状況の報告(2)
- 第7講：論文執筆の進行状況の報告(3)
- 第8講：実践(1)
- 第9講：実践(2)
- 第10講：実践(3)
- 第11講：実践(4)
- 第12講：まとめ

## 【評価方法】

論文執筆への取り組み態度による。

## 【テキスト】

特になし。

## 【参考文献・資料】

適宜指示する。

## 課題実践（文化探求）VI b

平林美都子

## 【授業の概要】

「課題実践（文化探求）VIa」に継続する課題研究授業。文学の表象のあり方や文化に対する思考形式などを比較検討しながら、課題実践の指導を行う。

## 【授業の目標】

これまでに研究の基礎として習得した様々な知識・手法に基づいて、独自の英語論文作成を行い、これにより継続的・自立的な研究の出発点となる。

## 【授業計画】

論文執筆の進行状況の報告と、それに対する指導を授業の中心とする。また、先行研究の論文講読も必要に応じておこなう。

- 第1講：前期レポートについて
- 第2講：周辺分野の探索(1)
- 第3講：周辺分野の探索(2)
- 第4講：周辺分野の探索(3)
- 第5講：研究理念の確認(1)
- 第6講：研究理念の確認(2)
- 第7講：研究理念の確認(3)
- 第8講：実践・応用(1)
- 第9講：実践・応用(2)
- 第10講：実践・応用(3)
- 第11講：論文のまとめ(1)
- 第12講：論文のまとめ(2)

## 【評価方法】

修士論文の査読による。

## 【テキスト】

特になし。

## 【参考文献・資料】

適宜指示する。

## 課題実践（文化探求）VII a

杉本一直

## 【授業の概要】

亡命者文化の本質を理解し、文学研究の方法論を学びながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

## 【授業の目標】

修士論文構想の完成と資料の十分な分析。

## 【授業計画】

論文執筆の進行状況の報告と、それに対する指導を授業の中心とする。また、先行研究の論文講読も必要に応じておこなう。

## 【評価方法】

論文執筆への取り組み態度による。

## 【テキスト】

特になし。

## 【参考文献・資料】

必要に応じて選定する。

## 課題実践（文化探求）VII b

杉本一直

## 【授業の概要】

「課題実践（文化探求）VIIa」に継続する課題研究授業。原典講読を中心とし、さらなる文学研究の方法論を学びながら、課題実践の指導を行う。

## 【授業の目標】

修士論文の完成。

## 【授業計画】

論文執筆の進行状況の報告と、それに対する指導を授業の中心とする。また、先行研究の論文講読も必要に応じておこなう。

## 【評価方法】

修士論文の査読による。

## 【テキスト】

特になし。

## 【参考文献・資料】

必要に応じて選定する。

## 課題実践（国際社会貢献）I a

榎田勝利

## 【授業の概要】

ODAの理念、方針、事業体系、実施方法を理解し、プロジェクト評価できる能力を培いながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

## 【授業の目標】

修士論文作成のための文献、資料収集およびフィールドワーク等を終了する。

## 【授業計画】

修士論文の研究テーマと研究内容により資料収集や分析の手順を企画し、計画的に実施する。実施状況如何により計画の見直し作業をする。

## 【評価方法】

課題研究過程での研究意欲、独創性、分析力など総合的に評価する。

## 課題実践（国際社会貢献）I b

榎田勝利

## 【授業の概要】

「課題実践（国際社会貢献）I a」に継続する課題研究授業。NGOのマネジメント、国際協力プログラムの企画・運営・評価を実践から学びながら、課題実践の指導を行う。

## 【授業の目標】

修士論文を完成させる。

## 【授業計画】

修士論文の研究テーマと研究内容により資料収集や分析の手順を企画し、計画的に実施する。実施状況如何により計画の見直し作業をする。

## 【評価方法】

課題研究過程での研究意欲、独創性、分析力など総合的に評価する。

## 課題実践（国際社会貢献）II a

ブイ チ トルン

## 【授業の概要】

NPO/NGOの発展や組織運営に関する諸要因を分析し、社会的役割を評価する能力を培いながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

## 【授業の目標】

- \* 研究テーマ最終決定
- \* 内容に関して資料収集・分析・議論
- \* 修士論文の概略作成・報告

## 【授業計画】

修士論文の研究テーマと研究内容により資料収集や分析の手順を企画し、計画的に実施する。実施状況如何により計画の見直し作業をする。

## 【評価方法】

課題研究過程での研究意欲、独創性、分析力など総合的に評価する。

## 課題実践（国際社会貢献）II b

ブイ チ トルン

## 【授業の概要】

「課題実践（国際社会貢献）II a」に継続する課題研究授業。国内外のNPO/NGOの活動・組織運営の手法を比較し、組織マネジメントを広範囲に学びながら、課題実践の指導を行う。

## 【授業の目標】

- \* 課題分析手法を教授
- \* 修士論文完成

## 【授業計画】

修士論文の研究テーマと研究内容により資料収集や分析の手順を企画し、計画的に実施する。実施状況を最終点検し、修士論文を完成する。

## 【評価方法】

論文の内容や構成などを総合的に評価する。



## 課題実践（地域文化交流）I a

皆川修吾

### 【授業の概要】

文化交流がもたらしてきた地域的秩序および市民社会変容プロセスを検証しながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

### 【授業の目標】

修士論文および実践研究レポート作成指導。修士論文および実践研究レポート作成に必要な学識と技能は演習科目でも学ぶが、研究科目でこれら能力をさらに高め、研究テーマが妥当か否かを判断し、適切な助言を与え、論文及びレポートの作成から完成に至るまで指導する。

### 【授業計画】

理論と実践研究の融合に配慮し、きめ細やかな課題研究指導をおこなう。修士論文および実践研究テーマと研究内容により資料収集や分析の手順を企画し、計画的に実施する。実施状況如何により計画の見直し作業をする。

### 【評価方法】

課題研究過程での研究意欲、独創性、分析力など総合的に評価する。

### 【テキスト】

研究テーマにより適宜指示する。

### 【参考文献・資料】

研究テーマにより適宜指示する。

## 課題実践（地域文化交流）I b

皆川修吾

### 【授業の概要】

「課題実践（地域文化交流）I a」に継続する課題研究授業。同一または地域間の文化交流の意義を多角的に比較検討し、文化交流の本質を体系的に学びながら、課題実践の指導を行う。

### 【授業の目標】

修士論文および実践研究レポート作成指導。「課題実践Ia」に引き続き、修士論文および実践研究レポート作成に必要な学識と技能能力をさらに高め、研究テーマが妥当か否かを判断し、必要に応じ指導教員が適切な助言を与え、論文及びレポートの作成から完成に至るまで指導する。

### 【授業計画】

理論と実践研究の融合に配慮し、きめ細やかな課題研究指導をおこなう。修士論文および実践研究レポートのテーマと研究内容により資料収集や分析の手順を企画し、計画的に実施する。実施状況を最終点検し、修士論文および実践研究レポートを完成する。

### 【評価方法】

論文の内容や構成そして研究成果などを総合的に評価する。

### 【テキスト】

研究テーマにより適宜指示する。

### 【参考文献・資料】

研究テーマにより適宜指示する。

## 課題実践（地域文化交流）II a

若松孝司

### 【授業の概要】

先進工業国と異なる特徴を持つ途上国の課題を探り出し、学術的または実践的に問題点を検討しながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

### 【授業の目標】

修士論文作成のための分析方法や修士論文執筆予定の明確化と、そのための有効な資料収集の達成。

### 【授業計画】

修士論文執筆のための調査研究の進行状況報告と、それに対する指導を授業の中心とする。また、先行研究となる論文の講読についても、必要に応じて行う。

### 【評価方法】

調査研究、修士論文執筆の取り組み状況に応じて評価する。

### 【テキスト】

必要に応じて指示する。

### 【参考文献・資料】

必要に応じて指示する。

## 課題実践（地域文化交流）II b

若松孝司

### 【授業の概要】

「課題実践（地域文化交流）II a」に継続する課題研究授業。途上国の課題を地域間で比較検討し、市民社会変容プロセスを体系的に学びながら、課題実践の指導を行う。

### 【授業の目標】

修士論文作成のための資料収集・分析と修士論文の執筆。

### 【授業計画】

修士論文執筆のための調査研究の進行状況報告と、それに対する指導を授業の中心とする。また、先行研究となる論文の講読についても、必要に応じて行う。

### 【評価方法】

調査研究、修士論文の完成度に応じて評価する。

### 【テキスト】

必要に応じて指示する。

### 【参考文献・資料】

必要に応じて指示する。

## 課題実践（文化翻訳）I a

チョ スルソップ

## 【授業の概要】

東アジア文化圏における文化の諸象を学びながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

## 【授業の目標】

異文化間の交流を効果的に行うための視点を養成すると同時に文化研究および文化再創造の土台を構築する。

## 【授業計画】

- 第1講 歳時風俗の世界
- 第2講 『東国歳時記』の世界1
- 第3講 『東国歳時記』の世界2
- 第4講 『東国歳時記』の世界3
- 第5講 『洌陽歳時記』の世界1
- 第6講 『洌陽歳時記』の世界2
- 第7講 『洌陽歳時記』の世界3
- 第8講 『京都雑志』の世界1
- 第9講 『京都雑志』の世界2
- 第10講 『京都雑志』の世界3
- 第11講 『東京雑記』の世界1
- 第12講 『東京雑記』の世界2
- 第13講 『東京雑志』の世界3
- 第14講 現代韓国・朝鮮の歳時風俗
- 第15講 総合

## 【評価方法】

出席、授業のための準備、レポートあるいは論文のテーマに関する研究報告を総合して評価する。

## 【テキスト】

朝鮮歳時記（洪錫謨他著 東洋文庫 平凡社）

## 【参考文献・資料】

- 朝鮮歳時記（洪錫謨他著 東洋文庫 平凡社）
- 荆楚歳時記（宗懐著 東洋文庫 平凡社）
- 閩里歳時記（川野邊寛著 日本庶民生活資料集成 三一書房）

## 課題実践（文化翻訳）II a

CURRAN, Beverley

## 【授業の概要】

文芸翻訳の実践的な学習を通して言語能力を高めながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

## 【授業の目標】

研究のプロセスは（1）研究（2）英語で論文を書く（3）英語で論文を編集するといった段階がある。この前期のコースの目標は研究の段階に集中することである。適当な研究課題を決定、資料を集め、研究レポートを書くことである。

## 【授業計画】

- 第1回 紹介
- 第2回 研究課題を選択
- 第3回 研究課題を決定し、計画を立てる
- 第4回 執筆(1)
- 第5回 研究指導(1)
- 第6回 執筆(2)
- 第7回 研究指導(2)
- 第8回 執筆(3)
- 第9回 Reality Check:プロGRESS・レポート
- 第10回 参考文献について
- 第11回 研究レポートを書く(1)
- 第12回 研究レポートを書く(2)
- 第13回 研究レポートを編集する(1)
- 第14回 研究レポートを編集する(2)
- 第15回 レポートを提出する

## 【評価方法】

参加における努力、研究の計画、レポートの評価

## 【テキスト】

なし

## 【参考文献・資料】

研究課題を決定した後で、リーディング・リストを提案する。

## 課題実践（文化翻訳）I b

チョ スルソップ

## 【授業の概要】

「課題実践（文化翻訳）I a」に継続する課題研究授業。東アジア文化圏の資料講読を通じて多方面から比較研究しながら、課題実践の指導を行う。

## 【授業の目標】

異文化間の交流を効果的に行うための視点を養成すると同時に文化研究および文化再創造の土台を構築する。

## 【授業計画】

- 第1講 歳時風俗の世界
- 第2講 『荆楚歳時記』の世界 お正月
- 第3講 『荆楚歳時記』の世界 1月
- 第4講 『荆楚歳時記』の世界 2月
- 第5講 『荆楚歳時記』の世界 3月・4月
- 第6講 『荆楚歳時記』の世界 5月
- 第7講 『荆楚歳時記』の世界 6月・7月
- 第8講 『荆楚歳時記』の世界 8月
- 第9講 『荆楚歳時記』の世界 9月
- 第10講 『荆楚歳時記』の世界 10月・11月
- 第11講 『荆楚歳時記』の世界 12月
- 第12講 『燕京歳時記』の世界1
- 第13講 『燕京歳時記』の世界2
- 第14講 現代中国の歳時風俗
- 第15講 総合

## 【評価方法】

出席、授業のための準備、レポートあるいは論文のテーマに関する研究報告を総合して評価する。

## 【テキスト】

荆楚歳時記（宗懐著 東洋文庫 平凡社）

## 【参考文献・資料】

- 荆楚歳時記（宗懐著 東洋文庫 平凡社）
- 燕京歳時記（敦崇著 東洋文庫 平凡社）
- 朝鮮歳時記（洪錫謨他著 東洋文庫 平凡社）
- 閩里歳時記（川野邊寛著 日本庶民生活資料集成 三一書房）

## 課題実践（文化翻訳）II b

CURRAN, Beverley

## 【授業の概要】

「課題実践（文化翻訳）II a」に継続する課題研究授業。翻訳理論に照らし、翻訳が文化面でどのような役割を果たしているか比較研究しながら、課題実践の指導を行う。

## 【授業の目標】

後期の授業の目標は、前期の研究課題に関するプロジェクトに引き続き、英語で論文を書き、編集に集中することである。

## 【授業計画】

- 第1回 紹介
- 第2回 論文のintroductionを書く
- 第3回 論文を書く(1)
- 第4回 論文を書く(2)
- 第5回 論文を書く(3)
- 第6回 論文を書く(4)
- 第7回 Reality Check:プロGRESSについて、オーラル・レポート
- 第8回 論文を書く(5)
- 第9回 論文を書く(6)
- 第10回 論文を書く(7)
- 第11回 論文を編集する(1)
- 第12回 論文を編集する(2)
- 第13回 レジュメを書く。参考文献をチェックする
- 第14回 ディスカッション
- 第15回 論文を提出する

## 【評価方法】

研究プロセスや論文を評価する

## 【テキスト】

なし

## 【参考文献・資料】

研究に関する資料

## 外国語教育実践演習（短期）

MOLDEN, Danny T.

### 【授業の概要】

教育現場における短期言語教育体験を通して、実践的な言語指導能力を習得する。

### 【授業の目標】

教育現場での経験を通して、教員や組織をはじめ受講生などさまざまな視点から外国語教育の現状を把握・分析することを第一目標とする。また、外国語教育の理論を現場で活用する方法を模索し、理想的な指導方法について具体的な案をまとめることを第二目標とする。

### 【授業計画】

研修実施校との綿密な連携のもと、以下の手順で短期外国語教育実践演習を行う。

- 1) 研修実施校の決定
- 2) 研究テーマの設定
- 3) 研修事前指導
- 4) 研修指導
- 5) 研修事後指導
- 6) 研修成果報告(研究テーマの関連を含む)

### 【評価方法】

研究テーマの設定+研修成果報告=(40%)  
 研修事前指導+研修指導+研修事後指導=(40%)  
 研修実施校からのフィードバック=(20%)

### 【テキスト】

適宜指示する

### 【参考文献・資料】

適宜指示する

## 外国語教育実践演習（長期）

樗木勇作

### 【授業の概要】

教育現場における長期言語教育体験を通して、実践的な言語指導能力を習得する。

### 【授業の目標】

教育現場での経験を通して、教員や組織をはじめ受講生などさまざまな視点から外国語教育の現状を把握・分析することを第一目標とする。また、外国語教育の理論を現場で活用する方法を模索し、理想的な指導方法について具体的な案をまとめることを第二目標とする。

### 【授業計画】

研修実施校との綿密な連携のもと、以下の手順で長期外国語教育実践演習を行う。

- 1) 研修実施校の決定
- 2) 研究テーマの設定
- 3) 研修事前指導
- 4) 研修指導
- 5) 研修事後指導
- 6) 実践演習レポートの提出
- 7) 研修成果報告(研究テーマの関連を含む)

### 【評価方法】

研究テーマの設定+実践演習レポート+研修成果報告=(40%)  
 研修事前指導+研修指導+研修事後指導=(40%)  
 研修実施校からのフィードバック=(20%)

### 【テキスト】

適宜指示する

### 【参考文献・資料】

適宜指示する

## 国際社会貢献実践演習（短期）

ブイ チトルン

### 【授業の概要】

国際交流基金などの政府機関、国際助成財団、国内外のNGO、自治体国際化協会などでの短期のインターンシップを通し、問題発見・解決能力、組織マネジメント能力を育成する。

### 【授業の目標】

- \* インターン事業に関する知識を取得すること。
- \* 国際交流・協力機関の活動を理解すること。
- \* アジア各国の国際協力現場を体験・理解すること。
- \* 企画書・報告書を作成すること。

### 【授業計画】

- A. 国内対象コース：
  1. 数人で担当チームを作り、協議した上で国内の国際交流・協力機関の活動調査、発表する
  2. インターンシップ内容・目標・計画等をプレゼンテーション
  3. インターンシップ計画書作成、受け入れ交渉
  4. インターン後に報告書や成果報告会を通して単位取得
- B. 海外対象コース：
  1. ベトナム、タイ、インド等アジア各国の国際協力現場を調査・学習する
  2. また可能な限り現地視察・調査も行う予定
  3. テーマ、視察先等事前研修・計画づくり及び実施については国内インターンシップ事業に準じる
  4. 現地視察後に報告書や成果報告会を通して単位取得
- C. 演習主旨：
  1. 開発協力内容の学習および協働の仕組み・事業運営・組織運営に重点を置く
  2. 院生の立案・計画・組織運営能力を高め、育成する

### 【評価方法】

演習における参加姿勢、発表等により総合的に評価する。

### 【テキスト】

開講時に参加者全員で協議して決める。

### 【参考文献・資料】

随時参考資料、文献やプリントを配布する。

## 国際社会貢献実践演習（長期）

榎田勝利

### 【授業の概要】

国際交流基金などの政府機関、国際助成財団、国内外のNGO、自治体国際化協会などでの長期のインターンシップを通し、対外折衝能力、問題発見・危機管理能力、組織マネジメント能力を育成する。

### 【授業の目標】

- \* 専門研究を実践的に深化させ、国際交流・協力機関について幅広い専門知識と技術を身につけること。
- \* 国際協力の現場を体験し、理解すること。
- \* 企画書・報告書を作成すること。

### 【授業計画】

研修実施校・機関との綿密な連携のもと、本科目の履修生が定めた研究テーマに沿い、以下の手順で長期の国際社会貢献実践演習を行う。

- 1) 研修事前指導
- 2) 研修指導
- 3) 研修事後指導
- 4) 研修成果報告(実践研究レポートの提出)

### 【評価方法】

実習・研修先からのフィードバック、現地調査活動の内容、活動の進捗状況、実践研究レポートなどを総合して評価する。

### 【テキスト】

研究活動により適宜指示する。

### 【参考文献・資料】

研究活動により適宜指示する。

## 言語文化研修（短期）

中郷 慶

## 【授業の概要】

海外の提携校が開設している短期コースに参加し、言語・文化社会教育を通して、コミュニケーション能力を習得する。

## 【授業の目標】

単に語学力の習得だけではなく、授業や現地での生活を通して、研修先の国や地域の文化・習慣・文学・歴史なども学ぶことを目標とする。

## 【授業計画】

研究実施校との綿密な連携のもと、以下の手順で短期言語文化研修を行う。

- 1) 研修事前指導
- 2) 研修指導
- 3) 研修事後指導
- 4) 研修成果報告（実践研究レポートの提出）

## 【評価方法】

研修事前指導＋研修指導＋研修事後指導＝(20%)  
 実践研究レポート(50%)  
 研修実施校からのフィードバック(30%)

## 【テキスト】

適宜指示する。

## 【参考文献・資料】

適宜指示する。

## 言語文化研修（長期）

馮 富榮

## 【授業の概要】

海外の提携校が開設している長期コースに参加し、言語・文化社会教育を通して、コミュニケーション能力を習得する。

## 【授業の目標】

単に語学力の習得だけではなく、授業や現地での生活を通して、研修先の国や地域の文化・習慣・歴史なども学ぶことを目標とする。

## 【授業計画】

研究実施校との綿密な連携のもと、以下の手順で長期言語文化研修を行う。

- 1) 研修事前指導
- 2) 研修指導
- 3) 研修事後指導
- 4) 研修成果報告（実践研究レポートの提出）

## 【評価方法】

研修事前指導＋研修指導＋研修事後指導＝(20%)  
 実践研究レポート(50%)  
 研修実施校からのフィードバック(30%)

## 【テキスト】

適宜指示する。

## 【参考文献・資料】

適宜指示する。

## 地域文化交流研修（短期）

若松孝司

## 【授業の概要】

海外の提携校が開設しているコースに参加し、短期研究調査活動を通して、異文化理解を高めると同時に異文化間共生能力を習得する。

## 【授業の目標】

短期の海外研修を通じ、専門研究を実践的に深化させ、幅広い専門知識と技術を身につけることが目標。教育と研究を実践的に結合させ、問題点の解決を実地で体験させることによって学生の現実的諸課題への対応能力を養成することが目的。

## 【授業計画】

目標プログラムをたえず検証し、現地での研究調査活動を監督指導する。本科目の履修生は、研究テーマを定め、実地体験を通してえた成果をレポートにまとめ提出しなければならないが、このプロセスは課題実践科目の履修と連携して行う。

## 【評価方法】

現地調査活動の内容、活動の進捗状況、成果など総合して評価する。

## 【テキスト】

研究活動により適宜指示する。

## 【参考文献・資料】

研究活動により適宜指示する。

## 地域文化交流研修（長期）

皆川修吾

## 【授業の概要】

海外の提携校が開設しているコースに参加し、長期にわたる研究調査活動を通して、異文化理解を高めると同時に異文化間共生能力を習得する。

## 【授業の目標】

長期の海外研修を通じ、専門研究を実践的に深化させ、幅広い専門知識と技術を身につけることが目標。教育と研究を実践的に結合させ、問題点の解決を実地で体験させることによって学生の現実的諸課題への対応能力を養成することが目的。

## 【授業計画】

目標プログラムをたえず検証し、現地での長期にわたる研究調査活動を監督指導する。本科目の履修生は、研究テーマを定め、実地体験を通してえた成果をレポートにまとめ提出しなければならないが、このプロセスは課題実践科目の履修と連携して行う。

## 【評価方法】

現地調査活動の内容、活動の進捗状況、成果など総合して評価する。

## 【テキスト】

研究活動により適宜指示する。

## 【参考文献・資料】

研究活動により適宜指示する。



## プレゼンテーション特講

影戸 誠

### 【授業の概要】

基礎技術として、問題提示、諸説の比較検討、論点・論拠の提示、研究調査結果、成果の集約や発表、今後の展望など効果的なプレゼンテーション技法を指導する。

### 【授業の目標】

別途指示する。

### 【授業計画】

別途指示する。

### 【評価方法】

別途指示する。

### 【テキスト】

別途指示する。

### 【参考文献・資料】

別途指示する。

## 文芸翻訳特講

宮澤 淳一

### 【授業の概要】

文芸翻訳（文芸作品や人文書の翻訳）を、学術研究の社会的還元という発想から捉え直す。歴史と理論、解釈と変換、密度とリダンダンシー、誤訳の構造などを考察しつつ、主に英語から日本語への翻訳を演習する。

### 【授業の目標】

1. 「翻訳」とは何か。それを理論と実践両面から理解する。
2. 「翻訳」とはいかなる意義や価値を持つのか。その現状はどうか。世の中で流通する「翻訳」に対して、批判的な目を養うと同時に、「誤訳」に対する寛容な態度を身につける。
3. 「翻訳」を通して、他社の論理や発想を理解し、「伝達」とは何か、特に文章を「書く」とは何かを自分なりに見つめ直す。

### 【授業計画】

- 第1講：文芸翻訳とは何か（「翻訳」における位置、歴史と理論、学術研究との関係1）
- 第2講：文芸翻訳とは何か（「翻訳」における位置、歴史と理論、学術研究との関係2）
- 第3講：文芸翻訳とは何か（「翻訳」における位置、歴史と理論、学術研究との関係3）
- 第4講：英文和訳、逐語訳、意識、「超訳」……（解釈と変換1）
- 第5講：英文和訳、逐語訳、意識、「超訳」……（解釈と変換2）
- 第6講：英文和訳、逐語訳、意識、「超訳」……（解釈と変換3）
- 第7講：等量等価の翻訳は可能か（密度とリダンダンシー1）
- 第8講：等量等価の翻訳は可能か（密度とリダンダンシー2）
- 第9講：等量等価の翻訳は可能か（密度とリダンダンシー3）
- 第10講：誤訳とは何か、どう防げるか（誤訳の構造1）
- 第11講：誤訳とは何か、どう防げるか（誤訳の構造2）
- 第12講：誤訳とは何か、どう防げるか（誤訳の構造3）
- 第13講：翻訳と情報リテラシー（まとめ1）
- 第14講：翻訳と情報リテラシー（まとめ2）
- 第15講：翻訳と情報リテラシー（まとめ3）

### 【評価方法】

出席状況、授業での積極性、課題の取り組み方から総合的に評価する（ただし本講は「翻訳」を考えることが趣旨であって、語学力は成績と関係ありません）。

### 【テキスト】

ハンドアウトを配布し、用いる。テキスト初回授業にて紹介する。

### 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 通訳特講

中村 幸子

### 【授業の概要】

日英語間の通訳に必要な基礎知識と技能を習得するとともに、通訳の準備作業として不可欠な情報収集の具体的方法を演習形式で学ぶ。

### 【授業の目標】

国際交流や国際協力の舞台で通訳者（英語）として活躍できる実践的な実力を養成することを目的とし、通訳者養成のために一般的に採用されている各種通訳訓練法を行い、即解力、即応力、口頭表現力、語彙力を飛躍的に高めながら通訳スキルの向上を目指す。

### 【授業計画】

プロ通訳者の業務に準じた事前準備資料を使用する。インターネットで公開されているAuthenticな音声なども積極的に利用していく。通訳に必要な背景知識を得るため様々な分野の資料の訳出を含めた分析を行い、知識ベースの充実も目指す。学期末にはプレゼンテーション形式の模擬通訳発表会を実施する。

- 第1講 通訳概要
- 第2講 英日逐次通訳の基礎1
- 第3講 英日逐次通訳の基礎2
- 第4講 英日逐次通訳の基礎3
- 第5講 資料分析1
- 第6講 日英逐次通訳の基礎1
- 第7講 日英逐次通訳の基礎2
- 第8講 日英逐次通訳の基礎3
- 第9講 資料分析2
- 第10講 英日・日英逐次通訳の実践1
- 第11講 英日・日英逐次通訳の実践2
- 第12講 英日・日英逐次通訳の実践3
- 第13講 資料分析3
- 第14講 英日逐次通訳の仕上げ
- 第15講 日英逐次通訳の仕上げ

### 【評価方法】

出席（非常に大切）、授業内でのパフォーマンス、リサーチ課題、および模擬通訳の取り組みなどにより評価。

### 【テキスト】

オリジナルテキストを授業開始時に配布、およびオンライン配信。

### 【参考文献・資料】

会議通訳（ローデリック・ジョーンズ著 ウィンター良子・松縄順子訳 松柏社）  
英語通訳への道（日本通訳協会編 大修館書店）  
グローバル時代の通訳（水野真木子他 三修社）  
トレンド日米表現辞典（小学館）他

## 産業翻訳特講

長沼 美香子

### 【授業の概要】

翻訳技能のさらなる向上を目標として、英語と日本語の構造的な相違、話法・時制・句読法などについての言語学的知識を演習形式で学ぶ。

### 【授業の目標】

1. 英文和訳と翻訳との違いを明確に区別し、実践できること。
2. 翻訳に必要なリサーチが綿密にできること。
3. 翻訳理論研究の視点が意識できること。

### 【授業計画】

- 第1講：授業概要説明（必ず出席すること）
- 第2講：講義、演習、ディスカッションを通して、翻訳の理論と実践を習得
- 第3講：基本理念について
- 第4講：応用（1）
- 第5講：応用（2）
- 第6講：応用（3）
- 第7講：実践（1）
- 第8講：実践（2）
- 第9講：実践（3）
- 第10講：実践（4）
- 第11講：実践（5）
- 第12講：レポートについて

### 【評価方法】

出席（意欲）、演習、課題提出等を総合して評価する。

### 【テキスト】

プリント配布（翻訳関連の書籍をクラスにて指定する場合もある）

### 【参考文献・資料】

In Other Words (Mona Baker 著 Routledge)  
Introducing Translation Studies (Jeremy Munday 著 Routledge)



## 19世紀の文学

横田和憲

## 【授業の概要】

アメリカの独立、ヨーロッパの市民革命を経て、自然への愛と想像力の回復によって結実した19世紀の文学を、イギリス・アメリカを中心に考察する。

## 【授業の目標】

アメリカ文学における<イヴ>の系譜をメインテーマにし、アメリカ文学について考えてみる。「アメリカのアダム」に比べ「アメリカのイヴ」のイメージが今一つ鮮明なのはなぜなのか、この謎の解明を目標にしたい。

## 【授業計画】

- 1 はじめに
- 2 アメリカ文学の流れ
- 3 アメリカ文学のテーマ一覧
- 4 アメリカ文学研究の意義
- 5 アメリカのイヴ
- 6 C.P.S.Gilman について
- 7 \_The Yellow Wallpaper\_(1)
- 8 \_The Yellow Wallpaper\_(2)
- 9 \_The Yellow Wallpaper\_(3)
- 10 \_The Yellow Wallpaper\_(4)
- 11 \_The Yellow Wallpaper\_ についての研究論文(1)
- 12 \_The Yellow Wallpaper\_ についての研究論文(2)
- 13 \_The Yellow Wallpaper\_ についての研究論文(3)
- 14 まとめ

## 【評価方法】

授業参加度30%、学期末のレポート70%。

## 【テキスト】

適宜プリントを配布する。

## 【参考文献・資料】

授業の中で詳述していく。

## 環境と開発

高島忠義

## 【授業の概要】

開発を経済成長と同義の概念と捉えていた時代から女性の参加などを含む社会開発、さらには人間開発へという開発理論の変遷について検討する。

## 【授業の目標】

日本のODAの歴史とその内容的な特徴について概説した後、その問題点を考察する。

## 【授業計画】

前半の授業では、開発理論の系譜を辿った後、日本の戦後のODAの特徴として戦後賠償との関連性や日本経済との関係などについて検討する。後半には、日本のODAの問題点として、地域的な偏り、贈与率の低さ、環境への影響などについて考察する。

## 【評価方法】

授業への出席と発表。

## 【テキスト】

特にテキストは指定せず、授業で適宜必要な資料等を配布する。

## 20世紀の文学

横田和憲

## 【授業の概要】

激動の20世紀を背景としたイギリス・アメリカの文学を、国際的視点から考察する。

## 【授業の目標】

人間の生存を根底から脅かし、人間の尊厳、すなわち人間の精神性を危機に晒し、同時に色々な意味で人類そのものが存続をさえ不可能にしてしまう状況をユダヤ系の作家たちは、鋭敏に洞察し、把握し、文学作品という形で確かな表現を与えている。<ユダヤ的道化 [シュレミール (SCHLEMIEL)] >とは何ぞや、この謎を解き明かしてみたい。

## 【授業計画】

- 1 はじめに
- 2 3代のアメリカ文学史
- 3 多彩なアメリカ文学
- 4 アメリカ文学研究の視点
- 5 ユダヤ系アメリカ文学
- 6 Jewish Writers について
- 7 Bernard Malamud
- 8 Saul Bellow
- 9 Isaac Bashevis Singer
- 10 Philip Roth
- 11 ユダヤ系アメリカ文学についての研究論文 (1)
- 12 ユダヤ系アメリカ文学についての研究論文 (2)
- 13 ユダヤ系アメリカ文学についての研究論文 (3)
- 14 まとめ

## 【評価方法】

授業参加度30%、学期末のレポート70%。

## 【テキスト】

適宜プリントを配布する。

## 【参考文献・資料】

授業の中で詳述する。

## ジェンダーと開発

中西久枝

## 【授業の概要】

ジェンダーと開発について基礎的知識を身につけ、現実の開発問題においてジェンダーの問題がどのような実態として存在しているか、またジェンダー的視点から開発支援を実施するために必要な知見と手法について学ぶ。

## 【授業の目標】

「開発におけるジェンダー」(WID) から「ジェンダーと開発」(GAD) および「ジェンダーの主流化」への理論的変遷を学ぶ一方、理論と現実のギャップを事例により理解する。

## 【授業計画】

- 1) ジェンダーとは何か、フェミニズムの視点との違いについて
- 2) 開発支援の基礎知識
- 3) 途上国及び先進国でおこっているジェンダー差別の問題
- 4) 「開発におけるジェンダー」の枠組みの様々なアプローチ法
- 5) 「ジェンダーと開発」(GAD)の枠組みによる支援策
- 6) 「ジェンダーの主流化」戦略の枠組みと実践についての現状と課題
- 7) 「見えない労働」、インフォーマル経済と経済発展
- 8) 教育とジェンダー
- 9) 環境とジェンダー
- 10) リプロダクティブ・ヘルスとジェンダー
- 11) エンパワーメント・アプローチとエンタイトルメント・アプローチ
- 12) 国家、NGO、国際機関の連携と調整について
- 13) 21世紀の開発支援・協力とジェンダーの課題

## 【評価方法】

レポートによる評価50%、授業中の参加・報告50%とする。

## 【テキスト】

開発とジェンダー (田中由美子・大沢真理。伊藤るり編著 国際協力出版会 2002年)

## 【参考文献・資料】

別途指示・配布する。

## 国際観光マネジメント

加納和彦

### 【授業の概要】

「国内旅行業務取扱管理者試験」の試験科目である「法令」「約款」「国内旅行実務」のそれぞれを体系的に学ぶことによって、国際観光マネジメントへの理解を深める。

### 【授業の目標】

「国内旅行業務取扱管理者試験」の受験、合格を最終目標に置きながら、旅行会社におけるマネジメントの一端を身に付ける。

### 【授業計画】

- 1) 国内旅行実務・国内観光資源
- 2) 国内旅行実務・国内運賃料金1
- 3) 国内旅行実務・国内運賃料金2
- 4) 国内旅行実務・国内運賃料金3
- 5) 旅行業約款1
- 6) 旅行業約款2
- 7) 旅行業約款3
- 8) 旅行業約款4
- 9) 旅行業法1
- 10) 旅行業法2
- 11) 旅行業法3
- 12) 旅行業法4
- 13) 各種約款
- 14) 各種約款
- 15) まとめ

### 【評価方法】

出席状況と課題提出により評価する。

### 【テキスト】

旅行管理者試験2008〔国内〕短期完成（エフィカス）

### 【参考文献・資料】

授業の中で適宜紹介する。

## 東南アジア交流特講

木村宏恒

### 【授業の概要】

ASEAN諸国それぞれは、先進国との縦型の交流（経済的・政治的・人的）を進めてきた。近年、ASEAN+3（日本、中国、韓国）の枠組みを中心に、東アジア共同体の方向が模索されている。ASEANと米中日およびASEAN相互間の交流の実際を考察する。

### 【授業の目標】

本特講では、まず東南アジア各国の現状を、写真満載のパワーポイントで紹介し、各国の歴史や政治・経済・社会についての理解を深める。そのうえで、中国、アメリカ、ヨーロッパ、日本とのかかわりおよび東南アジア諸国間の関係を、具体例を交えながら講義し、国家間関係にとどまらない東南アジアの国際社会を知る。

### 【授業計画】

1. 東南アジア最大の国インドネシア
2. 東南アジアの北の雄タイ
3. すでに先進国シンガポール、Next NIES第一候補マレーシア
4. 市場経済化するインドシナ三国
5. 東南アジアに背中を見せて付き合うフィリピン
6. 東南アジアの孤児ミャンマーは孤立してどうなってきたか
7. 東南アジアに進出してきた中国人、進出しつつある中国人
8. アメリカと東アジア（および東南アジア）
9. 東南アジア政治エリートの共通の話題はアメリカ留学時代
10. ヨーロッパは東南アジアからどの程度撤退したのか？
11. 東南アジアと日本とのかかわり
12. インドネシアの国境と近隣諸国との関係
13. パーツ経済圏：タイの国境と近隣諸国との関係
14. ASEAN成長の三角地帯：シンガポールの国境と近隣諸国との関係
15. 予備日

### 【評価方法】

出席点、授業中の質問に答えられた回数、レポートで評価する。

### 【テキスト】

毎回、プリント（handout）を配布する。

### 【参考文献・資料】

参考文献は講義の中で紹介する。

## 東アジア交流特講

姜 東局

### 【授業の概要】

近世から今日に至るまでの日中韓の交流のマクロな歴史とともに、3か国の交流が各国のアイデンティティ形成と変容に与えた影響について考察する。

### 【授業の目標】

- 1) 東アジアの交流を捉える多元的視点の獲得
- 2) 東アジアの交流史の知識の習得
- 3) 自国や自己を見つめる地域レベルの客観性の獲得

### 【授業計画】

- 第一回：はじめに－東アジア交流の普遍性と特殊性
- 第二回：近世における東アジア交流1－日・朝の政府間交流
- 第三回：近世における東アジア交流2－中・朝の政府間交流
- 第四回：近世における東アジア交流3－日・朝の民間交流
- 第五回：近世における東アジア交流4－日・中の民間交流
- 第六回：近代における東アジア交流1－中国中心の思想連鎖
- 第七回：近代における東アジア交流2－条約の成立と近代的な交流の始まり
- 第八回：近代における東アジア交流3－日本中心の思想連鎖
- 第九回：近代における東アジア交流4－戦争の時代の始まり
- 第十回：20世紀における東アジア交流1－帝国における文化の還流
- 第十一回：20世紀における東アジア交流2－日・中間の交流
- 第十二回：20世紀における東アジア交流3－日・韓間の交流
- 第十三回：20世紀における東アジア交流4－中・韓の交流
- 第十四回：東アジア交流の現状と展望
- 第十五回：まとめと試験

### 【評価方法】

レポート：30%、期末試験：70%、授業中の討論と質疑応答による加算点あり。

### 【テキスト】

講義で配布するレジュメによる。

### 【参考文献・資料】

思想課題としてのアジア：基軸・連鎖・投企（山室信一著 岩波書店）  
東アジアの王権と思想（渡辺浩著 東京大学出版会）  
The clash of empires（Lydia H. Liu Harvard University Press）  
岩波講座「帝国」日本の学知 全8巻（酒井哲哉他著 岩波書店）

## 韓国・朝鮮語

伊 大辰

### 【授業の概要】

韓国語の文法や構文などについての基礎的知識をすでに習得している者を対象として、より円滑なコミュニケーション能力の育成と、報道文や論文などを正確に読み取る力の育成および作文力を高めることを目指して、演習形式で学ぶ。

### 【授業の目標】

新聞や雑誌および学術論文などの読解力向上と自己表現能力の涵養。

### 【授業計画】

- |           |                      |
|-----------|----------------------|
| 第1回～第4回   | 新聞・雑誌などの講読           |
| 第5回～第8回   | 小説・論文などの講読           |
| 第9回～第12回  | 映画・ドラマのシナリオからの会話表現演習 |
| 第13回～第14回 | 作文演習                 |
| 第15回      | 期末試験                 |

### 【評価方法】

期末試験50%、レポート30%、出席率・平常点20%を加味して総合的に判断する。

### 【テキスト】

プリント教材

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業中に指示する。

## ロシア語

IAMADZAKI Tatiana

## 【授業の概要】

ロシア語の文法や構文などについての基礎的知識をすでに習得している者を対象として、より円滑なコミュニケーション能力の育成と、報道文や論文などを正確に読み取る力の育成および作文力を高めることを目指して、演習形式で学ぶ。

## 【授業の目標】

ルーネットこと、ロシアインターネットの記事の使用によって現代ロシア語の理解と読解力を目指す。

## 【授業計画】

テーマ毎にキーワードを決め、それらを含めた小記事を和訳しながら内容について討論する。

1. ロシア語のインターネット用語入門
2. ロシア語のインターネット新聞
3. グローバル的に見るロシアの位置
4. ロシアの国内政治、その1、国会
5. ロシアの国内政治、その2、野党の特色
6. ロシアと旧ソ連の隣国、ヨーロッパ地方
7. ロシアと旧ソ連の隣国、コーカサス地方
8. ロシアと旧ソ連の隣国、アジア地方
9. EUとロシア
10. アメリカとロシア
11. 日本とロシア
12. 中国とロシア
13. 現ロシアに見る「ソビエトのなごり」
14. モスクワと地方との格差
15. 北方の星、ベテルブルグ市

## 【評価方法】

平常点（定められた露文の予めの和訳と小テスト）50%、定期試験（ペーパーテスト）50%

## 【テキスト】

教師が用意するプリント

## 【参考文献・資料】

露和・和露辞典

081269001\_1270 掲載順:1270

MASTER ▲

## タイ語

SAWETAIYARAM Tewich

## 【授業の概要】

タイ語の文法や構文などについての基礎的知識をすでに習得している者を対象として、研究や実践活動に必要な読解力、会話力を身に付けることを目指し、演習形式で学ぶ。

## 【授業の目標】

タイ語の基礎を学ぶための科目である。バランスよくタイ語を学べるよう、基礎文法の学習だけではなく、日常会話の練習や平易な文章の読解も行う。併せて、文化・社会、歴史など背景的知識を学習するということによりタイ語の諸相を理解してもらいたい。

## 【授業計画】

- 書記法 ... タイ語の文字を理解し、確実にかつ美しく書けるようにする。  
発音 ... タイ語の母音と子音を正しく発音し聞き分けられるようにする。特に、日本語にないものの区別になれるように練習する。  
文法 ... 初歩的文法を学習する。文法事項は、名詞文、動詞文、形容詞文などの平叙文から勉強する。次に、疑問文、否定文、勧誘文、依頼文を勉強する。  
口頭能力... 典型的なあいさつ表現などを適切に使えるようにする。

## 【評価方法】

出欠状況、小テスト（あるいはレポート）

## 【テキスト】

必要な資料を配布する。

081269001\_1280 掲載順:1280

MASTER ★

## ベトナム語

NGUYEN Anh Phong

## 【授業の概要】

ベトナム語の文法や構文などについての基礎的知識をすでに習得している者を対象として、研究や実践活動に必要な読解力、会話力を身に付けることを目指し、演習形式で学ぶ。

## 【授業の目標】

1. ベトナム語の文法と構文の特徴を理解すること。
2. 必要な会話力を身につけること。

## 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（授業の目標、テキスト・資料、評価方法）
- 第2回 ベトナムの概要（地理、歴史）
- 第3回 ベトナム語の概要
- 第4回 ベトナム語の音声・音韻の特徴
- 第5回 文法的特徴
- 第6回 ベトナム語における漢語、借用語
- 第7回 ベトナム語の品詞（1）
- 第8回 復習
- 第9回 ベトナム語の品詞（2）
- 第10回 ベトナム語の品詞（3）
- 第11回 ベトナム語の構文（1）
- 第12回 ベトナム語の構文（2）
- 第13回 ベトナム語の構文（3）
- 第14回 まとめ
- 第15回 テスト

## 【評価方法】

出席、テストまたはレポート

## 【テキスト】

『ヴェトナム語の世界』東京大学書林 2000

## 【参考文献・資料】

1. 池田浩明（2006）『ベトナム ベトナム料理』（食べる指さし会話帳）情報センター出版局
2. 窪田守弘（2007）『映画でベトナム』南雲堂フェニックス
3. 皆川一夫（2005）『くらしのベトナム語ハンドブック』国際語学社

## フランス語

清水ベアトリックス

## 【授業の概要】

フランス語の文法や構文などについての基礎的知識をすでに習得している者を対象として、より円滑なコミュニケーション能力の育成と、報道文や論文などを正確に読み取る力の育成および作文力を高めることを目指して、演習形式で学ぶ。

## 【授業の目標】

教材(プリント)を基にして、フランス語の文法の基礎を学ぶ(または復習する)。文法のポイントを深めるため、「読む」、「書く」、「話す」練習をする。フランスに対する知識を深めるためテレビや新聞で報道されたフランスに関する時事問題の中で特に学生の関心を引くようなものを選んで、解説する。

## 【授業計画】

- 発音のルール
- 名詞、冠詞、形容詞
- 動詞：人称代名詞、規則動詞の活用
- 否定文、疑問文、疑問詞
- 所有形容詞、指示形容詞
- 過去形
- 目的語人称代名詞
- 代名動詞、比較級
- 関係代名詞を使った文
- 直接法、受動態
- 条件法
- 接続法

## 【評価方法】

出席状況、授業態度、学期末テストを総合してきに評価する。

## 【テキスト】

プリント

## 【参考文献・資料】

- 現代フランス情報辞典
- キーワードで読むフランス社会
- フランスを知る―新フランス学―入門（東京都立大学フランス文学研究室）
- 変貌するフランス（西永良成 日本放送出版協会）

## 関連科目特講 I

中野弘三

### 【授業の概要】

コミュニケーションプログラムが対象とする領域を多角的に考察する。

### 【授業の目標】

1. 社会の状況や社会のあり方が言語にどのように反映されているかを理解する
2. 言語と言語使用者の意図や文化の関係を理解する。

### 【授業計画】

<言語と社会>

1. コミュニケーションの場の分析
2. Politeness
3. 言語とGender

<言語の表現力・言語と文化>

4. Metaphor, Metonymy
5. Hedge
6. 言語と文化の関係

### 【評価方法】

平常点、課題などにより評価する。

### 【テキスト】

プリントを使用。

### 【参考文献・資料】

*Pragmatics* (1996 G. Yule / Oxford University Press)  
*Women, Men and Politeness* (1995 J. Holmes / Longman)  
*Minimum Essential Politeness: A Guide to the Japanese Honorific Language* (1991 A.M. Niyekawa / Kodansha International)  
*Language and Culture* (1998 C. Kramersch / Oxford University Press)  
*Cognitive Linguistics: An Introduction* (2001 L. David / Oxford University Press)

本年度は開講せず

## 関連科目特講 III

### 【授業の概要】

文化研究探求プログラムが対象とする外国文化・文学に関連した領域を多角的に考察する。

## 関連科目特講 II

高橋美由紀

### 【授業の概要】

ランゲージスタディーズプログラムおよび外国語教育プログラムが対象とする英語・日本語・中国語への言語学アプローチ、または教育的アプローチに関連した領域を多角的に考察する。

### 【授業の目標】

外国語教育プログラムにおいて、言語学アプローチ、または教育的アプローチに関連させるために、小学校英語教育の理論に裏付けされた実践を指導できる人材を育成することを目標としている。

### 【授業計画】

1. オリエンテーション：小学校英語活動と児童英語教育
2. 「総合的な学習の時間」の枠組みの中での小学校英語活動、国際理解教育
3. アジア諸国、ヨーロッパ諸国での小学校英語教育の取り組み
4. 文部科学省「小学校英語活動実践の手引き」を読む
5. 小学校における英語（外国語）教育の目的と意義、研究開発校の事例研究等から
6. 小学校英語活動における学習者に対する効果的な教授法
7. 早期外国語教育プログラム（イマージョン、FLES、FLEX）
8. 小学校英語の指導者について・ALTとのTT授業について
9. 発達段階に応じた効果的な英語活動・中学校の英語教育との連携について
10. 小学校英語活動の教材・教具・設備について
11. 小学校英語活動の視覚教材・聴覚教材研究
12. 小学校英語活動のコンピュータ教材やビデオ教材の研究
13. テキストと授業計画、指導案の書き方について
14. 模擬授業の具体例と指導案（その1）
15. 模擬授業の具体例と指導案（その2）、まとめ

### 【評価方法】

テストは実施しない、出席状況、授業態度、課題レポート、模擬授業

### 【テキスト】

小学校英語活動実践の手引き（文部科学省 開隆堂出版）  
 Sunshine Kids Book 1（山岡多美子・高橋美由紀 開隆堂出版）  
 Sunshine Kids Book 2（高橋美由紀・山岡多美子 開隆堂出版）  
 Curtain, H & C.A. Dahlberg 2004 Languages and Children: Making the Match: Third Edition (Pearson)  
 その他、絵本、カセット、CD、文献等は授業内に紹介する。

### 【参考文献・資料】

*English for Primary Teachers: A handbook of activities & classroom language* (Slattery, M. & J. Willis Oxford 2003)

本年度は開講せず

## 関連科目特講IV

### 【授業の概要】

国際社会貢献プログラムが対象とする国際協力や国際協力に関連した領域を多角的に考察する。

## 関連科目特講 V

小松 諄悦

### 【授業の概要】

地域文化交流プログラムが対象とする東アジアおよび東南アジアの文化交流を多角的に考察する。

### 【授業の目標】

日本と東アジア、東南アジアとの間の国際関係の歴史的背景と現状を考察した上で、日本とそれぞれの地域との間の文化交流について、その政策と実践について理解する。

### 【授業計画】

- 第1回 授業の概要
- 第2回 日本と東南アジア諸国との関係 (1) (インドネシア、タイなど)
- 第3回 日本と東南アジア諸国との関係 (2) (ベトナム、ミャンマーなど)
- 第4回 日本と中国との関係
- 第5回 日本と韓国との関係
- 第6回 日本東南アジア、東アジアとの文化交流の歴史 (1)
- 第7回 同 (2)
- 第8回 日本と東南アジア諸国との文化交流政策 (1)
- 第9回 同 (2)
- 第10回 日本と中国との文化交流政策
- 第11回 日本と韓国との文化交流政策
- 第12回 日本と東南アジア諸国との文化交流の実践
- 第13回 日本と中国との文化交流の実践
- 第14回 日本と韓国との文化交流の実践
- 第15回 まとめとレポート

### 【評価方法】

- 出席、授業中の小レポート 20%
- 期末レポート 80%

### 【テキスト】

特になし。

### 【参考文献・資料】

授業でレジュメを配布する。

## 関連科目特講 VI

貝澤 哉

### 【授業の概要】

文化翻訳プログラムが対象とする文化翻訳および異文化理解に関連した領域を多角的に考察する。

### 【授業の目標】

「文化的テキストを読み解くための基礎理論」——この授業は、①「物語」と「終末」、②「声」と「歌」、③映像・イメージ：視覚と身体、④「食物」と「ゴミ」、⑤「探偵」、⑥「女性の身体」などのテーマを手がかりとしながら、文化的テキストを読み解くための基礎となる理論をなるべくわかりやすく紹介することを目的とする。

### 【授業計画】

- ①「物語」と「終末」——アニメ、ゲームや文学、映画、宗教、恋愛などの文化的生産物を例に、なぜ物語はあるのか、なぜそれは文化にとって必要なのかを考える。
- ②「声」と「歌」——歌における、人間の肉声と歌詞（言葉）そしてメロディ・リズムとの関係を考察し、言葉、声、音楽がなぜ融合されるのかを考える。
- ③視覚と身体——視覚イメージがたんに光学的なものではなく、人間の欲望や権力、身体性や自我の整形に深くかかわっていることを、美術、映像作品をもとに考える。
- ④「食物」と「ゴミ」——食べること（摂取）とゴミを出すこと（排泄）という身体の基本的機能が、文化における同一化と排除に関係していることを探る。
- ⑤「探偵」——「見る、覗く」という身体的行為と、手がかりを「読み解く」という記号的行為が交差する探偵のあり方について考える。
- ⑥「女性の身体」——フェミニズム以後の女性の身体性の基本的とらえ方を概観するとともに、初期ソ連文化における特異な女性イメージを検討する。

### 【評価方法】

レポートにより評価する。

### 【テキスト】

教場で配布する。

### 【参考文献・資料】

教場で文献表を配布する。



## グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究1 (英語文法論)

中野弘三

## 【授業の概要】

英語の特徴を統語論・意味論・語用論などの側面から理論的に考察し、実践的な研究指導を行う。

## 【授業の目標】

英文法研究に必要な統語理論、意味理論、語用論についての専門的な知識を身につけるとともに、他言語と異なった英語の言語的特徴を十分に把握することを旨とする。

## 【授業計画】

(前期) 統語論に関する生成文法理論、機能主義文法など最近の文法理論についての知識を深め、英語の統語構造の分析に役立てる。また、英語の統語構造の通時的な変化についても知識を深める。

(後期) 語彙意味論、認知意味論など最近の意味理論が英文法研究どのよに貢献できるかを考察する。さらに、最近の語用論研究の成果を踏まえて、会話の場面で用いられる英語のぼかし言葉(hedge)、丁寧表現、談話標識の機能を考察する。

## 【評価方法】

平常点、課題などにより評価する。

## 【テキスト】

プリントを使用。

## 【参考文献・資料】

*Government and Binding Theory and the Minimalist Program* (1995 G. Weibelhuth ed./Blackwell)  
*Natural Language Semantics* (2001 K. Allan / Blackwell)  
*An Introduction to Functional Grammar* (2nd Edition) (1994 M.A.K. Halliday / Arnold)  
*Doing Pragmatics* (2nd Edition) (2000 P. Grundy / Arnold)

## 本年度は開講せず

## グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究3 (社会言語学)

## 【授業の概要】

英語の特徴を社会言語学的の立場から理論的に考察し、実践的な研究指導を行う。

## グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究2 (言語習得)

樗木勇作

## 【授業の概要】

幼児の言語獲得や第二言語習得の仕組みを理論的に考察し、実践的な研究指導を行う。

## 【授業の目標】

言語獲得理論や第二言語習得理論研究の主な研究動向を把握し、近年の言語学の手法や接近法を用いて自説を展開できるようにすることを目標とする。

## 【授業計画】

受講者の研究テーマ・研究内容により踏まえておくべき研究論文等を輪読し議論の対象とする。毎回の授業における議論から研究テーマを見いだせるよう工夫する。

## 【評価方法】

以下に挙げる観点で総合的評価を行う。

- 1) 取り扱う研究テーマに関する幅広い基礎的理解 (25%)
- 2) 先行研究論文等の正確な読解と評価 (25%)
- 3) 授業における議論への主体的・能動的参加 (25%)
- 4) 自律した研究にむけた論文執筆態勢 (25%)

## 【テキスト】

受講者と相談の上決定する。

## 【参考文献・資料】

適宜指示する。

## グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究4 (コミュニケーション)

McDANIEL, Edwin R.

## 【授業の概要】

日本文化とアメリカ文化の比較検討を通して、コミュニケーションのあり方を理論的に考察し、実践的な研究指導を行う。

## 【授業の目標】

Special research in global cultures communication is designed to facilitate in depth exploration of a communication topic of interest. Through student-instructor interaction, the student will be guided in applying philosophy of knowledge concepts to a selected research topic.

## 【授業計画】

Topics examined may include, but will not be limited to, the following, which will be explored from the perspective of the student's specific communication research interest.

- o Ontology
- o Epistemology
- o Axiology
- o Methodology
- o Theoretical paradigms
- o Theoretical application
- o Research resources

The student will be guided through the research process, which will include topic selection, literature review, hypothesis construction, data collection, and analytical methods

## 【評価方法】

Progress will be assessed through periodic student-instructor discussions and a comprehensive research paper on the student's selected topic.

## 【テキスト】

A reading list will be constructed jointly by the student and the instructor. Reading materials will be drawn from relevant journal articles, books, and other sources as may be decided by the student and the instructor.

## グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究5 (英語教育)

松本青也

### 【授業の概要】

日英対照言語学や第二言語習得理論、社会言語学の立場から日本の英語教育のあり方について理論的に考察し、実践的な研究指導を行う。

### 【授業の目標】

研究分野の新しい研究成果に幅広く触れて考察を深めながら、各自の研究テーマに沿って学位論文作成を目指した指導を行う。

### 【授業計画】

幾つかのトピックについて内外の研究成果に批判的考察を加えながら、三年間にわたり、各自の研究課題と仮説設定、文献研究、リサーチデザイン、データ収集・分析など、学位論文の完成までの様々な段階について指導を行う。

### 【評価方法】

発表内容と論文を含め、一年間の研究活動を総合的に評価する。

### 【テキスト】

適宜資料配布。

## グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究6 (中国語教育)

馮 富榮

### 【授業の概要】

日本語と中国語を統語論、語用論、語彙論の側面から比較検討するとともに、中国語教育のあり方について理論的に考察し、実践的な研究指導を行う。

### 【授業の目標】

本講義を受講することによって、日本語と中国語に関する幅広い知識を得られると共に、両言語の違いを生み出している文化的背景を深く探求する力が培われる。さらに、日本の大学中国語教育に置ける問題点に突き止め、中国語教育のあるべき将来像を探ることができればと期待している。

### 【授業計画】

本講義では、日・中両言語について、主として統語論、語用論、語彙論という3つの側面から検討する。輪読という形で講義を進めていくが、先行研究を幅広く講読する。そしてディスカッションを交えながら先行研究に残っている問題点や日・中両言語のそれぞれの特徴、両言語を機能させている文化的背景、そして両言語の相違点を生み出した歴史的な原因、思考様式の相違による原因などについても議論する。

本講義では、また日本の大学での中国語の教育についても検討する。具体的に言うと、今の日本の大学における中国語教育には、どのような問題点(教材、やカリキュラムの編成、そして教育の方法や教育目標の設定など)があるか、その問題点を解決するにはどうすればよいか、今後の日本の大学における中国語教育をどう展開させるべきか、そして日本人を対象とする中国語教育の特色はどこにあるかを検討していきたい。

要するに、本講義は中国語の教育者と日・中両言語の比較に関する研究者を養成することを目的としている。

### 【評価方法】

受講態度やレポートなどで総合的に評価する。

### 【テキスト】

#### 【教材】

論文のコピーなど使用する。

### 【参考文献・資料】

中国語学 日本中国語学会

## グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究7 (日本語教育)

山内啓介

### 【授業の概要】

日本語学、日本語教育文法学、マルチメディアを用いた教育と学習などの立場から日本語教育のあり方について理論的に考察し、実践的な研究指導を行う。

### 【授業の目標】

言語研究の方法を実践する。

### 【授業計画】

1年次では、日本語教育をめぐる状況についてとりあげ、日本語が必要とされる要因を分析する。あわせて、日本語による発想、日本語の文化がもたらすコミュニケーションの問題を議論し解決を得る。

2年次では、各自の選ぶテーマをもとに研究立場、研究手法を設定し、方法論、文献探索についての指導を行う。研究発表など、プレゼンテーションの機会を得て自らの論点を深化させる。

3年次では、自らの論考の関連テーマについて論を展開し、研究を進める。学位の取得に向けて、博士論文の指導を行う。

以上について個別指導する。また、受講生の希望を取り入れ、日本語教育の実践的教授方法の追求を行いたい。

### 【評価方法】

論文作成のための課題レポート、また議論の参加など。

### 【テキスト】

特に定めない。

### 【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

## グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究8 (イギリス)

久野幸子

### 【授業の概要】

イギリスの歴史・文学の特色を分析しながらイギリス文学作品を理論的に考察し、実践的な研究指導を行う。

### 【授業の目標】

今年度はイギリス文学における小説、とくに女性作家とイギリス小説との関係を考察する。18世紀後半から19世紀前半期にかけて、なぜ、多くの女性作家が輩出したのか、そして、その現象が社会にどのような影響をもたらしたのか、を中心に、さまざまな観点から考察する。

### 【授業計画】

以下の項目を考察する。(1)女性と文学ジャンル(2)女性とその文学的特質(3)女性をとりまく社会環境。作家としては、ジェイン・オースティン、シャーロット・ブロンテ、ジョージ・エリオットを扱う予定である。

### 【評価方法】

平常点(出席、受講態度など)とレポート等で総合的に評価する。

### 【テキスト】

未定

### 【参考文献・資料】

授業中に指示する。

## グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究9 (アイルランド)

大野光子

## 【授業の概要】

アイルランドの歴史・文学の特色を分析しながらアイルランド文学作品を理論的に考察し、実践的な研究指導を行う。

## 【授業の目標】

テキスト読解・分析・批評とともに、共通する課題としてポストコロニアリズム批評およびジェンダー批評を視野におきつつ、20世紀以後のアイルランド文化・文学研究を進める。あわせて、論文執筆、翻訳、編集、校正等の実践的指導も行う。

## 【授業計画】

今年度は特に現代詩と短編小説に重点をおいて、前期には受講生の選択する研究対象に即した様々なテキストの読解・批評を行い、後期にはこれに基づいた論文執筆等に関わる作業を加えていく。

## 【評価方法】

出席と平常点および執筆論文による。

## 【テキスト】

教室にて提示する他、プリント等を使用。

## 【参考文献・資料】

*The Cambridge Companion to W.B. Yeats* 他

## グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究10 (アメリカ)

太田直子

## 【授業の概要】

アメリカの歴史・文学の特色を分析しながらアメリカ文学作品を理論的に考察し、実践的な研究指導を行う。

## 【授業の目標】

アメリカ20世紀の詩、小説を取り上げ、文化的背景を考察し、作品分析・考察を行なう。  
CatherとCraneの作品を取り上げて、各々の批評を読むことはもちろん、二作品を比較する。

## 【授業計画】

- 1 : Willa Cather の *The Professor's House* を読む。  
さらに、CatherのRomanticism等についての批評をよみ、作品の分析を行なうとともに、描かれたAmerican Dreamについて考察する。
- 2 : Hart Craneの *The Bridge* を読む  
詩の分析をはじめ、批評を読む
- 3 : Cather とCraneの比較研究をおこなう。

## 【評価方法】

学期末にレポートを提出。授業内での発表と合わせて評価する。

## 【テキスト】

*The Professor's House* (Willa Cather),  
*The Bridge* (Hart Crane, Liverlight)  
プリント配布

## 【参考文献・資料】

授業内で提示する

## グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究11 (アジア)

窪田守弘

## 【授業の概要】

東アジア漢字文化圏の文化的特色を多角的に考察し、実践的な研究指導を行う。

## 【授業の目標】

日本人は日常生活の様々な場面で日本語を母語として使っているが、異文化圏の人々とのコミュニケーションの方法論において、いくつかの問題点を抱えている。そこで、本講義ではアジア文化圏を中心にして、グローバルな視点から日本人のコミュニケーションの在り方について考えていくことにする。

## 【授業計画】

日本語表現の実態を知る一つの方法として、著名な文学作品や映画作品における会話部分を抜き出し、それを談話分析することによって、日本人の思考や行動パターンを明らかにする。

## 【評価方法】

講義における授業態度、発表やレポートの内容、出席状況によって評価する。

## 【テキスト】

特に指定しない。

## 【参考文献・資料】

講義時に紹介する。

## 研究技法 I (データ解析)

太田浩司

## 【授業の概要】

この講義では調査によって収集されたデータをSPSSという統計パッケージを利用して解析する手法を紹介する。扱う統計手法は記述統計、ピアソン積率相関、T-検定、分散分析、重回帰分析を予定している。特にデータ分析の結果の読み方と解釈の仕方に焦点を置く。講義の詳しい内容は最初の授業で知らせる。

## 【授業の目標】

社会で起こる様々な事象を数値化をして理解するという調査法の基礎を身につけることを目標としている。

## 【授業計画】

1. 研究者としての心構え：研究の意義、研究者倫理、社会への貢献と責任、理論構築の重要性などについての理解を深める。研究目的のエクササイズと理論探求エクササイズを行う。
2. 研究方法概観：質問紙、インタビュー、観察法、実験法の特徴を概観することにより自らが使用する研究方法に対する理解を深める。
3. データ解析：記述統計や推測統計、さらにピアソン積率相関、T-検定、分散分析、重回帰分析などの分析法について演習を通して理解を深める。
4. 論文・報告書の作成：与えられたデータを研究課題や仮説などを基に分析し、論文としてまとめる練習をする。

## 【評価方法】

出席、理論探求エクササイズ、データ分析エクササイズ(チームペーパー)

## 【テキスト】

特になし

## 【参考文献・資料】

最初の授業で紹介する

## 地域社会特別講義 I (地域問題論)

石田好江

## 【授業の概要】

現在は1970年代の「地方の時代」に対し、「新しい地方の時代」だといわれる。その象徴が地方分権化である。本講義では、地方分権化と、それを契機に認識が高まりつつある地域づくり・住民自治をキーワードに、環境問題、地域福祉、就業問題等を取り上げ、「新しい地方の時代」における地域社会の構造と課題を明らかにする。

## 【授業の目標】

- (1) 「新しい地方の時代」とは何か、何が転換されたのかを理解する。
- (2) その上で講義の中で紹介する多くの事例を通して、受講者自身が地域社会の課題を発見し、その解決のための政策提案を行う。

## 【授業計画】

- 1) はじめにー地域研究の系譜と方法
- 2) 地域の歴史的把握
- 3) 地方分権化
- 4) 地域づくりと地方自治I
- 5) 地域づくりと地方自治II
- 6) 地域福祉政策
- 7) 高齢社会とまちづくり
- 8) 地域と環境問題I
- 9) 地域と環境問題II
- 10) 立地競争と地域経済
- 11) 地域と就業構造I
- 12) 地域と就業構造II
- 13) まとめ

## 【評価方法】

レポートを課す。評価のポイントについては授業にて説明する。

## 【テキスト】

未定。

## 【参考文献・資料】

授業の中で適宜紹介する。

## 研究技法 III (質問紙調査法)

榎原國城

## 【授業の概要】

この授業の主題は、現代社会における様々な問題に対し、科学的な視点に基づいて対処できる基本的な技能を身につけることである。具体的には、担当者が長年学んできた心理学において用いられてきた、科学的資料の収集法としての質問紙調査法の体得である。すなわち、受講学生自身が、質問紙調査法の基礎的な考え方を理解し、その実際を段階的に体験することにより、科学的方法の適用能力を身につけることをねらいとしている。

多くの人々に共通する問題の発見や解決を図る際に、それらの人々に共通する行動の仕方や考え方、興味・関心の方向などを的確にとらえることが必要になる。研究方法としての質問紙調査法の意義はまさにこの点にある。すなわち、多人数を対象として同一質問に対する回答を求め、それらを分類し、分析する手法が質問紙調査法である。

授業内容は、受講学生の設定したテーマに基づく調査票の作成・調査実施・回収・集計・分析・報告書作成までの全過程の演習を中心とする。

## 【授業の目標】

調査報告書の完成およびプレゼンテーション。

## 【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 調査計画立案
3. 調査票作成と調査実施
4. 調査結果の分析
5. 報告書の作成

## 【評価方法】

調査報告書の内容によって評価する。なお、演習への参加態度の逐次評価をも行う。

## 【テキスト】

授業中に指示する。

## 【参考文献・資料】

授業中に指示する。

## 地域社会特別講義 II (地域交通論)

辻 紘良

## 【授業の概要】

地域交通を対象に、その問題や所在を明らかにするとともに、問題の解決に向けて、交通の情報通信ネットワークの視点から将来の地域づくりのあり方について考察する。

ここでは、情報技術や通信技術の進展を背景に、その可能性や将来性に期待の寄せられているITS技術を取り上げ、その現状を把握するとともに、地域交通への適用の効果や問題解決の方策を探る。また、地域やまちづくりの観点から新しい移動通信システムの可能性の展望とシステム設計の検討を試みる。

\*ITS = Intelligent Transport Systems(高度道路交通システム)

## 【授業の目標】

1. 地域交通体系の現状を把握するとともに問題点や解決策を展望する。
2. 交通の地域分析方法を展望し、分析事例を通して修得する

## 【授業計画】

情報化社会における地域作りに向け、ITSの視点による地域交通の整備の効果と可能性、ならびにシステム提案を議論する。

1. 地域交通の問題と課題
  - 資料、統計等に基づき地域交通の現状と課題を抽出する。
2. 地域交通の情報化
  - ITSを地域交通へ適用したときの効果や問題解決の方策を探る。
3. ITSの可能性
  - ITSの視点からみた地域交通の高度化やまちづくりの可能性に言及する。
4. システム提案
  - 地域やまちづくりの観点から新しいITSシステム設計の提案を試みる。

講義と並行に最近のITS関連論文を読解し、地域交通システムの普及例や実験例を相互に提示し理解を深める。

## 【評価方法】

課題の提出や発表内容の結果を総合し成績を評価する。

## 【テキスト】

使用せず。

## 【参考文献・資料】

Proceedings of 14th World Congress on ITS (ITS07)、他



## 地域社会特別講義 III (地域開発論)

竹村 弘

## 【授業の概要】

従来の「地方開発」は、中央と地方の経済格差の是正を目的として、主として地方への産業開発・企業誘致により実施されてきたが、今日の新しい「地域開発」は、各地域それぞれが、知恵・金・人を自分たちで出し、誰にも頼らず、自立的に発展するような、自立した「地域づくり」を目的としている。

## 【授業の目標】

従来の「地方開発」が果たした歴史的役割を評価し、現在の「地域開発」の課題を研究する。わが国は高度経済成長を遂げ、世界の有数の経済大国となり、人々の関心は「もの」から「こころ」へ移ってきたと言われるが、暮らしやすい、生活の豊かな地域づくりは、いまだその途上にある。「開発か、自然か」は、永遠のテーマである。

## 【授業計画】

講義主体であるが、院生各自の研究との兼ね合いにおいて、可能な限り課題研究と討議を行う。

1. 「地方開発」の光と影。地方での産業開発・企業誘致が成功し、工業都市が大きな発展を遂げる一方で、農山漁村は、衰退産業とともに疲弊し、人口が流出し、過疎問題が発生した。
2. 「水俣病」等の産業公害は、高度経済成長期の地方開発の影であった。今日の自動車排ガスによる道路公害、ゴミやダイオキシンによる環境問題は、暮らしやすい豊かな地域を築く上で暗い影を落す。「自分達の地域は自分達で守れ」は、産業公害の歴史的教訓である。
3. 「過疎」が集落の崩壊まで進んだ「末期過疎」や、地方都市の旧商店街に「新過疎」と呼ばれる空洞化が見られる中で、多くの地域住民が自ら手を携えて、「地域づくり運動」に立ち上がっている。その代表的事例を研究する。
4. 従来のような中央の行政指導・補助金に依存する体制から脱却し、地域の自立を実現するためには、地方分権等の推進と共に、その受け皿となる地方行政や地域住民の意識改革、および、主体的な政策立案ならびに実行能力の涵養が必要である。

## 【評価方法】

課題とレポートおよび討論参加度。

## 【テキスト】

講義の中で適宜提示する。

## 【参考文献・資料】

講義の際に配布する。

080863001\_0070 掲載順:0070

MASTER ★

## 国際社会特別講義 I (国際社会発展論)

藤瀬浩司

## 【授業の概要】

20世紀の経済と社会の発展を、企業組織、国家機能及び世界経済の各側面から検討する。

1. 20世紀経済社会の段階と局面
2. 大型企業体の生成
3. 福祉国家への前進
4. 世界経済の構造

## 【授業の目標】

20世紀資本主義の構造、歴史事象について理解する。

## 【授業計画】

講義形式であるが、質問や討議の時間を適宜とりたい。

## 【評価方法】

レポートによる。

## 【テキスト】

改訂新版 欧米経済史(藤瀬浩司著 放送大学教育振興会 2004)

## 地域社会特別講義 IV (地域文化論)

谷沢 明

## 【授業の概要】

「風土・歴史・文化を生かした地域づくり」をテーマとした事例研究の講義をする。併せて、受講生によるプレゼンテーションも行う。

## 【授業の目標】

個性的な「地域づくり」の在り方を理解するとともに、その応用として自らが取材して事例研究・報告を行う力を養うことを目標とする。

## 【授業計画】

- 1) 地域づくりにおける風土的価値の検討
- 2) 地域づくりにおける歴史的価値の検討
- 3) 地域づくりにおける文化的価値の検討
- 4) 歴史的文化遺産の活用について
- 5) 調査方法(観察調査)の検討
- 6) 調査方法(インタビュー調査)の検討
- 7) 調査方法(文献調査)の検討
- 8) プレゼンテーション作成の手法
- 9) フィールドワークの実施
- 10) フィールドワークのデータ整理とその分析
- 11) フィールドワーク成果のプレゼンテーション

## 【評価方法】

定期試験及び事例研究の成果報告(パワーポイント)による。

## 【テキスト】

使用しません。

## 【参考文献・資料】

第1回目の授業で紹介します。

080863001\_0080 掲載順:0080

MASTER ★

## 国際社会特別講義 II (国際経済システム論)

秦 忠夫

## 【授業の概要】

国際間の経済取引は經常取引(財・サービスの貿易取引)と資本取引に大別されるが、いずれの面でも取引の自由化が進み、世界経済は相互依存関係を深めている。しかし、発展段階の異なる多くの国からなる世界経済においては、取引の自由化には不断の政策努力が必要であり、一方で国際取引の進展に伴って発生する諸問題は市場メカニズムに委ねるだけでは解決できず、国際的な政策対応が不可欠である。戦後の世界経済がどのような制度的枠組みのなかで発展し、どのように問題解決への取組みがなされてきたか検討し、将来に向けての課題について考える。

戦後の国際経済システムを担ってきた三つの主要国際機関、すなわち国際通貨基金、世銀グループおよび世界貿易機関(その前身としてのガット)が果たしてきた役割をレビューし、それぞれが抱える今日の課題を検討する形で主題テーマに迫る。

## 【授業の目標】

検討対象である三つの国際機関の役割の変遷と今日の最重要課題につき理解を深める。

## 【授業計画】

1. 講義が主体となるが質疑応答の時間を十分取り入れたい。
2. 参考文献リストを活用して受講者は独自の研究も行う。
3. 各自指定されたテーマ(選択形式)につきレポートを作成し提出する。

## 【評価方法】

平素の授業への取り組み姿勢と期末レポートで評価。

## 【テキスト】

プリントを配布。

## 【参考文献・資料】

授業の際、適宜紹介。



## 国際社会特別講義 III (国際関係論)

清水 洋

## 【授業の概要】

アジア地域では、1960年代後半以降、韓国、台湾、香港、シンガポールの4ヶ国が輸出志向型政策を導入して急激な工業化を達成したが、1980年代後半にはASEAN4 (マレーシア、インドネシア、フィリピン、タイ) が、さらに90年代には中国やベトナムなどが順に産業の高度化を開始した。本講義では、これらの国の社会経済発展において日本が果たした役割を多角的に考察する。

## 【授業の目標】

アジア経済に関する専門知識を深めるとともに、統計資料や理論を用いて分析能力を養う。

## 【授業計画】

1. 国際経済関係とアジア
2. アジア諸国の経済発展と理論
3. FTAとアセアン・日本関係
4. アジア流通業の国際化
5. アジア観光産業の国際化
6. アジアの建設業、ODA、日系ゼネコン

## 【評価方法】

発表内容および提出レポートで評価する。

## 【テキスト】

シンガポールの経済発展と日本 (清水洋著 コモンズ)

## 【参考文献・資料】

*Japan and Singapore: A Multidisciplinary Approach* (Tsu Yun Hui 編著、McGraw-Hill Education).  
その他、授業中に適宜指示する。

## 国際社会特別講義 IV (比較教育文化論)

渡辺かよ子

## 【授業の概要】

世界における比較・国際教育学研究の最近の水準に即しながら、人間形成の比較・国際的接近を試みる。そのさい、文化的背景と問題解決への試行的実践事例に注目する。

## 【授業の目標】

日本を含む世界の人間形成に関する基礎理論と教育制度の概要から現代の教育課題を理解する。

## 【授業計画】

- 参加者へレポートを課しながら講義を進めていく。
- 1) 教育の近代化と「新教育運動」の展開
  - 2) 第二次世界大戦後の教育改革と脱学校論
  - 3) 近代欧米教育文化と近代日本教育文化との関連と課題
  - 4) 「発展途上国」の教育と文化：識字運動を中心に
  - 5) 地域・学校・企業が連携した教育改革への取り組み

## 【評価方法】

授業での議論への参加貢献度。  
学期末レポート。

## 【テキスト】

資料配布。

## 【参考文献・資料】

教育への問い (天野都夫編 東京大学出版会)  
生きる思想 (イリイチ 藤原書店)  
<ほんもの>という倫理 (C. テイラー 産業図書)

## 国際社会特別講義 V (比較近代化論)

西尾林太郎

## 【授業の概要】

東アジアにおける国際体系の変化と中国、韓国、日本の近代史は深く連動しながら展開した。この点を考慮しつつ、政治的近代化論を軸として、中・韓・日三国の近代史と現代の政治システムについて比較分析することを、本講義の目的とする。また、その結果をふまえて、「アジア的国家」と西欧近代国家との比較も試みたい。

## 【授業の目標】

東アジア近代史を踏まえつつ、比較政治の視点を習得する。

## 【授業計画】

- 初回に方法論について述べ、以下、次のように順を追って講義する。
- 1 近代化論から見た近代アジアの歴史
  - 2 伝統的東アジアの国際秩序と西洋の国際法秩序
  - 3 科挙官僚制と中国の近代化
  - 4 両班(ヤンバン)と李氏朝鮮の近代化
  - 5 徳川幕藩体制と日本の近代化
  - 6 “アジア的国家”とは何か?
  - 7 イギリス、ドイツにおける立憲国家の成立とその展開
  - 8 ヨーロッパにおける立憲国家とアジアにおける立憲国家
  - 9 まとめ—日本、中国、韓国の近代の体験と現代政治—

## 【評価方法】

レポート(テーマについては7月上旬に発表する)と出席状況を総合的に評価する。

## 【テキスト】

使用しない。適宜、資料を配布する。

## 【参考文献・資料】

その都度、紹介する。

## 国際社会特別講義 VI (比較エスニシティ論)

藤井麻湖

## 【授業の概要】

「エスニック・グループ」は「民族集団」、「エスニシティ」は「民族性」とそれぞれ訳されることが多い。だが、本講義では、この訳語を採用せず「エスニック・グループ」、「エスニシティ」のまま用いる。なぜなら、近年「エスニシティ」と呼ばれるようになった学問領域における議論は、「民族集団」や「民族性」といった訳語から想起される既知の語感では捉えられない現実的且つ理論的枠組みをもちつつあると認識せざるをえないからである。本講義ではエスニシティ論関係の基本文献をとおして民族にかかわる諸現象を読み解くためには基本的にどのような視点が要されるのかを考える。

## 【授業の目標】

エスニシティに関する基本的文献を精読することによりエスニシティ論の輪郭を知るとともに、民族にかかわる諸現象に対する柔軟な視線を養う。

## 【授業計画】

エスニシティ論関係の基本文献を読みつつ、それぞれの要点を整理していく。

## 【評価方法】

平常の授業態度と、期末試験代わりのレポートにより判断する。

## 【テキスト】

適宜配布する。

## 【参考文献・資料】

『「エスニックとは何か」—エスニシティ基本論文選』青柳まちこ編・監訳 新泉社  
『ネイションとエスニシティ—歴史社会学的考察』アントニー・D・スミス著 名古屋大学出版会

## メディアプロデュース特別講義 I (メディア分析論)

石田米和

## 【授業の概要】

多様化するメディアを、コミュニケーション過程とイメージ・意識の形成・普及過程の視点から捉え直し、社会的影響力を強めつつあるメディアの位置づけ、メディアのあるべき姿およびメディア・リテラシー等について議論する。

主な内容は以下の通り。

1. メディアの動向と背景
2. メディアの機能と影響
3. 映像化の推移と問題点
4. メディア戦略の実態とリアリティ
5. メディアと社会構想、他

## 【授業の目標】

1. コミュニケーション論、記号論等の基礎を学習・研究し、社会・自然環境までを視野に入れた広義のメディアを検討すること。
2. インターネット上の意見交換や世論形成と社会構造との係わりについて学習・研究すること。

## 【授業計画】

1. テーマの視点、研究枠組み、研究方法等の検討
2. 各種統計資料、意識調査等を用いた、生活、産業等におけるメディアの浸透（普及と利用）度合いと社会経済的背景との関連性、問題点等の分析
3. 映像を中心としたコンテンツ分析による、発信者側の意図・目的等の把握
4. 世論および社会イメージ形成とメディアとの関連性の検討

## 【評価方法】

レポート、定期試験および出席状況、受講態度によって評価する。

## 【テキスト】

未定

## 【参考文献・資料】

授業内で適宜紹介する。

## メディアプロデュース特別講義 II (情報科学論)

親松和浩

## 【授業の概要】

マルチメディアの原理と応用について"ユーザーの立場から"考察する。また、マルチメディアと基礎科学との関係についても検証し、夢の技術として基礎研究段階にある量子コンピュータ等の紹介も行う。

## 【授業の目標】

マルチメディア検定2級程度の知識を習得し、マルチメディアと基礎科学との関係を理解する。

## 【授業計画】

- 1) マルチメディア情報とは
- 2) マルチメディア情報の処理技術
- 3) マルチメディア情報システムと通信技術
- 4) マルチメディアの応用と将来

## 【評価方法】

出席状況と、報告レポート等で評価する。

## 【テキスト】

授業開始時に指示する

## メディアプロデュース特別講義 III (レトリック批評論)

五島幸一

## 【授業の概要】

レトリック批評とメディア研究との関わりあいについて考察する。とくにメディアを媒介としたメッセージを分析することにより、レトリック批評の理論的枠組を明らかにし、そのメディア分析の有効性について論じる。

レトリック批評理論に関する論文を講読し、その理論的枠組を考察する。また、メッセージ分析に関する実践的研究について考察し、その特質について検討する。

## 【授業の目標】

レトリック批評理論に関する論文を講読し、その理論的枠組を考察する。また、メッセージ分析に関する実践的研究について考察し、その特質について検討する。

## 【授業計画】

- 1) レトリックとは
- 2) レトリック批評理論
- 3) スピーチの分析
- 4) 非言語の分析 (政治漫画、広告など)

## 【評価方法】

授業への参加度、および学期末に提出する研究論文にて評価する。

## 【テキスト】

別途指示する。

## 【参考文献・資料】

「異文化を読む」(岡部朗一 南雲堂)

## メディアプロデュース特別講義 IV (番組開発論)

大西 誠

## 【授業の概要】

デジタルメディア社会をむかえ、メディアの教育性が注目されている。いわゆる教材・教具から映像をベースにした番組やインターネットまで幅広いメディアの教育利用が求められている。メディアの成り立ちや歴史的發展とともにメディアの教育利用について理論と実習を通じて明らかにする。

## 【授業の目標】

様々な放送番組を通じて、映像メディアの教育性を理解する。映像表現の制作過程を理解するとともに実際にビデオ制作を体験する。受講者同士でメディアの送り手、受け手の関係を討議することを通じて、メディアリテラシーを深く理解し、市民社会で役立てる能力を身につける。

## 【授業計画】

近年、市民が番組を制作する機会が多くなっている。取材(ロケ)映像とスタジオ映像とは、それぞれどのような特徴があり、どのように作られているのか。また、それらを効果的に組み合わせ市民に資する番組を制作するには、どうしたら良いか。基本的なモデルを教育番組に求める。

本講では、教育メディアの歴史と理論を学ぶとともに、情報化社会におけるメディアのあり方や教育とのかかわりを、実際に放送された教育・教養番組の内容を分析し、番組を試作したい。

- ・教育番組の制作過程
- ・「日本賞」教育番組国際コンクール
- ・ドキュメンタリー番組の検討
- ・スタジオ番組の制作(実習)
- など

## 【評価方法】

受講態度、グループワークへの参加、作品などを総合的に評価する。

## 【テキスト】

特になし

## 都市環境デザイン特別講義 I (建築論)

垂井洋蔵

## 【授業の概要】

近・現代の建築作品、建築批評、建築家の思潮や理論を紹介し、建築論の基礎を学ぶ。

## 【授業の目標】

建築理解のための理論的思考方法を身につける。

## 【授業計画】

Perspecta (イェール大学建築ジャーナル) にとりあげられた建築評論や論文を時代を追っていくつか紹介しディスカッションを通して建築解釈の理論的手法を解説する。

## 【評価方法】

講義への参加態度、最終的なレポートで評価します。

## 【テキスト】

論文のコピー (英文) を講義中に配布します。

## 【参考文献・資料】

講義の中で紹介します。

## 都市環境デザイン特別講義 III (情報化建築論)

吉田邦彦

## 【授業の概要】

現在の都市・建築は、マルチメディア化とネットワーク化により著しく進展した情報化 (高度情報化) によって、大きな変革が進みつつある。情報化の観点から、生活空間の変化の方向を探り、それらが今後の都市・建築のあり方およびそこの生活にどのような影響を与えるかを論じる。

## 【授業の目標】

情報化によって社会・都市・建築がどのように変化しつつあるかを理解するとともに、今後の変化を見通す基礎的な知識・能力を習得する。

## 【授業計画】

- 1) オリエンテーション・テキスト・著者紹介他
- 2) 「情報革命による都市・建築の変化」について講義し、情報化に関する諸問題についての認識を共有する。
- 3) 「e-トピア 新しい都市創造の原理」について輪読する。テキストを各自が読解し、関連資料等を収集・発表する。ディスカッション形式で理解が深まるように講義を進める。
- 4) 都市・建築の情報化に関する問題点・将来像・可能性などを取り上げ、レポートを作成する。

## 【評価方法】

分担部分の発表内容・形式、討議への参加、および課題に関するレポートなどを総合して評価する。

## 【テキスト】

- 1) シティ・オブ・ビット - 情報革命は都市・建築をどうかえるか - (ウィリアム・J・ミッチェル著 掛井秀一他訳 彰国社)
- 2) e-トピア - 新しい都市創造の原理 - (ウィリアム・J・ミッチェル著 渡辺俊訳 丸善株式会社)

## 【参考文献・資料】

授業内で、適宜紹介する。

## 都市環境デザイン特別講義 II (建築保存再生論)

河辺泰宏

## 【授業の概要】

文化遺産に対する保存概念の移り変わりについて、ルネサンスの芸術家達が古代遺産の研究を始めてから近現代において文化財修復思想が確立されていくまで、過去に対する歴史観の変遷に照らし合わせながら論じていく。また、西洋と日本を中心に、都市と建築の歴史的遺産の現状について理解を深めるとともに、それらの保存・修復・復原や都市資産としての利活用の方法についても論じる。

## 【授業の目標】

人類の文化遺産を護ることの意義について認識し、歴史的遺産に対する保存概念の確立に様々な経緯があったことを理解する。また、事例研究を通じて保存現場の実状を実感すること。

## 【授業計画】

授業は主に講義形式で進めるが、テーマによって担当者を決め、報告会を行うことがある。講義の主なポイントは以下の通り。

- 1) 破壊との闘い  
文化財が破壊される原因と遺される理由  
人類の蛮行と遺産保護への執念  
遺産保護に従事する人々
- 2) 変りゆく保存の概念  
ルネサンス芸術家達の歴史意識  
古典主義時代の考古学的成果  
文化遺産保存活動の歴史とユネスコの世界遺産条約
- 3) 開発・建設の時代から維持・再生の時代へ  
建築におけるサステイナビリティ  
20世紀型開発から21世紀型開発へ
- 4) 文化財保存の論理  
日本と西洋における文化財保護の歴史と事例研究
- 5) 町並み保存の論理と事例研究  
日本における町並み保存の歴史と事例研究
- 6) 近代建築保存の論理  
近代建築および近代化遺産の保存・再生の歴史と事例研究

## 【評価方法】

事例研究のレポートと出席による。

## 【テキスト】

なし。

## 【参考文献・資料】

適宜、プリントを配布する。

## 都市環境デザイン特別講義 IV (都市空間デザイン論)

日色真帆

## 【授業の概要】

望ましい都市空間のデザインを、多様な社会、文化、芸術的文脈の中で実現してゆく方法を学ぶ。特に、外であり中である、閉じていて開かれている、などのように両義的性格をもつ空間に焦点をあてる。

## 【授業の目標】

都市空間のデザインの多面性を理解し、様々な理論や方法を具体的な提案の場において利用できるよう習得する。

## 【授業計画】

- ・両義的空間のデザインという視点から、様々なデザイン分野の比較分析。
- ・居住環境の様々なデザイン手法の学習。
- ・都市における「囲まれた空間」の意味や効果を多面的に考察する。

## 【評価方法】

分析レポートとプレゼンテーションによって評価する。

## 【テキスト】

特になし。

## 都市環境デザイン特別講義 V (コンクリート系構造論)

岡本晴彦

## 【授業の概要】

卓越した建築構造技術を駆使することにより、建築計画の自由度を高めるとともに、新たな価値を建築物に与えることが可能となる。

この観点から、鉄筋コンクリート構造、プレストレストコンクリート構造並びに鋼・コンクリート合成構造(コンクリート系構造)に関する最新の研究成果の効果的適用方法について述べる。

特に、建築造形と構造技術の関係、地球環境保護に関する事項並びに長スパン構造に重点を置く。

基礎的原理を解説し、具体例も紹介する。

## 【授業の目標】

建築構造技術の建築全体計画への生かし方について積極的な考え方を身につける。さらに、今後の建築構造に関する研究成果の発展についても各自の立場から調査を継続することができる能力を習得する。

## 【授業計画】

次の項目に関して講義を行う。併せて、担当を決め、担当が既往関連文献調査結果について発表を行う。

- ・建築計画の自由度を高めるための具体的構造技術
- ・プレストレストコンクリートの原理と応用法
- ・建築構造の長寿命化に関する考え方と方法
- ・プレキャストコンクリート構造における構造原理と応用法
- ・常時荷重下における時間依存変形の制御方法

## 【評価方法】

分担した文献調査結果の発表内容並びに課題に関するレポートを総合して評価する。

## 【テキスト】

授業において指定するとともに、各種文献を配布する。

## 【参考文献・資料】

授業において紹介する。

## 地域社会プロジェクト III a・b

谷沢 明

## 【授業の概要】

テーマは「歴史的文化遺産を活用した地域づくり」及び「伝統的民家の保存・再生・活用」。

河辺泰宏教授担当の都市環境デザインプロジェクトIVa・bと連携して実施する。

## 【授業の目標】

歴史的文化遺産を活かした「地域づくり」の在り方を理解するとともに、その応用として自らが取材して事例研究・報告を行う力を養うことを目標とする。

2008年度の事例研究・実地調査(学外教育)は、中国の水郷古鎮(8/6～8/11)を計画している。

## 【授業計画】

- 1) プロジェクトの課題設定について討議を行い、現代的意義を見出す。
  - 2) 文献講読を通じプロジェクト実施上の知識の習得を行う。
  - 3) 「概要」に記したテーマに基づくフィールドワークを集中的に実施する。
    - ・調査方法(観察調査・インタビュー調査・文献調査)の指導。
    - ・フィールドワークは、主として(1)～(4)を視点として実施する。
  - (1) 風俗・習慣や精神生活の歴史を中心とする文化史のアプローチ
  - (2) 民衆の生活文化の歴史を解明する民俗学のアプローチ
  - (3) 地域社会の独自性、個性を明らかにする地域社会学的アプローチ
  - (4) 集落・地域社会の形態や変化の解明をめざす地理学のアプローチ
  - 4) フィールドワークのデータ整理とその分析を行う。
  - 5) フィールドワーク成果のプレゼンテーションを行う。
    - ・パワーポイントを作成し、成果発表会を行う。
- 備考：学外教育・フィールドワークを実施する(実費を各自負担のこと)。調査地及び日程の詳細については履修登録時に掲示する。

## 【評価方法】

フィールドワーク成果のプレゼンテーションにより評価する。

## 【テキスト】

使用しません。

## 【参考文献・資料】

第1回目の授業で紹介します。

## 地域社会プロジェクト II b

辻 紘良

## 【授業の概要】

情報化、および環境・生活優先の時代に向けて、それぞれの地域特性に則した地域交通のビジョンを研究する。

ここでは情報通信ネットワーク技術の進歩を背景に昨今進展の著しいITS(Intelligent Transport Systems = 高度道路交通システム)を中心に取り上げ、地域やまちづくりの観点から新しいITSシステムの提案と可能性の評価を行う。

## 【授業の目標】

1. 地域交通を対象に課題を設定するとともにその解決策を提案し、その可能性を調査・分析し、新たな結果を得るための研究能力を高める。
2. 地域づくりのためのITSシステム制作などを通して総合的な研究能力を高める

## 【授業計画】

地域交通の問題点や課題を抽出するとともに、地域に相応しいITSを取り入れた交通システムを提案し、その可能性と効果を考察する。

- (1) 地域の街区形成と車や歩行者の交通流動との関連について分析を行い、問題点や課題を把握する。
- (2) 地域の交通施策の現況を把握するとともに、今後の地域やまちづくりに関する交通施設整備の在り方を考察する。
- (3) 地域や街づくりに関する国内外ITSの技術や普及の現状を調査する。
- (4) 上記課題を解決するためにITSを活用した新しいシステムを提案する。
- (5) 概要設計を行うとともに、システム導入の可能性について評価する。
- (6) システム例として、インターネットITSに基づく「コミュニティポリアリアカーシステム」の提案などを参考とする。

## 【評価方法】

課題の提出や発表内容の結果を総合し成績を評価する。

## 【テキスト】

使用せず。

## 【参考文献・資料】

Proceedings of 14th World Congress on Intelligent Transport Systems (ITS07)、他

## 国際社会プロジェクト Ia・b

藤瀬浩司

## 【授業の概要】

工業化に関する理論を整理するとともに、これまでの歴史過程に現れた工業化の事例を取り上げ検討する。

1. 工業化の理論
  - A. ロストウ(W.W.Rostow)とガーシェンクロン(Alexander Gerschenkron)
  - B. 赤松要とヴァーノン(R.Vernon)
  - C. フランク(G.Frank)とウォラーステイン(I.Wallerstein)
  - D. これからの課題
2. 工業化の歴史事例
  - (1) イギリス産業革命
  - (2) 西ヨーロッパとUSA
  - (3) ロシア、イタリア、日本
3. 現代の工業化
  - (1) 経済開発の新視点(A. セン)
  - (2) 1970年初までの工業化
    - A 社会主義工業化 B 第三世界の工業化
  - (3) グローバリゼーションと工業化
4. 現代の工業化の事例研究

## 【授業の目標】

工業化は現代の発展途上国が目標とするキータムである。歴史過程に現れた様々な工業化と現代の工業化を理論的・実証的に検討する。

## 【授業計画】

レクチャーと参加者の報告・討論を組合せる。

## 【評価方法】

授業への参加状況とレポートで評価する。

## 【参考文献・資料】

講義の際に適時指摘する。



## 国際社会プロジェクト III a

清水 洋

## 【授業の概要】

英文資料（新聞・雑誌記事、学術論文等）を用いて、アジア社会の諸問題を政治・経済・文化・教育などの視点から多面的に考察し、討議を通じて知識を深める。

## 【授業の目標】

英文資料の読解を通じてアジア地域の諸相に関する専門知識を身につける。

## 【授業計画】

1. アジアの社会経済発展の背景についての分析・把握。
2. アジアにおける日本の影響とプレゼンスに関する英文資料の和訳・内容分析。
3. 英文資料の効果的な活用法についての指導。
4. レポートの作成・発表・討議・講評。

## 【評価方法】

英文資料の読解力およびレポートで評価する。

## 【テキスト】

なし。適宜、プリント配布。

## 【参考文献・資料】

シンガポールの経済発展と日本（清水洋著 コモンズ）  
*Japan and Singapore: A Multidisciplinary Approach* (Tsu Yun Hui 編著、McGraw-Hill Education).  
 その他、授業中に適宜指示する。

## 国際社会プロジェクト III b

秦 忠夫

## 【授業の概要】

世界経済の注目される動き、すなわち「活発化する自由貿易地域形成の動き」「中国経済の台頭」「増大する国際資本移動の功罪」などのテーマを、英文資料（新聞・雑誌、学術論文など）に基づき検討する。

## 【授業の目標】

国際経済・金融問題を英文資料を活用して研究する能力を鍛錬する。

## 【授業計画】

1. 参考文献の輪読と討議。
2. テーマに関連した補足資料の収集・解析。
3. 最終レポートの作成。

## 【評価方法】

授業への参加態度とレポートで評価。

## 【テキスト】

資料配布。

## 【参考文献・資料】

授業の際、適宜紹介する。

## メディアプロデュースプロジェクト Ia

坂元 多

## 【授業の概要】

ことばだけでは表現できない思想やアイデアを映像作家は番組やアートの形式で表現してきた。今までのすぐれた映像表現の先駆者たちをとらえて、具体的な作品にそってその表現の形式や手法、考え方を学ぶ。

## 【授業の目標】

映像によって表現できる概念、思想の可能性の中を広げ創作的映像表現の力を養う。

## 【授業計画】

映像や資料の提示解説の後、その受けとめ方についての討議をとおして理解を深めたい。

## 【評価方法】

各回の各自の受けとめ方や自主的研究の深め方を見て常時評価する。各回ショートレポートの提出を求めることがある。

## 【テキスト】

特になし

## メディアプロデュースプロジェクト Ib

太田浩司

## 【授業の概要】

本プロジェクトでは人間のメディア使用とその心理を主題として扱う。特に、その原因と効果についてコミュニケーション学や社会心理学という視点からアプローチをする。前半では人々がなぜ特定のメディアを使用するのか、また使用した結果どのような心理的影響があるのかを先行研究を通して知識を深め、後半には自ら作った理論的モデルを基にミニプロジェクトを行うことによりメディア使用と人間の心理の関係を探る。

## 【授業の目標】

この授業の目標はメディアの効果というマスコミュニケーション研究の古典的なパラダイムについてその理論と方法論について概観し実験を行うことにより映像が受け手側に及ぼす影響を理解を深めることである。

## 【授業計画】

学期の最初の講義で提示する。

## 【評価方法】

出席、口頭発表、学期末プロジェクト

## 【テキスト】

特になし。

## 【参考文献・資料】

メディアと暴力（佐々木輝美著 劉草書房）  
 メディアと人間の発達（坂元章編 学文社）



## メディアプロデュースプロジェクト II a

大西 誠

## 【授業の概要】

映像メディアは、フィルム、ビデオ、デジタル画像といった収録媒体の特質を生かしつつニュース、ドキュメンタリー、ドラマ、フィクションなどの形式で、情報・メッセージを伝えている。しかし単に、表現されたものを表面的に捉えただけでは、メディアの本質が見えてこない。本講はメディア理論の展開をたどるとともに、メディア表現について、映画、写真などの映像分析の手法を学ぶ。あわせてメディアが大きな役割を果たしている情報社会のシステムについても考察する。

## 【授業の目標】

メディアの理論を歴史的に振り返りながら、メディアが社会的に編制されていった経緯を理解する。さまざまな「メディア論」の現代社会への適応を検討し、調査、研究方法を身につける。またメディア表現の分析手法の理論を学び、実践を通じて、具体的な知識を得る。

## 【授業計画】

19世紀以降のメディア史や理論の系譜に目を向けつつ、現代社会とメディアの関係を以下のような観点から考察する。

- ・マクルーハンの理論
- ・カルチュラルスタディーズの展開
- ・メディアの記号論的分析
- ・マスメディアの現状と課題

## 【評価方法】

発表と課題レポートなどで総合的に評価する。

## 【テキスト】

別途、指示する

## 【参考文献・資料】

「メディア論」(M.マクルーハン みすず書房)

## メディアプロデュースプロジェクト II b

石田米和

## 【授業の概要】

大量に生産され流通する、画像を中心とした様々な形態の情報内容（コンテンツ）の多面的な分析を通して、主に以下の点を論議していく。

1. 観察可能な情報内容や社会的現象の、意味論的・記号論的・認知理論的分析の方法論・手法の検討と応用
2. 情報内容と表現方法、それらと社会的文化的文脈との関連性
3. 双方向性とネットワーク化による意識・感覚の共有、暗黙知の形成
4. メディア文化のパラダイム、その他

## 【授業の目標】

記号論などを中心とした分析手法を、それらの有効性・問題点などの学習・研究、受講生各人のテーマによるプレゼンテーションや論議を通して理解すること。

## 【授業計画】

1. 記号論や認知科学等によるコンテンツ分析の方法論の検討
2. 多様な表現形態のコンテンツの、意味論的記号論的分析
3. 社会的分化的文脈と社会的認知のギャップ（屈折）との関連性の検討
4. ネットワーク系メディアと世論・共通意識等の形成との関連性の検討

## 【評価方法】

・レポート、定期試験および出席状況、受講態度によって評価する。

## 【テキスト】

未定。英文も使用する予定である。

## 【参考文献・資料】

授業内で適宜紹介する。

## メディアプロデュースプロジェクト III a

親松和浩

## 【授業の概要】

情報メディアやロボットなどの先端技術の可能性に関して、受講者が選定する特定のテーマについて議論する。テーマにはシステムの設計/試作や、作品の試作も含める。

## 【授業の目標】

情報メディア技術に関する基礎知識と技能を習得する。

## 【授業計画】

受講者は各自の興味に従ってテーマを選定し、受講者による調査報告を中心に進める。過去にこのプロジェクトで扱ったテーマには、Webサイト作成例とその技術的課題、クレイアニメーションの試作、立体視の原理と応用、コンピュータ言語Squeakを使った簡単なゲームの試作などがある。

1. 文献・資料調査に基づくテーマの設定、把握を行う
2. データ収集、システム構築、問題解析等を試みる
3. 成果報告の資料作成とプレゼンテーション

## 【評価方法】

出席状況と、報告レポート等で評価する。

## メディアプロデュースプロジェクト III b

五島幸一

## 【授業の概要】

メディアから出てくる情報には受け手を説得しようとする戦略が組み込まれている。そこで、受講生が選定する特定のテーマについて、コミュニケーション学またはレトリック批評の観点から議論する。

受講生は具体的なケースをもとに分析をおこない、コミュニケーション上の特徴を実際に調べていく。

## 【授業の目標】

コミュニケーションの観点からの分析の仕方を学び、受講生が取り組んでいる様々なケースにどのように援用するのかを理解すること。

## 【授業計画】

問題設定とその解決策をグループによる検討を中心に進める。

## 【評価方法】

授業への参加度およびレポートにて評価する。

## 【テキスト】

別途指示する。

## 都市環境デザインプロジェクト Ia

日色真帆

## 【授業の概要】

都市環境をわかりやすく魅力あるものとする方策を、空間認知研究の成果をふまえて具体的に探る。名古屋の中の複雑な都市空間を対象とし、調査と分析を行い、さらにデザイン的な提案をまとめ、プレゼンテーションをまとめる。一連のプロセスを経験することで、都市環境の改善活動について具体的に学習する。

## 【授業の目標】

具体的な対象に対して、調査分析から提案をまとめあげる技術を習得する。

## 【授業計画】

- ・都市環境を対象とした空間認知についての講義。
  - ・複雑な都市空間についての事例収集。
  - ・都市空間のデザイン手法についての学習。
  - ・対象とする都市空間の調査と資料収集。
  - ・分析結果の中間発表と教員による講評。
  - ・環境改善についての提案の作成。
  - ・プレゼンテーション手法についての学習。
  - ・プレゼンテーションの作成。
  - ・最終講評会におけるプレゼンテーションと講評。
- ※対象とする都市空間は授業の中で発表する。

## 【評価方法】

提出された作品と、講評会におけるプレゼンテーションによって行う。

## 【テキスト】

特になし。

## 都市環境デザインプロジェクト Ib

垂井洋蔵

## 【授業の概要】

都市環境をわかりやすく魅力あるものとする方策を、空間認知研究の成果をふまえて具体的に探る。名古屋の中の複雑な都市空間を対象とし、調査と分析を行い、さらにデザイン的な提案をまとめ、プレゼンテーションをまとめる。一連のプロセスを経験することで、都市環境の改善活動について具体的に学習する。

## 【授業の目標】

具体的な対象に対して、調査分析から提案をまとめあげる技術を習得する。

## 【授業計画】

- ・都市環境を対象とした空間認知についての講義。
  - ・複雑な都市空間についての事例収集。
  - ・都市空間のデザイン手法についての学習。
  - ・対象とする都市空間の調査と資料収集。
  - ・分析結果の中間発表と教員による講評。
  - ・環境改善についての提案の作成。
  - ・プレゼンテーション手法についての学習。
  - ・プレゼンテーションの作成。
  - ・最終講評会におけるプレゼンテーションと講評。
- ※対象とする都市空間は授業の中で発表する。

## 【評価方法】

提出された作品と、講評会におけるプレゼンテーションによって行う。

## 【テキスト】

特になし。

## 都市環境デザインプロジェクト IV a・b

河辺泰宏

## 【授業の概要】

文献講読やフィールドワーク等を通じて、歴史的建造物や伝統的町並みの保存と再生に関して体験的に学ぶことを目的とする。  
(授業は谷澤明教授担当の「地域社会プロジェクトIII」と連携して行う。)

## 【授業の目標】

歴史的遺産の保存・再生について事例研究を通じてその実態を把握すること。

## 【授業計画】

- 1) 参考文献の輪読。
  - 2) フィールドワークの実施とその成果発表。
  - 3) 映像資料の視聴と討論。
- フィールドワークにおいては、文献に記載された事例を訪ねたり、その他の事例を探して手分けして調査を行い、レポートを作成する。フィールドワークの対象は、年度ごとに適宜決めるが、国内のみならず海外へ足を延ばすこともある。その行く先は、掲示にて知らせる。

## 【評価方法】

出席とレポート発表による。

## 【テキスト】

なし。

## 【参考文献・資料】

適宜、資料を配布する。

## 地域社会特別研究 MI-08 a・b

辻 紘良

## 【授業の概要】

情報や通信技術の進展を背景にITS\*と呼ばれる新しい交通に関する情報通信ネットワークの開発が急速に進められている。ここでは、現在この分野で注目されている中心的なテーマや技術開発動向を取り上げ、地域交通への展開をはかり、テーマを設定すると共に実験・分析を行い、問題の解決方法を提案する。また、ネット通信機能を利用した実験システムを構築し可能性を評価する。

これにより、地域交通の今日的な問題に関し、交通の情報化の視点から将来の地域づくりの在り方について方策を提言し、その効果を明らかにする。  
\*ITS=Intelligent Transport Systems (高度道路交通システム)

## 【授業の目標】

1. 車や、歩行者の交通実態を把握するとともに問題点や解決策を展望する。
2. ITSなど交通情報化による問題解決策を提案し、システム開発研究を行う。

## 【授業計画】

- (1) ITSの地区や歩行者交通への展開をはかり研究テーマを設定する。
  - (2) 実験計画作成や実験環境を整備し実験を行い、データを収集する。
  - (3) データを解析し研究成果を得るとともに、システムを構築する。
  - (4) 地域づくりのシステム提案を行い、問題解決の方策を提言する。(個別テーマの例)
1. 車いすの経路誘導システム
  2. コミュニティ・ボランティア・カーシステム

## 【評価方法】

研究計画や研究進捗状況および論文の出来映えを総合し成績を評価する。

## 【テキスト】

テキスト使用せず。

## 【参考文献・資料】

Proceedings of 14th World Congress on Intelligent Transport Systems (ITS07)、他

## 地域社会特別研究 M II-08 a・b

竹村 弘

## 【授業の概要】

わが国経済社会は、「平成の10年代不況」から「2000年デフレ」へと未曾有の長期不況が継続する中で、行財政改革・金融改革・少子高齢化・地球環境問題など歴史的な大変革に直面している。日本経済・地域開発を中心に諸課題を幅広く取り上げ、実証的に研究する。

## 【授業の目標】

院生各自の研究の進捗と修士論文の完成。

## 【授業計画】

院生が主体的に作成した論文作成スケジュールを基に、研究進捗度に応じた助言と指導を行う。

## 【評価方法】

研究への取り組み姿勢と研究の進捗度。

## 【テキスト】

必要に応じて個別に使用する。

## 地域社会特別研究 M III-08 a・b

谷沢 明

## 【授業の概要】

地域文化の継承に関わる諸問題を取りあげ、その調査分析手法を教示するとともに、学生の研究と論文作成に対する個別的助言指導を行う。フィールドワークを中心とした地域研究を志向し、既往研究を踏まえて独創的調査研究を目指す人を対象とする。専門領域は、地域文化論・民俗学・民俗建築学。

## 【授業の目標】

フィールドワークを中心とした地域研究に基づき、既往研究の整理・独創的な調査研究・論文作成の総合的なプロセスを習得することを目標とする。

## 【授業計画】

- 1) 調査研究の目的及び社会的意義についての検討。
  - ・調査・研究者の基本的姿勢と、調査研究に参画する自覚を喚起する
- 2) テーマ「地域文化の継承に関わる諸問題」に関する知識の習得。
  - ・既往研究の整理
  - ・関連文献の購読
  - (地域文化論、文化史、民俗学、民具学、生活学、建築学、歴史地理学)
  - ・調査及び分析方法に関わる知識の習得
- 3) フィールドワークを中心とした地域研究を実施。
  - ・調査地における基本的データの収集
  - ・調査地における文献調査の手法
  - ・調査地における観察調査の手法
  - ・調査地における聞き取り調査の手法
- 4) 既往研究を踏まえた独創的調査研究。
  - ・調査データの整理・分類
  - ・調査データの比較検討・解析
- 5) 論文作成指導。
  - ・調査研究成果のまとめ方についての指導

## 【評価方法】

平生の調査研究への取り組みにより評価する。

## 【テキスト】

使用しません。

## 【参考文献・資料】

授業で必要に応じて紹介します。

## 地域社会特別研究 M IV-08 a・b

榎原 國城

## 【授業の概要】

この授業の主題は、学生自身の個人研究活動を通じて判断力・理解力・総合能力を涵養し、問題に対する客観的、科学的態度を身につけ、研究能力を高めることにある。

受講学生は、産業・組織心理学を専門領域とする担当者の指導を受けながら、自己のテーマについて積極的に学び、問題を発見し、問題の解決に向け、これまでに身につけた科学的方法を適用することによって実証していくという研究活動を行い、その成果を修士論文としてまとめる。

## 【授業の目標】

修士論文の完成。

## 【授業計画】

1. 文献・資料調査に基づく研究テーマの設定
2. 研究方法の検討
3. データの収集
4. データの解析および考察
5. 論文完成に向けての指導

## 【評価方法】

修士論文の内容によって評価する。

## 【テキスト】

使用せず。

## 【参考文献・資料】

授業中に提示または指示する。

## 地域社会特別研究 M V-08 a・b

石田好江

## 【授業の概要】

消費、家族、労働、地域福祉などライフスタイルに関するテーマを取り上げ、研究の方法を教示するとともに、受講学生の研究と論文作成に対する個別的な指導を行う。

## 【授業の目標】

自らの研究課題を発見し、当該分野の知識情報の収集及びテーマへの考察によって修士論文を作成する。また、そのことを通じて研究能力を高める。

## 【授業計画】

- 1) 研究テーマの設定
  - 2) 研究方法の検討と確定
  - 3) 文献・資料の収集
  - 4) 先行研究の検討
  - 5) 論文の構成・内容の検討
- 上記の作業を通じて論文作成に向けて個別指導を行う。

## 【評価方法】

研究への取り組み姿勢及び研究論文の内容によって評価する。

## 【テキスト】

使用しない。

## 【参考文献・資料】

指導上の必要に応じて適宜紹介する。

## 国際社会特別研究 M I-08 a・b

藤瀬浩司

## 【授業の概要】

世界経済の構造と発展-20世紀の世界経済の発展を主要テーマとして、研究の方法を教示するとともに、学生の研究に対する個別的な助言を行い、論文作成のための準備作業を指導する。

## 【授業の目標】

現代の社会と経済の分析方法、論争点を理解するとともに、論文作成方法を学ぶ。

## 【授業計画】

各学生が自己テーマについて研究の進捗状況を適宜発表し、指導をうける。  
時間については相談のうえ決定する。

## 【評価方法】

参加状況と個別研究の進み方で評価する。

## 【テキスト】

なし。

## 国際社会特別研究 M II-08 a・b

秦 忠夫

## 【授業の概要】

国際経済・金融問題を探り上げ、研究の方法を教授するとともに、個々の学生の研究に対する助言を行い論文作成を指導する。

## 【授業の目標】

適切な研究テーマの設定、前広な資料収集ならびに時間的な余裕を持った論文作成。

## 【授業計画】

1. 文献・資料調査に基づく研究テーマの設定、研究方法の把握。
2. データ収集、分析、討議を通じて独自の研究成果を得るよう指導。
3. 論文の完成を指導。

## 【評価方法】

参加状況と研究の進展状況で評価する。

## 【テキスト】

なし。

## 【参考文献・資料】

適宜紹介する。

## 国際社会特別研究 M III-08 a・b

清水 洋

## 【授業の概要】

授業担当者の専門領域はアジア経済論、日本・アジア経済関係史、および国際労働移動論である。院生が選定した研究テーマを取り上げ、討議を通じて基礎理論の充実と進化をはかり、分析の方法を教示し、論文作成の指導をする。また、統計資料の読み方、英文資料の使い方、インターネットを通じての資料収集の方法、その他基礎的な研究技法を適宜教示する。

## 【授業の目標】

2年間で修士論文を完成させる。

## 【授業計画】

1. 基礎理論と研究方法の把握、研究テーマの設定。
2. 研究テーマに関する資料・文献の収集と分析。
3. 研究成果の発表・討議・講評。
4. 論文作成のための個別指導。

## 【評価方法】

中間報告および論文で評価する。

## 【テキスト】

なし。

## 【参考文献・資料】

必要に応じて適宜指示する。

## 国際社会特別研究 M IV-08 a・b

渡辺かよ子

## 【授業の概要】

教育に関する各自の修士論文の完成に向けた指導を行う。各自の研究テーマに応じた研究方法論、基礎理論の概観、資料収集の方法などについて個別指導と発表討論を並行して行っていく。

## 【授業の目標】

修士論文執筆に必要な当該分野の基礎知識と研究方法を習得する。

## 【授業計画】

1. 研究方法論
2. 研究テーマの重要性と先行研究の検討
3. 論文の構想と構成
4. 原稿執筆と内容検討

## 【評価方法】

中間報告と論文。

## 【テキスト】

使用せず。

## 【参考文献・資料】

その都度指示する。

## 国際社会特別研究 M V-08 a・b

西尾林太郎

## 【授業の概要】

広く東アジアと日本の近・現代史もしくは比較政治・比較社会論に関する修士論文作成のための基本文献の講読と論文作成の指導を行う。その文献は各自のテーマによって異なるので、個別に選定するが、前期はできるだけ最大公約数的な基本文献、例えばR.Dahl『POLYARCHY』や中村隆英『昭和史』、猪口孝『現代日本政治の基層』などを全員で読み、後期はグループ別又は個別に読んで行きたい。そして随時、修士論文の章または節にあたる部分あるいはそれらに関連するテーマについてレポートを作成し、報告してもらう。特に後期はレポート報告が中心となる。

## 【授業の目標】

各自の研究テーマを踏まえつつ、随時レポートを作成し、修士論文の基礎となる論文または修士論文を作成する。

## 【授業計画】

- |    |   |                              |
|----|---|------------------------------|
| 前期 | a | アジアにおける「中華秩序」の崩壊、国民国家論       |
|    | b | 日本、朝鮮、中国における近代国家の形成と西洋の近代国家  |
|    | c | 国民国家論や東アジア・日本に関する基本文献講読      |
|    | d | 現代の東アジアの各地域に関するデータベース作成      |
| 後期 | a | 国民国家論や東アジア・日本に関する各自のテーマによる報告 |
|    | b | 国民国家論、東アジア・日本に関する修士論文の作成     |
|    | c | 修士論文のチェック                    |

## 【評価方法】

提出を求めるレポートや論文で評価する

## 【テキスト】

使用しない。

## 【参考文献・資料】

各自に必要な文献や資料について随時、指示する。

## 国際社会特別研究 M VI-08 a・b

藤井麻湖

## 【授業の概要】

今日、モンゴル系民族は、独立国のモンゴル国だけでなく、中国の内モン自治区、新疆ウイグル自治区、青海・甘粛省等々、またロシアのブリヤート共和国、カルムイク共和国等々に居住している。本講義においては、エスニシティ論の各論としてモンゴル系民族をとりあげ、彼らのエスニシティの形成プロセスを歴史的にたどり、今日彼らの置かれた政治的状況の把握に努める。とくに、彼らの民族的アイデンティティの書ともなったモンゴル人の古事記とも言うべき『元朝秘史』の果たした役割を考える。

## 【授業の目標】

エスニシティ論の各論としてモンゴルを取り上げ、モンゴル人のエスニックな意識の形成の諸相を理解することを目的とする。

## 【授業計画】

まず、モンゴルの歴史をざっと概観したあと、『元朝秘史』を精読し、チンギス・カンの征服事業における軍事的動員とエスニックな意識の形成の関係を考える。その他、モンゴル系民族関連の文献も読む。

## 【評価方法】

平常の授業態度と期末のレポート提出で判断する。

## 【テキスト】

適宜配布する。

## 【参考文献・資料】

- 『モンゴルを知るための60章』金岡秀郎 明石書店  
『元朝秘史—チンギス=ハン実録』岩村忍 中公新書  
『元朝秘史』上下巻 小澤重男 岩波文庫  
『チンギス・カン “蒼き狼”の実像』白石典之 中公新書  
『モンゴルが世界史を覆す』杉山正明 日経ビジネス文庫

## メディアプロデュース特別研究 M I-08 a・b

坂元 多

## 【授業の概要】

テレビ、映画など映像メディアを取り上げ、研究の方法を教示するとともに、学生の研究に対する個別的な助言を行ない、論文作成又は研究成果の結実を指導する。

一つの映像メディアからどのような研究テーマが抽出できるか、さまざまなケースを例示し研究の分野、方向をさぐる。

## 【授業の目標】

研究対象から問題やテーマを抽出し仮説をたて論文とする技術を身につける。

## 【授業計画】

キーとなる先行の論文の読み合わせをベースに質疑など、討議法を加えた進め方を取りたい。

## 【評価方法】

レポート提出によって評価

## 【テキスト】

特になし

## メディアプロデュース特別研究 M II-08 a・b

親松和浩

## 【授業の概要】

情報メディア技術の可能性を探究する。携帯端末やパソコンのネットワーク利用に中心とするが、受講者の興味に応じて広い範囲からテーマを選定する。研究方法の教示と助言を行い、研究論文作成の指導を行う。研究テーマにはシステム設計/試作を行うものも含める。

## 【授業の目標】

情報メディア技術に関する基礎知識と技能を習得し、新しい技術のあり方を議論する力を養う。

## 【授業計画】

テーマごとの個別指導を行う。学部学生との関係も考慮に入れ、研究の進展の度合いに応じて各種学会での成果発表も視野に入れる。

1. 文献・資料調査に基づく研究テーマの設定し研究方法を決定する
2. データ収集、システム構築、問題解析等によって独自の研究成果を得る
3. 論文の完成に向けて指導する

## 【評価方法】

出席状況と、報告レポート等で評価する。



## メディアプロデュース特別研究 M III-08 a・b

五島幸一

## 【授業の概要】

メディアを媒介としたメッセージをレトリック批評の観点から取り上げ、研究の方法を教示するとともに、学生の研究に対する個別的助言をおこなひ、論文作成を指導する。

## 【授業の目標】

レトリック批評について深く理解し、それを具体的な事象に援用することで、論文作成を目指す。

## 【授業計画】

研究テーマの設定、問題設定、論文の書き方などを学生との討論を通して指導する。

## 【評価方法】

論文の進捗状況によって評価する。

## 【テキスト】

とくになし。

## メディアプロデュース特別研究 M IV-08 a・b

大西 誠

## 【授業の概要】

メディアは情報やメッセージを伝える媒体でありながら、メディアの形態そのものがメッセージを発信するというマクラーハンが指摘した現象が顕著になっている。理論のよりどころとなるアクチュアルな現実を直接経験することを重視しながら「現代」をプロデュースする感覚・感性を研ぎすます。さらに各自が研究テーマを発掘し、仮説を立て、調査、分析し、検証する。専門領域は「メディア教育」「情報メディア論」

## 【授業の目標】

個別指導により、以下の目標を達成する。

- ・ 個別の研究テーマを明らかにするとともに、各種文献を学びながら、レポート・論文の作成方法を身につける。
- ・ 研究テーマをいかに深化するか調査方法を検討するとともに、先行研究と比較しながら、独自の方法論を確立する。

## 【授業計画】

- ・ 各種論文の検討により、論文の記述を具体化する方策を探る。
- ・ 焦点化した調査、資料の収集。目標との関連性、仮説の設定あるいは企画立案など実証的アプローチを明確にし、計画を立て実践する。
- ・ 院生相互あるいは学部学生との連携などによって、論文あるいは制作の構成／内容を検討する。

## 【評価方法】

課題レポートなど

## 【テキスト】

特になし

## メディアプロデュース特別研究 M V-08 a・b

太田浩司

## 【授業の概要】

様々なコミュニケーションメディアを通して繰り広げられるグループ間、異文化間のコミュニケーションを研究する。インターネット、携帯電話などで繰り広げられるコミュニケーション上の問題を取り上げて分析し新しい理論展開を試みる訓練を行う。

## 【授業の目標】

メディアをコミュニケーションのコンテキストとして捉え、そこで行われているアイデンティティの交渉プロセスとそれらに関する基本的理論について理解を深める。

## 【授業計画】

詳しい授業予定は学期の最初に説明する。

## 【評価方法】

学期末ペーパー

## 【テキスト】

未定

## 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## メディアプロデュース特別研究 M VI-08 a・b

石田米和

## 【授業の概要】

メディアのグローバル化を念頭に置き、認知科学および比較文化論等の視点から、特に映像メディアのコンテンツの普遍性等について、研究の方法を教示するとともに、学生の研究に対する個別的な助言を行い、論文作成又は研究成果の結実を指導する。

## 【授業の目標】

コミュニケーション、メディア等についての基礎知識や方法論を習得し、修士論文作成に繋げること。

## 【授業計画】

1. 基本文献の購読による、メディア・コミュニケーションの研究手法、研究枠組み等の把握
2. 修士論文のテーマの設定、データ収集・解析等の技法の習得
3. 研究計画等の指導

## 【評価方法】

- ・ レポート、定期試験および出席状況、受講態度によって評価する。

## 【テキスト】

未定。英文も使用する予定である。

## 【参考文献・資料】

授業内で適宜紹介する。

## 都市環境デザイン特別研究 M I-08 a・b

河辺泰宏

## 【授業の概要】

西洋建築の歴史と歴史的建造物の保存と再生を柱として、文献講読を中心に進める。とりわけ、建築の様式的変遷や文化財保存の概念が社会思潮の変化に連動していることを念頭に置いて、デザインの歴史が社会的基盤や技術発展の上に成り立っていることを意識させる。

授業は、参加者の興味と担当者の専門性を考慮して、適宜文献を選びながら進める予定である。また、本演習は修士論文の研究指導を兼ねているので、資料収集の方法や論文の読み方、書き方にも重点を置く。

## 【授業の目標】

文化財の保存と再生をテーマに事例研究を行い、最終的には論文としてまとめる。

## 【授業計画】

- 1) 西洋建築史および歴史的建造物の保存と再生に関する論文や書籍を持ち寄り、その中から適切な主題をあつかったものを選び、読み合わせる。
- 2) 読み合わせには、分担を決めてあらかじめ資料を用意し、理解の助けとする。
- 3) 論文のまとめ方を指導する。

## 【評価方法】

論文の内容と調査研究の成果による。

## 【テキスト】

なし。

## 【参考文献・資料】

適宜、必要に応じて配布する。

## 都市環境デザイン特別研究 M II-08 a・b

吉田邦彦

## 【授業の概要】

高度情報社会における都市・建築のあり方、建築設計の方法に関する諸問題の解明、あるいは問題解決のための方法の提案を主要テーマとする。

上記テーマをもとにして、今日の都市・建築の設計および計画におけるさまざまな問題を取り上げて、研究の方法を教示するとともに、学生の研究に対する個別な助言を行い、論文作成または研究成果の結実を指導する。

## 【授業の目標】

取り上げたテーマに関する基本的な知識の習得と研究方法の理解と習得、そして論文として成果をまとめることを目指す。

## 【授業計画】

学生との討論を通して、問題点を明らかにするとともに、学生による修士論文の進行にあわせて、その折々での調査・検討の結果について共同で議論し、指導する。

文献収集、既往の論文の検討、研究テーマに対するアプローチの方法など、研究テーマに関する基本的な事項を中心に指導する。

## 【評価方法】

提出された論文の内容、形式の水準と、学生の授業中での議論に対する積極性によって評価する。

## 【テキスト】

使用しない。

## 【参考文献・資料】

授業内で、適宜紹介する。

## 都市環境デザイン特別研究 M III-08 a・b

日色真帆

## 【授業の概要】

建築や都市空間について、既になされたデザインについての分析と、新しいデザイン方法の開発を大きなテーマとして、学生がそれぞれにテーマを絞り込み研究をすすめるための指導をする。

## 【授業の目標】

実現可能な適切な研究テーマを設定し、着実に研究をすすめるための技術を学ぶ。

## 【授業計画】

個別指導。

## 【評価方法】

レポートによる評価。

## 【テキスト】

特になし。

なお、以下の本は論文をまとめる参考になる。文化系の人にも推薦できる。理科系の作文技術（木下是雄 中公新書）  
レポートの組み立て方（木下是雄 ちくま学芸文庫）

## 都市環境デザイン特別研究 M IV-08 a・b

垂井洋蔵

## 【授業の概要】

都市、建築にかかわる種々の事象や具体的な建築作品あるいは建築家を題材として、空間や場所に関わる現象、あるいは建築作品の制作に関わる諸思潮の理解と建築論的解釈をおこなう。題材とする事象は、学生の主体的な志向性に期待するがいくつかの例をあげれば、

- 1) 歴史上あるいは現代の建築家を題材にその作品と思潮を解明する作家論
- 2) 具体的な建築を題材にその成立、歴史的意味、空間の独自性等を論ずる作品論
- 3) 建築作品や集落の空間構造、や諸要素の構成等を論ずる形態論
- 4) 建築空間や場所に関わる儀礼や祭礼を題材にして建築的な現象を読み取る意味論  
などが考えられる。

## 【授業の目標】

研究のテーマの発見と研究手法を学び論理的思考方法を身につける。

## 【授業計画】

テーマの選定への助言と、考察のための基礎となる方法論を提示する。個別に論文の進捗にあわせた指導を行い、前後期継続して、各個人のテーマに合わせ、修士論文として纏め上げるための助言を与える。

## 【評価方法】

視点の新しさ、推論の論理性、分析の正確さなどを総合的に評価する。

## 【テキスト】

適宜テーマに沿って参考文献を提示する。

## 【参考文献・資料】

増田友也著作集（増田友也著 ナカニシヤ出版）  
建築的場所論の研究（前川道郎編 中央公論美術出版）

## 都市環境デザイン特別研究 M V-08 a・b

清水裕二

## 【授業の概要】

さしあたり、現代社会を読みとる切り口として建築・都市・環境といったフレームを設定する。建築・都市・環境は、社会的存在としての人間（=自分自身）を包含した問題系であることを意識すること。その中で自らの立ち位置を自覚し、主体的に関わるような研究・制作・活動を目指す。具体的な内容は未定であるが、例えば次のような基礎作業が考えられる。

- ・ 建築・都市・環境の事例研究
  - ・ 建築論・都市論・環境論の文献購読
  - ・ 実際の建築設計、街づくり、環境に関わる活動などに参加
- こういった作業を経て、最終的には発展的な提言・提案をまとめ、レポート、模型、映像など様々なメディアを用いてプレゼンテーションを行う。

## 【授業の目標】

個人的な興味だけではなく、社会性をもったテーマを設定すること。また、提言・提案に関しても、現実的な視点からの検証を行う。

## 【授業計画】

学生個々のテーマに沿って個別に指導する。

## 【評価方法】

授業への参加の姿勢、調査・分析の過程、レポートなどの成果物などにより総合的に評価する。

## 【テキスト】

特になし。

## 【参考文献・資料】

適宜指示する。

## 都市環境デザイン特別研究 M VI-08 a・b

齋藤基之

## 【授業の概要】

都市空間および建築内部空間における熱・空気・光・音環境の快適性や省エネルギー、地球環境への配慮等を基礎的なテーマに置き、受講者各自が課題を設定して研究を行う。

## 【授業の目標】

論理的思考力と、それを整理しストーリーとしてまとめる能力、人に伝える（プレゼンテーション）能力のさらなる向上を図り、修士論文としてまとめる。

## 【授業計画】

研究課題の設定、研究計画および調査実施の手法、調査結果の解析手法、論文執筆方法などについて個別に指導する。

なお、研究成果は、各種学会等で発表することを視野に入れる。

## 【評価方法】

各自の研究への取り組み状況、得られた成果の水準や独自性を評価の対象とする。

## 【テキスト】

特になし。

## 都市環境デザイン特別研究 M VII-08 a・b

岡本晴彦

## 【授業の概要】

建築構造の性能に対して社会は何を必要としているかを研究の基盤とする。その観点から性能評価型構造設計法の推進に貢献することのできる課題についての研究を行う。

## 【授業の目標】

取り上げた課題について既往関連研究成果を把握し、問題点が何かを明確にする。次に実験と数値解析により新たな知見を求め、これらを論文としてまとめる。

## 【授業計画】

- ・ 鉄筋コンクリート構造とプレストレストコンクリート構造の常時荷重並びに地震荷重に対する力学挙動についての既往文献調査を性能評価型構造設計法推進の観点から行う。
- ・ 現在における問題点を整理し、重要課題を抽出する。
- ・ 具体的研究課題を設定する。
- ・ 課題遂行のためにはどのような方法を採用すればよいかを考察する。
- ・ 必要となる数値解析と実験を行う。
- ・ 新たに明らかとなった事項をまとめる。

## 【評価方法】

論文作成過程に行った内容と論文の成果により評価する。

## 【テキスト】

指導時に適宜、配布する。

## 【参考文献・資料】

指導時に紹介する。

## 海外実地研修特論

秦 忠夫 西尾林太郎 清水 洋 藤井麻湖

## 【授業の概要】

平成18年度は、「東南アジアの社会・経済発展と日本」をテーマに、シンガポールとマレーシアで研修を行った。シンガポールは、人口400万人余りの都市国家だが、輸出志向型工業化政策をとり、外資に大きく依存して急激な経済発展を遂げている。進出日系企業は約1700社、在留邦人は2万人に上り、高層ビルの多くは日本のゼネコンが建設したもので、丹下健三や黒川紀章が設計した建物もいくつかある。現地教育機関、日本の公的機関の現地出先機関、進出日系企業などを訪れて聴き取り調査・資料収集を行い、机上で学んだ両国の現状および日本との係わりについて現地で確認しつつ、研究を深めた。また、シンガポールをベースとしてマレーシアを訪問し、両国の諸相を比較検討した。平成20年度の計画は未定。

## 【授業の目標】

レポート作成とフィールドワークを通じて東南アジアに関する専門知識を養う。

## 【授業計画】

事前研修、現地研修、事後研修からなるが、平成20年度については計画未定。

## 【評価方法】

事前研修での発表、現地研修での活動状況、帰国後の報告・レポートで総合的に評価する。

## 【テキスト】

未定

## 【参考文献・資料】

未定

## 主題講義 II

谷沢 明

### 【授業の概要】

授業テーマは、「地域の個性を活かす新しい文化の創造と発信」。事例研究として、我が国屈指の伝統的民家・町並みが残る中世の寺内町である奈良県今井町を取り上げ、地域の風土や生活の中で育まれてきた伝統文化の価値を再発見し、地域のアイデンティティの基礎となる個性豊かな地域文化の創生と発信についての検討を行います。

### 【授業の目標】

上記テーマに基づいた主題講義・フィールドワーク・ワークショップ・プレゼンテーション等を実施し、総合的に理解・把握・応用する能力を身につけます。

### 【授業計画】

この授業は集中授業で実施します。2008年度は下記の日程です。  
 6月21日(土曜日) 事前講義  
 6月28～29日(土・日曜日) フィールドワーク及びワークショップ(学外教育・奈良県今井町)  
 7月12日(土曜日) プレゼンテーション  
 奈良県今井町は、天文年間(1532～54)、中世の環濠集落を母体に整えられた称念寺を中核とする寺内町で、国重要文化財の民家が7軒も残されています。しかし現在、町並みの中には空き家が目立っていて、これを活用して、街に賑わいを取り戻し、持続可能なまちづくりを目指すためにNPO「今井まちなみネットワーク」が設立されました。今回の主題講義の講師としてこの組織の理事長である上田琢也氏を予定しています。上田氏は「今井の歴史・文化を味わってもらおう環境づくりを目指している。そのためには、今井のよさを知り、それを発信するところから始めたい。今井の町並みが残ったのは、コミュニティの絆があったからだ。それを再評価して、我々の時代にふさわしい新しい絆をつくっていきいたい」そのような考えの持ち主です。学部学生の参加も歓迎します。

### 【評価方法】

フィールドワークへの参加、プレゼンテーション等で行います。

### 【テキスト】

使用しません。

### 【参考文献・資料】

授業で必要に応じて紹介します。

## 国際理解教育 II

植村広美

### 【授業の概要】

第2次世界大戦による日本の孤立から、敗戦によるアメリカ軍の日本占領政策としての日本教育の民主化の導入が、日本経済の発展にどのような影響を与えたかを考察するとともに、世界の経済大国となった日本の国際理解教育の現状を分析し、今後の望ましいあり方を求めることを主眼とする。

### 【授業の目標】

戦後の日本の教育の歩みと国際理解教育について理解すること。(詳細は授業にて解説する。)

### 【授業計画】

- 日本の民主化政策としての教育改革
  - 戦後の民主教育への革命的な移行とアメリカ教育使節団
  - 男女共学、単線型教育制度の導入の教育的意義
  - 高等教育機関の充実(新制大学)と日本の飛躍
  - 教育内容の変化と近代化
- 日本における国際理解教育の発展と現状
  - 海外留学制度の変遷と拡充
  - 中学・高等における国際理解教育の現状と課題
  - 中学・高校における外国人教員の現状と課題
  - 外国人留学生の受け入れの現状と課題
  - 現代の留学事情

### 【評価方法】

レポートの提出。授業中の発表をもとに総合的に評価します。

### 【テキスト】

なし。

### 【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

## 地域社会プロジェクト Ib

榊原國城

## 【授業の概要】

組織心理学およびコミュニティ心理学の研究を中心に、隣接する領域の心理学的研究の諸論文を精読し、その意義や問題点等について討論を行う。その際、研究の基本的な枠組みや科学的研究方法についての解説を行い、受講者の理解を深める。また、後半ではテーマごとに受講者に課題を与え、発表討論を行う。受講者は、積極的かつ主体的に討論に参加してほしい。論文の選択は当初担当者が行うが、演習を進めていく過程において、受講者の関心、理解度に応じて柔軟に変更を加えていきたい。

## 【授業の目標】

科学的研究論文の作成過程および基本事項の修得。

## 【授業計画】

1. 講義：科学的研究のプロセス
2. 参考文献の輪読
3. 研究テーマの抽出
4. 研究テーマ関連資料収集
5. 資料分析と発表
6. 講評

## 【評価方法】

授業中の発表内容および態度に基づいて評価する。

## 【テキスト】

使用せず。

## 【参考文献・資料】

授業中に提示または指示する。

## 地域社会プロジェクト II a

竹村 弘

## 【授業の概要】

21世紀の情報化、国際化および環境・生活者優先の時代に向けて、それぞれの地域特性に則した地域づくりを研究する。

## 【授業の目標】

わが国の「経済計画」「国土計画」の計画と実績を理解した上で、直面している課題の対策を提言する。

## 【授業計画】

1. わが国の「経済計画」「国土計画」では、従来どのような課題が提示され、実際にどのような経済および国土が形成されてきたかを、調査・研究する。
2. わが国が現在直面している課題を、各自一つずつ選択して、その対策を実証的に研究する。
3. レポート集「21世紀日本経済の課題」を作成する。

## 【評価方法】

課題とレポート、および討論参加度。

## 【テキスト】

講義の中で提示する。

## 【参考文献・資料】

講義の際に配布する。

## 国際社会プロジェクト II a

渡辺かよ子

## 【授業の概要】

教育近代化の過程とその帰結としての今日の教育問題について、世界教育史上の人物の実践と思想の軌跡を手がかりに考察していく。彼らの思想がいかなるものであり、それがいかに今日の教育実践に繋がっているのかを探っていく。

## 【授業の目標】

近代教育思想の特徴をそれ以前の教育思想との比較から理解する。

## 【授業計画】

1. コメニウス「大教授学」
2. ロック「教育論」
3. ルソー「エミール」
4. ベスタロッチー「隠者の夕暮」
5. デューイ「学校と社会」「民主主義と教育」

## 【評価方法】

授業での発表とレポート。

## 【テキスト】

資料配布。

## 【参考文献・資料】

Perspectives on Learning (Phillips & Soltis著 Teachers College Press)

## 国際社会プロジェクト II b

西尾林太郎

## 【授業の概要】

19世紀半ばから1930年代にかけて日本を訪れた外国人による回想録や日本に関する記録を丁寧に読む。オールコックら外交官、孫文ら政治家、ピギー、アインシュタイン、B.タウトら学者・文化人、ペーブルスらスポーツマンがそれぞれ日本を訪れ、日本各地で多くの日本人と交流した。彼等は日本を訪れたそれぞれの時代において、日本人や日本の社会に対しどのように感じ、考えたであろうか。彼等が遺した記録や回想録からそれぞれの日本観や日本人観を抽出し、それを手がかりに近代化の進展にともなう国民生活の実相や日本社会の変化について考察してみたい。同時に、外国人の著作物や記録を通して、戦前期日本国内の動向を世界情勢と関連付けて考察したい。さらにこうして得られた知見を基に戦中・戦後の日本の社会や文化について検討する。なお、資料は随時配布する。

## 【授業の目標】

社会科学や人文科学の古典をじっくり読んで、近代日本の社会や政治・文化について考える。

## 【授業計画】

授業の流れは次の通りである。

- 1～2：幕末から明治時代の日本の社会と文化
- 3～6：幕末から明治時代に日本を訪れた外国人たち
- 7～8：大正時代から昭和初年にかけての日本の社会と文化
- 9～11：大正時代から昭和初年にかけて日本を訪れた外国人たち
- 12：戦前の日本社会と戦後の日本社会
- 13：「外国人が見た近代日本社会」というテーマでフリーディスカッション

## 【評価方法】

出席状況と授業での活躍を総合的に評価する。

## 【テキスト】

使用しない。

## 【参考文献・資料】

適宜、配布する。



## 都市環境デザインプロジェクト II a

齋藤基之

## 【授業の概要】

建築の持つ主要な役割の一つに、熱・光・音・空気といった物理的環境の調整が挙げられるが、これをデザインするためには、建築物周辺や都市環境の実情を知ることが不可欠である。文献購読や実測調査・気象データ解析等により、都市の物理的環境の現状を把握するとともに、その問題点・改善策について検討する。

## 【授業の目標】

やや高度な調査やデータ解析等を体験しながら、建築の設計に応用可能な資料の作成を目指す。

## 【授業計画】

- ・参考文献の輪読。
- ・対象とする都市空間に関する資料収集。
- ・気象データや衛星データ等を用いた解析。
- ・測定器を用いたフィールド調査。
- ・解析結果の発表と講評。
- ・最終レポートの作成。

## 【評価方法】

プロジェクトへの参加状況と提出されたレポートにより評価する。

## 【テキスト】

必要に応じて資料を配付する。

## 都市環境デザインプロジェクト II b

清水裕二

## 【授業の概要】

建築・都市のデザインはきわめて高い社会性を求められる行為であるといえる。この授業では、現代社会に存在する建築・都市に関する現実的課題について調査（フィールドワークを含む）・分析を行い、それに対し単なる机上の空論でなく、社会へコミットするような実践的提案を行うことを目標とする。最終的には実際の社会的実践・活動へと接続することが望まれる。

## 【授業の目標】

現代的な課題について、ある程度テーマを絞り込んだ上で深く掘り下げる調査・分析を行い、具体性をもった提案を目指す。

## 【授業計画】

課題の設定、調査・分析、提案のまとめ方などについて学生と議論を重ね、助言を行いながら進めてゆく。

## 【評価方法】

プロジェクトへの参加の姿勢、調査・分析の過程、レポートなどの成果物、社会的実践・活動の様子などにより総合的に評価する。

## 【テキスト】

特になし。

## 【参考文献・資料】

適宜指示する。

## 主題講義 I

大西 誠 五島幸一

## 【授業の概要】

新聞、テレビ、雑誌などのマスメディアを中心に、メディアが果たす役割について検討する。ジャーナリズムとしての機能、エディタースhip、ニューズネットワークなどの事項を視座の中心として、現代社会におけるメディアの関わり合いを考察する。

## 【授業の目標】

マスメディアが、何を、どのように報道するかを検証することによって、私たちが日々受け取る情報に惑わされることなく、正確に読み取る能力を高める。

## 【授業計画】

数人の講師による講義と、実際のメディア報道の分析を行う。

## 【評価方法】

出席状況、授業への参加度、およびレポートにより評価する。

## 【テキスト】

未定

## 【参考文献・資料】

適宜指示する

## 主題講義 III

辻 紘良

## 【授業の概要】

昨今、ユビキタス新時代といわれ、どこでも手軽に利用できる通信技術の進展を背景に、社会生活のいろいろな場面でシステムが導入され活用され始めている。ここでは、このような時代において、まず技術的な視点から現在に至ったその経緯を把握するとともに今後の動向について展望を得るものとする。ついで、システム普及の現状を把握するとともに、社会へ及ぼす影響や問題点を明らかにする。また、今後の動向についてその展望を得るものとする。

## 【授業の目標】

ユビキタス新時代における情報通信技術の進展やシステム導入の現状、および社会へ与える影響や問題点を理解するとともに、今後のユビキタス社会について展望を得る。

## 【授業計画】

1. 学識経験者および専門家によるユビキタス概観
  - (1) ユビキタス情報通信技術のこれまでの発展の経緯ならびに今後の動向（局地通信、Blue Tooth、無線LAN、ICタグなど）
  - (2) 国のIT政策（IT基本法、e-Japan戦略I・II、IT新改革戦略）
  - (3) 国内におけるユビキタスシステムの研究・開発とシステム普及の現状（インスパイア型システム、CO2削減システム、自立支援プロジェクト）
2. ユビキタスシステムの応用に関する討議、提案  
地域開発（町おこし）、バリアフリー化等への応用システムの提案、討議
3. Technical Tour  
(TOICA、ショッピングセンター、ネット販売企業などを対象に視察予定)

## 【評価方法】

出席状況、発表・討議やレポート提出状況により評価する。

## 【テキスト】

なし

## 【参考文献・資料】

平成19年度版情報通信白書、総務省、2007年  
「ユビキタスの基礎技術」、篠原正典他、2007年

## 国際理解教育 I

植村広美

### 【授業の概要】

開国の実現によって鎖国時代の閉鎖社会から、急速かつ広範な外国文明の積極的な受容社会への変換によって、近代日本の発展がはじまった。

幕末から明治維新にかけて、西洋の進んだ技術文明がどのような教育的経路をたどって日本に導入されたかを学習する。

### 【授業の目標】

日本の教育の近代化と国際理解について、理解すること。(詳細は授業にて説明する。)

### 【授業計画】

1. 幕府の近代化政策と日本の近代化に及ぼした教育的効果
  - (1) 近代化への萌芽過程
  - (2) 幕府の海外使節団派遣
  - (3) 海外への留学生派遣
  - (4) 洋学の摂取
2. 明治新政府発足と外国文明の積極的な受容のための教育政策
  - (1) 海外視察団の派遣
  - (2) 明治初期の外国語教育
  - (3) 明治期の海外留学制度の整備

### 【評価方法】

レポート及び課題の提出、授業中での発表をもとに総合的に評価します。

### 【テキスト】

なし。

### 【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

## 地域社会特別研究D II-08 a・b (地域交通論)

辻 紘良

## 【授業の概要】

現在移動通信技術や情報技術の著しい進展を背景に、いわゆるITS (Intelligent Transport Systems) と総称される自動車交通に関する新たな技術・システムの開発および普及が急速に進められている。この授業では、ITSの地域交通への展開を取り上げ、現在この分野で注目されている中心的なテーマ、技術開発動向等に関し検討し、問題の解決方法を研究する。この過程で学生の優れた問題意識と高度な分析能力を育成する。これとともに、参加学生に対して、授業内での発表・討論、あるいは個別的な助言を通じて、学位論文の作成過程を指導する。

## 【授業の目標】

1. ITSを対象に課題を設定するとともにその解決策を提案し、その可能性を実験・分析するとともに、新たな結果を得るための研究能力を高める。
2. 歩行者支援のためのITSシステム制作などを通して総合的な研究能力を高める。

## 【授業計画】

博士後期課程を3年で終了しようとする場合、第1年次で文献・資料調査にもとづく研究テーマの設定、研究方法の把握に主眼を置き、第2年次でデータ収集、システム構築、問題解析等によって独自の研究成果をうることに集中し、第3年次で論文の完成に向かうよう指導する。

## 【評価方法】

研究計画や研究推進状況ならびに論文の出来映えをみて、総合的に評価する

## 【テキスト】

テキスト使用せず。

## 【参考文献・資料】

Proceedings of the World Congress of 14th World Congress on Intelligent Transport Systems (ITS'07)、他

## 地域社会特別研究D IV-08 a・b (組織行動論)

榎原國城

## 【授業の概要】

組織との関わりなしに生きることが非常に困難であることは現代社会の重要な側面である。言い換えれば、組織に対する個人の積極的な関わりが、組織における真に自由で創造的な活動と成果を生むのではなからうか。そのためには、組織と人間との関わりについて、さまざまな側面から考察することが大切であろう。このような観点から組織内で人々が示す態度や行動を体系的に取り扱おうとする学問が組織行動論である。本授業で扱う主要なテーマは、職業適性と職業選択、仕事への動機づけと職務満足、集団とリーダーシップ、コミュニケーションと人間関係、業績評価と報酬システムなどである。参加学生には、これらの研究領域に関連する内外の研究をレビューし、それらに対する評価を中心とする発表や討論を促し、必要に応じて種々の助言を与える。博士後期課程を3年間で終了しようとする場合、第1年次で文献研究、研究テーマの設定、研究デザインの設計を終え、第2年次においてはデータの収集、解析を集中的に行い、第3年次で学位論文の完成に向かうよう指導する。

## 【授業の目標】

学位論文の完成。

## 【授業計画】

個別指導

## 【評価方法】

中間報告と論文による評価。

## 【テキスト】

使用せず。

## 【参考文献・資料】

授業中に指示する。

## 地域社会特別研究D III-08 a・b (地域文化論)

谷沢 明

## 【授業の概要】

地域社会における物質文化と精神文化の両面を対象とし、人間が自然に対し共存しながら築いてきた生活様式と内容を取り上げる。主な指導内容は、次のとおりである。

- 1) 新しい文化と生活様式を創造する機能を有した多様性のある地域づくりの研究。
- 2) 歴史・風土・文化的等の地域特性を生かした自立的な地域づくりの研究。
- 3) 個性と伝統のある地域文化の保存と活用、および歴史的環境の保全を図りつつ行う地域づくりの研究。

上記の研究テーマに基づき、参加学生の学位論文作成を指導する。博士後期課程を3年間で終了しようとする場合、第1年次で研究テーマの設定、既往研究の把握、文献・資料の確認、野外調査の指導に主眼を置き、第2年次で、野外調査の実施、および文献資料の分析によって独自の研究成果を得ることに集中し、第3年次で論文の完成に向かうよう指導する。

## 【授業の目標】

博士論文作成に向けて、既往研究を踏まえた独創的な調査研究を積み重ね、それをまとめることを目標とする。

## 【授業計画】

学生が定めたテーマの調査研究と論文作成に対する個別的助言指導を中心とする。定期的に進捗状況の報告を行う機会をもつように努める。

## 【評価方法】

平生の調査研究への取り組みにより評価する。

## 【テキスト】

使用しません。

## 【参考文献・資料】

参考文献については調査研究の進捗状況に応じて、適宜紹介します。

## 国際社会特別研究D I-08 a・b (国際社会発展論)

藤瀬浩司

## 【授業の概要】

近現代において各国が迎った社会経済発展、および世界システムの構造変化を取り上げ、現在この分野で問題とされている中心的なテーマ、研究方法、論争点、文献・資料を開示し、優れた問題意識と高度な分析能力を育成する。これとともに、参加学生に対して、授業内での発表・討論、あるいは個別的な助言を通じて、学位論文の作成過程を指導する。博士後期課程を3年間で終了しようとする場合、第1年次で、研究テーマの設定、研究史の把握、文献・資料の確認に主眼を置き、第2年次で、文献資料の分析によって独自の研究成果をうることに集中し、第3年次で論文の完成に向かうよう指導する。

## 【授業の目標】

博士論文作成のため必要な諸点を指導する。

## 【授業計画】

1. 各テーマについて、最近の研究動向を検討する。
2. 参加学生が自身の研究状況を報告し、指導を受ける。
3. 学位論文の作成に対して助言する。

## 【評価方法】

報告および討論の参加によって評価する。

## 国際社会特別研究D II-08 a・b (国際教育交流論)

渡辺かよ子

## 【授業の概要】

教育文化交流を国際的視点から検討する各自の博士論文の完成に向けた指導を行う。各自の研究テーマに応じた研究方法論、基礎理論の概観、資料収集の方法などについて個別指導と発表討論を並行して行っていく。

## 【授業の目標】

博士論文に関連する分野の基礎的知識の習得と中間報告としての研究論文執筆。

## 【授業計画】

1. 研究方法論
2. 研究テーマの重要性と先行研究の検討
3. 論文の構想と構成
4. 論文執筆と内容検討

## 【評価方法】

中間報告と論文。

## 【テキスト】

使用せず。

## 【参考文献・資料】

その都度指示する。

## 国際社会特別研究D III-08 a・b (国際労働移動論)

清水 洋

## 【授業の概要】

アジア域内における労働力移動をメインテーマとし、歴史的背景、各国の移民政策、移民送り出し国と受け入れ国への社会・経済的インパクトなどについて、日本との比較を通して多面的に考察する。また、多国籍企業（とりわけ日本企業）の活動の実態と外国人労働者の雇用にまつわる諸問題について民間企業の事例をまじえて検討する。授業内では、研究発表・討議、各種資料の分析、個別的な助言などを通じて論文作成の指導を行なう。論文テーマは、履修者が指導教員と十分に相談のうえ設定する。なお、初年度から論集や学外の学術誌への論文投稿を後押ししたい。

## 【授業の目標】

博士論文の完成。

## 【授業計画】

個別指導を行う。

## 【評価方法】

中間報告と論文による評価。

## 【テキスト】

使用せず。

## 【参考文献・資料】

必要に応じて適宜指示する。

## 国際社会特別研究D IV-08 a・b (日本政治・比較政治論)

西尾林太郎

## 【授業の概要】

- (1) 近代日本の政治・外交・社会等の分野の近代化とその特質について、中国、韓国等のアジア諸国や欧米諸国との比較検討を通じて考察する。日本を含め各国の近現代史に関する文献をはじめ、比較近代化論や比較政治に関する文献の講読と各種の歴史資料の解説・分析を通じ、優れた問題意識と高度な分析能力を育成する。同時に、授業内における発表・討論や個別的な助言により、学位論文の作成を指導する。なお、博士後期課程を3年間で修了しようとする場合、第1年次で研究テーマの設定、内外の研究史の把握、文献・資料の収集とその内容の検討、第2年次で文献・資料の分析についてそれぞれ指導する。そして第3年次では、学位論文の作成について指導し、その完成を期したい。
- (2) 現代の東アジアの諸地域について比較政治論、比較社会論の見地から考察する。
- (3) 個別指導により博士論文作成に向けて準備をする。

## 【授業の目標】

- (1) 各自の研究テーマを踏まえつつ、個別のレポートを随時作成し、洞察力や文章作成能力を高める。
- (2) 博士論文を作成する。

## 【授業計画】

1. 基本文献の購読及びレポートの作成
2. 論文作製

## 【評価方法】

指示された課題達成状況を総合的に評価する。

## 【テキスト】

使用しない。

## 【参考文献・資料】

そのつど指示する。

## メディアプロデュース特別研究D I-08 a・b (映像表現論)

坂元 多

## 【授業の概要】

映像表現に関わる内外の中心的な論文の読み合わせを行う。論文の内容把握が一つの狙いであると同時に、その論理の組み立て方、資料の使い方、結論への導き方、用語や、概念の定義の仕方など論文執筆のための枠組みも学びとらせる。論文のジャンルとしては、映像番組制作に重点をおき、番組分析の基本となるエンコーディング、デコーディングに関する論文、番組制作の基本となる映像編集やナレーションに関する論文、具体的な番組論としてのケーススタディなどを扱う。

## 【授業の目標】

映像に関する内外の論文の解説をとおしてこれまでの映像研究の成果全体像の概念を得させる。

## 【授業計画】

進度、年次によって個別にアサインメントを考える。論文の完全理解を目指すので、文中にでてくる概念、用語、固有名詞の意味など細部にわたる学習結果の相互発表と討議によって授業はすすめられる。

## 【評価方法】

担当発表部分に関しての理解度を示すショートエッセイをもって評価する。

## 【テキスト】

必要に応じて個別に用意する。

## 【参考文献・資料】

*Cult Movies and Intertextual Collage* (Umberto Eco : Casablanca)  
*The Cellu Loid Closet* (vito Russo)  
*Explorations in Film Theory* (Ron Burnett)

## メディアプロデュース特別研究D II-08a・b (メディア文化史論)

山田登世子

## 【授業の概要】

現代メディアの生産と需要を歴史的に把握することを目的とするメディア文化史は優れて学際的な学問領域であり、幅広い知識が要求される。第1年次では、複製技術論、読書論等々、広領域にわたる基礎文献の習得を徹底化させるとともに、研究対象をいかなるメディアに焦点化するか、テーマ選択を指導する。つづく次年度は、選択した研究テーマに従って、文献資料の探索・分析、ならびに実際のメディア体験の理論的分析を課題とし、その成果を逐次授業で報告させつつ、学位論文にまとめさせる。

## 【授業の目標】

新聞、写真からインターネットまで、さまざまなメディアの生成を歴史的に把握すること。

## 【授業計画】

ゼミ（あるいは個人指導）方式をとる。  
上記授業概要に従って、毎回報告レポートを提出すること。  
その報告を指導するかたちで授業をすすめる。  
場合によって、長文のレポート提出を課す。

## 【評価方法】

評価は授業時のレポートおよび期末レポートによるが、授業の平常点を重視する。

## 【テキスト】

未定

## 【参考文献・資料】

メディア論（マクルーハン みすず書房）  
複製技術時代の芸術（ベンヤミン ちくま文庫）  
写真論（ベンヤミン ちくま文庫）  
メディア都市バリ（山田登世子 ちくま学芸文庫）

## メディアプロデュース特別研究D III-08a・b (メディア環境論)

大西 誠

## 【授業の概要】

現代の映像文化についてメディア表現との関係に注目しつつ、具体的な事例や文献を通じてメディア環境の観点から分析する。また各自の課題の深化と問題解決のプロセスについて計画・立案する。あわせて、現在のメディア表現の特質や新しいテクノロジーを取り上げ、メディア環境の個別的課題を抽出する手法を開発・養成していく。具体的には、各自の課題レポートの発表・討論などを通じて、研究方法や分析方法、ひいては論文作成を個別的に指導する。年次を追うごとに課題発見から調査研究、分析と論文作成を段階的に指導する。

## 【授業の目標】

事例研究により、メディア環境について論述できる能力を身につける。個別に調査研究をまとめて学会で発表する。さらに社会的・文化的文脈をふまえた分析能力を高め、論文作成に応用できる力をつける。

## 【授業計画】

フィールドワークなどをふくめ実践的に調査・研究する。また個別の指導により論文作成を行う。

## 【評価方法】

研究ノート及び学会発表などで総合的に評価する。

## 【テキスト】

なし

## 【参考文献・資料】

別途指定する。

## メディアプロデュース特別研究D IV-08a・b (レトリック批評論)

五島幸一

## 【授業の概要】

古代ギリシャ・ローマ時代からの流れを受け継ぐレトリック批評は、元来スピーチ批評として発達してきた。しかしながら、現代のメディアの発達に伴い、様々なメディア（テレビ、映画、広告など）の中身（コンテンツ）も分析するようになり、その分析対象は言語のみならず非言語にも及ぶようになった。このレトリック批評の流れを把握し、その理論を現実の問題の解決に応用できうる知識を養う。

第1年次では、レトリック批評理論の歴史的な流れに焦点を当てて、その特徴を考察する。つづく第2、3年次では、現代レトリック批評を視座の中心とし、文献資料の探索・分析、ならびに実際のメディアのメッセージを理論的に分析することを課題とし、その成果を授業で報告させ、学位論文にまとめさせる。

## 【授業の目標】

レトリック批評についてより深く学ぶとともに、具体的な事象をレトリック批評の観点から分析できるようにすること。

## 【授業計画】

研究テーマの設定、問題設定、論文の書き方などを学生との討論を通して指導する。

## 【評価方法】

論文の進捗状況によって評価する。

## 【テキスト】

とくになし。

## メディアプロデュース特別研究D V-08a・b (計算科学)

親松和浩

## 【授業の概要】

様々な自然現象のモデルを作成し、数値シミュレーションとその可視化を行うことによって現象の理解を深め、教育および工学的な応用を目指す。博士論文の完成に向けて、研究テーマの選定、基礎理論および数値計算や可視化の技術に関する指導と助言を行う。

## 【授業の目標】

自然現象のコンピュータシミュレーションに関する総合的な能力を養い、博士論文完成を目指す。

## 【授業計画】

1. 研究テーマの選定
2. 先行研究の検討
3. 現象のモデル化
4. 数値計算とその結果の可視化
5. 論文作成

## 【評価方法】

研究の中間報告および論文を総合的に評価する

## 【テキスト】

授業開始時に指示する

## 【参考文献・資料】

その都度指示する



## メディアプロデュース特別研究D VI-08 a・b (理論構築)

太田浩司

## 【授業の概要】

本講義では博士論文を作成するのに必要不可欠な理論の構築について知識と理解を深める。

## 【授業の目標】

メディアとコミュニケーション研究における様々な理論を概観し、自らの研究のテンプレートとなるモデルの作成、検証、そして修正を実際に行うことを目標とする。

## 【授業計画】

個別指導を行う。

## 【評価方法】

タームペーパー。

## 【テキスト】

使用せず。

## 【参考文献・資料】

必要に応じて適宜指示する。

## 都市環境デザイン特別研究D I-08 a・b (情報化建築論)

吉田邦彦

## 【授業の概要】

最近の情報通信技術 (IT) の進歩は著しく、建築のあらゆる領域に大きな影響を与えつつある。建築とITとの関わりにおける問題など建築計画上の諸課題を取り上げ、優れた問題意識と高度な分析能力を育成する。

学生は、修士論文で扱った問題を中心に各自が関心を持つテーマを設定し、既往の研究の確認、研究方法などを中心に調査研究する。その上で、新たな研究調査を実施させ、独自の研究成果を得るように、そしてそれらの結果をもとに研究をさらに深化させ、学位論文として完成するように研究指導する。

## 【授業の目標】

取り上げたテーマに関する優れた問題意識と高度な分析能力の習得、そして学位論文として成果をまとめることを目指す。

## 【授業計画】

上記授業概要に従って、各自の研究テーマに関する研究発表とその討論および助言・指導を行う。

## 【評価方法】

1年間の研究活動を総合的に評価する。

## 【テキスト】

使用せず。

## 都市環境デザイン特別研究D II-08 a・b (建築歴史・意匠論)

河辺泰宏

## 【授業の概要】

古代から近代に至る建築の歴史とデザイン様式について、文献講読や資料収集、現地調査等を通じて学び、特定のテーマについて新しい見地を得て論文等にまとめる。

## 【授業の目標】

文化財の保存と再生をテーマに事例研究を行い、最終的には論文としてまとめる。

## 【授業計画】

受講生の関心と先進的な研究課題とを考え合わせて、講読すべき文献や資料を選んでセミナーを行う。また、必要があれば調査などを計画していく。

## 【評価方法】

研究成果をまとめたレポート、論文、研究発表等によって総合的に判断する。

## 【テキスト】

必要に応じて指定する。

## 【参考文献・資料】

必要に応じて指定する。

## 都市環境デザイン特別研究D IV-08 a・b (建築・都市空間デザイン論)

日色真帆

## 【授業の概要】

建築・都市空間のデザインに関して、環境行動研究、人間環境系の計画理論、設計方法論などの成果を踏まえて考察を進める。その一方で、都市居住に関わる現代都市の具体的問題を対象に行う調査分析と、様々な共同作業を支援する新しい設計手法の開発とを実践的課題として掲げる。これらの研究分野について指導し、それを受けて学生は、教員および他の学生と協力して研究を進める。学生との論議を重ねて個別の学位研究テーマを絞り込むよう指導する。調査分析、研究発表、学位論文の作成等に関する技法上の指導も併せて行う。

## 【授業の目標】

有意義で独自性があり、かつ達成可能な研究テーマを設定し、着実に研究を進めるための技術を学ぶ。

## 【授業計画】

個別指導。

## 【評価方法】

論文による評価。

## 【テキスト】

特になし。

## 都市環境デザイン特別研究D V-08 a・b (建築論・建築表現論)

垂井洋蔵

## 【授業の概要】

建築の制作にあたって建築家は言葉を語る。それは建築作品として具体化される前の思惟の過程であったり、その建築がどのような意味を具現化し、それが空間的な表現へどう形作られていったのかを伝えようとするものでもある。一方我々が経験するものとしての建築は、視覚的イメージの発信者であり、またわれわれがそこで空間経験をj得る場所でもある。このように建築は表現されたものであると同時に、表現するものというありかたでも存在する。この意味で建築は純粋芸術とは異なった表現作品ということが出来る。アートとメディアの両義的なありかたと言い換えることも出来る。建築制作にかかわる言葉や意図を既往の作家論、あるいは建築家による個別建築論(制作論)から学び同時に建築的場所における空間経験、視覚化された意味の発信を体験的に読み取ることにより上記の視点から建築のあり方を理解する方法を探る。主として近現代の建築家と建築作品を題材に考察を深める。メディアという視点からの建築表現論として、現代アートの諸表現との関連にも注目する。受講者は固有の建築的現象を発見しそれについて調査分析すると同時に、それに関わる周辺領域の種々の理論を学び成果を論文としてまとめあげる。

## 【授業の目標】

論理的な思考と、新規性のある視点に基づいた研究方法と成果を論文として提出する。

## 【授業計画】

個別に指導するとともに、研究の各プロセスで成果を外部に発表するための指導を行う。

## 【評価方法】

成果としての論文による。

## 【テキスト】

適宜参照すべき文献を指示します。

## 都市環境デザイン特別研究D VI-08 a・b (建築構造論)

岡本晴彦

## 【授業の概要】

性能評価型建築構造設計法の推進並びに建築物設計の自由度向上に貢献することのできる課題に関する研究を行う。

特定の課題を抽出し、新たに明らかになったことを明確にして論文にまとめる。

## 【授業の目標】

抽出した課題を遂行する過程から、独自性の高い研究成果を得るための思考法と技術を習得する。

## 【授業計画】

特定の課題を抽出し、関連既往研究について調査・検討を行う。  
次に課題解決に必要な解析を行う。必要に応じ、実験も行う。  
明らかにされた事項を論文としてまとめる。

## 【評価方法】

研究遂行過程並びに論文によって総合的に判断する。

## 【テキスト】

必要に応じて指定する。

## 【参考文献・資料】

別途指定する。

## 生体情報心理学特講 1・2

沖田庸嵩

## 【授業の概要】

社会的コミュニケーションに関わる脳内認知情報処理を精神生理学的観点から探る。

## 【授業の目標】

脳研究全般の概略を把握するとともに事象関連脳電位 (ERP) の特性と基本的な研究パラダイムについて理解を深める。さらに、注意・記憶・言語・顔認知に関わる近年の知見とモデルを学ぶ。

## 【授業計画】

1. 認知神経科学に関する総説を受講者が分担して報告し、講義を進める。
2. ERPで脳内認知情報処理を探る方策について講義する。
3. 注意・記憶・言語・顔認知、各テーマの総説を取り上げ、受講者が分担してその内容を紹介し、全員で討論する。

## 【評価方法】

分担報告の内容と授業への参加度により評価する。

## 【テキスト】

使用しない。

## 【参考文献・資料】

適宜プリントを配布する。

## 生体情報心理学特講 3・4

清水 遵

## 【授業の概要】

生体が感覚刺激として受容する外界情報やそれらを処理する過程で派生する内部情報は様々な生理・心理的反応を惹起する。これら生体内外の情報のコミュニケーション過程で生じる情動のプロセスを精神生理学的観点から検討していく。

## 【授業の目標】

欧文論文を輪読することで精神生理学の基礎的知識の習熟をめざす。また、感情研究における生理指標の位置付けについて、種々の感情査定法との比較において理解を深める。

## 【授業計画】

前期 (特講3) は神経系の機能や生理指標に関する欧文書を講読、適宜解説を加える。

後期 (特講4) では、これまでになされてきた情動プロセスの精神生理学的研究に関する欧文書を輪読する。

## 【評価方法】

授業への積極的参加度、文献内容理解力により評価する。

## 【テキスト】

適宜、関連するプリントを配布する。

## 生体情報心理学特講 5・6

吉崎一人

## 【授業の概要】

近年注目されている認知心理学、認知神経心理学等に関連する書籍を精読し、議論し、理解を深める。

## 【授業の目標】

最近のトピックを概観することで、認知神経心理学的な研究枠組み、考え方を学習する。

## 【授業計画】

前期  
ここ2、3年のTrends in Cognitive Sciences, Psychological Science等の欧文誌を輪読する。

後期  
前期で購読したレビュー論文から、各自興味のある論文をとりあげ、レポーター形式でプレゼンする。

## 【評価方法】

レポーターの内容、授業へ取り組む姿勢を総合的に評価する。

## 【テキスト】

未定

## 【参考文献・資料】

適宜紹介する。

## 社会心理学特講 1・2

植村勝彦

## 【授業の概要】

コミュニティに内在する諸問題を、福祉臨床社会心理学ともいえる視点から扱うコミュニティ心理学は、一つには従来の個人臨床心理学の限界を補完ないし打開するものとして、また個人を取り巻く各種組織や小社会のシステムの実践的変革を目指す心理学として期待されている。ただ、わが国においてはまだなじみが薄く、研究実績的にも乏しいという現状に鑑みて、当面は、この新しい心理科学の実際を紹介することを課題と目標とする。

上記の理由から、啓蒙的意味を込めて、コミュニティ心理学の全体的概要を紹介することから始める。コミュニティ心理学の成立に至る背景・歴史、研究理念・目標、独特の研究手法、過去の中心テーマであった精神保健問題、今日の解決課題・テーマなど、主にアメリカのデータに基づきながら進めるが、これはまた日本の現在および近未来の姿でもあろう。

## 【授業の目標】

コミュニティ心理学の理念を理解すると共に、現代の諸種社会問題にそれらを適用する場合、いかなる点を考慮すべきか、またどうすれば可能になるか、を実践的に考察できる目を養うこと。

## 【授業計画】

植村勝彦編『コミュニティ心理学入門』(ナカニシヤ出版)、日本コミュニティ心理学会編『コミュニティ心理学ハンドブック』(東京大学出版会)をテキストに、受講者に分担してもらいながら、また引用文献の紹介も分担してもらいながら討論を含めて進める。前後期とも継続で進行する。

また、Duffy & Wong著・植村勝彦監訳『コミュニティ心理学』(ナカニシヤ出版)、スキレッピーら著・植村勝彦訳『コミュニティ心理学』(ミネルヴァ書房)などの参考書を随時資料としながら補足する。

## 【評価方法】

前期、後期にそれぞれ課すレポートと、分担発表の成績により評価する。

## 社会心理学特講3・4

斎藤和志

## 【授業の概要】

社会的認知や他者に対する関心や反応性、社会的事象に対する思考や態度の研究を中心に検討する。対人行動や社会的事象をクリティカルに考えるプロセスに焦点をあてる。いわゆる論理的思考や社会的認知の諸問題に加えて、人間や社会を考えようとする姿勢の重要性、社会心理学的な知見や考え方を現実社会の中に取り入れていくことの可能性などについてさまざまな視点から検討していきたい。

## 【授業の目標】

社会心理学的な観点で論理的に考え、現実の問題を捉え直すこと。(詳細は授業にて解説する。)

## 【授業計画】

授業の初回でテキストや分担を決定するので、受講希望者は必ず初回に出席すること。発表者はその内容の紹介と引用文献や関連領域からの示唆などを含めて発表し、全員で討論していく。取り上げるテキストのキーワード(領域)としては「社会的認知」「クリティカルシンキング」「心理学教育」などがある。受講者が多数の場合は、“Advances in Experimental Social Psychology” などから適切な論文を選ぶことも考えている。また、特に社会心理学の研究法についての文献は随時取り上げていく予定である。

## 【評価方法】

発表と討論への参加によって評価する。

## 【テキスト】

未定。決まり次第 URL : <http://www.2.aasa.ac.jp/~saitok/> で告知する。

## 【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

## 社会心理学特講5・6

高井次郎

## 【授業の概要】

文化に関連する心理学の主要3領域を取り上げます。文化心理学、比較文化心理学および異文化心理学の主なテーマを取り上げ、それぞれの領域の特異性について検討し、それぞれの研究のアプローチについて考えます。

## 【授業の目標】

授業目標は、1)文化心理学、比較文化心理学および異文化心理学のそれぞれの性格の違いの理解、2)各領域の研究の手法の紹介、3)文化関連の心理学の社会的および学問的意義の理解、4)人間の心理に対する、文化の役割とその影響力の検討、および5)文化関連の心理学の諸理論の紹介である。

## 【授業計画】

前期および後期

1. 文化の心理学について
- 2.~3. 文化心理学の特徴
- 4.~5. 文化心理学の研究の紹介とその検討
- 6.~7. 異文化間心理学の特徴
- 8.~10. 異文化間心理学の研究の紹介とその検討
- 11.~12. 比較文化心理学の特徴
- 13.~14. 比較文化心理学の研究の紹介とその検討
15. まとめ

## 【評価方法】

授業における参加とレポートによって評価します。

## 【テキスト】

適宜論文やプリントを配布します。

## 【参考文献・資料】

適宜紹介します。

## 臨床心理学特講1

米倉五郎

## 【授業の概要】

精神分析的な心理療法について、その面接技法である面接契約、面接構造、面接途中で生じる転移と抵抗や逆転移、解釈などについて解説・討議していく。

## 【授業の目標】

精神分析的な心理療法の基礎的な文献を講読しながら精神分析療法の基本的な面接技法について講義する。受講生から報告される事例検討のなかで実務的な技法についても概説する。

## 【授業計画】

面接技法と方法については、主にテキストを中心とする講義を行うが、事例を取り上げながら臨的に解説していく。初回面接のロールプレイについてのテープ録音と事例報告を提出し、その面接過程について指導していく。

## 【評価方法】

授業内容の理解度、レポートにより成績を評価する。

## 【テキスト】

授業時に指示する。

## 【参考文献・資料】

参考文献はその都度提示する。

## 臨床心理学特講2

西出隆紀

## 【授業の概要】

家族を対象とした心理臨床について学ぶ。最初に家族臨床に関する概説を講義し、以降は家族に対して独自の立場から臨床実践を行ったマスターセラピスト達についてレポーターが調べ、その発表に対して受講者全員で討論する。またロールプレイによって、体験的理解ができるようにも工夫していきたい。

## 【授業の目標】

家族療法各派の特徴を理解し、解決志向的家族療法の技法を学ぶ。

## 【授業計画】

0. 現実の家族と心的現実としての家族(講義)
1. 精神分析から見た家族  
Freud,S. Klein,M. Winnicott,D.W.
2. 精神分析的家族療法  
Ackerman,N.W. Bowen,M.
3. 戦略的家族療法  
Erickson,M.の影響 MRIモデル Haley,J.
4. 構造派家族療法 (Minuchin,S.)
5. システミック家族療法 (ミラノ派)
6. 解決志向的家族療法 (BFTCモデル)

## 【評価方法】

レポーターとして発表したときのレポートの出来具合と討論への参加度、出欠を考慮して評価する。

## 臨床心理学特講 3

西出隆紀

## 【授業の概要】

児童に対する心理療法、特に精神分析的なプレイセラピーについて学ぶ。レポーターが児童の分析家・心理療法家について調べ、発表する形式と、児童に対する精神分析的な心理療法の実践論文の講読を週毎に交互に行う予定である。

## 【授業の目標】

児童の心理臨床に対する理解を深め、自身の臨床実践に応用する準備を整える。

## 【授業計画】

- ・レポーター形式
  1. Klein, M. の Play technique
  2. Freud, A. の Child analysis
  3. Winnicott, D.W. の臨床実践
  4. Allen, F.H. の関係療法
  5. Axline, V.M. の児童中心療法
  6. Moustakas, C.E. の Play therapy
- ・精神分析的プレイセラピー実践論文の講読

## 【評価方法】

レポーターとして発表したときのレポートの出来具合と討論への参加度、出欠を考慮して評価する。

## 【テキスト】

未定

## 【参考文献・資料】

その都度指示する。

## 臨床心理学特講 4

市村多加子

## 【授業計画】

詳細は後日、掲示にて明示する。

## 【評価方法】

## 【テキスト】

## 【参考文献・資料】

## 臨床心理面接特講 1・2

後藤秀爾

## 【授業の概要】

臨床心理面接の基本は、「相手を正しく理解する」ということである。面接場面でのかわりを通して、多面的に、多層的に、多次的に、クライエントの姿を理解する視点と、理解を深めるために必要な知識や知見を学習する。

## 【授業の目標】

心理面接の実際場面で対象理解のために使えるよう、基礎概念の理解を深める。

## 【授業計画】

前期：

- 1) 精神分析にかかわる基礎的な概念を整理して理解を深めるため、テキストとなる文献を定めて講読を行なう。
- 2) テキストの内容理解を基礎において、関連思想についての学習へ発展させる。
- 3) 具体的な事例を理解するための知識として使いこなせるよう、事例を紹介しながら学習内容の理解を深める。

後期：

- 1) 視点を変えて、統合的心理療法の考え方を軸にした心理臨床の概念を捉えなおすための文献購読を行なう。
- 2) テキストの内容理解を基礎において、関連思想についての学習へ発展させる。
- 3) 各自の関与している臨床事例について理解を深めるポイントを学ぶ。

## 【評価方法】

授業への参加状況（出席回数のことではない）による。

## 【テキスト】

- 前期 臨床現場に生かすライン派精神分析－精神分析における洞察と関係性－ (I.S.ウィッテンバーグ著 岩崎学術出版)
- 後期 心理臨床という営み－生きるということと病むということ－ (村瀬嘉代子他著 滝川一廣・青木省三編 金剛出版)

## 学校臨床心理学特講

古井 景

## 【授業の概要】

今日、学校をめぐってさまざまな問題が起きている。その中で、子どもはもちろんのこと、教師や親も非常に戸惑っている。つまり、これまでの学校教育のあり方が時代にそぐわなくなっている。そこで、子どものニーズに応じられる心理教育的援助サービスを、教師、スクールカウンセラー、保護者のチームが地域の資源を活用して行うことを軸として、新しい学校教育のシステムと一緒に考えていきたい。

## 【授業の目標】

スクールカウンセラーが学校現場でその力を有効に発揮するためには、学校の現状と改善すべき問題点およびその方向性についての知識を身につけておかなければならない。さらには人の意見を受け入れるだけでなく、自分なりの考えを構築してもらうことを目標としている。

## 【授業計画】

1. 学校を理解する
    - (1) 法的な位置づけと理解
    - (2) 学校組織とスクールカウンセラーの位置づけ
    - (3) 学校現場において発生している問題
  2. スクールカウンセラーの働き
    - (1) 健康な心の育成
    - (2) 問題を抱える事例に対する対応
    - (3) 退行させることの危険性
  3. 事例検討
    - (1) 発達障害事例の理解と対応の検討
    - (2) 心理的な障害及び行動・情緒の障害事例の理解と対応の検討
- \* 事例を通して学校臨床の実際を理解する。

## 【評価方法】

授業での質疑等、積極的受講態度を評価対象とする。

## 【テキスト】

心理療法の実践 (成田善弘 編著 北樹出版)



## 人格心理学特講

市村多加子

### 【授業の目標】

詳細は後日、掲示にて明示する。

### 【授業計画】

### 【評価方法】

### 【テキスト】

### 【参考文献・資料】

## 教育心理学特講

二宮 昭

### 【授業の概要】

教育という人が人に働きかける営みにおいては、人間関係のあり方が重要となる。人が人とのかかわりのなかで、その関係のとり方をどのようにして身につけていくかという関係発達の問題を、間主観性という概念を中心に検討していく。

### 【授業の目標】

人間関係の基盤となる「共感」や「他者のこころを理解する」ということについての理解を深めるとともに、教育や発達臨床などの実践における働きかける者、援助する者としての基本的態度の修得につなげていく。

### 【授業計画】

下記の参考文献を中心に受講者が関係発達に関する文献を読み、その内容を報告し、それに基づいて討論を行うという形式で行う。

### 【評価方法】

報告の内容、および討論への参加の仕方によって評価する。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献・資料】

*Intersubjective Communication and Emotion in Early Ontogeny.* (Braiten,S. (Ed) Cambridge University Press,1998)

## 投影法特講

米倉五郎

### 【授業の概要】

ロールシャッハ法のスコアリングや解釈は片口法、名大法、阪大法、秋谷法、エックスナー法、米倉法などさまざまなアプローチがなされている。もとより心理臨床の実務ではクライアント・患者への援助とサービスが優先されるので、それぞれの技法の長所を学び活用するという折衷的なアプローチが有効である。われわれは名大法をとりあえず基本的な技法と学習しつつ、他のロールシャッハ法の技法と解釈法をも積極的に学んでいく。

### 【授業の目標】

ロールシャッハ法を中心とした投影法（TAT、SCT、描画法）について講義した後に、受講生自身が検査者ならびに被検査者となる実習研修を行い、そのプロトコルのスコアリングと解釈を検討する。

### 【授業計画】

- 第1回から3回：投影法およびロールシャッハ法の実施法とスコアリングについての講義  
 第4回から8回：ロールシャッハ法と投影法の体験学習と報告（実施法とスコアリング）  
 第9回から13回：ロールシャッハ法と投影法による事例報告、その解釈と報告書の作成

### 【評価方法】

授業への参加姿勢、発表の内容、レポートの内容により総合的に評価する。

### 【テキスト】

改訂新・心理診断法（片口安史著 金子書房）

### 【参考文献・資料】

適宜、授業の中で参考文献を紹介し、資料は配布する。

## グループアプローチ特講

西村 馨

### 【授業の概要】

本コースでは心理療法としての集団精神療法に焦点を当て、主に神経症圏の成人、思春期・青年期を対象とした集団精神療法の探求をおこなう。上記の狙いに基づき、理論学習、演習、体験グループ、ロールプレイをおこなう。

### 【授業の目標】

- 1) 集団精神療法の基本的枠組みを理解する。
- 2) 集団精神療法の運営に関わる諸理論（集団力動・集団発達）を理解する。
- 3) 実践基礎技術を自己経験に基づき習得する。

### 【授業計画】

- （1日目）#1イントロダクションと契約 #2講義：集団精神療法の定義と目的 #3グループ体験① #4講義：集団精神療法の基本的方法論  
 （2日目）#5講義：集団力動・集団発達 #6講義：セラピストの仕事 #7グループ体験② #8ロールプレイ①  
 （3日目）#9講義：思春期・青年期のグループ #10グループ体験③ #11ロールプレイ② #12テスト  
 （4日目）#13グループ体験④ #14テストのフィードバックとまとめ

### 【評価方法】

全コマ出席を前提とする。ただし実習と重なっている場合は事前に申し出ること。メイクアップを課す。授業への参加（50%）、テスト（50%）、およびメイクアップ課題

### 【テキスト】

特定のテキストは使用せず、講義ノートを配布する。また必要な文献は事前に配布する。

### 【参考文献・資料】

- 1)モートン・キッセン編著 佐治守夫・都留春夫・小谷英文訳 (1995) 集団精神療法の理論. 誠信書房.
- 2)近藤喬一・鈴木純一 (監修) (1999) 集団精神療法ハンドブック. 金剛出版.
- 3)日本集団精神療法学会 (監修) (2003) 集団精神療法の基礎用語. 金剛出版.
- 4)Scheidlinger, S. (1998) (能幸夫監訳) 西洋世界における実践処方としての精神分析的集団精神療法の基礎. 集団精神療法, 13(2):11-19.

## 障害児発達心理学特講 1

二宮 昭

## 【授業の概要】

内外の「障害児」と呼ばれる子どもたちの発達援助に関する著書・論文の講読を中心に彼らにみられる障害とは何か、また、その障害の改善とはどういふことかについて検討する。

## 【授業の目標】

「障害児」についての理解を深めるとともに、「障害児」を対象とした実践的研究のまとめ方を学ぶ。

## 【授業計画】

1～3 障害とその改善についての講義  
4～11 「障害児」およびその発達援助に関する文献の講読。担当者が内容を報告し、それに基づいて討論を行う。  
12 まとめ

## 【評価方法】

報告の内容、および討論への参加の仕方によって評価する。

## 【テキスト】

使用しない。

## 【参考文献・資料】

適宜、紹介・配布する。

## 障害児発達心理学特講 2

二宮 昭

## 【授業の概要】

人の「からだ」の動きを本人の主体的な身体運動制御という心理学的な活動として捉え、そのような制御能力を高めることを目的として行われる「動作法」の理論と方法について検討する。

## 【授業の目標】

「障害児」の発達援助における「やりとり」およびそれを成立させる基盤としての「からだ」のもつ意義などについて理解を深めるとともに、その批評を行う。

## 【授業計画】

動作法に関する文献を担当者がその内容を報告し、それに基づいて討論するという形式と、講義形式の併用で授業を進める。

## 【評価方法】

報告の内容、および討論への参加の仕方によって評価する。

## 【テキスト】

使用しない

## 【参考文献・資料】

適宜、紹介・配布する。

## 精神医学特講

古井 景

## 【授業の概要】

精神医学一般について診断体系を述べ、乳幼児、小児期、思春期・青年期、成人期、老年期などに好発する各疾患について、診断と治療を解説する。

## 【授業の目標】

精神医学における『病気（障害）』の概念を正しく理解することを目標とする。

## 【授業計画】

I. 総論  
1. 精神医学の概念  
2. 精神障害の成因と分類  
（1）古典的分類（内因性精神病・外因性精神病・心因性精神病）とICD-10、DSM-IV  
（2）人格・神経症・心身症・精神病  
3. 脳と精神機能（大脳生理・神経学）  
4. 精神症状学  
（1）意識障害（2）知能障害（3）記憶障害（4）知覚障害  
（5）思考障害（6）感情・情動・気分障害（7）意欲と行動の障害  
（8）巣症状と症候群  
5. 診断  
（1）病歴と現症（2）生理・生化学的検査（3）心理査定  
6. 治療  
（1）薬理的療法（2）精神療法（3）環境調整  
II. 各論  
乳幼児期、小児期、思春期・青年期、成人期、老年期の各時期に於いて好発する疾患・障害について事例をあげて説明する。

## 【評価方法】

授業に取り組む姿勢をもって評価する。

## 【テキスト】

その都度提示する。

## 【参考文献・資料】

現代臨床精神医学（大熊輝雄著 金原出版）  
臨床精神医学講座（中山書店）  
精神症状学（濱田秀伯著 弘文堂）  
標準精神医学（野村総一郎・樋口輝彦編集 医学書院） など

## 心身医学特講

古井 景

## 【授業の概要】

生物学的理解に加え、力動精神医学の立場から、心のメカニズム（自我機能）に目を向け、「適応」についての知識を深め、「適応困難（不適応）」となった者が現れていく『症状・疾病状態』について言及していく。

更に、医学的及び臨床心理学的治療のあり方について学んでいく。特に、成人の社会適応として『産業保健』を中心に取り上げていく。

## 【授業の目標】

心身両面から『健康』・『適応』の概念を理解することを目標とする。

## 【授業計画】

・神経とホルモン  
・精神力動とストレス  
・意識的行動と無意識的行動、身体症状化  
・自我機能と防衛機制  
・心身症：気管支喘息、アトピー性皮膚炎、腰痛症、過敏性腸症候群、メニエル症候群、顎関節症、舌痛症など  
・職場不適応：産業精神保健、労働安全衛生法・労働基準法、過重労働・過労死、長期欠勤、鬱病  
・幼児期不適応：夜尿、夜驚、自家中毒、チック  
・学校生活不適応：不登校  
・家庭内暴力  
・摂食障害：拒食症・過食症  
・児童虐待：虐待する母親、される子供  
・薬物依存：有機溶剤、麻薬・覚醒剤、アルコール

## 【評価方法】

毎回の授業内での質疑をもとに評価する。

## 【テキスト】

その都度提示する。

## 【参考文献・資料】

その都度資料を配付する

## 臨床心理査定演習 1

西出隆紀

### 【授業の概要】

臨床心理士として様々な事例に関わって行く中で、事例の抱える問題点を的確に把握することは極めて重要な作業である。この演習では、神経心理学的障害、情緒的障害、人格障害等の心理査定のために、様々な検査法を理解できるよう可能な限り実習体験を行っていく。

### 【授業の目標】

心理査定法に関する文献講読や、事例報告による心理査定の検討および検査法の実施・解釈を通して、心理査定に関する知識と技術を習得する。

### 【授業計画】

資料に基づいて講義を行い、演習として実際の査定方法を体験していく。

- 1 心理アセスメント・心理査定法について
- 2 知能・発達のアセスメント  
個別式知能検査 (WAIS-III、WISC-III)  
乳幼児精神発達診断検査  
老人の知能の評価  
など
- 3 パーソナリティーのアセスメント  
質問紙法  
投影法  
精神作業検査  
など
- 4 テストバッテリーについて  
心理査定法からの情報と統合的な解釈法

### 【評価方法】

授業内容の理解度により、成績を評価判定する。

### 【テキスト】

未定

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 臨床心理査定演習 2

神野秀雄

### 【授業の概要】

筆者は、発達障害系の子どもたちに遊戯療法を基盤にした発達支援を実践してきた。その療育の経過のなかで、子どもの理解を深めるためにいろいろな心理検査を実施してきた。それらの事例を報告しながら心理検査の実際の使い方について学ぶ。また受講生は、認知能力を査定する心理検査のどれか一種類を習熟する。

### 【授業の目標】

1. 療育あるいは心理療法の経過のなかで、心理検査の実際の使い方を学ぶ。
2. 田中ビネー検査V、WISC-III、K・ABCなどの認知系検査の一種類を選択し、習熟する。

### 【授業計画】

1. 前半は、自閉症、アスペルガー障害、LD(学習障害)などの子どもたちの療育の経過と心理検査の結果を報告し、子どもの理解を深める。
2. 後半は、受講生から提出されたレポートについて検討する。

### 【評価方法】

授業態度50%、心理検査レポート50%

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献・資料】

事例の資料を配布する。

## 臨床心理基礎実習 1 a

古井 景 後藤秀爾 西出隆紀 二宮 昭 米倉五郎 市村多加子

### 【授業の概要】

臨床心理学の実践に必要な基礎知識・技能・態度を身につけるための実習である。

本実習内容を修得した者のみが、本学併設の心理臨床相談室での臨床活動を行うことが許される。

### 【授業の目標】

心理臨床相談室での臨床心理面接の実践にあたり、必要な基礎知識・技能・態度を身につけることを目標とする。

### 【授業計画】

1. 心理臨床入門講習
  - 1-1 カウンセリングにおける心構え
  - 1-2 受理面接 1 (幼児期・児童期)
  - 1-3 受理面接 2 (思春期・青年期)
  - 1-4 受理面接 3 (成年期・老年期)
  - 1-5 受理面接 4 (障害児)
  - 1-6 受付、契約、限界設定、危機介入 など
  - 1-7 心理検査、クリニカルレポート、面接記録の記載と管理、守秘義務 など
  - 1-8 医療機関との連携、リファ、診断と見立て、治療方針、共同治療 など
2. ロールプレイ実習  
入門講習は、講義・演習方式に加えて実習形式も適宜取り入れていく。ロールプレイ実習は入門講習の後の時間に開講し、相互にカウンセラー・クライアント役を演じ、参加者の講評を受ける。  
なお、すべての内容について守秘義務が課せられているので、その点に留意すること。

### 【評価方法】

受講態度と提出物で評価する。特殊な実習なので、やむを得ない事情がない限り、1回でも遅刻・欠席があれば単位は認めない。

### 【テキスト】

その都度指示する。

### 【参考文献・資料】

その都度指示する。

## 臨床心理基礎実習 1 b

二宮 昭 後藤秀爾 西出隆紀 古井 景 米倉五郎 市村多加子

### 【授業の概要】

臨床心理基礎実習1aを基にして、心理臨床の実践を行い始めた学生を対象として、その臨床実践に対するスーパービジョンを受ける。そのため、受講は臨床心理基礎実習1aを履修したものに限られる。

### 【授業の目標】

心理臨床家(臨床心理士)となっていくための基礎的な能力の修得をめざす。

### 【授業計画】

1. 心理臨床実践  
本学併設の心理臨床相談室における外来相談実習。
2. スーパービジョン体験  
スーパーバイザーとしてスーパービジョンを受ける。原則として指導教員がスーパーバイザーとなり、セッション1～3回につき、最低1回のスーパービジョンを受けることになる。また、必要に応じて、スーパーバイザー以外にケース・コンサルテーションを受けることもあり得る。  
このように完全な実習であり、当然のことながら、割り当てられた授業時間以外に、相当な時間とられることを覚悟しておいてもらいたい。  
なお、すべての内容について守秘義務が課せられているので、その点を留意されたい。

### 【評価方法】

実習態度によって評価する。

### 【テキスト】

使用しない。

## 臨床心理基礎実習 2 a・b

後藤秀爾 二宮 昭 市村多加子

### 【授業の概要】

本学併設の心理臨床相談室における外来相談実践を行なうための基礎的な能力の修得を目指し、ケース・カンファレンスに参加する。また、所定の条件を満たし、相談活動に関与するようになって後は、ケース・カンファレンスに事例報告し指導を受ける義務を負う。

### 【授業の目標】

実際の心理臨床相談に対応するための基盤を自己内に作ると同時に、実践を通して自己研鑽を深めるための視点を確立する。

### 【授業計画】

1. 心理臨床実践  
本学併設の心理臨床相談室における外来相談実習を行なう。
2. ケース・カンファレンス  
本学心理臨床相談室で行われるケース・カンファレンスに参加し、ケース・プレゼンテーションと討議を通して、相互学習を深める。
3. スーパービジョン体験  
ケース毎に、スーパーバイザーとしてスーパーバイザーの指導を受ける。  
また、スーパーバイザーの了解の下、ケース・コンサルテーションを受けることができる。  
なお、相談ケースにかかわるすべての情報に、守秘義務が課せられる。

### 【評価方法】

実習態度から評価する。  
特別な理由なくケース・カンファレンスに欠席した場合、受講資格を失う。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献・資料】

ケースの理解にかかわる文献は出来る限り幅広く目を通すことは当然であるが、実践と理論のバランスを大事にし、自分の言葉で自分の実践を語ることが出来るような学習の仕方に心がける。

なお、相談事例にかかわる資料の管理にあたっては、個人情報保護について十分な配慮を求める。

## 臨床心理学研究法特講

後藤秀爾 古井 景 米倉五郎 市村多加子

### 【授業の概要】

ここでは、臨床心理学における研究上の視点のおき方を主に学ぶ。アセスメントから始まり心理面接から地域援助へと展開する実践活動を想定し、問題意識の絞り方や、臨床心理学特有の方法論などについて、理解を深める。

### 【授業の目標】

臨床心理学の研究法を学ぶことは、臨床心理学という学問の学び方を学ぶことに他ならない。修士論文の研究テーマ選定のための視点を得ると同時に分析・解析の方法論を知り、そのことをきっかけにして、実践を通して心理臨床を学び続けるための考え方の基本を学びとってもらいたい。

### 【授業計画】

1. 心理面接過程の分析：心理面接を分析するときの視点の置き方、過程把握のための仮説設定のあり方、分析の方法論などについて、理論的立場の違いを踏まえて検討する。そのことにより、心理面接の構造を多角で捉える眼差しの重要性を知る。
2. 診断とアセスメント：精神医学的診断と臨床心理学的アセスメントの両者の違いと、それを統合する視点の置き方について学ぶ。関連して、各種心理検査法の診断ツールとしての側面についても理解を深める。そのことを通して、アセスメントをめぐる考え方の多様性と、事例を記述するときの正確な用語の使い方を学ぶ。
3. 事例研究：単一事例を使って論文作成するときの視点の置き方、記録のまとめ方、論点の絞り方などを学ぶことによって、個性の中に普遍性を求める、事例研究の基本的な考え方についての理解を深める。心理検査法における、経過のアセスメントツールとして機能や、セラピューティックな側面についても検討する。
4. コミュニティへの視点：個人を取り巻くコミュニティとして、家族・学校・企業・地域社会などが想定できる。支援対象であるとともに、支援のための社会的資源でもあるコミュニティの、研究対象としての特性や、視点の置き方、解析の仕方などについて学ぶ。

### 【評価方法】

各担当者ごとにレポート提出を求める。そのレポートに基づいて評価する。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献・資料】

必要に応じて紹介する。

## 心理学研究法特講

二宮 昭 植村勝彦 沖田庸嵩 清水 遼

### 【授業の概要】

心理学における主要な研究法である1) 実験法、2) 観察法、3) 調査法、について、それぞれの教員が分担して講義する。

### 【授業の目標】

修士論文作成の基礎となる心理学の研究法を習得する。

### 【授業計画】

実験法に関しては、清水遼、沖田庸嵩が担当し、清水はストレスや感情をテーマにした具体的な実験例を紹介しながら実験に伴う実験計画法について、沖田は認知・生理的な測定法について、講義をする。観察法については二宮昭、調査法については植村勝彦が担当する。

### 【評価方法】

各研究法ごとにレポートを提出させ、評価する。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献・資料】

適宜、紹介・配布する。

## 心理統計特講

斎藤和志 西出隆紀 吉崎一人

### 【授業の概要】

心理統計に関わるいくつかの問題を大きく3つの側面から扱う。心理統計の基礎的な部分については斎藤が、実験計画法を中心とした領域については吉崎が、多変量解析を中心とした領域については西出が担当する。基本的な事項の講義に加えて、統計ソフトSPSSを使用した具体的な事例の検討も行う。

### 【授業の目標】

基礎的な心理統計の知識の獲得と、具体的な解析技法を習得すること。(詳細は授業にて解説する。)

### 【授業計画】

1. データの種類と特徴
2. 代表値と散布度
3. 変数間の関係、変数の分布と変換
4. 統計的検定の基礎
5. 実験計画法の基礎
6. 平均値の差の検定
7. 分散分析
8. カテゴリカル・データの検定
9. 多変量解析の考え方
10. 予測と説明
11. 変数の分類
12. 尺度構成と信頼性・妥当性
13. まとめ

### 【評価方法】

受講態度と各担当者が出した課題によって評価する。

### 【テキスト】

指定しない。

### 【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。



## 生体情報心理学特殊研究 1

沖田庸嵩

### 【授業の概要】

各自の研究に応じて、その展開方向、実験・調査計画、および結果の分析・解釈について討論し、博士論文の作成に向けて指導を行う。

### 【授業の目標】

学術雑誌に論文を少なくとも年に1つは発表し、学位論文につなげる。

### 【授業計画】

各自が研究を進めるなかで、(1) 関連領域の最新の論文、(2) 実験(調査)の計画立案、(3) 実験結果の分析・解釈、それぞれについて発表し討論を行う。これらの過程を経て、各自が論文を執筆する。

### 【評価方法】

研究活動により評価する。

### 【テキスト】

使用しない。

## 生体情報心理学特殊研究 2

清水 遵

### 【授業の概要】

情動喚起刺激によって賦活される生体システム(神経系、内分泌系、免疫系)の反応メカニズムを電気生理学、精神内分泌学、精神神経免疫学的指標からとらえる方法論について検討する。また、情動体験とこれら生体システムの活性指標との関連性について条件発生の検索を行なうことで、情動が心身の健康に及ぼす影響についても考察する。

### 【授業の目標】

各年次の授業計画に基づき、学位論文に向けて研究の深化を目指す。

### 【授業計画】

1年次は、各自の研究テーマについて、研究方法及び文献資料等について指導を行なう。

2年次は、各自の研究テーマについて、具体的な研究計画書に基づき予備実験を行ない、学年末には中間発表が出来るよう研究指導を行なう。

3年次には、中間発表を踏まえ、更に研究方法の問題点について、より研究を深化するよう指導し、学位論文に結実するよう指導する。

### 【評価方法】

1年間の研究活動を総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用しない。

## 生体情報心理学特殊研究 3

吉崎一人

### 【授業の概要】

博士学位論文に値する研究をまとめ上げることを目標として、進行中の実験、並びに研究計画、論文執筆等に対する助言、指導を行う。またテーマと関連する最新の研究論文等を読み、議論する。

さらに研究の視点を広げ、研究指導を体験するために、学部生の卒業研究の指導にも参加する。

### 【授業の目標】

1年次

博士学位論文に向けての研究計画をたてるため、テーマを絞り、その領域のレビューを行う。それを踏まえ研究計画をたてる。

2年次

学術論文として論文を完成し、投稿する。

3年次

発表、掲載された論文をもとに博士学位論文完成を目指す。

### 【授業計画】

特に定めない。

### 【評価方法】

1年間の研究活動を総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献・資料】

使用しない。

## 社会心理学特殊研究 1

植村勝彦

### 【授業の概要】

コミュニティ心理学が扱う領域のトピックスについて、修士論文で扱った問題を中心に各自が関心をもつテーマを設定し、深い学識と綿密な論理構成のもとに、その最先端を拓き追究することを可能にするよう、支援・助言すること。そして、最終的には学位審査に値する博士学位論文に結実するようすることを目標とする。

第1年次においては、修士論文およびその後の展開を含めて、学会誌に投稿する論文の作成指導を中心とする。

第2年次においては、各自が選んだ個別のテーマについて、研究方法および文献レビューなどについて指導を行い、加えて、新たな研究を調査として実施させ、学年末には中間発表ができるよう、研究指導を行う。

第3年次においては、第2年次に実施した調査をまとめ、学会誌に投稿するための支援を行うとともに、これらの論文を含めて、博士学位審査論文として提出するに必要な事柄の指導を行う。

また、他者を指導するという経験が、自己の研究を高めるうえで有効であることを確認させる目的で、博士課程学生には研究指導として、学部学生の卒論指導にも参加する。

### 【授業の目標】

課程博士の学位を取得すること。

### 【授業計画】

特に定めない。

### 【評価方法】

1年間の研究活動を総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用せず。



## 社会心理学特殊研究 2

斎藤和志

### 【授業の概要】

社会的認知、他者に対する関心や反応性、社会的事象に対する思考や態度の研究を中心に扱う。論文作成へ向けて、問題と目的の明確化、研究方法の具体化を進め、博士学位論文としてまとめることを目指す。

### 【授業の目標】

第1年次では、社会心理学の基礎的理論やモデル、社会心理学研究の方法の理解と各自の研究の展開を促進できるようにする。

第2年次では、各自の選んだ個別のテーマについて、具体的な研究方法や文献研究等の指導を行い、議論を深め、中間発表ができるようにする。

第3年次では、中間発表を踏まえ、さらに研究の問題点と改善点について、研究がより深化するように努める。後期には学位論文予備審査が行えるようにする。予備審査の結果に基づき、学位審査に値する学位論文に結実することを旨とする。

### 【授業計画】

特に定めない。

### 【評価方法】

1年間の研究活動を総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

## 臨床心理学特殊研究 2

古井 景

### 【授業の概要】

精神力動論・精神分析的精神療法についての知識を深め、各自のおかれた領域に於いて発生している問題を解決すべく、『現実的対処技法』を身につける。博士課程における研究が机上の空論にならぬよう、常に『現場(フィールド)』と繋がった形で勉強を進め、研究の結果を『現場(フィールド)』で生かしていくための『実践的研究』を目指し指導助言を行っていく。

### 【授業の目標】

精神力動論・精神分析的精神療法について知識を深めることを第一の目標とし、さらに、学位論文の作成をめざすとともに、博士の称号を得るにふさわしい知識・技法 及び 品格を身につけることとする。

### 【授業計画】

第1年次

精神力動論・精神分析的精神療法について知識を深める。

- ・自我心理学の歴史
- ・対象関係論への発展
- ・自我構造モデルと自我機能
- ・対象喪失と取り入れ
- ・分裂的機制
- ・抑鬱的態勢、躁的防衛
- ・乳幼児期の自我-対象-分裂
- ・移行対象と移行現象
- ・分離個体化理論

第2年次

精神力動論・精神分析的精神療法の視点から、研究論文の作成を進める。

第3年次

学会発表・論文の投稿により、学位論文の完成をめざす。

### 【評価方法】

1年間の研究活動を総合的に評価する。

### 【テキスト】

その都度提示する。

### 【参考文献・資料】

その都度配布・指定する。

## 生体情報心理学演習 1・2

沖田庸嵩

## 【授業の概要】

脳内認知情報処理を扱う精神生理学的研究のうち、主として事象関連脳電位 (ERP) を測定とする領域で、修士論文作成に向け個別指導を行う。

## 【授業の目標】

修士論文を完成させる。

## 【授業計画】

各自が関心のあるテーマに沿って先行研究を調べ、論文を読み、そしてその発表・討論を繰り返すなかで修士論文のテーマを決定する。また、修士論文の作成に向けた予備実験・本実験の計画・結果についても発表し、討論する。

## 【評価方法】

発表討論と研究活動により評価する。

## 【テキスト】

使用しない。

## 生体情報心理学演習 3・4

清水 遵

## 【授業の概要】

環境の快適性や情動ストレスとその精神生理学的及び神経化学的測定法に関する内外の文献を広く講読し、修士論文に向けての研究計画、および研究経過中に生じる問題点について発表討論する。

## 【授業の目標】

前期 (演習3) は、発表討論を行う中で、テーマ決定の方向づけと問題点を指導し、修士論文に向けた実験を行う。

後期 (演習4) は、得られた実験結果について考察し、必要であれば追加実験を行うことで修士論文を完成させる。

## 【授業計画】

1. 環境の快適性に関する研究
2. 高齢者感情コントロールに関する研究
3. パーソナリティとストレスの関連性に関する研究
4. 実験計画の立案
5. 実験結果中間発表
6. 結果の考察
7. その他

## 【評価方法】

発表討論内容、研究活動の報告レポートなどにより評価する。

## 【テキスト】

使用しない。

## 生体情報心理学演習 5・6

吉崎一人

## 【授業の概要】

個々の関心テーマから、実際の研究につなげ、そして実際に研究を実施するプロセスを学習する。

## 【授業の目標】

以下の5点の力を養い、査読雑誌に投稿、採択されることを目指す。  
(1) 個々の関心テーマにおける研究背景を理解する。(2) 残された問題点に焦点をあてた研究目的をたてる。(3) 目的を明らかにするための実験計画、仮説をたてる。(4) 実験を実施し、分析する。(5) 結果からの考察をおこない、次への研究へつなげる。

## 【授業計画】

前期は、修士研究に関連した論文の紹介をレポーター形式で行う。また実験計画について発表する。  
後期は、実験結果のプレゼンテーションし、結果の解釈等について議論する。

## 【評価方法】

プレゼンテーションの内容、授業への取りくむ姿勢を総合的に評価する。

## 【テキスト】

使用せず。

## 【参考文献・資料】

適宜示す。

## 社会心理学演習 1・2

植村勝彦

## 【授業の概要】

コミュニティ心理学が扱う領域のトピックスについて、深い学識と綿密な論理構成のもとに、各自が関心をもつテーマを設定し追究することによって、最終的には修士論文を作成することを課題と目標とする。

コミュニティ心理学のトピックスを扱っている専門雑誌である『American Journal of Community Psychology』、『Journal of Community Psychology』、『Journal of Community and Social Psychology』、『コミュニティ心理学研究』掲載の論文を中心に、内外の著書、論文の輪読を通じてコミュニティ心理学の理解を深めること、また、各自の修士論文につながる研究の展開を目指す演習とする。

加えて、実証的研究に不可欠な、データの統計的処理方法や、多変量解析の理論とその実際についても解説する。

## 【授業の目標】

参加メンバー全員で、各自の研究テーマを徹底的に追究し、学会誌に受理されうる修士論文に仕上げること。

## 【授業計画】

毎回個人発表を行い、取り上げられた論文やテーマについて徹底した討論によって、その内容や方法、論旨の展開を批判的に読み取り、論理的、実証的に再構築できる力を養う。とくに、2年次学生については、修士論文作成に向けての助言・指導に当てる。

## 【評価方法】

毎回の個人発表、およびレポートによって評価する。

## 【テキスト】

使用せず。

## 社会心理学演習 3・4

齋藤和志

## 【授業の概要】

社会的認知、他者に対する関心や反応性、社会的事象に対する思考や態度の研究を中心に扱う。修士論文作成へ向けて、問題と目的の明確化、研究方法の具体化を進め、修士論文を完成させる。

## 【授業の目標】

修士研究のまとめとしての修士論文の作成。(詳細は授業にて解説する。)

## 【授業計画】

1. 研究問題の明確化
2. 研究方法の具体化
3. データの収集と分析
4. 結果の解釈と討論
5. 修士論文の完成

## 【評価方法】

発表と討論への参加、論文の作成によって総合的に評価する。

## 【テキスト】

使用しない。

## 【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

## 臨床心理学演習 1・2

米倉五郎

## 【授業の概要】

指導院生が関心をもつ心理臨床の事例やテーマに関して、臨床面接法や心理査定法などの技法を活用する事例研究や心理査定法などによる修士論文の作成を目標とする。

## 【授業の目標】

1 および2年次学生によるゼミでのグループ討論および指導教官による個人指導により、2年次学生での修士論文の作成と完成を目指す。

## 【授業計画】

院生の各自が研究テーマを設定し、事例研究法および心理検査法などの方法論の特定が検討される。そして心理臨床の研究対象の選定がなされる。演習では、毎回その面接過程と考察が各人より報告され、グループスーパービジョンがなされる。こうしたグループでの討論と指導により2年次学生での修士論文の完成を目指していく。

## 【評価方法】

授業における発言の姿勢、発表の内容およびレポートにより評価する。

## 【テキスト】

適宜指定する。

## 【参考文献・資料】

必要に応じて配布する。

## 臨床心理学演習 3・4

後藤秀爾

## 【授業の概要】

修士論文作成に向けて大学院指導生の研究指導を行なう。  
大学内の相談活動にとどまらず、自分の問題意識を深めるための実践の場を確保することを、まずは考えよう。心理臨床は、対象となるケースとのかかわりの中にすべての答えがある。実践を通して自分の取り組むべき問題意識を絞り込み、研究方法を工夫し、自己内の体験と格闘しつつ言葉に置き換えるという作業である。自分なりの理解が基本であるが、それを裏付ける理論の学習にも十分な目配りが必要である。そのための方向付けが、研究指導である。

## 【授業の目標】

卒業後の心理臨床実践を続ける自分自身を支えることとなる研究論文の完成を目指す。

## 【授業計画】

1年次のうちに問題意識の概略を定めて、2年次のこの授業に臨んで欲しい。  
授業は原則的に個別指導である。2年次の早い時期に、実現可能な研究計画を練り上げる段階にまで進む。最終的に、対象となった人たちに結果をフィードバックして、深い共感の得られるようなものを目指す。

## 【評価方法】

論文に反映される、学習内容の裾野の拡がり具合、研究テーマの深まり具合、今後の展開への可能性の拓かれ具合などを考慮して、総合的に判断する。

## 【テキスト】

使用しない。

## 【参考文献・資料】

個別に指示・提示するものをベースに、自ら検索して発展させる。

## 臨床心理学演習 5・6

古井 景

## 【授業の概要】

自我機能・精神力動に関する知識を深めていく。自我機能の健全な発達と障害について学び、臨床心理面接技法へと繋げていく。様々な論文・著書を活用し、積極的な討議を行っていく。  
また、修士論文の作成に関しても、参加者自らの積極的な取り組みを前提として、互いに検討・議論を積み重ねていく。

## 【授業の目標】

臨床心理士として『病理』を見極める眼を身につける。

## 【授業計画】

以下の項目を中心として、参加者の発表と討論を通して、知識を深めていく。

- ・自我心理学の歴史
- ・対象関係論への発展
- ・自我構造モデルと自我機能
- ・対象喪失と取り入れ
- ・分裂的機制
- ・抑鬱的態勢、躁的防衛
- ・乳幼児期の自我-対象-分裂
- ・移行対象と移行現象
- ・分離個体化理論

## 【評価方法】

知識の深さ、理論の構築能力、言語的表現力など総合的に評価する。

## 【テキスト】

その都度提示する。

## 【参考文献・資料】

その都度指定する

## 臨床心理学演習 7・8

二宮 昭

## 【授業の概要】

動作法を主とした発達臨床に関する文献のレビュー、および受講者各自の研究テーマの発表と討論を行う。

## 【授業の目標】

障害児の発達と援助についての理解を深めるとともに、障害児を対象とした実践的研究のまとめ方を学ぶ。その中で各自の修士論文の研究テーマを決定し、具体的な研究計画を立てる。

## 【授業計画】

受講者が読んだ文献の発表と討論を行いながら、研究テーマの検討、および具体的な研究方法の特定というかたちで展開される。

## 【評価方法】

発表内容、討論への参加の仕方、および研究計画やその方法論の内容などによって評価する。

## 【テキスト】

使用しない。

## 臨床心理学演習 9・10

西出隆紀

## 【授業の概要】

修士論文研究の指導を中心に行う。履修者が興味を持つ国内外の文献を読み、それについて討論を行い、研究内容と研究方法への理解を深める。それと同時に、研究の知見をどのように心理臨床活動に生かしていくのかについても学ぶ。

## 【授業の目標】

修了後に臨床心理士としてさまざまな分野で活躍できるための基礎的知識・技能を身につけるとともに、修士論文を完成させることにより、心理臨床活動を支える研究活動への理解を深める。

## 【授業計画】

受講者が各自興味を持った研究論文または研究テーマについて発表し、それについての討論を行う。研究論文の選択や研究テーマは心理学的なものであれば「自由」が基本であるが、臨床心理士資格取得を目指すのであれば、何らかの形で心理臨床につながるものでなければならない（臨床心理士認定協会が定めた資格試験取得要件）。

具体的な流れとしては以下のような形になると思われる。

1. 興味を持つ研究論文についての発表・討論。
2. 研究テーマについての発表・討論。
3. 研究テーマについて調べるための心理学的研究方法に関する討論・指導。
4. 得られたデータの解析と解析結果の考察に関する討論・指導。
5. 研究を通して得られた知見の心理臨床の応用に関する討論・指導。

## 【評価方法】

発表及び討論での態度、研究への理解などによって評価する。

## 【テキスト】

その都度指示する。

## 【参考文献・資料】

必要に応じて指示、もしくは配布。

## 臨床心理実習 1 a・b

二宮 昭 後藤秀爾 西出隆紀 古井 景 米倉五郎

## 【授業の概要】

病院や福祉施設など外部の施設において心理臨床の実習を行い、それに対する専門的な指導を受ける。

## 【授業の目標】

一人前の心理臨床家（臨床心理士）となるための幅広く、より高い能力の修得をめざす。

## 【授業計画】

心理臨床実習

1年間の間に病院での実習と福祉施設などでの実習の両方を行う。実習先では、その現場の臨床心理士による指導を受ける。

完全な実習であり、実習先によって日程が集中して行われたり、週1回定期的に行われたりというように実施形態が異なることもあるので、割り当てられた授業時間以外にかなりの時間をとられることになる。

なお、すべての内容に守秘義務が課せられるので、その点についても留意すること。

## 【評価方法】

実習態度によって評価する。

## 【テキスト】

使用しない。

## 【参考文献・資料】

「学外実習の手引き」を受講者全員に配布するので、実習開始までに熟読しておくこと。各実習先に関する資料や文献はその都度紹介・配布する。

## 臨床心理実習 2 a・b

古井 景 米倉五郎 西出隆紀

## 【授業の概要】

臨床心理基礎実習で修得した基礎的臨床能力に加え、臨床における応用能力を身につけるための高度な実習内容を目指す。

積極的にケースを持ち、専門的な理論・モデルに基づいた臨床心理面接技法の実践を行う。

## 【授業の目標】

臨床心理面接において、専門的な理論・モデルに基づいた臨床心理面接技法が実践できるようになることを目標とする。

## 【授業計画】

1. 心理臨床実践  
本学併設の心理臨床相談室における外来相談実習。
2. ケース・カンファレンス  
本学心理臨床相談室で行われるケース・カンファレンスに参加する。ケース・プレゼンテーションを通して指導を受ける。他者の提示したケース資料について討議する。
3. スーパービジョン体験  
スーパーバイザーとしてスーパービジョンを受ける。原則としてセッション1回につき、1回のスーパービジョンを受ける。必要に応じて、学外の指導者にケース・コンサルテーションを受ける。

上記のように、完全に実習中心で進められる。授業時間の枠を超えて、相当の時間をとられることを覚悟して欲しい。全ての内容について守秘義務が課せられているので、留意されたい。

## 【評価方法】

実習態度から評価する。なお、特別な理由もなくケース・カンファレンスに欠席した場合は、その場で失格となる上、今後いかなる場合も受講を認めない。

## 【テキスト】

かなりの文献を読むことをスーパーバイザーなどから指示される。

## 【参考文献・資料】

かなりの文献を読むことをスーパーバイザーなどから指示される。

## 応用言語学特講 10 (日本語学)

山内啓介

## 【授業の概要】

日本語学の分野から、音韻論、文法論、意味論を講義する。  
音韻論：音声科学と日本語音韻論  
文法論：形態文法と統語文法  
意味論：歴史的文献実証研究、現代意味論のとらえかた

## 【授業の目標】

日本語学を応用言語学の分析を通して理解する。

## 【授業計画】

本年度は、日本語教育の文法論を概観し、日本文法の統語論へ進める。  
統語論の問題点について、受講生との議論を行い、それを通して日本語共時論の記述分析、日本語教育用文法を考える。

## 【評価方法】

出席、レポートによる。

## 【テキスト】

特に定めない。  
プリント配布。

## 【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

## 応用言語学特講 11 (対照言語学&lt;日英&gt;)

松本青也

## 【授業の概要】

日本語と英語について、音、語彙、文法、発想、背景文化といった側面から、言語体系と言語行動の対応を明らかにすることで、それぞれの言語の特質を浮き彫りにする。

## 【授業の目標】

日英語の比較対照を通して個別言語への理解を深め、外国語教育への応用を考える。

## 【授業計画】

以下の点について考察する。  
1. 英語教育における対照言語学の役割  
2. 日英語の音声  
3. 日英語の語彙  
4. 日英語の文法  
5. 日英語の発想  
6. 日英語の背景文化

## 【評価方法】

研究発表及び論文。

## 【テキスト】

適宜資料配布。

## 応用言語学特講 12 (対照言語学&lt;日中&gt;)

馮 富榮

## 【授業の概要】

言語を構造的(文法)といった側面から捉えるだけでなく、文化や社会といった側面からも多角的に捉えることをテーマとする。本講義では、中国語を柱とし、主として日本語との比較をしながら、両言語の違い、また両言語を支えている両国の文化・習慣及び思考様式の違いを探ってみる。いわば、言語学のみではなく、語用論という視点からも日・中両言語の言語現象を分析してみる。

## 【授業の目標】

本講義を受講することによって、日本語と中国語のそれぞれの特徴及びその特徴を生み出した歴史や文化習慣に関する背景を深く理解することができるようになる。

## 【授業計画】

講義は、主として以下のステップを踏んで展開していく予定である。  
1. 日・中両言語に関する比較研究を幅広く読んで、ディスカッションを行う。  
2. 日・中両言語の共通点と相違点を検討する。文法などという言語学的な側面だけでなく、文化や思考様式などという語用論的な側面からも捉える。  
3. 上記した日・中両言語の相違点は、中国人の日本語学習の問題点となるか否か、または日本人の中国語学習の問題点となるか否かを検討する。  
講義は、輪読という形で展開される予定である。もちろん、講義の材料となる研究論文についても議論をする。よって、論文によって解明された問題を確認すると共に、まだ残っている研究課題を絞りだす。

## 【評価方法】

受講態度やレポートなどで総合的に評価する。

## 【テキスト】

論文のコピーを使用する。

## 応用言語学特講 14 (日本語教授学)

山内啓介

## 【授業の概要】

外国語としての日本語教育および日本語を目標言語とした第2言語教育について日本語教授の理論と実践法、教授法について講述する。

## 【授業の目標】

日本語教育実践と日本語教授理論の構築を目指す。

## 【授業計画】

次のテーマにそって行う。  
1 日本語教育・研究の流れ  
2 日本語と社会  
3 日本語と学習ストラテジー  
4 異文化コミュニケーション  
5 日本語教授法  
6 日本国内の日本語教育  
7 海外の日本語教育  
8 言語テスト  
9 日本語教授学の課題

## 【評価方法】

出席、レポートによる。

## 【テキスト】

プリント資料を用いる。

## 【参考文献・資料】

日本語教科書・参考書・教材用資料



## コミュニケーション学特講3 (Academic Writing)

McDANIEL, Edwin R.

## 【Course description】

This course is designed to improve student skills in planning, drafting, revising, and editing academic essays/reports. Emphasis is placed on the purpose, structure, and style of academic writing. Learning to compose and support arguments using multiple source materials is stressed. The course will also help improve students' ability to read and analyze complex academic texts and to exercise critical thinking.

## 【Course objectives】

- ・ Developing and improving academic writing skills
- ・ Developing and improving academic research skills
- ・ Developing and improving critical thinking skills

## 【Course schedule】

Topics examined may include, but are not limited to, the following:

- ・ Determining an essay topic of interest.
- ・ Identifying and using research source material.
- ・ Reviewing the literature
- ・ Preparing an outline
- ・ Constructing and writing the report.
- ・ Source citation requirements.
- ・ Proper source citation format.

## 【Assessment】

Course assessment will be through a series of writing assignments.

## 【Textbooks】

Course material will be drawn from academic journals and books.

## コミュニケーション学特講4 (Academic Writing)

McDANIEL, Edwin R.

## 【Course description】

This course is a continuation of Academic Writing 3, and focuses on improving student skills in planning, drafting, revising, and editing academic essays/reports. The purpose, structure, and style of academic writing is emphasized. Learning to compose and support arguments using multiple source materials is stressed. The course will improve students' ability to read and analyze complex academic texts and to exercise critical thinking.

## 【Course objectives】

- ・ Developing and improving academic writing skills
- ・ Developing and improving academic research skills
- ・ Developing and improving critical thinking skills

## 【Course schedule】

Topics examined may include the following:

- ・ Determining an essay/research topic of interest.
- ・ Identifying and using research source material.
- ・ Reviewing the literature
- ・ Preparing an outline
- ・ Constructing and writing the report.
- ・ Source citation requirements.
- ・ Proper source citation format.

## 【Assessment】

Course assessment will be through a series of writing assignments.

## 【Textbooks】

Course material will be drawn from academic journals and books.

## コミュニケーション学特講17 (日本語表現)

窪田守弘

## 【授業の概要】

身のまわりで話されている何げない言葉に心をとどめ、その意味や背景を調べていくと、意外にも奥行きが深くてももしろい発見をすることが多い。特に、現代日本語の変化は激しくてその実態はなかなか把握しにくい。映画やテレビの画像の様々な場面では、多くの表現形式が台詞として発せられていることによっても分かる。そこで本講義では、日本語の談話分析という視点から、テレビや映画というマスメディアにおける言語表現を考えていく。

## 【授業の目標】

日本語における「談話分析」について毎回テーマを提示し、それに従って発表を行なう。そこから文章を作成するための専門的な知識や技術を身につける。

## 【授業計画】

- 1) 本講義では、日本と外国の言語や文化の基礎的な知識を有名な映画やテレビのドラマを教材として学ぶ。そして、映像の中でなされる言語表現の基本的な談話分析をして、理解を深めるようにする。
- 2) 日本語コミュニケーション  
日本語コミュニケーションの新しい講義の方法として談話分析をさらに進める。映画やテレビを通して種々の言語や文化の在り方を調べ、その背後ではたらくメカニズムや日本語の変化を観察することになっている。そして、日本語コミュニケーションは、日常生活のコミュニケーションの在り方を、第二言語習得という視点から研究する考えである。

## 【評価方法】

講義における授業態度、レポートの内容、出席状況によって評価する。

## 【テキスト】

プリントを配布する。

## 【参考文献・資料】

談話分析を学ぶ人のために (マルコム・クールタルド他著 世界思想社)

## コミュニケーション学特講18 (日本語表現)

窪田守弘

## 【授業の概要】

身のまわりで話されている何げない言葉に心をとどめ、その意味や背景を調べていくと、意外にも奥行きが深くてももしろい発見をすることが多い。特に、現代日本語の変化は激しくてその実態はなかなか把握しにくい。映画やテレビの画像の様々な場面では、多くの表現形式が台詞として発せられていることによっても分かる。そこで本講義では、日本語の談話分析という視点から、テレビや映画というマスメディアにおける言語表現を考えていく。

## 【授業の目標】

日本語における「談話分析」について毎回テーマを提示し、それに従って発表を行なう。そこから文章を作成するための専門的な知識や技術を身につける。

## 【授業計画】

- 1) 本講義では、日本と外国の言語や文化の基礎的な知識を有名な映画やテレビのドラマを教材として学ぶ。そして、映像の中でなされる言語表現の基本的な談話分析をして、理解を深めるようにする。
- 2) 日本語コミュニケーション  
日本語コミュニケーションの新しい講義の方法として談話分析をさらに進める。映画やテレビを通して種々の言語や文化の在り方を調べ、その背後ではたらくメカニズムや日本語の変化を観察することになっている。そして、日本語コミュニケーションは、日常生活のコミュニケーションの在り方を、第二言語習得という視点から研究する考えである。

## 【評価方法】

講義における授業態度、レポートの内容、出席状況によって評価する。

## 【テキスト】

プリントを配布する。

## 【参考文献・資料】

談話分析を学ぶ人のために (マルコム・クールタルド他著 世界思想社)

## 比較文化論 1 (日米)

McDANIEL, Edwin R.

### 【Course description】

The history of Japanese-U.S. relations is characterized by periods of close cooperation, disagreement, and even hostilities. Many of the problems affecting the relationship are the result of varied cultural influences and different communication styles.

This course is a comparative study of Japanese and U.S. culture. The influence of history, geography, population, education, government, and business will be explored. The emphasis is on identifying, examining, and comparing the difference between Japanese and U.S. cultural values, beliefs, and attitudes and how they influence communication.

### 【Course objectives】

- ・ Create an appreciation for the role of culture in national and international settings.
- ・ Create an understanding of the different culturally based worldviews, values, and beliefs of Japan and the U.S.
- ・ Create an awareness of how Japanese and U.S. cultural differences produce different communication styles.

### 【Course schedule】

Class meetings will be a combination of lecture and discussion. Topics examined may include, but are not limited to, the following:

- ・ Geographical and historical factors influencing Japan and U.S. culture
- ・ Japanese and U.S. cultural characteristics
- ・ Japanese and U.S. communication styles (verbal and nonverbal)
- ・ Japanese and U.S. communication in different contexts
- ・ Communication and culture in contemporary Japanese-U.S. relations

### 【Assessment】

Attendance, class participation, quizzes, short written or oral reports, and one research paper on a topic of individual interest will be used to evaluate student progress.

### 【Textbooks】

Various readings will be provided.

### 【Reference】

- ・ *American Cultural Patterns* (1991) (Edward C. STEWART & Milton J. BENNETT ; Intercultural Press)
- ・ *Different Games, Different Rules* (1999) (Haru YAMADA ; Oxford Press)

## 比較文化論 4 (日韓)

窪田守弘

### 【授業の概要】

日韓両国は、これまで「近くて遠い国」として相互の文化交流はあまり円滑には行なわれてこなかった。しかし、1988年のソウル・オリンピック以来、韓国は外国に対する閉鎖的な態度を改め、日本にも積極的に門戸を開放し始めた。そして、2002年のワールド・カップでは日韓共同開催もあって、スポーツを通じた両国の関係は大幅に改善された。それに伴い文化交流も盛んに行なわれるようになり、最近日本では韓国のTVドラマや映画や音楽などが大変なブームとなっている。しかし、それは単に熱狂的なファン層に支えられた現象とも思えないので、このような現象が何故生じたのかについて考えていく。

### 【授業の目標】

日韓両国の人々の言語行動は似て非なる部分が少なくない。それを映像という素材を使って専門的に分析していく。

### 【授業計画】

日韓の映画やドラマの中から、いくつかのジャンルの作品を選び、それを教材として内容を分析し、カルチュラル・スタディーズの視点から文化比較を試みる。本講義では日韓のTVドラマや映画を教材として文化比較を行い、両国でみられる文化的要素の、共通点もしくは相違点について考察を加えていきたい。

<使用映画のジャンル>

歴史、戦争、伝統芸能、ラブ・ストーリー、アクション、コメディ、社会ドラマなど

### 【評価方法】

出席状況とレポートなどで評価する。

### 【テキスト】

配布プリント、ビデオ、DVDなど。

### 【参考文献・資料】

講義時に紹介する。

## 生体情報心理学特殊研究 1

沖田庸嵩

### 【授業の概要】

各自の研究に応じて、その展開方向、実験・調査計画、および結果の分析・解釈について討論し、博士論文の作成に向けて指導を行う。

### 【授業の目標】

学術雑誌に論文を少なくとも年に1つは発表し、学位論文につなげる。

### 【授業計画】

各自が研究を進めるなかで、(1) 関連領域の最新の論文、(2) 実験(調査)の計画立案、(3) 実験結果の分析・解釈、それぞれについて発表し討論を行う。これらの過程を経て、各自が論文を執筆する。

### 【評価方法】

研究活動により評価する。

### 【テキスト】

使用しない。

## 生体情報心理学特殊研究 2

清水 遵

### 【授業の概要】

情動喚起刺激によって賦活される生体システム(神経系、内分泌系、免疫系)の反応メカニズムを電気生理学、精神内分泌学、精神神経免疫学的指標からとらえる方法論について検討する。また、情動体験とこれら生体システムの活性指標との関連性について条件発生の検索を行なうことで、情動が心身の健康に及ぼす影響についても考察する。

### 【授業の目標】

各年次の授業計画に基づき、学位論文に向けて研究の深化を目指す。

### 【授業計画】

1年次は、各自の研究テーマについて、研究方法及び文献資料等について指導を行なう。

2年次は、各自の研究テーマについて、具体的な研究計画書に基づき予備実験を行ない、学年末には中間発表が出来るよう研究指導を行なう。

3年次には、中間発表を踏まえ、更に研究方法の問題点について、より研究を深化するよう指導し、学位論文に結実するよう指導する。

### 【評価方法】

1年間の研究活動を総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用しない。

## 生体情報心理学特殊研究 3

吉崎一人

### 【授業の概要】

博士学位論文に値する研究をまとめ上げることを目標として、進行中の実験、並びに研究計画、論文執筆等に対する助言、指導を行う。またテーマと関連する最新の研究論文等を読み、議論する。

さらに研究の視点を広げ、研究指導を体験するために、学部生の卒業研究の指導にも参加する。

### 【授業の目標】

1年次

博士学位論文に向けての研究計画をたてるため、テーマを絞り、その領域のレビューを行う。それを踏まえ研究計画をたてる。

2年次

学術論文として論文を完成し、投稿する。

3年次

発表、掲載された論文をもとに博士学位論文完成を目指す。

### 【授業計画】

特に定めない。

### 【評価方法】

1年間の研究活動を総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献・資料】

使用しない。

## 社会心理学特殊研究 1

植村勝彦

### 【授業の概要】

コミュニティ心理学が扱う領域のトピックスについて、修士論文で扱った問題を中心に各自が関心をもつテーマを設定し、深い学識と綿密な論理構成のもとに、その最先端を拓き追究することを可能にするよう、支援・助言すること。そして、最終的には学位審査に値する博士学位論文に結実するようすることを目標とする。

第1年次においては、修士論文およびその後の展開を含めて、学会誌に投稿する論文の作成指導を中心とする。

第2年次においては、各自が選んだ個別のテーマについて、研究方法および文献レビューなどについて指導を行い、加えて、新たな研究を調査として実施させ、学年末には中間発表ができるよう、研究指導を行う。

第3年次においては、第2年次に実施した調査をまとめ、学会誌に投稿するための支援を行うとともに、これらの論文を含めて、博士学位審査論文として提出するに必要な事柄の指導を行う。

また、他者を指導するという経験が、自己の研究を高めるうえで有効であることを確認させる目的で、博士課程学生には研究指導として、学部学生の卒論指導にも参加する。

### 【授業の目標】

課程博士の学位を取得すること。

### 【授業計画】

特に定めない。

### 【評価方法】

1年間の研究活動を総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用せず。

## 臨床心理学特殊研究 1

二宮 昭

### 【授業の概要】

障害児臨床を中心に、臨床心理学領域における学術的価値の高いユニークな研究論文を作成するための指導・助言を行う。

### 【授業の目標】

最終的には学位論文の作成をめざす。

### 【授業計画】

第1年次では、研究テーマの設定、方法論の検討などをより深め、各自が修士論文で扱った問題をさらに展開させる。

第2年次では、各自が選んだ個別テーマに沿って、研究方法および文献研究等の指導を行い、学年末には中間発表ができるようにする。

第3年次では、中間発表を踏まえ、さらに研究方法の問題点について、研究がより深化するように指導し、後期には学位論文予備審査が行えるようにする。予備審査の結果に基づき、学位審査に値する学位論文に結実するようにさらに指導を行う。

### 【評価方法】

1年間の研究活動を総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用しない

## 臨床心理学特殊研究 2

古井 景

### 【授業の概要】

精神力動論・精神分析的な精神療法についての知識を深め、各自のおかれた領域に於いて発生している問題を解決すべく、『現実的対処技法』を身につける。博士課程における研究が机上の空論にならぬよう、常に『現場(フィールド)』と繋がった形で勉強を進め、研究の結果を『現場(フィールド)』で生かしていくための『実践的研究』を目指し指導助言を行っていく。

### 【授業の目標】

精神力動論・精神分析的な精神療法について知識を深めることを第一の目標とし、さらに、学位論文の作成をめざすとともに、博士の称号を得るにふさわしい知識・技法 及び 品格を身につけることとする。

### 【授業計画】

第1年次

精神力動論・精神分析的な精神療法について知識を深める。

- ・ 自我心理学の歴史
- ・ 対象関係論への発展
- ・ 自我構造モデルと自我機能
- ・ 対象喪失と取り入れ
- ・ 分裂的機制
- ・ 抑鬱的態勢、躁的防衛
- ・ 乳幼児期の自我-対象-分裂
- ・ 移行対象と移行現象
- ・ 分離個体化理論

第2年次

精神力動論・精神分析的な精神療法の視点から、研究論文の作成を進める。

第3年次

学会発表・論文の投稿により、学位論文の完成をめざす。

### 【評価方法】

1年間の研究活動を総合的に評価する。

### 【テキスト】

その都度提示する。

### 【参考文献・資料】

その都度配布・指定する。

## 言語コミュニケーション特殊研究1

松本青也

## 【授業の概要】

応用言語学（英語教育）  
第二言語習得理論と日英対照言語学を中心に、最近の主な研究について考察すると共に、日本の外国語教育への研究成果の応用を検討する。

## 【授業の目標】

研究分野の新しい研究成果に幅広く触れ、考察を深める。

## 【授業計画】

いくつかのトピックについて、内外の研究成果に批判的考察を加えながら、独自の理論を構築する。

## 【評価方法】

発表内容と論文の評価。

## 【テキスト】

適宜資料配布。

## 言語コミュニケーション特殊研究2

山内啓介

## 【授業の概要】

新しい要請にこたえる日本語学、日本語教育文法学、日本語教育方法、日本語コミュニケーション、またマルチメディアを用いた教育と学習法について、それぞれの理論を構築し実践についての考察を行う。

## 【授業の目標】

言語研究の方法を実践する。

## 【授業計画】

1年次では、日本語教育をめぐる状況についてとりあげ、日本語が必要とされる要因を分析する。あわせて、日本語による発想、日本語の文化がもたらすコミュニケーションの問題を議論し解決を得る。

2年次では、各自の選ぶテーマをもとに研究立場、研究手法を設定し、方法論、文献探索についての指導を行う。研究発表など、プレゼンテーションの機会を得て自らの論点を深化させる。

3年次では、自らの論考の関連テーマについて論を展開し、研究を進める。学位の取得に向けて、博士論文の指導を行う。

以上について個別指導する。また、受講生の希望を取り入れ、日本語教育の実践的教授方法の追求を行いたい。

## 【評価方法】

論文作成のための課題レポート、また議論の参加など。

## 【テキスト】

特に定めない。

## 【参考文献・資料】

研究に応じて紹介する。

## 言語コミュニケーション特殊研究3

馮富榮

## 【授業の概要】

中国語教育及び日・中両言語の比較

## 【授業の目標】

本講義を受講することによって、日本語と中国語に関する幅広い知識を得られると共に、両言語の違いを生み出している文化的背景を深く探求する力が培われる。さらに、日本の大学中国語教育に置ける問題点に突き止め、中国語教育のあるべき将来像を探ることができればと期待している。

## 【授業計画】

本講義では、日・中両言語について、主として統語論、語用論、語彙論という3つの側面から検討する。輪読という形で講義を進めていくが、先行研究を幅広く講読する。そしてディスカッションを交えながら先行研究に残っている問題点や日・中両言語のそれぞれの特徴、両言語を機能させている文化的な背景、そして両言語の相違点を生み出した歴史的な原因、思考様式の相違による原因などについても議論する。

本講義では、また日本の大学での中国語の教育についても検討する。具体的に言うと、今の日本の大学の中国語教育には、どのような問題点（教材、やカリキュラムの編成、そして教育の方法や教育目標の設定など）があるか、そういった問題点を解決するにはどうすればよいか、今後の日本の大学の中国語の教育をどう展開させるべきか、そして日本人を対象とする中国語教育の特色はどこにあるかを検討していきたい。

要するに、本講義は中国語の教育者と日・中両言語の比較に関する研究者を養成することを目的としている。

## 【評価方法】

受講態度やレポートなどで総合的に評価する。

## 【テキスト】

【教材】  
論文のコピーなど使用する。

## 言語コミュニケーション特殊研究4

窪田守弘

## 【授業の概要】

日本人は、日常生活のさまざまな場面で複雑な表現活動をしているが、実はそれを無意識に行なっていることが多い。そこで、日本人が場面に応じて使い分けられる一種独特の表現やジェスチャーについて、心理学、社会学、コミュニケーションなどの関連する学問分野の成果を取り入れながら、詳しく検証していく。

## 【授業の目標】

日本人のコミュニケーションが、マスメディアの中でどのように展開されるかを分類しながら、分析を進めていく。

## 【授業計画】

日本人の言語活動が視覚的にわかりやすく表現される媒体として映画やテレビなどがある。そこで、代表的な日本映画やテレビドラマを厳選して、その会話の部分を中心に会話文の構造から、日本人の文法意識の実態について分析を行なう。その際に「第二言語習得 (Teaching Japanese as a Second Language) の視点を中心にして分析し、これからの日本語教育の教授法として、実際に適用できる方法論となるか否かという可能性について考察する。

## 【評価方法】

本講義の発表内容や参加態度、レポートなどの結果などで評価する。

## 【テキスト】

配布資料を使用する。

## 【参考文献・資料】

講義中に紹介する。



## 言語コミュニケーション特殊研究5

McDANIEL, Edwin R.

### 【Course description】

Special research in language communication is designed to facilitate in depth exploration of a communication topic of interest. Through student-instructor interaction, the student will be guided in applying philosophy of knowledge concepts to a selected research subject.

### 【Course objectives】

- Expand understanding of the communication discipline
- Increase academic research capabilities
- Promote critical thinking skills
- Train students to conduct independent research

### 【Course schedule】

Topics of study will include the following, which will be explored from the perspective of the student's specific communication research interest.

- Ontology
- Epistemology
- Axiology
- Methodology
- Theoretical Paradigms
- Theoretical application
- Research resources

### 【Assessment】

Progress will be assessed through periodic student-instructor discussions and a comprehensive research paper on the student's selected topic.

### 【Textbooks】

A reading list will be constructed jointly by the student and the instructor. Reading materials will be taken from relevant journal articles, books, and other sources as may be decided.

## 統計特講 I・II

石橋善弘

## 【授業の概要】

コンピュータを用いた統計解析能力の育成を念頭において、統計学、推計学の基本的概念を講義し、統計とビジネスとの関わりあいについて学ばせる。

## 【授業の目標】

統計学の応用能力の習得

## 【授業計画】

- 第1回 本講義の目的および授業計画の提示  
 第2回～第11回 以下の項目について講義する。
- 1 統計分析
  - 2 平均値、代表値、標準偏差
  - 3 相関係数
  - 4 回帰分析
  - 5 統計的推測
- 第12回 補足とまとめ  
 また、随時Excelの利用の訓練を行う。

## 【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により総合的に評価する。

## マーケティング特講 I・II

大塚英揮

## 【授業の概要】

企業による顧客創造活動として体系づけられる現代マーケティング論の全体像を把握するために、マーケティング論の基本的テキストであるP.Kotlerの「マーケティングマネジメント」を輪読する。これにより、マーケティングに関する基本的な知識を得ることを目指す。なお、P.Kotlerの考え方を実際の事例にあてはめる「ケース分析」を適宜行い、応用力の涵養にもつとめたい。

## 【授業の目標】

マーケティングにまつわる専門的知識を習得し、現実に行き起きている諸問題を理論的に分析、意志決定を行うスキルを習得する。

## 【授業計画】

- (1) オリエンテーション
- (2) マーケティングマネジメントの理解
- (3) マーケティング機会の分析
- (4) マーケティング戦略の立案
- (5) マーケティング上の意志決定
- (6) マーケティングプログラムのマネジメント
- (7) ケーススタディ (随時)

## 【評価方法】

出席状況および授業における積極性(70%)、レポート(30%)により評価する。

## 【テキスト】

ビジネススクールテキスト マーケティング戦略(嶋口充輝著 有斐閣)  
 ほか 関連論文をプリントにて配布、使用する。

## 【参考文献・資料】

マーケティング原理(コトラ著 ダイアモンド社)

## 経営学特講 I

浅井敬一郎

## 【授業の概要】

経営学の中でもとくに、イノベーションと経営戦略、イノベーションとスキル形成に焦点を当てる。まず、1980年代以降の経営戦略研究、熟練形成研究について概観する。次にバブル崩壊後の日本企業のケーススタディを取り上げ、ケースの分析に基づき、競争優位を獲得するための戦略、スキル形成の今日的あり方について、ディスカッションを行う。

## 【授業の目標】

戦後日本の高度成長を支えてきた製造業の変容について理解し、国際分業のあり方について各々の考えを持つ。

## 【授業計画】

- 1) 経営戦略のツール
- 2) 日本的生産システム
- 3) アーキテクチャー論
- 4) イノベーションとスキル

## 【評価方法】

出席、議論の参加、レポート

## 【テキスト】

別途指示する

## 【参考文献・資料】

別途指示する

## 経営学特講 II

浅井敬一郎

## 【授業の概要】

経営学の中でも、とくに企業革新に焦点を当てる予定です。まず、企業革新を論じるにあたって必要なフレームワークを概観します。その後、最近になって大きな企業革新を遂げた企業の、ケース・スタディーを取り上げます。ケース分析に基づき、既存のフレームワークの拡張をめぐり、ディスカッションをしていきたいと考えます。

## 【授業の目標】

ケース・スタディーをフレームワークによって分析し、その上でディスカッション(あるいはディベート)を行い、企業経営には1つの事象にも多面的な見方が可能であることを実感する。

## 【授業計画】

学期の最初に提示する

## 【評価方法】

出席、レポート、議論の内容によって評価する

## 【テキスト】

適宜指示する

## 【参考文献・資料】

適宜指示する

## 企業倫理特講

小山巖也

### 【授業の概要】

企業不祥事の頻発を受け、企業倫理の確立が急務の課題となっている。企業倫理学は経営学の一分野である「企業と社会」論との学問的な接近・融合が進み、近年では、企業の社会的責任（CSR）という名のもとに注目を集めている。この科目では、企業倫理が問われるようになってきた背景、企業倫理の基礎理論、「企業と社会」論、ステイクホルダー理論などについて学習する。また、必要に応じて様々な企業の事例を取り上げる。

### 【授業の目標】

- 企業倫理、社会的責任の重要性を認識する
- 多様な企業観の存在を意識する
- 論理的思考を身につける

### 【授業計画】

- 企業倫理の重要性
- 企業倫理の基礎理論  
功利主義と義務論
- 企業倫理と「企業と社会」論  
企業倫理と企業の社会的責任論  
企業倫理と企業の社会的対応性
- ステイクホルダー理論
- 企業倫理の制度化  
コンプライアンス型と価値共有型  
企業倫理の社会的制度化

### 【評価方法】

クラスへの貢献度およびレポートにより評価する。

### 【テキスト】

開講時に指示する

### 【参考文献・資料】

適宜紹介する

## 経営財務特講 II

三矢幹根

### 【授業の概要】

経営財務IIに引き続き「株主価値重視経営」という文脈に沿いながら、デリバティブを活用してリスクヘッジする手法、企業の合併買収、新しい企業価値の評価法などについて討議、考察する。

### 【授業の目標】

事業戦略を理解するフレームワークを理解した上で、新しい尺度で企業価値を評価できるようにする。

### 【授業計画】

- (1) 資金調達
- (2) 社債ファイナンス
- (3) エクイティファイナンス
- (4) デリバティブによるリスク管理
- (5) 事業戦略の分析
- (6) 企業の合併・買収
- (7) 財務のリストラクチャリング
- (8) インセンティブ制度とストックオプション
- (9) 伝統的財務分析とデュボンシステム
- (10) 新しい価値評価尺度：フリーキャッシュフロー
- (11) 新しい価値評価尺度：経済的付加価値EVA①
- (12) 新しい価値評価尺度：経済的付加価値EVA②

### 【評価方法】

出席状況と小課題（30%）、学期末試験の結果（70%）で総合評価

### 【テキスト】

経営財務入門 第3版（井出允介、高橋文郎共著、日本経済新聞社）  
必要に応じてプリントを配布

### 【参考文献・資料】

コーポレート・ファイナンス（第8版）上下（リチャード・ブリーリー他、日経BP社）  
エコノミック・プロフィット EVA経営入門（津森信也著、中央経済社）  
株主価値を高める EVA経営（佐藤絃光、飯泉清、齋藤正章共著、中央経済社）

## 経営財務特講 I

三矢幹根

### 【授業の概要】

日本の公開企業は戦後、効率性や収益性を無視してメインバンクを中心とする銀行借入を主な原資に規模の拡大経営を続けていた。しかし、1990年初頭から始まったバブル崩壊後、銀行は不良債権に呻吟して、間接金融が正常に機能しなくなった。2003年に漸く銀行の不良債権問題に解決の目途が付いたが、その後もわが国の公開企業の資金調達は直接金融に軸足を移しつつある。直接金融における主要な資金の供給者である機関投資家は長い間「ものを言わぬ」株主だったが、今や「ものを言う株主」に変貌してきた。この潮流の変化は「会社は誰のものか」という本来の原理原則に立ち返ろうとする自然な変化であり、経済のグローバル化が進むに連れて、欧米同様に日本でも株主価値重視経営が浸透しつつある。このような「株主価値重視経営」という文脈に沿い、経営財務Iでは資産の評価法、リスクの測定法、企業価値の評価法などについて討議、考察する。

### 【授業の目標】

資産や株式の価値評価の基本を修得し、何が企業価値を決定するのかを理解する。

### 【授業計画】

- (1) 資産価値の評価法
- (2) 株式価値の評価法
- (3) リスクの測定法①
- (4) リスクの測定法②
- (5) 資本コストの推定法
- (6) 市場の効率性
- (7) 投資の決定法
- (8) オプション（2項モデル）
- (9) オプション（ブラック・ショールズモデル）
- (10) オプション（リアル・オプション）
- (11) 資本構成と企業価値
- (12) 配当政策と企業価値

### 【評価方法】

出席状況と復習小課題（30%）、学期末試験の結果（70%）で総合評価

### 【テキスト】

経営財務入門 第3版（井出允介、高橋文郎共著、日本経済新聞社）  
必要に応じてプリントを配布

### 【参考文献・資料】

コーポレート・ファイナンス（第8版）上下（リチャード・ブリーリー他、日経BP社）

## ファイナンス特講 I

藤井正志

### 【授業の概要】

金融業の情報開示制度、銀行業と証券業をはじめとする業際間の規制、銀行グループの金融コングロマリット化とその検査および監督体制の日米比較を通して、望ましい銀行規制・監督体制および金融システムのあり方について論じる。ファイナンス特講Iにおいては、銀行と事業会社、銀行業と証券業などの業際間の規制問題をを中心に論ずる。

### 【授業の目標】

銀行と事業会社、銀行業と証券業などの業際間の規制問題をを中心に議論し、望ましい銀行規制・監督体制および金融システムのあり方についての理解を深める。

### 【授業計画】

- 1 銀行と事業会社の分離・結合について
- 2 業際規制と法律的なバックグラウンド
- 3 業務の内容別にみた規制緩和の流れ
- 4 金融制度改革の日米比較

### 【評価方法】

講義への出席状況、授業態度等を総合的に判断して評価する。

### 【テキスト】

適宜指定する。

### 【参考文献・資料】

適宜指定する。

## ファイナンス特講 II

藤井正志

### 【授業の概要】

金融業の情報開示制度、銀行業と証券業をはじめとする業際間の規制、銀行グループの金融コンプライアンス化とその検査および監督体制の日米比較を通して、望ましい銀行規制・監督体制および金融システムのあり方について論じる。ファイナンス特講IIにおいては、金融検査・監督体制の日米比較を中心に論じる。

### 【授業の目標】

銀行と事業会社、銀行業と証券業などの業際間の規制問題を中心に議論し、望ましい銀行規制・監督体制および金融システムのあり方についての理解を深める。

### 【授業計画】

- 1 米国における金融監督体制
- 2 金融業のディスクロージャーの日米比較
- 3 金融検査のあるべき姿
- 4 今後の金融監督手法の展望

### 【評価方法】

講義への出席状況、授業態度等を総合的に判断して評価する。

### 【テキスト】

適宜指定する。

### 【参考文献・資料】

適宜指定する。

## 国際ビジネス特講 I・II

石坂綾子

### 【授業の概要】

経済のグローバル化が急速に進展しており、国境を超えた競争が激化している。貿易や労働力の国境を超える動きは、金融の動きとも結びついて進んでいる。この授業では、国際的なビジネスの展開、特にアメリカ・ヨーロッパ諸国（EUの動向を含む）を経済のグローバル化から考察する。

### 【授業の目標】

アメリカ・ヨーロッパ諸国は、国際政治経済を主導する有力な国々である。その全体像を把握し、日本との関わり合いについて理解する。

### 【授業計画】

産業ごとにその基本的特徴と現在抱えている課題について明らかにし、新しい動向をトピックスとして紹介する。その上で、授業で取り上げたトピックスについて参加者の間で議論する。

### 【評価方法】

授業への取り組み姿勢と期末レポートにより総合的に評価する。授業への積極性については、特に重視する。

### 【テキスト】

特に指定しない。必要に応じてプリントを配付する。

### 【参考文献・資料】

特に指定しない。授業の中で、適宜紹介する。

## 地域経済特講 I

真田幸光

### 【授業の概要】

アジアを中心とする地域経済の概況を現状認識、その上で、日本の地域経済、日本企業の発展との関連を考察、アジア地域と日本の経済的共存共栄システムを構築する為の研究を行う。

### 【授業の目標】

国際情勢に対する深い関心を持ち、客観的かつ具体的な戦略思考を養うことを目標とする。

### 【授業計画】

1. ガイダンス
2. アジア各国に於ける日本企業のビジネス展開に関する個別研究（韓国）
3. アジア各国に於ける日本企業のビジネス展開に関する個別研究（北朝鮮）
4. アジア各国に於ける日本企業のビジネス展開に関する個別研究（モンゴル）
5. アジア各国に於ける日本企業のビジネス展開に関する個別研究（中国1）
6. アジア各国に於ける日本企業のビジネス展開に関する個別研究（中国2）
7. アジア各国に於ける日本企業のビジネス展開に関する個別研究（台湾・香港・シンガポール）
8. アジア各国に於ける日本企業のビジネス展開に関する個別研究（フィリピン、タイ、インドネシア、マレーシア）
9. アジア各国に於ける日本企業のビジネス展開に関する個別研究（ベトナム、カンボジア、ミャンマー）
10. アジア各国に於ける日本企業のビジネス展開に関する個別研究（インド、パキスタン、スリランカ）
11. アジアビジネスに於ける米国の影響に関する考察
12. アジアビジネスに於ける欧州の影響に関する考察
13. 日本企業のアジアビジネスを支援する政府・地方自治体の政策
14. 日本企業のアジア戦略（ケーススタディー）
15. 総括

### 【評価方法】

授業時間に於ける実績を評価する。

### 【テキスト】

適宜指示する。

### 【参考文献・資料】

適宜指示する。

## 地域経済特講 II

真田幸光

### 【授業の概要】

国際経済情勢を、政治、外交、文化的視点を含めた形で現状認識すると共に、更に国際金融の支店から見た実態を分析する。こうした考察を経て、ビジネス・スタンダードのあり方、意味などについても考察を加えていく。

### 【授業の目標】

国際経済情勢に関する明確な現状認識を行っただけでなく経済外交戦略を作成していくことができるような能力を養うことを目的とする。

### 【授業計画】

1. ガイダンス
2. プレナトゥズ体制
3. 国際金融の発展経緯
4. プラザ合意
5. アジア通貨危機
6. 最新経済事情（米国）
7. 最新経済事情（欧州）
8. 最新経済事情（北東アジア）
9. 最新経済事情（中国）
10. 最新経済事情（東南アジア）
11. 最新経済事情（中東アフリカ）
12. グローバリゼーション
13. 日本の経済外交戦略
14. 日本企業の国際戦略
15. 総括

### 【評価方法】

授業に於ける実績に基づき評価する。

### 【テキスト】

適宜指示する。

### 【参考文献・資料】

適宜指示する。

## 現代ビジネス特講 I・II

森下允之

## 【授業の概要】

特講I (前期)

1999年から欧州統一通貨ユーロが導入された。世界の主要国が国家主権の重要な要素である通貨主権を放棄したのは歴史上初めてのことであり、画期的である。

現在、EUはさらなる拡大と深化を模索しているが、その現状と課題を論ずる。

さらにポーランド、チェコ、ハンガリーなどの中東欧諸国は、社会主義、ソ連圏経済から、資本主義、西欧経済へと180度の劇的な転換を試み、2004年念願のEU加盟を果たした。これら諸国の政治、経済の変化と現状について、日本企業の直接投資先としての魅力と課題を論ずる。

特講II (後期)

世界経済がEU、NAFTAなど地域自由貿易圏化するなか、東アジア経済共同体の可能性を探る。この過程で、プレゼンスを増す中国経済の現状・問題点、日本と東アジアとの共生への方策を論ずる。

## 【授業の目標】

皮相的なニュース、マスコミに惑わされず、正確に世界のビジネス環境を理解すること。

## 【授業計画】

関連文献、データーを読み、それぞれ 12回にわけて講義する。

## 【評価方法】

平常点

## 【テキスト】

シンクタンク、専門誌の記事を適時配布

## アントレプレナー特論 II

都島忠比古

## 【授業の概要】

新規上場の現場を見ることを通して、起業家にとって成長ステップとして重要度の増す株式公開のあり方、問題点を研究する。

## 【授業の目標】

「貯蓄から投資へ」の流れの中で今後証券市場へ資金導入が図られる一方で、将来の日本経済を担う新しい企業群の出現が期待されている。起業家達にとっても事業規模の拡大とそのスピードアップの手段として、リスクマネーの導入と株式公開は避けられないテーマとなっている。IPOの現場、特に新興市場での新規上場の実際に照準を合わせてその実態を研究し、問題点の把握に努めるとともに個人投資家の育成、持続可能な社会の一員としての企業のあり方にも触れ、産・官・学の連携による起業のための環境整備も授業の対象とする。

## 【授業計画】

1. 起業と株式公開
2. 間接金融から直接金融への模索
3. リスクマネー育成と新規上場マーケット
4. 株式公開基準と審査
5. ベンチャーキャピタルと資本政策
6. 上場準備の実際と受審
7. 投資家への説明義務と開示体制
8. M&Aの活用
9. MBOと再上場戦略
10. CSRとSRI
11. 起業家支援とIPOビジネス

## 【評価方法】

出席状況とレポートによる

## 【テキスト】

なし。プリント配布

## アントレプレナー特論 III

牧口晴一

## 【授業の概要】

- ① 企業の殆どを占める零細企業や中小企業。起業も零細企業から始まります。企業は零細なほど「個人」に近く、成長過程で、「共通する」考え方や、「全く異なる」考え方のオーバーラップが必要となります。「共通する」のは、採算と貸借対照表の考え方の会計・税務の基本部分です。しかし「共通する」ものも、個人と法人とで、あるいは法人でも非上場と上場会社とでも異なります。成長に合わせて「変身」を如何に遂げるかが求められます。
- ② しかし起業したゴーイングコンサーンも、息絶えることがあります。日経新聞によれば「会社の寿命は30年」と言われ、現実には多くが消滅します。「相続・事業承継・倒産等」の時に経営者と企業はどうなるのか？借金に追われて自殺する経営者は後を断ちません。「人としての幸せ」の為に、背水の陣の覚悟を知り、見極める必要があります。
- ③ さらに、潰れる前に、まだ生かせる部分を「株式譲渡」「会社分割」や「M&A」で、実質的なゴーイングコンサーンとすることもできます。
- ④ また起業は、従来のように「個人か会社か？」だけでなく「組合」や「信託」等の道もあります。どの起業が良いかも検討が必要です。
- ⑤ 以上は、起業家の人生観に左右され、そして全ては計算し尽くせないにも関わらず最後は数字に現れます。そこに現実の苦悩と決断があります。

## 【授業の目標】

上記のように広範な「概要」を把握しますが、それらを大枠で押さえつつ、結果的に最も使用頻度の高い、採算の確保を会計と税務と会社法の面から押さえ、経営計画（最低限、損益計算）を作れるようにしていただきます。

## 【授業計画】

1. 現在は異なる起業のスタイルと定款で学ぶ組織の設計。
2. どんなスタイルでも採算が取れねば成り立たない。計算事例。
3. 最後はどうなる？貴方の「死」の計画と事業承継問題。
4. 運良く大成功したらどうなる？上場の是非。逆に失敗したらどうなる？

## 【評価方法】

出席状況と挙手や回答（正答を問わない）の授業に対するレスポンス状況

## 【テキスト】

中小企業経営に活かす税制改正と会社法（牧口晴一共著 経済法令）  
中小企業の事業承継 種類株・M&A・信託の活用（牧口晴一共著 清文社）  
非公開株式の譲渡の税務と法務（春出版仮題）（牧口晴一共著 中央経済社）

## マネジメントゲーム I

増田賀照

## 【授業の概要】

ひと・もの・かね・情報という経営資源をどのように活用すればよいか、実践的、体験的に学ぶ。流通業をモデル化したマネージメント・ゲームを実施し、一人一人が社長として資材調達、生産設備、販売、経理、人事、決算とすべての経営プロセスを模擬的に体験する。

## 【授業の目標】

体験的授業により、経営者に必要な判断力、計数力、情報力を養う。

## 【授業計画】

1. 概要とルール説明
2. 創業準備
3. 第1期ゲーム
4. 第1期決算
5. 原価計算
6. 第2期ゲーム
7. 第2期決算
8. 損益分岐点分析
9. 第3期ゲーム
10. 第3期決算
11. 経営計画策定
12. 第4期ゲーム
13. 第4期決算
14. 経営戦略
15. 第5期ゲーム
16. 第5期決算
17. 経営分析
18. 株主総会

## 【評価方法】

参加の積極性とレポートによる

## 【テキスト】

当日配布



## マネジメントゲーム II

増田賀照

### 【授業の概要】

インターネットを通して複数の参加者と対戦する経営シミュレーションゲームを実施する。製造業をモデル化しており、経営戦略、マーケティング戦略、生産戦略、人事戦略、財務戦略の立案と経営情報の見方を体験的に学ぶ。

### 【授業の目標】

- 体験的授業により次の経営技法を習得する。
- ・経営資源である人・物・金・情報の有効活用とバランス
  - ・競争市場で勝ち残るための情報分析と差別化
  - ・中期経営計画の策定とその実現に向けた戦略
  - ・株主価値最大化を目指す株式時価総額最大化
  - ・決算書や経営指標に表れる経営情報の理解と活用

### 【授業計画】

1. 概要説明
2. 取締役会・株主総会
3. 中期経営計画立案
4. 第1期意思決定
5. 第2期意思決定
6. 第3期意思決定
7. 第4期意思決定
8. 中期経営計画修正
9. 第5期意思決定
10. 第6期意思決定
11. 第7期意思決定
12. 第8期意思決定
13. 経営分析
14. 取締役会・株主総会

### 【評価方法】

参加の積極性とレポートによる

### 【テキスト】

当日配布

## 会計理論特講

杉本典之

### 【授業の概要】

企業会計制度の国際化と会計基準の国際的共通化が進展しつつある状況の中で、各国の会計基準設定主体や国際会計基準理事会等が会計基準や概念的枠組みを公表している。その会計基準や概念的枠組みを比較分析して、その根底に流れている会計理論の内、主として会計測定の局面に関わる理論を析出して修得する。

### 【授業の目標】

企業会計方式の情報システムは元来、営利目的の企業組織において発達してきたが、現代社会では公的な組織でも非営利目的の組織でも重要視され採用されるようになってきた。このような情報システムの汎用性と重要性について、この授業では会計測定のプロセスに焦点を合わせながら考察する。

### 【授業計画】

- 下記の事項に関する会計理論をそれぞれ複数回に分けて考察し、かつ討論する。
- (1) 株式会社会計を典型とする企業会計
  - (2) 情報システムとしての企業会計
  - (3) 企業会計の認識・測定・伝達のプロセス
  - (4) 会計的認識の特徴
  - (5) 会計的測定の特徴

### 【評価方法】

論述式試験中心の筆記試験により評価する。

### 【テキスト】

下記の拙著等からプリントを作成して配付する。  
会計理論の探究－会計情報システムへの記号論的接近－  
(杉本典之著 同文館)

### 【参考文献・資料】

必読必見の参考文献や資料は、必要に応じて、あるいは学生からの問い合わせに応じて、個別具体的に紹介し教示する。

## 財務会計特講

石川雅之

### 【授業の概要】

財務会計の領域のうち、制度に係わる面を取り扱う。具体的には、現代財務会計の論理的基盤を考察し、次いで財務諸表制度を支える各種法令について、それぞれの基本的考え方を理解し、さらにそれらを批判的に検討することを通じて、それぞれの規定がどのような意味をもち、またどのような役割が期待されているのかを検討する。

### 【授業の目標】

現代財務会制度に係わるさまざまな知識を身につけるとともに、現代財務会計のかかえる諸問題を考察する能力を養う。

### 【授業計画】

1. 現代財務会計のフレームワーク
2. 税務会計制度の論理と体系
3. 会計ディスクロージャーに対するインセンティブ
4. 財務諸表の構造と法令
5. 業績報告の潮流

### 【評価方法】

筆記試験により評価する。

### 【テキスト】

財務会計論 I 基本論点編 (河崎・斎藤 他 中央経済社)

### 【参考文献・資料】

適宜指示する。

## 原価計算特講

三浦克人

### 【授業の概要】

実践規範である「原価計算基準」に示された原価計算制度を中心に教授する。具体的には、原価計算の目的、原価の諸概念、費目別計算、部門別計算、個別原価計算、総合原価計算、標準原価計算、直接原価計算などをカバーする。また、財務会計機構と原価計算制度の有機的な結びつきについても整理する。

### 【授業の目標】

原価計算制度の基礎から応用までを修得する。

### 【授業計画】

1. 原価計算総説
2. 個別原価計算の基礎と応用
3. 総合原価計算の基礎と応用
4. 標準原価計算の基礎と応用
5. 直接原価計算の基礎と応用
6. まとめ

### 【評価方法】

筆記試験により評価する。

### 【テキスト】

最初の授業で指示する。

### 【参考文献・資料】

適宜指示する。

## 管理会計特講

吉村文雄

### 【授業の概要】

企業内外の環境、すなわち外部の市場取引だけでなく、内部の資源配分プロセスの観点から、管理会計の基礎概念を検討し、発展した業績測定システム（たとえば、ABC、ABB、無形資産の測定等）との関係を把握します。とくに、理論と実践との相互作用関係の枠組みをつかみ、この相互作用関係を検討します。

### 【授業の目標】

管理会計の理論と実践の相互作用関係を把握できるようにします。個別具体的な管理会計技法のモデルをつかみ、それが実際にどのように利用されるのかをガバナンスの視点とつなげて考察します。

### 【授業計画】

管理会計の理論と実務の相互関係を理解します。  
第1部では、現存する管理会計の基礎概念を検討します。  
第2部では、最新の管理会計技法の形態を認識し、その特徴を明らかにします。  
第3部では、これまでの管理会計技法が最新の包括的な測定システムのなかで、どのように有効活用されるのかを検討します。

### 【評価方法】

筆記試験により評価する。

### 【テキスト】

吉村文雄『組織の会計論』（森山書店）を中心に、適宜プリントを使います。

### 【参考文献・資料】

授業中に適宜指示します。

## 会計監査特講

前川三喜男

### 【授業の概要】

我が国の監査制度と、金融証券取引法に基づく監査実務について、監査基準を理解するとともに監査計画、監査リスク、内部統制の評価について監査手続等を具体的に解説する。

### 【授業の目標】

自由経済社会における証券市場の役割と、公認会計士監査の必要性を理解する。

### 【授業計画】

- 1～3 我が国の監査制度について
- 4～7 監査基準（一般基準、実施基準、報告基準）の理解
- 8～12 監査リスク、監査計画、内部統制の評価
- 13～15 内部監査制度、監査役監査

### 【評価方法】

筆記試験により評価する。

## 税務会計特講 I・II

森 恒夫

### 【授業の概要】

税務会計に関するテーマのなかから、財務会計と法人税との関連に焦点をあてて、その会計処理および表示に関する諸問題について検討する。これとおして、法人税法の基本的内容を学ぶ。

### 【授業の目標】

税務会計の中心的領域をなす『法人所得税務会計』を主題として、その仕組みと体系、専門技術的な内容を、企業の損益計算と貸借対照表計算の実際に即応できるようになる事を目指す。

### 【授業計画】

以下の項目等につき、講義及び内容の検討と討論を行う。

- (1) 税務会計という語の定義
- (2) 税務会計の基礎理論  
課税所得概念  
税務会計の公準、原則など
- (3) 課税所得の計算構造
- (4) 税務収益会計
- (5) 税務費用会計
- (6) 税務資産会計
- (7) 税務負債・資本会計
- (8) 組織再編税務・連結納税

### 【評価方法】

出席状況、討論、レポートなどを総合して評価する。

### 【テキスト】

未定

### 【参考文献・資料】

随時資料配布又は適宜指定する。

## 民法特講

石畔重次

### 【授業の概要】

現代の法化社会においては法との関わりなしに企業活動を維持していくことはできない。私人間の法律関係を規律する私法の中で、最も基本的かつ重要な法が民法である。会社法等の企業活動に関する諸法を学ぶためにも、民法で私法の基礎概念を学ぶことが必須の前提となる。前期の本講義では、民法のうち、法律行為や代理等に関する総論、債権の効力や債務不履行に関する債権総論、並びに、売買、贈与、賃貸借、使用貸借、消費貸借、請負、委任等の債権各論について研究する。

### 【授業の目標】

会計専門職に必要な民法及び関連法規に関する基礎的な知識及び法的な思考能力の涵養を目標とする。

### 【授業計画】

1. 民法の基本原則
2. 民法総論  
意思表示と法律行為  
行為能力と制限能力者の保護  
意思表示の諸問題  
代理  
無効と取消  
時効  
法人
3. 契約法  
契約の成立と効力  
債務不履行と契約の解除  
契約各論（売買、贈与、賃貸借、使用貸借、消費貸借、請負、委任等）
4. 債権総論  
債権の種類  
債務不履行  
債権者代位権と許害行為取消権  
連帯債務と保証  
債権譲渡  
債権の消滅（弁済と相殺）

### 【評価方法】

レポートの提出または授業での状況によって評価する。

### 【テキスト】

民法への招待（池田真朗著 税務経理協会）

### 【参考文献・資料】

ゼミナール民法入門（道垣内弘人著 日本経済新聞社）

## 会社法特講

上田純子

### 【授業の概要】

この講義では、会社法について、従来の商法の規定と細部まで照らし合わせつつ、理解を深める。とりわけ、従来の商法からの制度変更点を把握し、その趣旨を正しく掴むことに努める。また、応用的な学習として、解釈上の変更点や新たな解釈上・立法上の問題点などを探る。その方法として、会社法に関し、主として学術的観点から個別の論点を深く掘り下げた文献を取り上げ、それらを読みこなしながら、緻密な論理的思考を重ねる。

### 【授業の目標】

会社法の全体的枠組みを掴むとともに、細部の論点を掘り下げること目標とする。新たに加わった制度、相当に変更された制度、あるいは、廃止された制度、それぞれの理由を考え、会社法が従来の法制度をどこまで改善したのかの評価を、理論的側面と実務的側面の双方から加える。学術文献の読破が中心となるが、会社法の実務へのインパクトも併せて考察したい。

### 【授業計画】

- ・会社法の制定に至る経緯、会社法の枠組み
- ・会社の種類・比較
- ・株式会社の設立
- ・株主の権利
- ・株式
- ・資金調達
- ・株式会社の機関総論
- ・株主総会
- ・取締役・取締役会
- ・会計参与・監査役・会計監査人
- ・計算
- ・組織変更・組織再編

### 【評価方法】

講義への出席状況、授業態度、授業中に割り当てられる口頭報告や期末レポートの内容等を総合的に判断して決定する。

### 【テキスト】

受講生と相談のうえ、後日決定する。

### 【参考文献・資料】

必要に応じて授業中に指示または配布する。

## 異文化コミュニケーション特講 I・II

ジョリー幸子

### 【授業の概要】

当コースはビジネスコミュニケーションの分野を異文化コミュニケーションの理論的背景から分析、考察を行う講座である。従って学生は、21世紀のポータレス社会において、国際間でのビジネス取引や外資系企業において起こりうる Intercultural Communication 分野に関連する諸問題を取り上げて学習する。

### 【授業の目標】

最近「異文化コミュニケーション」の分野が元来持つダイナミズムが矮小化されているという意見や、「英会話」と同意義語で使用されているという見方もある。本特講では下記の授業計画に沿って現代社会の持つ「異文化コミュニケーション」のあり方、理論的基盤を検討することを目標とする。

### 【授業計画】

1. Course Orientation
2. 序章：現代社会と異文化コミュニケーション
3. 第1章：研究の歴史的背景
4. 第2章：研究の方法と視点
5. 第3章：研究と実践
6. 第4章：理論の概念と理論の構築および評価
7. 第5章：メッセージ中心の理論
8. 第6章：対人関係中心の理論
9. 第7章：集団・組織中心の理論
10. 第8章：異文化接触中心の理論
11. 第9章：新理論構築の意義
12. 第10章：情報代謝理論より異文化交流史研究へ
13. まとめ
14. 期末試験（またはレポート）

### 【評価方法】

期末試験、授業への参加状況、出席率などを総合的に評価判断する。

### 【テキスト】

異文化コミュニケーションの理論：新しいパラダイムを求めて（石井敏、久米昭元、遠山淳 有斐閣ブックス 2001）

### 【参考文献・資料】

Global Understanding: Success in International Business (Makoto Shishido, Bruce Allen Seibido 2003)

## 租税法特講

森 恒夫

### 【授業の概要】

租税法の基礎理論である租税論、租税制度論、租税政策論等があるべき税制を意識しながら学ぶ。特に法の解釈及び適用に関し、判例などの研究も併せて行う。

### 【授業の目標】

昨今税負担の増大と大衆課税状況の進行で、租税法が我々の生活と密接な関係を持つようになり、法的紛争が激増しています。租税法の解釈及び適用が正しく行えるような知識の習得をめざす。

### 【授業計画】

次のような講義を行う予定であります。

- (1) 租税論
- (2) 租税基本原則
- (3) 租税法の解釈
- (4) 租税法の適用
- (5) 租税実体法－課税要件
- (6) 国税の概略
- (7) 租税手続法
- (8) 租税争訟法・処罰法

### 【評価方法】

出席状況、討論、レポートなどを総合して評価する。

### 【テキスト】

未定

### 【参考文献・資料】

適宜配布

## 交渉・説得術特講 I・II

福本明子

### 【授業の概要】

「交渉」は「説得」の相互作用であるため、相互に関連が高い。「交渉術」「説得術」の発展の歴史や複数の理論を学習し、身の回りにこれらの理論がどのような形で利用・応用されているのか事例を取り上げ、学習します。前期に「説得」、後期には「交渉」を主に学習します。日本語・英語両方の文献を読み進めていきます。

### 【授業の目標】

理論を学習し、日常生活での作用・応用を分析できるようになることを目指す。

### 【授業計画】

前期「説得」、後期「交渉」についてそれぞれ学習します

1. 「現実」とは、社会的現実の構築
2. 定義、日常生活での概念の捉え方
3. 発展の歴史
4. 各種理論・アプローチ
5. 理論のケーススタディー
6. 調査・分析・発表

### 【評価方法】

出席率、課題、ディスカッションやプレゼンテーション、授業への参加度合い等を総合して最終評価を行う。

### 【テキスト】

初回の授業にて発表

### 【参考文献・資料】

初回の授業にて発表

## 国際ビジネスロー特講 I・II

JOLLY, James A.

## 【Course description】

現在の企業活動は、海外との取引を抜きにしては語れない。商習慣や法制度が異なる海外との取引においては、国内取引には無い解決困難な問題が発生し、慎重なリスク管理が要求される。本講においては、国際売買契約、国際販売・代理店契約、国際ライセンス契約、国際合弁契約などの基本形態に関する知識を習得しながら国際取引の特質について考察していく。

The aim of this course is to provide the candidate with a comprehensive review of the basic concepts of business law currently used in international trade. The student is expected to acquire a working knowledge of the legal principles of international private law customarily applied and practiced in international business relationships and communications.

## 【Course objectives】

1. To provide candidate with a basic understanding and appreciation of the legal concepts a work in international business transactions.
2. To assist candidate in developing his or her own field of research and to provide further training in the legal concepts applicable to such.

## 【Course schedule】

Class sessions will consist of lecture and discussion of one unit of assigned text material each week. A bilingual approach will be used to facilitate acquisition of Japanese and English vocabulary in text and lecture instruction. Internet research of topics will supplement text materials.

1. Historical development of international law
2. International Chamber of Commerce and related trade guides
3. UN Commission on International Trade Law and related treaties and conventions
4. World Trade Organization and the Marrakesh Treaty provisions
5. INCOTERMS
6. UNIDROIT
7. UN Convention of the International Sales of Goods (UNCISG)

## 【Assessment】

Assessment will be based upon attendance and participation, as well as scores in the mid-term quiz and the final examination. Active participation in class will be valued highly.

## 【Textbooks】

The text materials for this course will be announced at the first class meeting

## 【Reference】

To be recommended individually as the need arises.

081167501\_0310 掲載順 :0310

MASTER ★

## 国際ビジネス比較特講 I・II

小池弘道

## 【授業の概要】

海外諸国（アメリカ、ヨーロッパ、東南アジアなど）の価値観、宗教、慣習、法律、ビジネスの仕方について考える。そのうえで日本と比較し、現地でビジネスをするにあたって、「郷に入っては、郷に従うべし」と「郷にいても郷に従うべきではないこと」について考察し、各内容について具体的な対応を考える。

## 【授業の目標】

海外のことについての知識不足からくるトラブルを、できるだけ避けるために必要なことを習得する。その一方で、摩擦が出て、それを乗り越える必要のある分野もあるということについて具体的に理解する。

## 【授業計画】

諸外国の価値観、宗教、慣習、法律、ビジネスの仕方などの基本的なことについて考えてみる。そしてそれぞれの具体的な内容について、日本との違いを把握する。更に、その違いを乗り越える方法について、現地流に従うべきか、日本流を通すべきか、折衷案を考えるべきかという面から考察する。

## 【評価方法】

レポート・単位認定試験の成績と出席状況を総合して評価する。

## 【テキスト】

必要に応じ資料配布。

## 【参考文献・資料】

授業の中で、適宜指示する。

081167501\_0320 掲載順 :0320

MASTER ★

## コンフロンテーションとディベート特講 I・II

鈴木哲至

## 【授業の概要】

特講 I では、コンフロンテーションとディベートをビジネス交渉術として企業環境の中でいかに生かしていくかを研究する。特講 II では、今までに行われたアメリカ大統領候補テレビディベートを分析し、そこから学べるコミュニケーション技術の研究をする。

## 【授業の目標】

特講 I では、ディベートを「知の技術」として使う方法、特講 II では、アメリカ大統領候補から学べるビジネス交渉術を学ぶ。

## 【授業計画】

- 1) はじめに
- 2) 成功するコンフロンテーションとディベート
- 3) コンフロンテーション概説
- 4) ディベート概説
- 5) 論理的思考
- 6) 情報の収集
- 7) 情報の分析
- 8) シミュレーションの方法
- 9) プレゼンテーションの方法、
- 10) ディベート各論（立論、反対尋問、作戦、反駁、審査法）
- 11) ディベート準備
- 12) コンフロンテーション、ディベートの実践 1
- 13) コンフロンテーション、ディベートの実践 2
- 14) 講評、フィードバック
- 15) まとめ（特講 II では、2004年に行われたブッシュとケリーの年アメリカ大統領候補テレビディベートのビデオおよびトランスクリプトを利用する。2008年のアメリカ大統領候補のテレビディベートも垣間見る。）

## 【評価方法】

出席状況、授業態度、プレゼンテーション、ディベート結果などを総合的に評価する。

## 【テキスト】

ザ・ディベート—自己責任時代の思考・表現技術  
（茂木秀昭著 ちくま新書）  
決定版 ハーバード流"NO"と言わせない交渉術  
（フィッシャー著 三笠書房）

081167501\_0320 掲載順 :0320

MASTER ★

## ジェンダー特講 I・II

國信潤子

## 【授業の概要】

産業社会学の領域である。ジェンダー（社会文化的性による格差）に敏感な視点で国内外の男女雇用機会均等の実態、労使関係、正規雇用者と非正規雇用者との格差、家庭的責任を持つ労働者の問題など有償・無償労働の両面について、産業社会学の手法で比較検討する。各種資料、統計データ等から、生活、ビジネス、地域などでの性別役割の実態、さらに経済活動における男女の組織関係、行動様式および意思決定などにおけるジェンダー異同を検討する。

## 【授業の目標】

大学院生各自の問題意識探求のために先行研究を講読、考察する。英語研究論文を講読できるようにする。

## 【授業計画】

- ビジネスにおけるジェンダー格差を多様な切り口で研究する。
- 1) 統計資料から労働、家族などの領域の多様なデータを比較検討。
  - 2) 事例的に経済活動、家族的責任の遂行などの領域でジェンダー格差について考察。
  - 3) ジェンダー格差形成の要因を検討。
  - 4) 男性・女性労働者の家族的責任、女性差別撤廃、移住労働者の権利などに関連するグローバル・スタンダードを研究する。

学生各自が自分の研究テーマを絞り、そのテーマにそって各自がリサーチし、報告を行う。テーマの例としては、雇用機会均等法の法制の推移、実施状況、少子化社会への対策、女性の就労継続などを取り上げ、日本社会におけるビジネスとジェンダーの実態について検討する。

## 【評価方法】

履修態度、出席状況、期末レポート、討議を行うなどこれらの総合評価による。

## 【テキスト】

産業社会学の領域のなかで、学生の問題意識に沿って随時資料提示する。

## 【参考文献・資料】

随時、資料を提示する。



## 経営情報システム特講 I

林 誠

### 【授業の概要】

経営に関連する情報や知識をシステムの視点からアプローチし、経営における情報システムはいかにあるべきかを研究する。まず、「経営戦略ありき」からスタートし、情報システムは企業の経営活動を支援し、補完するツールとして位置づける。当講座では、組織における人間相互の活動と情報システムの相互作用により、あるべき経営活動を探求する。

### 【授業の目標】

企業組織とITの相互関係について、ケースを中心に理解を深める。企業の経営活動を知識創造、ビジネスプロセスを学習プロセスとしてとらえ、多次元構造の新しいビジネスモデルを追求する。

### 【授業計画】

- ・産業と経営の情報化（経営情報システムの定義と構成、情報システムの発展段階、ビジネスプロセスリエンジニアリングと戦略的情報活用）
- ・経営戦略の策定とビジネスモデルの構築（経営戦略策定の手順、経営戦略と組織戦略、バリューチェーン、ビジネスモデル構築の手法、ITCとビジネスモデル）
- ・競争と協調の戦略（ゴミ箱モデルと市場の組織化、戦略的提携、サプライチェーンマネジメント、スマートシンクロナイゼーション）
- ・ケーススタディに基づく研究

### 【評価方法】

授業への出席、課題、ディスカッションへの積極的な参加度などを総合的に評価する。

### 【テキスト】

超企業・組織論（高橋伸夫著 有斐閣）

### 【参考文献・資料】

イノベーションのジレンマ（クリステンセン著 翔泳社）  
イノベーションの解（クリステンセン著 翔泳社）

## 情報倫理特講 I

梅田敏文

### 【授業の概要】

情報倫理は、どのような背景から必要とされる学問なのか、また、現在どのような課題に挑戦しているのか、また今までの研究の経緯や成果はどのようなものがあるかなどを明確にする。

当講義では、英文テキストをベースに、情報倫理が必要とされる背景、功利主義・義務論・徳の倫理学などの倫理理論、情報技術専門家の意義・利害関係者との関係、インターネットに関する倫理問題などを検討する。

### 【授業の目標】

情報倫理の主要課題と内容を理解し、課題解決の今後の方向性を検討する。

### 【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 情報倫理の必要性
3. 倫理の理論的枠組み
4. プロフェッショナル倫理
5. インターネットに関する倫理

### 【評価方法】

出席、課題発表、期末テストで評価する。

### 【テキスト】

Computer Ethics(Johnson, Deborah G. Prentice Hall 2001)

## 経営情報システム特講 II

林 誠

### 【授業の概要】

近年のICT（情報通信技術）の進歩は著しく、企業の経営活動にも大きな影響を与えるようになってきている。とくにインターネット技術の発展は経営情報システムの構造のみならず、企業の組織や意思決定プロセスについても大きく変えつつある。当講座では、経営情報システムを個人、グループの階層構造とITと知的創造活動の融合の面から研究する。

### 【授業の目標】

企業組織とITの相互関係について、ケースを中心に理解を深める。企業の経営活動を知識創造、ビジネスプロセスを学習プロセスとしてとらえ、多次元構造の新しいビジネスモデルを追求する。

### 【授業計画】

- ・組織と情報システム（組織のダイナミクス、意思決定と情報、意思決定プロセスとリーダーシップ、情報と問題解決プロセス）
- ・組織階層と情報システム（組織情報システムの目的と構造、グループ情報システム、個人情報システム）
- ・知識創造プロセス（情報と知識の体系、暗黙知と形式知、移動型知識と埋め込み型知識、組織学習、ナレッジマネジメントシステム、eラーニングとナレッジチェーンマネジメント）
- ・ケーススタディによる研究

### 【評価方法】

授業への出席、課題、ディスカッションへの積極的な参加度などを総合的に評価する。

### 【テキスト】

適時指示する。

### 【参考文献・資料】

知識転換の経営学（原田勉著 東洋経済新報社）  
情報経済論（福田豊・須藤修・早見均著 有斐閣）

## 情報倫理特講 II

梅田敏文

### 【授業の概要】

情報倫理の分野の主要課題である、プライバシー、所有権などを取り上げ、伝統的なこれらの概念がどのように変化しているのか、また今までの研究の経緯や成果はどのようなものがあるかなどを明確にする。

当講義では、英文テキストをベースに、情報技術の進展によるプライバシーの変化、知的財産権とコンピュータソフトの問題、倫理と責任の問題、社会における情報技術の意義や課題などを論じる。

### 【授業の目標】

情報倫理の主要課題と内容を理解し、課題解決の今後の方向性を検討する。

### 【授業計画】

1. オリエンテーション
2. プライバシー
3. 所有権
4. 責任
5. 情報技術と社会

### 【評価方法】

出席、課題発表、期末テストで評価する。

### 【テキスト】

Computer Ethics (Johnson, Deborah G. Prentice Hall 2001)



## システム開発特講 I・II

三浦信宏

## 【授業の概要】

情報システム開発のプロセスを理解し、それぞれの開発局面において必要となるソフトウェアの設計技法を習得する。また、ソフトウェア工学的な知識だけでなく、プロジェクトを運営していくための計画・管理技法についても採り上げる。

## 【授業の目標】

ソフトウェア開発の手順と管理を修得する。

## 【授業計画】

1. 情報システム開発のプロセス
2. 要件定義技法I
3. 要件定義技法II
4. ソフトウェア外部設計技法I
5. ソフトウェア外部設計技法II
6. ソフトウェア内部設計技法I
7. ソフトウェア内部設計技法II
8. テスト技法
9. 情報システムの運営と管理
10. 情報システム開発プロジェクトの管理I
11. 情報システム開発プロジェクトの管理II
12. 情報システム開発プロジェクトの管理III
13. まとめ
14. 発表と討論

## 【評価方法】

出席状況、授業中の課題討議、発表等の成績により総合的に評価する。

## 【テキスト】

ソフトウェア工学（河村一樹著 近代科学社）

## 【参考文献・資料】

授業の途中で適宜、資料を配布する。

## リスク管理特講 I

上原 衛

## 【授業の概要】

インターネットを中心とする情報通信ネットワークを活用したeビジネスの進展とともに、現在の情報社会は財務・法務・オペレーションを含めた様々なビジネスリスクや通信ネットワーク上のリスクに晒されており、不正や不祥事などの多くの問題が発生している。本講では、まずコーポレート・ガバナンスやコンプライアンスを包含した内部統制とERM(Enterprise Risk Management:戦略的総合リスク・マネジメント)における統合的な枠組みを理解したうえで、さまざまなビジネスリスクについて具体的な事例を通して概観する。そして、その発生メカニズム、リスクの評価・認識・管理について検討する。特に、金融派生商品（デリバティブ）を利用した会計不正事件や、情報社会におけるネットワーク上のコミュニケーション時のリスクなどの情報社会におけるビジネスリスクに焦点を当てる。

## 【授業の目標】

戦略的総合リスクマネジメント（ERM:Enterprise Risk Management）を概観し、その発生メカニズム、リスクの評価・認識・管理について理解する。特に、ネットワーク上でのコミュニケーション時のリスクと情報社会におけるビジネスリスクに関するリスクマネジメントに関しての理解を深め、専門性を高める。

## 【授業計画】

1. 内部統制、ERM(Enterprise Risk Management:戦略的総合リスク・マネジメント)における統合的な枠組みについて
2. 情報社会におけるビジネスリスク（信用リスク、市場リスク、会計不祥事、レピュテーション・リスク、ネット告発）、システムリスクについて
3. 情報セキュリティ（コンピュータ・ウイルス、不正アクセス・改ざん、暗号化、電子帳票の認証、電子商取引、電子マネー、知的所有権、個人情報保護）について
4. 情報社会におけるリスクの増大について
5. リスク・アセスメント、リスク分析
6. 金融派生商品（デリバティブ）を利用した会計不正事件
7. ネットワーク上でのリスク

## 【評価方法】

講義と討議への積極的参加に加え、研究への取り組み姿勢と理解度を総合的に評価する。

## 【テキスト】

適宜指定する。

## リスク管理特講 II

上原 衛

## 【授業の概要】

インターネットを中心とする情報通信ネットワークを活用したeビジネスの進展とともに、現在の情報社会は財務・法務・オペレーションを含めた様々なビジネスリスクや通信ネットワーク上のリスクに晒されており、不正や不祥事などの多くの問題が発生している。本講では、まずコーポレート・ガバナンスやコンプライアンスを包含した内部統制とERM(Enterprise Risk Management:戦略的総合リスク・マネジメント)における統合的な枠組みを理解したうえで、さまざまなビジネスリスクについて具体的な事例を通して概観する。そして、その発生メカニズム、リスクの評価・認識・管理について検討する。特に、情報社会におけるネットワーク上でのビジネスリスク、電子帳票における信憑性と情報セキュリティに焦点を当てる。

リスク管理に関して、まず、内部統制とERMにおける統合的な枠組みを理解したうえで、具体例をとおして、情報セキュリティ管理からビジネスリスク管理に至るまで理解を深めていく。

## 【授業の目標】

内部統制とERM(Enterprise Risk Management)における統合的な枠組みに関する理解を深める。

## 【授業計画】

1. 内部統制、ERM(Enterprise Risk Management:戦略的総合リスク・マネジメント)における統合的な枠組みについて
2. 情報社会におけるビジネスリスク（信用リスク、市場リスク、会計不祥事、レピュテーション・リスク、ネット告発）、システムリスクについて
3. 情報セキュリティ（コンピュータ・ウイルス、不正アクセス・改ざん、暗号化、電子帳票の認証、電子商取引、電子マネー、知的所有権、個人情報保護）について
4. 情報社会におけるリスクの増大について
5. ビジネスリスク管理、情報セキュリティ管理
6. 電子帳票における信憑性の確保と暗号化

## 【評価方法】

講義と討議への積極的参加に加え、研究への取り組み姿勢と理解度を総合的に評価する。

## 【テキスト】

適宜指定する。

## プログラミング特講 I・II

西荒井学

## 【授業の概要】

情報資源の管理・運営システムを構築するのに必要なシステム分析からシステム設計に至る範囲内の問題を追及する。特に、コンピュータ処理を実現するのに最も重要であると思われるプログラミング設計部分、言い換えればアルゴリズムの問題を中心に考えていく。

## 【授業の目標】

情報システムの設計・開発に関わる諸問題を受講者相互の報告、議論を通じて、探求していく。

## 【授業計画】

前半

- 1) 既存ソフトウェアの機能分析
- 2) ソフトウェアの機能動作試験
- 3) ソフトウェアのカスタマイズ
- 4) 総合検討

各種システムの構築に関わる問題を探究していくための題材として、既存ソフトウェアの機能分析を課題として与える。受講者は、担当部分の機能特性を明らかにした上で、逐次互いに種々の問題点を検討していく。

後半

- 1) 要求定義（機能設計、情報設計）の問題
- 2) システム設計技法の問題
- 3) プログラム設計技法の問題
- 4) プログラミング技法の問題

各種システムの構築に関わる問題を探索していくための題材として、『システム設計に関する学習プログラム』の作成を課題として与えることとする。受講生は、担当部分のモジュールの特性を考慮した上で、適切なアルゴリズムの展開を図り、最終的にコンピュータ処理段階まで移行させていくことによって、種々の問題点を互いに検討していく。

なお、受講者は、ある程度のコンピュータ利用経験、特にプログラミング経験を持つことを希望する。

## 【評価方法】

課題の進捗状況、報告内容、ならびに最終レポートによって評価する。

## 【テキスト】

使用せず

## プログラミング特講 III・IV

石橋善弘

## 【授業の概要】

情報化社会においては、問題解決のためにコンピュータを活用できることは必須要件である。本科目は、プログラムの設計開発に際して要求される論理的思考能力の養成を目的とする。講義においては、プログラミングの背景となる数学的基礎、プログラミングの基本的な考え方および手法を解説し、また実習による体験を通じて、日常生活、社会活動、研究活動等に有用な諸プログラムを作成する能力を養成する。

## 【授業の目標】

論理的思考能力の養成およびプログラミング技術の習得

## 【授業計画】

1. プログラミングの基礎
2. プログラミングに必要な数学的基礎I
3. プログラミングに必要な数学的基礎II
4. プログラミング実習 (市販統計ソフトを用いた問題解決、図表化)
5. プログラミング (1) 変数、式、演算子
6. プログラミング (2) 関数
7. プログラミング実習 (変数、式、演算子、関数)
8. プログラミング (3) くり返し
9. プログラミング実習 (くり返し)
10. プログラミング (4) 条件による分岐、フローチャート
11. プログラミング実習 (条件による分岐)
12. プログラミング (5) 作図、グラフ作成
13. プログラミング実習 (作図、グラフ作成)
14. 補足とまとめ

1. プログラミング概論
2. 統計学基礎I
3. 統計学基礎II
4. プログラミング実習 (市販統計ソフトを用いた問題解決、図表化)
5. プログラミング実習 (正規分布、二項分布)
6. プログラミング実習 (平均、標準偏差)
7. プログラミング実習 (共分散、相関係数、回帰分析)
8. コンピュータシミュレーション基礎I
9. コンピュータシミュレーション基礎II
10. プログラミング実習 (シミュレーション)
11. プログラミング実習 (シミュレーション)
12. プログラミング実習 (ゲーム用プログラム)
13. プログラミング実習 (総括)
14. 補足とまとめ

## 【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により総合的に評価する。

## 【テキスト】

未定

## プログラミング特講 V・VI

伊藤 雅

## 【授業の概要】

【プログラミング】 = 【アルゴリズム】 + 【データ構造】である。対象を高級言語に限れば、高級言語はさらに手続き型言語と非手続き型言語に分類できる。前者の代表格がCであり、後者のそれがJavaである。プログラミング言語をひとつ決めるとそのプログラミングパラダイム (考え方) が決まる。アルゴリズムやデータ構造もそのプログラミングパラダイムに依存する。JavaはC、C++といった手続き型言語を発展させて誕生したオブジェクト指向言語である。本特講Vでは、C言語のポインタや構造体といった概念からスタートし、C++言語のクラスの概念を経て、Java言語で簡単なクライアント/サーバ・アプリケーションが構築できるまでを修得する。

プログラミングの最近の主流はオブジェクト指向プログラミングである。さらに一歩進めたアスペクト指向プログラミングというものも存在する。さて、身近なオブジェクト指向言語のひとつにJavaがある。JavaはC、C++といった手続き型言語を発展させて誕生した言語である。本特講VIでは、CやC++言語をある程度理解しているものとしてJavaについての造詣を深める。GUIプログラミングやネットワークプログラミングといったJavaアプリケーションだけに留まらず、JavaスクリプトやJavaアプレットについても言及する。

## 【授業の目標】

プログラミング特講Vの目標はGUIプログラミングの理解と実践である。同VIの目標はネットワークアプリケーションの構築である。

## 【授業計画】

- |                     |                   |
|---------------------|-------------------|
| 1. 開発環境の整備          | 1. 開発環境の整備        |
| 2. C言語の特長           | 2. C言語の特長         |
| 3. ポインタと構造体         | 3. ポインタと構造体       |
| 4. Cによるファイル処理       | 4. C++言語の特長       |
| 5. C++言語の特長         | 5. クラス概念          |
| 6. クラス概念            | 6. Java言語の特長      |
| 7. コンストラクタ/デストラクタ   | 7. Javaスクリプト      |
| 8. 単一継承・多重継承        | 8. インタフェースと抽象クラス  |
| 9. C++によるストリーム処理    | 9. イベント処理         |
| 10. Java言語の特長       | 10. 例外処理          |
| 11. インタフェースと抽象クラス   | 11. GUIプログラミング    |
| 12. AWTとSwingによるGUI | 12. ネットワークプログラミング |
| 13. クライアント/サーバの構築   | 13. Javaアプレット     |
| 14. 補遺              | 14. 補遺            |

## 【評価方法】

半期に3課題を適宜提示する。そのレポートを提出されたい。レポートは毎回A、B、C、Dで評価する。100点満点として、60点未満でF、60点以上でC、70点以上でB、80点以上でA、90点以上でA+とする。

## 【テキスト】

理工系のJavaプログラミングテキスト 山本富士男著 技術評論社

## 【参考文献・資料】

- コア Java2 Vol.1 基礎編 アスキー  
コア Java2 Vol.2 応用編 アスキー

## 演習 I・II・III・IV

研究指導教員

## 【授業の概要】

研究指導教員の個別指導により修士論文・制作として結実させる。

## 【授業の目標】

修士論文の作成・完成

## 【授業計画】

2年間にわたり個人指導をする。

## 【評価方法】

演習への取り組み、レポート、試験等により評価する。詳細は、初回の授業にて明示する。

## ビジネス特殊研究 I

石橋善弘

### 【授業の概要】

マーケティング、システム論、金融工学、情報数学に関係の深い分野の中から、学生が興味をもつ研究テーマを選び、研究指導を行う。

### 【授業の目標】

論文作成能力の養成

### 【授業計画】

テーマに関係の深い著書の講読。  
 テーマに関係の深い論文の紹介。  
 研究の進展状況についての報告。  
 研究成果についての検討、討議。  
 研究成果の発表技術の習得。  
 研究成果についての論文作製。

### 【評価方法】

得られた研究成果によって評価する。

## ビジネス特殊研究 II

杉本典之

### 【授業の概要】

企業会計がビジネス社会における国際的に共通の情報システムになり、会計制度の国際化が進展してきたという歴史的事実と、その根底に貫徹する複式簿記の論理とに注目しつつ、企業会計の基本的構造と社会的機能を記号論的に多角的に考察していただく。そして、そのような考察の成果を複数の学術論文にまとめ、それらの論文をさらに体系的に編集し直すことによって博士論文を完成させる、というように指導する。

### 【授業の目標】

現代社会では、営利目的の企業組織において発達してきた企業会計方式の情報システムが、公的な組織でも非営利目的の組織でも重要視され採用されるようになってきた。情報システムとしての企業会計は、大別して、会計測定のプロセスと会計伝達のプロセス（及び会計監査のプロセス）から成り立っている。この授業では、そのような一連のプロセスからなる企業会計の情報システムとしての汎用性と重要性に関する研究成果を論文化するように努めたい。

### 【授業計画】

各年次共に、博士論文の作成に資するように授業を進める。

### 【評価方法】

平常の報告、討論、投稿論文等を総合して成績を評価する。

### 【テキスト】

特定しない。

### 【参考文献・資料】

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生からの問い合わせに応じて個別具体的に紹介・教示する。

## ビジネス特殊研究 III

吉村文雄

### 【授業の概要】

現代の企業組織における内部志向的な会計を規定するものとして、コントロールと意思決定の構造化をめぐる問題がある。管理会計行為を導く構造としてのルーチンとルール、そしてそれらと調和のとれた会計手段・会計過程を追究する新たな会計学的視点が求められている。最近検討が加えられている戦略管理の諸要求に応える会計システムの設計に関する問題は新たな研究課題といえる。そのような問題を組織会計学として考察します。

### 【授業の目標】

管理会計論やその成果としての諸技法と企業の計数管理実務との相互規定関係をしっかりとつかむこと。

### 【授業計画】

内部会計の現代的意義をつかむため、コントロールと意思決定の関係を論理的にとらえる。以下のような順序で進めるであろう。

1. 組織会計学の分析視角
2. 組織目標と動機づけ
3. 問題解決とコントロール
4. 戦略的原価削減
5. 戦略的原価管理のシステム・デザイン
6. 競争優位と会計
7. 事例研究
8. サプライチェーン分析
9. 戦略的意思決定の評価
10. 業績測定とコントロール
11. バランス・スコアカードの意義
12. 内部統制論の検討

### 【評価方法】

課題レポート、論文作成状況などによって総合的に評価します。

### 【テキスト】

最初の授業で指示します。

### 【参考文献・資料】

授業中その他の時間に随時指示します。

## ビジネス特殊研究 IV

ジョリー幸子

### 【授業の概要】

当コースは、博士課程後期において博士論文のための研究をし、執筆するにあたり、広範囲な異文化コミュニケーションの分野の中から、国際ビジネスに関連する下位テーマを選択し、その当該分野について深い知識と情報を収集し、学術的な論文を作成することを目的とするものである。

### 【授業の目標】

博士論文作成のために、学生による資料検索、統計の正しいとり方等の適切な指示や指導が与えられ、創造的、且つビジネス・コミュニケーション分野への貢献度の高い論文を完成させたい。

### 【授業計画】

学生の選択したテーマに関係のある著書、論文などについての指示、紹介研究の進展状況についての報告と指示  
 研究成果についての検討、討議、評価  
 研究成果の発表技術の指導、習得、実践

### 【評価方法】

上記計画に沿っての学生のオーラル・レポート、関連論文読解、発表能力、論文進展度などについて総合的に判断、評価する。

### 【テキスト】

履修する個々の学生の選択したテーマに沿って適切な教材を指示する。

## ビジネス特殊研究 V

森下允之

## 【授業の概要】

第二次戦後の自由経済体制を推進してきたGATT、WTOにより、モノ、カネ、ヒトの国境を越える移動、配分が自由になり、現在はグローバルなメガ・コンペティション時代といわれる。しかしながら、多角、無差別な自由化は限界に達し、これからは仲間をつくる「(地域)自由貿易協定」-FTA-が世界的な流れとなっている。

ビジネス特殊研究Vでは、アジア、ヨーロッパ、アメリカにおけるFTAの状況を内外の論文統計を使い調査し、本邦企業の海外戦略に及ぼす影響を分析する。

## 【授業の目標】

博士論文の作成、完成

## 【授業計画】

各年次共に、博士論文の制作に資するように授業を進める。

## 【評価方法】

平常の報告、討論、投稿論文等を総合して成績を評価する。

## 【テキスト】

特定しない。

## 【参考文献・資料】

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生からの問い合わせに応じて個別具体的に紹介・教示する。

## ビジネス特殊研究 VI

國信潤子

## 【授業の概要】

この講座は学部科目の産業社会学～ジェンダー（社会文化的性による格差）～の延長上にある内容である。学生各自の問題意識に沿ってテーマを選ぶ。専門論文講読資料、英語資料の講読を含む。内容の例として日本の雇用環境、経済活動における雇用均等施策の実態、職場、家族、地域におけるジェンダー関係分析、企業活動と男女の家族的責任、ワーク・ライフ・バランスなどのテーマがある。また国際協力活動におけるジェンダーの視点からの研究などがある。

## 【授業の目標】

日本のアジア太平洋地域での位置づけをみると先端的技術、高度な経済活動においては主導的位置にあるが、社会的な女性と男性の経済活動における関係性、外国人労働者の地位などをみると極めて多くの解決すべき問題がある。これらの問題を理解し、学生の問題意識にあわせて講義・資料講読を進める。学生による発表、討論なども行い、実態を理解し、その問題解決法を探究することが目標である。英語論文講読がある。

## 【授業計画】

- 1) 産業社会学、開発社会学という領域についての紹介
- 2) 日本内外のジェンダー関係の理解
- 3) 日本社会における経済活動にみる均等政策の推移
- 4) 国際開発協力におけるジェンダー視点の意味
- 5) 日本国内統計、アジア近隣諸国の社会的状況：国連統計資料分析

## 【評価方法】

出席状況、報告内容、討議貢献度、主体的参加度、期末レポート

## 【参考文献・資料】

新しい産業社会学	犬塚 著	有斐閣
ジェンダーの社会学	江原 他著	有斐閣

## ビジネス特殊研究 VII

藤井正志

## 【授業の概要】

金融業の情報開示制度、銀行業と証券業をはじめとする業際間の規制、銀行グループの金融コングロマリット化とその検査および監督体制の日米比較を通して、望ましい銀行規制・監督体制および金融システムのあり方について研究する。

## 【授業の目標】

銀行と事業会社、銀行業と証券業などの業際間の規制問題を中心に議論し、望ましい銀行規制・監督体制および金融システムのあり方についての理解を深める。

## 【授業計画】

参考著書および論文の講読  
研究の進展状況に関する報告  
研究成果についての報告・検討

## 【評価方法】

平素の取り組み姿勢および研究成果によって評価する。

## 【テキスト】

適宜指定する。

## 【参考文献・資料】

適宜指定する。

## ビジネス特殊研究 VIII

梅田敏文

## 【授業の概要】

コンピュータをベースとした情報学と、哲学的な倫理学を基礎にもつ情報倫理は、技術的な観点からのアプローチや、人文科学・社会科学の観点からのアプローチなど多彩な取り組みが行われている。ここでは、さまざまな論点を体系的に把握するアプローチを論じる。

## 【授業の目標】

受講者の個別の要望に対応して、情報学や情報倫理に関するテーマを提供する。

## 【授業計画】

個別指導を行う。

## 【評価方法】

コースへの参加状況と調査研究の進捗度で評価する。

## 【テキスト】

必要に応じてレジュメなどを配布する。



## ビジネス特殊研究 IX

真田幸光

### 【授業の概要】

本授業は担当教員が行うビジネス研究科前期課程を履修していることを前提に、  
 (1) 国際経済情勢の分析  
 (2) 国際情勢下に於ける日本経済の現状分析  
 (3) 日本の国際経済外交戦略に於ける分析と考察  
 を行った上で、東アジアの安定的システム構築に向けた「具体策」を策定していくことと目的とする。従って、単なる机上の空論ではなく、日本政府や国際機関等に対して提言を行うことを念頭に授業展開を行うこととする。

### 【授業の目標】

本授業では院生がビジネスマンの視野から見たアジア経済、就中、東アジア経済の発展の方向性を議論、その上で今後のアジア経済のあり方について具体的なアクションプランを作成する能力をも体得できるようにすることを目標としている。

### 【授業計画】

1. ガイダンス及び本授業の目的等の再確認
  2. 世界経済の潮流 (概観説明)
  3. 国際経済下に於ける日本経済に関する現状認識 (概観説明)
  4. 日本の経済政策に関するディベート
  5. 日本の外交政策に関するディベート
  6. 国際機関にあり方に関するディベート
  7. 東アジア情勢に関する現状認識 (概観説明)
  8. 東アジアの課題と今後の展望に関するディベート
  9. これ以降は各院生がそれぞれ具体策・提言書作りに向けた個別準備に入る。
- そして、授業の最終段階では授業内発表を行い、また担当教員が優れた提言が出たと判断する場合には、内閣府and/or国会議員に対する提言発表を行う。

### 【評価方法】

授業に於ける議論や文章を参考としつつ最終的に作成される「具体策」の内容を以って評価する。

### 【テキスト】

特になし。

### 【参考文献・資料】

- \* モノグラフ・シリーズ7 「北東アジア開発銀行 (NEADB) の創設と日本の対外協力政策」(東京財団)
- \* 韓国経済の解剖 (文眞堂)
- \* モンゴル/市場経済下の企業改革 (新評論)
- \* 早わかり韓国 (日本実業出版社)

081168002\_0110 掲載順 :0110

MASTER ★

## ビジネス特殊研究 X

石川雅之

### 【授業の概要】

財務会計分野のトピックについて履修者それぞれが研究テーマを選択し、そのテーマに沿って進める。

### 【授業の目標】

博士論文の執筆

### 【授業計画】

履修者それぞれの研究テーマについての発表をもとに討論を行う。

### 【評価方法】

研究成果の進捗・内容によって総合的に評価する。

081168002\_0120 掲載順 :0120

MASTER ★

## ビジネス特殊研究 XI

JOLLY, James A.

### 【Course description】

The aim of this course is to provide the candidate with expanded studies into the growing body of law from customary practice and from international agreements as is being currently used in international trade. The student will be asked to maintain daily search of current periodicals to note stories related to the currently discussed topics. A primary purpose of this study is to become knowledgeable to the trends of international law development.

### 【Course objectives】

1. To provide candidate with introduction and exposure to the various sources of developments in international law and to access legal research materials.
2. To provide guidance to candidate in the development and progressions of his or her chosen research topic.

### 【Course schedule】

Class sessions will consist of lecture and discussion of one unit of assigned text material each week. A schedule of class dates and assignments will be provided at. A bilingual approach will be used to facilitate acquisition of Japanese and English vocabulary in text and lecture instruction. Internet research of topics will supplement text materials. The following topics to be specially covered, in addition to other related topics as the student may find helpful in the course of study:

1. Orientation - preview of course topics
2. Regulations and trade guides of the ICC
3. UNCITRAL treaties and drafts
4. European Community trade laws
5. WTO convention and agreements

### 【Assessment】

Assessment will be based upon attendance and participation, as well as scores in the mid-term quiz and the final examination. Active participation in class will be valued highly.

### 【Textbooks】

The text materials for this course will be announced at the first class meeting.

### 【Reference】

To be recommended individually as the need arises.

## ビジネス特殊研究 XII

三浦信宏

### 【授業の概要】

ソフトウェア開発プロジェクトの中で特に、プロセス改善による品質管理について、CMM(Capability Maturity Modeling)をモデルとして効果的なプロセスの成熟度のありかたについて研究する。また、同時に“経営・発注視点”からのプロジェクトの進め方を評価する物差しとしてEVMS (Earned Value Management Systems)についても論じる。

### 【授業の目標】

博士論文の執筆

### 【授業計画】

履修者それぞれ個別に指導していく。

### 【評価方法】

平常の討論、発表、その他投稿論文等の内容を含め総合的に評価する。

### 【テキスト】

特定しない

### 【参考文献・資料】

適宜指定する



## ビジネス特殊研究 XIII

上原 衛

### 【授業の概要】

インターネットを中心とする情報通信ネットワークを活用したeビジネスの進展とともに、現在の情報社会は財務・法務・オペレーションを含めた様々なビジネスリスクや通信ネットワーク上のリスクに晒されており、不正や不祥事などの多くの問題が発生している。本講では、まずコーポレート・ガバナンスやコンプライアンスを包含した内部統制とERM(Enterprise Risk Management:戦略的総合リスク・マネジメント)における統合的な枠組みを理解したうえで、さまざまなビジネスリスクについて具体的な事例を通して概観する。そして、その発生のメカニズム、リスクの評価・認識・管理について検討する。特に、金融派生商品(デリバティブ)を利用した会計不正事件や、情報社会におけるネットワーク上のコミュニケーション時のリスクなどの情報社会におけるビジネスリスクに焦点を当てて研究する。

### 【授業の目標】

リスク管理に関して、まず、内部統制とERMにおける統合的な枠組みを理解したうえで、ERMに関して経営情報システムの観点から研究を行う。

### 【授業計画】

1. 内部統制とERMにおける統合的な枠組みについて
2. 情報社会におけるリスクの増大について
3. 情報社会におけるERMの必要性
4. ビジネスリスク管理、情報セキュリティ管理
5. リスク・アセスメント、リスク分析
6. 企業の社会的責任(CSR:Corporate Social Responsibility)について

### 【評価方法】

講義と討議への積極的参加度に加え、研究への取り組み姿勢と理解度を総合的に評価する。

### 【テキスト】

適宜指定する。

## 簿記 I

中村雅文

## 【授業の概要】

簿記は企業で生起する様々な取引を記録・集計・報告するための技術であるが、簿記の対象となる取引はきわめて多様である。かかる簿記のシステムからもたらされる情報は、数多くある経営情報のなかでも重要なもののひとつでもある。高度情報化社会といわれている今日、簿記は企業の経営者にとって不可欠であるばかりではなく、企業を取り巻く利害関係者にとっても重要である。本講義では、このような観点から、個別財務諸表を作成する上で必要となるさまざまな取引にかかる処理技術や決算において必要な知識に焦点を合わせて勉強していくことを目標とする。

## 【授業の目標】

この授業では、一見難解に思える簿記に親しむことから入り、その基礎から簿記1級程度までの知識の習得を目標とする。また、会計実務の世界では日々新たな事象が起きており、それを処理する簿記技術も実務の変化を反映して進歩していることから、企業における会計実務の動向も視野に入れた授業を目指す。

## 【授業計画】

1. 簿記の基礎、
2. 現金及び預金～有価証券
3. 商品売買取引（特殊商品取引含む）
4. 売上債権・仕入債務（手形取引を含む）
5. 固定資産会計（有形・無形固定資産、投資等）
6. その他の資産・負債取引及び損益取引
7. 決算整理事項・試算表・精算表
8. 個別財務諸表の概要

## 【評価方法】

筆記試験により評価する。

## 【テキスト】

最初の講義で指示する。

## 【参考文献・資料】

最初の講義で指示する。

## 会計理論 I

杉本典之

## 【授業の概要】

企業会計制度の国際化と会計基準の国際的統合が進展しつつある状況の中で、各国の会計基準設定主体や国際会計基準理事会等が会計基準や概念的枠組みを公表している。その会計基準や概念的枠組みを比較分析して、その根底に流れている会計理論の内、主として会計測定の局面に関わる理論を析出して修得する。

## 【授業の目標】

企業会計方式の情報システムは元来、営利目的の企業組織において発達してきたが、現代社会では公的な組織でも非営利目的の組織でも重要視され採用されるようになってきた。このような情報システムの汎用性と重要性について、この授業では会計測定のプロセスに焦点を合わせながら考察する。

## 【授業計画】

下記の事項に関する会計理論をそれぞれ複数回に分けて考察し、かつ討論する。

- (1) 株式会社会計を典型とする企業会計
- (2) 情報システムとしての企業会計
- (3) 企業会計の認識・測定・伝達のプロセス
- (4) 会計的認識の特徴
- (5) 会計的測定の特徴

## 【評価方法】

論述式試験中心の筆記試験により評価する。

## 【テキスト】

下記の拙著等からプリントを作成して配付する。  
会計理論の探究－会計情報システムへの記号論的接近－  
(杉本典之著 同文館)

## 【参考文献・資料】

必読必見の参考文献や資料は、必要に応じて、あるいは学生からの問い合わせに応じて、個別具体的に紹介し教示する。

## 簿記 II

中村雅文

## 【授業の概要】

本講義では、個別財務諸表を作成する上で必要なさまざまな取引の処理方法や決算に必要な知識を習得するだけでなく、企業会計上、重要な個別的分野、例えば外貨換算会計、金融商品会計、減損会計、税効果会計等、特殊な取引を含めた総合的な問題の知識や処理技術をも習得し、さらに連結財務諸表の作成知識にも踏み込む。

## 【授業の目標】

この授業では、簿記Iで学習した知識を基礎として、より深く会計実務の処理技術を勉強することを目標とする。従って、企業会計において個別に論じられる諸問題に関しても学習していくとともに、会社法、金融商品取引法との関連をも考察する。

## 【授業計画】

1. 会社の決算  
会社の税金、決算手続、
2. 会計上の個別問題  
外貨換算会計、金融商品会計、  
減損会計、税効果会計、資本会計他
3. 連結会計：  
連結財務諸表作成までの手続

## 【評価方法】

筆記試験により評価する。

## 【テキスト】

最初の講義で指示する

## 【参考文献・資料】

最初の講義で指示する

## 会計理論 II

杉本典之

## 【授業の概要】

各国の会計基準設定主体や国際会計基準理事会等が公表している会計基準や概念的枠組みを比較分析して、その根底に流れている会計理論の内、主として財務諸表を媒介にして会計情報が伝達される局面に関わる理論を析出して修得する。

## 【授業の目標】

企業会計方式の情報システムは元来、営利目的の企業組織において発達してきたが、現代社会では公的な組織でも非営利目的の組織でも重要視され採用されるようになってきた。このような情報システムの汎用性と重要性について、この授業では会計伝達のプロセスに焦点を合わせながら考察する。

## 【授業計画】

下記の事項に関する会計理論をそれぞれ複数回に分けて考察し、かつ討論する。

- (1) 情報システムとしての企業会計の基本的構造
- (2) 記号規約としての公正妥当な会計基準
- (3) 決算財務諸表をめぐる会計基準
- (4) 会計基準の国際的統合
- (5) 各国の会計基準と国際会計基準の動向

## 【評価方法】

論述式試験中心の筆記試験により評価する。

## 【テキスト】

下記の拙著等からプリントを作成して配付する。  
会計理論の探究－会計情報システムへの記号論的接近－  
(杉本典之著 同文館)

## 【参考文献・資料】

必読必見の参考文献や資料は、必要に応じて、あるいは学生からの問い合わせに応じて、個別具体的に紹介し教示する。

## 財務会計 I

石川雅之

### 【授業の概要】

財務会計の領域のうち、制度に係わる面を取り扱う。具体的には、現代財務会計の論理的基盤を考察し、次いで財務諸表制度を支える各種法令について、それぞれの基本的考え方を理解し、さらにそれらを批判的に検討することを通じて、それぞれの規定がどのような意味をもち、またどのような役割が期待されているのかを検討する。

### 【授業の目標】

現代財務会制度に係わるさまざまな知識を身につけるとともに、現代財務会計のかかえる諸問題を考察する能力を養う。

### 【授業計画】

1. 現代財務会計のフレームワーク
2. 税務会計制度の論理と体系
3. 会計ディスクロージャーに対するインセンティブ
4. 財務諸表の構造と法令
5. 業績報告の潮流

### 【評価方法】

筆記試験により評価する。

### 【テキスト】

財務会計論 I 基本論点編 (河崎・斎藤 他 中央経済社)

### 【参考文献・資料】

適宜指示する。

## 財務会計 II

石川雅之

### 【授業の概要】

財務会計Iに引き続いて、財務諸表制度を支える各種法令について、その基本的考え方を理解するとともに、その政策的意義を考察する。また、財務会計の論理的基盤がどのように変化してきたかを踏まえて、現行財務会計制度の抱える問題点や新たな課題を検討し、さらに、必要に応じて理論的な問題も検討する。

### 【授業の目標】

現代財務会制度に係わるさまざまな知識を身につけるとともに、現代財務会計のかかえる諸問題を考察する能力を養う。

### 【授業計画】

1. 財務諸表制度を支える各種法令の趣旨
2. 財務報告目的と財務諸表制度
3. 財務会計の新しい潮流
4. 財務会計制度の新たな課題

### 【評価方法】

筆記試験により評価する。

### 【テキスト】

財務会計論 II 応用論点編 (河崎・斎藤 他 中央経済社)

### 【参考文献・資料】

適宜指示する。

## 会計ディスクロージャー

浅野敬志

### 【授業の概要】

ディスクロージャー制度を一通り学習するとともに、企業が開示する決算短信、有価証券報告書、半期報告書、四半期報告書の内容を実際に確認し、その情報を基に企業の特徴や経営者の情報開示行動について詳しく分析する。

### 【授業の目標】

ディスクロージャー制度と経営者の情報開示行動について十分に理解すること。

### 【授業計画】

1. 会計ディスクロージャーの意義
2. 会計ディスクロージャーの現状と展望
3. 有価証券報告書の見方、読み方
4. 半期報告書および四半期報告書の見方、読み方
5. コーポレート・ガバナンスと会計ディスクロージャー
6. セグメント情報と会計ディスクロージャー
7. 強制的ディスクロージャーと自発的ディスクロージャー
8. 経営者の期待マネジメントと利益マネジメント

### 【評価方法】

筆記試験により評価する。

### 【テキスト】

別途指示する。必要に応じて資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

ゼミナール現代会計入門 (伊藤邦雄著 日本経済新聞社)  
 会計ディスクロージャーの新機軸 (宇南山英夫・三浦敬編著 東京経済情報出版)  
 ディスクロージャーの戦略と効果 (須田一幸編著 森山書店)  
 適時開示ハンドブック (久保幸年著 中央経済社)  
 金融商品取引法におけるディスクロージャー制度 (小谷融・内山正次編著 税研)

## 財務諸表分析

浅野敬志

### 【授業の概要】

会計情報による経営分析の基本的な手法についての理解を深め、実際に企業が公表している会計情報をもとに経営分析を行い、企業価値の評価方法や株主価値を高める事業戦略などを習得する。

### 【授業の目標】

企業の分析スキルを身につけ、企業の戦略や経営行動を評価できるようになること。

### 【授業計画】

1. 企業評価の必要性
2. 資本利益率 (ROA、ROE) の意義と問題点
3. 株主価値の創造とEVA
4. 投下資本利益率 (ROIC) と加重平均資本コスト (WACC)
5. 実例を使ったEVA計算
6. 実例を使ったEVA分析
7. 株主価値を高める事業戦略

### 【評価方法】

筆記試験により評価する。

### 【テキスト】

別途指示する。必要に応じて資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

会計指標入門 (大津広一著 ダイアモンド社)  
 企業分析シナリオ第2版 (西山茂著 東洋経済新報社)  
 企業価値評価 (伊藤邦雄著 日本経済新聞社)

## 会計基準

石川雅之

### 【授業の概要】

企業の財務報告を律する会計基準がどのような役割をはたしているのか、どのような経緯で会計基準が誕生したのか、どのような構造になっているのかについて理解する。そして、各国の会計基準がどのような方法によって設定されているのか、どのような特徴があるのかについての理解を深める。また、会計基準設定機関についても学習する。

### 【授業の目標】

現代財務会制度を支える会計基準についてのさまざまな知識を身につけるとともに、現代財務会計制度における会計基準の役割についての理解を深める。

### 【授業計画】

会計基準の役割  
会計基準制定の歴史  
会計基準の構造  
会計基準の設定方法  
会計基準設定機関

### 【評価方法】

筆記試験により評価する。

### 【テキスト】

小林秀行『会計基準』（同文館）

### 【参考文献・資料】

適宜指示する。

## 会計制度

石川雅之

### 【授業の概要】

会計制度を企業の外部利害関係者に対する財務報告を目的とする制度として捉え、その制度がどのような規定に基づき、どのような仕組みで運営されているのかについての理解を深め、さらに会計制度その理論的構造と問題点を検討する。また、可能であれば、提案されている会計基準の公開草案やコメントの検討を行う。

### 【授業の目標】

現代財務会制度の基礎構造を理解する。

### 【授業計画】

会計制度の目的  
会社法の規定する会計制度  
証券取引法の規定する会計制度  
税法と企業会計  
会計法規の構造  
制度の変更

### 【評価方法】

筆記試験により評価する。

### 【テキスト】

会計制度（山地範明 同文館）

### 【参考文献・資料】

適宜指示する。

## 国際会計 I

山川勝

### 【授業の概要】

国際会計基準（国際財務報告基準、IFRS）を中心に日本基準や米国基準のコンバージェンスが加速化してきている。このような背景の中で、国際会計基準が日本基準に与える影響等について、各自の報告と理解に対応しながら講義を行う。必要な範囲で国際会計基準の条文自体も取り上げるほか、実際の財務諸表について各基準の比較を行うことにより、現在の差異の理解を明確にさせる。

### 【授業の目標】

日本の会計基準設定主体である企業会計基準委員会は、2011年までに日本基準とIFRSとの間の差異を解消することを宣言した。このような背景の下で、世界的な会計基準のコンバージェンスの現状を理解するとともに、日本基準と世界基準の乖離の解消のための今後の日本基準における動向のキャッチアップを図る。

### 【授業計画】

- (1) IFRSと日本基準或いは米国基準とのコンバージェンスの経緯
- (2) 2005年7月にCESR（欧州証券規制当局委員会）が行った同等性評価の中で指摘された日本基準とIFRSの間の重要な差異についての内容分析とその後の対応
- (3) IFRSのフレームワークをはじめ、IFRSの主要な原文購読
- (4) 各基準（IFRS、日本基準、米国基準）により作成された財務諸表の比較
- (5) 今後の日本基準改訂の動向

### 【評価方法】

筆記試験により評価する。

### 【テキスト】

テキストとしては特に指定しない。しかし、「監査小六法 日本公認会計士協会編 中央経済社」（公認会計士が常時使用している日本の会計及び監査の資料集）の購入を求め、使いこなせるように指導する。

### 【参考文献・資料】

IFRSの設定主体である国際会計基準審議会(IASB)のホームページ、米国会計基準の設定主体である米国財務会計基準審議会(FASB)のホームページ、日本の代表的な有力企業の海外向けに開示された財務情報の事例（アニュアルレポート）等をケース・スタディとして使用する。

## 国際会計 II

山川勝

### 【授業の概要】

国際会計 I に引き続き、国際会計基準(国際財務報告基準、IFRS)のなかで関心があるテーマを取り上げ、会計処理及び財務諸表での開示について、各自の報告と理解に対応しながら講義する。必要な範囲でテーマに関する国際会計基準の条文の原文の読解を重点に置き、適切な議論のプロセスを導けるようになることを目的とする。

### 【授業の目標】

日本基準とIFRS又は米国基準との差異を明確にし、取りあげたテーマに関して職業的専門家としての会計的議論ができるようにすること。また、日本の上場会社で2008年度から強制適用される内部統制報告書に関してもテーマとして取りあげる。さらに、公認会計士として求められる職業的専門家としての資質についても言及する。

### 【授業計画】

- ・ 議論を通してIFRSや米国基準の理解を深めると同時に、あるべき日本基準はいかなるものかを検討する。
- ・ 取りあげる予定の具体的な主なテーマは以下のとおり。
  - (1) 財務諸表の開示
  - (2) 包括利益概念
  - (3) 収益認識基準
  - (4) 減損会計
  - (5) 金融商品会計－特に、ヘッジ会計の適用について
  - (6) 企業結合会計－特に、のれん（Goodwill）について
  - (7) 連結範囲
  - (8) 内部統制報告書に関して

### 【評価方法】

筆記試験により評価する。

### 【テキスト】

テキストとしては特に指定しない。しかし、「監査小六法 日本公認会計士協会編 中央経済社」（公認会計士が常時使用している日本の会計及び監査の資料集）の購入を求め、使いこなせるように指導する。

### 【参考文献・資料】

IFRSの設定主体である国際会計基準審議会(IASB)のホームページ、米国会計基準の設定主体である米国財務会計基準審議会(FASB)のホームページ、日本の会計基準の設定主体である企業会計基準委員会(ASBJ)のホームページ。

## 公会計 I

中村雅文

### 【授業の概要】

公会計の基本的な考え方や基礎的諸概念を理解し、さらに公会計に係る会計制度や監査制度について現状を認識し、もって企業会計制度との違いを通じて今日の公会計の意義や課せられた課題を検討する。さらに公会計の発展過程にふれながらその適用領域についても考察する。

### 【授業の目標】

公会計の概念を理解し、公会計の現状を知り、企業会計との違いを把握する。また、この授業では、国や地方自治体の会計だけではなく、その周辺にある公益法人会計等についても研究のテーマとする。

### 【授業計画】

1. 公会計の意義と目的
2. 公会計の領域
3. 公会計の仕組
4. 公会計の勘定体系
5. 公会計と企業会計
6. 公益法人会計等

### 【評価方法】

筆記試験により評価する。

### 【テキスト】

最初の講義で指示する。

### 【参考文献・資料】

最初の講義で指示する。

## 原価計算 I

三浦克人

### 【授業の概要】

実践規範である「原価計算基準」に示された原価計算制度を中心に教授する。具体的には、原価計算の目的、原価の諸概念、費目別計算、部門別計算、個別原価計算、総合原価計算、標準原価計算、直接原価計算などをカバーする。また、財務会計機構と原価計算制度の有機的な結びつきについても整理する。

### 【授業の目標】

原価計算制度の基礎から応用までを修得する。

### 【授業計画】

1. 原価計算総説
2. 個別原価計算の基礎と応用
3. 総合原価計算の基礎と応用
4. 標準原価計算の基礎と応用
5. 直接原価計算の基礎と応用
6. まとめ

### 【評価方法】

筆記試験により評価する。

### 【テキスト】

最初の授業で指示する。

### 【参考文献・資料】

適宜指示する。

## 公会計 II

中村雅文

### 【授業の概要】

公会計に係る会計制度や監査制度について、その現状を理解・検討することを通じ、公会計の今後を探る。特に今日、公会計改革がいろいろな方面で叫ばれていることを踏まえ、公会計改革の必要性と今後の方向性を理解し、国や地方自治体等が取り組むさまざまな行政手法の改革に、会計・監査はいかにかかわることができるかを考察する。

### 【授業の目標】

公会計 I での学習を基礎として、現在の公会計を取り巻く環境を研究する。企業会計とどこが異なっているのか、それは何故か、歩み寄る必要性はないのか、等について考察するとともに公会計の現状と今後についても勉強する。さらに地方自治体の外部監査や行政評価制度についても研究する。

### 【授業計画】

1. 財政制度の概要
2. 一般会計と特別会計
3. 包括外部監査制度
4. 行政評価制度・指定管理者制度
5. 公会計改革の現状
6. 公会計原則の概要
7. 公会計改革の方向性

### 【評価方法】

筆記試験により評価する。

### 【テキスト】

最初の講義で指示する。

### 【参考文献・資料】

最初の講義で指示する。

## 原価計算 II

三浦克人

### 【授業の概要】

原価計算の新しい分野であるABC/ABM、原価企画、品質原価計算、ライフサイクルコストリングなどについて、90年代初頭から現在にいたるまでの進化を概観しながら、経営管理との関連を視野に入れて議論する。さらに、内外の学術論文を参照し、原価計算研究の最新の動向についても検討する。

### 【授業の目標】

原価計算制度の知識と技能をベースとしながら、制度の枠外にある、さまざまな原価計算・原価管理の技法を修得する。

### 【授業計画】

1. 活動基準原価計算
2. 原価企画
3. 品質原価計算
4. ライフサイクルコストリング
5. 原価計算の最新動向
6. まとめ

### 【評価方法】

筆記試験により評価する。

### 【テキスト】

適宜指示する。

### 【参考文献・資料】

適宜指示する。



## 管理会計 I

吉村文雄

### 【授業の概要】

企業内外の環境、すなわち外部の市場取引だけでなく、内部の資源配分プロセスの観点から、管理会計の基礎概念を検討し、発展した業績測定システム（たとえば、ABC、ABB、無形資産の測定等）との関係を把握します。とくに、理論と実践との相互作用関係の枠組みをつかみ、この相互作用関係を検討します。

### 【授業の目標】

管理会計の理論と実践の相互作用関係を把握できるようにします。個別具体的な管理会計技法のモデルをつかみ、それが実際にどのように利用されるのかをガバナンスの視点とつなげて考察します。

### 【授業計画】

管理会計の理論と実務の相互関係を理解します。  
第1部では、現存する管理会計の基礎概念を検討します。  
第2部では、最新の管理会計技法の形態を認識し、その特徴を明らかにします。  
第3部では、これまでの管理会計技法が最新の包括的な測定システムのなかで、どのように有効活用されるのかを検討します。

### 【評価方法】

筆記試験により評価する。

### 【テキスト】

吉村文雄『組織の会計論』（森山書店）を中心に、適宜プリントを使います。

### 【参考文献・資料】

授業中に適宜指示します。

## 管理会計 II

吉村文雄

### 【授業の概要】

管理会計の機能形態としての組織コントロール（組織のフィードフォワード・コントロールおよびフィードバック・コントロール）を意思決定・業績評価のプロセスと結びつけるシステムの基本形と展開を検討するとともに、それらの機能形態を代表する管理会計技法を示すことによって管理会計の特徴を明らかにする。最後に包括的管理会計システムの課題を検討します。

### 【授業の目標】

管理会計の理論と実務の相互作用関係を理解できるようにします。管理会計の制度的枠組みをつかみ、それが管理会計システムをとおしてどのように人間の相互作用のなかに浸透していくのかを考察します。

### 【授業計画】

管理会計技法の手段的特性と貢献的機能の性格を理解します。  
第1部では、管理会計システムの貢献的機能を組織コントロールと意思決定・業績評価の二側面に分ける根拠を解説します。  
第2部では、戦略と閉ループ・コントロール・システムとの関連枠組みに意思決定・業績評価のプロセスがどのように組み込まれるのかを明らかにします。  
第3部では、利益管理および戦略管理のための管理会計システム（原価企画、ABC、ABB、BSC等）の有効活用法を検討します。

### 【評価方法】

筆記試験により評価する。

### 【テキスト】

吉村文雄『組織の会計論』（森山書店）を中心に、適宜プリントを使います。

### 【参考文献・資料】

授業中に適宜指示します。

## 管理会計事例研究 I

吉村文雄

### 【授業の概要】

管理会計システムおよびそれを構成する管理会計諸技法の機能・性能を把握し、経営管理活動との相互作用関係を具体的に理解します。その場合事例研究の必要性、事例研究のアプローチ、諸外国とわが国の事例研究の比較分析等の考察を通じて事例研究の考え方や有効性について論じます。

### 【授業の目標】

管理会計の理論と実務の相互作用関係が理解できるようにします。管理会計の制度的枠組みとその生産・再生産の運動との関係をつかめるようにします。

### 【授業計画】

管理会計システムがどのように経営管理活動を構成するのかを具体的に理解します。  
第1部では、事例研究のアプローチ、事例研究の実施法等を論じ、事例研究の基礎を理解します。  
第2部では、事例研究の業績を分析・評価し、事例研究の展開を把握します。  
第3部では、事例研究の成果を諸外国とわが国の事例研究の比較分析等を通じて把握します。

### 【評価方法】

筆記試験により評価する。

### 【テキスト】

吉村文雄『組織の会計論』（森山書店）を中心に進めますが、各種の事例に関するプリントも配布します。

### 【参考文献・資料】

授業中に適宜指示します。

## 管理会計事例研究 II

吉村文雄

### 【授業の概要】

管理会計システムの有効活用法の理解を深めるために、管理会計諸技法の導入事例を通じて管理会計諸技法の実践的応用について論じます。その場合、ABC、ABB、BSC、EVA、財務分析等、具体的事例を通じて管理会計諸技法の限界と意義について論じます。

### 【授業の目標】

管理会計の理論と実践の相互作用関係を事例研究を通じて理解します。工場見学により現場の管理者との交流を通じて具体的な実践事例をつかみます。

### 【授業計画】

管理会計システムの限界と意義を明らかにします。  
第1部では、諸外国の事例研究を取り上げ、事例研究の成果と問題点を明らかにします。  
第2部では、わが国の事例研究を取り上げ、最新の管理会計諸技法の役割を具体的に把握します。  
第3部では、諸外国とわが国の管理会計システムの適用例の把握を通じて、管理会計システムの限界と効用、さらに展開方向を検討します。

### 【評価方法】

筆記試験により評価する。

### 【テキスト】

吉村文雄『組織の会計論』（森山書店）を中心に進めますが、各種の事例に関するプリントも配布します。

### 【参考文献・資料】

授業中に適宜指示します。

## 意思決定会計

三浦克人

### 【授業の概要】

経営者の意思決定に役立つ管理会計情報を扱う。まず、伝統的な分野であるCVP分析、特殊原価調査、設備投資の経済性計算などを教授する。加えて、経営管理論、経営財務論などの隣接科学の要素を取り入れながら、経営意思決定と管理会計情報の関連を多面的に論じる。

### 【授業の目標】

経営意思決定に有用な会計情報の作成方法と分析方法を修得する。

### 【授業計画】

1. 意思決定会計概論
2. CVP分析
3. 特殊原価調査
4. 設備投資の経済性計算
5. 隣接科学と意思決定会計
6. まとめ

### 【評価方法】

筆記試験により評価する。

### 【テキスト】

適宜指示する。

### 【参考文献・資料】

適宜指示する。

## 会計職業倫理

佐藤滝彦

### 【授業の概要】

経済社会のインフラである会計監査を担う公認会計士には、高い職業的価値観と高度な倫理観が求められている。特にアメリカにおけるエンロン事件以降、会計職業倫理についての重要性が再認識され、その早期の取り組みは重要な課題となっている。会計職業倫理についての理解は、会計監査を行う公認会計士だけでなく、会計に携わるすべての人びとがもっていることが望ましい。この講義では、どのような行為が会計職業倫理に反するのか、どのようにすれば会計職業倫理を保持できるのかを検討し、会計職業倫理に対する認識を深める。

### 【授業の目標】

貯蓄から投資が叫ばれる中、証券市場の重要性が増大している。投資が円滑になされるためには、証券市場が信頼性のあるものでなければならず、その担い手たる公認会計士にも当然のことながら厳格な倫理規程が要求される。公認会計士が依拠しなければならない倫理規定を学ぶとともに、なぜ倫理規定が必要なのか理解を深める。

### 【授業計画】

- ・ 監査一般基準と職業倫理
- ・ 品質管理基準
- ・ 「公認会計士法」と職業倫理
- ・ 不正及び誤謬・違法行為と監査人の責任
- ・ 日本公認会計士協会「倫理規則」の制定の経緯

### 【評価方法】

筆記試験により評価する。

## 戦略会計

三浦克人

### 【授業の概要】

近年注目をあびている企業価値創造経営に関連するトピックスを中心に検討する。企業価値、事業価値および経済的利益の計算技法を習得したのち、それらの指標とマネジメントシステムとのかかわりについて議論する。また、経営戦略をサポートする管理会計組織とスタッフの役割についても検討する。

### 【授業の目標】

企業価値創造経営を支えるマネジメントシステムの最新トレンドを理解する。

### 【授業計画】

1. 価値創造経営概論
2. 会計上の利益と経済的利益
3. 企業価値・事業価値の測定
4. 経営指標とマネジメントシステム
5. 管理会計組織とスタッフの役割
6. まとめ

### 【評価方法】

筆記試験により評価する。

### 【テキスト】

適宜指示する。

### 【参考文献・資料】

適宜指示する。

## 会計監査 I

前川三喜男

### 【授業の概要】

我が国の監査制度と、金融証券取引法に基づく監査実務について、監査基準を理解するとともに監査計画、監査リスク、内部統制の評価について監査手続等を具体的に解説する。

### 【授業の目標】

自由経済社会における証券市場の役割と、公認会計士監査の必要性を理解する。

### 【授業計画】

- 1～3 我が国の監査制度について
- 4～7 監査基準（一般基準、実施基準、報告基準）の理解
- 8～12 監査リスク、監査計画、内部統制の評価
- 13～15 内部監査制度、監査役監査

### 【評価方法】

筆記試験により評価する。

## 会計監査 II

前川三喜男

### 【授業の概要】

金融証券取引法に基づく監査業務について、監査手法、監査調書、後発事象、継続企業の前提、監査意見の形成に至る過程を理解する。

### 【授業の目標】

自由経済社会における証券市場の役割と、公認会計士監査の必要性を理解する。

### 【授業計画】

- 1～3 監査年度、中間監査、期末監査
- 4～10 監査調書、試査、不正及び誤謬、違法行為、分析的手続、実査、立会、確認
- 11～15 後発事象、関連当事者、継続企業の前提、監査意見の形成

### 【評価方法】

筆記試験により評価する。

## 内部監査 I

友杉芳正

### 【授業の概要】

社会的公正性の達成を支援する監査が、コーポレート・ガバナンスの実現と企業監視機構のあり方に極めて重要であるため、企業経営において、戦略的経営活動の適法性と妥当性を求める中で、内部監査が経済性、効率性、効果性を追求する必要性を論じる。

### 【授業の目標】

企業経営における有用な用具である内部監査の理解を深めることを目標とする。

### 【授業計画】

- 1) コーポレート・ガバナンス
- 2) 内部監査の定義
- 3) 外部監査と内部監査の区分
- 4) 公認会計士監査と会計監査人監査
- 5) 監査役(会)監査
- 6) 監査委員会監査
- 7) 取締役会監査
- 8) 日本内部監査協会
- 9) アメリカ内部監査人協会
- 10) 内部監査基準
- 11) 内部牽制と内部監査
- 12) 内部統制システムの構築
- 13) 企業不祥事と内部監査
- 14) 会計参与の役割
- 15) 会社法との関係

### 【評価方法】

筆記試験により評価する。

### 【テキスト】

開講時に指示する。

### 【参考文献・資料】

開講時に指示する。

## 内部監査 II

友杉芳正

### 【授業の概要】

健全な企業社会形成を担う内部監査が、企業価値創造を果たす経営管理手段として不可欠な評価用具と認識されている点を理解するため、内部監査の機能が会計、業務、経営の各種情報の信頼性の保証を果たし、システムの合理的評価を行うことを論じる。

### 【授業の目標】

企業経営における有用な用具である内部監査の理解を深めることを目標とする。

### 【授業計画】

- 1) 現代内部監査の動向
- 2) リスク・マネジメントと内部監査
- 3) 内部統制の有効性の評価
- 4) 不正・誤謬・違法行為への対応
- 5) 内部監査規程と内部監査計画
- 6) 内部監査部門と内部監査人
- 7) 内部監査のアウト・ソーシング
- 8) 内部監査の実施形態
- 9) 内部監査証拠の収集
- 10) 内部監査報告書
- 11) 担当者へのフォローアップ
- 12) 内部監査の品質保証
- 13) 内部監査の国際化
- 14) 組織制度監査の合理性
- 15) 内部監査の方向性

### 【評価方法】

筆記試験により評価する。

### 【テキスト】

開講時に指示する。

### 【参考文献・資料】

開講時に指示する。

## システム監査 I

浦山章二

### 【授業の概要】

システム監査は情報システムの信頼性、安全性、効率性の向上を図り、情報化社会の健全化に資するため、情報システムを総合的に点検・評価し、その改善を助言・勧告するものであると定義されている。この授業では、社会基盤として重要性の高い情報システムを監査するための、システム監査の理論と実践について学習する。

### 【授業の目標】

情報社会への変革により、個人生活や企業活動に対する情報システムの影響が著しく増大している。一方、情報システムは人間が作って、利用するものであり、常に多くのリスクにさらされている。情報システムのトラブルによるインパクトは非常に大きくなっており、システム監査の必要性は高まっている。

この授業ではシステム監査の役割や実施手続きなどシステム監査にかかわる基礎知識の理解を目標とする。

### 【授業計画】

- 情報システム監査
- 1 情報技術の発展
  - 2 情報システムの評価と監査
  - 3 情報資源管理
  - 4 ネットワーク環境の情報管理
  - 5 情報リスクの管理
  - 6 情報セキュリティー対策
  - 7 システム監査の基礎
  - 8 システム監査の計画・実施・報告

### 【評価方法】

筆記試験と授業への取り組みで評価する。

### 【テキスト】

情報システム監査(学陽書房)

### 【参考文献・資料】

システム監査基準/システム管理基準

## システム監査 II

浦山章二

## 【授業の概要】

システム監査Iに引き続き、情報システムの信頼性、安全性、効率性の向上を図るために必要なシステム監査について、理論的な側面から学習するとともに実践上の問題点などについても検討する。後期においては特にシステム監査の実践方法に重点を置いて講義を実施する。

## 【授業の目標】

情報社会への変革により、個人生活や企業活動に対する情報システムの影響が著しく増大している。一方、情報システムは人間が作って、利用するものであり、常に多くのリスクにさらされている。情報システムのトラブルによるインパクトは非常に大きくなっており、システム監査の必要性は高まっている。

この授業ではシステム監査の役割や実施手続きなどシステム監査にかかわる基礎知識の理解を目標とする。

## 【授業計画】

情報システム監査

- 1 企画開発業務のシステム監査
- 2 運用保守業務のシステム監査
- 3 IT投資評価
- 4 個人情報の管理
- 5 内部統制とシステム監査
- 6 自治体の情報セキュリティ監査
- 7 システム監査の現在と将来

## 【評価方法】

筆記試験と授業への取り組みで評価する。

## 【テキスト】

情報システム監査

## 【参考文献・資料】

システム監査基準/システム管理基準

## 監査事例研究 II

浦山章二

## 【授業の概要】

監査事例研究 I に引き続き、監査の具体的事例を通じて、監査の目的や監査制度の意義についての理解を深め、監査の現場で生じている問題やその解決方法などについて学習し、今日の監査制度がかかえる問題点を検討する。

## 【授業の目標】

エンロン事件、カネボウ事件やライブドア事件などで監査のあり方が社会的に問題になっている。監査制度は経済社会の基盤であり、その重要性は高い。

監査論をいくら勉強しても、実務を経験しなければ監査はできない。社会的制度としての監査の意義と役割を理解するとともに、監査の現場で行われていることや、問題になっていることを学び、監査制度そのものや、監査実務上の問題点を理解することがこの授業の目標である。

## 【授業計画】

- 1 会計監査の進め方 (1) ーリスク・アプローチ
- 2 会計監査の進め方 (2) ー監査計画
- 3 会計監査の進め方 (3) ーリスク評価
- 4 監査の終了までー監査意見と監査報告書
- 5 事例研究

## 【評価方法】

筆記試験と授業への取り組みで評価する。

## 【テキスト】

監査演習

## 監査事例研究 I

浦山章二

## 【授業の概要】

複雑化する現代社会において、公認会計士による監査はその社会的役割と重要性が強く認識されるようになった。

監査の具体的事例を通じて、監査の目的や監査制度の意義についての理解を深め、監査の現場で生じている問題やその解決方法などについて学習し、今日の監査制度がかかえる問題点を検討する。

## 【授業の目標】

エンロン事件、カネボウ事件やライブドア事件などで監査のあり方が社会的に問題になっている。監査制度は経済社会の基盤であり、その重要性は高い。

監査論をいくら勉強しても、実務を経験しなければ監査はできない。社会的制度としての監査の意義と役割を理解するとともに、監査の現場で行われていることや、問題になっていることを学び、監査制度そのものや、監査実務上の問題点を理解することがこの授業の目標である。

## 【授業計画】

- 1 会計監査とその基本的役割および現代的機能
- 2 証券取引法に基づく会計監査制度
- 3 会社法に基づく会計監査制度
- 4 職業監査と監査基準ならびに職業倫理
- 5 事例研究

## 【評価方法】

筆記試験と授業への取り組みで評価する。

## 【テキスト】

監査演習

## 民法 I

石畔重次

## 【授業の概要】

現代の法化社会においては法との関わりなしに企業活動を維持していくことはできない。私人間の法律関係を規律する私法の中で、最も基本的かつ重要な法が民法である。会社法等の企業活動に関する諸法を学ぶためにも、民法で私法の基礎概念を学ぶことが必須の前提となる。前期の本講義では、民法のうち、法律行為や代理等に関する総論、債権の効力や債務不履行に関する債権総論、並びに、売買、贈与、賃貸借、使用貸借、消費貸借、請負、委任等の債権各論について研究する。

## 【授業の目標】

会計専門職に必要な民法及び関連法規に関する基礎的な知識及び法的な思考能力の涵養を目標とする。

## 【授業計画】

1. 民法の基本原則
2. 民法総論  
意思表示と法律行為  
行為能力と制限能力者の保護  
意思表示の諸問題  
代理  
無効と取消  
時効  
法人
3. 契約法  
契約の成立と効力  
債務不履行と契約の解除  
契約各論 (売買、贈与、賃貸借、使用貸借、消費貸借、請負、委任等)
4. 債権総論  
債権の種類  
債務不履行  
債権者代位権と許害行為取消権  
連帯債務と保証  
債権譲渡  
債権の消滅 (弁済と相殺)

## 【評価方法】

レポートの提出または授業での状況によって評価する。

## 【テキスト】

民法への招待 (池田真朗著 税務経理協会)

## 【参考文献・資料】

ゼミナール民法入門 (道垣内弘人著 日本経済新聞社)



## 民法 II

石畔重次

## 【授業の概要】

後期の本講義では、民法のうち、所有権、用益物権、占有権等に関する物権法、抵当権、質権、留置権、先取特権、非典型担保等に関する担保物権法、さらに、損害賠償に関する不法行為を研究し、さらに、親族法、相続法に関しても必要な範囲で基礎的な知識を習得する。

## 【授業の目標】

会計専門職に必要な民法及び関連法規に関する基礎的な知識及び法的な思考能力の涵養を目標とする。

## 【授業計画】

1. 物権法
  - 物権の種類
  - 物権的請求権
  - 物権変動と対抗要件
  - 所有権、用益物権、占有権
2. 担保物権
  - 抵当権、質権、留置権、先取特権、非典型担保
3. 不法行為
  - 不法行為の成立要件
  - 不法行為の効果（損害賠償と過失相殺）
  - 特殊の不法行為（使用者責任、共同不法行為など）
  - 不法行為に関する特別法（自賠法、製造物責任法など）
4. 事務管理と不当利得
5. 親族法
6. 相続法
  - 相続と遺言

## 【評価方法】

レポートの提出または授業での状況によって評価する。

## 【テキスト】

民法への招待（池田真朗著 税務経理協会）

## 【参考文献・資料】

ゼミナール民法入門（道垣内弘人著 日本経済新聞社）

081168503\_0350 掲載順 :0350

MASTER ▲

## 会社法 II

上田純子

## 【授業の概要】

この講義では、会社法Iの講義において考察したわが国の会社法の制度枠組みを前提に、外国の類似法制との比較を試みる。地域的には、ヨーロッパないしアメリカ合衆国の会社法制が中心となる。外国の法枠組みを原語の文献から学び、わが国の会社法との比較を通じて、今後のわが国の会社法の制度枠組みへの提言や新たな解釈指針を導き出すことにより、外国の法制を知るのみならずわが国の会社法に関する理解をさらに深めることが期待される。

## 【授業の目標】

この講義は、会社法Iの応用的講義と位置づけられる。したがって、わが国の会社法に関する基本的な制度枠組みについては受講生が既習であることを前提に講義を進める。できれば、原語（多くは英語）の文献を多数読みこなし、わが国の会社法に相当する制度をピック・アップし、その類似点・相違点の単純比較のみならず、それぞれの制度が導入されているその国（ないし地域）固有の事情にまで思いをめぐらせたい。そのうえで、わが国よりすぐれていると思われる制度を抽出し、わが国の会社法制度設計に対する提言を試みることを最終目標とする。

## 【授業計画】

- （1テーマについて2～3週）
- ・ヨーロッパにおける会社法制の形成と発展（総論）
  - ・EU（欧州連合）会社法
  - ・イギリス会社法
  - ・ドイツ会社法
  - ・フランス会社法
  - ・その他EU構成国の会社法
  - ・アメリカ合衆国における会社法制の形成と発展（総論）
  - ・州会社法とモデル・アクト

## 【評価方法】

講義への出席状況、授業態度、授業中に割り当てられる口頭報告や期末レポートの内容等を総合的に判断して評価する。

## 【テキスト】

受講生と協議のうえ、決定する。

## 【参考文献・資料】

必要に応じて授業中に指示・配布する。最近では外国の公的機関が発行した立法資料等の多くがWebsiteを通じて入手できるので、できるだけそれらを活用されたい。有用なWebsite情報についても授業中に提供する。

## 会社法 I

上田純子

## 【授業の概要】

この講義では、会社法について、従来の商法の規定と細部まで照らし合わせつつ、理解を深める。とりわけ、従来の商法からの制度変更点を把握し、その趣旨を正しく掴むことに努める。また、応用的学習として、解釈上の変更点や新たな解釈上・立法上の問題点を探る。その方法として、会社法に関し、主として学術的観点から個別の論点を深く掘り下げた文献を取り上げ、それらを読みこなしながら、緻密な論理的思考を重ねる。

## 【授業の目標】

会社法の全体的枠組みを掴むとともに、細部の論点を掘り下げることを目標とする。新たに加わった制度、相当に改変された制度、あるいは、廃止された制度、それぞれの理由を考え、会社法が従来の法制度をどこまで改善したかの評価を、理論的側面と実務的側面の双方から加える。学術文献の読破が中心となるが、会社法の実務へのインパクトも併せて考察したい。

## 【授業計画】

- ・会社法の制定に至る経緯、会社法の枠組み
- ・会社の種類・比較
- ・株式会社の設立
- ・資金調達
- ・株主の権利
- ・株式
- ・株式会社の機関総論
- ・株主総会
- ・取締役・取締役会
- ・会計参与・監査役・会計監査人
- ・計算
- ・組織変更・組織再編

## 【評価方法】

講義への出席状況、授業態度、授業中に割り当てられる口頭報告や期末レポートの内容等を総合的に判断して決定する。

## 【テキスト】

受講生と相談のうえ、後日決定する。

## 【参考文献・資料】

必要に応じて授業中に指示または配布する。

081168503\_0360 掲載順 :0360

MASTER ▲

## 民法事例研究 I

石畔重次

## 【授業の概要】

具体的なケースや判例を教材にして、法律行為、代理等の民法総則に関する問題、及び、売買を始めとする各種の契約、債務不履行、保証等の債権総論について学習する。そのさい、民法の枠にとどまらず、企業活動に必要な会社法、倒産法、労働法などの知識も幅広く修得し、社会人としての法的な諸問題に対処しうる基礎知識を習得することを目的とする。

## 【授業の目標】

事例を検討することによって、会計専門職に必要な民法を中心とする基礎的な法的知識及び法的な思考能力を涵養することを目標とする。

## 【授業計画】

1. 私的自治の原則と契約
  - 契約が法によって制約を受けるのはどのような場合か。
2. 意思表示と法律行為
  - 錯誤等により契約が無効・取消しになるのはどのような場合か。
3. 契約と代理
  - 表見代理によって本人の責任が認められるのはどのような場合か。
4. 売買契約と瑕疵担保
  - 売主の瑕疵担保が問題となるのはどのような場合か。
5. 賃貸借契約
  - 賃借人は借地借家法によりどの程度まで保護されるのか。
6. 委任契約
  - 会社役員が責任が認められるのはどのような場合か。
7. 契約と消費者保護
  - 消費者が消費者契約法によって保護されるのはどのような場合か。
8. 契約の締結交渉
  - 契約の締結交渉において、当事者間にどのような法律関係が発生するか。
9. 債務不履行と損害賠償
  - 債権者はどのような損害賠償を請求できるか。
10. 債権者代位権と詐害行為取消権
  - 債権保全策として有効なのはどのような場合か。
11. 保証
  - 保証人の責任はどこまで及ぶか。
12. 債権譲渡
  - 債権譲渡を第三者に対抗しうる要件は何か。
13. 債権の消滅
  - 相殺が担保的効力を発揮できるのは、どのような場合か。

## 【評価方法】

レポートの提出または授業での状況によって評価する。

## 【テキスト】

授業にて明示する。

## 【参考文献・資料】

授業にて明示する。



## 民法事例研究 II

石畔重次

### 【授業の概要】

具体的なケースや判例を教材にして、所有権、占有権、用益権等の物権、抵当権等の担保物権、不法行為、相続等を中心に研究し、さらに、担保の設定、債権回収、紛争解決のための法的手続など、企業活動において必要となる法的問題を検討する。企業の内部統制、企業倫理などの企業責任に関する法についても基礎的知識を習得する。

### 【授業の目標】

事例を検討することによって、会計専門職に必要な民法を中心とする基礎的な法的知識及び法的な思考能力を涵養することを目標とする。

### 【授業計画】

1. 物権変動と対抗要件  
不動産の売買契約において、第三者との関係で対抗要件が問題となるのはどのようなケースか。
2. 抵当権  
抵当権が有効に機能するのはどのような場合か。
3. 非典型担保  
仮登記担保、譲渡担保、所有権留保が有効に機能するのはどのような場合か。
4. その他の担保  
債権者が債権保全のために活用できる担保には、どのようなものがあるか。
5. 債権の回収  
取引先が倒産した場合の債権者としてとりうる有効な対処方法は何か。
6. 労働  
会社が従業員を解雇できるのはどのような場合か。
7. 不法行為  
従業員の不法行為について会社が使用者責任を負うのはどのような場合か。
8. 会社の内部統制  
会社の内部統制システム。会社が公益通報を受けた場合の対処方法と法律問題。
9. 相続  
中小会社の経営者の相続において、どのような法律問題が発生するか。
10. 紛争の解決  
訴訟、調停、裁判外紛争解決手続（ADR）、示談…紛争が発生した場合、最適な解決方法は何か。

### 【評価方法】

レポートの提出または授業での状況によって評価する。

### 【テキスト】

授業にて明示する。

### 【参考文献・資料】

授業にて明示する。

## 会社法事例研究 I

藤田修輔

### 【授業の概要】

会社法に関する文献・設例・判例を素材とし、制度内容の理解を図り、論点抽出能力・柔軟な思考力・批判的分析的検討能力を涵養することをねらいとする。

### 【授業の目標】

商事法の知識を身につけることは最低限必要であるが、それよりむしろ個別の事案において法的にどのような考え方をしておくべきかを個別事案の分析を通じて身につける。

### 【授業計画】

- (1) 取締役
- (2) 監査役
- (3) 設立
- (4) 株式

### 【評価方法】

授業にて明示する。

## 会社法事例研究 II

藤田修輔

### 【授業の概要】

会社法に関する文献・設例・判例を検討しつつ、制度の理解を図り、論点抽出能力・柔軟な法的思考能力・批判的分析的的能力を涵養することをねらいとする。

### 【授業の目標】

商事法の知識を身につけることは最低限必要であるが、それよりむしろ個別の事案において法的にどのような考え方をしておくべきかを個別事案の分析を通じて身につける。

### 【授業計画】

- (1) 取締役・取締役会
- (2) 会社の業務執行
- (3) 取締役・執行役の義務と責任
- (4) 組織再編

### 【評価方法】

授業にて明示する。

## 租税法 I

糟谷修

### 【授業の概要】

租税法の基本的な考え方がどのようなものであるのかを理解し、租税制度の体系や基本原則などを習得する。そのために、まず現行のわが国の租税法系がどのようなものであるかを概観する。その後、主要な国税について、課税対象、納税義務者、税率、納税手続きなどの概要を把握し、現状の租税法が何を規定の対象としているかを学習する。更に、各論点について、実務上の問題点についても言及する。

### 【授業の目標】

- (1) わが国の租税法の基本体系を理解する。
- (2) わが国の租税法のうち、主要な国税についてその基本構造を理解する。

### 【授業計画】

下記の各項目について、それぞれ複数回に分けて考察し、かつ討論する。

- (1) わが国の租税法体系
- (2) 法人税法の概要
- (3) 所得税法の概要
- (4) 消費税法の概要
- (5) 相続税法の概要

### 【評価方法】

授業への出席状況及び学期末試験の成績を総合して評価する予定。

### 【テキスト】

租税法 改訂版（佐藤正勝著 同文館出版）  
図説 日本の税制 平成19年度版（星野次彦編 財経詳報社）

## 租税法 II

糟谷 修

## 【授業の概要】

租税法の基本的な考え方がどのようなものであるかを理解し、租税制度の基本原則などを理解する。税法一般について、租税法主義、法令と通達の関係など具体的な各税法の根底を成す基礎理論を学習する。更に、税務調査の実態や権利救済制度、訴訟制度等実務上必要な知識の修得をはかる。必要に応じて学説、行政解釈、判例にも言及する。

## 【授業の目標】

- (1) わが国の法体系の中における租税法の位置づけを理解する。
- (2) 租税理論の概要について理解し、会計専門家として備えておくべき租税法知識の修得をはかる。

## 【授業計画】

下記の各論点について、それぞれ複数回に分けて考察し、かつ討論する。

- (1) 租税の意義とその性格
- (2) 租税法主義
- (3) 憲法、法律、政省令、通達の関係及び租税法の位置づけ
- (4) 税務執行機関と税務調査の実態、権利救済制度、訴訟制度

## 【評価方法】

授業への出席状況及び学期末試験の成績を総合して評価する予定。

## 【テキスト】

租税法 改訂版 (佐藤正勝著 同文館出版)  
 図説 日本の税制 平成20年度版 (星野次彦編 財経詳報社)  
 (平成20年7月刊行予定。編者は変更する場合あり)

## 法人税法 II

糟谷 修

## 【授業の概要】

法人税法IIに引き続き、法人税の基本的な考え方を学習し、企業会計の考え方との相違点を理解する。法人税法の大部分を成す法人の決算調整及び申告調整の方法を学び、申告書作成のための知識を習得する。また、法律や政省令、通達など法人税の仕組みについても学習する。更に、各論点について、実務上どのような問題が生じ、それに対してどのように解決がなされているのかという点にも重点を置く。

## 【授業の目標】

- (1) 法人税法上の規定のうち、実務上特に問題が生じやすい論点に関する理解を深める。
- (2) 企業の決算報告書からの法人税申告書作成方法一巡を理解する。

## 【授業計画】

下記の各論点について、それぞれ複数回に分けて考察し、かつ討論する。

- (1) 減価償却制度
- (2) 交際費課税制度
- (3) 同族会社をめぐる規定
- (4) 国際取引にかかわる規定
- (5) 公益法人等に対する課税

## 【評価方法】

授業への出席状況及び学期末試験の成績を総合して評価する予定。

## 【テキスト】

法人税法 改訂版 (下村英紀著 同文館出版)  
 図解 法人税 平成20年度版 (井上一夫編 財団法人大蔵財務協会)  
 (平成20年7月刊行予定。編者は変更する場合あり)  
 法人税申告書作成の基礎 改訂版 (右山秀一著 財団法人大蔵財務協会)

## 法人税法 I

糟谷 修

## 【授業の概要】

法人税法の基本的な考え方を学習し、企業会計の考え方との相違点を理解する。そして、法人税法の大部分を成す法人の決算調整及び申告調整の方法を学び、申告書作成のための知識を習得する。また、法律や政省令、通達など法人税の仕組みについても学習する。更に、各論点について、実務上どのような問題が生じ、それに対してどのように解決がなされているのかという点にも重点を置く。

## 【授業の目標】

- (1) 法人税法の基本的事項を把握し、企業会計との違いを理解する。
- (2) 法人税申告書の構造を把握し、申告書作成の基本的手順を理解する。

## 【授業計画】

下記の各論点について、それぞれ複数回に分けて考察し、かつ討論する。

- (1) 法人税の基本事項
- (2) 企業利益と課税所得
- (3) 税額計算、申告、納付
- (4) 益金の額、その原則と例外
- (5) 損金の額、その原則と例外

## 【評価方法】

授業への出席状況及び学期末試験の成績を総合して評価する予定。

## 【テキスト】

法人税法 改訂版 (下村英紀著 同文館出版)  
 図解 法人税 平成19年度版 (井上一夫編 財団法人大蔵財務協会)  
 法人税申告書作成の基礎 改訂版 (右山秀一著 財団法人大蔵財務協会)

## 所得税法 I

森 恒夫

## 【授業の概要】

所得税の基本的な考え方を学習する。具体的には、所得の概念、非課税所得、所得の種類、課税標準、損益通算及び損失の繰越控除、所得控除、税務計算、源泉徴収制度、申告納期及び還付、青色申告、帳簿書類の備付け、保存及び報告書の提出、不服審査と訴訟等について学習する。

## 【授業の目標】

- (1) 所得税の全体構造の理解
- (2) 所得税の基本的計算構造の理解及び実際計算力の養成

## 【授業計画】

- |        |                                 |
|--------|---------------------------------|
| 1～3回   | 所得税法の基礎<br>納税義務者、納税他、所得税法の計算構造等 |
| 4～12回  | 各種所得金額の計算                       |
| 13～15回 | 収入金額の計算                         |

## 【評価方法】

出席状況、討論、レポートなどを総合して評価する。

## 【テキスト】

未定

## 【参考文献・資料】

適宜配布

## 所得税法 II

森 恒夫

### 【授業の概要】

所得税法IIに引き続き、課税標準、損益通算及び損失の繰越控除、所得控除、税額計算、源泉徴収制度、申告納付及び還付、青色申告、帳簿書類の備付け保存及び報告書の提出、不服審査と訴訟等について学習する。

### 【授業の目標】

- (1) 所得税の全体構造の理解
- (2) 所得税の基本的計算構造の理解及び実際計算力の養成

### 【授業計画】

- 1～7回 必要経費の計算
- 8回 収入及び費用の帰属時期の特例
- 9～11回 課税標準、所得控除
- 12～13回 税額計算、所得税の申告
- 14～15回 源泉徴収、不服申し立てと訴訟  
総合問題

### 【評価方法】

出席状況、討論、レポートなどを総合して評価する。

### 【テキスト】

未定

### 【参考文献・資料】

適宜配布

## 経営情報システム特講 I

林 誠

### 【授業の概要】

経営に関連する情報や知識をシステムの視点からアプローチし、経営における情報システムはいかにあるべきかを研究する。まず、「経営戦略ありき」からスタートし、情報システムは企業の経営活動を支援し、補完するツールとして位置づける。当講座では、組織における人間相互の活動と情報システムの相互作用により、あるべき経営活動を探求する。

### 【授業の目標】

企業組織とITの相互関係について、ケースを中心に理解を深める。企業の経営活動を知識創造、ビジネスプロセスを学習プロセスとしてとらえ、多次元構造の新しいビジネスモデルを追求する。

### 【授業計画】

- ・産業と経営の情報化（経営情報システムの定義と構成、情報システムの発展段階、ビジネスプロセスリエンジニアリングと戦略的情報活用）
- ・経営戦略の策定とビジネスモデルの構築（経営戦略策定の手順、経営戦略と組織戦略、バリューチェーン、ビジネスモデル構築の手法、ITCとビジネスモデル）
- ・競争と協調の戦略（ゴミ箱モデルと市場の組織化、戦略的提携、サプライチェーンマネジメント、スマートシンクロナイゼーション）
- ・ケーススタディに基づく研究

### 【評価方法】

授業への出席、課題、ディスカッションへの積極的な参加度などを総合的に評価する。

### 【テキスト】

超企業・組織論（高橋伸夫著 有斐閣）

### 【参考文献・資料】

イノベーションのジレンマ（クリステンセン著 翔泳社）  
イノベーションの解（クリステンセン著 翔泳社）

## 経営学

浅井敬一郎

### 【授業の概要】

経営学の中でもとくに、イノベーションと経営戦略、イノベーションとスキル形成に焦点を当てる。まず、1980年代以降の経営戦略研究、熟練形成研究について概観する。次にバブル崩壊後の日本企業のケーススタディを取り上げ、ケースの分析に基づき、競争優位を獲得するための戦略、スキル形成の今日的あり方について、ディスカッションを行う。

### 【授業の目標】

戦後日本の高度成長を支えてきた製造業の変容について理解し、国際分業のあり方について各々の考えを持つ。

### 【授業計画】

- 1) 経営戦略のツール
- 2) 日本的生産システム
- 3) アーキテクチャー論
- 4) イノベーションとスキル

### 【評価方法】

出席、議論の参加、レポート

### 【テキスト】

別途指示する

### 【参考文献・資料】

別途指示する

## 経営情報システム特講 II

林 誠

### 【授業の概要】

近年のICT（情報通信技術）の進歩は著しく、企業の経営活動にも大きな影響を与えるようになってきている。とくにインターネット技術の発展は経営情報システムの構造のみならず、企業の組織や意思決定プロセスについても大きく変えつつある。当講座では、経営情報システムを個人、グループの階層構造とITと知的創造活動の融合の面から研究する。

### 【授業の目標】

企業組織とITの相互関係について、ケースを中心に理解を深める。企業の経営活動を知識創造、ビジネスプロセスを学習プロセスとしてとらえ、多次元構造の新しいビジネスモデルを追求する。

### 【授業計画】

- ・組織と情報システム（組織のダイナミクス、意思決定と情報、意思決定プロセスとリーダーシップ、情報と問題解決プロセス）
- ・組織階層と情報システム（組織情報システムの目的と構造、グループ情報システム、個人情報システム）
- ・知識創造プロセス（情報と知識の体系、暗黙知と形式知、移動型知識と埋め込み型知識、組織学習、ナレッジマネジメントシステム、eラーニングとナレッジチェーンマネジメント）
- ・ケーススタディによる研究

### 【評価方法】

授業への出席、課題、ディスカッションへの積極的な参加度などを総合的に評価する。

### 【テキスト】

適時指示する。

### 【参考文献・資料】

知識転換の経営学（原田勉著 東洋経済新報社）  
情報経済論（福田豊・須藤修・早見均著 有斐閣）

## 企業倫理

小山巖也

### 【授業の概要】

企業不祥事の頻発を受け、企業倫理の確立が急務の課題となっている。企業倫理学は経営学の一分野である「企業と社会」論との学問的な接近・融合が進み、近年では、企業の社会的責任（CSR）という名のもとに注目を集めている。この科目では、企業倫理が問われるようになってきた背景、企業倫理の基礎理論、「企業と社会」論、ステイクホルダー理論などについて学習する。また、必要に応じて様々な企業の事例を取り上げる。

### 【授業の目標】

- 企業倫理、社会的責任の重要性を認識する
- 多様な企業観の存在を意識する
- 論理的思考を身につける

### 【授業計画】

- 企業倫理の重要性
- 企業倫理の基礎理論  
功利主義と義務論
- 企業倫理と「企業と社会」論  
企業倫理と企業の社会的責任論  
企業倫理と企業の社会的応答性
- ステイクホルダー理論
- 企業倫理の制度化  
コンプライアンス型と価値共有型  
企業倫理の社会的制度化

### 【評価方法】

クラスへの貢献度およびレポートにより評価する。

### 【テキスト】

開講時に指示する。

### 【参考文献・資料】

適宜紹介する

## ファイナンス特講 II

藤井正志

### 【授業の概要】

金融業の情報開示制度、銀行業と証券業をはじめとする業際間の規制、銀行グループの金融コングロマリット化とその検査および監督体制の日米比較を通して、望ましい銀行規制・監督体制および金融システムのあり方について論じる。ファイナンス特講IIにおいては、金融検査・監督体制の日米比較を中心に論じる。

### 【授業の目標】

銀行と事業会社、銀行業と証券業などの業際間の規制問題を中心に議論し、望ましい銀行規制・監督体制および金融システムのあり方についての理解を深める。

### 【授業計画】

- 1 米国における金融監督体制
- 2 金融業のディスクロージャーの日米比較
- 3 金融検査のあるべき姿
- 4 今後の金融監督手法の展望

### 【評価方法】

講義への出席状況、授業態度等を総合的に判断して評価する。

### 【テキスト】

適宜指定する。

### 【参考文献・資料】

適宜指定する。

## ファイナンス特講 I

藤井正志

### 【授業の概要】

金融業の情報開示制度、銀行業と証券業をはじめとする業際間の規制、銀行グループの金融コングロマリット化とその検査および監督体制の日米比較を通して、望ましい銀行規制・監督体制および金融システムのあり方について論じる。ファイナンス特講Iにおいては、銀行と事業会社、銀行業と証券業などの業際間の規制問題を中心に論ずる。

### 【授業の目標】

銀行と事業会社、銀行業と証券業などの業際間の規制問題を中心に議論し、望ましい銀行規制・監督体制および金融システムのあり方についての理解を深める。

### 【授業計画】

- 1 銀行と事業会社の分離・結合について
- 2 業際規制と法律的なバックグラウンド
- 3 業務の内容別に見た規制緩和の流れ
- 4 金融制度改革の日米比較

### 【評価方法】

講義への出席状況、授業態度等を総合的に判断して評価する。

### 【テキスト】

適宜指定する。

### 【参考文献・資料】

適宜指定する。

## 情報倫理特講 I

梅田敏文

### 【授業の概要】

情報倫理は、どのような背景から必要とされる学問なのか、また、現在どのような課題に挑戦しているのか、また今までの研究の経緯や成果はどのようなものがあるかなどを明確にする。

当講義では、英文テキストをベースに、情報倫理が必要とされる背景、功利主義・義務論・徳の倫理学などの倫理理論、情報技術専門家の意義・利害関係者との関係、インターネットに関する倫理問題などを検討する。

### 【授業の目標】

情報倫理の主要課題と内容を理解し、課題解決の今後の方向性を検討する。

### 【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 情報倫理の必要性
3. 倫理の理論的枠組み
4. プロフェッショナル倫理
5. インターネットに関する倫理

### 【評価方法】

出席、課題発表、期末テストで評価する。

### 【テキスト】

Computer Ethics(Johnson, Deborah G. Prentice Hall 2001)



## 情報倫理特講 II

梅田敏文

### 【授業の概要】

情報倫理の分野の主要課題である、プライバシー、所有権などを取り上げ、伝統的なこれらの概念がどのように変化しているのか、また今までの研究の経緯や成果はどのようなものがあるかなどを明確にする。

当講義では、英文テキストをベースに、情報技術の進展によるプライバシーの変化、知的財産権とコンピュータソフトの問題、倫理と責任の問題、社会における情報技術の意義や課題などを論じる。

### 【授業の目標】

情報倫理の主要課題と内容を理解し、課題解決の今後の方向性を検討する。

### 【授業計画】

1. オリエンテーション
2. プライバシー
3. 所有権
4. 責任
5. 情報技術と社会

### 【評価方法】

出席、課題発表、期末テストで評価する。

### 【テキスト】

Computer Ethics (Johnson, Deborah G. Prentice Hall 2001)

## 経営財務 II

三矢幹根

### 【授業の概要】

経営財務IIに引き続き「株主価値重視経営」という文脈に沿いながら、デリバティブを活用してリスクヘッジする手法、企業の合併買収、新しい企業価値の評価法などについて討議、考察する。

### 【授業の目標】

事業戦略を理解するフレームワークを理解した上で、新しい尺度で企業価値を評価できるようにする。

### 【授業計画】

- (1) 資金調達
- (2) 社債ファイナンス
- (3) エクイティファイナンス
- (4) デリバティブによるリスク管理
- (5) 事業戦略の分析
- (6) 企業の合併・買収
- (7) 財務のリストラチャリング
- (8) インセンティブ制度とストックオプション
- (9) 伝統的財務分析とデュボンシステム
- (10) 新しい価値評価尺度：フリーキャッシュフロー
- (11) 新しい価値評価尺度：経済的付加価値EVA①
- (12) 新しい価値評価尺度：経済的付加価値EVA②

### 【評価方法】

出席状況と復習小課題（30%）、学期末試験の結果（70%）で総合評価

### 【テキスト】

経営財務入門 第3版（井出允介、高橋文郎共著、日本経済新聞社）  
必要に応じてプリントを配布

### 【参考文献・資料】

コーポレート・ファイナンス（第8版）上下（リチャード・ブリーリー他、日経BP社）  
エコノミック・プロフィット EVA経営入門（津森信也著、中央経済社）  
株主価値を高める EVA経営（佐藤絃光、飯泉清、齋藤正章共著、中央経済社）

## 経営財務 I

三矢幹根

### 【授業の概要】

日本の公開企業は戦後、効率性や収益性を無視してメインバンクを中心とする銀行借入を主な原資に規模の拡大経営を続けていた。しかし、1990年初頭から始まったバブル崩壊後、銀行は不良債権に呻吟して、間接金融が正常に機能しなくなった。2003年に漸く銀行の不良債権問題に解決の目途が付いたが、その後もわが国の公開企業の資金調達には直接金融に軸足を移しつつある。直接金融における主要な資金の供給者である機関投資家は長い間「ものを言わぬ」株主だったが、今や「ものを言う株主」に変貌してきた。この潮流の変化は「会社は誰のものか」という本来の原理原則に立ち返ろうとする自然な変化であり、経済のグローバル化が進むに連れて、欧米同様日本でも株主価値重視経営が浸透しつつある。このような「株主価値重視経営」という文脈に沿い、経営財務Iでは資産の評価法、リスクの測定法、企業価値の評価法などについて討議、考察する。

### 【授業の目標】

資産や株式の価値評価の基本を修得し、何が企業価値を決定するのかを理解する。

### 【授業計画】

- (1) 資産価値の評価法
- (2) 株式価値の評価法
- (3) リスクの測定法①
- (4) リスクの測定法②
- (5) 資本コストの推定法
- (6) 市場の効率性
- (7) 投資の決定法
- (8) オプション（2項モデル）
- (9) オプション（ブラック・ショールズモデル）
- (10) オプション（リアル・オプション）
- (11) 資本構成と企業価値
- (12) 配当政策と企業価値

### 【評価方法】

出席状況と復習小課題（30%）、学期末試験の結果（70%）で総合評価

### 【テキスト】

経営財務入門 第3版（井出允介、高橋文郎共著、日本経済新聞社）  
必要に応じてプリントを配布

### 【参考文献・資料】

コーポレート・ファイナンス（第8版）上下（リチャード・ブリーリー他、日経BP社）

## リスク管理特講 I

上原 衛

### 【授業の概要】

インターネットを中心とする情報通信ネットワークを活用したeビジネスの進展とともに、現在の情報社会は財務・法務・オペレーションを含めた様々なビジネスリスクや通信ネットワーク上のリスクに晒されており、不正や不祥事などの多くの問題が発生している。本講では、まずコーポレート・ガバナンスやコンプライアンスを包含した内部統制とERM(Enterprise Risk Management:戦略的総合リスク・マネジメント)における統合的な枠組みを理解したうえで、さまざまなビジネスリスクについて具体的な事例を通して概観する。そして、その発生メカニズム、リスクの評価・認識・管理について検討する。特に、金融派生商品（デリバティブ）を利用した会計不正事件や、情報社会におけるネットワーク上のコミュニケーション時のリスクなどの情報社会におけるビジネスリスクに焦点を当てる。

### 【授業の目標】

戦略的総合リスクマネジメント（ERM:Enterprise Risk Management）を概観し、その発生メカニズム、リスクの評価・認識・管理について理解する。特に、ネットワーク上でのコミュニケーション時のリスクと情報社会におけるビジネスリスクに関するリスクマネジメントに関しての理解を深め、専門性を高める。

### 【授業計画】

1. 内部統制、ERM(Enterprise Risk Management:戦略的総合リスク・マネジメント)における統合的な枠組みについて
2. 情報社会におけるビジネスリスク（信用リスク、市場リスク、会計不祥事、レピュテーション・リスク、ネット告発）、システムリスクについて
3. 情報セキュリティ（コンピュータ・ウイルス、不正アクセス・改ざん、暗号化、電子帳票の認証、電子商取引、電子マネー、知的所有権、個人情報保護）について
4. 情報社会におけるリスクの増大について
5. リスク・アセスメント、リスク分析
6. 金融派生商品（デリバティブ）を利用した会計不正事件
7. ネットワーク上でのリスク

### 【評価方法】

講義と討議への積極的参加に加え、研究への取り組み姿勢と理解度を総合的に評価する。

### 【テキスト】

適宜指定する。



## リスク管理特講 II

上原 衛

### 【授業の概要】

インターネットを中心とする情報通信ネットワークを活用したeビジネスの進展とともに、現在の情報社会は財務・法務・オペレーションを含めた様々なビジネスリスクや通信ネットワーク上のリスクに晒されており、不正や不祥事などの多くの問題が発生している。本講では、まずコーポレート・ガバナンスやコンプライアンスを包含した内部統制とERM(Enterprise Risk Management:戦略的総合リスク・マネジメント)における統合的な枠組みを理解したうえで、さまざまなビジネスリスクについて具体的な事例を通して概観する。そして、その発生メカニズム、リスクの評価・認識・管理について検討する。特に、情報社会におけるネットワーク上でのビジネスリスク、電子帳票における信憑性と情報セキュリティに焦点を当てる。

リスク管理に関して、まず、内部統制とERMにおける統合的な枠組みを理解したうえで、具体例をととして、情報セキュリティ管理からビジネスリスク管理に至るまで理解を深めていく。

### 【授業の目標】

内部統制とERM(Enterprise Risk Management)における統合的な枠組みに関する理解を深める。

### 【授業計画】

1. 内部統制、ERM(Enterprise Risk Management:戦略的総合リスク・マネジメント)における統合的な枠組みについて
2. 情報社会におけるビジネスリスク (信用リスク、市場リスク、会計不祥事、レピュテーション・リスク、ネット告発)、システムリスクについて
3. 情報セキュリティ (コンピュータ・ウィルス、不正アクセス・改ざん、暗号化、電子帳票の認証、電子商取引、電子マネー、知的所有権、個人情報保護)
4. 情報社会におけるリスクの増大について
5. ビジネスリスク管理、情報セキュリティ管理
6. 電子帳票における信憑性の確保と暗号化

### 【評価方法】

講義と討議への積極的参加に加え、研究への取り組み姿勢と理解度を総合的に評価する。

### 【テキスト】

適宜指定する。

081168503\_0590 掲載順:0590

MCode:081167501\_0120 ★

## 地域経済特講 II

真田幸光

### 【授業の概要】

国際経済情勢を、政治、外交、文化的視点を含めた形で現状認識すると共に、更に国際金融の支店から見た実態を分析する。こうした考察を経て、ビジネス・スタンダードのあり方、意味などについても考察を加えていく。

### 【授業の目標】

国際経済情勢に関する明確なる現状認識を行ったうえで経済外交戦略を作成していくことができるような能力を養うことを目的とする。

### 【授業計画】

1. ガイダンス
2. プレナンウッズ体制
3. 国際金融の発展経緯
4. プラザ合意
5. アジア通貨危機
6. 最新経済事情 (米国)
7. 最新経済事情 (欧州)
8. 最新経済事情 (北東アジア)
9. 最新経済事情 (中国)
10. 最新経済事情 (東南アジア)
11. 最新経済事情 (中東アフリカ)
12. グローバリゼーション
13. 日本の経済外交戦略
14. 日本企業の国際戦略
15. 総括

### 【評価方法】

授業に於ける実績に基づき評価する。

### 【テキスト】

適宜指示する。

### 【参考文献・資料】

適宜指示する。

## 地域経済特講 I

真田幸光

### 【授業の概要】

アジアを中心とする地域経済の概況を現状認識、その上で、日本の地域経済、日本企業の発展との関連を考察、アジア地域と日本の経済的共存共栄システムを構築する為の研究を行う。

### 【授業の目標】

国際情勢に対する深い関心を持ち、客観的かつ具体的な戦略思考を養うことを目標とする。

### 【授業計画】

1. ガイダンス
2. アジア各国に於ける日本企業のビジネス展開に関する個別研究 (韓国)
3. アジア各国に於ける日本企業のビジネス展開に関する個別研究 (北朝鮮)
4. アジア各国に於ける日本企業のビジネス展開に関する個別研究 (モンゴル)
5. アジア各国に於ける日本企業のビジネス展開に関する個別研究 (中国1)
6. アジア各国に於ける日本企業のビジネス展開に関する個別研究 (中国2)
7. アジア各国に於ける日本企業のビジネス展開に関する個別研究 (台湾・香港・シンガポール)
8. アジア各国に於ける日本企業のビジネス展開に関する個別研究 (フィリピン、タイ、インドネシア、マレーシア)
9. アジア各国に於ける日本企業のビジネス展開に関する個別研究 (ベトナム、カンボジア、ミャンマー)
10. アジア各国に於ける日本企業のビジネス展開に関する個別研究 (インド、パキスタン、スリランカ)
11. アジアビジネスに於ける米国の影響に関する考察
12. アジアビジネスに於ける欧州の影響に関する考察
13. 日本企業のアジアビジネスを支援する政府・地方自治体の政策
14. 日本企業のアジア戦略 (ケーススタディー)
15. 総括

### 【評価方法】

授業時間に於ける実績を評価する。

### 【テキスト】

適宜指示する。

### 【参考文献・資料】

適宜指示する。

## 文化創造総論

川澄未来子 酒井晶代 島田修三  
清水良典 角田達朗 永井聖剛

## 【授業の概要】

主体的かつ創造的な表現に必要な人間性や知的な興行き、そして日本の伝統文化への造詣、また国際交流に必要な異文化理解や現状認識、それに実践的処理能力など、より高度な文化創造への素養や姿勢、加えて人間の感性や理性に働き掛ける心理的・社会的状態など文化創造の根拠について学ぶ。

(オムニバス方式)

(清水教授) 現代日本における多様化しグローバル化した文化状況を現代文学の表現を通して学び、日本固有の文化創造の可能性を考える。

(角田教授) 日本文化の伝統的特質を古典文学の表現を通して学び、日本人が歴史的に培った固有性およびグローバルな普遍性への志向を探る。

(酒井教授) 近現代日本における児童文学の展開を文化史やメディア史の視点から考察し、子どもをとりまく諸状況と文化創造との関わりを探る。

(川澄教授) アニメーションやCGなどの仕組みや具体事例に触れながら、電子メディア表現が持つ創造的特質や可能性について学ぶ。

(永井教授) 都市あるいはメディアという「場」とテキスト生成との関係について分析し、文学が直面する課題について考える。

## 【授業の目標】

文化創造研究科での学習に必要な基本的な素養や姿勢を、各教員の研究内容に応じて修得すること。

## 【授業計画】

- 第1回 近代文学の文体創造について
- 第2回 現代文学の文体創造について
- 第3回 日本古典文学における伝統と文化の意識の発生
- 第4回 日本古典文学における文化的独創性の獲得
- 第5回 文章表現と映像表現
- 第6回 演劇における言語と動作
- 第7回 児童文学概念の発生と展開
- 第8回 近現代のメディアと日本児童文学
- 第9回 錯視現象から映像・アニメのしかけまで
- 第10回 CGのさまざまな応用
- 第11回 文学と都市について
- 第12回 文学とメディアについて

## 【評価方法】

出席点および各教員の講義ごとに1200字のレポートを課し、総合的に評価する

## 【テキスト】

授業中に適宜、プリントを配布する

## 【参考文献・資料】

各講義ごとに授業中に指示する

## 文化創造基礎 I (文学表現論)

早川由美

## 【授業の概要】

日本古典文学の代表的なテキストをたどりながら、古典に現れた特長的な文学表現の諸相に検討を加える。また、現代の文学表現に影響を与えている表現的特質について、相互のテキストを比較しながら、その具体的な関係性を学ぶ。

## 【授業の目標】

松尾芭蕉の『おくのほそ道』は有名であるが、それに先行する紀行文『野ざらし紀行』を読み解き、句と文章の醸し出す世界を見ていく。その背景となっている中古・中世の古典作品についても見ていく。

## 【授業計画】

- 1 授業概要の説明。松尾芭蕉と元禄の時代。
- 2 以下、作品を講読する。

## 【評価方法】

レポートの評価をもってする。

## 【テキスト】

プリントを配布する。

## 【参考文献・資料】

えんぴつの旅・松尾芭蕉『野ざらし紀行』普遊舎  
芭蕉文集 岩波書店 古典文学大系  
など

## 文化創造基礎 II (創造表現論)

小倉 斉

## 【授業の概要】

主として文学的な韻文および散文のテキストを教材として、創造的行為としての文学表現を構成する題材・モチーフ・テーマ・思想・方法・レトリック等の多角的な観点からつぶさに検証し、創造表現の全体像を学ぶ。

## 【授業の目標】

日本の近・現代を代表する短編小説の精読を通して、「小説を読む」という行為を意識化しつつ、多様な読みを生み出す分析方法を実践的に習得するとともに、書き手の意識・方法を明らかにする。

## 【授業計画】

＜小説の方法—テキストはどう書かれ、どう読まれるか—＞

- 第1回 『サラサーテの盤』精読(1)
- 第2回 『サラサーテの盤』精読(2)
- 第3回 『百萬圓煎餅』精読(1)
- 第4回 『百萬圓煎餅』精読(2)
- 第5回 『風流夢譚』精読(1)
- 第6回 『風流夢譚』精読(2)
- 第7回 『陽気な夜回り』精読(1)
- 第8回 『陽気な夜回り』精読(2)
- 第9回 『木の箱』精読(1)
- 第10回 『木の箱』精読(2)
- 第11回 『樹影譚』精読(1)
- 第12回 『樹影譚』精読(2)
- 第13回 『レキシントンの幽霊』(1)
- 第14回 『レキシントンの幽霊』(2)

## 【評価方法】

学期末のレポートを中心に、授業への参加状況、レジュメの内容、発表・質疑応答の様子、発表後の小レポートなどから、総合的に評価する。

## 【テキスト】

サラサーテの盤(内田百閒 プリント)、百萬圓煎餅(三島由紀夫 プリント)、風流夢譚(深沢七郎 プリント)、陽気な夜回り(古井由吉 プリント)、木の箱(金井美恵子 プリント)、樹影譚(丸谷オー プリント)、レキシントンの幽霊(村上春樹 プリント)

## 【参考文献・資料】

引用の想像力(宇波彰 冬樹社)、花から花へ—引用の神話、引用の現在(高橋英夫 新潮社)、小説の技法—視点・物語・文体(R・サーメリアン 旺社)、小説の技巧(デイヴィッド・ロッジ 白水社)

## 文化創造基礎 III (映像表現論)

一尾直樹

## 【授業の概要】

映像表現の作品、特に映画における表現の固有の性格や方法を、主として日本映画史をたどりながら考察し、同時に時代状況や時代の芸術的思潮を敏感に反映した代表的な映画理論の変遷をもとらえていく。

## 【授業の目標】

映画作品を分析的に見ることで、映画共通の表現法やその作品独特の表現法を発見し、言語化できるようにする。

## 【授業計画】

毎回、映画作品を鑑賞し、テーマに沿って解説とディスカッションを行います。

長編映画の場合は部分的な鑑賞となりますので、未見の作品である場合は各自で全編を鑑賞してください。

イントロダクション：短編映画を見る

映画分析の方法1：シナリオの構成を見る

映画分析の方法2：撮影を見る

a) 構図について

b) レンズについて

c) カメラの動きについて

映画分析の方法3：光(照明)を見る

映画分析の方法4：編集を見る

映画分析の方法5：非劇映画(個人映画・実験映画)の分析

## 【評価方法】

レポート(映画評論)と出席状況による。

## 文化創造基礎 IV (ディベート技法論)

渡辺真澄

## 【授業の概要】

基礎技術として、立論の立て方、尋問の仕方、反駁・反論の仕方、試合準備の仕方、すなわち、情報収集方法や効果的なディベート技法などを指導する。

## 【授業の目標】

ディベートという“科学的検証のプロセス”を理解し、実践する。つまり、“ある仮説から論理的に導き出された結論を、事実の観察や実験の結果と照らし合わせて、その真偽を確かめる”検証のプロセスをオーラル・コミュニケーションを通じて実践、習得することを目標にする。

## 【授業計画】

ディベートの理論と実践を通してコミュニケーション技能の向上を目指す。授業では、ディベートの概要や理論の解説に加え、受講者には実際にスピーチやディベートを行ってもらい、言語運用能力、論理的な思考能力、情報収集能力などの向上を目指す。

- 第1講 ディベートの概要
- 第2講 スピーチ実践(1):ラベリング・ナンバリングの意義
- 第3講 ディベートの試合の流れ:フローシートの取り方
- 第4講 スピーチ実践(2):二項対立的テーマスピーチ
- 第5講 ディベートの論理的推論(蓋然的議論とは?)
- 第6講 ディベート論議決定のブレインストーミング
- 第7講 プレゼンテーション実践:グループ発表
- 第8講 グループリサーチ
- 第9講 立論の作成と反駁の準備
- 第10講 ディベート実践(1):ディベートの試合
- 第11講 ディベート実践(2):ディベートの試合
- 第12講 論議研究(積極的安楽死)
- 第13講 ディベート実践(3):ディベートの試合
- 第14講 ディベート実践(4):ディベートの試合
- 第15講 まとめ

## 【評価方法】

出席状況、授業での活動状況、レポートなどを総合的に評価する。

## 【テキスト】

使用しない。毎回ハンドアウトを配布する。

## 【参考文献・資料】

頭を鍛えるディベート入門(松本茂著 講談社)

## 詩歌創作理論 I

荒川洋治

## 【授業の概要】

韻文作品を成立させる方法論や、その表現技術を支える修辞学等の創作に関わる基礎的な理論を取り上げ、どのように創作理論が実際の韻文テキストを構築していくか、という問題を創作のプロセスと関連させながら考えていく。

## 【授業の目標】

詩論の理念や語調が、時代の流れとともに革新されるようすを感じとれるようにする。

## 【授業計画】

現代詩前期(明治・大正・昭和)の詩論を読む。

- ・漢詩、和歌、俳諧の詩学
- ・岩野泡鳴の詩論
- ・萩原朔太郎の詩論
- ・西脇順三郎の詩論
- ・小野十三郎の詩論
- ・伊藤信吉の詩人論
- ・武者小路実篤と詩語

## 【評価方法】

出席状況とレポートによる。

## 【テキスト】

使用しない。

## 【参考文献・資料】

日本文学史(小西甚一著 講談社学術文庫)  
伊藤信吉著作集第4巻(沖積舎)  
詩を読む人のために(三好達治著 岩波文庫)

## 詩歌創作理論 II

荒川洋治

## 【授業の概要】

韻文作品を成立させる方法論・技術論・修辞学に関する体系的理論のうち、主として現代詩に関する代表的なものを検討すると同時に、そうした創作理論と現代詩のテキストとの相互性を多角的に検証し、理論と実作の有機的な関係をとらえる。

## 【授業の目標】

現代の多様な詩論が、実際の作品にどのように影響したかを検証する力をやしなう。

## 【授業計画】

戦後の詩論を読む。

- ・小野十三郎の詩論
- ・田村隆一の詩論
- ・高見順「三人の詩について」
- ・粟津則雄の現代詩史

## 【評価方法】

出席状況とレポートによる。

## 【テキスト】

使用しない。

## 【参考文献・資料】

現代詩手帖(小野十三郎著 創元社)  
高見順全集第16巻(勁草書房)

## 散文創作理論 I

永井聖剛

## 【授業の概要】

近代・現代の代表的な作家における小説作法や小説観等の創作に関わる理論的な発言を検討しながら、それらが実際の小説作品の上にもどのような表現として反映されているか、という問題を解析的に考えていく。

## 【授業の目標】

さまざまな小説文体・方法の考察、その歴史的意義の把握。

## 【授業計画】

ある現代小説にあらわれた問題意識・方法を、時代を遡行しつつ、それと類同的なモチーフを持つ過去の文学作品と比較しながら明らかにする。

- 1 ガイダンス
- 2~7 『FUTON』(中島京子) 起点に
- 8~12 『アフターダーク』(村上春樹) を起点に
- 13 まとめ

## 【評価方法】

出席状況と期末レポートとを総合的に判断して評価する。

## 【テキスト】

FUTON(中島京子 講談社文庫)  
蒲団(田山花袋 新潮文庫)  
アフターダーク(村上春樹 講談社文庫)  
江戸川乱歩傑作選(江戸川乱歩 新潮文庫)

## 【参考文献・資料】

授業中に指示する。

## 散文創作理論 II

永井聖剛

### 【授業の概要】

リアリズム理論をはじめとする、近代・現代の体系的な小説創作理論を検討し、創作主体の姿勢・素材の選択・主題による素材の再構成・プロットの構想・登場人物の設定等の小説を成立させる諸問題との関係を考えていく。

### 【授業の目標】

太宰治テキストの多様な小説文体・方法の考察、その歴史的意義の把握。小説文体に焦点化した近現代文学史の理解。

### 【授業計画】

太宰治の登場は「既成の小説概念の否定・破壊」と評価されることが多い。では、彼が示してみせた「新しさ」とはどのようなものだったのか、また、それによって「否定・破壊」された「既成の小説概念」とはどのようなものだったのか。太宰の多様な方法意識がうかがわれる短篇作品を精読することで、如上の問題に迫ってみたい。なお、受講者には発表・報告を課すこともある。

- 1 ガイダンス
- 2 「葉」講読
- 3～4 「思ひ出」講読
- 5 「魚服記」講読
- 6～8 「道化の華」講読
- 9～10 「女生徒」講読
- 11～12 「ヴィヨンの妻」講読
- 13 まとめ

### 【評価方法】

受講状況と期末レポートとによって総合的に評価する。

### 【テキスト】

晩年（太宰治 新潮文庫）  
女生徒（太宰治 角川文庫）

### 【参考文献・資料】

授業中指示する。

## 創造表現特別演習 Ia（詩）

荒川洋治

### 【授業の概要】

現代詩の優れたテキストを読みこみ、実践的な創作方法や技術を踏まえながら、詩作品の創作演習を行っていく。同時に、創作作品に対する批評をも行い、実作と批評の基礎的な知識と技能を学んでいく。

### 【授業の目標】

詩的言語の発生の事情、行分けによる展開、変転について理解を深める。

### 【授業計画】

現代詩（戦後）の作品をもとに、実作の基本を学ぶ。

- ・西脇順三郎「旅人かへらず」
- ・草野心平「原音」他、年次詩集
- ・山之口貌と詩集
- ・田村隆一、黒田三郎の世界
- ・北村太郎、石原吉郎、石垣りんの作品
- ・改行という思想
- ・飛躍とは何か
- ・構成と秩序
- ・ことばの化学

### 【評価方法】

出席状況とレポートによる。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献・資料】

西脇順三郎詩集（岩波文庫）  
草野心平詩集（岩波文庫）  
山之口貌詩文集（講談社文芸文庫）  
現代詩文庫・田村隆一詩集（思潮社）他

## 創造表現特別演習 Ib（詩）

荒川洋治

### 【授業の概要】

「創造表現特別演習Ia（詩）」に継続する演習授業であり、基本的には上記授業と同じ方法で行う。詩作品の創作演習とその批評の積み重ねを通して、文学作品としての完成度を備えた作品の創造を授業のねらいとする。

### 【授業の目標】

社会一般の言語と、詩的言語の対立や融和を観察する力をそだてる。

### 【授業計画】

1970年以降の作品を読みながら、現代詩の実作を試みる。

- ・飯島耕一「ゴヤのファースト・ネームは」
- ・永瀬清子「あげがたにくる人よ」
- ・鈴木志郎康「青草の上に」
- ・北村太郎「はくの現代詩入門」
- ・意味、リズム、呼吸
- ・「あたりしさ」とは何か
- ・時代と時間

### 【評価方法】

出席状況とレポートによる。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献・資料】

現代詩文庫・井坂洋子詩集（思潮社）他  
北村太郎の仕事第3巻（思潮社）  
詩とことば（荒川洋治著 岩波書店）

## 創造表現特別演習 II a（短歌）

島田修三

### 【授業の概要】

主として明治新派和歌の歌人、正岡子規、与謝野晶子、石川啄木、斎藤茂吉らの代表的な歌集の講読をとおして近代短歌の諸相をたどりつつ、同時に短歌作品の創作演習を行っていく。また提出された作品には、必ず歌会形式の相互批評・鑑賞を行い、実作と批評・鑑賞の基本的な素養を学んでいく。

### 【授業の目標】

近代短歌史の具体的な諸相を学び、短歌に関する高度な専門知識を培うと同時に、実践的な創作能力を深める。

### 【授業計画】

- 第1回 授業プログラムの概説
- 第2回 与謝野晶子のテキスト講読1
- 第3回 与謝野晶子のテキスト講読2
- 第4回 与謝野晶子のテキスト講読3
- 第5回 与謝野晶子のテキスト講読4
- 第6回 正岡子規のテキスト講読1
- 第7回 正岡子規のテキスト講読2
- 第8回 正岡子規のテキスト講読3
- 第9回 正岡子規のテキスト講読4
- 第10回 課題創作演習1
- 第11回 課題創作演習2
- 第12回 課題創作演習3
- 第13回～個人指導

### 【評価方法】

出席状況・課題創作作品の評価・学期最終レポートの評価以上の3点を総合して評価する。

### 【テキスト】

プリントその他を配付する。

### 【参考文献・資料】

- ・現代短歌全集 第1巻～第17巻（筑摩書房）
- ・短歌シリーズ・人と作品『与謝野晶子』、『正岡子規』（おうふう）
- ・現代短歌大辞典（三省堂）
- その他、授業中に適宜指示する



## 創造表現特別演習 II b (短歌)

島田修三

## 【授業の概要】

「創造表現特別演習II a (短歌)」に継続する授業であり、授業方法は基本的には変わらない。継続的に義務づけられる、短歌作品の創作演習とその批評・鑑賞によって、より高い水準を示す現代短歌の創作をはかる。

## 【授業の目標】

「創造表現特別演習II a (短歌)」に引きつづき、近代短歌史の具体的な諸相を学び、短歌に関する高度な専門知識を培うと同時に、実践的な創作能力を深める。

## 【授業計画】

- 第1回 授業プログラムの概説
- 第2回 石川啄木の講読1
- 第3回 石川啄木の講読2
- 第4回 石川啄木の講読3
- 第5回 石川啄木の講読4
- 第6回 斎藤茂吉の講読1
- 第7回 斎藤茂吉の講読2
- 第8回 斎藤茂吉の講読3
- 第9回 斎藤茂吉の講読4
- 第10回 近代短歌史の概説と討議
- 第11回 創作演習1
- 第12回 創作演習2
- 第13回～個人指導

## 【評価方法】

出席状況・課題創作作品の評価・学期最終レポートの評価以上の3点を総合して評価する。

## 【テキスト】

プリントその他を配付する。

## 【参考文献・資料】

- ・現代短歌全集第1巻～第17巻
- ・短歌シリーズ・人と作品「石川啄木」、「斎藤茂吉」(おうふう)
- ・現代歌人文庫(国文社)
- ・現代短歌大辞典(三省堂)
- ・月刊短歌総合誌「短歌」、「短歌研究」、「歌壇」、「短歌往来」
- その他、授業中に適宜指示する

## 創造表現特別演習 III a (小説・評論)

清水良典

## 【授業の概要】

主に戦後から現代にいたる小説と評論を読みながら、現代文学の特質を検討しつつ、それを踏まえながら小説・評論の創作演習を行う。同時に相互間の真剣な批評を行い、それを通して批評眼と創作のセンスを高める。

## 【授業の目標】

修士論文(制作)につながる力量と見識を高める。

## 【授業計画】

現代小説を協議の上選定して購読しながら、並行して、学んだことを各自のモチーフに反映させた創作(10～20枚)を発表しあい、討議する。

- 第1～3回 現代小説購読I
- 第4～5回 創作討議
- 第6～11回 現代小説購読II
- 第12・13回 創作討議

なお、前期授業終了後の夏期休暇期間に30枚～50枚程度の創作を、後期に備えて執筆しなければならない。

## 【評価方法】

皆出席を原則とする。討議の態度と質、創作の質等を総合的に評価する。

## 【テキスト】

2週間で小説を書く! 幻冬舎新書  
その他、授業中に指示する。

## 【参考文献・資料】

戦後短篇小説再発見1～18巻(講談社文芸文庫)

## 創造表現特別演習 III b (小説・評論)

清水良典

## 【授業の概要】

創造表現特別演習III a に継続する演習授業であり、基本的には上記と同じ方法で行う。小説・評論の実践的創作演習と相互間の批評の積み重ねを通して、文学作品としての完成度を備えた作品の創造を目指す。

## 【授業の目標】

修士論文(制作)に向けて、相互の批評を通して、創作作品を完成させる。

## 【授業計画】

授業に先立って、50枚程度の創作(評論作品も含む)を提出する。また、第3回終了時、第6回終了時にも、それぞれ30枚程度の創作を提出する。

- 第1～3回 創作合評1
  - 第4～6回 創作合評2
  - 第7～9回 創作合評3
  - 第10～12回 討議
- 修了作品として100枚程度の創作を仕上げ、公募の新人文芸賞に応募する。

## 【評価方法】

皆出席を原則とする。討議の態度と質、創作の質等を総合的に評価する。

## 【テキスト】

毎月の各文芸雑誌(『新潮』『群像』『文学界』『すばる』『文芸』等)を講読する。

特に、芥川賞、三島賞の受賞作品は必ず授業で取り上げ、討議する。

## 【参考文献・資料】

戦後短篇小説再発見1～18巻(講談社文芸文庫)

## 創造表現特別演習 IV a (童話)

酒井晶代

## 【授業の概要】

近代から現代にかけての童話を批評的に読むことを通じて、童話に対する問題意識を高めながら、創作演習を行う。同時に相互間の真剣な批評を行い、それを通して批評眼と創作のセンスを高める。

## 【授業の目標】

自らの問題意識や研究方法を明らかにしながらテキストを精読し、近代児童文学の特質や諸相を理解するとともに、研究や創作に対する実践的な力を高める。

## 【授業計画】

演習IVaでは、主として近代児童文学をとりあげる。「作者/読者」「子ども/大人」「文学/教育」等を着眼点としてテキストを精読し、童話・児童文学のジャンルの特質を考察したい。さらに、創作する(書く)立場からテキストに向き合うことを通じて、歴史的評価の再検討や作品の読みかえを試みることができたらと思っている。

- 第1回 授業の進め方、全体計画について
  - 第2回 近代児童文学史をふりかえる(1): 明治期
  - 第3回 近代児童文学史をふりかえる(2): 大正期
  - 第4回 近代児童文学史をふりかえる(3): 昭和戦前・戦中期
  - 第5回～作品の講読とディスカッション(創作演習を含む)
- 授業は、テキストに関する調査・分析や、各自の作品を、受講者全員で討議する形式で進めていく。

## 【評価方法】

出席状況、発表内容や質疑応答の様子、課題などにより総合的に評価する。

## 【テキスト】

授業時に適宜指示する。

## 【参考文献・資料】

- ・日本児童文学大系<全30巻>(ほるぷ出版)
  - ・児童文学名作全集<全5巻>(井上ひさし編 福武文庫)
  - ・日本児童文学名作集<上・下>(桑原三郎・千葉俊二編 岩波文庫)
  - ・日本の童話名作選<明治・大正篇、昭和篇>(講談社文芸文庫編 講談社)
- その他の参考文献は、授業時に適宜指示する。

## 創造表現特別演習 IV b (童話)

酒井晶代

## 【授業の概要】

創造表現特別演習IV aに継続する演習授業であり、基本的には上記と同じ方法で行う。童話の実践的創作演習と相互間の批評の積み重ねを通して、文学作品としての完成度を備えた作品の創造を目指す。

## 【授業の目標】

自らの問題意識や研究方法を明らかにしながらテキストを精読し、現代児童文学の特質や諸相を理解するとともに、研究や創作に対する実践的な力を高める。

## 【授業計画】

演習IVbでは、主として第二次大戦後の児童文学をとりあげる。引き続き「作者/読者」「子ども/大人」「文学/教育」等への着眼を通して、現代児童文学の方法的到達点と課題を考察し、研究や創作の糧とすることを旨とする。

- 第1回 授業の進め方、全体計画について
  - 第2回 現代児童文学の起点をめぐって
  - 第3回～作品や評論の講読、ディスカッション（創作演習を含む）
- 前期と同様、授業はテキストに関する調査・分析や、各自の作品を、受講者全員で討議する形式で進めていく。

## 【評価方法】

出席状況、発表内容や質疑応答の様子、課題などにより総合的に評価する。

## 【テキスト】

授業時に適宜指示する。

## 【参考文献・資料】

- ・児童文学名作全集<全5巻>（井上ひさし編 福武文庫）
  - ・現代童話<全5巻>（今江祥智・山下明生編 福武文庫）
  - ・新潮現代童話館<全2巻>（今江祥智・灰谷健次郎編 新潮文庫）
  - ・日本の童話名作選<戦後篇、現代篇>（講談社文芸文庫編 講談社）
  - ・戦後児童文学の50年（日本児童文学者協会編 文溪堂）
  - ・キャラクター小説の作り方（大塚英志 角川文庫）
  - ・きむら式童話の作り方（木村裕一 講談社現代新書）
- その他の参考文献は、授業時に適宜指示する。

## フィクション実作演習 I (短篇小説)

堀田あけみ

## 【授業の概要】

2週間程度の限定された期間で、短篇小説の実践的な創作を試み、ワークショップ作品として提出する。

## 【授業の目標】

ことは全般に関する広い関心を保ちつつ、文章による作品の創作を目指す。

## 【授業計画】

- ステップ1 「ことばとは何か」  
ことばに関して科学的な見方のトレーニング。  
人がことばを身につける過程を理解する。  
ことばの理解・産出のシステムについて考える。
- ステップ2 「創作と評価」  
各人が小説を創作する。  
同時に様々な作風の作品を、選り好みせずに鑑賞し、評価する。
- ステップ3 「書くことについて考える」  
創作に関する広範なレクチャー。  
一方的なものではなく、意見を求めるので、積極的な議論への参加が望ましい。
- ステップ4 「最終課題」

## 【評価方法】

ステップ2・4の作品をもとに評価する。

## 【テキスト】

使用せず

## 【参考文献・資料】

使用せず

## ライフ・ライティング実作演習 (随筆・自分史)

梅田卓夫

## 【授業の概要】

3週間程度の限定された期間で、随筆あるいは自分史の実践的な創作を試み、ワークショップ作品として提出する。

## 【授業の目標】

ある程度文章力のある人が、文章の質をさらに一ランク高めることをめざす。自分の掛け替えない生活経験や思索を、文学的にも価値のある作品としてまとめるには、どのようなことに留意したらよいか、実作演習によって習得する。

## 【授業計画】

講義内で文章を書きながら、そのつど相互批評をしていくが、第10回までに各自のモチーフに従った課題作品（10～20枚程度）を執筆提出する。

- 第1回 ライフ・ライティングとは何か
- 第2・3回 「記憶」を書く
- 第4回 相互批評
- 第5～8回 “自分史” “エッセイ” “散文詩” の試み
- 第9回 相互批評
- 第10・11回 提出課題作品の相互批評
- 第12回 全体講評

## 【評価方法】

集中講義なので、皆出席を原則とし、提出された作品の質によって評価する。

## 【テキスト】

文章表現四〇〇字からのレッスン（梅田卓夫著 ちくま学芸文庫）

## 【参考文献・資料】

講義のなかで適宜指示する

## フィクション実作演習 II (童話・ファンタジー)

浜たかや

## 【授業の概要】

3週間程度の限定された期間で、童話あるいはファンタジーの実践的な創作を試み、ワークショップ作品として提出する。

## 【授業の目標】

文学創作の1ジャンルであるファンタジーの特殊性を理解し、その創作方法を習得する。

## 【授業計画】

- 1 書き方の基本についての講義  
まずファンタジー作品の書き方の最も基本的な部分を一般論として講義することになるが、これは受講生のキャリアによって、その講義につかわれる時間も、講義の内容もことなる。
- 2 ストーリー・プロット・構成・文体の検討  
各受講生が本講座のなかで書く作品の構想について、話させ、受講生全員でそれについて意見を述べさせる。この時間は受講生の数によって変動。  
文体についても同じように検討。教室で、作品の一部を書かせて、読みあって、これも各人の意見を述べさせ、そのあと個人的な指導。
- 3 作品の実作  
家で書いてきた作品の指導。
- 4 受講生が、いままでに書いた作品があれば、持ってきて読み合い、作者の個性について語り合う。
- 5 作品の実作と批評。各受講生それぞれの指導  
この間に、一般論を講義すること、あるいは参考になる作品の紹介などを交える。
- 6 5を繰り返した後、総評

## 【評価方法】

1 物語をみつける能力、或いは作る能力 2 構成力 3 内容を深める力、あるいは内容をかく表現する能力 4 文章力  
以上の4点について採点する。

## 【テキスト】

特になし

## 【参考文献・資料】

各受講生が作品を書いていく上で、参考になる作品、あるいは評論、心理学系統の本などを推奨する。あらかじめ用意するものはなし。

## 現代詩実作演習

荒川洋治

## 【授業の概要】

3週間程度の限定された期間で、現代詩の実践的な創作を試み、ワークショップ作品として提出する。

## 【授業の目標】

詩編の配列、構成などの吟味を通して、書き手と読み手の関係をとらえるようにする。

## 【授業計画】

10編前後の「量的」詩作を試み、一冊の「詩集」を提示する。

- ・詩集の著者とは何か
- ・テーマについての考え方
- ・題名と配列
- ・割付と活字
- ・詩集の余白と美術
- ・詩集の形態と流通
- ・ことばはどこから、詩になるのか
- ・詩のつくり方と、こわし方
- ・発表と読者

## 【評価方法】

提出された作品で評価する。

## 【テキスト】

使用しない。

## 【参考文献・資料】

特になし。

## 現代短歌実作演習

担当者未定

## 【授業の概要】

3週間程度の限定された期間で、現代短歌の実践的な創作を試み、ワークショップ作品として提出する。

## 【授業の目標】

別途指示する。

## 【授業計画】

別途指示する。

## 【評価方法】

別途指示する。

## 【テキスト】

別途指示する。

## シナリオ実作演習

海上宏美

## 【授業の概要】

3週間程度の限定された期間で、シナリオの実践的な創作を試み、ワークショップ作品として提出する。

## 【授業の目標】

抽象的な思考と具体的な手法を往還する発想法を練習する。

## 【授業計画】

1. 主題を考える
2. 物語の語り手は誰なのかを考える
3. 叙情なのか叙事なのか語り口を考える
4. 物語の場面構成を考える
5. ジェンダーを考える
6. 台詞の役割と分量を考える
7. 始まりと終わりを考える

## 【評価方法】

出席状況と提出作品で評価する。

## 【テキスト】

使用しない。

## 【参考文献・資料】

適宜授業内で指示する。

## 文化創造特論 I (西洋文化論)

杉本一直

## 【授業の概要】

ロシア・東欧を含めた西洋現代文学の代表作品を解説する。各作品に現れている思想や構造の分析を通して、現代の西洋文化の根底に流れるさまざまな形而上の問題提起を明らかにする。

## 【授業の目標】

現代西洋文学に内在するいくつかの基本的主題を理解する。

## 【授業計画】

第1回、第2回 ロシア人作家V.ナボコフの作品を取り上げる。「過去と現在との混交」、「記憶と現実との相克」といったテーマがどのような形で具現化されているかを探る。

第3回、第4回 アルゼンチン人作家J.L.ボルヘスの作品を取り上げる。形而上的思考の遊びに、フィクションの具象性が付与されていく創作過程を分析する。

第5回、第6回 アイルランド人作家S.ベケットの作品を取り上げる。「死」「無」「消失」へと向かう退行運動のなかで言葉が生成していくという、逆説的な創作方法を分析する。

第7回、第8回 ポーランド人作家S.レムの作品を取り上げる。SF小説の枠のなかで「他者」という概念が異様なまでに巨大化し、主体を圧迫していく構図を分析する。

第9回、第10回 チェコ人作家F.カフカの作品を取り上げる。「不条理」、あるいは「迷宮」といった言葉でしばしば形容されるカフカの作品世界を、幻想小説のひとつの原型として定義づけることを試みる。

第11回、第12回 アメリカ人作家P.オースターの作品を取り上げる。犯人も事件も存在しない形骸化された推理小説を通して、主人公を「存在と非存在の境界線」へと導く独自の物語構造を分析する。

※受講生は担当教員の指示に従って「研究ノート」を作成し、提出する。

## 【評価方法】

上記の「研究ノート」提出と出席状況により評価する。

## 【テキスト】

ロリータ (ナボコフ 新潮文庫)、ソラリスの陽のもとに (スタニスワウ・レム ハヤカワ文庫) ほか。

## 【参考文献・資料】

授業において随時指示する。

## 文化創造特論 II (東洋文化論)

角田達朗

## 【授業の概要】

日本及びアジアの文化的基盤を形成している中国思想の影響の諸相を比較検討したうえで、東洋文化の特質を時に舞台芸術も材料としながら学ぶ。

## 【授業の目標】

東洋文化の特質を理解するとともに、比較文化の視点から文化現象を解説する能力を養う。

## 【授業計画】

英雄、それは超人的な活躍を見せる存在であり、神と人との中間に位置する者とも見なされるとともに、人々の多様な願望を映し出す鏡となる。この授業では、中国と日本、古典と現代という縦横の比較を軸として様々な英雄像について考察する。

- 第1～6回 『今昔物語集』に見る安倍清明像
- 第7～10回 『搜神記』に見る左慈像
- 第11回 夢枕漢 『陰陽師』に見る安倍清明像
- 第12回 岡野玲子 『陰陽師』に見る安倍清明像
- 第13回 滝田洋二郎監督 『陰陽師』に見る安倍清明像
- 第14～15回 能『鉄輪』に見る安倍清明像

## 【評価方法】

レポート・平常点

## 【テキスト】

プリントを配布する。

## 【参考文献・資料】

授業内で適宜指示する。

## 文化創造特論 III (国際映画論)

平野勇治

## 【授業の概要】

世界の映画文化を国際的な異文化交流の視点から捉え、それぞれの国の文化特性を比較しつつ、それが普遍的な映画表現を介して受容されていく現実と将来の可能性について考える。

## 【授業の目標】

映画独自の表現方法を理解し、それを通じて異文化についての認識を深めること。

## 【授業計画】

1. 授業内容について概説する。
2. 最初期(発明直後)の映画における異文化の扱い方を概説する。
3. 異文化社会において活動した映画人を、映画史的側面をふまえつつ概説する。
4. 異文化を扱ったさまざまな映画について、具体的に概説し、討議する。
5. 全体のまとめを行う。

## 【評価方法】

出席状況、課題への対応を考慮しつつ、最終的には学期末レポートにより評価する。  
レポートのテーマについては、授業内で提示する。

## 【テキスト】

特になし。

## 【参考文献・資料】

授業内で随時示す。

## 文化創造特論 IV (メディア表現論)

川澄未来子

## 【授業の概要】

進展著しいコンピュータグラフィックス等の電子メディアを主な手がかりとして、メディア表現の具体的な技術や方法、芸術的特質や今後の可能性について、理論と実践の両面から多角的に学ぶ。

## 【授業の目標】

実習制作を通じて、コンピュータやマルチメディアに関する体感的な知識習得を目指す。

## 【授業計画】

次のトピックスについて取り扱う予定である。

- (1) マルチメディアデザインとは
- (2) ピクトグラム制作
- (3) 紙芝居制作
- (4) パラパラまんが制作
- (5) 効果音制作
- (6) Webページ制作
- (7) ポスター制作
- (8) 錯視画像制作

## 【評価方法】

出席状況、受講態度、提出課題、試験の総合評価によって決める。(評価点の配分は授業にて説明する。)

## 【テキスト】

特になし

## 【参考文献・資料】

授業内で紹介

## 創造表現特講 I (現代詩)

八木幹夫

## 【授業の概要】

戦後から現在までの代表的な詩や詩論を主な手がかりとして、現代詩の変遷を検証するとともに、創作理論・主題・様式・修辞といった方法を多角的に検証し、詩は時代の問題をどのように作品化し得るか、あるいはどのように時代を超え得るかという創作方法について学ぶ。

## 【授業の目標】

コピーやマニュアルだらけの情報社会の中で、真に創造的な仕事に関わろうとする君達にとって、「詩」はもっともクリエイティブな活動です。芸術活動の根幹には、世界を一瞬にとらえる言葉の問題が必ず立ちはだかります。現代の詩人たちの言葉を通して、時代の根底に流れる本質的な意味を深く読み取る能力を養う。

具体的には今、もっとも面白いと思われる現役詩人の作品にふれ、そこから過去の詩(近代詩)との対比や詩人の考え方に関連させて広がりのある学生参加の授業にしたい。

## 【授業計画】

初回は現代詩の中でどんなものに興味を持っているかを学生から聞き取り、今後の参考とする。全員に相応しい近・現代の詩作品を一部流動的に選択する。

基本的には次の内容を骨子とする。

- 1 詩とは何か (二回)
- 2 詩の構造について (二回)
- 3 近代詩について (二回)
- 4 現代詩について (二回)
- 5 詩と思想 (二回)
- 6 詩と音楽と映像 (二回)
- 7 学生の自作詩発表 それに対する討議意見交換 (三回)

## 【評価方法】

受講後、自分の考えをまとめ、批評的な論考を書かせる。

## 【テキスト】

コピーを使用。

## 【参考文献・資料】

現代詩文庫を使用。  
その他の詩集。



## 創造表現特講 II (現代短歌)

加藤孝男

## 【授業の概要】

戦後短歌から前衛短歌にいたる戦後短歌史を踏まえながら、主として1980年代以降の代表的歌人の作品を題材に、その創作理論・主題・修辞といった方法を多角的に検討し、現代をどのように作品化していくかという創作方法について学ぶ。

## 【授業の目標】

短歌がいかなる軌跡をたどって今日にいたったかを考え、創作活動に役立てたい。

## 【授業計画】

授業では、以下の「なにか」について考えていく。

- 1、はじめに
- 2、〈第二芸術論〉とはなにか
- 3、〈戦争責任〉とはなにか
- 4、〈戦後短歌〉とはなにか
- 5、〈乳房喪失〉とはなにか
- 6、〈前衛短歌〉とはなにか
- 7、〈喩〉とはなにか
- 8、〈身体感覚〉とはなにか
- 9、〈女歌〉とはなにか
- 10、〈口語短歌〉とはなにか
- 11、〈俄万智現象〉とはなにか
- 12、〈レトリック〉とはなにか
- 13、〈時代感覚〉とはなにか
- 14、まとめ

## 【評価方法】

出席状況、学期末のレポートなどで総合評価。

## 【テキスト】

プリントですすめるため、使用しない。

## 【参考文献・資料】

授業中に指示する。

081370502\_0270 掲載順 : 0270

MASTER ★

## 創造表現特講 IV (童話)

酒井晶代

## 【授業の概要】

近現代の代表的な創作や児童文学論を主な手がかりとして、日本児童文学史を検証するとともに、主題・モチーフ・文体等の方法のみならず、広く社会史や文化史の視点から子ども観の変容を検討し、「子どもの文学」の創作方法とその独自性について学ぶ。

## 【授業の目標】

論文講読を通して児童文学研究の現状と課題を理解・考察し、自らの研究や創作に応用する。

## 【授業計画】

近年発表された児童文学(児童文化を含む)関係の論文を読む。  
児童文学研究は作家・作品論のほか、読者論やメディア論といった社会・文化的アプローチや、さまざまな文学理論の影響下でその幅を広げつつある。一方で、研究の深まりや多様化とともに、従来の「文学」の枠組みを解体する、より大きな視座の必要性も指摘されるようになってきた。論文の講読を通して、児童文学をめぐる言説の最前線と現代的課題を考える場とした。

- 第1回 授業の進め方、全体計画について
- 第2回 児童文学研究の現在
- 第3回～論文の講読
- 第13回～全体のまとめ

## 【評価方法】

出席状況、発表内容や質疑応答の様子、課題などにより総合的に評価する。

## 【テキスト】

授業時に適宜指示する。

## 【参考文献・資料】

- ・研究=日本の児童文学<全5巻>(日本児童文学学会編 東京書籍)
- ・学会誌「児童文学研究」(日本児童文学学会編)
- その他の参考文献は、授業時に適宜指示する。

081370502\_0280 掲載順 : 0280

MASTER ★

## 創造表現特講 III (現代小説)

清水良典

## 【授業の概要】

戦後から現在までの代表的な創作や評論を主な手がかりとして、現代小説の変遷を検討するとともに、文学理論・主題・モチーフ・人物造型・文体といった方法を多角的に検討し、小説は時代の病理や問題をどのように作品化し得るか、あるいはどのように時代を超え得るかという創作方法について学ぶ。

## 【授業の目標】

各人のモチーフをもとに、現代小説の意欲的な解読を試みる。

## 【授業計画】

村上春樹のテキスト講読と議論を主としつつ、相互の討議と調査・報告を課す。

- 第1回 現代文学概論
  - 第2～4回 『羊をめぐる冒険』解読
  - 第5～7回 『世界の終わりとハードボイルド・ワンダーランド』解読
  - 第8～10回 『海辺のカフカ』解読
  - 第11～12回 総括と討議
- なお、指定テキスト以外にも、現代文学関係の書籍を大量に読む必要がある。

## 【評価方法】

出席は皆出席を前提とする。受講態度ならびに討議の積極性、調査・報告の質等を総合的に考慮して評価する。

## 【テキスト】

- 羊をめぐる冒険(村上春樹 講談社文庫)
- 世界の終わりとハードボイルド・ワンダーランド(村上春樹著 新潮文庫)
- 海辺のカフカ(村上春樹 新潮文庫)
- 村上春樹はくせになる(清水良典 朝日新書)
- 上記以外は、指示する。

## 【参考文献・資料】

授業中に指示する。

081370502\_0280 掲載順 : 0280

MASTER ★

## 創造表現各論 I (詩学)

八木幹夫

## 【授業の概要】

近現代の詩作品を主な手がかりとして、「ことば」をめぐる哲学や現代思想の変遷も念頭に置きながら、詩の本質や詩的言語の規制・方法に関する批評的解読の方法について多角的かつ理論的に学ぶ。

## 【授業の目標】

現代詩に関する評論や批評文を取り上げ、時代との接点を批評的な観点から捉え直す。最近の詩や評論を具体的に取り上げ、言葉の持つ時代的な意味と問題を把握できるようにする。

## 【授業計画】

1. 詩の無用性と有用性 (二回)
2. 日常の中からの詩の発見(二回)
3. 言葉あそびとしての詩 (二回)
4. 詩の多様化と現実の多様化 (二回)
5. 定型詩と口語自由詩との違い (二回)
6. 詩の社会性と非社会性 (二回)
7. 詩の実作と理論との距離 (二回)
8. まとめ 講義で扱った好きな詩についての小論発表とそれへの合同討議 (一回)

## 【評価方法】

各講義の終了時に批評的な観点に基づいた前時のレポートを課す。

## 【テキスト】

近・現代詩人の理論や実作を現代詩文庫より抜粋し、コピーを使用。その他の評論。

## 【参考文献・資料】

- 現代詩文庫(思潮社版)
- その他

## 創造表現各論 II (シナリオ論)

海上宏美

## 【授業の概要】

近現代の代表的なシナリオ作品を主な手がかりとして、放送史をはじめとするメディアの変遷も念頭に置きながら、主題・ストーリー・人物造型・台詞・場面構成などの方法を多角的に検討し、シナリオ表現の特質や創作に関する諸方法について学ぶ。

## 【授業の目標】

言葉であるシナリオに基づいて表現された作品構造全体において、その基盤となるシナリオの言葉がどのような機能を担っているのかを、構造（主義）・語法・技術（史）などの面から探っていく。

## 【授業計画】

1. メディアの変遷
2. 観客の変遷
3. テキスト（シナリオ）の位置
4. 語法と人称性の問題
5. 大きな物語と小さな物語の違い
6. 台詞における口語的表現と文語的表現の違い
7. 描く対象（主題）の選択が意味するもの
8. 表象文化・神話作用について
9. 表象されるジェンダーについて
10. 物語と無意識

## 【評価方法】

出席状況とレポート提出で評価する。

## 【テキスト】

授業内で適宜指示する。

## 【参考文献・資料】

授業内で適宜指示する。

## 創造表現各論 III (舞台芸術論)

角田達朗

## 【授業の概要】

演劇の重要な構成要素である「舞台」の歴史的展開を主な手がかりとして、様々な舞台効果にも目配りしながら、演劇空間あるいは場面転換装置としての舞台の機能や特質とその解説方法について多角的かつ理論的に学ぶ。

## 【授業の目標】

演劇表現の特質を理解するとともに、古典に対する解釈力を養う。

## 【授業計画】

能を主な題材として、主題がいかに演劇的に、また文学的に表現されるかを考察する。授業の方法としては、能の台本（能本と言われる）を読むことと、能の上演のビデオを鑑賞することが中心となる。ただし、舞台芸術は生（ライブ）の芸術であり、生の上演に接することなしに舞台芸術への理解を深めることは不可能である。よって、この授業では1～2本の鑑賞課題も設定する。鑑賞のための経費として2～4千円程度の公演入場料を必要とする。

## 【評価方法】

レポート・平常点

## 【テキスト】

プリントを配布する。

## 【参考文献・資料】

授業内で適宜指示する。

## 創造表現各論 IV (アニメ・コミック)

とりいかずよし

## 【授業の概要】

手塚治虫作品とその影響下にある戦後漫画・コミックおよび宮崎駿などのアニメーション作品を主な題材として、広く社会史や文化史の視点も導入しながら、表象文化としてのアニメ・コミックの芸術的特質や機能を考察し、その可能性を生かした創作方法について学ぶ。

## 【授業の目標】

実践的創作の習得

## 【授業計画】

- 漫画と漫画の周辺
- A 漫画とテレビの比較
  - B 漫画と映画の比較
  - C 漫画と小説の比較

## 【評価方法】

個性、表現、創作、将来性等の巧拙  
批評の説得力の有無

## 【テキスト】

その都度対応して作成

## 【参考文献・資料】

授業の進行に応じ準備

## 国際社会貢献研究 II (国際秩序)

榎田勝利 プイチトルン 皆川修吾 若松孝司

### 【授業の概要】

国際交流や異文化理解に関する基礎的な知識を身に付け、国と国の文化交流がもたらしてきた地域的秩序と市民社会の変容プロセスを学ぶ。

(皆川修吾) 地球存続に必要なグローバル共生文化の涵養プロセスと共生文化の理念を軸とした異文化理解や現状認識の術を学ぶ。(榎田勝利) 現代社会が直面しているグローバル市民社会の現状を検証し、将来にわたる国際交流のグランドデザインを探る。(プイチトルン) 国際交流・協力活動に必要な知見と行動力を醸成するためグローバル化時代における多面的日本社会の変容と創造について学ぶ。(若松孝司) 国際交流はトランスナショナルな活動であるが、国際社会の主たるアクターは依然として主権国家である。そこで、活動の前提としての主権国家間の関係を確認する。

### 【授業の目標】

文化創造研究科での学習に必要な基本的な国際交流に関する素養や姿勢を修得すること。さらには、国際交流や異文化理解においてグローバルな視点で英語を使う基本的姿勢を学ぶこと。

### 【授業計画】

- |      |          |                               |
|------|----------|-------------------------------|
| 第1回  | (皆川修吾)   | 文化の必要性和文化変容条件                 |
| 第2回  | (皆川修吾)   | 文化相対主義の有効性と限界                 |
| 第3回  | (皆川修吾)   | グローバル・ガバナンスー相互依存の管理体制ー        |
| 第4回  | (榎田勝利)   | 国際関係を動かす民間国際交流                |
| 第5回  | (榎田勝利)   | 国際交流のグランドデザイン (1)             |
| 第6回  | (榎田勝利)   | 国際交流のグランドデザイン (2)             |
| 第7回  | (プイチトルン) | 世界の多元文化主義の変容と異文化交流の必要性        |
| 第8回  | (プイチトルン) | トランスナショナル時代における国内の外国人住民の現状と課題 |
| 第9回  | (プイチトルン) | 国際交流・協力活動組織の成立と役割             |
| 第10回 | (若松孝司)   | 国際関係を見る視点ーパワーと構造ー             |
| 第11回 | (若松孝司)   | 連帯としての国家関係ー地域統合の動きー           |
| 第12回 | (若松孝司)   | 地球的課題と国際関係ー地球環境問題への対応         |

### 【評価方法】

出席点および各教員の講義ごとにレポートを課し、総合的に評価する。

### 【テキスト】

授業中に適宜、プリントを配布する

### 【参考文献・資料】

講義ごとに授業中に指示する。

081371003\_0030 掲載順:0030

MCCode:081269001\_0230 ★

## 国際社会貢献演習 Ia (ODA・NGO)

榎田勝利

### 【授業の概要】

グローバル化、地方分権化の進展が、政府、地方自治体の国際化施策にも多大な影響を与えていることを念頭に置き、政府、地方自治体の国際化政策に焦点を当て、戦後の国際化施策の変遷、現状および課題を検証する。

### 【授業の目標】

地方自治体の国際交流政策の現状と課題を明確に理解し、望ましい国際交流の在り方を理解できる。

### 【授業計画】

- 戦後の地方自治体の国際交流活動の変遷
- 地方自治体はなぜ国際交流を行うのか
- 地方自治体の国際交流政策の現状
  - 姉妹都市提携の推移と現状
  - 地方自治体の国際交流政策の現状  
都道府県・政令指定都市・地方中核都市・市町村レベル
- 自治体国際化協会
- 自治体の国際貢献・国際協力
- 多文化共生社会の形成
- 国際交流事業の評価

### 【評価方法】

課題レポート、授業への貢献度、出席状況等で総合的に評価する。

## 国際文化交流研究 II (文化探求)

中野弘三 平林美都子 松本青也 山田幹郎

### 【授業の概要】

言語をさまざまな角度から概観することによって、言語そのものについての基礎的事項を学ぶ。また、人や組織、文化間のコミュニケーションの仕組みについての基礎的知識を身に付ける。

(中野弘三) コミュニケーションの手段としての言語の仕組みや働きを考察すると共に、言語とその背景をなす社会や文化との関わりを探る。(松本青也) 言語学とその関連領域の研究成果を具体的な問題解決に応用する応用言語学の視点から、様々な課題を概観する。(山田幹郎) 言語文化コミュニケーションの技術としてのレトリックに関する基礎的な知識を習得し、その知識を文学(特に英文学)の解釈に応用する力を身に付ける。(平林美都子) 表象としての言語の役割を探り、人間の思考や感情を支配する言語がいかに政治的なものなのかを学ぶ。

### 【授業の目標】

文化創造研究科での学習に必要な基本的な言語文化に関する素養や姿勢を修得すること。特に英語学・英語教育・英文学の面から英語をとらえ、言語としての英語の仕組みやコミュニケーションの手段としての英語や英語の表現技法について修得することを目標とする。

### 【授業計画】

- |      |         |                       |
|------|---------|-----------------------|
| 第1講  | (中野弘三)  | 言語の仕組みー言語の構造          |
| 第2講  | (中野弘三)  | 言語の働きー言語の伝達機能         |
| 第3講  | (中野弘三)  | 言語の背景ー社会や文化との関わり      |
| 第4講  | (松本青也)  | 多言語・多文化共生社会と外国語教育政策   |
| 第5講  | (松本青也)  | 日英対照言語学と英語教育          |
| 第6講  | (松本青也)  | ICTを活用する英語教育の可能性      |
| 第7講  | (山田幹郎)  | レトリックの基礎 (1)          |
| 第8講  | (山田幹郎)  | レトリックの基礎 (2)          |
| 第9講  | (山田幹郎)  | レトリックの応用: 文学解釈法としての実践 |
| 第10講 | (平林美都子) | 表象文化ー文化の政治性           |
| 第11講 | (平林美都子) | 移民文化における言語の問題         |
| 第12講 | (平林美都子) | 翻訳に潜む政治性              |

### 【評価方法】

出席点および各教員の講義ごとにレポートを課し、総合的に評価する。

### 【テキスト】

授業中に適宜、プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

081371003\_0040 掲載順:0040

MCCode:081269001\_0490 ★

## 国際社会貢献演習 Ib (ODA・NGO)

榎田勝利

### 【授業の概要】

政府開発援助(ODA)の基本理念、国際協力スキームの検証と現状、および非政府組織(NGO)の基本理念と特長、実態を学び、ODAとNGOとの連携を検討する。

### 【授業の目標】

国際協力の理念、活動主体の役割と活動方法、多分野にわたる開発課題の現状を理解し、その課題解決法を提言できる。

### 【授業計画】

- 講義のねらいと評価の方法
- 国際協力の概念
- 国際協力のアクター(国連、国際機関)
- 国際協力のアクター(政府開発援助機関)
- 国際協力のアクター(NGO、欧米のNGOと日本のNGO)
- 国際協力の方法(政府開発援助ーODA)
- 国際協力の方法(地方自治体)
- 国際協力の方法(NGO、ボランティア)
- 開発課題と国際協力(ミレニアム開発目標)
- 国際協力事業の評価
- 日本の国際協力の課題と展望

### 【評価方法】

試験は行わない。出席状況、毎回の演習での貢献度、発表・討議の内容を、総合的に評価する。

### 【テキスト】

毎回プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

国際協力(下村・辻・稲田・深川著 有斐閣選書)  
 国際協力(功刀達郎編著 サイマル出版会)  
 国際協力論を学ぶ人のために(内海成治編 世界思想社)  
 国際連合の基礎知識(国際連合広報局 世界の動き社)  
 政府開発援助(ODA)白書(外務省・経済協力局)  
 UNDP・人間開発報告書(国連開発計画編 国際協力出版会)  
 国際協力用語集第2版(国際開発ジャーナル社)

## 国際社会貢献演習 II a (非営利組織)

ブイ チ トルン

## 【授業の概要】

国際協力の新しいアプローチの理念、政策、実施体制を学ぶとともに、グローバル・イシューへの新しいアクターとして、非政府組織（NGO）や地方自治体の動きを発展的に検証する。

## 【授業の目標】

- \* 国際協力に関する日欧米の相違を理解すること
- \* 各セクターによる国際協力活動の現状と課題を理解すること
- \* 国際協力機関の組織運営を理解すること

## 【授業計画】

- A. 総論：  
1. 国際協力の潮流：欧米・日本  
2. New Approach：人間の安全保障と世界平和の構築
- B. 各論：  
1. 国際協力活動の現状：  
\* 政府・中央省庁・外務省・JICA（ODA関係）  
\* 地方自治体の国際協力、CLAIRとモデル事業  
\* NGO：創設期＞成熟期＞発展期  
2. 組織運営論：  
\* 個別活動：組織運営・会員獲得  
・活動基礎構築のために：内部要因としての理念・目標・運営形態  
・活動展開のために：環境整備  
・協力者・協力体制の構築  
\* 協働活動：  
・地方自治体とNGO  
・ジャパン・プラットフォーム等の事例検討  
・協働の可能性・現状と今後の課題

## 【評価方法】

授業への参加状況と期末レポート提出による。

## 【テキスト】

プリント配布及び授業時に指示する。

## 【参考文献・資料】

開講時に指示する。

## 国際社会貢献演習 II b (非営利組織)

ブイ チ トルン

## 【授業の概要】

非営利組織(NPO)の台頭の背景、定義、役割等の基本的概念を検証し、非営利組織のマネジメントの実態と問題点を考察する。

## 【授業の目標】

NPO/NGOの発展や組織運営に関する諸要因を分析・検討することによってNPO/NGOにより社会貢献活動および社会的役割を理解すること。特に海外NPO/NGOの活動・組織運営の手法を理解すること。

## 【授業計画】

基本的には国際社会貢献演習IIaと同様な授業計画を行う。内容は国際社会貢献演習IIaが国内NGOを取り上げるのに対して、この演習は海外の主なNGOを対象とするものである。英文資料等を基に演習を行う。国際比較により広範的な組織マネジメントを学習できる。  
院生には修論課題に関連させ議論等を進める。

## 【評価方法】

演習における参加姿勢、発表等により総合的に評価する。

## 【テキスト】

開講時に参加者全員で協議して決める。

## 【参考文献・資料】

随時参考資料、文献やプリントを配布する。

## 国際社会貢献演習 IIIa (グローバル政治過程)

皆川修吾

## 【授業の概要】

「国際秩序の統治」とされているグローバル・ガバナンスの概念の国際関係における有効性と限界性について研究し、さらに地域文化交流がもたらしてきた地域的秩序について学ぶ。

## 【授業の目標】

国内・国際・グローバルな政治過程を歴史的に、そして体系的に理解し、複雑化する国際社会の諸情勢を的確に分析する術を学ぶ。

## 【授業計画】

1. 秩序と無秩序
2. 第1次世界大戦
3. 第2次世界大戦
4. 軍縮と安全保障
5. 国連の存在意義
6. 国際法
7. グローバリゼーションの光と陰
8. 相互依存の理論と現実
9. 経済のグローバル化
10. 国際協力
11. 人間の安全保障
12. 環境汚染
13. テロリズム
14. 情報革命と国際市民社会

## 【評価方法】

出席、分担部分の発表内容・討議内容 30%  
期末レポート70%

## 【テキスト】

国際紛争（ジョセフ・ナイ著 有斐閣）

## 【参考文献・資料】

国際政治とは何か（中西寛著 中公新書）  
グローバル・ガバナンス：政府無き秩序の模索（渡辺昭夫編著 東大出版）  
グローバル化とは何か（デヴィット・ヘルド編著 法律文化社）  
国際社会論（ヘドリー・ブル著 岩波書店）  
現代国際関係学（新藤栄一著 有斐閣）  
比較政治学（ジョヴァンニ・サルトーリ著 早稲田大学出版部）

## 国際社会貢献演習 III b (グローバル政治過程)

皆川修吾

## 【授業の概要】

冷戦崩壊後の分権化・民営化・民主化のグローバルな動きに対し、ローカライゼーションの実態と意義を検討する。

## 【授業の目標】

国内・国際・グローバルな政治過程、とくに日本の政治過程に焦点をあて、体系的に理解すること。

## 【授業計画】

下記のテキストの章ごとに課題を設定し、ディスカッション形式で理解を深める。

## 【評価方法】

分担部分の発表内容・討議内容、および課題に対するレポート 30%  
期末レポート 70%

## 【テキスト】

政治学（久米郁男他共著、有斐閣）

## 【参考文献・資料】

[著書]  
戦後政治の崩壊（山口二郎著 岩波書店）  
内閣制度（山口二郎著 東京大学出版）  
[専門誌]  
国際政治（国際政治学会編 有斐閣）  
政治学（日本政治学会編 岩波書店）



## 国際社会貢献演習 IV a (途上国政治)

若松孝司

## 【授業の概要】

地域文化交流を意義あるものとするため、その対象の一つである発展途上国の実態を検証する。とくに、途上国の経済開発と政治的不安定要因について考察する。

## 【授業の目標】

世界システム論や従属論といった途上国の低開発状況を解明するさまざまな学説を理解し、それらをもとにして、低開発状況からの脱却という目標に対する受講生自身の見解を涵養することを目標とする。

## 【授業計画】

受講生との協議によって決定したテキストをもとに、ゼミ形式で報告と討論を行なう。

## 【評価方法】

授業に対する取り組みと、提出された課題によって決定する。

## 【テキスト】

別途指示する。

## 【参考文献・資料】

別途指示する。

## 国際社会貢献演習 IV b (途上国政治)

若松孝司

## 【授業の概要】

経済社会開発や貧困問題など、途上国が抱える具体的事例を検討し、問題解決の方策を探る。

## 【授業の目標】

途上国・地域の抱える諸問題について、各自の研究対象に即して現状を把握し、自分自身の見解を深める。

## 【授業計画】

受講生との協議によって事例を決定し、ゼミ形式で報告と討論を行なう。

## 【評価方法】

授業に対する取り組みと、提出された課題によって決定する。

## 【テキスト】

別途指示する。

## 【参考文献・資料】

別途指示する。

## 国際文化交流演習 II a (言語研究)

大野清幸

## 【授業の概要】

語法研究、言語獲得研究、学校英文法などに応用可能な言語理論の知見を学ぶ。

## 【授業の目標】

英語学研究者は、「動的文法理論」などの枠組みを利用して、言語の本質的な部分について考察する。第一言語獲得研究者は、「動的文法理論」などの生成文法理論および発達心理学関連分野を視野に入れつつ、第一言語獲得に関する、狭く限定した研究主題のいくつかを考察する。

## 【授業計画】

- 第1講 授業計画指示など。
- 第2講 PC実践教室などにおいて、関連情報を検索・探索する。
- 第3講 学術論文などを利用して、演習を行う。(1)
- 第4講 学術論文などを利用して、演習を行う。(2)
- 第5講 学術論文などを利用して、演習を行う。(3)
- 第6講 学術論文などを利用して、演習を行う。(4)
- 第7講 学術論文などを利用して、演習を行う。(5)
- 第8講 学術論文などを利用して、演習を行う。(6)
- 第9講 学術論文などを利用して、演習を行う。(7)
- 第10講 学術論文などを利用して、演習を行う。(8)
- 第11講 学術論文などを利用して、演習を行う。(9)
- 第12講 学術論文などを利用して、演習を行う。(10)

## 【評価方法】

出席状況、平常点、課題などによる。  
 基本的には、学術論文を精読し、議論する。  
 学期末レポート：現代英語に関する研究題材を選び、  
 (1) 先行研究を調査し、(2) 仮説をたて、(3) データを採集・整理し、  
 (4) 理論の枠組みで分析し、(5) 論文としてまとめ、提出する。

## 【テキスト】

学術論文

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 国際文化交流演習 II b (言語研究)

大野清幸

## 【授業の概要】

高い評価を得ている日本各地での英語教育の実践例を対象にケーススタディを行い、英語教育に対する理解を深める。

## 【授業の目標】

英語学研究者は、「動的文法理論」などの枠組みを利用して、言語の本質的な部分について考察する。第一言語獲得研究者は、「動的文法理論」などの生成文法理論および発達心理学関連分野を視野に入れつつ、第一言語獲得に関する、狭く限定した研究主題のいくつかを考察する。

## 【授業計画】

- 基本的には、学術論文を精読し、議論する。
- 第1講 授業計画指示など
- 第2講 PC実践教室などにおいて、関連情報を検索・探索する
- 第3講 学術論文などによる演習(1)
- 第4講 学術論文などによる演習(2)
- 第5講 学術論文などによる演習(3)
- 第6講 ケーススタディ(1)
- 第7講 ケーススタディ(2)
- 第8講 ケーススタディ(3)
- 第9講 ケーススタディ(4)
- 第10講 まとめ(1)
- 第11講 まとめ(2)
- 第12講 まとめ(3)

## 【評価方法】

出席状況、平常点、課題などによる。

## 【テキスト】

学術論文。

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 国際文化交流演習 III a (文化探求)

平林美都子

## 【授業の概要】

英語圏文学・映像表象を理解するために必要なジェンダー／セクシュアリティ理論、ポスト・コロニアリズム理論などの文化批評理論を学ぶ。

## 【授業の目標】

英語圏の短編小説の文学表現方法と、文学批評、文化理論を合わせて理解する。

## 【授業計画】

- Katharine Mansfield の短編小説と文学理論
- 1 イントロダクション
  - 2 "Bliss"(1)
  - 3 "Bliss"(2)
  - 4 "Miss Brill"(1)
  - 5 "Miss Brill"(2)
  - 6 "Her First Ball"(1)
  - 7 "Her First Ball"(2)
  - 8 "An Ideal Family"(1)
  - 9 "An Ideal Family"(2)
  - 10 "The Lady's Maid"(1)
  - 11 "The Lady's Maid"(2)
  - 12 まとめ

## 【評価方法】

出席とレポートによる。

## 【テキスト】

The Garden Party and Other Stories (Katharine Mansfield, Penguin Books)

批評関連のテキストは最初の授業で指示する。

## 【参考文献・資料】

適宜、授業中に指示する。

## 国際文化交流演習 IV a (文化探求)

杉本一直

## 【授業の概要】

現代文化におけるポスト・モダニズム的傾向を理解するため、諸事象の理論的考察を行う。

## 【授業の目標】

今年度は亡命文学の作品研究を通してポストモダニズムの理解をめざす。

## 【授業計画】

原典講読を中心とし、あわせて文学研究の方法論を学ぶ。原典講読のテキストとして、Vladimir Nabokov の代表作『ロリータ』を使用する。また、サブテキストとして、Nabokovを含めた亡命作家たちの文学について論じた研究書などを使用する。

## 【評価方法】

出席およびレポートによる。

## 【テキスト】

The Annotated Lolita (Vladimir Nabokov Random House Inc)

## 【参考文献・資料】

徹夜の塊／亡命文学論 (沼野充義著 作品社) ほか

## 国際文化交流演習 III b (文化探求)

平林美都子

## 【授業の概要】

フェミニズム文学批評やジェンダー理論の観点から、英語圏の文学作品や映像表象を考察する。

## 【授業の目標】

英語圏の短編小説の文学表現方法と、文学批評、文化理論を合わせて理解する。

## 【授業計画】

- 第1講：イントロダクション
- 第2講：Margaret Atwood の短編Wilderness Tipsの講読 (1)
- 第3講：Margaret Atwood の短編Wilderness Tipsの講読 (2)
- 第4講：Margaret Atwood の短編Wilderness Tipsの講読 (3)
- 第5講：Margaret Atwood の短編Wilderness Tipsの講読 (4)
- 第6講：Margaret Atwood の短編Wilderness Tipsの講読 (5)
- 第7講：フェミニズム文学批評テキストの講読 (1)
- 第8講：フェミニズム文学批評テキストの講読 (2)
- 第9講：フェミニズム文学批評テキストの講読 (3)
- 第10講：まとめ (1)
- 第11講：まとめ (2)
- 第12講：まとめ (3)

## 【評価方法】

出席とレポートによる。

## 【テキスト】

Wilderness Tips (Margaret Atwood, Seal Books)

批評関連のテキストは最初の授業で指示する。

## 【参考文献・資料】

適宜、授業中に指示する。

## 国際文化交流演習 IV b (文化探求)

杉本一直

## 【授業の概要】

亡命ロシア人の文学作品や芸術作品を講読・鑑賞し、その創作意識を考察する。

## 【授業の目標】

亡命者文化の本質を理解する

## 【授業計画】

原典講読を中心とし、あわせて文学研究の方法論を学ぶ。原典講読のテキストとして、Vladimir Nabokov の代表作『ロリータ』を使用する。また、サブテキストとして、Nabokovを含めた亡命作家たちの文学について論じた研究書などを使用する。

## 【評価方法】

出席およびレポートによる。

## 【テキスト】

The Annotated Lolita (Vladimir Nabokov Random House Inc)

## 【参考文献・資料】

言語の都市 (トニー・タナー著 白水社)

脱領域の知性 (ジョージ・スタイナー著 河出書房新社)

## 国際文化交流演習 V a (文化翻訳)

チョ スルソップ

## 【授業の概要】

異文化間の相互理解のため、言語・文化翻訳研究を行い、東アジア文化圏の言語・文化の共通性と異質性を理解し、言語・社会的役割・機能を体系的に学ぶ。

## 【授業の目標】

東アジア諸社会における文化諸相の理解を深め、東アジア諸国の相互理解および共生を可能にする翻訳法を模索していく。

## 【授業計画】

- 第1講 前言
- 第2講 「春香伝」の世界1
- 第3講 「春香伝」の世界2
- 第4講 「春香伝」の世界3
- 第5講 「春香伝」の世界4
- 第6講 「春香伝」映像化とその流布1
- 第7講 「春香伝」映像化とその流布2
- 第8講 「春香伝」の文化翻訳1
- 第9講 「春香伝」の文化翻訳2
- 第10講 「春香伝」の出版翻訳各種
- 第11講 「春香伝」の映像翻訳各種
- 第12講 「春香伝」日本語訳書籍とその世界1
- 第13講 「春香伝」日本語訳書籍とその世界2
- 第14講 「春香伝」日本語訳書籍とその世界3
- 第15講 総合

## 【評価方法】

出席、授業のための準備、翻訳の実践、レポートを総合して評価する。

## 【テキスト】

プリントなどを用いる。

## 【参考文献・資料】

- 校注春香伝 (趙潤済 乙酉文化社)  
春香伝 (張徳順 明文堂)  
春香伝 (洪相圭訳 高麗書林)

## 国際文化交流演習 VI a (文化翻訳)

CURRAN, Beverley

## 【授業の概要】

異文化間の相互理解のため、言語・文化翻訳研究を行い、英米文化圏の言語・文化の共通性と異質性を理解し、言語・社会的役割・機能を体系的に学ぶ。

## 【授業の目標】

このコースの目標は、学生に色々な日英翻訳の例文を紹介する。実践的な学習を通して言語能力、また翻訳者の意識を高めることである。

## 【授業計画】

- 第1回 Introduction
- 第2回 マンガ (1)
- 第3回 マンガ (2)
- 第4回 児童文学 (1)
- 第5回 児童文学 (2)
- 第6回 文学 (1)
- 第7回 文学 (2)
- 第8回 映画 (1)
- 第9回 映画 (2)
- 第10回 歌
- 第11回 情報パンフレット
- 第12回 翻訳プロジェクト (1)
- 第13回 翻訳プロジェクト (2)
- 第14回 翻訳プロジェクト (3)
- 第15回 オーラル・プレゼンテーション

## 【評価方法】

参加における努力、プレゼンテーションのように評価することである。

## 【テキスト】

なし

## 【参考文献・資料】

受講生の興味関心によって決定する。

## 国際文化交流演習 V b (文化翻訳)

チョ スルソップ

## 【授業の概要】

韓国、中国、日本の文学作品を通文化的な観点から講読・鑑賞する。

## 【授業の目標】

東アジア諸社会における文化諸相の理解を深め、東アジア諸国の相互理解および共生を可能にする翻訳法を模索していく。

## 【授業計画】

- 第1講 前言
- 第2講 「紅樓夢」の世界1
- 第3講 「紅樓夢」の世界2
- 第4講 「紅樓夢」の世界3
- 第5講 「紅樓夢」の世界4
- 第6講 「紅樓夢」映像化とその流布1
- 第7講 「紅樓夢」映像化とその流布2
- 第8講 「紅樓夢」の文化翻訳1
- 第9講 「紅樓夢」の文化翻訳2
- 第10講 「紅樓夢」の出版翻訳各種
- 第11講 「紅樓夢」の映像翻訳各種
- 第12講 「紅樓夢」日本語訳書籍とその世界1
- 第13講 「紅樓夢」日本語訳書籍とその世界2
- 第14講 「紅樓夢」日本語訳書籍とその世界3
- 第15講 総合

## 【評価方法】

出席、授業のための準備、翻訳の実践、レポートを総合して評価する。

## 【テキスト】

プリント中心

## 【参考文献・資料】

- 紅樓夢 (高翊 上海古籍出版社)  
紅樓夢 (松枝茂夫訳 岩波文庫)

## 国際文化交流演習 VI b (文化翻訳)

CURRAN, Beverley

## 【授業の概要】

文芸翻訳の実践を通して、異文化への理解を深め、文化翻訳能力を高める。

## 【授業の目標】

このコースの目標は、学生に色々な異文化的な日英翻訳の例文を紹介する。実践的な学習を通して言語能力、また翻訳者の意識を高めることである。

## 【授業計画】

- 第1回 Introduction : descriptive studies
- 第2回 マンガーONE PIECE (日本語・英語) (1)
- 第3回 マンガーONE PIECE (日本語・英語) (2)
- 第4回 児童文学 : Alice in Wonderland・不思議な国のアリス (1)
- 第5回 児童文学 : Alice in Wonderland・不思議な国のアリス (2)
- 第6回 文学における翻訳者 (1)
- 第7回 文学における翻訳者 (2)
- 第8回 映画 : Shall We ダンス?・Shall We Dance? (1)
- 第9回 映画 : Shall We ダンス?・Shall We Dance? (2)
- 第10回 映画 : Shall We ダンス?・Shall We Dance? (3)
- 第11回 英語のセリフ・日本語の字幕/吹き替え (Love Actually)
- 第12回 情報パンフレット(インターネット)
- 第13回 新聞の記
- 第14回 オーラル・プレゼンテーション

## 【評価方法】

参加における努力、プレゼンテーションのように評価することである。

## 【テキスト】

なし

## 【参考文献・資料】

受講生の興味関心によって決定する。

## 国際文化交流演習 VII a (言語研究)

中郷 慶

## 【授業の概要】

英語音声学の基本文献を講読し、英語音声の特徴を考察する。

## 【授業の目標】

英語の音声・音韻体系を理解するとともに、英語の音声・強勢・イントネーションなどを音声記号で正しく書き表せるようになることを目標とする。

## 【授業計画】

- Week1 母音と子音 (1)
- Week2 母音と子音 (2)
- Week3 音素 (1)
- Week4 音素 (2)
- Week5 語強勢 (1)
- Week6 語強勢 (2)
- Week7 弱形 (1)
- Week8 弱形 (2)
- Week9 リズム (1)
- Week10 リズム (2)
- Week11 ストレスシフト (1)
- Week12 ストレスシフト (2)
- Week13 同化・脱落・連結 (1)
- Week14 同化・脱落・連結 (2)
- Week15 イントネーションと音調群

## 【評価方法】

出席と課題レポートによる。

## 【テキスト】

English Phonetics and Phonology: a practical course (3rd edition 2000  
Roach, Peter / Cambridge University Press)

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 国際文化交流演習 VII b (言語研究)

中郷 慶

## 【授業の概要】

英語の発音の特徴を、日本語との比較も交え、単音レベルから文・談話レベルまで学ぶ。また、日本人英語学習が抱えている発音上の問題も考察する。

## 【授業の目標】

英語と日本語を比較研究することによって、英語らしさとは何か、日本語らしさとは何かを明らかにすること。

## 【授業計画】

- 関係論文や専門書の講読演習を行う。
- 第1講：関係論文や専門書の講読 (1)
  - 第2講：関係論文や専門書の講読 (2)
  - 第3講：関係論文や専門書の講読 (3)
  - 第4講：演習 (1)
  - 第5講：演習 (2)
  - 第6講：演習 (3)
  - 第7講：実践 (1)
  - 第8講：実践 (2)
  - 第9講：実践 (3)
  - 第10講：実践 (4)
  - 第11講：実践 (5)
  - 第12講：レポートについて

## 【評価方法】

出席と課題レポートによる。

## 【テキスト】

関係論文のコピーを使用する。

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 国際社会貢献実践演習 I (短期)

ブイ チトルン

## 【授業の概要】

国際交流基金などの政府機関、国際助成財団、国内外のNGO、自治体国際化協会などでの短期のインターンシップを通し、問題発見・解決能力、組織マネジメント能力を育成する。

## 【授業の目標】

- \* インターン事業に関する知識を取得すること。
- \* 国際交流・協力機関の活動を理解すること。
- \* アジア各国の国際協力現場を体験・理解すること。
- \* 企画書・報告書を作成すること。

## 【授業計画】

- A. 国内対象コース：
1. 数人で担当チームを作り、協議した上で国内の国際交流・協力機関の活動調査、発表する
  2. インターンシップ内容・目標・計画等をプレゼンテーション
  3. インターンシップ計画書作成、受け入れ交渉
  4. インターン後に報告書や成果報告会を通して単位取得
- B. 海外対象コース：
1. ベトナム、タイ、インド等アジア各国の国際協力現場を調査・学習する
  2. また可能な限り現地視察・調査も行う予定
  3. テーマ、視察先等事前研修・計画づくり及び実施については国内インターンシップ事業に準じる
  4. 現地視察後に報告書や成果報告会を通して単位取得
- C. 演習主旨：
1. 開発協力内容の学習および協働の仕組み・事業運営・組織運営に重点を置く
  2. 院生の立案・計画・組織運営能力を高め、育成する

## 【評価方法】

演習における参加姿勢、発表等により総合的に評価する。

## 【テキスト】

開講時に参加者全員で協議して決める。

## 【参考文献・資料】

随時参考資料、文献やプリントを配布する。

## 国際社会貢献実践演習 III (長期)

榎田勝利

## 【授業の概要】

国際交流基金などの政府機関、国際助成財団、国内外のNGO、自治体国際化協会などでの長期のインターンシップを通し、対外折衝能力、問題発見・危機管理能力、組織マネジメント能力を育成する。

## 【授業の目標】

- \* 専門研究を実践的に深化させ、国際交流・協力機関について幅広い専門知識と技術を身につけること。
- \* 国際協力の現場を体験し、理解すること。
- \* 企画書・報告書を作成すること。

## 【授業計画】

- 研修実施校・機関との綿密な連携のもと、本科目の履修生が定めた研究テーマに沿い、以下の手順で長期の国際社会貢献実践演習を行う。
- 1) 研修事前指導
  - 2) 研修指導
  - 3) 研修事後指導
  - 4) 研修成果報告 (実践研究レポートの提出)

## 【評価方法】

実習・研修先からのフィードバック、現地調査活動の内容、活動の進捗状況、実践研究レポートなどを総合して評価する。

## 【テキスト】

研究活動により適宜指示する。

## 【参考文献・資料】

研究活動により適宜指示する。



## 国際文化交流実践演習 I (短期)

中郷 慶

## 【授業の概要】

海外の提携校が開設している短期コースに参加し、言語・文化社会教育を通して、コミュニケーション能力を習得する。

## 【授業の目標】

単に語学力の習得だけではなく、授業や現地での生活を通して、研修先の国や地域の文化・習慣・文学・歴史なども学ぶことを目標とする。

## 【授業計画】

研究実施校との綿密な連携のもと、以下の手順で短期言語文化研修を行う。

- 1) 研修事前指導
- 2) 研修指導
- 3) 研修事後指導
- 4) 研修成果報告 (実践研究レポートの提出)

## 【評価方法】

研修事前指導 + 研修指導 + 研修事後指導 = (20%)  
実践研究レポート(50%)  
研修実施校からのフィードバック(30%)

## 【テキスト】

適宜指示する。

## 【参考文献・資料】

適宜指示する。

## 国際文化交流実践演習 II (長期)

馮 富榮

## 【授業の概要】

海外の提携校が開設している長期コースに参加し、言語・文化社会教育を通して、コミュニケーション能力を習得する。

## 【授業の目標】

単に語学力の習得だけではなく、授業や現地での生活を通して、研修先の国や地域の文化・習慣・歴史なども学ぶことを目標とする。

## 【授業計画】

研究実施校との綿密な連携のもと、以下の手順で長期言語文化研修を行う。

- 1) 研修事前指導
- 2) 研修指導
- 3) 研修事後指導
- 4) 研修成果報告 (実践研究レポートの提出)

## 【評価方法】

研修事前指導 + 研修指導 + 研修事後指導 = (20%)  
実践研究レポート(50%)  
研修実施校からのフィードバック(30%)

## 【テキスト】

適宜指示する。

## 【参考文献・資料】

適宜指示する。

## 国際文化交流特講 I

小松 諄悦

## 【授業の概要】

地域文化交流プログラムが対象とする東アジアおよび東南アジアの文化交流を多角的に考察する。

## 【授業の目標】

日本と東アジア、東南アジアとの間の国際関係の歴史的背景と現状を考察した上で、日本とそれぞれの地域との間の文化交流について、その政策と実践について理解する。

## 【授業計画】

- 第1回 授業の概要  
第2回 日本と東南アジア諸国との関係 (1) (インドネシア、タイなど)  
第3回 日本と東南アジア諸国との関係 (2) (ベトナム、ミャンマーなど)  
第4回 日本と中国との関係  
第5回 日本と韓国との関係  
第6回 日本東南アジア、東アジアとの文化交流の歴史 (1)  
第7回 同 (2)  
第8回 日本と東南アジア諸国との文化交流政策 (1)  
第9回 同 (2)  
第10回 日本と中国との文化交流政策  
第11回 日本と韓国との文化交流政策  
第12回 日本と東南アジア諸国との文化交流の実践  
第13回 日本と中国との文化交流の実践  
第14回 日本と韓国との文化交流の実践  
第15回 まとめとレポート

## 【評価方法】

出席、授業中の小レポート 20%  
期末レポート 80%

## 【テキスト】

特になし。

## 【参考文献・資料】

授業でレジュメを配布する。

## 国際文化交流特講 II

中野 弘三

## 【授業の概要】

コミュニケーションプログラムが対象とする領域を多角的に考察する。

## 【授業の目標】

1. 社会の状況や社会のあり方が言語にどのように反映されているかを理解する
2. 言語と言語使用者の意図や文化の関係を理解する。

## 【授業計画】

- <言語と社会>  
1. コミュニケーションの場の分析  
2. Politeness  
3. 言語とGender  
  
<言語の表現力・言語と文化>  
4. Metaphor, Metonymy  
5. Hedge  
6. 言語と文化の関係

## 【評価方法】

平常点、課題などにより評価する。

## 【テキスト】

プリントを使用。

## 【参考文献・資料】

- Pragmatics* (1996 G. Yule / Oxford University Press)  
*Women, Men and Politeness* (1995 J. Holmes / Longman)  
*Minimum Essential Politeness: A Guide to the Japanese Honorific Language* (1991 A.M. Niyekawa / Kodansha International)  
*Language and Culture* (1998 C. Kramsch / Oxford University Press)  
*Cognitive Linguistics: An Introduction* (2001 L. David / Oxford University Press)

## 課題研究 I a (国際社会貢献)

榎田勝利

### 【授業の概要】

ODAの理念、方針、事業体系、実施方法を理解し、プロジェクト評価できる能力を培いながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

### 【授業の目標】

修士論文作成のための文献、資料収集およびフィールドワーク等を終了する。

### 【授業計画】

修士論文の研究テーマと研究内容により資料収集や分析の手順を企画し、計画的に実施する。実施状況如何により計画の見直し作業をする。

### 【評価方法】

課題研究過程での研究意欲、独創性、分析力など総合的に評価する。

## 課題研究 I a (国際社会貢献)

ブイ チ トルン

### 【授業の概要】

NPO/NGOの発展や組織運営に関する諸要因を分析し、社会的役割を評価する能力を培いながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

### 【授業の目標】

- \* 研究テーマ最終決定
- \* 内容に関して資料収集・分析・議論
- \* 修士論文の概略作成・報告

### 【授業計画】

修士論文の研究テーマと研究内容により資料収集や分析の手順を企画し、計画的に実施する。実施状況如何により計画の見直し作業をする。

### 【評価方法】

課題研究過程での研究意欲、独創性、分析力など総合的に評価する。

## 課題研究 I a (国際社会貢献)

皆川修吾

### 【授業の概要】

文化交流がもたらしてきた地域的秩序および市民社会変容プロセスを検証しながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

### 【授業の目標】

修士論文および実践研究レポート作成指導。修士論文および実践研究レポート作成に必要な学識と技能は演習科目でも学ぶが、研究科目でこれら能力をさらに高め、研究テーマが妥当か否かを判断し、適切な助言を与え、論文及びレポートの作成から完成に至るまで指導する。

### 【授業計画】

理論と実践研究の融合に配慮し、きめ細やかな課題研究指導をおこなう。修士論文および実践研究テーマと研究内容により資料収集や分析の手順を企画し、計画的に実施する。実施状況如何により計画の見直し作業をする。

### 【評価方法】

課題研究過程での研究意欲、独創性、分析力など総合的に評価する。

### 【テキスト】

研究テーマにより適宜指示する。

### 【参考文献・資料】

研究テーマにより適宜指示する。

## 課題研究 I a (国際社会貢献)

若松孝司

### 【授業の概要】

先進工業国と異なる特徴を持つ途上国の課題を探り出し、学術的または実践的に問題点を検討しながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

### 【授業の目標】

修士論文作成のための分析方法や修士論文執筆予定の明確化と、そのための有効な資料収集の達成。

### 【授業計画】

修士論文執筆のための調査研究の進行状況報告と、それに対する指導を授業の中心とする。また、先行研究となる論文の講読についても、必要に応じて行う。

### 【評価方法】

調査研究、修士論文執筆の取り組み状況に応じて評価する。

### 【テキスト】

必要に応じて指示する。

### 【参考文献・資料】

必要に応じて指示する。

## 課題研究 I b (国際社会貢献)

榎田勝利

### 【授業の概要】

「課題研究 I a (国際社会貢献)」に継続する課題研究授業。NGOのマネジメント、国際協力プログラムの企画・運営・評価を実践から学びながら、課題実践の指導を行う。

### 【授業の目標】

修士論文を完成させる。

### 【授業計画】

修士論文の研究テーマと研究内容により資料収集や分析の手順を企画し、計画的に実施する。実施状況如何により計画の見直し作業をする。

### 【評価方法】

課題研究過程での研究意欲、独創性、分析力などを総合的に評価する。

## 課題研究 I b (国際社会貢献)

ブイ チトルン

### 【授業の概要】

「課題研究 I a (国際社会貢献)」に継続する課題研究授業。国内外のNPO/NGOの活動・組織運営の手法を比較し、組織マネジメントを広範囲に学びながら、課題実践の指導を行う。

### 【授業の目標】

- \* 課題分析手法を教授
- \* 修士論文完成

### 【授業計画】

修士論文の研究テーマと研究内容により資料収集や分析の手順を企画し、計画的に実施する。実施状況を最終点検し、修士論文を完成する。

### 【評価方法】

論文の内容や構成などを総合的に評価する。

## 課題研究 I b (国際社会貢献)

皆川修吾

### 【授業の概要】

「課題研究 I a (国際社会貢献)」に継続する課題研究授業。同一または地域間の文化交流の意義を多角的に比較検討し、文化交流の本質を体系的に学びながら、課題実践の指導を行う。

### 【授業の目標】

修士論文および実践研究レポート作成指導。「課題研究Ia」に引き続き、修士論文および実践研究レポート作成に必要な学識と技能能力をさらに高め、研究テーマが妥当か否かを判断し、必要に応じ指導教員が適切な助言を与え、論文及びレポートの作成から完成に至るまで指導する。

### 【授業計画】

理論と実践研究の融合に配慮し、きめ細やかな課題研究指導をおこなう。修士論文および実践研究レポートのテーマと研究内容により資料収集や分析の手順を企画し、計画的に実施する。実施状況を最終点検し、修士論文および実践研究レポートを完成する。

### 【評価方法】

論文の内容や構成そして研究成果などを総合的に評価する。

### 【テキスト】

研究テーマにより適宜指示する。

### 【参考文献・資料】

研究テーマにより適宜指示する。

## 課題研究 I b (国際社会貢献)

若松孝司

### 【授業の概要】

「課題研究 I a (国際社会貢献)」に継続する課題研究授業。途上国の課題を地域間で比較検討し、市民社会変容プロセスを体系的に学びながら、課題実践の指導を行う。

### 【授業の目標】

修士論文作成のための資料収集・分析と修士論文の執筆。

### 【授業計画】

修士論文執筆のための調査研究の進行状況報告と、それに対する指導を授業の中心とする。また、先行研究となる論文の講読についても、必要に応じて行う。

### 【評価方法】

調査研究、修士論文の完成度に応じて評価する。

### 【テキスト】

必要に応じて指示する。

### 【参考文献・資料】

必要に応じて指示する。

## 課題研究 II a (国際文化交流)

大野清幸

## 【授業の概要】

応用言語学の分野の中でも、特に、語法研究、コーパス言語学、動的文法理論、言語獲得理論、学校英文法に焦点を絞り、英語教育に関する最新の研究成果を検証しながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

## 【授業の目標】

英語学研究者は、「動的文法理論」などの枠組みを利用して、英語学に関する、狭く限定した研究主題について研究する。第一言語獲得研究者は、「動的文法理論」などの生成文法理論および発達心理学関連分野を視野に入れつつ、第一言語獲得に関する、狭く限定した研究主題について研究する。

## 【授業計画】

基本的には、学術論文を精読し、議論する。

- 第1講 Introduction授業計画指示など
- 第2講 PC実践教室などにおいて、関連情報を検索・探索
- 第3講 先行研究を調査
- 第4講 仮説をたてる
- 第5講 データの採集・整理(1)
- 第6講 データの採集・整理(2)
- 第7講 データの採集・整理(3)
- 第8講 理論の枠組みで分析(1)
- 第9講 理論の枠組みで分析(2)
- 第10講 論文としてまとめる(1)
- 第11講 論文としてまとめる(2)
- 第12講 論文提出

## 【評価方法】

出席状況、平常点、課題などによる。

## 【テキスト】

学術論文。

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 課題研究 II a (国際文化交流)

杉本一直

## 【授業の概要】

亡命者文化の本質を理解し、文学研究の方法論を学びながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

## 【授業の目標】

修士論文構想の完成と資料の十分な分析。

## 【授業計画】

論文執筆の進行状況の報告と、それに対する指導を授業の中心とする。また、先行研究の論文講読も必要に応じておこなう。

## 【評価方法】

論文執筆への取り組み態度による。

## 【テキスト】

とくになし。

## 【参考文献・資料】

必要に応じて選定する。

## 課題研究 II a (国際文化交流)

CURRAN, Beverley

## 【授業の概要】

文芸翻訳の実践的な学習を通して言語能力を高めながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

## 【授業の目標】

研究のプロセスは(1)研究(2)英語で論文を書く(3)英語で論文を編集するといった段階がある。この前期のコースの目標は研究の段階に集中することである。適当な研究課題を決定、資料を集め、研究レポートを書くことである。

## 【授業計画】

- 第1回 紹介
- 第2回 研究課題を選択
- 第3回 研究課題を決定し、計画を立てる
- 第4回 執筆(1)
- 第5回 研究指導(1)
- 第6回 執筆(2)
- 第7回 研究指導(2)
- 第8回 執筆(3)
- 第9回 Reality Check:プロGRESS・レポート
- 第10回 参考文献について
- 第11回 研究レポートを書く(1)
- 第12回 研究レポートを書く(2)
- 第13回 研究レポートを編集する(1)
- 第14回 研究レポートを編集する(2)
- 第15回 レポートを提出する

## 【評価方法】

参加における努力、研究の計画、レポートの評価

## 【テキスト】

なし

## 【参考文献・資料】

研究課題を決定した後で、リーディング・リストを提案する。

## 課題研究 II a (国際文化交流)

チョ スルソップ

## 【授業の概要】

東アジア文化圏における文化の諸象を学びながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

## 【授業の目標】

異文化間の交流を効果的に行うための視点を養成すると同時に文化研究および文化再創造の土台を構築する。

## 【授業計画】

- 第1講 歳時風俗の世界
- 第2講 『東国歳時記』の世界1
- 第3講 『東国歳時記』の世界2
- 第4講 『東国歳時記』の世界3
- 第5講 『冽陽歳時記』の世界1
- 第6講 『冽陽歳時記』の世界2
- 第7講 『冽陽歳時記』の世界3
- 第8講 『京都雑誌』の世界1
- 第9講 『京都雑誌』の世界2
- 第10講 『京都雑誌』の世界3
- 第11講 『東京雑記』の世界1
- 第12講 『東京雑記』の世界2
- 第13講 『東京雑誌』の世界3
- 第14講 現代韓国・朝鮮の歳時風俗
- 第15講 総合

## 【評価方法】

出席、授業のための準備、レポートあるいは論文のテーマに関する研究報告を総合して評価する。

## 【テキスト】

朝鮮歳時記(洪錫謨他著 東洋文庫 平凡社)

## 【参考文献・資料】

朝鮮歳時記(洪錫謨他著 東洋文庫 平凡社)  
 荆楚歳時記(宗懷著 東洋文庫 平凡社)  
 閩里歳時記(川野邊寛著 日本庶民生活資料集成 三一書房)



## 課題研究 II a (国際文化交流)

中郷 慶

## 【授業の概要】

音声学、日英対照言語学を中心に、言語学的側面から英語の特徴を分析しながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

## 【授業の目標】

修士論文やレポートの作成に向けて、研究の対象とする英語やその他の言語現象並びにその理論的説明の代表的なものについての概要を把握すると共に、研究を進めるための基礎知識を身に付ける。

## 【授業計画】

論文執筆の進行状況の報告と、それに対する指導を授業の中心とする。また、先行研究の論文講読も必要に応じて行う。

- 第1講：基本理念について (1)
- 第2講：基本理念について (2)
- 第3講：基本理念について (3)
- 第4講：応用 (1)
- 第5講：応用 (2)
- 第6講：応用 (3)
- 第7講：実践 (1)
- 第8講：実践 (2)
- 第9講：実践 (3)
- 第10講：実践 (4)
- 第11講：実践 (5)
- 第12講：レポートについて

## 【評価方法】

執筆論文への取り組み態度による。

## 【テキスト】

特になし。

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 課題研究 II a (国際文化交流)

平林美都子

## 【授業の概要】

フェミニズム文学批評やジェンダー理論を検証しながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

## 【授業の目標】

継続的な英語文学研究の基礎として、英語文献読解力を高め、研究資料収集法、研究論文作成法を習得し、実践する。

## 【授業計画】

論文執筆の進行状況の報告と、それに対する指導を授業の中心とする。また、先行研究の論文講読も必要に応じておこなう。

- 第1講：introduction
- 第2講：先行研究の論文講読 (1)
- 第3講：先行研究の論文講読 (2)
- 第4講：先行研究の論文講読 (3)
- 第5講：論文執筆の進行状況の報告 (1)
- 第6講：論文執筆の進行状況の報告 (2)
- 第7講：論文執筆の進行状況の報告 (3)
- 第8講：実践 (1)
- 第9講：実践 (2)
- 第10講：実践 (3)
- 第11講：実践 (4)
- 第12講：まとめ

## 【評価方法】

論文執筆への取り組み態度による。

## 【テキスト】

特になし。

## 【参考文献・資料】

適宜指示する。

## 課題研究 II a (国際文化交流)

中野弘三

## 【授業の概要】

言語の機能の解明を目標として、受講生はそれぞれその解明に向けての課題を持ち、その課題を言語学的手法を用いて研究する。

## 【授業の目標】

言語の機能についての知識を深め、言語機能の研究を進める方法論を習得した上で、その方法論に基づき論文を作成することを旨とする。

## 【授業計画】

1. 言語の機能の解明を目的とした先行研究の紹介
2. 言語の機能的分析法の解説
3. 研究テーマに即した文献検索・資料収集の方法や専門知識の教授

## 【評価方法】

平常点・課題などにより評価する。

## 【テキスト】

関係論文のコピーを使用。

## 【参考文献・資料】

適宜授業中に指示する。

## 課題研究 II b (国際文化交流)

大野清幸

## 【授業の概要】

「課題研究 II a (国際文化交流)」に継続する課題研究授業。語法研究、コーパス言語学、動的な文法理論、言語獲得理論、学校英文法に関する最新の研究成果を検証しながら、課題実践の指導を行う。

## 【授業の目標】

英語学研究者は、「動的な文法理論」などの枠組みを利用して、言語の本質的な部分について考察する。第一言語獲得研究者は、「動的な文法理論」などの生成文法理論および発達心理学関連分野を視野に入れつつ、第一言語獲得に関する、狭く限定した研究主題のいくつかを考察する。

## 【授業計画】

- 基本的には、学術論文を精読し、議論する。
- 第1講 Introduction授業計画指示など
  - 第2講 PC実践教室などにおいて、関連情報を検索・探索
  - 第3講 先行研究を調査
  - 第4講 仮説をたてる
  - 第5講 データの採集・整理(1)
  - 第6講 データの採集・整理(2)
  - 第7講 データの採集・整理(3)
  - 第8講 理論の枠組みで分析(1)
  - 第9講 理論の枠組みで分析(2)
  - 第10講 論文としてまとめる(1)
  - 第11講 論文としてまとめる(2)
  - 第12講 論文提出

## 【評価方法】

出席状況、平常点、課題などによる。

## 【テキスト】

学術論文。

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 課題研究 II b (国際文化交流)

CURRAN, Beverley

## 【授業の概要】

「課題研究 II a (国際文化交流)」に継続する課題研究授業。翻訳理論に照らし、翻訳が文化面でどのような役割を果たしているか比較研究しながら、課題実践の指導を行う。

## 【授業の目標】

後期の授業の目標は、前期の研究課題に関するプロジェクトに引き続き、英語で論文を書き、編集に集中することである。

## 【授業計画】

- 第1回 紹介
- 第2回 論文のintroductionを書く
- 第3回 論文を書く (1)
- 第4回 論文を書く (2)
- 第5回 論文を書く (3)
- 第6回 論文を書く (4)
- 第7回 Reality Check: プロGRESSについて、オーラル・レポート
- 第8回 論文を書く (5)
- 第9回 論文を書く (6)
- 第10回 論文を書く (7)
- 第11回 論文を編集する (1)
- 第12回 論文を編集する (2)
- 第13回 レジュメを書く。参考文献をチェックする
- 第14回 ディスカッション
- 第15回 論文を提出する

## 【評価方法】

研究プロセスや論文を評価する

## 【テキスト】

なし

## 【参考文献・資料】

研究に関する資料

## 課題研究 II b (国際文化交流)

チョ スルソップ

## 【授業の概要】

「課題研究 II a (国際文化交流)」に継続する課題研究授業。東アジア文化圏の資料講読を通じて多方面から比較研究しながら、課題実践の指導を行う。

## 【授業の目標】

異文化間の交流を効果的に行うための視点を養成すると同時に文化研究および文化再創造の土台を構築する。

## 【授業計画】

- 第1講 歳時風俗の世界
- 第2講 『荆楚歳時記』の世界 1月
- 第3講 『荆楚歳時記』の世界 1月
- 第4講 『荆楚歳時記』の世界 2月
- 第5講 『荆楚歳時記』の世界 3月・4月
- 第6講 『荆楚歳時記』の世界 5月
- 第7講 『荆楚歳時記』の世界 6月・7月
- 第8講 『荆楚歳時記』の世界 8月
- 第9講 『荆楚歳時記』の世界 9月
- 第10講 『荆楚歳時記』の世界 10月・11月
- 第11講 『荆楚歳時記』の世界 12月
- 第12講 『燕京歳時記』の世界1
- 第13講 『燕京歳時記』の世界2
- 第14講 現代中国の歳時風俗
- 第15講 総合

## 【評価方法】

出席、授業のための準備、レポートあるいは論文のテーマに関する研究報告を総合して評価する。

## 【テキスト】

荆楚歳時記 (宗懐著 東洋文庫 平凡社)

## 【参考文献・資料】

荆楚歳時記 (宗懐著 東洋文庫 平凡社)  
 燕京歳時記 (敦崇著 東洋文庫 平凡社)  
 朝鮮歳時記 (洪錫謨他著 東洋文庫 平凡社)  
 閩里歳時記 (川野邊寛著 日本庶民生活資料集成 三一書房)

## 課題研究 II b (国際文化交流)

杉本一直

## 【授業の概要】

「課題研究 II a (国際文化交流)」に継続する課題研究授業。原典講読を中心とし、さらなる文学研究の方法論を学びながら、課題実践の指導を行う。

## 【授業の目標】

修士論文の完成。

## 【授業計画】

論文執筆の進行状況の報告と、それに対する指導を授業の中心とする。また、先行研究の論文講読も必要に応じておこなう。

## 【評価方法】

修士論文の査読による。

## 【テキスト】

特になし。

## 【参考文献・資料】

必要に応じて選定する。

## 課題研究 II b (国際文化交流)

中郷 慶

## 【授業の概要】

「課題研究 II a (国際文化交流)」に継続する課題研究授業。英語の発音の特徴についての考察をさらに進め、音声以外の側面についても日英語の比較研究を行いながら、課題実践の指導を行う。

## 【授業の目標】

課題研究 II aでの研究を英語学の個別のテーマに関してさらに文献を読んで研究を深め、その結果得られた英語学的知見をまとめて修士論文またはレポートを作成する。

## 【授業計画】

論文執筆の進行状況の報告と、それに対する指導を授業の中心とする。また、先行研究の論文講読も必要に応じて行う。

- 第1講：前期レポートについて
- 第2講：周辺分野の探索 (1)
- 第3講：周辺分野の探索 (2)
- 第4講：周辺分野の探索 (3)
- 第5講：研究理念の確認 (1)
- 第6講：研究理念の確認 (2)
- 第7講：研究理念の確認 (3)
- 第8講：実践・応用 (1)
- 第9講：実践・応用 (2)
- 第10講：実践・応用 (3)
- 第11講：論文のまとめ (1)
- 第12講：論文のまとめ (2)

## 【評価方法】

修士論文の査読による。

## 【テキスト】

特になし。

## 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 課題研究 II b (国際文化交流)

中野弘三

## 【授業の概要】

課題研究II a に継続して言語の機能の解明を目標とした課題の研究を行う。

## 【授業の目標】

言語の機能についての知識を深め、言語機能の研究を進める方法論を習得した上で、その方法論に基づき論文を作成することを旨とする。

## 【授業計画】

1. 研究テーマに即した文献検索・資料収集の方法や専門知識の教授（課題研究II a より継続）
2. 言語の機能の解明を目的とした研究の指導
3. 受講生による論文の中間報告

## 【評価方法】

平常点・課題などにより評価する。

## 【テキスト】

関係論文のコピーを使用。

## 【参考文献・資料】

適宜授業中に指示する。

## 課題研究 II b (国際文化交流)

平林美都子

## 【授業の概要】

「課題研究II a (国際文化交流)」に継続する課題研究授業。文学の表象のあり方や文化に対する思考形式などを比較検討しながら、課題実践の指導を行う。

## 【授業の目標】

これまでに研究の基礎として習得した様々な知識・手法に基づいて、独自の英語論文作成を行い、これにより継続的・自立的な研究の出発点となる。

## 【授業計画】

論文執筆の進行状況の報告と、それに対する指導を授業の中心とする。また、先行研究の論文講読も必要に応じておこなう。

- 第1講：前期レポートについて
- 第2講：周辺分野の探索（1）
- 第3講：周辺分野の探索（2）
- 第4講：周辺分野の探索（3）
- 第5講：研究理念の確認（1）
- 第6講：研究理念の確認（2）
- 第7講：研究理念の確認（3）
- 第8講：実践・応用（1）
- 第9講：実践・応用（2）
- 第10講：実践・応用（3）
- 第11講：論文のまとめ（1）
- 第12講：論文のまとめ（2）

## 【評価方法】

修士論文の査読による。

## 【テキスト】

特になし。

## 【参考文献・資料】

適宜指示する。

## プレゼンテーション特講

影戸 誠

## 【授業の概要】

別途指示する。

## 【授業の目標】

別途指示する。

## 【授業計画】

別途指示する。

## 【評価方法】

別途指示する。

## 【テキスト】

別途指示する。

## 【参考文献・資料】

別途指示する。

## 通訳特講

中村幸子

## 【授業の概要】

日英語間の通訳に必要な基礎知識と技能を習得するとともに、通訳の準備作業として不可欠な情報収集の具体的方法を演習形式で学ぶ。

## 【授業の目標】

国際交流や国際協力の舞台で通訳者（英語）として活躍できる実践的な実力を養成することを目的とし、通訳者養成のために一般的に採用されている各種通訳訓練法を行い、即解力、即応力、口頭表現力、語彙力を飛躍的に高めながら通訳スキルの向上を目指す。

## 【授業計画】

プロ通訳者の業務に準じた事前準備資料を使用する。インターネットで公開されているAuthenticな音声なども積極的に利用していく。通訳に必要な背景知識を得るため様々な分野の資料の訳出を含めた分析を行い、知識ベースの充実を目指す。学期末にはプレゼンテーション形式の模擬通訳発表会を実施する。

- 第1講 通訳概要
- 第2講 英日逐次通訳の基礎1
- 第3講 英日逐次通訳の基礎2
- 第4講 英日逐次通訳の基礎3
- 第5講 資料分析1
- 第6講 日英逐次通訳の基礎1
- 第7講 日英逐次通訳の基礎2
- 第8講 日英逐次通訳の基礎3
- 第9講 資料分析2
- 第10講 英日・日英逐次通訳の実践1
- 第11講 英日・日英逐次通訳の実践2
- 第12講 英日・日英逐次通訳の実践3
- 第13講 資料分析3
- 第14講 英日逐次通訳の仕上げ
- 第15講 日英逐次通訳の仕上げ

## 【評価方法】

出席（非常に大切）、授業内でのパフォーマンス、リサーチ課題、および模擬通訳の取り組みなどにより評価。

## 【テキスト】

オリジナルテキストを授業開始時に配布、およびオンライン配信。

## 【参考文献・資料】

会議通訳（ローデリック・ジョーンズ著 ウィンター良子・松縄順子訳 松柏社）  
英語通訳への道（日本通訳協会編 大修館書店）  
グローバル時代の通訳（水野真木子他 三修社）  
トレンド日米表現辞典（小学館）他

## 文芸翻訳特講

宮澤淳一

### 【授業の概要】

文芸翻訳（文芸作品や人文書の翻訳）を、学術研究の社会的還元という発想から捉え直す。歴史と理論、解釈と変換、密度とリダダンシー、誤訳の構造などを考察しつつ、主に英語から日本語への翻訳を演習する。

### 【授業の目標】

1. 「翻訳」とは何か。それを理論と実践両面から理解する。
2. 「翻訳」とはいかなる意義や価値を持つのか。その現状はどうか。世の中で流通する「翻訳」に対して、批判的な目を養うと同時に、「誤訳」に対する寛容な態度を身につける。
3. 「翻訳」を通して、他社の論理や発想を理解し、「伝達」とは何か、特に文章を「書く」とは何かを自分なりに見つめ直す。

### 【授業計画】

- 第1講：文芸翻訳とは何か（「翻訳」における位置、歴史と理論、学術研究との関係1）  
 第2講：文芸翻訳とは何か（「翻訳」における位置、歴史と理論、学術研究との関係2）  
 第3講：文芸翻訳とは何か（「翻訳」における位置、歴史と理論、学術研究との関係3）  
 第4講：英文和訳、逐語訳、意識、「超訳」……（解釈と変換1）  
 第5講：英文和訳、逐語訳、意識、「超訳」……（解釈と変換2）  
 第6講：英文和訳、逐語訳、意識、「超訳」……（解釈と変換3）  
 第7講：等量等価の翻訳は可能か（密度とリダダンシー1）  
 第8講：等量等価の翻訳は可能か（密度とリダダンシー2）  
 第9講：等量等価の翻訳は可能か（密度とリダダンシー3）  
 第10講：誤訳とは何か、どう防げるか（誤訳の構造1）  
 第11講：誤訳とは何か、どう防げるか（誤訳の構造2）  
 第12講：誤訳とは何か、どう防げるか（誤訳の構造3）  
 第13講：翻訳と情報リテラシー（まとめ1）  
 第14講：翻訳と情報リテラシー（まとめ2）  
 第15講：翻訳と情報リテラシー（まとめ3）

### 【評価方法】

出席状況、授業での積極性、課題の取り組み方から総合的に評価する（ただし本講は「翻訳」を考えることが趣旨であって、語学力は成績と関係ありません）。

### 【テキスト】

ハンドアウトを配布し、用いる。テキスト初回授業にて紹介する。

### 【参考文献・資料】

授業時に指示する。

## 環境と開発特講

高島忠義

### 【授業の概要】

開発を経済成長と同義の概念と捉えていた時代から女性の参加などを含む社会開発、さらには人間開発へという開発理論の変遷について検討する。

### 【授業の目標】

開発理論の歴史の変遷を追うと同時に、冷戦終結後に欧米諸国が掲げている「持続可能な開発」(環境などに配慮した開発)や「グッド・ガバナンス」(民主主義に基づく統治)といった新しい開発の「理念」についても理解を深める。

### 【授業計画】

前半の授業では、経済開発から社会・人間開発への変遷過程を追う。そして、後半の授業では、国連開発計画（UNDP）の人間開発指標、国連事務総長の策定した「開発のための課題」、国連開発ミレニアムなどを分析しながら、日本のODA政策の問題点について検討する。

### 【評価方法】

授業への出席とレポート。

### 【テキスト】

国連等の資料を適宜配布する。

## 産業翻訳特講

長沼美香子

### 【授業の概要】

翻訳技能のさらなる向上を目標として、英語と日本語の構造的な相違、語法・時制・句読法などについての言語学的知識を演習形式で学ぶ。

### 【授業の目標】

1. 英文和訳と翻訳との違いを明確に区別し、実践できること。
2. 翻訳に必要なリサーチが綿密にできること。
3. 翻訳理論研究の視点が意識できること。

### 【授業計画】

- 第1講：授業概要説明（必ず出席すること）  
 第2講：講義、演習、ディスカッションを通して、翻訳の理論と実践を習得  
 第3講：基本理念について  
 第4講：応用（1）  
 第5講：応用（2）  
 第6講：応用（3）  
 第7講：実践（1）  
 第8講：実践（2）  
 第9講：実践（3）  
 第10講：実践（4）  
 第11講：実践（5）  
 第12講：レポートについて

### 【評価方法】

出席（意欲）、演習、課題提出等を総合して評価する。

### 【テキスト】

プリント配布（翻訳関連の書籍をクラスにて指定する場合もある）

### 【参考文献・資料】

In Other Words (Mona Baker 著 Routledge)  
 Introducing Translation Studies (Jeremy Munday 著 Routledge)

## ジェンダーと開発特講

中西久枝

### 【授業の概要】

ジェンダーと開発について基礎的知識を身につけ、現実の開発問題においてジェンダーの問題がどのような実態として存在しているか、またジェンダーの視点から開発支援を実施するために必要な知見と手法について学ぶ。

### 【授業の目標】

「開発におけるジェンダー」(WID) から「ジェンダーと開発」(GAD) および「ジェンダーの主流化」への理論的変遷を学ぶ一方、理論と現実のギャップを事例により理解する。

### 【授業計画】

- 1) ジェンダーとは何か、フェミニズムの視点との違いについて
- 2) 開発支援の基礎知識
- 3) 途上国及び先進国でおこっているジェンダー差別の問題
- 4) 「開発におけるジェンダー」の枠組みの様々なアプローチ法
- 5) 「ジェンダーと開発」(GAD) の枠組みによる支援策
- 6) 「ジェンダーの主流化」戦略の枠組みと実践についての現状と課題
- 7) 「見えない労働」、インフォーマル経済と経済発展
- 8) 教育とジェンダー
- 9) 環境とジェンダー
- 10) リプロダクティブ・ヘルスとジェンダー
- 11) エンパワーメント・アプローチとエンタイトルメント・アプローチ
- 12) 国家、NGO、国際機関の連携と調整について
- 13) 21世紀の開発支援・協力とジェンダーの課題

### 【評価方法】

レポートによる評価50%、授業中の参加・報告50%とする。

### 【テキスト】

開発とジェンダー（田中由美子・大沢真理。伊藤るり編著 国際協力出版会 2002年）

### 【参考文献・資料】

別途指示・配布する。



## 国際観光マネジメント特講

加納和彦

### 【授業の概要】

「国内旅行業務取扱管理者試験」の試験科目である「法令」「約款」「国内旅行実務」のそれぞれを体系的に学ぶことによって、国際観光マネジメントへの理解を深める。

### 【授業の目標】

「国内旅行業務取扱管理者試験」の受験、合格を最終目標に置きながら、旅行会社におけるマネジメントの一端を身に付ける。

### 【授業計画】

- 1) 国内旅行実務・国内観光資源
- 2) 国内旅行実務・国内運賃料金1
- 3) 国内旅行実務・国内運賃料金2
- 4) 国内旅行実務・国内運賃料金3
- 5) 旅行業約款1
- 6) 旅行業約款2
- 7) 旅行業約款3
- 8) 旅行業約款4
- 9) 旅行業法1
- 10) 旅行業法2
- 11) 旅行業法3
- 12) 旅行業法4
- 13) 各種約款
- 14) 各種約款
- 15) まとめ

### 【評価方法】

出席状況と課題提出により評価する。

### 【テキスト】

旅行管理者試験2008〔国内〕短期完成（エフィカス）

### 【参考文献・資料】

授業の中で適宜紹介する。

## 心理アセスメント演習

伊藤勝也 加藤正子 永田忠夫 吉田 敬

### 【授業の概要】

(概要) 心理的援助を行う場合、クライアントの情報を科学的にとらえ、多面的、総合的、全人的な角度から客観的に評価・査定することが必要である。この評価・査定の方法として、特に「面接法」「観察法」「検査法」を用いる。心理アセスメント演習では、各検査法や行動観察の構成、標準化、実施手順等について実践的に学習する。また、質問紙作成法、面接技法、資料分析の技法についても理解を深める。

(オムニバス方式)

(伊藤勝也) 心理面接法  
(加藤正子) 知能検査および言語発達検査・構音検査  
(永田忠夫) 心理検査全般・性格検査  
(吉田敬) 失語症検査

### 【授業の目標】

心理アセスメント演習では、各検査法や行動観察の構成、標準化、実施手順等について実践的に学習する。また、質問紙作成法、面接技法、資料分析の技法についても理解を深める。

### 【授業計画】

心理評価法  
第1回～第3回 心理面接法 (伊藤勝也)  
第4回～第7回 心理検査全般 (永田忠夫)

言語評価法  
第8回～第11回 発声発語検査 (加藤正子)  
第12回～第15回 高次脳機能検査 (吉田敬)

### 【評価方法】

出席、演習態度、レポートにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

特に指定しない。

### 【参考文献・資料】

授業内で述べる。

## 心理学実験演習

井脇貴子 川嶋英嗣 高橋啓介 高橋伸子 宮田Susanne

### 【授業の概要】

(概要) 心理学実験を通して、心理物理学的測定法や尺度構成法、独立変数の操作と実験計画、実験における統制、実験結果の処理法と結果のまとめ方、実験レポートの書き方について、実践的に学習する。

(オムニバス方式)

(井脇貴子) 上下法を用いた聴覚の閾値測定  
(川嶋英嗣) 恒常法を用いた心理学実験  
(高橋啓介) 極限法を用いた心理学実験  
(高橋伸子) マグニチュード推定法を用いた心理学実験  
(宮田Susanne) コミュニケーション行動観察

### 【授業の目標】

心理物理学的測定法に習熟することで、独自のテーマに対する研究を行うための基礎力を養う。

### 【授業計画】

第1回 オリエンテーション  
第2回 実験計画の基礎/レポートの書き方  
第3回～第4回 極限法による実験  
第5回～第6回 上下法による実験  
第7回 レポート講評  
第8回～第9回 恒常法による実験  
第10回～第11回 コミュニケーション行動観察  
第12回～第13回 マグニチュード推定法による実験  
第14回～第15回 まとめ

### 【評価方法】

出席、演習態度、課題レポートにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

特に指定しない。

### 【参考文献・資料】

必要に応じて、授業中に指定する。

## 社会調査法演習

原 幸一

### 【授業の概要】

社会調査をするにあたって基本的な方法を習得することを目標とする。社会調査の方法は目的の性質や手続きによって統計調査や事例調査などに分けられる。統計調査においては特定化した仮説—作業仮説を立てて、それに基づき調査票を作成する。それぞれの作業仮説に適切な調査方法・質問紙の作成法・分析方法などについて、具体的に演習を行ないながら理解を深める。

### 【授業の目標】

調査法に関わる基礎的な知識を前提として個人またはグループで社会調査を行うことができ、また他の調査結果を解釈できるようになることを目的とする。

### 【授業計画】

(1)外観・調査の流れ  
(2)調査の方法・データの見方  
(3)調査目的の作成  
(4)調査項目の作成  
(5)調査方法の決定  
(6)サンプリングの方法  
(7)統計手法について  
(8)データのまとめかた  
(9)調査の実際(1)  
(10)調査の実際(2)  
(11)調査の実際(3)  
(12)データの分析、解釈  
(13)まとめ

### 【評価方法】

作業レポートにより評価を行う。

### 【テキスト】

「社会調査へのアプローチ 理論と方法」(ミネルヴァ書房 大谷信介他)

### 【参考文献・資料】

「よくわかる心理統計」(ミネルヴァ書房 山田剛史・村井純一郎著)

## 医療福祉統計演習 I

行松慎二

### 【授業の概要】

医療福祉分野において扱われる多様な事象について、統計的な考え方に基づいて情報を客観的に記述、解釈することは、実証的な調査研究のためばかりでなく科学的論理的思考の何たるかを知る上で不可欠である。本演習では、医療福祉に関わる統計的データ解析の基本的な考え方とその意義について理解し、表計算ソフトおよび統計解析ソフトの利用方法を習得するとともに、適切な統計的手法の選択および解析結果の解釈と推論のための技能を修得する。

### 【授業の目標】

1. 統計的な思考に必要なとなる基礎的な知識を習得する。
2. 統計的仮説検定の考え方の原理について理解する。
3. データの処理及び記述のためのソフトウェアの利用方法を習得する。

### 【授業計画】

1. 統計の基礎
2. 標本と母集団
3. 検定の基礎
4. 2群の平均値の比較
5. 3群以上の平均値の比較

### 【評価方法】

平常点(出席状況、受講態度)および授業内課題により評価する。

### 【テキスト】

特定の教科書は使用せず、必要に応じて資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

参考図書、推薦図書などは授業中に随時紹介する。

## 医療福祉統計演習 II

奥田達也

## 【授業の概要】

コンピュータの利用拡大に伴って高度な統計手法が比較的容易に適用できるようになってきた。この演習では表計算ソフトおよび統計解析ソフトを利用して、多変量データを扱う場合の基本的な考え方と各種統計モデルおよびその応用について理解し、出力された分析結果の基本的な解釈の方法について習得するとともに、統計モデルの適用限界の理解と、誤用を避けるための的確な処理イメージの構築を目標とする。

## 【授業の目標】

医療福祉の領域では多種多様な社会統計が現場の実務に用いられる。しかしこのような公的な統計データの他にも、医療福祉現場ではクライアントのニーズを直接調査しなければならない状況も頻繁に生じる。この演習では、そうした調査の企画・設計と、そこから得たデータから何を読み取るかを中心に進めていく。そのための方法の一つとして多変量解析によるデータ解析を実習することを目的とする。

## 【授業計画】

1. はじめに：講義概略の説明、受講者の基礎知識の確認
2. 調査法の基礎（1）：調査実施方法
3. 調査法の基礎（2）：標本抽出法とサンプリング
4. 質問紙作成技法（1）：質問紙の設計
5. 質問紙作成技法（2）：質問紙のワーディング
6. 質問紙作成技法（3）：質問紙の構成
7. 多変量解析の基礎（1）：多変量解析とは何か
8. 多変量解析の基礎（2）：多変量解析の種類と適応
9. 多変量解析の実習（1）：SPSSを用いた多変量解析
10. 多変量解析の実習（2）：分析結果の読み取り
- 11～14. 実習

## 【評価方法】

各自のデータに基づいた実習を行いレポートを作成する

## 【テキスト】

特に定めない（必要な資料は講義中に指示する）

## 【参考文献・資料】

すぐわかるSPSSによるアンケートの調査・集計・解析（内田治 東京図書）  
SPSSでやさしく学ぶ多変量解析（室淳子・内田治 東京図書）  
誰も教えてくれなかった因子分析（松尾太加志・中村知靖 北大路書房）

## 医療福祉英語演習 II

LEWIS, Paul

## 【Course description】

英語論文を読むための知識の向上と、英語論文を書くための基礎、英語での発表やプレゼンテーションなどにおける話すこと・聞くことの基本について習得する。専門性の高い医療福祉分野の英語論文を演習形式によって講読し、英語論文を読む技術と語彙力を高めるとともに、英語論文の内容把握や要約、ヒアリングの技術と語彙力を養う。また、英語論文や英語による要約の作成、英語プレゼンテーションのために必要な英語の基本を習得する。

## 【Course objectives】

各自の研究テーマに沿った先行研究原著論文を読みこなす力を高めるとともに、英語論文作成および英語でのプレゼンテーションの基礎を習得する。

## 【Course schedule】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回～第3回 英語論文作成の基礎
- 第4回～第5回 英語プレゼンテーションの基礎
- 第6回～第9回 原著論文の講読
- 第10回～第13回 原著論文の報告
- 第14回～第15回 まとめ

## 【Assessment】

出席、演習における報告およびレポートにより総合的に評価する。

## 【Textbooks】

特に指定しない。

## 【Reference】

必要に応じて、授業中に指定する。

## 医療福祉英語演習 I

LEWIS, Paul

## 【Course description】

医療福祉分野やその関連分野についての最新の研究成果や先行研究についての情報を得るためには、英語文献を検索し、必要な英語文献を読みこなす必要がある。医療福祉英語演習Iでは、医療福祉分野の英語文献講読のための基礎について学ぶ。演習形式による医療福祉分野の英語文献の講読を行い、講読を通して英語原著論文を正確に読むために必要な専門的術語の知識やスキル、論文の構成の基本について実践的に学習する。

## 【Course objectives】

医療福祉分野の英語原著論文の講読を通して、各自の研究テーマに沿った先行研究原著論文を読みこなすための基礎力を養う。

## 【Course schedule】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回～第3回 文献検索
- 第4回～第13回 原著論文の講読
- 第14回～第15回 まとめ

## 【Assessment】

出席、演習態度、テストにより総合的に評価する。

## 【Textbooks】

特に指定しない。

## 【Reference】

必要に応じて、授業中に指定する。

## 医療福祉政策特論

小山秀夫

## 【授業の概要】

日本の医療福祉政策の実際について理解を深めるとともに、健康保険制度や年金制度などの国際比較に関する特論である。まず日本の医療政策・医療制度・健康保険制度・年金制度についての現状を学ぶ。さらにアメリカ・ヨーロッパ、アジアの諸国における医療福祉の実際についても概観し、日本医療福祉の現状と比較を行なう。

## 【授業の目標】

医療福祉政策の基本理念、戦略、原理国民生活への影響について正確に理解し、政策科学と経営科学理論との関連について科学的分析を進めることを目標とする。

## 【授業計画】

1. わが国の医療福祉政策の歴史的展開（2回）
2. ニューパブリックマネジメントと医療福祉政策
3. 医療保険医療政策、介護保険制度の探究（4回）
4. 政策科学と経営科学手法からの分析方法（4回）
5. まとめと総合討論

## 【評価方法】

出席点が40点、  
レポート評価ABCDランク（40,30,20,10）、  
分析および意見発表のABCDランク（20,15,10,0）

## 【テキスト】

すべての講師がパワーポイントで用意必要情報については、WWWの情報提供

## 【参考文献・資料】

基礎学力レベルに応じて講師が紹介する。

## 医療福祉倫理学特論

伊藤春樹

## 【授業の概要】

医療および福祉に携わるものにとって、倫理の問題は非常に重要になってきている。医療・福祉サービスを行なうにあたって、当事者の自己決定権、個人の尊厳、プライバシーなどを真の意味でいかに守るかという問題は等閑視できない。これらの概念とともに、どのような制度や仕組みによってそれらが守られているかを学ぶ。また、盲聾者・視覚障害者・肢体不自由児・精神障害者・高齢者などの置かれている現状を知り、倫理の問題について考える。

## 【授業の目標】

- 1、医療・福祉にかかわる基本的概念の理解を深める
- 2、医療・福祉を利用する人々の理解を深める
- 3、医療・福祉サービス提供者と利用者の関係を把握する
- 4、サービス提供者としての個人の尊厳、利用者としての個人の尊厳
- 5、情報の医療・福祉における意味を理解を深める
- 6、倫理的に医療・福祉を再考する

## 【授業計画】

- 1) 健康の概念
- 2) 障害の概念
- 3) 高齢者とは
- 4) 弱者とは
- 5) 治療とは
- 6) 介護とは
- 7) 支援とは何か
- 8) 自己決定が治療や介護にとってどのような意味を持つのか(1)
- 9) 自己決定が治療や介護にとってどのような意味を持つのか(2)
- 10) 治療や介護における個人の尊厳とは何か(1)
- 11) 治療や介護における個人の尊厳とは何か(2)
- 12) 治療や支援とその情報、情報テクノロジーにおける倫理問題
- 13) 情報公開条例と個人情報保護条例
- 14) 個人と社会(倫理的側面から)
- 15) 医療と福祉を倫理的側面から

## 【評価方法】

主に出席、授業への参加態度とレポートにて総合して評価する。

## 【テキスト】

プリントを配布する。

## 【参考文献・資料】

授業の際に、必要に応じて紹介する。

## 障害学特論

伊藤春樹 谷口明広

## 【授業の概要】

(概要)「障害」という問題にたいして、どのように捉え、考えていくか。既成の概念にとらわれずに、その根本から考え直していく。そのことから、現代の障害者の置かれている状況や、これからの目標について学ぶ。

(オムニバス方式)  
(伊藤春樹) 障害の問題を基本的に学んだ後、さらに、障害のうちでも、特に視覚障害や精神障害などを中心に学ぶ。  
(谷口明広) 障害のうち、知的障害、身体障害について探求する。さらに、その現状の問題点についても考えていく。

## 【授業の目標】

- 1、「障害」の捉え方と考え方の理解を深める。
- 2、歴史的な障害者支援方法の理解を深める
- 3、障害者が抱える問題と自立支援法の狙いの理解を深める。
- 4、本来あるべきとらえかた、考え方を模索する。

## 【授業計画】

- 1) 「障害学」とは何か(ICFを基本にして)
- 2) 障害をどのように理解するか(視覚障害を中心に)
- 3) 視覚障害とは
- 4) 障害をどのように理解するか(精神障害を中心に)
- 5) 精神障害とは
- 6) 障害をどのように理解するか(知的障害を中心に)
- 7) 知的障害とは
- 8) 障害をどのように理解するか(身体障害を中心に)
- 9) 身体障害とは
- 10) 施設収容、コロニー、在宅支援(視覚障害、精神障害支援の歴史から)
- 11) 施設収容、自立生活運動、地域生活支援(知的障害、身体障害支援の歴史から)
- 12) 障害をもつ人々に対する制度(支援費制度から自立支援法)
- 13) 脱施設化の意味(視覚障害、精神障害を中心に)
- 14) 地域移行の意味(知的障害、身体障害を中心に)
- 15) 障害者支援の問題と展望

## 【評価方法】

主に出席と個人発表、期末レポートを総合して評価する。

## 【テキスト】

プリントを配布する。

## 【参考文献・資料】

授業中、適宜紹介する。

## 発達障害学特論

渡邊一功

## 【授業の概要】

小児神経科学的立場から神経系の発達の問題について学ぶ。てんかん、脳性麻痺、精神遅滞、言語発達遅滞、自閉症、学習障害、染色体異常、先天性代謝異常、変性疾患、末梢神経疾患や筋ジストロフィーを含む筋疾患等、小児期に見られる様々な神経、筋肉の疾患や発達障害に関する知識を習得し、その診断方法や各疾患に対応した治療方法について学ぶ。そして、運動や知的発達の遅れ、及び言語発達障害について探求し、その問題点についても考えていく。

## 【授業の目標】

脳性麻痺、精神遅滞、言語発達遅滞、てんかん、広汎性発達障害、注意欠陥障害、学習障害、染色体異常、先天性代謝異常、変性疾患、神経筋疾患など、広義の発達障害に関する知識を習得し、その診断方法や各疾患に対応した治療方法や問題点について理解する。

## 【授業計画】

- 第1回 発達障害の概念・遺伝子異常
- 第2回 先天性代謝異常
- 第3回 先天性脳形成異常
- 第4回 染色体異常
- 第5回 先天奇形症候群・胎内環境の異常
- 第6回 周生期脳障害・出生後脳障害
- 第7回 精神遅滞・言語発達遅滞・学習障害
- 第8回 広汎性発達障害・注意欠陥障害
- 第9回 脳性麻痺・不随意運動
- 第10回 神経筋疾患
- 第11回 てんかん
- 第12回 発達障害児の医療的ケア(1)
- 第13回 発達障害児の医療的ケア(2)
- 第14回 発達障害児の療育
- 第15回 試験

## 【評価方法】

出席状況と期末試験による

## 【テキスト】

発達障害児の医療・療育・教育(松本昭子・土橋圭子編 金芳堂 ISBNコード:4-7653-1063-9)

## 【参考文献・資料】

発達障害の基礎(熊谷公明, 栗田広編 日本文化科学社 1999.)  
発達障害の臨床(熊谷公明, 栗田広編 日本文化科学社 2000.)  
発達障害医学の進歩1-18(原仁ほか編 診断と治療社)  
Child Neurology (John H Menkes, Lippincott Williams & Wilkins, 2005)

## 発達心理学特論

久世淳子

## 【授業の概要】

胎児期から老年期までの各発達段階における心理的特徴を理解し、その過程を説明するさまざまな発達理論について学習し、医療福祉分野における発達の基礎的事項について理解を深める。具体的には、身体、心理、運動、言語、感覚・認知、パーソナリティ、社会性などの諸側面の発達について、医療・福祉との関連を視野に入れながら、そのメカニズムや問題点について理解を深める。

## 【授業の目標】

人の一生について学び、発達の諸相を理解する。

## 【授業計画】

以下の5つのトピックについて1-5回の授業をあてる。

- 1) 発達とは
- 2) 発達の理論
- 3) 各発達段階とその特徴
- 4) 諸側面の発達
- 5) 発達と医療福祉

## 【評価方法】

レポートを課す。また、講義中に報告を課す。評価のポイントや課題などについては授業にて説明する。

## 【テキスト】

使用しない。

## 【参考文献・資料】

授業にて適宜紹介する。



## 老年学特論

井口昭久

### 【授業の概要】

高齢者の心身の変化について、基礎的に学ぶ。加齢によって、聴覚・視覚など、様々な感覚が変化する。また、精神的にも大きな変化が起こってくる。これらの変化について、基礎的・生物学的側面から理解し、その行動面・心理面の理解につなげていく。

### 【授業の目標】

現代社会における高齢者像を把握して、日本の今後の超高齢社会のあるべき姿を思考できるようにする。

### 【授業計画】

- 1: 高齢者疾患総論
  - 1: 高齢者疾患の特徴
  - 2: 多元的高齢者総合機能評価
- 2: 高齢者の疾病
  - 1: 高齢者の循環器疾患
  - 2: 高齢者の消化器疾患
  - 3: 高齢者の神経疾患
  - 4: 高齢者の呼吸器疾患
  - 5: 高齢者の内分泌・代謝疾患
- 3: 老化のメカニズム
  - 1: 老化とは
  - 2: 動脈硬化
- 4: メディアに現れる高齢者像

### 【評価方法】

レポートによる

### 【テキスト】

これからの老年学。井口昭久編。名古屋大学出版。

### 【参考文献・資料】

老年医学テキストブック。日本老年医学会編。メジカルビュー社。

081471501\_0150 掲載順 : 0150

MASTER ★

## ターミナルケア特論

大野竜三

### 【授業の概要】

自尊の心を持って人生をまっとうするため、告知や蘇生術受け入れ、死を迎える場所について、自分らしい逝き方をしたい人のためのケア方法について学ぶ。現在の日本における癌医療やホスピスの実際について知り、終末期医療にのぞむにあたり、当事者・家族・医療スタッフが置かれている状況について学ぶ。さらに、スタッフとしての心構え対応法などについて、相互に意見交換しながら考えを深めていく。

### 【授業の目標】

医療福祉の現場において必ず直面するであろうターミナルケアについて、医療福祉スタッフとして知っておくべき終末期医療の実態を理解する。画一的に与えない個々の現場に遭遇したとき、どのように対応するのが当事者・家族にとって最良であるかを自ら考えることができるような専門スタッフになれることを目標とする。

### 【授業計画】

受け身の講義ではなく、院生が下記の課題をインターネットを中心に調査し、それを毎回発表することにより、自ら学習・理解・発表できる能力を養う。講義形式ではなく、院生全員がインターネット画面を操作しつつ行うセミナー形式により授業を進める。

- 第1回 ターミナルケア総論
- 第2回 射水市民病院事件の問題点
- 第3回 死：心臓死と脳死
- 第4回 平均寿命と健康寿命
- 第5回 死のむかえ方
- 第6回 延命治療とターミナルケア
- 第7回 ホスピス
- 第8回 インフォームドコンセントと自己決定権
- 第9回 自然死、尊厳死と安楽死
- 第10回 リビングウィル
- 第11回 終末期医療についての意識調査
- 第12回 終末期医療についてのガイドラン

### 【評価方法】

出席状況、発表内容、レポートの成績を総合して評価する。期末試験は実施しない。

### 【テキスト】

特に指定しない。

### 【参考文献・資料】

大野竜三 「自分で選ぶ終末期医療」 朝日新聞社  
岡村昭彦 「ホスピスへの遠い道」 春秋社  
インターネットを活用する。

081471501\_0160 掲載順 : 0160

MASTER ★

## 医療福祉環境デザイン特論

藤本尚久

### 【授業の概要】

高齢者や障害のある人などのQOLの視点によって生活環境を見直すバリアフリーから、すべての人が快適に生活するためのユニバーサルデザインへと広がった環境デザイン分野について概観し、それを適用することが大きな意味を持つ。福祉・医療・居住にかかわる施設の機能と空間構成、住環境・都市環境の形成のされ方についても学習する。また、そのための建築・都市計画・環境デザインにおける表現手法や技術的なチェック方法についても考える。

### 【授業の目標】

福祉と医療の施設と住居空間の成り立ちを理解し、よりよい施設と環境空間の機能とデザインについて考える基礎力を身に付ける

### 【授業計画】

- 1) 医療福祉環境デザインの理念と領域
- 2) 福祉施設の成り立ちと歴史
- 3) 医療施設の成り立ちと歴史
- 4) 現代の医療施設の機能と空間構成
- 5) 住宅・都市と集住の歴史
- 6) 居住空間の原理と建築人間工学
- 7) 福祉環境の設備と機器
- 8) 高齢者福祉と住居のデザイン
- 9) 高齢者福祉の施設空間計画
- 10) 児童福祉と施設空間のデザイン
- 11) ハンデキャップと住居・施設空間のデザイン
- 12) 歩行安全環境と公共施設の計画
- 13) 交通施設・交通機関のバリアフリー
- 14) サインのユニバーサルデザイン
- 15) まとめと試験

### 【評価方法】

期間中に適宜行う小演習の成果と最終時の試験とを合わせて評価する。

### 【テキスト】

福祉空間学入門－人間のための環境デザイン－（藤本尚久編著 鹿島出版会刊）

### 【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

## 自助活動特論

谷口明広

### 【授業の概要】

同じ悩みを話し合うことで仲間がいることを確認する、当事者情報により疾病に関することばかりでなく、将来をも含めた生活全般に関する幅広い情報を得るなどの効果・意義が自助活動にある。自助活動を社会資源としてとらえ、適切に活用できるようなシステム作りや、運営者への負担増大、活動のマンネリ化という活動上の問題点、そして自助活動を支えるシステムについて先行研究を概観し、今後の関わりにおける方向性を考察する。データベースでの文献検索に加えて、これらの文献から実証研究に進んでいくための方法論についても理解を深める

### 【授業の目標】

- 1.自助組織や活動には、どのようなものが存在するのかを知る
- 2.自助活動の歴史を知り、差別や偏見と戦ってきた変遷を確認する
- 3.自助活動の中にある様々な援助技術論的アプローチを勉強する
- 4.ソーシャル・アクションの具体例を見聞し、行動に参加するチャンスを探る

### 【授業計画】

- 1.授業のガイダンス
- 2.「自助」とは何か、を知る
- 3.「自助組織」や「自助グループ」のあらまし
- 4.自助で用いられる技術や技能
- 5.セルフヘルプ・グループを組織化する
- 6.ピアカウンセリングの歴史
- 7.ピアカウンセリングの効用
- 8.自助組織への参加体験と発表
- 9.具体的なソーシャル・アクションに学ぶ
- 10.自助集団の問題点と課題

### 【評価方法】

出席を評価の中心とし、授業中の積極性やフィールド調査への参加も考慮する。そして、単位論文による評価を加えて、総合的に考えていきたい。

### 【テキスト】

受講生の関心に応じてテキストを考えていきたい

### 【参考文献・資料】

「セルフヘルプ・グループの理論と展開 わが国の実践をふまえて」  
久保絃章 著 石川到覚 編 中央法規出版 1998年

## 感覚代行特論

青木 久

### 【授業の概要】

ヒトの感覚機能や運動機能の一部あるいは全部に障害がある場合、その機能を電子・機械的に代行して、生活の質(QOL)をたかめる技術があります。そのような技術は、アシスティブテクノロジー (Assistive Technology: AT) と呼ばれています。一般的にテクノロジーは、道具や機器を開発する技術が中心となりますが、アシスティブテクノロジーでは機器の開発ばかりではなく、開発した機器を障害を持つ人に有効に利用されるように適合させ、自立した生活を支援することが重要な使命となります。

この講義では、障害を持つ人達や高齢者の生活を支援する「心」を理解して、コンピュータをはじめとする様々な補助器具とそれら进行操作する技術や利用環境を学習し、アシスティブテクノロジーの現状と今後に関して講義を進めます。

### 【授業の目標】

高齢者や障がい者の生活を支援するための知識と技術を習得し、支援する際の技術的、社会的問題点を把握して、支援方法を論じられる基礎力を身に着けることを目指します。とりわけヒトの感覚機能障害を補助・支援するハード及びソフトについて学ぶことを目的とします。

### 【授業計画】

パワーポイントによる解説と機器の試用を行い、対話形式により意見を交換して、アシスティブテクノロジー (AT) の理解を進めます。具体的には、以下の項目を予定しています。

- ・重症心身障害児施設におけるATの導入と利用事例を具体的に紹介し、機器導入により障がい者がどのように変化するかを解説します。
- ・AT機器の基礎的専門知識を習得するために、機器・ソフトウェアの実習をします。
- ・内外の研究論文を基にして、Neural InterfaceやBrain Computer Interfaceなど最新のAT研究を解説します。

### 【評価方法】

講義や討論への参加およびレポートから総合的に判断します。

### 【テキスト】

使用しない。資料を随時配布する。

### 【参考文献・資料】

適宜指示します。

## 社会福祉原論

岡本民夫

### 【授業の概要】

社会福祉の理念と概念、思想と価値およびその歴史の変遷、西欧・日本・アジア等における社会福祉の歴史的展開など社会福祉の基礎を踏まえ、社会福祉の原理と体系を学ぶ。これまで構築されてきた様々な社会福祉学領域における理論や学説を学ぶとともに、新たな分析概念と理論枠組みの構築による社会福祉研究方法論の開発等による今後の社会福祉の課題と展望を検討する。

### 【授業の目標】

社会福祉の本質を究明していくための原理、理論、歴史、学説及び研究方法論について学ぶ。

### 【授業計画】

- 1) 社会福祉の基本概念の検討
- 2) 社会福祉の理念、思想、価値、専門性
- 3) 社会福祉的援助の原理
- 4) 社会福祉学・研究方法論の検討
- 5) 対象認識
- 6) 視点
- 7) 方式
- 8) 手法
- 9) 評価と検証
- 10) 社会福祉における歴史的認識（外国の場合）
- 11) 社会福祉における歴史的認識(日本の場合)
- 12) 社会福祉の学説史
- 13) 社会福祉の機能と分野
- 14) 社会福祉の方法と過程
- 15) 総括と課題

### 【評価方法】

レポートと出席点

### 【テキスト】

社会福祉原論（岡村重夫 全国社会福祉協議会出版部 1968年）

### 【参考文献・資料】

社会福祉原理（岡本民夫・小林良二・高田真治編著 ミネルヴァ書房 2007年）  
社会福祉原論 第3版（社会福祉士養成講座編 中央法規 2005年）

## 社会福祉制度特論

所 道彦

### 【授業の概要】

社会福祉制度の体制について、政策原理に基づきその全体像を把握する。さらに各制度の目的・対象・給付などについて学ぶ。また、日本の社会保障制度の基本構造（年金保険・医療保険・介護保険・健康保健など）とその特質について、歴史的な展望や国際的な比較のなかで、明らかにしていく。福祉サービスのあり方について、権利擁護、苦情解決、契約手続きなどについても理解を深める。

### 【授業の目標】

現代福祉国家における社会福祉制度の役割・機能を整理するとともに、日本における近年の制度改革を踏まえて、行政の新たな役割、利用者、サービス提供者との三者間の関係をめぐる問題を分析し、今後の制度的課題を明らかにする。

### 【授業計画】

- 1) 社会福祉制度分析の枠組み
- 2) 社会福祉におけるニーズ
- 3) 社会福祉における資源
- 4) 資源の供給主体
- 5) 資源の再分配と福祉国家
- 6) 資源供給の方法と原理
- 7) 社会保険と税
- 8) 選別主義と普遍主義
- 9) 福祉国家の類型
- 10) 日本型福祉システムの発展過程
- 11) 社会福祉基礎構造改革
- 12) 社会サービスと市場原理
- 13) 日本の社会福祉の将来展望

### 【評価方法】

レポートを課す（評価のポイントについては授業にて説明する）

### 【テキスト】

テキストは指定しない。  
授業中に資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

授業の最初に指示する。  
授業中に資料を配布する。

## 社会福祉方法特論

春見静子

### 【授業の概要】

ソーシャルワークの価値、知識、技術の相互関連、およびソーシャルワークの主な構成要素について体系的に習得する。また、ソーシャルワークの歴史的な変化の中での、現代の制度について検証する。中でも障害者福祉におけるソーシャルワークのあり方について学ぶ。障害児・障害者とその家族のためのソーシャルワークの原則・課題・ケースマネジメントのあり方について具体的に考えることにより、理解を深める。

### 【授業の目標】

- 1) ソーシャルワーク理論の発展について理解する
- 2) ソーシャルワーク理論のモデルを理解する
- 3) ソーシャルワークの体系を理解する
- 4) ソーシャルワークの方法について理解する
- 5) 障害のある子どもとその家族のソーシャルワークの実際を学ぶ

### 【授業計画】

- 1) アメリカにおけるソーシャルワークの発展と今日の動向
- 2) ソーシャルワークのさまざまなアプローチ、心理・社会的アプローチ、問題解決アプローチ、危機介入アプローチ、課題中心アプローチなど
- 3) ソーシャルワークのアセスメントの方法
- 4) 事例検討

### 【評価方法】

講義への参加状況とレポートにより総合的に評価する

### 【テキスト】

社会福祉援助技術論（深澤里子、春見静子編著 光生館）  
ソーシャル・アセスメントー利用者の理解と問題の把握（J. ミルナー／P. オバーン著 ミネルヴァ）  
社会福祉援助技術演習（深澤里子、スーザン・ヴォーゲル監修 光生館）

### 【参考文献・資料】

授業時にその都度紹介する

## 家族福祉特論

佐々木政人

### 【授業の概要】

社会福祉実践の目標は、地域・家庭における日常生活上の家族問題の解決にあるといえる。本特論では、様々な地域・家庭生活上の問題把握及びその解決に向けての家族ソーシャルワークの研究に焦点を当て、地域・家庭生活における人間行動の把握・分析のための基礎理論を基盤に、21世紀におけるソーシャルワーク実践のあり方を模索する。

### 【授業の目標】

1. 福祉援助方法論に関する歴史的経緯の理解
2. エコロジカル・ソーシャルワーク（ライフモデル）の理解
3. ライフモデルにおける家族問題の把握と援助展開過程の理解
4. 各種映像メディアやノンフィクション著作（家族問題関連）からの学びと理解

### 【授業計画】

1. 福祉援助方法論の歴史的経緯
2. 福祉ニーズの把握とソーシャルサービスプログラム開発の意義
3. ライフモデルの基本枠組（個人・家族ニーズのアセスメントを中心に）の把握
  - 1) 個人の成長にともなう変化と家族ニーズ（発達理論の理解）
  - 2) ライフサイクル上の家族変化と家族ニーズ（家族ストレス論の理解）
  - 3) 社会的地位・役割上の変化と家族ニーズ（役割理論の理解）
  - 4) 危機的出来事と家族ニーズ（危機理論の理解）
4. 家族支援の援助過程
  - 1) 出会い
  - 2) 交わりと協働
  - 3) 別れと旅立ち
5. 振り返りと評価

### 【評価方法】

出席状況、クラスでの発表・貢献、レポートの成績を総合して評価する。

### 【テキスト】

特に指定しない。

### 【参考文献・資料】

- (1) *The Life Model of Social Work Practice* (Germain, C.B. & Gitterman, A. Columbia Univ. Press 1996年)
- (2) 家族と生活ストレス（石原邦雄著 放送大学教育振興会 2000年）
- (3) 家族支援ハンドブック（インスー・キム・バーク著 磯貝希久子監訳 金剛出版 2002年）
- (4) その他、授業の際、随時紹介する。

## 地域福祉特論

柴田謙治

### 【授業の概要】

地域福祉理論を構成する価値、思想、構成要件を明らかにし、その運営と実践についての理論を学ぶ。まず社会福祉において、地域福祉がどう位置づけられているか、その概念、理念の発展と現状を理解する。さらに地域福祉推進のための社会資源や推進方法を概観し、地域福祉推進のための知識について理解を深める。また先進的な地域福祉について事例を学ぶことで、具体的な地域福祉の手法についても学習する。

### 【授業の目標】

まず日英のセトルメントの歴史から、社会福祉における地域福祉の位置づけや歴史、発展を学ぶ。続いて日本の社会福祉協議会から地域福祉の運営と実践の理論と実際を理解し、社会福祉協議会の歴史から地域福祉理論を構成する価値や思想、構成要件を学ぶ。そしてイギリスの社会福祉協議会の事例から地域福祉を推進する方法を学ぶ。

### 【授業計画】

- 1 社会福祉と地域福祉:東京帝国大学セトルメントと興望館の自律支援
- 2 社会福祉と地域福祉:横須賀基督教社会館と名古屋キリスト教社会館
- 3 社会福祉の開発的機能と社会資源:トインビーホールとパーミンガム・セトルメント
- 4 日本の社会福祉協議会の成立と発展
- 5 住民主体の思想
- 6 地域組織化の方法
- 7 地域組織化の機関
- 8 イギリスにおける社協とコミュニティワークの技術
- 9～13 受講者が関心のある分野についての先進事例の報告
  - 1～8回は柴田が講義形式ですすめ、9～13回は受講者が先進事例を調べて報告する形式をとる。

### 【評価方法】

9～13回の発表とそれをもとにしたレポートによる。評価のポイントは授業中に説明する。

### 【テキスト】

柴田謙治著「貧困と地域福祉活動—セトルメントと社会福祉協議会の記録」みらい、2007年、3,000円

### 【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

## 精神科医療特論

舟橋龍秀

### 【授業の概要】

精神科医療においてその対象となる症状及び疾患、特に統合失調症と感情障害について詳しく学ぶ。また病院における、治療対応・病院チーム医療、精神科医・精神保健福祉士・作業療法士・看護師などの役割やおかれている現状などについて学ぶ。さらに、応急入院、措置入院における治療対応、および司法精神科医療についても実際の事例を通して理解する。

### 【授業の目標】

1. 精神障害と自己決定権、責任能力論の基礎を学び、精神科医療におけるインフォームド・コンセント、成年後見制度について概観する。
2. 精神科精神保健福祉法、心神喪失者等医療観察法に基づいた精神科医療と精神保健福祉士の果たすべき役割について学ぶ。
3. これらを通して精神科医療における精神障害者の人権の保証について考察する。

### 【授業計画】

講義では、以下の7つの主題について解説する。

- 第一主題 精神の異常とはどういうことか
- 第二主題 精神医学概論
- 第三主題 患者の自己決定権とインフォームド・コンセント
- 第四主題 成年後見制度について
- 第五主題 精神保健福祉法に則った医療について
- 第六主題 精神障害と刑事責任能力論
- 第七主題 心神喪失者等医療観察法に則った医療について

### 【評価方法】

与えられた課題についてのレポートによる評価（筆記試験は行わない）授業への出席も評価の対象となる。

### 【テキスト】

とくに指定しない。必要な資料は授業時に配付する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 精神保健特論

諏訪真美

### 【授業の概要】

（概要）青年期および成人期の精神障害・メンタルヘルスについて学ぶ。

心の構造や病気についてテキストを通して学習する。さらに、基本的な障害から、現代病ともいわれる精神保健の問題まで、時代の病理・現状を通して考えていく。

### 【授業の目標】

精神保健に関して基本的な知識を学び、この問題に対する広い視点や考え方を身につける。

### 【授業計画】

1. 精神の成り立ちについて
2. 青年期・成人期の精神医学な諸問題について
  - ・統合失調症
  - ・うつ病
  - ・ひきこもり
  - ・高機能自閉症
3. 実際の事例について検討する

### 【評価方法】

出席状況、受講態度、レポートおよび筆記試験の成績を総合して評価する。

### 【テキスト】

精神科臨床とは何か（星和書店）

### 【参考文献・資料】

随時授業内で指示する

## 高齢者援助技術演習

神波幸子

### 【授業の概要】

高齢者ソーシャルワークについて文献購読や事例研究を通して、地域に暮らす認知症高齢者のケアマネジメント、施設におけるソーシャルワーク、介護者家族の支援の在り方、ソーシャルサポートネットワークのありかたなどについて学び検討していく。

### 【授業の目標】

1. 高齢者ソーシャルワークを理解する
2. 高齢者ソーシャルワークの特殊性を学ぶ
3. 高齢者のエンパワメントの方法を学ぶ
4. 高齢者のケアマネジメントの方法を学ぶ
5. 介護者家族への支援方法を学ぶ
6. 地域におけるインフォーマル・フォーマルサポートネットワークの構築法を学ぶ
7. 在宅及び施設における高齢者ソーシャルワークを学ぶ

### 【授業計画】

受講者の関心に即して、決めていく。

### 【評価方法】

授業への参加状況とレポートの報告により評価する

### 【テキスト】

授業時に紹介する

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する



## 家族・児童援助技術演習

佐々木政人

### 【授業の概要】

児童福祉の分野における福祉援助について、文献講読や事例検討など具体的なテーマを通じて学んでいく。まず家族、家庭、家庭機能、家庭養育機能、ファミリーサービスなどの概念を整理する。そして現代の子ども家族のおかれている状況、離婚家族や高齢者や障害者などを抱え課題を負った家族などの実態を深く理解し、家族援助の視点を高める。さらに家族機能を改善することをめざすソーシャルワークについて具体的に学んでいく。

### 【授業の目標】

1. さまざまな家族問題の理解と支援モデル（家族エンバウメント）の把握
2. 家族支援技法の理解と開発
3. 家族支援サービスの理解と開発
4. 海外における家族支援サービスの動向把握

### 【授業計画】

1. 家族問題の事例研究をとおし、各種の家族支援モデルを体験的に振り返る
2. FGCからの学びをとおして家族支援サービスのあり方を模索する
  - 1) 支援サービス理念の理解
  - 2) 支援サービス目標の理解
  - 3) 支援サービスを支える理論的把握
3. FGCからの学びをとおして家族支援過程を探る
  - 1) ステップI（家族合意の段階）
  - 2) ステップII（FGC開催の段階）
  - 3) ステップIII（フォローアップとアフターケアの段階）
4. 各自が関心を持っている家族問題の発表
  - 1) ニーズ 2) 支援目標 3) 支援モデル 4) 支援過程 5) 支援サービス 6) 支援技法
5. 各自が関心を持っている家族問題に対応するための支援サービスモデルの開発

### 【評価方法】

出席状況、クラスでの発表・貢献、レポートの成績を総合して評価する。

### 【テキスト】

特に指定しない。

### 【参考文献・資料】

- (1) ファミリー・グループ・カンファランス（マリー・コノリー & マーガレット・マッケンジー著 高橋重宏監訳 有斐閣 2005年）

081472002\_0110 掲載順:0110

MASTER ★

## 障害者援助技術演習

春見静子

### 【授業の概要】

身体障害者・知的障害者福祉の分野における援助について、文献講読や事例検討など具体的なテーマを通じて学んでいく。特に障害者のエンバウメントやアドボカシーについて、その理念をしっかりと理解するとともに、具体的な事例を通して学習をする。さらにこれらの日本での実践、海外での実践について国際的な比較を行ない、幅広い視野から障害者の問題について考察を深める。

### 【授業の目標】

1. 障害を理解する
2. 障害のある人を理解する
3. 障害のある人とのコミュニケーションの方法を学ぶ
4. 障害のある人のエンバウメントの方法を学ぶ
5. 障害のある人のアドボカシーの方法を学ぶ
6. 障害のある人の家族の援助の方法を学ぶ
7. 障害のある人のケアマネジメントの方法を学ぶ

### 【授業計画】

1. 障害の理解：医学、教育学、社会福祉学からの理解 WHOの理解
2. 障害のある人の理解：障害のある人の視点からの援助とはどのようなものか、障害のある人の生活の質を高めるために必要なことは何か
3. 障害のある人とのコミュニケーション：面接やグループワークの実践
4. 障害のある人のエンバウメント：インテグレーションの支援、就労支援、事例検討
5. 障害のある人のアドボカシー：権利擁護事業、成年後見制度とソーシャルワーク
6. 障害のある人の家族への援助：家族療法と家族ソーシャルワークの適用
7. 障害のある人のケアマネジメント：ケアマネジメントの過程、ケアマネジメントの実践

### 【評価方法】

授業への参加状況と、レポートの提出を求める

### 【テキスト】

授業の中で紹介する

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する

081472002\_0120 掲載順:0120

MASTER ★

## 精神障害者援助技術演習

伊藤勝也 吉田みゆき

### 【授業の概要】

(概要) 精神保健援助について文献講読を行なう。また病院での援助や地域援助に関する具体的な事例検討などを通じて学んでいく。

#### (オムニバス)

(伊藤勝也) 地域精神保健の立場から生活支援を中心に検討する。保健所・市町村・精神保健福祉センターの機能を学び、そこでの精神保健福祉士の役割について考え、地域連携について学んでいく。

(吉田みゆき) 医療の立場から見た生活支援を中心に検討する。特にSSTなどグループワークの技法を詳しく学ぶ。さらに医療機関と地域の社会復帰施設や行政機関とのかかわりについても理解を深める。

### 【授業の目標】

精神障害者の自立生活支援をめぐる、精神障害者の生活の現実を把握するとともに、地域現場の役割、医療現場の役割を整理し、精神保健福祉士としての専門援助技術の理解を深める。

### 【授業計画】

1. 精神科医療の動向と精神保健福祉士
  2. 相談援助
  3. 精神科リハビリテーションとグループワーク
  4. チームワーク
  5. 地域関連領域との連携
1. 市町村を中心とした精神障害者福祉施策展開について
  2. ケアマネジメント ネットワークキング コンサルテーション 啓発・普及活動
  3. 当事者活動 家族会 ボランティア
- 事例検討

### 【評価方法】

レポート 出席状況

### 【テキスト】

特に指定しない

### 【参考文献・資料】

随時紹介

## ソーシャルサービス研究

井口昭久 伊藤春樹 大野竜三 神波幸子 佐々木政人  
諏訪真美 高橋俊彦 谷口明広 永田忠夫 春見静子

### 【授業の概要】

(概要) 社会福祉および精神保健福祉の研究テーマについて担当教員がそれぞれの研究テーマについて解説する。その後、各自が研究計画の発表を行ってアドバイスをを受け、研究の方向性および所属ゼミを決定する。

#### (オムニバス方式)

- (井口昭久) 老年学について解説  
(伊藤春樹) 障害論を中心に解説  
(神波幸子) 高齢者福祉政策について解説  
(大野竜三) ターミナルケアおよび医療福祉政策について解説  
(佐々木政人) 児童福祉および家族療法について解説  
(谷口明広) 身体障害・知的障害について解説  
(春見静子) 社会福祉の基本について解説  
(諏訪真美) 精神保健について解説  
(高橋俊彦) 精神病理学について解説  
(永田忠夫) 心理学研究について解説

### 【授業の目標】

本研究科ソーシャルサービス専攻における各教員の専門分野について概観することによって、学生が所属すべきゼミナールの選択のための情報を提供する。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション (春見静子/諏訪真美) (第1部)
- 第2回 老年学 (井口昭久)
- 第3回 社会福祉と障害論 (伊藤春樹)
- 第4回 終末期医療とターミナルケア (大野竜三)
- 第5回 高齢者福祉 (神波幸子)
- 第6回 児童福祉と家族援助 (佐々木政人)
- 第7回 心理学研究 (永田忠夫)
- 第8回 身体障害・知的障害 (谷口明広)
- 第9回 社会福祉学 (春見静子)
- 第10回 精神医学・精神保健学 (諏訪真美)
- 第11回 精神医学・精神病理学 (高橋俊彦) (第2部)
- 第12回 研究領域とテーマについて話し合い (関係教授)
- 第13回 研究領域とテーマについて話し合い (関係教授)
- 第14回 研究テーマの決定 (各指導教授)
- 第15回 まとめ (各指導教授)

### 【評価方法】

出席、演習態度とレポートにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

特に指定しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

### 【参考文献・資料】

必要に応じて、授業内で指示する。

## 社会福祉研究 I

井口昭久 伊藤春樹 大野竜三 神波幸子  
佐々木政人 谷口明広 永田忠夫 春見静子

### 【授業の概要】

院生各自の研究テーマを検討し、計画に基づき討議していく。テーマに沿った調査や学習も行なう。そして、修士論文の中間発表会、関連学会等の発表なども利用して、院生の研究活動を指導し、修士論文の完成を支援する。社会福祉研究Iでは、テーマの選択、事前調査、関連文献の調査を中心に、修士論文作成に向けての先行研究・関連研究の調査と問題点の整理に重点を置いた指導を行う。

### 【授業の目標】

- 1 修士論文の作成を支援する
- 2 文献研究の方法を理解する
- 3 量的調査および質的な調査の方法を理解する  
(アンケート調査 インタビュー、ヒヤリング、参加観察の方法等)

### 【授業計画】

- イ 修士論文のテーマの選定  
ロ 先行研究のレビュー  
ハ 文献引用の仕方  
ニ 論文の構成 論理性とオリジナリティ  
ホ 研究方法 仮説の検証 文脈からの読み取り 新しい概念や理論の構築を学ぶために、
- 1 各自が関心のあるテーマに関する主要な国内、海外の論文を講読する
  - 2 主要な質的研究方法について文献から学ぶ

### 【評価方法】

授業への参加状況とレポートによる

### 【テキスト】

授業時に紹介する

## 社会福祉研究 II

井口昭久 伊藤春樹 大野竜三 神波幸子  
佐々木政人 谷口明広 永田忠夫 春見静子

### 【授業の概要】

院生各自の研究テーマを検討し、計画に基づき討議していく。テーマに沿った調査や学習も行なう。そして、修士論文の中間発表会、関連学会等の発表なども利用して、院生の研究活動を指導し、修士論文の完成を支援する。社会福祉研究IIでは、社会福祉研究Iを踏まえて課題の問題点を整理し、研究計画作成の指導、中間発表会による修士論文の研究計画の問題点の検討と修正、研究計画の実施・研究データの収集について指導する。

### 【授業の目標】

- 1 修士論文の作成を支援する
- 2 プレゼンテーションの方法を学ぶ

### 【授業計画】

- 1 論文作成に関係のある基礎文献の購読
- 2 論文の進捗状況を発表し討議する
- 3 中間発表の準備と支援

### 【評価方法】

授業にて明示する。

## 社会福祉研究 III

井口昭久 伊藤春樹 大野竜三 神波幸子  
佐々木政人 谷口明広 永田忠夫 春見静子

### 【授業の概要】

院生各自の研究テーマを検討し、計画に基づき討議していく。テーマに沿った調査や学習も行なう。そして、修士論文の中間発表会、関連学会等の発表なども利用して、院生の研究活動を指導し、修士論文の完成を支援する。社会福祉研究IIIでは、社会福祉研究IIの研究計画実施によって収集したデータの分析、解釈、先行研究や関連研究を踏まえた考察、問題点について、発表会等を通じて検討し、修士論文としてまとめるための支援や指導を行う。

### 【授業の目標】

修士論文の完成に向けての支援を行う

### 【授業計画】

- 1 論文作成上でぶつかる困難や問題を個別に指導する
- 2 参考文献作成の方法を学ぶ
- 3 公開発表の準備と支援

### 【評価方法】

授業にて明示する。

## 精神保健福祉研究 I

諏訪真美 高橋俊彦

### 【授業の概要】

院生各自の研究テーマを検討し、計画に基づき討議していく。テーマに沿った調査や学習も行なう。そして、修士論文の中間発表会、関連学会等の発表なども利用して、院生の研究活動を指導し、修士論文の完成を支援する。精神保健福祉研究Iでは、テーマの選択、事前調査、関連文献の調査を中心に、修士論文作成に向けての先行研究・関連研究の調査と問題点の整理に重点を置いた指導を行う。

### 【授業の目標】

修士論文作成のため院生各自の研究テーマについて、先行研究の知見を学ぶことによって絞込みを行い、具体的な研究課題を決定する。

### 【授業計画】

- 1 修士論文のテーマの選定
- 2 先行研究のレビュー
- 3 文献引用の仕方
- 4 論文の構成 論理性とオリジナリティ
- 5 研究方法 仮説の検証 文脈からの読み取り 新しい概念や理論の構築を学ぶために、
  - ・各自が関心のあるテーマに関する主要な国内、海外の論文を講読する
  - ・主要な質的研究方法・量的研究方法について学ぶ

### 【評価方法】

出席、演習態度、課題レポートにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

授業時に紹介する。

### 【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

## 精神保健福祉研究 II

諏訪真美 高橋俊彦

### 【授業の概要】

院生各自の研究テーマを検討し、計画に基づき討議していく。テーマに沿った調査や学習も行なう。そして、修士論文の中間発表会、関連学会等の発表なども利用して、院生の研究活動を指導し、修士論文の完成を支援する。精神保健福祉研究IIでは、精神保健福祉研究Iを踏まえて課題の問題点を整理し、研究計画作成の指導、中間発表会による修士論文の研究計画の問題点の検討と修正、研究計画の実施・研究データの収集について指導する。

### 【授業の目標】

- 1 修士論文の作成を支援する
- 2 プレゼンテーションの方法を学ぶ

### 【授業計画】

- 1 論文作成に関係のある基礎文献の購読
- 2 論文の進捗状況を発表し討議する
- 3 中間発表の準備と支援

### 【評価方法】

授業にて明示する。

## 精神保健福祉研究 III

諏訪真美 高橋俊彦

### 【授業の概要】

院生各自の研究テーマを検討し、計画に基づき討議していく。テーマに沿った調査や学習も行なう。そして、修士論文の中間発表会、関連学会等の発表なども利用して、院生の研究活動を指導し、修士論文の完成を支援する。精神保健福祉研究IIIでは、精神保健福祉研究IIの研究計画実施によって収拾したデータの分析、解釈、先行研究や関連研究を踏まえた考察、問題点について、発表会等を通じて検討し、修士論文としてまとめるための支援や指導を行う。

### 【授業の目標】

修士論文の完成に向けての支援を行う

### 【授業計画】

- 1 論文作成上でぶつかる困難や問題を個別に指導する
- 2 参考文献作成の方法を学ぶ
- 3 公開発表の準備と支援

### 【評価方法】

授業にて明示する。

## 言語心理学特論

天野成昭

## 【授業の概要】

音声の知覚、音声発達の縦断的音響特徴分析、新しい音声処理技術の応用、基本語彙データベースや音声データベースの構築などのテーマについて研究を進める際の信頼性と妥当性ある手順として、実際のモデルを用いての作業仮説の設定、課題の提示、人間の反応の観測、作業仮説の検証などの言語心理学的手法について理解を深める。

## 【授業の目標】

音声を中心とした言語の認知と生成に関する基礎知識を獲得し、人間の言語情報処理について理解する。

## 【授業計画】

1. 音声とは
2. 音響音声学の基礎
3. 母音の知覚
4. 子音の知覚
5. カテゴリー知覚(範疇知覚)
6. 音声知覚の運動理論
7. 弁別的素性と音声素性検出器
8. 音響的不変性の理論
9. 両耳分離聴
10. 並列分散処理モデル:ボトムアップ対トップダウン
11. 乳児の音声知覚
12. 音声知覚の発達
13. 動物の音声知覚
14. 音声知覚の障害
15. 言語能力の測定

## 【評価方法】

テストまたはレポートを課す。

## 【テキスト】

音声知覚の基礎 (ジャック・ライアルズ著 今富・荒井・菅原監訳 海文堂)

## 【参考文献・資料】

特になし。

## 言語聴覚病理学特論 II

吉野眞理子

## 【授業の概要】

言語発達障害、聴覚障害、発声・構音障害や高次脳機能障害など言語聴覚障害に関わる器官の解剖学、生理学、生化学的知識を基礎として、臨床上重要な疾患の病態を画像による病変部位と症状との対応などから把握する。その上で各言語障害における評価法、最新の治療法(特に発語失行や失構音)、治療の目標設定、指導・訓練・相談・マネジメントの方法と実際について理解を深める。

## 【授業の目標】

言語聴覚障害の解剖学的・生理学的・生化学的基盤を理解し、後天性言語障害の評価・治療の概要について、指導・訓練・相談・マネジメントの方法と実際を含めて習得する。

## 【授業計画】

- イントロダクション：後天性コミュニケーション障害の種類  
コミュニケーション障害の神経基盤・神経画像の見方  
構音障害 (dysarthrias) の症候学  
発語失行の症候学(1)  
発語失行の症候学(2)  
失語の症候学(1)  
失語の症候学(2)  
失読・失書の症候学  
右半球損傷に伴うコミュニケーション障害  
癱瘓に伴うコミュニケーション障害  
外傷に伴うコミュニケーション障害  
後天性コミュニケーション障害の回復と言語治療の効果  
失語の治療史  
失語の治療理論  
後天性コミュニケーション障害への心理社会的アプローチ  
まとめ・ディスカッション

## 【評価方法】

出席状況と講義時の課題・討論への参加、レポートを総合的に評価する。

## 【テキスト】

授業にて紹介する。

## 【参考文献・資料】

授業にて紹介する。

## 言語聴覚病理学特論 I

八田武志

## 【授業の概要】

左右の脳機能の違い(ラテラルリティ)や相互関係に関すること、左ききの認知機能・行動特性について検討する利き手に関すること、脳損傷による非言語性認知障害および認知リハビリテーションを検討する脳損傷と認知機能に関すること、認知心理学的評価テストや人間関係構造の把握検査の開発などメンタル・ストレスに関すること、コンピュータを媒介とする情報伝達特性、日本語認知処理に関することなど最新の研究を通して、神経心理学的な側面から言語聴覚病理学についての理解を深める。

## 【授業の目標】

神経心理学的な側面から日本語認知特性の特徴を理解しつつ、それらの知識に基づく講師自身の研究を通して、言語聴覚病理学についての理解を深める。

## 【授業計画】

1. 離断脳研究について(動物研究、離断脳患者を中心に)
2. 視覚機能における左右脳機能差(ラテラルリティ)
3. 聴覚機能における左右脳機能差(ラテラルリティ)
4. 左右脳機能差(ラテラルリティ)の性差と発現メカニズム
5. 左右脳機能差(ラテラルリティ)の発達とその障害
6. 学習経験・訓練と左右脳機能差(ラテラルリティ)
7. 利き手の起源とその評価方法
8. 左利きの脳機能
9. 認知機能の神経心理学的評価
10. 中高年者と脳損傷者の認知機能
11. 日本語認知処理の特性
12. 脳損傷による認知機能障害と認知リハビリテーション
13. 医療現場での人間関係の把握とメンタルストレスの評価

## 【評価方法】

平常点と発表などから総合的に評価する

## 【テキスト】

とくに指定しないがレジュメやスライドを適宜準備する。

## 【参考文献・資料】

脳のはたらきと行動のしくみ(八田武志 医歯薬出版 2003)  
左ききの神経心理学(八田武志 医歯薬出版 1996)  
シンボル配置技法の理論と実際(八田武志(編) ナカニシヤ出版 2001)

## 言語聴覚療法特論

渋谷直樹

## 【授業の概要】

言語障害に対して言語的手段を用いる治療法は、いかなる機制で成立するのか、また言語障害の性質を分析し、実際の言語治療を展開する上で各治療理論から導き出される実際の根拠に基づいた方法論や治療手技について具体例を交えながら理解を深める。

## 【授業の目標】

障害された言語様式に対して、その障害構造を分析することにより適切な治療理論を選択し、また言語治療プログラムの例を文献研究することによって、訓練の効果や妥当性、マネジメントの適切性について失語を例に考察できる。

## 【授業計画】

- 1) 失語の言語症状と分類
- 2) 3) 失語の言語治療の方法と適用 (1) 刺激・促進法
- 4) 5) 失語の言語治療の方法と適用 (2) 認知神経心理学的アプローチ
- 6) 7) 失語の言語治療の方法と適用 (3) 実用・グループ訓練
- 8) 9) 10) 失語の言語治療例の抄読
- 11) 12) 失語の言語治療の実践例の検討
- 13) 環境システムアプローチの展望
- 14) 最近の研究動向
- 15) 学習評価

## 【評価方法】

レポートを課す。

## 【テキスト】

追って知らせる。

## 【参考文献・資料】

授業にて資料を配布する



## 摂食嚥下障害学特論

長谷川和子

### 【授業の概要】

神経学的疾患や構造的原因による摂食・嚥下障害の発生のメカニズム、検査法・評価法、治療・訓練（間接訓練・直接訓練）、マネジメント、チーム医療について学ぶ。

### 【授業の目標】

摂食嚥下障害の神経学的・生理学的・心理学的発生機序について学び、様々な臨床像を分析し対応できる能力を養う。

### 【授業計画】

下記の項目について、体験や実技を交えて理解を深めながら講義する。

- 摂食嚥下機能の神経学的過程
- 摂食嚥下障害の様々な病態
- 評価と分析
- 治療法

### 【評価方法】

出席状況、授業態度、レポートの成績を総合して評価する。

### 【テキスト】

プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

## 視覚心理学特論

河本健一郎

### 【授業の概要】

人間の「見え」の機能とそのメカニズムの基礎について概説する。明るさの知覚、色覚、人間の色弁別特性、形の知覚、図と地の分化、錯視、運動視、奥行き視に関するトピックを取り上げ、その現象と理論について学ぶとともに、視覚心理学の研究法、視覚心理学の応用、高齢者やロービジョン者の視覚特性の測定・評価について理解を深める。

### 【授業の目標】

視覚心理学の概要を紹介するとともに、視覚心理学の知見を応用に役立てるための方法について理解を深める。

### 【授業計画】

- 1) 視覚系の構造
- 2) 明るさの知覚
- 3) 色覚 1
- 4) 色覚 2
- 5) 形の知覚
- 6) 運動視
- 7) 立体視
- 8) 視知覚と認知機能
- 9) 高齢者・ロービジョン者の視覚情報受容特性
- 10) 色覚のバリエーション
- 11) 色の知覚と情報伝達
- 12) 工学・臨床との接点
- 13) 視覚研究の方法 1
- 14) 視覚研究の方法 2
- 15) まとめ

### 【評価方法】

出席、討論と質疑応答 70%  
期末レポートによる評価 30%

### 【テキスト】

プリントを配布する。また必要に応じて、授業にて指定する。

### 【参考文献・資料】

必要に応じて、授業にて指定する。

## 生理光学特論

嶋飼一彦

### 【授業の概要】

眼球光学系の特徴やその生理機能の基礎について学び、屈折異常や調節、瞳孔対光反応、眼球運動、輻輳の機能について理解を深める。また、調節と輻輳、調節と老視、調節と弱視、調節と輻輳における順応、ヘッドマウントディスプレイの使用による屈折・調節・輻輳機能への影響、眼精疲労、映像酔いなどのトピックについても取り上げ、解説する。

### 【授業の目標】

生理光学は、眼球の光学と視機能の基礎を扱う学問分野である。この分野に関しては、視能矯正学の基礎であり、すでにひととおり学習している事と思うが、そこで扱われているのは何十年も前に明らかにされた事が主で、最新の知見はわずかしか含まれていない。この分野も視覚に関する研究の進展とともに新しい知見が続々と得られており、それらについてともに考えて行きたい。

### 【授業計画】

- 1) 光学の基礎 (波としての光、幾何光学)
- 2) 視覚の基礎 1. 眼球光学
- 3) 視覚の基礎 2. 屈折と調節
- 4) 視覚の基礎 3. 眼球運動
- 5) 視覚の基礎 4. 両眼視機能
- 6) 視覚の基礎 5. 形態覚
- 7) 視覚の基礎 6. 運動視
- 8) 学生による論文紹介
- 9) 平衡覚と視覚
- 10) 自律神経と視機能
- 11) 視機能臨床検査と視覚の基礎
- 12) 視覚人間工学
- 13) 学生による論文紹介

### 【評価方法】

いくつかの候補の中から各自で選んだ論文の内容を発表する。発表の際に基礎的事項をどの程度理解しているかを評価する。

### 【テキスト】

なし

### 【参考文献・資料】

Vision Research, Journal of Vision, Ophthalmic and Physiological Optics, Investigative Ophthalmology, Optometry and Vision Science, などの雑誌に掲載された論文

## 視覚病理学特論 I

大庭紀雄

### 【授業の概要】

臨床重要な眼疾患の病態、特に遺伝性の眼底疾患の臨床と研究の動向について概説し、その検査法、治療法について理解を深める。眼科領域にはさまざまな遺伝性の眼底疾患があるので、眼の発生と遺伝について基本的事項を説明するとともに、網膜色素変性症をはじめとする視細胞変性、脈絡膜変性、硝子体網膜変性の各種症候群について実際の症例を示してその成因、病態、診断について解説する。

### 【授業の目標】

1. 眼の発生についての基本事項を理解し説明することができる。
2. 眼の遺伝についての基本事項を理解し説明することができる。
3. 眼の発生異常についての基本事項を理解し説明することができる。
4. 眼の遺伝性疾患についての基本事項を理解し説明することができる。
5. 眼の発生や遺伝や、それぞれが関わる疾病の問題点を明らかにすることができる。
6. 眼の発生や遺伝の未解決問題を指摘し、研究すべき課題を検討することができる。

### 【授業計画】

1. 眼球、付属器、視路、視覚中枢の発生に関する基礎的知識
2. 眼の発生に関する基礎的知識
3. 眼の遺伝病についての基礎的知識
4. 眼の先天異常や遺伝病についてのカウンセリングについての基礎的知識
5. 眼の先天異常の研究方略
6. 眼の遺伝病の研究方略
7. 眼の発生や遺伝に関する研究論文の探索
8. 眼の発生や遺伝に関する論文の執筆

### 【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート、論文および筆記試験の成績を総合して評価する。

### 【テキスト】

プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

## 視覚病理学特論 II

三宅養三

### 【授業の概要】

電気生理学的な検査による糖尿病黄斑症など黄斑部の臨床疾患や、黄斑手術に伴う黄斑部の機能変化について概説し、ヒトの視覚機能において重要な役割を担う網膜黄斑部の電気反応と疾患の関係について解説する。また、視器の解剖学、電気生理学、病態生理学的な基礎について学ぶとともに、臨床上重要な眼疾患の病態、その検査法、治療法の概要についても理解を深める。

### 【授業の目標】

1. 視覚の生理についての基本事項を理解し説明することができる。
2. 網膜視覚電気生理検査の基本事項を理解し説明することができる。
3. 網膜疾患の基本事項を理解し説明することができる。
4. 黄斑部疾患の診断と治療の基本事項を理解し説明することができる。

### 【授業計画】

1. 視覚の生理に関する基礎的知識
2. 網膜の機能生理に関する基礎的知識
3. 網膜疾患についての基礎的知識
4. 黄斑部疾患についての基礎的知識
5. 網膜、黄斑部疾患の生理学的研究法

### 【評価方法】

出席状況、受講態度、レポートおよび筆記試験の成績を融合して評価する。

### 【テキスト】

プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

## 言語発達障害学演習

中嶋理香 宮田Susanne

### 【授業の概要】

(概要) 小児の言語発達とその遅れについて理解を深める。まず、健常児の音韻、語彙、文法、意味、語用の発達を学習する。しかる後に、言語発達の遅れの原因にそって状態像の特徴、評価と診断の方法、治療の方策について最新の研究を探り、遅れの改善のあり方を考察する。

(オムニバス方式)

(宮田 Susanne) 成人の言語能力を背景に、健常児が獲得する音韻、語彙、文法、意味、語用について学ぶ。  
(中嶋理香) 言語発達障害児の言語発達と言語獲得について、障害別の特徴、評価、およびアプローチの実践について学ぶ。

### 【授業の目標】

1. 健常児の言語発達と言語運用などについて理解する。
2. 言語発達障害児の言語発達と言語獲得の特徴について理解する。
3. 障害別の特徴、評価法、アプローチの実践について学ぶ。

### 【授業計画】

前半7回(宮田) 言語発達の論文の講読(英語、日本語)。  
後半8回(中嶋) 言語発達障害に関する論文の講読。

### 【評価方法】

宿題およびレポートにもとづく。

### 【参考文献・資料】

『よくわかる言語発達』(岩立志津夫・小椋たみ子編 ミネルヴァ書房)

## 視覚障害学特論

小田浩一

### 【授業の概要】

視覚障害者の障害の特性や心理的社会的側面における現状と課題について学習する。具体的には、視機能の特性や高次の認知機能に関する障害の基礎について学ぶとともに、弱視レンズや各種補助器具の特徴と問題点について取り上げ、障害の特性に応じた教育的支援・福祉的支援、中途失明者のリハビリテーション訓練、視覚障害者の福祉的支援のあり方について理解を深める。

### 【授業の目標】

視覚機能が低下したとき我々の行動はどうなるのか?特に、コミュニケーションや読書がどのように変化するのか?補助具の開発や選定という解決策を、視覚科学・感覚知覚・認知心理学的にどう理解し、どう改善していくのか考える。

### 【授業計画】

1. ロービジョンと視覚障害
2. 視覚障害による生活への影響と、補助具の意味
3. 目が悪いと視覚障害の関係、視力とは?屈折異常とは?
4. 視覚障害の公的定義と公的サービス
5. ロービジョンのタイプ分け-1/4:視力低下
6. ロービジョンのタイプ分け-2/4:コントラスト低下
7. ロービジョンのタイプ分け-3/4:視野狭窄と中心暗点
8. ロービジョンのタイプ分け-4/4:照明への不適応
9. ロービジョン・シミュレーションと補助具による困難の解消-1/3
10. ロービジョン・シミュレーションと補助具による困難の解消-2/3
11. ロービジョン・シミュレーションと補助具による困難の解消-3/3
12. 全体のまとめ

### 【評価方法】

講義の途中で行う発表や議論、実習や課題の内容を評価する。

### 【テキスト】

特に使用しない。ハンドアウトを用いる。

### 【参考文献・資料】

眼科プラクティス14-ロービジョンケアガイド(樋田哲夫編 文光堂2007)/ロービジョン 新編感覚知覚ハンドブック P.229-236(小田著 大山・和気編 誠信書房2007)/視覚情報処理ハンドブック 13章 発達・加齢・障害 Pp.519-561.(小田著 日本視覚学会編 朝倉書店2000)

## 発声発語障害学演習

織田千尋 加藤正子

### 【授業の概要】

(概要) 言語聴覚障害の中で音声言語の産生に関して学ぶ。機能性構音障害や口唇口蓋裂、舌切除後、鼻咽腔閉鎖不全などの器質性構音障害、および脳血管障害に派生する運動性構音障害など発声発語障害を主症状とする成人及び小児の言語障害について理解を深める。発声発語障害の評価・診断・治療に対する原理と具体的な方法などを文献と事例に基づき検討する。

(オムニバス方式)

(加藤正子) 小児の構音障害と言語管理について  
(織田千尋) 成人の構音障害

### 【授業の目標】

発声発語の産生機序について学ぶ。  
成人と小児の構音障害の評価・診断・治療に対する原則と臨床について、理解する。

### 【授業計画】

1. 発声発語の産生の基礎知識  
構音器官の解剖・生理  
臨床音声学  
構音障害の発症原因
2. 小児の構音障害  
小児の構音とその障害について理解する。  
音の誤りの分析、評価法、診断法、治療法について学ぶ。
3. 成人の構音障害  
成人の構音障害の中でも、特に運動障害性構音障害について理解する。  
構音障害の種類、評価法、診断法、治療法について学ぶ。

### 【評価方法】

出席、演習態度とレポートにより総合評価する。

### 【テキスト】

授業内で指示する。

### 【参考文献・資料】

授業内で指示する。

## 高次脳機能障害学演習

阿部順子 吉田 敬

### 【授業の概要】

失語症を中心とした高次脳機能障害の症状、評価法、指導法などについて考える。特に認知神経心理学的な観点に基づき日本語失語症者の言語症状を多面的に評価する方法や会話データの解析方法、失文法における意味的役割の解明など、その結果を訓練に反映させる実際的な治療方法について学ぶ。さらに履修者による文献研究ないし臨床研究の発表をもとに討論を行い理解を深める。

### 【授業の目標】

高次脳機能障害の各領域について、受講者の研究テーマを深める。

### 【授業計画】

1. 高次脳機能障害の研究の概略
2. コミュニケーション障害
3. 注意障害
4. 記憶障害
5. 遂行機能障害
6. その他の高次脳機能障害

### 【評価方法】

授業内での研究発表、期末レポートにより評価する。

### 【テキスト】

受講生の興味に応じて決定する。

### 【参考文献・資料】

授業内で指定する。

## 聴覚障害学演習

井脇貴子 丹羽英人

### 【授業の概要】

(概要) 聴覚障害について医学的見地から障害のメカニズムについて学び、聴覚障害の原因とその聴覚検査法に基づく評価、および一次および高次聴覚野の機能、抹消と中枢での聴覚の役割について理解を深める。また言語面から聴覚障害について評価、聴覚補償、聴覚活用、アプローチの方法について検討する。

(オムニバス方式)

(井脇貴子) 言語聴覚障害学の立場から聴覚障害者の心理的サポート、言語聴覚環境の整備、語音聴取評価と日常聴覚活用訓練プログラムの実践について学ぶ。

(丹羽英人) 聴覚医学の立場から聴覚障害の機序についての基礎、およびその検査・診断と治療について学ぶ。

### 【授業の目標】

医学的側面と言語聴覚学的側面から聴覚障害について学び、独自のテーマに対する研究を行うための基礎力を養う。

### 【授業計画】

- |           |   |
|-----------|---|
| 第1回       | オリエンテーション   |
| 第2回～第7回   | 聴覚医学の基礎を中心とする事例を取り上げ講義する。                         |
| 第8回～第13回  | Audiology, Speech pathologyの観点から、講義形式と討論形式で授業を行う。 |
| 第14回～第15回 | まとめ   |

### 【評価方法】

出席、態度、課題レポートにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

特に指定しない。

### 【参考文献・資料】

必要に応じて、授業中に指定する。

## 視覚心理学演習

高橋啓介 高橋伸子

### 【授業の概要】

(概要) 視覚心理学の現象と理論について基礎を学び、運動知覚、奥行知覚、形の知覚、視空間、明るさの知覚、色の知覚、体制化、視覚記憶のトピックについて文献講義を中心とする演習を通じて、人間の「見え」の機能とメカニズムに関する理解を深める。

(オムニバス方式)

(高橋啓介) 視覚的枠組みと視空間の知覚、奥行き知覚、明るさの知覚、色の知覚。

(高橋伸子) 運動知覚、形の知覚、統合と体制化、視覚記憶。

### 【授業の目標】

当該分野における最新の知見について知識を深め、研究の基礎能力を高める。

### 【授業計画】

- |          |               |
|----------|---------------|
| 第1回      | オリエンテーション     |
| 第2回～第8回  | 原著論文の講義(高橋伸子) |
| 第9回～第15回 | 原著論文の講義(高橋啓介) |

### 【評価方法】

出席、演習態度とレポートによって総合的に評価する。

### 【テキスト】

特に指定しない。

### 【参考文献・資料】

必要に応じて、授業中に指定する。

## 視能検査学演習

田邊宗子

### 【授業の概要】

視器の解剖学、生理学の知識を基礎として、主に眼科における写真学を中心に学ぶ。眼科写真学の基礎、一眼レフを使用したものから細隙灯写真及び、眼底カメラの応用による前眼部写真の技法の習得、また、カラー眼底写真から蛍光眼底撮影(フルオレセイン蛍光眼底造影・ICG(indocyanine green) 蛍光眼底造影)及びその他特殊撮影(単色光撮影、立体撮影)について概説し、造影検査を含む眼底写真による検査方法とその評価の仕方について理解を深める。

### 【授業の目標】

視器の解剖学、生理学の知識を基に各疾患にあった客観的な記録及び診断に必要な写真を撮るための技法の習得。

### 【授業計画】

- 1) 外眼部撮影
- 2) 9方向眼位
- 3) 細隙灯写真及び、眼底カメラの応用による前眼部写真
- 4) 眼底写真
  - 1) カラー眼底写真(後極部・パノラマ)
  - 2) 蛍光眼底造影(FA・ICG)
  - 3) 特殊撮影(単色光撮影・立体撮影)

\*受講人数により、講義の方法内容が一部変わることがあります。

### 【評価方法】

出席状況・受講態度・レポート及び筆記試験

### 【テキスト】

適宜プリントを配布

### 【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介

## 視能矯正学演習

平井淑江

## 【授業の概要】

通常ヒトは2つの眼球が6cm程離れて眼窩に収まっているのにも係わらず単一眼として働いている。その単一眼は一つ眼小僧のように顔の中央、鼻根部にあって、身体を中心として位置関係を的確に認識している。演習では、この問題に関するケプラー、ニュートン、ヘリング、ヘルムホルツから最近に至る文献講読を通して両眼視機能について学び、また、身近な材料を用いた両眼視機能検査用具の作成を試みる。

## 【授業の目標】

両眼視研究の起源から現代までの流れを文献講読を通して理解する。  
両眼視に関する独自のテーマを考える。

## 【授業計画】

単眼視と両眼視の違いを理解する。  
両眼視についての文献を読む。  
両眼視検査のための各眼分離の方法を考える。  
両眼視機能検査用具を作成する。

## 【評価方法】

理論的思考・独自性等を総合的に判断する。

## 【テキスト】

特になし。国内外の論文を購読する。

## 【参考文献・資料】

特になし

## 視覚障害学演習 I

川嶋英嗣 田中恵津子

## 【授業の概要】

視覚障害者の障害の特性や心理的社会的側面における現状と課題について演習を通じて実践的に学ぶ。演習では障害に応じた視機能の特性や文字の読みをはじめとする認知機能の特性、障害に応じて必要な補助器具や教育的支援・福祉の支援について実際の器具や実例をもとに解説し、理解を深める。演習の運営や指導のための必要から、二人の担当者が同時に担当する。

## 【授業の目標】

ロービジョンの行動評価の方法について理解するとともに、個々の視機能の特性に応じた支援のあり方について考える力を養う。

## 【授業計画】

下記の内容について集中授業を行う予定である。  
授業に必要な準備については追って指示する。

- ・ロービジョンに関する行動評価の実際
- ・ロービジョンに関する最新知見の文献購読

## 【評価方法】

出席、演習態度、レポートにより総合的に評価する。

## 【テキスト】

特に指定しない。

## 【参考文献・資料】

必要に応じて、指示する。

## 視覚障害学演習 II

川瀬芳克

## 【授業の概要】

光学的補助具の特性をレンズ光学および眼光学の立場から解説し、網膜像の拡大および波長の選択性について演習する。

## 【授業の目標】

1. 各種レンズの光学的特性の理解
2. 網膜像の拡大および縮小の方法とその効果および限界の理解
3. 波長特性のあるフィルターの分光特性と視機能の関係の理解

## 【授業計画】

1. 光学的補助具
  - 1) レンズの基本
  - 2) 手持ち型拡大鏡の光学的特性
  - 3) 卓上型拡大鏡の光学的特性
  - 4) 単眼鏡の光学的特性
  - 5) 光学的補助具と屈折異常の関係
  - 6) 光学的補助具の選択と指導
2. 波長特性と視機能
  - 1) 波長特性のあるフィルターの基本
  - 2) 羞明、コントラストと波長特性の関係
3. 光学的補助具選定の実際

## 【評価方法】

出席、演習とレポートにより総合的に評価する。

## 【テキスト】

特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。

## 【参考文献・資料】

必要に応じて、授業内で指示する。

## コミュニケーション障害研究

井脇貴子 大庭紀雄 加藤正子 川嶋英嗣 川瀬芳克 高橋啓介 高橋伸子  
丹羽英人 平井淑江 三宅養三 宮田Susanne 吉田 敬 渡邊一功

## 【授業の概要】

(概要) 言語聴覚学および視覚科学の研究テーマについて広く学習し、各自の研究テーマの方向性を検討して所属ゼミを決定する。

(オムニバス方式)  
(井脇貴子) 聴覚言語障害学  
(加藤正子) 構音障害  
(丹羽英人) 聴覚医学  
(宮田Susanne) 言語発達と言語心理学  
(吉田敬) 高次脳機能障害学  
(渡邊一功) 発達障害学  
(大庭紀雄) 遺伝性疾患と視覚病理学  
(川嶋英嗣) 視覚障害学と視覚心理学  
(高橋啓介) 視空間知覚・興行き知覚と視覚心理学  
(高橋伸子) 運動知覚・形の知覚と視覚心理学  
(平井淑江) 視能矯正学  
(三宅養三) 電気生理学的検査と視覚病理学  
(川瀬芳克) ロービジョンと支援

## 【授業の目標】

本研究科コミュニケーション障害学専攻における各教員の専門分野について概観することによって、学生が所属すべきゼミナールの選択のための情報を提供する。

## 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション (高橋啓介)  
(第1部 言語聴覚学領域)
- 第2回 言語発達と言語心理学 (宮田Susanne)
- 第3回 発達障害学 (渡邊一功)
- 第4回 高次脳機能障害学 (吉田敬)
- 第5回 聴覚医学 (丹羽英人)
- 第6回 聴覚言語障害学 (井脇貴子)
- 第7回 構音障害 (加藤正子)  
(第2部 視覚科学領域)
- 第8回 視覚障害学と視覚心理学 (川嶋英嗣)
- 第9回 視空間知覚・興行き知覚と視覚心理学 (高橋啓介)
- 第10回 運動知覚・形の知覚と視覚心理学 (高橋伸子)
- 第11回 電気生理学的検査と視覚病理学 (三宅養三)
- 第12回 遺伝性疾患と視覚病理学 (大庭紀雄)
- 第13回 視能矯正学 (平井淑江)
- 第14回 ロービジョン (川瀬芳克)
- 第15回 まとめ (高橋啓介)

## 【評価方法】

出席、演習態度とレポートにより総合的に評価する。

## 【テキスト】

特に指定しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

## 【参考文献・資料】

必要に応じて、授業内で指示する。



## 言語聴覚学研究 I

井脇貴子 加藤正子 丹羽英人  
宮田Susanne 吉田 敬 渡邊一功

## 【授業の概要】

院生各自の研究テーマを検討し、計画に基づき討議していく。テーマに沿った調査や学習も行なう。そして、修士論文の中間発表会、関連学会等の発表なども利用して、院生の研究活動を指導し、修士論文の完成を支援する。言語聴覚学研究Iでは、テーマの選択、事前調査、関連文献の調査を中心に、修士論文作成に向けての先行研究・関連研究の調査と問題点の整理に重点を置いた指導を行う。

## 【授業の目標】

修士論文作成のための学生各自の研究テーマについて、先行研究の知見を学ぶことによって絞込みを行い、具体的な研究課題を決定する。

## 【授業計画】

第1回	オリエンテーション
第2回～第4回	研究テーマの決定
第5回～第8回	先行研究原著論文の購読
第9回～第12回	研究計画の策定
第13回～第15回	予備的調査・実験

## 【評価方法】

出席、演習態度、課題レポートによって総合的に評価する。

## 【テキスト】

特に指定しない。

## 【参考文献・資料】

必要に応じて、授業内で指示する。

## 言語聴覚学研究 II

井脇貴子 加藤正子 丹羽英人  
宮田Susanne 吉田 敬 渡邊一功

## 【授業の概要】

院生各自の研究テーマを検討し、計画に基づき討議していく。テーマに沿った調査や学習も行なう。そして、修士論文の中間発表会、関連学会等の発表なども利用して、院生の研究活動を指導し、修士論文の完成を支援する。言語聴覚学研究IIでは、言語聴覚学研究Iを踏まえて課題の問題点を整理し、研究計画作成の指導、中間発表会による修士論文の研究計画の問題点の検討と修正、研究計画の実施・研究データの収集について指導する。

## 【授業の目標】

授業にて明示する。

## 【授業計画】

授業にて明示する。

## 【評価方法】

授業にて明示する。

## 言語聴覚学研究 III

井脇貴子 加藤正子 丹羽英人  
宮田Susanne 吉田 敬 渡邊一功

## 【授業の概要】

院生各自の研究テーマを検討し、計画に基づき討議していく。テーマに沿った調査や学習も行なう。そして、修士論文の中間発表会、関連学会等の発表なども利用して、院生の研究活動を指導し、修士論文の完成を支援する。言語聴覚学研究IIIでは、言語聴覚学研究IIの研究計画実施によって収集したデータの分析、解釈、先行研究や関連研究を踏まえた考察、問題点について、発表会等を通じて検討し、修士論文としてまとめるための支援や指導を行う。

## 【授業の目標】

授業にて明示する。

## 【授業計画】

授業にて明示する。

## 【評価方法】

授業にて明示する。

## 視覚科学研究 I

大庭紀雄 川嶋英嗣 川瀬芳克 高橋啓介  
高橋伸子 平井淑江 三宅養三

## 【授業の概要】

院生各自の研究テーマを検討し、計画に基づき討議していく。テーマに沿った調査や学習も行なう。そして、修士論文の中間発表会、関連学会等の発表なども利用して、院生の研究活動を指導し、修士論文の完成を支援する。視覚科学研究Iでは、テーマの選択、事前調査、関連文献の調査を中心に、修士論文作成に向けての先行研究・関連研究の調査と問題点の整理に重点を置いた指導を行う。

## 【授業の目標】

修士論文作成のための学生各自の研究テーマについて、先行研究の知見を学ぶことによって絞込みを行い、具体的な研究課題を決定する。

## 【授業計画】

第1回	オリエンテーション
第2回～第4回	研究テーマの決定
第5回～第8回	先行研究原著論文の購読
第9回～第12回	研究計画の策定
第13回～第15回	予備的調査・実験

## 【評価方法】

出席、演習態度、課題レポートによって総合的に評価する。

## 【テキスト】

特に指定しない。

## 【参考文献・資料】

必要に応じて、授業内で指示する。

## 視覚科学研究 II

大庭紀雄 川嶋英嗣 川瀬芳克 高橋啓介  
高橋伸子 平井淑江 三宅養三

### 【授業の概要】

院生各自の研究テーマを検討し、計画に基づき討議していく。テーマに沿った調査や学習も行なう。そして、修士論文の中間発表会、関連学会等の発表なども利用して、院生の研究活動を指導し、修士論文の完成を支援する。視覚科学研究IIでは、視覚科学研究Iを踏まえて課題の問題点を整理し、研究計画作成の指導、中間発表会による修士論文の研究計画の問題点の検討と修正、研究計画の実施・研究データの収集について指導する。

### 【授業の目標】

修士論文作成のための実験・調査等を実施してデータを取得し、それらの分析を通して、修士論文研究を展開する。

### 【授業計画】

第1回 オリエンテーション  
第2回～第15回 研究指導

### 【評価方法】

出席、演習態度、毎回の研究報告によって総合的に評価する

### 【テキスト】

特に指定しない。

### 【参考文献・資料】

必要に応じて、授業内に指示する。

## 視覚科学研究 III

大庭紀雄 川嶋英嗣 川瀬芳克 高橋啓介  
高橋伸子 平井淑江 三宅養三

### 【授業の概要】

院生各自の研究テーマを検討し、計画に基づき討議していく。テーマに沿った調査や学習も行なう。そして、修士論文の中間発表会、関連学会等の発表なども利用して、院生の研究活動を指導し、修士論文の完成を支援する。視覚科学研究IIIでは、視覚科学研究IIの研究計画実施によって収集したデータの分析、解釈、先行研究や関連研究を踏まえた考察、問題点について、発表会等を通じて検討し、修士論文としてまとめるための支援や指導を行う。

### 【授業の目標】

修士論文作成のための実験・調査等を実施してデータを取得し、それらの分析を通して、修士論文研究を展開し、修士論文を作成する。

### 【授業計画】

第1回 オリエンテーション  
第2回～第15回 研究指導

### 【評価方法】

出席、演習態度、毎回の研究報告によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

特に指定しない。

### 【参考文献・資料】

必要に応じて、授業内に指示する。

## 学校経営と学校図書館

小栗正彦

### 【授業の概要】

学校教育における学校図書館の教育的意義を確認し、より効果的な学校図書館の活用を目指し、教職員のみでなく、生徒会及びPTAとの連携を視野に入れた望ましい学校図書館の組織と運営はいかにあるべきかを、次の点に視座をあてて、具体的な成功事例を紹介し学習する。

### 【授業の目標】

司書教諭及び学校図書館司書教諭の資格取得のために必要な基礎的知識を習得する。

### 【授業計画】

第1時限	講義の進め方と評価の方法などについて
第2時限	あなたにとって「本を読む」とは、「図書館」を利用するということ。
第3時限	学校図書館の理念と教育的意義
第4時限	学校図書館法とは（学校図書館法の展開と改正）
第5・6時限	学校図書館の歴史と現状、制度、法規、基準（施設、設備など）
第7時限	教育行政と学校図書館
第8時限	学校図書館の「経営」とは（学校図書館に関わる人びと）
第9時限	学校図書館の経営要素（資料、施設・設備、予算、図書館サービス）
第10時限	学校図書館メディアの内容と構成
第11時限	司書教諭の役割とその問題点
第12時限	生徒たちに対する読書指導のあり方 ・君達が読ませたいと思う本、君達に読んでもらいたい本 レファレンスのあり方 何をどう調べるか
第13時限	学校図書館の国際的動向と先進事例
第14時限	いま「本の世界」で問題になっていること
最終回	試験

### 【評価方法】

課題の提出、学習態度、出席状況などにより、総合的に評価する。

### 【テキスト】

必要に応じて資料を配付する。

### 【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

## 学習指導と学校図書館

枝元益祐

### 【授業の概要】

学校図書館は、教育に必要な資料を生徒及び教員の利用に供することによって、(1) 学校の教育課程の展開に寄与するとともに、(2) 生徒の健全な教養を育成することを目的としている。

この授業では、(1) の目的を達成するために学校図書館はどのようなものでなければならないかを、蔵書構成や利用指導の現状と実践例、教科学習や総合学習における図書館利用の方法と実践例について学ぶ。

また、司書教諭の役割とこれからの学校教育に占める重要性について学習するとともに、利用指導の図書館実習を体験することによって、司書教諭の仕事への理解を深める。

### 【授業の目標】

学校において行われる教育活動全体の中での学習指導の位置付けと機能とを学校図書館が担う教育活動に関連付けることによって、その重要性を浮き彫りにする。

そこで、カリキュラム展開の中での学校図書館が学習指導に果たし得る効果を教育制度とストリートレベルとの双方の観点から捉えるとともに、メディア活用能力の重要性とその涵養、発展方法について論及、考察する。

### 【授業計画】

1. 学校教育における学習指導の位置付けとそこに果たす学校図書館の役割（総論）
2. 司書教諭の専門性と学習支援
3. 学習理論の観点から見る学習行動及びそこに果たす学校図書館の役割
4. 発達段階に応じた学校図書館メディアの活用
5. 情報メディア活用能力と学校図書館活動
6. 学校図書館における情報サービスと学習指導
7. 公教育と学校図書館及び学習指導の意義

### 【評価方法】

授業内での課題及び試験を総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用しない。適宜教材資料等を配布する。

### 【参考文献・資料】

学校教育と図書館－司書教諭科目のねらい・内容とその解説（志保田務、北克一、山本順一 編著 第一法規）

## 学校図書館メディアの構成

枝元益祐

### 【授業の概要】

情報化の著しい進展と共に、従来の活字メディア中心の学校図書館は児童生徒の活字離れにより、大きく変容を迫られている。これからの学校図書館は、児童生徒が喜んで利用できるよう、そのニーズに応え、多様なメディアを取り入れなければならない。この点を中心にして、これからの学校図書館のメディア構成を考えてみたい。

### 【授業の目標】

1. 学校教育における学校図書館の果たす役割を理解し、そこに寄与する学校図書館メディア全体の諸相を理解する。
2. 学校図書館の各種メディアを特性を理解し収集選択する上での諸問題を考察する。
3. 学校図書館メディアの組織化（分類、目録、件名）とその機能を習熟する。
4. これからの理想とする学校図書館のあり方を考える。

### 【授業計画】

1. 学校教育における学校図書館メディアの効果（総論）
2. 学校教育に寄与するメディア群の特性の把握
  - (1) 現在の学校図書館メディアの実態分析
  - (2) 児童会・生徒会図書委員会と学校図書館の資料選定
  - (3) 児童生徒が学校図書館に期待するものは何か
3. 教育の情報化に寄与する学校図書館活動
  - (1) 学校教育における情報メディアと学校図書館メディアとの関連
  - (2) 教育課程の展開に寄与する学校図書館メディア
  - (3) 教科教育および調べ学習・総合学習に有益な学校図書館メディア構成
4. 学校図書館メディアの組織化
  - (1) 分類の意義と分類作業の基本
  - (2) 目録の種類と目録作業の基本、目録の機械化
  - (3) 子ども（児童・生徒）への資料提供

### 【評価方法】

授業内での課題及び試験を総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用しない。適宜教材資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

学校図書館メディアの構成（小田光宏編 樹村房）  
分類・目録法入門（木原通夫・志保田務 新改訂第3版 第一法規）  
学校教育と図書館－司書教諭科目のねらい・内容とその解説（志保田務、北克一、山本順一 編著 第一法規）

## 読書と豊かな人間性

梅田卓夫

### 【授業の概要】

現在、児童生徒の読書離れの傾向は拡大し、まったくと言っていいほど本を読まなくなってきた。

児童生徒の読書離れの要因と実態を解明するとともに、学校図書館が「読書と豊かな人間性」の視点に立って、どのような役割を果たすべきかを、具体的な事例を紹介するとともに、一方的な講義に終わることなく、受講者自身の体験も取り入れ、以下のような視座に立った参加型授業を展開する。

### 【授業の目標】

人類の歴史の中で、図書館・本・読書はどのような役割を果たしてきたか。また個人の成長の過程で読書はどのような意味を持つか。人間精神と読書との関わりを、事例によって見ながら、学校図書館および学校図書館司書が「豊かな人間性」のために果たすべき役割を考える。

### 【授業計画】

1. 読書のよこごび
  - (1) 読書との出会いとよこごび——先人の読書経験から学ぶ
2. 人間形成と読書
  - (1) 幼児期における読み聞かせの教育的意味
  - (2) 少年期・青年期における読書との出会い
  - (3) 読書による、内省、思索の意義
3. 学校教育における読書指導
  - (1) 教師による本の紹介、読み聞かせ
  - (2) 「十分間読書」「朝の黙読」等の実践例
4. 読書と仲間作り
  - (1) 家庭・友人間での読書、対話、読書会
  - (2) 学区図書館を利用した共同研究
5. 読書の技術
  - (1) 情報収集のための「読書」と思索のための読書
  - (2) 愛読書、好きな作家

### 【評価方法】

出席状況及びレポートによる。

### 【テキスト】

プリントを配布する。

## 情報メディアの活用

枝元益祐

### 【授業の概要】

学校図書館の高度情報化は21世紀には避けて通れない状況である。現在の状況は必ずしも満足はできないが、学校図書館に将来関係すると思われる新しいメディアの運用についての基礎知識と技能は、今後学校図書館の仕事に携わる教員にとって必須だと言える。以上の観点から、次のテーマで実践的な学習を行ない、これからの情報化される学校図書館の効果的な活用を目標とする。

### 【授業の目標】

教育の情報化にあつて、学校図書館にはその中枢機関としての機能が求められている。その前提となるのがメディアを活用する能力である。その根底となる考え方に焦点を当てる。

### 【授業計画】

1. 学校図書館と情報機器
  - (1) 学校図書館におけるコンピュータの役割と活用
  - (2) 学校図書館に設置する情報機器
2. 学校図書館とコンピュータとの関わり
  - (1) 図書検索とコンピュータ (OPAC)
  - (2) インターネットを使用しての資料の収集
3. 学校図書館の情報メディアの活用
  - (1) 視覚メディアとしてのVTR等
  - (2) 聴覚メディアとしてのDVD、CD等
  - (3) 活字メディアに代わるCDRom、マイクロフィルム等
  - (4) 情報メディアの今後の動向とその対応
4. メディアの捉え方の諸相

### 【評価方法】

授業内での課題及び試験を総合して評価する。

### 【テキスト】

使用しない。適宜教材資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

学校教育と図書館－司書教諭科目のねらい・内容とその解説（志保田務、北克一、山本順一 編著 第一法規）



## 英語海外セミナー II (オーストラリア)

ARNOLD, Brent C.

## 【Course description】

Students will be in an English Immersion course at Canberra University. They will study and practise English language in class, and then have an opportunity to really use English during out-of-class activities and weekly excursions to places of interest around Canberra. Students will home-stay for the entire period in Canberra.

## 【Course objectives】

This course will allow students to improve their English skills, and increase their accuracy, fluency and confidence in expressing themselves in English. The English environment and conversation in and outside the classroom will also improve listening comprehension.

## 【Course schedule】

Daily schedules include morning classes and afternoon activities. Wednesday afternoons will be set aside for excursions to places of interest such as a farm, the National Gallery and Questacon, an interactive science museum.

## 【Assessment】

Assessment will be based on Canberra University's standards, which evaluate a student's ability to use English, their willingness to try to use English, and improvement in English ability.

## 【Textbooks】

No text. Worksheets will be given as necessary.

## 英国インターンシッププログラム

WOODMAN, Jo-Anne

## 【Course description】

This summer internship programme is designed to allow the students to experience studying, living, and working in England. The course will involve two weeks of English lessons, followed by two weeks work-experience. The English lessons will emphasize the specific language and communication skills needed in a British work environment. The internship placement will be decided after considering the preferences and language ability of each student.

## 【Course objectives】

This is a unique opportunity for ASU students...they will have English lessons, a home-stay, a multitude of extra-curricular activities, PLUS the chance to acquire knowledge and experience of British corporate culture. Consequently, the students should be better equipped to make informed career decisions.

In addition, potential employers will appreciate the internship experience has helped to broaden their perspective, increased their self confidence, and improved their ability to work and communicate in English.

## 【Course schedule】

The programme is scheduled to include:  
Lessons: - English for work/General English/British Culture  
Internship - At least 48 hours of work-experience  
Trips / activities (often including other International Students)  
- London, Canterbury, Cambridge, Bluewater, beach BBQ, ice-skating, karaoke evening(with hostparents), luncheon(with Internship Supervisors)

## 【Assessment】

Students will be required to attend all the orientation sessions prior to departure, in addition to fulfilling the lesson and work requirements deemed appropriate by the ASU Programme Co-ordinator.

## 米国NPOインターンシッププログラム

榎田勝利

## 【授業の概要】

米国ワシントンD.C.にあるCivil Society Consulting Group (CSCG) との共同プログラムとして、毎年2月中旬から約1ヵ月間実施する。米国の民間非営利組織 (NPO) でのインターンシップの体験を通して米国社会が抱える深刻な社会問題を理解し、その問題解決の方法を学ぶ。インターンシップの期間中は、一般の米国人の家庭でのホームステイをし、日常生活を体験する。インターンシップの受け入れ場所は、ワシントンD.C.および周辺地域で、学生の関心分野、英語力、専門的知識、経験等を考慮し、受け入れ団体を決める。

(活動可能な分野) 老人、児童・青少年、自然・環境、識字教育、障害者、家族、ホームレス、ジェンダー、文化・芸術、スポーツ、バイリンガル教育、外国人支援、国際交流・国際協力、博物館・美術館、図書館、その他。  
(米国側協力団体) Civil Society Consulting Group (CSCG)

## 【授業の目標】

実践の場を通して、異文化コミュニケーション能力と情報技術能力の向上を図り、学生の将来のキャリア形成の一助ともなる機会を提供する。

## 【授業計画】

(事前研修)・インターンシップの活動分野の決定・日米のNPO、ボランティア団体等の現状学習・日本のNPO、ボランティア団体へのフィールドワーク・英会話のトレーニング・米国側ディレクターによる合宿オリエンテーション

(現地プログラム)・オリエンテーション合宿・基本的に月曜から金曜までの5日間のインターン・1日特別研修プログラム・インターンシップの体験報告書の作成と提出・評価会、修了式、さよならパーティ

(事後研修)・フォローアップ研修、報告書作成

## 【評価方法】

現地での評価(受け入れ団体、ホストファミリー等と報告書)を考慮し総合評価を行う。

## 【テキスト】

米国側提出の英文資料

## 【参考文献・資料】

研修時にその都度資料を提供する

## コミュニティ・サービスラーニング IA (社会貢献実習)

小島祥美

## 【授業の概要】

私たちが暮らす地域(コミュニティ)には、多様なニーズに対応した地域活動(サービス)が展開されています。本講義では、受講生全員が実践を通じて、地域社会の一員としての自覚と能力を育成していきます。

具体的な実践活動としてIAでは、EXPOエコマネーを活用した環境活動の他、地域で活躍するボランティア団体等と協働したボランティア啓発活動などの企画を行い、後期のIBの運営へ繋げていきます。

## 【授業の目標】

受講生全員が地域に貢献しつつ地域活動に参加し、社会への参画体験を積むことによって、自主的に考え行動する力や責任感、判断力などを養い、健全な社会構成員に求められる資質や能力を育てることを目標とする。

## 【授業計画】

- オリエンテーション  
(本講義の目的とスケジュール、ラーニングI~IIIの内容等の説明)
- ラーニングI  
1) 地域活動とは?  
2) 地域活動の意義とその役割  
3) 地域活動参加にあたっての心構え  
4) 参加学習と各自の専攻との関連
- ラーニングII  
地域活動参加学習(活動期間は、内容により異なる)
- ラーニングIII  
活動を振り返りながら参加学習と各自の専攻との関連を考えます。

## 【評価方法】

出席状況、各課題(レポート、発表)により、「合」「否」として評価する。なお、ラーニングI・IIIへの参加(出席)、およびラーニングIIでの所定期間の活動参加を行った者について、単位を認定する。

## 【テキスト】

適宜、参考文献の紹介、参考資料やプリントを配布する。

## 【参考文献・資料】

ボランティア・NPO用語事典(社会福祉法人大阪ボランティア協会編集、中央法規出版)

## コミュニティ・サービスラーニング IB (社会貢献実習)

小島祥美

## 【授業の概要】

私たちが暮らす地域（コミュニティ）には、多様なニーズに対応した地域活動（サービス）が展開されています。本講義では、受講生全員が実践を通じて、地域社会の一員としての自覚と能力を育成していきます。

コミュニティ・サービスラーニング IBでは、IAでの企画を受けて、EXPOエコマナーを活用した環境活動の他、地域で活躍するボランティア団体等と協働したボランティア啓発活動などの具体的な運営を行います。

## 【授業の目標】

受講生全員が地域に貢献しつつ地域活動に参加し、社会への参画体験を積むことによって、自主的に考え行動する力や責任感、判断力などを養い、健全な社会構成員に求められる資質や能力を育てることを目標とする。

## 【授業計画】

1. オリエンテーション  
(本講義の目的とスケジュール、ラーニングI～IIIの内容等の説明)
2. ラーニングI
  - 1) 地域活動とは？
  - 2) 地域活動の意義とその役割
  - 3) 地域活動参加にあたっての心構え
  - 4) 参加学習と各自の専攻との関連
3. ラーニングII  
地域活動参加学習（活動期間等は内容により異なります）
4. ラーニングIII  
活動を振り返りながら参加学習と各自の専攻との関連を考えます。

## 【評価方法】

出席状況、各課題により、「合」「否」として評価する。なお、ラーニングI・IIIへの参加（出席）、およびラーニングIIでの所定期間の活動参加を行った者について、単位を認定する。

## 【テキスト】

適宜、参考文献の紹介、参考資料やプリントを配布する。

## 【参考文献・資料】

参考文献：ボランティア・NPO用語辞典（社会福祉法人大阪ボランティア協会編集、中央法規出版）

## コミュニティ・サービスラーニング IIA (企業のCSR活動)

小林三太郎

## 【授業の概要】

現代社会では積極的にCSR活動に取り組む企業が増加している。また、企業の不祥事が相次ぐ中、CSR活動の重要性が高まっている。本講義では、受講生が特定企業におけるCSR活動の企画立案に参加し、プレゼンテーションを行なう。学内の講義と学外での実践を通してCSR活動の重要性を習得する。

## 【授業の目標】

授業前半でCSR活動の基本的知識の習得を目指し、授業後半では、前半で養った知識を活かし学外場で発表をする。講義と学外活動を通してプロジェクトの企画・提案を創出するプロセスを把握し、必要な能力を養うことを目標とする。

## 【授業計画】

- 1 ガイダンス
- 2 CSR活動とは
- 3 企業のCSR活動（事例報告）
- 4 CSRに関する調査活動
- 5 CSR活動の企画立案
- 6 プレゼンテーション
- 7 総括

## 【評価方法】

出席状況と授業中の態度による。

## 【テキスト】

必要に応じて資料を配布。

## 【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介。

## コミュニティ・サービスラーニング IIIA (地域メディア実習)

小川明子 小島祥美

## 【授業の概要】

さまざまな産業の労働者として、日本にも多くの外国人が暮らすようになりました。しかし、私たちは、買い物や交通機関などで、彼らと日常的に顔を合わせながら、その生活がどのようなものなのか、よく理解できていません。そして残念ながら、こうした文化や思いへの無理解や行き違いが、ときに地域社会において問題化したりします。

この演習では、地域において、その地域に暮らす住民たちと在住外国人が、よりよくお互いを理解するために、写真や文章、声などを用いてそれぞれの思いを伝えるお手伝いをしようと思います。具体的には、外国人（住は、アジア、フリビンの）の中高生たちとみなさんとが、普段の暮らしのなかで伝えたいことを写真やことばを用いて映像作品にし、それをケーブルテレビやウェブサイトなどの地域のメディアで表現することでより多くの人びとに視聴してもらう現場実践型プログラムです。

この演習では、自分たちがそれぞれの学部や専攻において、これまでの授業のなかで学んだことを積極的に生かして行ってほしいと思います。（たとえば、語学、映像編集、異文化コミュニケーション、資料アーカイビングなど）

本年度はこの実習の一年目にあたります。失敗もあるかもしれませんが、すべては参加者の皆さんにやる気次第です。このプロジェクトを面白いと思ひ、夏休みの一週間をそれにあててみようとする積極的な学生さんにぜひ集まってほしいと思っています。

## 【授業の目標】

- 1) 日本の地域における外国人をめぐる状況を把握する。
- 2) 地域におけるメディアやコミュニケーションの重要性、可能性について考える。
- 3) 大学での学習と、地域の現場との往復を通じて、実践型参加型の学習、研究のありかたについて考える。
- 4) 参加者間のコミュニケーションを通じて、自らプロジェクトを立案し、遂行する能力を身につける。

## 【授業計画】

- プレセミナー  
プレ1日目 4月22日6限（場所等、詳細はCCCにて掲示）  
授業内容詳細の提示、サービス・ラーニング準備  
プレ2日目 7月9日6限（場所等、詳細はCCCにて掲示）  
事前調査発表
- 8月集中講義日程（18日～22日）  
1日目 アイスブレイキング グループ分け  
メディア技術研修（長久手キャンパス）  
2日目 参加学生作品制作  
3日目 現地ワークショップ1日目  
4日目 現地ワークショップ2日目  
5日目 地域メディア研修 振り返り  
(6,7日目)有志にて地域住民とのワークショップ

## 【評価方法】

出席、授業態度/参加意欲、授業をめぐるレポートなどで総合的に評価する。

## 【テキスト】

- ・「在日外国人一法の壁、心の溝」岩波新書 田中 宏(著)
- ・「日本の中の外国人学校」明石書店 月刊「イオ」編集部(編集)
- ・「メディア・ワークショップ」東京大学出版会（2008年出版予定）
- ・「メディア・プラクティス」せりか書房

## 【参考文献・資料】

適宜指定する

## 地域活動総合演習 IA

小林三太郎

## 【授業の概要】

現代社会において医療を取り巻く環境は激しく変化している。本講では、医療制度や医療現場の問題を様々な視点から学ぶ。また、病院施設の現場見学や老人保健施設でレクリエーションの企画・発表を行い、地域における医療機関のあるべき姿を考察する。

## 【授業の目標】

現在の医療に関する基本的な問題を学習する。また、学外活動やグループワークを通して、学生の課題発見・探求能力の向上を目指す。

## 【授業計画】

- 1 ガイダンス
- 2 医療を取り巻く環境について
- 3 現代の医療の問題
- 4 病院見学
- 5 レクリエーションの企画・発表
- 6 グループワーク

## 【評価方法】

出席と授業態度の評価による。

## 【テキスト】

未定

## 【参考文献・資料】

授業の中で適宜紹介する。

## 地域活動総合演習 IIA

小島祥美

### 【授業の概要】

日本社会は急激に多民族多文化社会が進んでいます。特に私たちが暮らす愛知県は、ブラジル、ペルーなどを中心とした中南米出身の外国人住民の占める比率が全国で最も高い地域です。このような現状から、外国人住民と共に暮らす地域づくりは、今後ますます重要な課題になると考えられます。本演習では「多様な文化や背景を持つ外国人住民との共生社会」という具体的なテーマに関する実践を通じて、地域社会に対する興味、関心、問題意識という力を養っていきます。

本演習テーマに対し、主体的かつ積極的に取り組む受講生を歓迎します。

### 【授業の目標】

地域に暮らす外国人コミュニティでのフィールドワーク、ボランティア活動を通じ、地域に暮らす外国人住民と共生をめざした地域づくりに必要な視点および事業企画・運営能力を養います。

### 【授業計画】

本演習では、まず学生一人ひとりが地域社会にある課題を発見し、課題解決策を考える力を培うことを目的とした課題探求型講義を行います。特に、「行政とまちづくり」「外国人コミュニティ」「地域住民とボランティア活動」などの多角的視点から、地域社会を社会的に見る方法を学習します。

また実際に外国人住民が多く暮らす地域へ一緒に出かけ、地域住民と外国人住民との共生社会をめざした行政やNGO/NPOなどの取り組みについてフィールドワークを行い、実践方法について学習していきます。

これらの学習を通じ、各受講生が事業企画を行い、IBの実践的な活動運営まで発展させていきます。

なお、具体的な活動運営内容は、公立学校における外国人児童生徒の学習支援、ブラジル政府認可校におけるブラジル人の子どもたちを対象にした日本語学習支援や日本文化紹介などを予定しています。

### 【評価方法】

出席状況、授業内のディスカッションへの参加、レポート等を総合的に判断して評価します。

### 【テキスト】

適宜、参考文献の紹介、参考資料やプリントを配布します。

### 【参考文献・資料】

新在日外国人（田中宏著、岩波新書）  
日本の中の外国人学校（月刊「イオ」編集部編、明石書店）

## 地域活動総合演習 IIB

小島祥美

### 【授業の概要】

日本社会は急激に多民族多文化社会が進んでいます。特に私たちが暮らす愛知県は、ブラジル、ペルーなどを中心とした中南米出身の外国人住民の占める比率が全国で最も高い地域です。このような現状から、外国人住民と共に暮らす地域づくりは、今後ますます重要な課題になると考えられます。

本演習では「多様な文化や背景を持つ外国人住民との共生社会」という具体的なテーマに関する実践を通じて、地域社会に対する興味、関心、問題意識という力を養っていきます。

本演習テーマに対し、主体的かつ積極的に取り組む受講生を歓迎します。

### 【授業の目標】

地域に暮らす外国人コミュニティでのフィールドワーク、ボランティア活動を通じ、地域に暮らす外国人住民と共生をめざした地域づくりに必要な視点および事業企画・運営能力を養います。

### 【授業計画】

本演習では、まず学生一人ひとりが地域社会にある課題を発見し、課題解決策を考える力を培うことを目的とした課題探求型講義を行います。特に、「行政とまちづくり」「外国人コミュニティ」「地域住民とボランティア活動」などの多角的視点から、地域社会を社会的に見る方法を学習します。

また実際に外国人住民が多く暮らす地域へ一緒に出かけ、地域住民と外国人住民との共生社会をめざした行政やNGO/NPOなどの取り組みについてフィールドワークを行い、実践方法について学習していきます。

これらIAの学習を通じ、実践的な活動運営を行います。なお具体的な活動運営内容は、公立学校における外国人児童生徒の学習支援、ブラジル政府認可校におけるブラジル人の子どもたちを対象にした日本語学習支援や日本文化紹介などを予定しています。

### 【評価方法】

出席状況、授業内のディスカッションへの参加、レポート等を総合的に判断して評価します。

### 【テキスト】

適宜、参考文献の紹介、参考資料やプリントを配布します。

### 【参考文献・資料】

新在日外国人（田中宏著、岩波新書）、日本の中の外国人学校（月刊「イオ」編集部編、明石書店）

## 障がい者支援ボランティア入門

谷口明広 石黒文字

### 【授業の概要】

大学で学ぶ学生の中には、視覚障害、聴覚障害、肢体障害などにより制限を受けているために、授業や学生生活においてノートテイク、手話通訳等の授業支援を必要とする人たちがいる。そこで、本授業では、これら障害のある人についての基本的な理解と初歩的な支援技術を学び、障害のある人への学生支援ボランティア活動の活性化と充実及び共に学ぶ場を作り出していくことをめざすことを目的とする。

### 【授業の目標】

- (1) 障害学生支援について関心をもち、障害のある人たちのニーズについて学ぶ。
- (2) 障害のある人々への支援技術を身につけ、共に学ぶ実践を実行できる。
- (3) 授業で学んだ内容を実際の支援ボランティア活動に結びつけ、共に学ぶ場を作っていく。

### 【授業計画】

1. 授業のガイダンス
2. 現代社会と障害のある人を取り巻く環境
3. 肢体に障害がある人の理解と支援方法
  - (1) 肢体障害者の理解
  - (2) 肢体障害者の支援方法（生活介護とノートテイク）
4. 視覚障害者の理解と支援方法
  - (1) 視覚障害者の理解
  - (2) 視覚障害者の支援方法（点字、移動問題、授業の解説）
5. 聴覚障害者の理解と支援方法
  - (1) 聴覚障害者の理解
  - (2) 聴覚障害者の支援方法（手話通訳・ノートテイク）
6. 障害学生支援ボランティア活動
  - (1) 愛知淑徳大学における支援のシステム
  - (2) ボランティア活動の実際
7. 共に生きる社会を目指して

### 【評価方法】

- 1.出席を評価の中心とする。
- 2.時々、小テストを実施して、理解度を確認していく
- 3.ボランティアの体験レポート
- 4.最終レポートの提出

### 【テキスト】

毎回の講師が指定する資料やレジュメがテキストとなる

## 初級簿記（3級程度） \*基礎総合

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一郎

### 【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定3級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。前期は2コマ（3時間）ずつ週2回のペースで、後期は2コマ（3時間）ずつ週1回のペースで講義を行う。この講義は初学者向けの講義であり、簿記の仕組みから精算表の作成まで簿記の基礎とされる内容を一通り学習した後、全国公開模擬試験などの問題を通して日商簿記検定3級の合格サポートを行う。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

### 【授業の目標】

日商簿記検定3級に合格すること。

### 【授業計画】

- 第1回 簿記の目的・取引・仕訳・勘定口座の記入方法
- 第2回 試算表・商品売買の記帳方法、現金預金の記帳
- 第3回 手形の記帳方法、その他の勘定の記帳方法
- 第4回 その他の勘定記帳方法、主要簿および補助簿
- 第5回 主要簿および補助簿、伝票
- 第6回 直前総まとめ問題集解説（補助簿、試算表、伝票対策）
- 第7回 決算整理（売上原価）、英米式決算法、精算表
- 第8回 決算整理（貸倒、減価償却、固定資産の売却、繰延・見越）
- 第9回 決算整理（消耗品、現金過不足、売買目的有価証券、引出金）
- 第10回 直前総まとめ問題集解説（仕訳、精算表対策）
- 第11回 直前答練第1回、解説
- 第12回 直前答練第2回、解説
- 第13回 直前答練第3回、解説
- 第14回 全国公開模擬試験、解説
- 第15回 単位認定試験

### 【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

### 【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト



**中級簿記（2級程度）A \*商業簿記**

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一朗

**【授業の概要】**

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定2級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定3級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定2級の試験範囲のうち「商業簿記」を取り扱う。同じく2級の試験範囲である「工業簿記」は中級簿記（2級程度）Bで取り扱うので、同時履修が望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

**【授業の目標】**

日商簿記検定2級に合格すること。

**【授業計画】**

- 第1回 簿記一巡、固定資産
- 第2回 減価償却、銀行勘定調整表、引当金
- 第3回 その他の引当金、商品の評価、税金
- 第4回 株式の発行、利益処分
- 第5回 会社の合併、社債の発行、決算整理
- 第6回 社債の償還、決算法、財務諸表
- 第7回 伝票会計
- 第8回 帳簿組織
- 第9回 特殊商品売買
- 第10回 仕入割引、売上割引、研究開発費、有価証券
- 第11回 債務保証、手形の不渡り、裏書譲渡
- 第12回 本支店会計
- 第13回 総まとめ（1）
- 第14回 総まとめ（2）
- 第15回 単位認定試験

**【評価方法】**

単位認定試験の成績に応じて評価をする。

**【テキスト】**

大原簿記専門学校のテキスト

**中級簿記（2級程度）C \*実践**

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一朗

**【授業の概要】**

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定2級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。この講義は中級簿記（2級程度）AまたはBの受講者を対象とした講義であり、検定試験直前期に集中的に行う。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

**【授業の目標】**

日商簿記検定2級に合格すること。

**【授業計画】**

- 第1回 直前答練第1回、解説
- 第2回 直前答練第2回、解説
- 第3回 直前答練第3回、解説
- 第4回 直前答練第4回、解説
- 第5回 全国公開模擬試験、解説
- 第6回 ファイナルチェック問題、解説
- 第7回 直前総まとめ
- 第8回 単位認定試験

**【評価方法】**

単位認定試験の成績に応じて評価する。

**【テキスト】**

大原簿記専門学校のテキスト

**中級簿記（2級程度）B \*工業簿記**

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一朗

**【授業の概要】**

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定2級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定3級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定2級の試験範囲のうち「工業簿記」を取り扱う。同じく2級の試験範囲である「商業簿記」は中級簿記（2級程度）Aで取り扱うので、同時履修が望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

**【授業の目標】**

日商簿記検定2級に合格すること。

**【授業計画】**

- 第1回 工業簿記の基礎、個別原価計算の体系
- 第2回 材料費会計
- 第3回 労務費会計
- 第4回 経費会計、製造間接費会計
- 第5回 工企業の財務諸表
- 第6回 部門別会計、工場会計
- 第7回 工業簿記の基礎、総合原価計算の体系
- 第8回 単純総合原価計算
- 第9回 減損および仕損
- 第10回 組別・等級別原価計算
- 第11回 標準原価計算
- 第12回 損益分岐点分析、直接原価計算、固定費調整
- 第13回 総まとめ（1）
- 第14回 総まとめ（2）
- 第15回 単位認定試験

**【評価方法】**

単位認定試験の成績に応じて評価する。

**【テキスト】**

大原簿記専門学校のテキスト

**上級簿記（1級程度）A \*商業簿記**

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一朗

**【授業の概要】**

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定2級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定1級の試験範囲のうち「商業簿記」を取り扱う。同じく1級の試験範囲である「会計学」、「原価計算」、「工業簿記」は上級簿記（1級程度）B、C、Dで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

**【授業の目標】**

日商簿記検定1級に合格すること。

**【授業計画】**

- 第1回 総論、企業会計原則、簿記一巡
- 第2回 一般販売、特殊商品売買I
- 第3回 特殊商品売買II
- 第4回 特殊商品売買III
- 第5回 棚卸資産
- 第6回 固定資産I
- 第7回 固定資産II
- 第8回 減損会計、繰延資産
- 第9回 研究開発費、引当金I
- 第10回 引当金II、退職給付会計I
- 第11回 退職給付会計II、社債I
- 第12回 社債II、資本I
- 第13回 資本II
- 第14回 合併会計、会社分割
- 第15回 単位認定試験

**【評価方法】**

単位認定試験の成績に応じて評価する。

**【テキスト】**

大原簿記専門学校のテキスト



**上級簿記（1級程度）B \*会計学**

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一朗

**【授業の概要】**

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネーターを行う。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定2級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定1級の試験範囲のうち「会計学」を取り扱う。同じく1級の試験範囲である「商業簿記」、「原価計算」、「工業簿記」は上級簿記（1級程度）A、C、Dで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

**【授業の目標】**

日商簿記検定1級に合格すること。

**【授業計画】**

- 第1回 現金および預金、債権、有価証券
- 第2回 金融資産および金融負債、デリバティブ取引
- 第3回 ヘッジ会計、為替換算会計
- 第4回 外貨建取引処理基準、為替予約
- 第5回 税効果会計、一時差異等の会計処理I
- 第6回 一時差異等の会計処理II
- 第7回 本支店会計
- 第8回 連結会計、取得日連結
- 第9回 連結会計、取得後連結I
- 第10回 連結会計、取得後連結II
- 第11回 連結会計、持分の段階取得、売却、増資
- 第12回 持分法、連結税効果会計、在外子会社連結
- 第13回 キャッシュ・フロー会計
- 第14回 連結キャッシュ・フロー会計
- 第15回 単位認定試験

**【評価方法】**

単位認定試験の成績に応じて評価する。

**【テキスト】**

大原簿記専門学校のテキスト

**上級簿記（1級程度）D \*工業簿記**

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一朗

**【授業の概要】**

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネーターを行う。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定2級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定1級の試験範囲のうち「工業簿記」を取り扱う。同じく1級の試験範囲である「商業簿記」、「会計学」、「原価計算」は上級簿記（1級程度）A、B、Cで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

**【授業の目標】**

日商簿記検定1級に合格すること。

**【授業計画】**

- 第1回 総論、単純個別原価計算
- 第2回 部門別個別原価計算
- 第3回 部門別計算I
- 第4回 部門別計算II
- 第5回 実際総合原価計算I、総論
- 第6回 全部原価計算と直接原価計算、固定費調整
- 第7回 実際総合原価計算II、減損、仕損
- 第8回 実際総合原価計算III、異常減損・仕損
- 第9回 工程別総合原価計算
- 第10回 組別・等級別原価計算、練産品・副産物・作業屑
- 第11回 標準原価計算I
- 第12回 標準原価計算II、歩減が発生する場合
- 第13回 標準原価計算III、配合差異・歩留差異
- 第14回 工程別標準原価計算、直接標準原価計算
- 第15回 単位認定試験

**【評価方法】**

単位認定試験の成績に応じて評価する。

**【テキスト】**

大原簿記専門学校のテキスト

**上級簿記（1級程度）C \*原価計算**

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一朗

**【授業の概要】**

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネーターを行う。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定2級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定1級の試験範囲のうち「原価計算」を取り扱う。同じく1級の試験範囲である「商業簿記」、「会計学」、「工業簿記」は上級簿記（1級程度）A、B、Dで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

**【授業の目標】**

日商簿記検定1級に合格すること。

**【授業計画】**

- 第1回 総論、原価・営業量・利益関係の分析I
- 第2回 原価・営業量・利益関係の分析II
- 第3回 予算編成
- 第4回 予算統制I
- 第5回 予算統制II、売上数量差異の分析
- 第6回 事業部制、セグメント別損益計算
- 第7回 業務的意思決定I
- 第8回 業務的意思決定II
- 第9回 業務的意思決定III、最適セールス・ミックス
- 第10回 構造的意意思決定I、設備投資の意思決定
- 第11回 構造的意意思決定II
- 第12回 構造的意意思決定III
- 第13回 戦略的原価計算I、品質原価計算
- 第14回 戦略的原価計算II、原価企画、活動基準原価計算
- 第15回 単位認定試験

**【評価方法】**

単位認定試験の成績に応じて評価する。

**【テキスト】**

大原簿記専門学校のテキスト

**上級簿記（1級程度）E \*実践**

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一朗

**【授業の概要】**

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネーターを行う。この講義は上級簿記（1級程度）A、B、C、Dのうちいずれか1つを受講した者を対象とした講義であり、検定試験直前期に集中的に行う。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

**【授業の目標】**

日商簿記検定1級に合格すること。

**【授業計画】**

- 第1回 直前答練第1回、解説
- 第2回 直前答練第2回、解説
- 第3回 直前答練第3回、解説
- 第4回 直前答練第4回、解説
- 第5回 全国公開模擬試験、解説
- 第6回 ファイナルチェック問題、解説
- 第7回 直前総まとめ
- 第8回 単位認定試験

**【評価方法】**

単位認定試験の成績に応じて評価する。

**【テキスト】**

大原簿記専門学校のテキスト

## 初級簿記演習

浅野敬志

## 【授業の概要】

この授業は、初級簿記（3級程度）の単位を修得した学生で、簿記検定試験の再受験を希望する者のみが履修できる。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。検定試験のレベルにあわせた問題練習を中心に講義を進める。

## 【授業の目標】

日商簿記検定3級に合格すること。

## 【授業計画】

1. 商品売買
2. 手形取引
3. 有価証券
4. 固定資産
5. 決算手続き
6. 精算表の作成
7. 単位認定試験

## 【評価方法】

出席状況と単位認定試験により評価する。

## 【テキスト】

別途指示する。

## 【参考文献・資料】

大原簿記専門学校のテキスト

## 中級簿記演習 A \*商業簿記

浅野敬志

## 【授業の概要】

この授業は、中級簿記（2級程度）AまたはBの単位を修得した学生で、簿記検定試験の再受験を希望する者のみが履修できる。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。日商簿記検定2級の試験範囲のうち「商業簿記」を取り扱う。検定試験のレベルにあわせた問題練習を中心に講義を進める。同じく2級の範囲である「工業簿記」は、中級簿記演習Bで取り扱うので、同時履修が望ましい。

## 【授業の目標】

日商簿記検定2級に合格すること。

## 【授業計画】

1. 商品・特殊商品売買取引
2. 手形取引
3. 株式会社会計
4. 本支店会計
5. 帳簿組織
6. 決算整理
7. 単位認定試験

## 【評価方法】

出席状況と単位認定試験により評価する。

## 【テキスト】

別途指示する。

## 【参考文献・資料】

大原簿記専門学校のテキスト

## 中級簿記演習 B \*工業簿記

三浦克人

## 【授業の概要】

この授業は、中級簿記（2級程度）AまたはBの単位を修得した学生で、簿記検定試験の再受験を希望する者のみが履修できる。

2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。日商簿記検定2級の試験範囲のうち「工業簿記」を取り扱う。検定試験のレベルにあわせた問題練習を中心に講義を進める。

同じく2級の範囲である「商業簿記」は、中級簿記演習Aで取り扱うので、同時履修が望ましい。

## 【授業の目標】

日商簿記検定2級に合格すること。

## 【授業計画】

1. 工業簿記の基礎、材料費・労務費・経費の計算
2. 製造間接費の計算、部門費の計算
3. 個別原価計算
4. 総合原価計算
5. 標準原価計算
6. 直接原価計算
7. 単位認定試験

## 【評価方法】

出席状況と単位認定試験により評価する。

## 【テキスト】

別途指示する。

## 【参考文献・資料】

大原簿記学校のテキスト

## ASU TOEIC I E

天野純子 太田晶子

## 【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高、半期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回の授業で2単位とする。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

## 【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

## 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習
- 第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
  - ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
  - ・演習（文法問題・リーディング・リスニング）（30分）
  - ・問題解説（25分）
- 第15回 模擬テスト
- \*宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分（合計 7時間×13回＝91時間）
  - リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分（合計 7時間×13回＝91時間）

## 【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

## 【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

## ASU TOEIC I F

天野純子 太田晶子

## 【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高、半期に2コマ (I, IIの両科目を受講した場合)、4年間続けて履修できる。週1回の授業で2単位とする。毎回、授業外での読解演習 (60分×7日×13回) とリスニング演習 (60分×7日×13回) (それぞれ91時間相当) が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

## 【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

## 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習  
 第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト  
 ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説 (15分)  
 ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説 (15分)  
 ・演習 (文法問題・リーディング・リスニング) (30分)  
 ・問題解説 (25分)  
 第15回 模擬テスト  
 \*宿題 読解演習・文法問題 (60分×7日) = 毎回7時間相当分  
 (合計 7時間×13回=91時間)  
 リスニング演習 (60分×7日) = 毎回7時間相当分  
 (合計 7時間×13回=91時間)

## 【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

## 【テキスト】

掲示 (外国語教育センターの掲示板) を参照のこと。

## ASU TOEIC II F

CAPITIN-PRINCIPE, Abigail B. PUDWILL, Larry A.

## 【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高、半期に2コマ (I, IIの両科目を受講した場合)、4年間続けて履修できる。週1回の授業で2単位とする。毎回、授業外での読解演習 (60分×7日×13回) とリスニング演習 (60分×7日×13回) (それぞれ91時間相当) が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

## 【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

## 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習  
 第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト  
 ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説 (15分)  
 ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説 (15分)  
 ・演習 (おもに、リスニング・リーディング) (30分)  
 ・問題解説 (25分)  
 第15回 模擬テスト  
 \*宿題 読解演習・文法問題 (60分×7日) = 毎回7時間相当分  
 (合計 7時間×13回=91時間)  
 リスニング演習 (60分×7日) = 毎回7時間相当分  
 (合計 7時間×13回=91時間)

## 【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

## 【テキスト】

掲示 (外国語教育センターの掲示板) を参照のこと。

## ASU TOEIC II E

CAPITIN-PRINCIPE, Abigail B. PUDWILL, Larry A.

## 【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高、半期に2コマ (I, IIの両科目を受講した場合)、4年間続けて履修できる。週1回の授業で2単位とする。毎回、授業外での読解演習 (60分×7日×13回) とリスニング演習 (60分×7日×13回) (それぞれ91時間相当) が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

## 【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

## 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習  
 第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト  
 ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説 (15分)  
 ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説 (15分)  
 ・演習 (おもに、リスニング・リーディング) (30分)  
 ・問題解説 (25分)  
 第15回 模擬テスト  
 \*宿題 読解演習・文法問題 (60分×7日) = 毎回7時間相当分  
 (合計 7時間×13回=91時間)  
 リスニング演習 (60分×7日) = 毎回7時間相当分  
 (合計 7時間×13回=91時間)

## 【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

## 【テキスト】

掲示 (外国語教育センターの掲示板) を参照のこと。

## Get together and Talk I

石橋千鶴子 福本明子 太田晶子 WOODMAN, Jo-Anne

## 【授業の概要】

英語集中授業、ディスカッション、フィールドワーク、合宿などから構成される英語対話実践セミナー。ネイティブスピーカーの教員が担当し、本学および中部地区在住の留学生が、セミナー・アシスタントとして参加する。多様な文化背景を持つ留学生と行動を共にし、共通語の英語を使ってコミュニケーションを持つことにより、英語対話力の強化を目指す。

本科目の履修資格は以下の通り:

- 1) 英語コミュニケーション科目2科目 (4単位) 以上を履修済みであること。
  - 2) 英語でのコミュニケーション実践に十分な意欲があること。
  - 3) 全日程に出席できること。
- なお、本科目はCAP制の対象にならない。

## 【授業の目標】

異なる文化背景を持つ留学生とのコミュニケーションを通して、英語運用能力の向上を目指すと共に、文化の多様性に対する認識を深め、それに対応できる柔軟な視点の育成を目指す。

## 【授業計画】

- 前期 2008年9月上旬に実施予定。  
 後期 2009年2月上旬に実施予定

英語集中授業、フィールドトリップなどを含む15コマ相当の活動を行う。

詳細は掲示および説明会 (前期: 6月中旬、後期: 11月下旬の予定) で発表する。指定された期間 (前期: 6月末、後期: 12月上旬) に外国語教育センターを通じて履修の申し込みを行う。定員を超えた場合は抽選となる。

## 【評価方法】

全日程の活動が総合的に評価される。

## 【テキスト】

授業担当者により異なる。資料のコピーは配布される。

## 【参考文献・資料】

必要に応じて授業担当者から指示がある。



## Get together and Talk II

ARNOLD, Brent C.

## 【Course description】

対話力養成モジュールの1つとして、学生同士の意見交換を活発に行うことで、説得力のある議論を口頭で展開する方法を、実際の経験を通して学ぶことを目標とします。

Get together and Talk IIでは、本学学生同士の意見交換のみならず、インターネットのプロドバンド接続によるビデオコンファレンス機能（アップルコンピュータ社のiChat）を利用して、キャンベラ大学等の学生と意見交換を行います。

さまざまなテーマに基づいて、キャンベラ大学等の学生と意見を交換することで、英語運用力を高めるのみならず、日本語と英語の違い、日本とオーストラリアの文化・考え方の違いなどさまざまな違いを発見することが期待されます。

## 【Course objectives】

There are three main objectives.

1. To allow students to converse with native speakers, helping the students' listening and speaking fluency skills.
2. Discuss topics of interest with people of a similar age who live in a different country.
3. Listening to native English speakers speaking in Japanese will help students understand their own speaking difficulties and increase their awareness and confidence.

## 【Course schedule】

This lesson will be held over 2nd and 3rd periods, 10.50 - 2.50.

During this time there will be 4 time periods, 1. Preparation, 2. Chat, 3. Review, and 4. Lunch! Due to the time difference between Japan and Australia it may be necessary to have a flexible lunch period.

Time Will be used for real time chat with Australian University students. Topics for discussion will include

1. Death penalty
2. The article no.9 of Japanese constitution
3. Marriage between the same sex couple
4. Should we accept more refugees?

## 【Assessment】

Assessment will be based on  
50% Homework and Chat preparation  
50% Participation

## 【Textbooks】

No text

## 【Reference】

<http://www.apple.com/support/isight/>

## 上級英語セミナー 2008B

BROWNING, Jeremy S. WRINGER, Paul

## 【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。

## 【授業の目標】

Aims:

Wringer

1. To help students to integrate new ideas, vocabulary and idioms into everyday speech
2. To help students recognize organizational patterns in preparation for the TOEIC test

Browning

Students will develop stronger vocabulary, idiomatic expressions, and language learning strategies that cover various language skill areas.

## 【授業計画】

Course plans:

Wringer

Students will be expected to discuss a variety of topics each week from the following themes: People; Relationships; Workplace; Family; and Society.

Browning

Students will explore various topics that go beyond the simple conversation level. Every 2 weeks a new topic will be introduced that challenges the students to express themselves in greater detail. During the 2-week exploration of the topic, students will use various language skills (reading, writing, listening & speaking) to help them holistically learn the topic & its language requirements.

## 【評価方法】

「上級英語セミナー 2008B」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。水曜日1限（担当教員：BROWNING, Jeremy）、木曜日1限（担当教員：WRINGER, Paul）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

## 【テキスト】

Wringer: To be announced.  
Browning: Handouts will be provided

## 上級英語セミナー 2008A

BROWNING, Jeremy S. WRINGER, Paul

## 【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。（ただし、1年生および編入生（1年目）は前期開講の本科目「上級英語セミナー 2008A」は受講できない。）

## 【授業の目標】

Aims:

Wringer

1. To help students to integrate new ideas, vocabulary and idioms into everyday speech
2. To help students recognize organizational patterns in preparation for the TOEIC test

Browning

Students will develop stronger vocabulary, idiomatic expressions, and language learning strategies that cover various language skill areas.

## 【授業計画】

Course plans:

Wringer

Students will be expected to discuss a variety of topics each week from the following themes: People; Relationships; Workplace; Family; and Society.

Browning

Students will explore various topics that go beyond the simple conversation level. Every 2 weeks a new topic will be introduced that challenges the students to express themselves in greater detail. During the 2-week exploration of the topic, students will use various language skills (reading, writing, listening & speaking) to help them holistically learn the topic & its language requirements.

## 【評価方法】

「上級英語セミナー 2008A」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。水曜日1限（担当教員：BROWNING, Jeremy）、木曜日1限（担当教員：WRINGER, Paul）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

## 【テキスト】

Wringer: To be announced.  
Browning: Handouts will be provided

## 上級英語セミナー 2008C

横山綾子 DAVIES, Alun

## 【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。（ただし、1年生および編入生（1年目）は前期開講の本科目「上級英語セミナー 2008C」は受講できない。）

## 【授業の目標】

横山

通訳の訓練には、言語の知識、訳出技術、論理的思考、また自主的な発言能力など様々な要素が求められます。このクラスでは、First in First out (FIFO) の訓練を中心にスピーディーな訳出、日本語のわかりやすく美しい表現など学習します。

Davies

Aims:

To strengthen existing skills and develop fluency via communication tasks. To learn about CHUNKS as an aid to building a powerful vocabulary of natural English. To practice speed, rhythm, stress and intonation patterns of native speaker English.

## 【授業計画】

横山

第1回 通訳一般概論 Sight translation

第2～10回 The Student Timesからの記事使用（テープ）

Shadowing, Sight translation, メモ取り、逐次通訳演習、同時通訳入門

Davies

Course Plan:

This course will provide opportunities for oral interaction in English. Vocabulary-building is central to the aim of using English for communication in a range of speaking and listening tasks (e.g. drama; discussion; interpreting; conversation).

## 【評価方法】

「上級英語セミナー 2008C」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。火曜日1限（担当教員：DAVIES, Alun）、水曜日2限（担当教員：横山綾子）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

## 【テキスト】

横山: *The Student Times* その他  
Davies: No text is required.



## 上級英語セミナー 2008D

横山綾子 DAVIES, Alun

### 【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。

### 【授業の目標】

横山  
通訳の訓練には、言語の知識、訳出技術、論理的思考、また自主的な発言能力など様々な要素が求められます。このクラスでは、First in First out (FIFO) の訓練を中心にスピーディーな訳出、日本語のわかりやすく美しい表現など学習します。

Davies  
Aims:  
To strengthen existing skills and develop fluency via communication tasks. To learn about CHUNKS as an aid to building a powerful vocabulary of natural English. To practice speed, rhythm, stress and intonation patterns of native speaker English.

### 【授業計画】

横山  
第1回 通訳一般概論 Sight translation  
第2～10回 The Student Timesからの記事使用（テープ）  
Shadowing, Sight translation, メモ取り、逐次通訳演習、同時通訳入門

Davies  
Course Plan:  
This course will provide opportunities for oral interaction in English. Vocabulary-building is central to the aim of using English for communication in a range of speaking and listening tasks (e.g. drama; discussion; interpreting; conversation).

### 【評価方法】

「上級英語セミナー 2008D」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。火曜日2限（担当教員：DAVIES, Alun）、水曜日2限（担当教員：横山綾子）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

### 【テキスト】

横山：The Student Times その他  
Davies: No text is required.

## 上級英語セミナー 2008F

難波豊子 CURRAN, Beverley

### 【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。

### 【授業の目標】

Bev Curran  
To continue to give students practice in preparing and leading a discussion, as well as sustaining a discussion through careful listening and questions. The group discussion aims to form a community of supportive language learners and to develop each student's ability to express their ideas in English.

難波豊子  
通訳は「逐次に始まり、同時に進み、そして逐次に終わる」と言われる。このクラスでは主に逐次通訳力強化を目指す。「分かりやすい通訳とは？」を、通訳練習を通して考えてもらう。教材内容は時事及び一般。

### 【授業計画】

Bev Curran  
In the second semester, discussions will continue, and students will be encouraged to take more responsibility for engaging in discussion and offering support to the speaker through a thoughtful consideration of the topic. Each week will be a chance to grow closer as a group of engaged language learners whose communal energy will motivate individual student growth in English ability and self-confidence. Special guests will also be invited to the class to talk to the students in English in a relaxed but lively atmosphere.

難波豊子  
・スラッシュ・リーディングによる情報処理  
・分かりやすい日本語の検討  
・短い時間で、英文のメッセージを把握  
・2点集中力育成練習

上記基礎力強化を基本に  
(1)英語のテープを聞いて、グループで内容把握  
(2)次回日本語への逐次通訳練習  
(3)簡単な内容の日英逐次通訳練習  
をサイクルとした講義となる。内容把握ができた教材を使用して適宜同時通訳練習も導入する。

### 【評価方法】

火曜日2限（担当教員：難波豊子）、木曜日2限（担当教員：CURRAN, Beverley）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの授業において、日常の授業態度、宿題に対する姿勢、ゲストスピーカー招待時におけるディスカッションへの貢献度等を総合的に評価し、それらの評価の平均をこの科目の評価とする。

### 【テキスト】

授業中に配布、指示する。

## 上級英語セミナー 2008E

難波豊子 CURRAN, Beverley

### 【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。（ただし、1年生および編入生（1年目）は前期開講の本科目「上級英語セミナー 2008E」は受講できない。）

### 【授業の目標】

Bev Curran  
To create a community of supportive language learners and to develop each student's confidence in their ability to express their ideas in prepared presentations and extemporaneous discussion in English.

難波豊子  
通訳は「逐次に始まり、同時に進み、そして逐次に終わる」と言われる。このクラスでは主に逐次通訳力強化を目指す。「分かりやすい通訳とは？」を、通訳練習を通して考えてもらう。教材内容は時事及び一般。

### 【授業計画】

Bev Curran  
Each week in my class, a different student will be responsible for selecting a topic and introducing a discussion about it in English. The other students will listen with attention and then continue the discussion through their own questions and comments. The goal in each class is to engage in animated discussion for 90 minutes, giving each student an opportunity to grow more comfortable and confident in initiating and continuing a conversation or discussion in English. Special guests will also be invited to the class to talk about themselves with the students in a relaxed and supportive atmosphere.

難波豊子  
・スラッシュ・リーディングによる情報処理  
・分かりやすい日本語の検討  
・短い時間で、英文のメッセージを把握  
・2点集中力育成練習

上記基礎力強化を基本に  
(1)英語のテープを聞いて、グループで内容把握  
(2)次回日本語への逐次通訳練習  
(3)簡単な内容の日英逐次通訳練習  
をサイクルとした講義となる。内容把握ができた教材を使用して適宜同時通訳練習も導入する。

### 【評価方法】

火曜日2限（担当教員：難波豊子）、木曜日2限（担当教員：CURRAN, Beverley）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの授業において、日常の授業態度、宿題に対する姿勢、ゲストスピーカー招待時におけるディスカッションへの貢献度等を総合的に評価し、それらの評価の平均をこの科目の評価とする。

### 【テキスト】

授業中に配布、指示する。

## Traditional Arts in Japan

山田久美子 小沢 茂 二村慎一

### 【授業の概要】

日本の伝統文化に携わる方をゲストスピーカーとして招き、伝統文化に直に触れ、その歴史、現状などを英語で学ぶ。

### 【授業の目標】

伝統文化に直に接する機会は、日常生活では多くない。この授業を通して、一から伝統文化を学び、日本の優れた文化を理解し、それを自らの言葉で表現できるようにする。

### 【授業計画】

日本の伝統文化に携わる専門家をゲストスピーカーとして招き、講義を受ける。講義の際、あらかじめ、その伝統文化についての学習を行う。

日本舞踊（西川流）  
尺八  
琴  
からくり  
華道  
歌舞伎  
能・狂言

などの分野のゲストスピーカーを迎える。詳しくは、最初の授業の時に説明する。

なお、狂言、歌舞伎などの公演鑑賞のため、3000円程度の経費を必要とする場合がある。

### 【評価方法】

レポート 80% （各授業のレポート等）  
出席 20%

### 【テキスト】

プリント

### 【参考文献・資料】

講義時に配布

## Central Japan

福本明子 若山真幸 太田晶子 MC GOLDRICK, Gemma

### 【授業の概要】

中部地方から世界に向かって進出する企業の第一線で活躍している方をゲストスピーカーとして迎え、企業の社会での役割、活動、スピーカーの経験等を英語で講義してもらう。この講義は、ゲストスピーカーの授業に対する事前、事後の学習も行う。

### 【授業の目標】

地元企業で活躍する方をゲストスピーカーとして招き、その講義を聞き、実社会における企業の役割、また厳しい現状等を理解し、より広い視野を育てることを目標とする。授業での内容を理解し、それを自分の言葉（英語又は日本語）でまとめることができるようにする。

### 【授業計画】

ゲストスピーカーは、  
Hilton Nagoya  
中部電力株式会社  
ブラザー工業株式会社  
ファイザー株式会社  
Harman/Becker Automotive Systems - Japan  
アイ ティ クリエイト  
日経メディアマーケティング株式会社  
太陽化学株式会社  
生化学工業株式会社  
豊田通商株式会社

などから招待の予定。詳しくは、最初の授業で説明する。

### 【評価方法】

出席と事前、事後、最終レポートを総合的に評価する。最初の授業で説明する。

### 【テキスト】

配布プリント

### 【参考文献・資料】

配布プリント、ゲストスピーカーの企業ウェブサイト

## PowerPoint Presentations

LEWIS, Paul

### 【授業の概要】

所属学科に関係なく様々な卒業研究の成果、多文化共生理解モジュールや講演会の事後学習の成果を、動画・音声・写真などを盛り込みながらPowerPointを使ってまとめ、英語による情報発信が行えるよう訓練する。

### 【授業の目標】

- ・コンピュータを使って、これまでの学習・研究成果を視覚的効果の高い情報発信ができる手法を身に付ける。
- ・アイデアや意見を英語で論理的に口頭発表できる自己表現力を身に付ける。
- ・他者のプレゼンテーションを聴いて、英語で討論を行える能力を身に付ける。

### 【授業計画】

- 以下の項目を学習する。
- ・ Introduction to PowerPoint
  - ・ Creating a basic slide show
  - ・ Formatting
  - ・ Editing text
  - ・ Using images
  - ・ Adding animation
  - ・ Adding sounds
  - ・ Advanced PowerPoint

### 【評価方法】

- ・ Participation & Attendance
- ・ Class work
- ・ Final Presentations

### 【テキスト】

Computers for Communication: PowerPoint (2007). Perceptia Press.

### 【参考文献・資料】

授業中に随時紹介する

## Multiculturalism in Aichi

ブイ チ トルン

### 【授業の概要】

社会のグローバル化とともに一つの地域や国だけでは解決できない問題などが生まれている。愛知県においても製造業の発展に伴い諸外国から移住されてきた人々が年々増加している。多様な人種・文化・価値観が混在している愛知県における多文化社会の実態を理解し共生社会構築への道を考える。

### 【授業の目標】

- \* 日本社会および愛知県における多文化性を理解すること
- \* 行政・企業・NPOによる多文化共生事業の現状を理解すること
- \* 県内における外国人コミュニティの実態を理解すること
- \* 外国人労働者等を送り出し国の現状を理解すること
- \* 在住外国人支援事業を理解すること
- \* 授業は英語で進行するため英語力アップも期待すること

### 【授業計画】

1. Japan as a Multicultural Society
2. History of Multiculturalism in Japan and Aichi Prefecture
3. Consultation and Advisory Services for Foreign Residents
4. Helping Foreign Residents through Voluntary Activities
5. JICA's Cooperation Activities and Development Education
6. Activities of the Philippines Society
7. Life of a Brazilian in Aichi
8. Japanese Teaching in Community
9. Activities of Foreign Students in Aichi
10. NGO Activities in supporting of Foreign Residents
11. Information and Communication through English Magazine
12. Report on the Society and Culture of Trainee' s Sending Asian Country / Report on the Multicultural Society like Australia

### 【評価方法】

出席率、レポートおよび授業中の発表にて評価する。

### 【テキスト】

プリント資料など配布。

## PowerPoint Presentations

ARNOLD, Brent C.

### 【授業の概要】

所属学科に関係なく様々な卒業研究の成果、多文化共生理解モジュールや講演会の事後学習の成果を、動画・音声・写真などを盛り込みながらPowerPointを使ってまとめ、英語による情報発信が行えるよう訓練する。

### 【授業の目標】

- ・コンピュータを使って、これまでの学習・研究成果を視覚的効果の高い情報発信ができる手法を身に付ける。
- ・アイデアや意見を英語で論理的に口頭発表できる自己表現力を身に付ける。
- ・他者のプレゼンテーションを聴いて、英語で討論を行える能力を身に付ける。

### 【授業計画】

- 以下の項目を学習する。
- ・ Introduction to PowerPoint
  - ・ Creating a basic slide show
  - ・ Formatting
  - ・ Editing text
  - ・ Using images
  - ・ Adding animation
  - ・ Adding sounds
  - ・ Advanced PowerPoint

### 【評価方法】

- ・ Participation, class work & Attendance 25%
  - ・ 4 Presentations make up the other 75%
- (Presentation 1 - 10%; Presentation 2 - 15%; Presentation 3 - 20%; Presentation 4 - 30%)

### 【テキスト】

Computers for Communication: PowerPoint (2007). Perceptia Press.

### 【参考文献・資料】

授業中に随時紹介する

## Presentations on the Web

ARNOLD, Brent C.

### 【Course description】

学生が世界に向けて学修成果を英語で情報を発信し、受け手から情報を得て、双方向の情報交換を広げていく機会となるよう、主にホームページ・動画・ラジオ（音声ストリーミング）での英語による情報公開をサポートする。英語を専門とする学科以外の学生でも研究成果を積極的に世界に向けて英語で発表できるよう、英語での自己表現力育成を主な目的とする。

### 【Course objectives】

To make students aware of how to make a web page and how to prepare information for posting on the Web.

### 【Course schedule】

Introduction  
 ASMAP linked company research  
 Making a web poster using Microsoft Word  
 Making an radio style commercial using GarageBand  
 Making a TV style commercial using PowerPoint, Quicktime and iMovie  
 Posting to a web page using iWeb.

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance and 4 assignments.  
 1. Data collection (10%)  
 2. Poster (20%)  
 3. Radio CM (25%)  
 4. TV CM (30%)  
 5. Attendance (15%)

### 【Textbooks】

None

## Booklet Publishing

HARRIS, Richard S.

### 【Course description】

所属学科に関係なく様々な卒業研究、多文化共生理解モジュールや講演会の事後学習の成果を、視覚的効果を高めてポスター、冊子、レポートにまとめ、英語を使って世界に向けた情報公開が行えるよう訓練する。

The purpose of this course is to provide students with practical guidance on the preparation and presentation of research projects in English. The course will focus on the acquisition of practical research skills, which will assist students in presenting posters, pamphlets and reports in the course of their future studies. Given the practical nature of the course, students will be expected to prepare and present research projects throughout the course of the program.

### 【Course objectives】

By the end of the course students will be able to:

- ・ Produce visual aids which add to the impact of their oral presentations
- ・ Understand the structure and content of printed media, such as newspapers, magazines and journals
- ・ Utilize English language resources
- ・ Write short, simple English sentences to present research findings

### 【Course schedule】

- ・ Participation and attendance
- ・ Completion of assigned projects
- ・ Presentation of assigned projects

### 【Assessment】

Students will be referred to appropriate reference materials throughout the course.

## 英語海外セミナー II (オーストラリア)

ARNOLD, Brent C.

## 【Course description】

Students will be in an English Immersion course at Canberra University. They will study and practise English language in class, and then have an opportunity to really use English during out-of-class activities and weekly excursions to places of interest around Canberra. Students will home-stay for the entire period in Canberra.

## 【Course objectives】

This course will allow students to improve their English skills, and increase their accuracy, fluency and confidence in expressing themselves in English. The English environment and conversation in and outside the classroom will also improve listening comprehension.

## 【Course schedule】

Daily schedules include morning classes and afternoon activities. Wednesday afternoons will be set aside for excursions to places of interest such as a farm, the National Gallery and Questacon, an interactive science museum.

## 【Assessment】

Assessment will be based on Canberra University's standards, which evaluate a student's ability to use English, their willingness to try to use English, and improvement in English ability.

## 【Textbooks】

No text. Worksheets will be given as necessary.

## 英国インターンシッププログラム

WOODMAN, Jo-Anne

## 【Course description】

This summer internship programme is designed to allow the students to experience studying, living, and working in England. The course will involve two weeks of English lessons, followed by two weeks work-experience. The English lessons will emphasize the specific language and communication skills needed in a British work environment. The internship placement will be decided after considering the preferences and language ability of each student.

## 【Course objectives】

This is a unique opportunity for ASU students...they will have English lessons, a home-stay, a multitude of extra-curricular activities, PLUS the chance to acquire knowledge and experience of British corporate culture. Consequently, the students should be better equipped to make informed career decisions.

In addition, potential employers will appreciate the internship experience has helped to broaden their perspective, increased their self confidence, and improved their ability to work and communicate in English.

## 【Course schedule】

The programme is scheduled to include:

Lessons: - English for work/General English/British Culture  
Internship - At least 48 hours of work-experience  
Trips / activities (often including other International Students)  
- London, Canterbury, Cambridge, Bluewater, beach BBQ, ice-skating, karaoke evening(with hostparents),luncheon(with Internship Supervisors)

## 【Assessment】

Students will be required to attend all the orientation sessions prior to departure, in addition to fulfilling the lesson and work requirements deemed appropriate by the ASU Programme Co-ordinator.

## 米国NPOインターンシッププログラム

榎田勝利

## 【授業の概要】

米国ワシントンD.C.にあるCivil Society Consulting Group (CSCG) との共同プログラムとして、毎年2月中旬から約1ヵ月間実施する。米国の民間非営利組織 (NPO) でのインターンシップの体験を通して米国社会が抱える深刻な社会問題を理解し、その問題解決の方法を学ぶ。インターンシップの期間中は、一般の米国人の家庭でのホームステイをし、日常生活を体験する。インターンシップの受け入れ場所は、ワシントンD.C.および周辺地域で、学生の関心分野、英語力、専門的知識、経験等を考慮し、受け入れ団体を決める。

(活動可能な分野) 老人、児童・青少年、自然・環境、識字教育、障害者、家族、ホームレス、ジェンダー、文化・芸術、スポーツ、バイリンガル教育、外国人支援、国際交流・国際協力、博物館・美術館、図書館、その他。  
(米国側協力団体) Civil Society Consulting Group (CSCG)

## 【授業の目標】

実践の場を通して、異文化コミュニケーション能力と情報技術能力の向上を図り、学生の将来のキャリア形成の一助ともなる機会を提供する。

## 【授業計画】

(事前研修)・インターンシップの活動分野の決定・日米のNPO、ボランティア団体等の現状学習・日本のNPO、ボランティア団体へのフィールドワーク・英会話のトレーニング・米国側ディレクターによる合宿オリエンテーション

(現地プログラム)・オリエンテーション合宿・基本的に月曜から金曜までの5日間のインターン・1日特別研修プログラム・インターンシップの体験報告書の作成と提出・評価会、修了式、さよならパーティ

(事後研修)・フォローアップ研修、報告書作成

## 【評価方法】

現地での評価(受け入れ団体、ホストファミリー等と報告書)を考慮し総合評価を行う。

## 【テキスト】

米国側提出の英文資料

## 【参考文献・資料】

研修時にその都度資料を提供する

## コミュニティ・サービスラーニング IA (社会貢献実習)

小島祥美

## 【授業の概要】

私たちが暮らす地域(コミュニティ)には、多様なニーズに対応した地域活動(サービス)が展開されています。本講義では、受講生全員が実践を通じて、地域社会の一員としての自覚と能力を育成していきます。

具体的な実践活動としてIAでは、EXPOエコマネーを活用した環境活動の他、地域で活躍するボランティア団体等と協働したボランティア啓発活動などの企画を行い、後期のIBの運営へ繋げていきます。

## 【授業の目標】

受講生全員が地域に貢献しつつ地域活動に参加し、社会への参画体験を積むことによって、自主的に考え行動する力や責任感、判断力などを養い、健全な社会構成員に求められる資質や能力を育てることを目標とする。

## 【授業計画】

- オリエンテーション  
(本講義の目的とスケジュール、ラーニングI~IIIの内容等の説明)
- ラーニングI  
1) 地域活動とは?  
2) 地域活動の意義とその役割  
3) 地域活動参加にあたっての心構え  
4) 参加学習と各自の専攻との関連
- ラーニングII  
地域活動参加学習(活動期間は、内容により異なる)
- ラーニングIII  
活動を振り返りながら参加学習と各自の専攻との関連を考えます。

## 【評価方法】

出席状況、各課題(レポート、発表)により、「合」「否」として評価する。なお、ラーニングI・IIIへの参加(出席)、およびラーニングIIでの所定期間の活動参加を行った者について、単位を認定する。

## 【テキスト】

適宜、参考文献の紹介、参考資料やプリントを配布する。

## 【参考文献・資料】

ボランティア・NPO用語事典(社会福祉法人大阪ボランティア協会編集、中央法規出版)



## コミュニティ・サービスラーニング IB (社会貢献実習)

小島祥美

## 【授業の概要】

私たちが暮らす地域(コミュニティ)には、多様なニーズに対応した地域活動(サービス)が展開されています。本講義では、受講生全員が実践を通じて、地域社会の一員としての自覚と能力を育成していきます。

コミュニティ・サービスラーニング IBでは、IAでの企画を受けて、EXPOエコマナーを活用した環境活動の他、地域で活躍するボランティア団体等と協働したボランティア啓発活動などの具体的な運営を行います。

## 【授業の目標】

受講生全員が地域に貢献しつつ地域活動に参加し、社会への参画体験を積むことによって、自主的に考え行動する力や責任感、判断力などを養い、健全な社会構成員に求められる資質や能力を育てることを目標とする。

## 【授業計画】

1. オリエンテーション  
(本講義の目的とスケジュール、ラーニングI〜IIIの内容等の説明)
2. ラーニングI
  - 1) 地域活動とは?
  - 2) 地域活動の意義とその役割
  - 3) 地域活動参加にあたっての心構え
  - 4) 参加学習と各自の専攻との関連
3. ラーニングII  
地域活動参加学習(活動期間等は内容により異なります)
4. ラーニングIII  
活動を振り返りながら参加学習と各自の専攻との関連を考えます。

## 【評価方法】

出席状況、各課題により、「合」「否」として評価する。なお、ラーニングI・IIIへの参加(出席)、およびラーニングIIでの所定期間の活動参加を行った者について、単位を認定する。

## 【テキスト】

適宜、参考文献の紹介、参考資料やプリントを配布する。

## 【参考文献・資料】

参考文献: ボランティア・NPO用語辞典(社会福祉法人大阪ボランティア協会編集、中央法規出版)

## コミュニティ・サービスラーニング IIA (企業のCSR活動)

小林三太郎

## 【授業の概要】

現代社会では積極的にCSR活動に取り組む企業が増加している。また、企業の不祥事が相次ぐ中、CSR活動の重要性が高まっている。

本講義では、受講生が特定企業におけるCSR活動の企画立案に参加し、プレゼンテーションを行なう。学内の講義と学外での実践を通してCSR活動の重要性を習得する。

## 【授業の目標】

授業前半でCSR活動の基本的知識の習得を目指し、授業後半では、前半で養った知識を活かし学外場で発表をする。講義と学外活動を通してプロジェクトの企画・提案を創出するプロセスを把握し、必要な能力を養うことを目標とする。

## 【授業計画】

- 1 ガイダンス
- 2 CSR活動とは
- 3 企業のCSR活動(事例報告)
- 4 CSRに関する調査活動
- 5 CSR活動の企画立案
- 6 プレゼンテーション
- 7 総括

## 【評価方法】

出席状況と授業中の態度による。

## 【テキスト】

必要に応じて資料を配布。

## 【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介。

## コミュニティ・サービスラーニング IIIA (地域メディア実習)

小川明子 小島祥美

## 【授業の概要】

さまざまな産業の労働者として、日本にも多くの外国人が暮らすようになりました。しかし、私たちは、買い物や交通機関などで、後らと日常的に顔を合わせながら、その生活がどのようなものなのか、よく理解できていません。そして残念ながら、こうした文化や思いへの無理解や行き違いが、ときに地域社会において問題化したりします。

この演習では、地域において、その地域に暮らす住民たちと在住外国人が、よりよくお互いを理解するために、写真や文章、声などを用いてそれぞれの思いを伝えるお手伝いをしようと思います。具体的には、外国人(住居: アラビヤ、フィリピン)の中高生たちとみなさんとが、普段の暮らしのなかで伝えたいことを写真やことばを用いて映像作品にし、それをケーブルテレビやウェブサイトなどの地域のメディアで表現することでより多くの人びとに視聴してもらう現場実践型プログラムです。

この演習では、自分たちがそれぞれの学部や専攻において、これまでの授業のなかで学んだことを積極的に生かして行ってほしいと思います。(たとえば、語学、映像編集、異文化コミュニケーション、資料アーカイビングなど)

本年度はこの実習の一年目にあたります。失敗もあるかもしれませんが、すべては参加者の皆さんにやる気次第です。このプロジェクトを面白いと思ひ、夏休みの一週間をそれにあててみようとする積極的な学生さんにぜひ集まってほしいと思っています。

## 【授業の目標】

- 1) 日本の地域における外国人をめぐる状況を把握する。
- 2) 地域におけるメディアやコミュニケーションの重要性、可能性について考える。
- 3) 大学での学習と、地域の現場との往復を通じて、実践型参加型の学習、研究のありかたについて考える。
- 4) 参加者間のコミュニケーションを通じて、自らプロジェクトを立案し、遂行する能力を身につける。

## 【授業計画】

- プレセミナー  
プレ1日目 4月22日6限(場所等、詳細はCCCにて掲示)  
授業内容詳細の提示、サービス・ラーニング準備  
プレ2日目 7月9日6限(場所等、詳細はCCCにて掲示)  
事前調査発表
- 8月集中講義日程(18日〜22日)  
1日目 アイスブレイキング グループ分け  
メディア技術研修(長久手キャンパス)  
2日目 参加学生作品制作  
3日目 現地ワークショップ1日目  
4日目 現地ワークショップ2日目  
5日目 地域メディア研修 振り返り  
(6,7日目)有志にて地域住民とのワークショップ

## 【評価方法】

出席、授業態度/参加意欲、授業をめぐるレポートなどで総合的に評価する。

## 【テキスト】

- ・[在日外国人一法の壁、心の溝] 岩波新書 田中 宏(著)
- ・[日本の中の外国人学校] 明石書店 月刊『イオ』編集部(編集)
- ・[メディア・ワークショップ] 東京大学出版会(2008年出版予定)
- ・[メディア・プラクティス] せりか書房

## 【参考文献・資料】

適宜指定する

## 地域活動総合演習 IA

小林三太郎

## 【授業の概要】

現代社会において医療を取り巻く環境は激しく変化している。

本講では、医療制度や医療現場の問題を様々な視点から学ぶ。

また、病院施設の現場見学や老人保健施設でレクリエーションの企画・発表を行い、地域における医療機関のあるべき姿を考察する。

## 【授業の目標】

現在の医療に関する基本的な問題を学習する。

また、学外活動やグループワークを通して、学生の課題発見・探求能力の向上を目指す。

## 【授業計画】

- 1 ガイダンス
- 2 医療を取り巻く環境について
- 3 現代の医療の問題
- 4 病院見学
- 5 レクリエーションの企画・発表
- 6 グループワーク

## 【評価方法】

出席と授業態度の評価による。

## 【テキスト】

未定

## 【参考文献・資料】

授業の中で適宜紹介する。

## 地域活動総合演習 IIA

小島祥美

### 【授業の概要】

日本社会は急激に多民族多文化社会が進んでいます。特に私たちが暮らす愛知県は、ブラジル、ペルーなどを中心とした中南米出身の外国人住民の占める比率が全国で最も高い地域です。このような現状から、外国人住民と共に暮らす地域づくりは、今後ますます重要な課題になると考えられます。本演習では「多様な文化や背景を持つ外国人住民との共生社会」という具体的なテーマに関する実践を通じて、地域社会に対する興味、関心、問題意識という力を養っていきます。

本演習テーマに対し、主体的かつ積極的に取り組む受講生を歓迎します。

### 【授業の目標】

地域に暮らす外国人コミュニティでのフィールドワーク、ボランティア活動を通じ、地域に暮らす外国人住民と共生をめざした地域づくりに必要な視点および事業企画・運営能力を養います。

### 【授業計画】

本演習では、まず学生一人ひとりが地域社会にある課題を発見し、課題解決策を考える力を培うことを目的とした課題探求型講義を行います。特に、「行政とまちづくり」「外国人コミュニティ」「地域住民とボランティア活動」などの多角的視点から、地域社会を社会的に見る方法を学習します。

また実際に外国人住民が多く暮らす地域へ一緒に出かけ、地域住民と外国人住民との共生社会をめざした行政やNGO/NPOなどの取り組みについてフィールドワークを行い、実践方法について学習していきます。

これらの学習を通じ、各受講生が事業企画を行い、IBの実践的な活動運営まで発展させていきます。

なお、具体的な活動運営内容は、公立学校における外国人児童生徒の学習支援、ブラジル政府認可校におけるブラジル人の子どもたちを対象にした日本語学習支援や日本文化紹介などを予定しています。

### 【評価方法】

出席状況、授業内のディスカッションへの参加、レポート等を総合的に判断して評価します。

### 【テキスト】

適宜、参考文献の紹介、参考資料やプリントを配布します。

### 【参考文献・資料】

新在日外国人（田中宏著、岩波新書）  
日本の中の外国人学校（月刊「イオ」編集部編、明石書店）

## 障がい者支援ボランティア入門

谷口明広 石黒文字

### 【授業の概要】

大学で学ぶ学生の中には、視覚障害、聴覚障害、肢体障害などにより制限を受けているために、授業や学生生活においてノートテイク、手話通訳等の授業支援を必要とする人たちがいる。そこで、本授業では、これら障害のある人についての基本的な理解と初歩的な支援技術を学び、障害のある人への学生支援ボランティア活動の活性化と充実及び共に学ぶ場を作り出していくことをめざすことを目的とする。

### 【授業の目標】

- (1) 障害学生支援について関心をもち、障害のある人たちのニーズについて学ぶ。
- (2) 障害のある人々への支援技術を身につけ、共に学ぶ実践を実行できる。
- (3) 授業で学んだ内容を実際の支援ボランティア活動に結びつけ、共に学ぶ場を作っていく。

### 【授業計画】

1. 授業のガイダンス
2. 現代社会と障害のある人を取り巻く環境
3. 肢体に障害がある人の理解と支援方法
  - (1) 肢体障害者の理解
  - (2) 肢体障害者の支援方法（生活介護とノートテイク）
4. 視覚障害者の理解と支援方法
  - (1) 視覚障害者の理解
  - (2) 視覚障害者の支援方法（点字、移動問題、授業の解説）
5. 聴覚障害者の理解と支援方法
  - (1) 聴覚障害者の理解
  - (2) 聴覚障害者の支援方法（手話通訳・ノートテイク）
6. 障害学生支援ボランティア活動
  - (1) 愛知淑徳大学における支援のシステム
  - (2) ボランティア活動の実際
7. 共に生きる社会を目指して

### 【評価方法】

- 1.出席を評価の中心とする。
- 2.時々、小テストを実施して、理解度を確認していく
- 3.ボランティアの体験レポート
- 4.最終レポートの提出

### 【テキスト】

毎回の講師が指定する資料やレジュメがテキストとなる

## 地域活動総合演習 IIB

小島祥美

### 【授業の概要】

日本社会は急激に多民族多文化社会が進んでいます。特に私たちが暮らす愛知県は、ブラジル、ペルーなどを中心とした中南米出身の外国人住民の占める比率が全国で最も高い地域です。このような現状から、外国人住民と共に暮らす地域づくりは、今後ますます重要な課題になると考えられます。

本演習では「多様な文化や背景を持つ外国人住民との共生社会」という具体的なテーマに関する実践を通じて、地域社会に対する興味、関心、問題意識という力を養っていきます。

本演習テーマに対し、主体的かつ積極的に取り組む受講生を歓迎します。

### 【授業の目標】

地域に暮らす外国人コミュニティでのフィールドワーク、ボランティア活動を通じ、地域に暮らす外国人住民と共生をめざした地域づくりに必要な視点および事業企画・運営能力を養います。

### 【授業計画】

本演習では、まず学生一人ひとりが地域社会にある課題を発見し、課題解決策を考える力を培うことを目的とした課題探求型講義を行います。特に、「行政とまちづくり」「外国人コミュニティ」「地域住民とボランティア活動」などの多角的視点から、地域社会を社会的に見る方法を学習します。

また実際に外国人住民が多く暮らす地域へ一緒に出かけ、地域住民と外国人住民との共生社会をめざした行政やNGO/NPOなどの取り組みについてフィールドワークを行い、実践方法について学習していきます。

これらIAの学習を通じ、実践的な活動運営を行います。なお具体的な活動運営内容は、公立学校における外国人児童生徒の学習支援、ブラジル政府認可校におけるブラジル人の子どもたちを対象にした日本語学習支援や日本文化紹介などを予定しています。

### 【評価方法】

出席状況、授業内のディスカッションへの参加、レポート等を総合的に判断して評価します。

### 【テキスト】

適宜、参考文献の紹介、参考資料やプリントを配布します。

### 【参考文献・資料】

新在日外国人（田中宏著、岩波新書）、日本の中の外国人学校（月刊「イオ」編集部編、明石書店）

## 初級簿記（3級程度） \*基礎総合

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一郎

### 【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定3級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。前期は2コマ（3時間）ずつ週2回のペースで、後期は2コマ（3時間）ずつ週1回のペースで講義を行う。この講義は初学者向けの講義であり、簿記の仕組みから精算表の作成まで簿記の基礎とされる内容を一通り学習した後、全国公開模擬試験などの問題を通して日商簿記検定3級の合格サポートを行う。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

### 【授業の目標】

日商簿記検定3級に合格すること。

### 【授業計画】

- 第1回 簿記の目的・取引・仕訳・勘定口座の記入方法
- 第2回 試算表・商品売買の記帳方法、現金預金の記帳
- 第3回 手形の記帳方法、その他の勘定の記帳方法
- 第4回 その他の勘定記帳方法、主要簿および補助簿
- 第5回 主要簿および補助簿、伝票
- 第6回 直前総まとめ問題集解説（補助簿、試算表、伝票対策）
- 第7回 決算整理（売上原価）、英米式決算法、精算表
- 第8回 決算整理（貸倒、減価償却、固定資産の売却、繰延・見越）
- 第9回 決算整理（消耗品、現金過不足、売買目的有価証券、引出金）
- 第10回 直前総まとめ問題集解説（仕訳、精算表対策）
- 第11回 直前答練第1回、解説
- 第12回 直前答練第2回、解説
- 第13回 直前答練第3回、解説
- 第14回 全国公開模擬試験、解説
- 第15回 単位認定試験

### 【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

### 【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

## 中級簿記（2級程度）A \*商業簿記

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一郎

### 【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定2級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネーターを行う。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定3級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定2級の試験範囲のうち「商業簿記」を取り扱う。同じく2級の試験範囲である「工業簿記」は中級簿記（2級程度）Bで取り扱うので、同時履修が望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

### 【授業の目標】

日商簿記検定2級に合格すること。

### 【授業計画】

- 第1回 簿記一巡、固定資産
- 第2回 減価償却、銀行勘定調整表、引当金
- 第3回 その他の引当金、商品の評価、税金
- 第4回 株式の発行、利益処分
- 第5回 会社の合併、社債の発行、決算整理
- 第6回 社債の償還、決算法、財務諸表
- 第7回 伝票会計
- 第8回 帳簿組織
- 第9回 特殊商品売買
- 第10回 仕入割引、売上割引、研究開発費、有価証券
- 第11回 債務保証、手形の不渡り、裏書譲渡
- 第12回 本支店会計
- 第13回 総まとめ（1）
- 第14回 総まとめ（2）
- 第15回 単位認定試験

### 【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価をする。

### 【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

## 中級簿記（2級程度）C \*実践

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一郎

### 【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定2級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネーターを行う。この講義は中級簿記（2級程度）AまたはBの受講者を対象とした講義であり、検定試験直前期に集中的に行う。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

### 【授業の目標】

日商簿記検定2級に合格すること。

### 【授業計画】

- 第1回 直前答練第1回、解説
- 第2回 直前答練第2回、解説
- 第3回 直前答練第3回、解説
- 第4回 直前答練第4回、解説
- 第5回 全国公開模擬試験、解説
- 第6回 ファイナルチェック問題、解説
- 第7回 直前総まとめ
- 第8回 単位認定試験

### 【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

### 【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

## 中級簿記（2級程度）B \*工業簿記

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一郎

### 【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定2級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネーターを行う。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定3級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定2級の試験範囲のうち「工業簿記」を取り扱う。同じく2級の試験範囲である「商業簿記」は中級簿記（2級程度）Aで取り扱うので、同時履修が望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

### 【授業の目標】

日商簿記検定2級に合格すること。

### 【授業計画】

- 第1回 工業簿記の基礎、個別原価計算の体系
- 第2回 材料費会計
- 第3回 労務費会計
- 第4回 経費会計、製造間接費会計
- 第5回 工企業の財務諸表
- 第6回 部門別会計、工場会計
- 第7回 工業簿記の基礎、総合原価計算の体系
- 第8回 単純総合原価計算
- 第9回 減損および仕損
- 第10回 組別・等級別原価計算
- 第11回 標準原価計算
- 第12回 損益分岐点分析、直接原価計算、固定費調整
- 第13回 総まとめ（1）
- 第14回 総まとめ（2）
- 第15回 単位認定試験

### 【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

### 【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

## 上級簿記（1級程度）A \*商業簿記

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一郎

### 【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネーターを行う。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定2級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定1級の試験範囲のうち「商業簿記」を取り扱う。同じく1級の試験範囲である「会計学」、「原価計算」、「工業簿記」は上級簿記（1級程度）B、C、Dで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

### 【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

### 【授業計画】

- 第1回 総論、企業会計原則、簿記一巡
- 第2回 一般販売、特殊商品売買I
- 第3回 特殊商品売買II
- 第4回 特殊商品売買III
- 第5回 棚卸資産
- 第6回 固定資産I
- 第7回 固定資産II
- 第8回 減損会計、繰延資産
- 第9回 研究開発費、引当金I
- 第10回 引当金II、退職給付会計I
- 第11回 退職給付会計II、社債I
- 第12回 社債II、資本I
- 第13回 資本II
- 第14回 合併会計、会社分割
- 第15回 単位認定試験

### 【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

### 【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト



**上級簿記（1級程度）B \*会計学**

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一郎

**【授業の概要】**

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定2級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定1級の試験範囲のうち「会計学」を取り扱う。同じく1級の試験範囲である「商業簿記」、「原価計算」、「工業簿記」は上級簿記（1級程度）A、C、Dで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

**【授業の目標】**

日商簿記検定1級に合格すること。

**【授業計画】**

- 第1回 現金および預金、債権、有価証券
- 第2回 金融資産および金融負債、デリバティブ取引
- 第3回 ヘッジ会計、為替換算会計
- 第4回 外貨建取引処理基準、為替予約
- 第5回 税効果会計、一時差異等の会計処理I
- 第6回 一時差異等の会計処理II
- 第7回 本支店会計
- 第8回 連結会計、取得日連結
- 第9回 連結会計、取得後連結I
- 第10回 連結会計、取得後連結II
- 第11回 連結会計、持分の段階取得、売却、増資
- 第12回 持分法、連結税効果会計、在外子会社連結
- 第13回 キャッシュ・フロー会計
- 第14回 連結キャッシュ・フロー会計
- 第15回 単位認定試験

**【評価方法】**

単位認定試験の成績に応じて評価する。

**【テキスト】**

大原簿記専門学校のテキスト

**上級簿記（1級程度）D \*工業簿記**

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一郎

**【授業の概要】**

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定2級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定1級の試験範囲のうち「工業簿記」を取り扱う。同じく1級の試験範囲である「商業簿記」、「会計学」、「原価計算」は上級簿記（1級程度）A、B、Cで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

**【授業の目標】**

日商簿記検定1級に合格すること。

**【授業計画】**

- 第1回 総論、単純個別原価計算
- 第2回 部門別個別原価計算
- 第3回 部門別計算I
- 第4回 部門別計算II
- 第5回 実際総合原価計算I、総論
- 第6回 全部原価計算と直接原価計算、固定費調整
- 第7回 実際総合原価計算II、減損、仕損
- 第8回 実際総合原価計算III、異常減損・仕損
- 第9回 工程別総合原価計算
- 第10回 組別・等級別原価計算、練産品・副産物・作業屑
- 第11回 標準原価計算I
- 第12回 標準原価計算II、歩減が発生する場合
- 第13回 標準原価計算III、配合差異・歩留差異
- 第14回 工程別標準原価計算、直接標準原価計算
- 第15回 単位認定試験

**【評価方法】**

単位認定試験の成績に応じて評価する。

**【テキスト】**

大原簿記専門学校のテキスト

**上級簿記（1級程度）C \*原価計算**

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一郎

**【授業の概要】**

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定2級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定1級の試験範囲のうち「原価計算」を取り扱う。同じく1級の試験範囲である「商業簿記」、「会計学」、「工業簿記」は上級簿記（1級程度）A、B、Dで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

**【授業の目標】**

日商簿記検定1級に合格すること。

**【授業計画】**

- 第1回 総論、原価・営業量・利益関係の分析I
- 第2回 原価・営業量・利益関係の分析II
- 第3回 予算編成
- 第4回 予算統制I
- 第5回 予算統制II、売上数量差異の分析
- 第6回 事業部制、セグメント別損益計算
- 第7回 業務的意思決定I
- 第8回 業務的意思決定II
- 第9回 業務的意思決定III、最適セールス・ミックス
- 第10回 構造的意図決定I、設備投資の意図決定
- 第11回 構造的意図決定II
- 第12回 構造的意図決定III
- 第13回 戦略的原価計算I、品質原価計算
- 第14回 戦略的原価計算II、原価企画、活動基準原価計算
- 第15回 単位認定試験

**【評価方法】**

単位認定試験の成績に応じて評価する。

**【テキスト】**

大原簿記専門学校のテキスト

**上級簿記（1級程度）E \*実践**

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一郎

**【授業の概要】**

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。この講義は上級簿記（1級程度）A、B、C、Dのうちいずれか1つを受講した者を対象とした講義であり、検定試験直前期に集中的に行う。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

**【授業の目標】**

日商簿記検定1級に合格すること。

**【授業計画】**

- 第1回 直前答練第1回、解説
- 第2回 直前答練第2回、解説
- 第3回 直前答練第3回、解説
- 第4回 直前答練第4回、解説
- 第5回 全国公開模擬試験、解説
- 第6回 ファイナルチェック問題、解説
- 第7回 直前総まとめ
- 第8回 単位認定試験

**【評価方法】**

単位認定試験の成績に応じて評価する。

**【テキスト】**

大原簿記専門学校のテキスト



## 初級簿記演習

浅野敬志

## 【授業の概要】

この授業は、初級簿記（3級程度）の単位を修得した学生で、簿記検定試験の再受験を希望する者のみが履修できる。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。検定試験のレベルにあわせた問題練習を中心に講義を進める。

## 【授業の目標】

日商簿記検定3級に合格すること。

## 【授業計画】

1. 商品売買
2. 手形取引
3. 有価証券
4. 固定資産
5. 決算手続き
6. 精算表の作成
7. 単位認定試験

## 【評価方法】

出席状況と単位認定試験により評価する。

## 【テキスト】

別途指示する。

## 【参考文献・資料】

大原簿記専門学校のテキスト

## 中級簿記演習 A \* 商業簿記

浅野敬志

## 【授業の概要】

この授業は、中級簿記（2級程度）AまたはBの単位を修得した学生で、簿記検定試験の再受験を希望する者のみが履修できる。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。日商簿記検定2級の試験範囲のうち「商業簿記」を取り扱う。検定試験のレベルにあわせた問題練習を中心に講義を進める。同じく2級の範囲である「工業簿記」は、中級簿記演習Bで取り扱うので、同時履修が望ましい。

## 【授業の目標】

日商簿記検定2級に合格すること。

## 【授業計画】

1. 商品・特殊商品売買取引
2. 手形取引
3. 株式会社会計
4. 本支店会計
5. 帳簿組織
6. 決算整理
7. 単位認定試験

## 【評価方法】

出席状況と単位認定試験により評価する。

## 【テキスト】

別途指示する。

## 【参考文献・資料】

大原簿記専門学校のテキスト

## 中級簿記演習 B \* 工業簿記

三浦克人

## 【授業の概要】

この授業は、中級簿記（2級程度）AまたはBの単位を修得した学生で、簿記検定試験の再受験を希望する者のみが履修できる。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。日商簿記検定2級の試験範囲のうち「工業簿記」を取り扱う。検定試験のレベルにあわせた問題練習を中心に講義を進める。

同じく2級の範囲である「商業簿記」は、中級簿記演習Aで取り扱うので、同時履修が望ましい。

## 【授業の目標】

日商簿記検定2級に合格すること。

## 【授業計画】

1. 工業簿記の基礎、材料費・労務費・経費の計算
2. 製造間接費の計算、部門費の計算
3. 個別原価計算
4. 総合原価計算
5. 標準原価計算
6. 直接原価計算
7. 単位認定試験

## 【評価方法】

出席状況と単位認定試験により評価する。

## 【テキスト】

別途指示する。

## 【参考文献・資料】

大原簿記学校のテキスト

## ASU TOEIC I E

太田晶子 鈴木久子

## 【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高、半期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回の授業で2単位とする。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

## 【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

## 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習
- 第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
  - ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
  - ・演習（文法問題・リーディング・リスニング）（30分）
  - ・問題解説（25分）
- 第15回 模擬テスト
- \*宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分（合計 7時間×13回＝91時間）
  - リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分（合計 7時間×13回＝91時間）

## 【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

## 【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

## ASU TOEIC I F

太田晶子 鈴木久子

## 【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高、半期に2コマ (I, IIの両科目を受講した場合)、4年間続けて履修できる。週1回の授業で2単位とする。毎回、授業外での読解演習 (60分×7日×13回) とリスニング演習 (60分×7日×13回) (それぞれ91時間相当) が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

## 【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

## 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習  
 第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト  
 ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説 (15分)  
 ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説 (15分)  
 ・演習 (文法問題・リーディング・リスニング) (30分)  
 ・問題解説 (25分)  
 第15回 模擬テスト  
 \*宿題 読解演習・文法問題 (60分×7日) = 毎回7時間相当分  
 (合計 7時間×13回=91時間)  
 リスニング演習 (60分×7日) = 毎回7時間相当分  
 (合計 7時間×13回=91時間)

## 【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

## 【テキスト】

掲示 (外国語教育センターの掲示板) を参照のこと。

## ASU TOEIC II F

PUDWILL, Larry A.

## 【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高、半期に2コマ (I, IIの両科目を受講した場合)、4年間続けて履修できる。週1回の授業で2単位とする。毎回、授業外での読解演習 (60分×7日×13回) とリスニング演習 (60分×7日×13回) (それぞれ91時間相当) が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

## 【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

## 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習  
 第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト  
 ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説 (15分)  
 ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説 (15分)  
 ・演習 (おもに、リスニング・リーディング) (30分)  
 ・問題解説 (25分)  
 第15回 模擬テスト  
 \*宿題 読解演習・文法問題 (60分×7日) = 毎回7時間相当分  
 (合計 7時間×13回=91時間)  
 リスニング演習 (60分×7日) = 毎回7時間相当分  
 (合計 7時間×13回=91時間)

## 【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

## 【テキスト】

掲示 (外国語教育センターの掲示板) を参照のこと。

## ASU TOEIC II E

PUDWILL, Larry A.

## 【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高、半期に2コマ (I, IIの両科目を受講した場合)、4年間続けて履修できる。週1回の授業で2単位とする。毎回、授業外での読解演習 (60分×7日×13回) とリスニング演習 (60分×7日×13回) (それぞれ91時間相当) が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

## 【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

## 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習  
 第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト  
 ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説 (15分)  
 ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説 (15分)  
 ・演習 (おもに、リスニング・リーディング) (30分)  
 ・問題解説 (25分)  
 第15回 模擬テスト  
 \*宿題 読解演習・文法問題 (60分×7日) = 毎回7時間相当分  
 (合計 7時間×13回=91時間)  
 リスニング演習 (60分×7日) = 毎回7時間相当分  
 (合計 7時間×13回=91時間)

## 【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

## 【テキスト】

掲示 (外国語教育センターの掲示板) を参照のこと。

## Get together and Talk I

石橋千鶴子 福本明子 太田晶子 WOODMAN, Jo-Anne

## 【授業の概要】

英語集中授業、ディスカッション、フィールドワーク、合宿などから構成される英語対話実践セミナー。ネイティブスピーカーの教員が担当し、本学および中部地区在住の留学生が、セミナー・アシスタントとして参加する。多様な文化背景を持つ留学生と行動を共にし、共通語の英語を使ってコミュニケーションを持つことにより、英語対話力の強化を目指す。

本科目の履修資格は以下の通り:

- 1) 英語コミュニケーション科目2科目 (4単位) 以上を履修済みであること。
  - 2) 英語でのコミュニケーション実践に十分な意欲があること。
  - 3) 全日程に出席できること。
- なお、本科目はCAP制の対象にならない。

## 【授業の目標】

異なる文化背景を持つ留学生とのコミュニケーションを通して、英語運用能力の向上を目指すと共に、文化の多様性に対する認識を深め、それに対応できる柔軟な視点の育成を目指す。

## 【授業計画】

- 前期 2008年9月上旬に実施予定。  
 後期 2009年2月上旬に実施予定

英語集中授業、フィールドトリップなどを含む15コマ相当の活動を行う。

詳細は掲示および説明会 (前期: 6月中旬、後期: 11月下旬の予定) で発表する。指定された期間 (前期: 6月末、後期: 12月上旬) に外国語教育センターを通じて履修の申し込みを行う。定員を超えた場合は抽選となる。

## 【評価方法】

全日程の活動が総合的に評価される。

## 【テキスト】

授業担当者により異なる。資料のコピーは配布される。

## 【参考文献・資料】

必要に応じて授業担当者から指示がある。

## Get together and Talk II

ARNOLD, Brent C. 樗木勇作

### 【Course description】

対話力養成モジュールの1つとして、学生同士の意見交換を活発に行うことで、説得力のある議論を口頭で展開する方法を、実際の経験を通して学ぶことを目標とします。

Get together and Talk IIでは、本学学生同士の意見交換のみならず、インターネットのプロドバンド接続によるビデオコンファレンス機能（アップルコンピュータ社のiChat）を利用して、キャンベラ大学等の学生と意見交換を行います。

さまざまなテーマに基づいて、キャンベラ大学等の学生と意見を交換することで、英語運用力を高めるのみならず、日本語と英語の違い、日本とオーストラリアの文化・考え方の違いなどさまざまな違いを発見することが期待されます。

### 【Course objectives】

There are three main objectives.

1. To allow students to converse with native speakers, helping the students' listening and speaking fluency skills.
2. Discuss topics of interest with people of a similar age who live in a different country.
3. Listening to native English speakers speaking in Japanese will help students understand their own speaking difficulties and increase their awareness and confidence.

### 【Course schedule】

This lesson will be held over 2nd and 3rd periods, 10.50 - 2.50.

During this time there will be 4 time periods, 1. Preparation, 2. Chat, 3. Review, and 4. Lunch! Due to the time difference between Japan and Australia it may be necessary to have a flexible lunch period.

Time Will be used for real time chat with Australian University students. Topics for discussion will include

1. Death penalty
2. The article no.9 of Japanese constitution
3. Marriage between the same sex couple
4. Should we accept more refugees?

### 【Assessment】

Assessment will be based on  
50% Homework and Chat preparation  
50% Participation

### 【Textbooks】

No text

### 【Reference】

<http://www.apple.com/support/isight/>

## 上級英語セミナー 2008B

難波豊子 CURRAN, Beverley

### 【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。

### 【授業の目標】

Bev Curran

To continue to give students practice in preparing and leading a discussion, as well as sustaining a discussion through careful listening and questions. The group discussion aims to form a community of supportive language learners and to develop each student's ability to express their ideas in English.

難波豊子

通訳は「逐次に始まり、同時に進み、そして逐次に終わる」と言われる。このクラスでは主に逐次通訳力強化を目指す。「分かりやすい通訳とは？」を、通訳練習を通して考えてもらう。教材内容は時事及び一般。

### 【授業計画】

Bev Curran

In the second semester, discussions will continue, and students will be encouraged to take more responsibility for engaging in discussion and offering support to the speaker through a thoughtful consideration of the topic. Each week will be a chance to grow closer as a group of engaged language learners whose communal energy will motivate individual student growth in English ability and self-confidence. Special guests will also be invited to the class to talk to the students in English in a relaxed but lively atmosphere.

難波豊子

- ・スラッシュ・リーディングによる情報処理
- ・分かりやすい日本語の検討
- ・短い時間で、英文のメッセージを把握
- ・2点集中力育成練習

上記基礎力強化を基本に  
(1)英語のテープを聞いて、グループで内容把握  
(2)次回日本語への逐次通訳練習  
(3)簡単な内容の日英逐次通訳練習  
をサイクルとした講義となる。内容把握ができた教材を使用して適宜同時通訳練習も導入する。

### 【評価方法】

月曜日5限（担当教員：難波豊子）、木曜日5限（担当教員：CURRAN, Beverley）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの授業において、日常の授業態度、宿題に対する姿勢、ゲストスピーカー招待時におけるディスカッションへの貢献度等を総合的に評価し、それらの評価の平均をこの科目の評価とする。

### 【テキスト】

授業中に配布、指示する。

## 上級英語セミナー 2008A

難波豊子 CURRAN, Beverley

### 【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。（ただし、1年生および編入生（1年目）は前期開講の本科目「上級英語セミナー 2008A」は受講できない。）

### 【授業の目標】

Bev Curran

To create a community of supportive language learners and to develop each student's confidence in their ability to express their ideas in prepared presentations and extemporaneous discussion in English.

難波豊子

通訳は「逐次に始まり、同時に進み、そして逐次に終わる」と言われる。このクラスでは主に逐次通訳力強化を目指す。「分かりやすい通訳とは？」を、通訳練習を通して考えてもらう。教材内容は時事及び一般。

### 【授業計画】

Bev Curran

Each week, in my class, a different student will be responsible for selecting a topic and introducing a discussion about it in English. The other students will listen with attention and then continue the discussion through their own questions and comments. The goal in each class is to engage in animated discussion for 90 minutes, giving each student an opportunity to grow more comfortable and confident in initiating and continuing a conversation or discussion in English. Special guests will also be invited to the class to talk about themselves with the students in a relaxed and supportive atmosphere.

難波豊子

- ・スラッシュ・リーディングによる情報処理
- ・分かりやすい日本語の検討
- ・短い時間で、英文のメッセージを把握
- ・2点集中力育成練習

上記基礎力強化を基本に  
(1)英語のテープを聞いて、グループで内容把握  
(2)次回日本語への逐次通訳練習  
(3)簡単な内容の日英逐次通訳練習  
をサイクルとした講義となる。内容把握ができた教材を使用して適宜同時通訳練習も導入する。

### 【評価方法】

月曜日5限（担当教員：難波豊子）、木曜日5限（担当教員：CURRAN, Beverley）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの授業において、日常の授業態度、宿題に対する姿勢、ゲストスピーカー招待時におけるディスカッションへの貢献度等を総合的に評価し、それらの評価の平均をこの科目の評価とする。

### 【テキスト】

授業中に配布、指示する。

## Traditional Arts in Japan

山田久美子 小沢 茂 二村慎一

### 【授業の概要】

日本の伝統文化に携わる方をゲストスピーカーとして招き、伝統文化に直に触れ、その歴史、現状などを英語で学ぶ。

### 【授業の目標】

伝統文化に直に接する機会は、日常生活では多くない。この授業を通して、一から伝統文化を学び、日本の優れた文化を理解し、それを自らの言葉で表現できるようにする。

### 【授業計画】

日本の伝統文化に携わる専門家をゲストスピーカーとして招き、講義を受ける。講義の際、あらかじめ、その伝統文化についての学習を行う。

日本舞踊（西川流）  
尺八  
琴  
からくり  
華道  
歌舞伎  
能・狂言

などの分野のゲストスピーカーを迎える。詳しくは、最初の授業の時に説明する。

なお、狂言、歌舞伎などの公演鑑賞のため、3000円程度の経費を必要とする場合がある。

### 【評価方法】

レポート 80% （各授業のレポート等）  
出席 20%

### 【テキスト】

プリント

### 【参考文献・資料】

講義時に配布

## Central Japan

福本明子 太田晶子 MC GOLDRICK, Gemma

### 【授業の概要】

中部地方から世界に向かって進出する企業の第一線で活躍している方をゲストスピーカーとして迎え、企業の社会での役割、活動、スピーカーの経験等を英語で講義してもらう。この講義は、ゲストスピーカーの授業に対する事前、事後の学習も行う。

### 【授業の目標】

地元企業で活躍する方をゲストスピーカーとして招き、その講義を聞き、実社会における企業の役割、また厳しい現状等を理解し、より広い視野を育てることを目標とする。授業での内容を理解し、それを自分の言葉（英語又は日本語）でまとめることができるようにする。

### 【授業計画】

ゲストスピーカーは、  
Hilton Nagoya  
中部電力株式会社  
ブラザー工業株式会社  
ファイザー株式会社  
Harman/Becker Automotive Systems - Japan  
アイ ティ クリエイト  
日経メディアマーケティング株式会社  
太陽化学株式会社  
生化学工業株式会社  
豊田通商株式会社

などから招待の予定。詳しくは、最初の授業で説明する。

### 【評価方法】

出席と事前、事後、最終レポートを総合的に評価する。最初の授業で説明する。

### 【テキスト】

配布プリント

### 【参考文献・資料】

配布プリント、ゲストスピーカーの企業ウェブサイト

## PowerPoint Presentations

LEWIS, Paul

### 【授業の概要】

所属学科に関係なく様々な卒業研究の成果、多文化共生理解モジュールや講演会の事後学習の成果を、動画・音声・写真などを盛り込みながらPowerPointを使ってまとめ、英語による情報発信が行えるよう訓練する。

### 【授業の目標】

- ・コンピュータを使って、これまでの学習・研究成果を視覚的効果の高い情報発信ができる手法を身に付ける。
- ・アイデアや意見を英語で論理的に口頭発表できる自己表現力を身に付ける。
- ・他者のプレゼンテーションを聴いて、英語で討論を行える能力を身に付ける。

### 【授業計画】

以下の項目を学習する。  
・ Introduction to PowerPoint  
・ Creating a basic slide show  
・ Formatting  
・ Editing text  
・ Using images  
・ Adding animation  
・ Adding sounds  
・ Advanced PowerPoint

### 【評価方法】

- ・ Participation & Attendance
- ・ Class work
- ・ Final Presentations

### 【テキスト】

Computers for Communication: PowerPoint (2007). Perceptia Press.

### 【参考文献・資料】

授業中に随時紹介する

## Multiculturalism in Aichi

ブイ チ トルン

### 【授業の概要】

社会のグローバル化とともに一つの地域や国だけでは解決できない問題などが生まれている。愛知県においても製造業の発展に伴い諸外国から移住されてきた人々が年々増加している。多様な人種・文化・価値観が混在している愛知県における多文化社会の実態を理解し共生社会構築への道を考える。

### 【授業の目標】

- \* 日本社会および愛知県における多文化性を理解すること
- \* 行政・企業・NPOによる多文化共生事業の現状を理解すること
- \* 県内における外国人コミュニティの実態を理解すること
- \* 外国人労働者等を送り出し国の現状を理解すること
- \* 在住外国人支援事業を理解すること
- \* 授業は英語で進行するため英語力アップも期待すること

### 【授業計画】

1. Japan as a Multicultural Society
2. History of Multiculturalism in Japan and Aichi Prefecture
3. Consultation and Advisory Services for Foreign Residents
4. Helping Foreign Residents through Voluntary Activities
5. JICA's Cooperation Activities and Development Education
6. Activities of the Philippines Society
7. Life of a Brazilian in Aichi
8. Japanese Teaching in Community
9. Activities of Foreign Students in Aichi
10. NGO Activities in supporting of Foreign Residents
11. Information and Communication through English Magazine
12. Report on the Society and Culture of Trainee' s Sending Asian Country / Report on the Multicultural Society like Australia

### 【評価方法】

出席率、レポートおよび授業中の発表にて評価する。

### 【テキスト】

プリント資料など配布。

## Presentations on the Web

ARNOLD, Brent C. 樗木勇作

### 【Course description】

学生が世界に向けて学修成果を英語で情報を発信し、受け手から情報を得て、双方向の情報交換を広げていく機会となるよう、主にホームページ・動画・ラジオ（音声ストーリーミング）での英語による情報公開をサポートする。英語を専門とする学科以外の学生でも研究成果を積極的に世界に向けて英語で発表できるよう、英語での自己表現力育成を主な目的とする。

### 【Course objectives】

To make students aware of how to make a web page and how to prepare information for posting on the Web.

### 【Course schedule】

Introduction  
ASMMap linked company research  
Making a web poster using Microsoft Word  
Making a radio style commercial using GarageBand  
Making a TV style commercial using PowerPoint, Quicktime and iMovie  
Posting to a web page using iWeb.

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance and 4 assignments.

1. Data collection
2. Poster
3. Radio CM
4. TV CM

### 【Textbooks】

None



## Presentations on the Web

LEWIS, Paul

### 【Course description】

学生が世界に向けて学修成果を英語で情報を発信し、受け手から情報を得て、双方向の情報交換を広げていく機会となるよう、主にホームページ・動画・ラジオ（音声ストリーミング）での英語による情報公開をサポートする。英語を専門とする学科以外の学生でも研究成果を積極的に世界に向けて英語で発表できるよう、英語での自己表現力育成を主な目的とする。

### 【Course objectives】

To make students aware of how to make a web page and how to prepare information for posting on the Web.

### 【Course schedule】

Introduction  
 ASMAP linked company research  
 Making a web poster using Microsoft Word  
 Making an radio style commercial using GarageBand  
 Making a TV style commercial using PowerPoint, Quicktime and iMovie  
 Posting to a web page using iWeb.

### 【Assessment】

Assessment will be based on attendance and 4 assignments.

1. Data collection
2. Poster
3. Radio CM
4. TV CM

### 【Textbooks】

None

## Booklet Publishing

水野STEPHENSON友貴

### 【授業の概要】

所属学科に関係なく様々な卒業研究、多文化共生理解モジュールや講演会の事後学習の成果を、視覚的効果を高めてポスター、冊子、レポートにまとめ、英語を使って世界に向けた情報公開が行えるよう訓練する。

The purpose of this course is to provide students with practical guidance on the preparation and presentation of research projects in English. The course will focus on the acquisition of practical research skills which will assist students in presenting posters, pamphlets and reports in the course of their future studies. Given the practical nature of the course, students will be expected to prepare and present research projects throughout the course of the program.

### 【授業の目標】

- By the end of the course students will be able to:
- ・ produce visual aids which add to the impact of their oral presentations
  - ・ understand the structure and content of printed media, such as newspapers, magazines and journals
  - ・ utilize English language resources
  - ・ write short, simple English sentences to present research findings

### 【授業計画】

- ・ Brainstorming
- ・ Arranging ideas logically
- ・ Oral presentation
- ・ Visual presentation
- ・ Presentation design and structure

### 【評価方法】

- ・ Participation and attendance
- ・ Completion of assigned projects
- ・ Presentation of assigned projects

### 【テキスト】

Handouts will be provided in class

### 【参考文献・資料】

Students will be referred to appropriate reference materials throughout the course.